

咲 — s a k i — 人  
狼編

九尾の狐

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

特に物語性はなく、ただ『咲』キャラで『人狼ゲーム』をやろうというだけの自己満足なお話です。

誤字脱字には気をつけますが、見つけたら教えてくださると助かります。

・文章構成が下手糞ね。

・人狼ゲームでこんなプレイングがあつてたまるか！

・く々な展開なら、く々なやりかたをするはず！

・そもそもなんで咲で人狼なの？

等の感想疑問はあると思いますが、そのへんは横に置いといてください。

・そもそも人狼ゲームって何だよ？

ググってください。

・更新するの？いつするの？

気分です。

基本的に、ゲーム進行中は会話方式で書かせていただきますので、あらかじめご了承ください。

それではお目汚しをどうぞ。

※『処刑』『死亡』等の表現が使われていますが、あくまでゲーム内での表現に過ぎません。リアルに残酷な結果にはなりませんので、ご安心ください。

それでも駄目な方は諦めてください。

それっぽい描写をしているのでガールズラブをつけていますが、あからさまな描写はほとんどありません（多分）。

ですので逆にそういう描写をお望みの方も、ごめんね諦めて。

# 目次

始まりは奈良の地にて | 1

清澄・阿智賀① | 7

清澄・阿智賀② | 21

清澄・阿智賀③ | 32

清澄・阿智賀（犠牲者たちの集い）

44

清澄・阿智賀・千里山① | 52

清澄・阿智賀・千里山② | 67

清澄・阿智賀・千里山③ | 82

清澄・阿智賀・千里山（犠牲者たちの集い）

105

清澄・阿智賀・千里山・姫松① | 112

清澄・阿智賀・千里山・姫松② | 140

清澄・阿智賀・千里山・姫松③ | 163

清澄・阿智賀・千里山・姫松④ | 177

清澄・阿智賀・千里山・姫松（犠牲者たち

の集い） | 203

清澄去りし後 | 223

千里山・姫松① | 230

千里山・姫松② | 255

千里山・姫松（犠牲者たちの集い）

266

阿智賀・千里山・姫松① | 272

阿智賀・千里山・姫松② | 296

阿智賀・千里山・姫松③ | 313

阿智賀・千里山・姫松（犠牲者たちの集い）

332

阿智賀・千里山・姫松 +  $\alpha$  ①

343

阿智賀・千里山・姫松 +  $\alpha$  ②

369

阿智賀・千里山・姫松 +  $\alpha$  ③

390

阿智賀・千里山・姫松 +  $\alpha$ （犠牲者たち

の集い）

長野にて

清澄・宮守

清澄・宮守・鶴賀①

清澄・宮守・鶴賀②

清澄・宮守・鶴賀③

清澄・宮守・鶴賀（犠牲者達の集い）

501

清澄・宮守・鶴賀 +  $\alpha$  ①

510

清澄・宮守・鶴賀 +  $\alpha$  ②

539

清澄・宮守・鶴賀 +  $\alpha$  ③

556

清澄・宮守・鶴賀 +  $\alpha$  ④

573

清澄・宮守・鶴賀 +  $\alpha$ （犠牲者たちの集い）

597

長野の夜

宮守・龍門渚 +  $\alpha$  ①

宮守・龍門渚 +  $\alpha$  ②

宮守・龍門渚 +  $\alpha$ （犠牲者たちの集い）

669

清澄・宮守・龍門渚 +  $\alpha$  ①

678

清澄・宮守・龍門渕 + $\alpha$	②	703	白糸台・永水 + $\alpha$	③	906
清澄・宮守・龍門渕 + $\alpha$	③	723	白糸台・永水 + $\alpha$ (犠牲者たちの集い)		
清澄・宮守・龍門渕 + $\alpha$ (犠牲者たちの集い)		748	936		
清澄・宮守・龍門渕 + $\beta$	①	761	白糸台・永水・プロ組 + $\alpha$	①	949
清澄・宮守・龍門渕 + $\beta$	②	788	白糸台・永水・プロ組 + $\alpha$	②	979
清澄・宮守・龍門渕 + $\beta$	③	809	白糸台・永水・プロ組 + $\alpha$	③	996
清澄・宮守・龍門渕 + $\beta$	④	828	白糸台・永水・プロ組 + $\beta$	①	1023
清澄・宮守・龍門渕 + $\beta$ (犠牲者たちの集い)		849	白糸台・永水・プロ組 + $\beta$	②	1047
東の都にて		864	白糸台・永水・プロ組 + $\beta$	③	1067
白糸台・永水 + $\alpha$	①	869	白糸台・永水・プロ組 + $\beta$	④	1084
白糸台・永水 + $\alpha$	②	890	白糸台・永水・プロ組 + $\beta$ (犠牲者たちの集い)		1103
			5チーム対抗戦①		1126

5チーム対抗戦②

5チーム対抗戦③

控え室にて

ちよつとしたルールの説明をば

人狼バトル第1回戦

人狼バトル第2回戦①

人狼バトル第2回戦②

人狼バトル第3回戦①

人狼バトル第3回戦②

人狼バトル第4回戦①

人狼バトル第4回戦②

人狼バトル第4回戦③

142214011376135513361316129012571252124812001167





## 始まりは奈良の地にて

「・・・人狼ゲーム？」

夏のインターハイが終わり数日、ここ奈良の地に数人の少女たちの姿があった。

高鴨穂乃を初めとした阿智賀女子麻雀部と、竹井久率いる清澄麻雀部。

今日は、原村和がかつて在籍していた奈良の地にて、残りの夏休みを利用しての練習試合を行っていたのである。

「そう。うちの面子は前に私が教えたから皆知ってるけど、そっちで知らない人っている。」

竹井久の質問に対し、阿智賀女子の麻雀部で首を捻ったのは穂乃ただ一人であった。

「私は知ってるわよ？最近だと、テレビやネットでよく見かけるし。」

「お姉ちゃんと一緒に、テレビで見たことがあるよ！」

「うん。でも玄ちゃん、人狼の予想、なかなか当たらないんだよね？」

「あうう・・・だつて難しすぎるのです・・・！」

「・・・私も、お婆ちゃんと一緒にテレビで・・・」

「え!?!知らないの私だけ!?!」

知らないのが自分だけという事実には、穩乃は驚きの声を上げた。

「まあ、シズはもろアウトドア派だしね。」

「知らなくても、無理はな……。」

「うう……あ、赤土先生は知ってるんですか!？」

助けを求め、穩乃は皆の輪から少し離れた場所でお茶をしていた赤土晴絵に声をかける。

面白そうに皆を見つめていた晴絵は、そんな穩乃の様子に少し苦笑いしていた。

「悪いけど、私も経験者だよ。ネットでもよくやってた。」

「し、知らないの私だけだ〜!？」

「へえ……晴絵はやったこともあるんだ？」

「さすがハルちゃん……!」

「(……前にネットの人狼ゲームで、レジエンドつちゆうハンドルネームのもんがおつたが……)」

小さく首を捻っている染谷まこを他所に、話はどうどん進んでいく。

どうやら竹井久は、練習試合も終わったことだし、親交を図って一緒に遊ぼうという考えだったようだ。

そして今はというと、知らない穩乃にゲームの説明をしていた。

「・・・つまり、参加者の中にいる人狼を、村人が見つけるゲームなんですね？」

「そうだよ。まず一日の会話の中で、怪しいと思う人物を多数決で処刑する。それで人狼がいなくなれば村人の勝利だけど、一匹でも残っていた場合は、夜に村人の誰かが人狼の襲撃を受けて命を落とす。それを繰り返していつて、先に勝利条件を満たしたほうが勝ちってゲームだよ。」

晴絵の説明に、ふむふむと頷く穂乃。

「・・・ちなみに村人の勝利条件は『人狼を全て処刑すること』だけど、人狼の勝利条件は『残っている人狼の数と村人の数が同じになること』だから、間違えないようにね？」

「他には、村人の中には特殊な能力を持った役職が存在するのよ。代表的なのが、占い師、霊能力者、狩人。それと能力は持つとらんが、嘘をつくことで人狼の勝利を目指す狂人などじゃ。」

占い師：夜の時間に誰か1人を占うことで、その人物が村人か人狼かを確認できる。確認できるのは村人か人狼かだけであり、村人が役職持ちであってもそれを知ることが出来ない。いなくなると人狼のヒントが増えなくなるため、狩人としては護りたい存在。

霊能力者：通称『霊能』。昼に処刑した人物が、村人が人狼かを確認できる。占い師と同じく、村人であった場合にその役職を知ることが出来ないのに注意。

狩人：夜に行われる人狼の襲撃から、誰か1人だけを護ることの出来る役職。しかし自分自身を護ることは出来ないため、人狼に存在がばれると大変危険。

狂人：誰が人狼かは分からないが、場を混乱させることで人狼の勝利を目指す役職。人狼の陣営ではあるが、その存在は村人であるため注意。

「人狼や狂人が役職を騙ることもあるため、複数の同職が出た場合にはその真偽をしつかりと見極めないといけませんね。」

「間違えると、人狼の思う壺だしえー!」

「なるほど・・・難しそうだけど、面白そう!」

ちゃんと理解しているのかいないのか、ともかく穩乃はゲームに乗り気のようなだ。

その様子に、久は嬉しそうに声を上げる。

「それじゃあやってみましょうか!ゲームの進行役なんだけど・・・」

「ああ、それは私がやるから安心していいよ。」

晴絵が進行役に名乗りを上げる。

「・・・すいませんけど、お願いできますか?。」

「ああ、任せておきな。せっかくの機会だし、みんなで楽しみなよ!」

進行役が晴絵に決まったところで、少し準備してくるからと晴絵が席を立つ。

彼女の準備が終わり次第、ゲームはスタートだ。

「ううう！わくわくするね、和！」

「そうですね。頑張りましょう。」

「人狼を見つけて、村人勝利で終わりたいね！」

「咲ちゃんの言う通りだじえ！怪しい人物は片っ端から吊っていくじえ！」

「推理が上手いもんを、素直に信じるかどうかも大事じゃな。本当に推理が上手い村人か、それとも村を間違った方向に誘導しようとしとる人狼か、しっかり見極めねばならん。」

「間違えちゃうと、暖かくないことになっちゃうよ・・・！」

「お姉ちゃんは、私が守るのです！」

「宥さんが人狼だったらどうするのかと・・・」

「宥姉えが人狼だと、うちらはちよいキツイかもね。宥姉えって、結構鋭いところについてくるし・・・」

「・・・こつちでは、部長だね、それ。」

「どんどん楽しそうに盛り上がっていく。」

「そして待つこと数分後、ついに準備を終えた晴絵が姿を現した。」

「準備できたよ！さっそく始めようか！」

「よーし！絶対人狼を見つけてるぞー！」

穩乃の声<sup>が</sup>が部室に響く。

阿智賀女子麻雀部と、清澄麻雀部。

計10人で行われる人狼ゲーム<sup>が</sup>が、今ここにスタートした――。

## 清澄・阿智賀①

晴：それじゃあ始めようか。

まずルールなんだけど、初日役欠け無しの、占い有り。

人狼（2）、狂人（1）、占い師（1）、霊能（1）、狩人（1）、村人（4）の合計10人だ。

穏「初日役欠け無しっていうのは確か・・・」

和「初日に犠牲になった人・・・つまりここでいうと、進行役をしてくださる赤土先生が、なにも役職をもっていないということですね。」

憧「正直助かるわね。晴絵が占い師だったりしたら、ほぼノーヒントになる可能性もあつたわけだし・・・」

晴：昼は制限時間内で話し合い、時間が来たら投票。もつとも投票数の多かった子は処刑されたということで、犠牲者スペースに移動してちょうだい。

ま「・・・準備してくる言うてたけど、まさか各教室の使用許可まで取ってきてくるとは思わなかったわ。」

咲「それに、モニターやパソコンも用意して・・・」

玄「さすが赤土先生なのです！」

晴：ふふん。やるからには徹底的にやらないとね！ちなみに犠牲者スペースに移動した人も、ゲームが終わるまではネタバレ禁止だからね？宿直や用事で来ている先生方が、職員室で様子を見てるからさ！

穏「え・・・見てる人がいるの!？」

優「・・・やってくれるじえ・・・」

久「・・・やけに手回しがいいと思ったら、そういうこと・・・!」

宥「暖かくない・・・!」

晴：今さら後には引けないからね？

各役職は、さっきの抽選のあとの各個室入りで分かっているよね？



！  
この中にはすでに人狼2匹が存在するから、それを見事当てて勝利してちょうだい

初日、つまり2日目の制限時間は5分だよ。

日が経つごとに時間は減っていくから、スピーディに話し合ってね！

それでは、人狼ゲーム！スタート!!

○2日目（昼） 犠牲 晴絵

処刑 なし

生存 久・まこ・咲・和・優希・宥・灼・玄・憧・穩

久「それじゃくよろしくね。さっそく始めましょうか。」

ま「怪しい奴を吊るわけじゃが、どうすりやええかのう・・・」

玄「早速だけど占いCOなのです！宮永咲ちゃん○！村人なのです！」

咲「あ、玄さんが占い師だったんですね。」

和「咲さんが村人なのは当然です。ですが、なぜ咲さんを占ったのですか？」

玄「考えが読みづらいなくと思っただよ！咲ちゃんが人狼だった場合、分からないふりしても気づきにくそうだから。」

久「なるほど・・・」

優「確かに、咲ちゃんの考えは読みづらいじえ。」

ま「本当に分かつたらんのか、それとも誤魔化しとるだけなのか、判別がつきにくいからのお。」

穩「じゃあ、咲は村人でいいんですね？」

宥「玄ちゃんが本当の占い師なら、間違いないけど・・・これが、人狼の騙りだったら・・・」

憧「玄が、身内の人狼を囲ったって可能性もあるわね。」

灼「・・・宥さんと、憧の考えはちよつと違・・・」

ま「ん？どういふことじゃ？」

灼「占い師C O。玄はO。つまり玄は、占い師の騙りをしてる狂人・・・」

穩「ええ!？」

憧「・・・まあ、当然出てくるわよね。」

久「欠けがないわけだし、来ると思ってたけど・・・」

宥「玄ちゃんが真なら、灼ちゃんが人外で、潜伏2・・・」

ま「逆に鷺森さんが真なら、妹さんが狂人の、人狼2匹が潜伏じやのう・・・」

玄「灼ちゃんが人外なのは確定だよ！ここは灼ちゃん吊りだね！」

灼「私からすれば、玄が狂人なのは確実。PPを防ぐためにも、玄を吊るべき……」  
 咲「ど、どっちを信じたらいいのかな……?」

和「……鷺森さんは、なぜ玄さんを占ったのですか?」

灼「……悪いけど、メタな理由。この中で、一番仲がいいのが玄だったから、確証が欲しかった……」

久「……占い理由としては、ちよつと信憑性に欠けるわね……」

ま「どちらが真目かちゆうたら、どちらかという妹さんかの……?」

憧「私もそんな感じするけど、だからつて灼が真の可能性を切るわけにもいかないわよ……?」

優「案外、玄お姉ちゃんが真で、鷺森先輩が狂人だったりしないかだじえ……?」

宥「真占いを消そうとしてる、狂人さんつてこと……?」

和「それが正しいなら、今日は鷺森さん吊りで確定ですが……」

灼「……信用されてないのは、残念。でももし私を吊るなら、人狼は潜伏してるつてことだけは信じてほし……」

憧「……確かに、玄が狂人だった場合には、明日から潜伏人外を探すしかないわね……」  
 久「……占い師の真偽をここでつけるか、それとも無難にグレランでいくかね……」  
 穩「グレランの場合、玄さんと灼さん、あと咲以外に投票ですよね……つて、私も

吊られる対象なのく!？」

咲「私が言うのもあれだけど、穩乃ちゃんは結構危ない位置にいるよね・・・？」

ま「見事にステルスじゃしのう。正直、わし目線じゃと高嶋さんが怪しいわい。」

宥「・・・穩乃ちゃんに票を集めようとしてる、人外の声にも聞こえるよ？それ・・・」

ま「・・・そう聞こえたんなら謝るわい。じゃが、わし目線は今んとこ変わらん。」

久「・・・私としても、穩乃ちゃんが静かなのは正直不思議なのよね。この子、思い切りの良さがいいって思ってたから・・・」

咲「・・・人狼の可能性もあるけど、もしかしたら役職持ちなんじゃないですか？初心者で役職に当たっちゃったから、必要以上に緊張してるとか・・・」

和「・・・咲さんの言うことにも一理ありますね。人狼に睨まれないようにして、逆にステルスとして目立っているのも、初心者なら領けません。」

優「でも、このままいくと穩乃ちゃん吊りになりそうだしえ・・・」

宥「・・・穩乃ちゃん？もし穩乃ちゃんが霊能だったら、COしてくれないかな？ただ狩人だつていうなら、COしないでそのまま吊られてほしいんだけど・・・」

憧「・・・シズを疑いたくないけど、実際それが良さそうだしね。シズ、あんた霊能なの？」

穩「うう・・・ごめんなさい。私、霊能です・・・。」

ま「……ほんまか？真がおるなら、出てきてええぞ？」

久「……真として見ても良さそうね。」

咲「ここ出ないで、後から出てきても……」

和「穩乃が靈能で真として見ます。今さら出てきても信じられません。」

穩「うう……人狼にばれないように、伏せてようと思っただけ……！」

宥「……逆に穩乃ちゃんの場合、それで目立つちゃったね。」

憧「でもこれで、シズもグレーからは除外ね。それ以外で決めましょ？」

晴：残り時間1分だよ。

そろそろ結果をまとめな。

灼「……私としては、狂人の玄を吊りた……！」

玄「人外の灼ちゃん以外なのです！」

ま「はあ……どうするかのう……」

久「……安全策だけど、グレーランにしましょう。明日の占い結果に期待つてことで。」

灼「……グレーランにするなら、今日一匹吊れなかつたら、明日からは占いロラはで

きな・・・それを、忘れないでほし・・・！」

憧「・・・そういうこと言うと、灼が怪しく見えてくるわよ？」

優「むう・・・難しいところだじえ・・・！」

宥「怪しいのは・・・？」

咲「・・・穂乃ちゃんは、真なんですよね・・・？」

久「・・・そう信じたいわ。思惑があつてまだ伏せてるのかもしれないけど、これで吊られるのだけは勘弁してほしいわね・・・！」

晴：時間だよ！

みんな、怪しいと思う人物に投票して！

### ○投票結果

久(2) ↓ まこ まこ(3) ↓ 久 咲(0) ↓ 憧 和(1) ↓ 宥 優希(0) ↓ 久  
 宥(1) ↓ 憧 灼(1) ↓ まこ 玄(0) ↓ 灼 憧(2) ↓ 和 穂乃(0) ↓ まこ  
 投票の結果、染谷まこは吊られました。

ま「残念じゃのう……」

○3日目（昼） 犠牲 晴絵・憧

処刑 まこ

生存 久・咲・和・優希・宥・灼・玄・穩乃

新子憧の無残な死体が発見されました。

晴：それじゃあ3日目を始めるよ。

時間は4分。

スタートだよ！

久「おはよう。やられたのは、新子さんなのね……」

穩「憧……」

和「……これで、憧は○確定ですね。穩乃？染谷先輩の結果はどうだったんですか？」

穩「……染谷さんは○。人狼じゃなかったよ。」

宥「……穩乃ちゃんを睨んでいたのは、人狼の演出じゃなかったんだね……」

穩「私を睨んできたから、てつきり染谷さんが人狼かと思ったけど……染谷さん、ごめんなさい……!」

咲「……昨日の投票だけど、なんで玄さんは灼さんに投票したんですか？グレランの流れだと思ったんですけど……?」

優「それは私にも気になったじえ。あれ、狂人の人狼へのアピールに見えたじえ。」

玄「あう……私はただ、確実に人外を吊りたくて……」

久「……玄ちゃんが狂人目かしらね。ちなみにだけど、玄ちゃんの占いはどうだったの?」

玄「あ、そうなのです!私、人狼を見つけたよ!」

宥「玄ちゃん、本当……?」

和「そう言われても、素直には信じがたいのですが……」

玄「ふふん。和ちゃん、そう言って言い逃れられるのもここまでなのです!」

和「は……?」

玄「占いCO!和ちゃん●なのです!」

咲「和ちゃんが……!」

和「……咲さん、騙されなくてください。これで、真の占いが鷺森さんだと分かりました。……鷺森さん、占いの結果を教えてください。」



宥「灼ちゃん、元気ないけど・・・大丈夫・・・？」

灼「・・・ごめん。私の結果は、憧が〇・・・」

優「！・・・憧ちゃん嘯まれてるじゃえ・・・！」

久「・・・悪いけど、玄ちゃん真として見るわ。私は和に投票するわよ。」

和「部長！私を疑うんですか!?!・・・咲さん！咲さんなら、信じてくれますよね!?!」

咲「わ、私は・・・そのう・・・」

穩「そんな・・・和が人狼・・・!?!」

宥「・・・灼ちゃんは、どうして憧ちゃんを占つたの・・・？」

灼「・・・昨日私が疑われてる中で、憧だけは私を真目として考えてもって言うてく

れた。だから、これが逆に人狼の擦り寄りだったらって考えて・・・」

玄「決まったのです！嘯んだ相手を占つたふりして、誤魔化してるだけなのです！」

灼「それは違・・・説得力がないのは自分でも分かってるけど、どうか信じてほし・・・

！」

優「むむ・・・そう言われても、玄お姉ちゃんのほうが説得力あるじゃえ・・・？」

咲「・・・ちなみになんですけど、玄さんはどうして和ちゃんを占つたの？」

玄「昨日、和ちゃんがお姉ちゃんに投票したからだよ！お姉ちゃんが人狼のわけないのです！」

宥「く、玄ちゃん・・・」

久「・・・玄ちゃんを真目として見たいんだから、頼むからそういう理由で占うのはやめてちょうだい。和が●だったから良かったもの、そうでなかったら占いロラを提案するところだったわ。」

玄「あう・・・ご、ごめんさい・・・」

和「信じる必要がありません！ここは人外の玄さん吊りです！」

灼「・・・玄は狂人。吊るのは賛成だけど、明日からは一度も外せなくなる・・・」

優「和ちゃんを吊って、色を見てみたいとこだけど・・・」

宥「・・・よく考えないとね・・・原村さんを吊って○がでたら、村の勝ちが薄くなるよ・・・」

久「・・・その場合には、まず間違いなく鷺森さんは噛まれてるでしょうしね・・・」

咲「玄さんが狂人で、人狼が2匹とも残ってるってことですよね・・・村は、良くて引き分けにしか持ち込めませんね・・・」

穩「逆に和が●って出れば、玄さんが危ないですよね・・・？」

優「そのときは、玄お姉ちゃんが噛まれるじえ・・・！」

灼「・・・私からしても、原村さんはまだグレー。狂人が本当に人狼に当てた可能性もあるけど、そうでない可能性のほうが大きい・・・」

玄「私は、和ちゃんを吊ってほしいよ！私はここまでかもしれないけど、それでも一匹吊れば、勝ち目はあるのです！」

晴：残り1分だよ。

白熱してるとこ悪いけど、そろそろ決めちゃってね。

咲「うう・・・時間が無いよ・・・!?」

久「・・・和を吊りましょう。それで色を確認するわ。」

和「部長!？」

優「・・・和ちゃん。ごめんだじえ・・・！」

宥「・・・○だったら、きつくなるね・・・」

穩「占い無しで、人狼2匹を確実に見つけないと・・・！」

玄「人狼は残り1匹だよ！咲ちゃんは○だから、それ以外に潜伏してるからね!？」

灼「原村さんが人狼かどうかは分からな・・・それよりも、玄が狂人なのは忘れないでほし・・・！」

晴：時間だよ！

それじゃく投票を始めてちょうだい！

○投票結果

久(0)↓和 咲(0)↓和 和(6)↓玄 優希(0)↓和

宥(0)↓和 灼(0)↓玄 玄(2)↓和 穩乃(0)↓和

投票の結果、原村和さんは処刑されました。

和「・・・無念ですね・・・皆さん、どうか騙されないでくださいね・・・!?」

4日目続く・・・

## 清澄・阿智賀②

○4日目（昼） 犠牲 晴絵・憧・玄

処刑 まこ・和

生存 久・咲・優希・宥・灼・穩乃

松実玄の無残な死体が発見されました。

晴：ついに4日目だね。

今日の会話時間は3分だよ。

時間も短くなってきたから、どんどん話を進めてちようだい。

それでは、スタートだよ！

穩「え・・・!?」

久「おはよう。ある意味予想通りの結果ね。」

咲「そうですね・・・」

宥「・・・こうなると、確定した人外さんは吊りたいよね・・・」

優「鷺森先輩は、何か言い分はあるかだじえ？」

灼「・・・玄の原村さん●だしは、狂人の誤爆に間違いない。それに、私もようやく●を見つけた。その人を吊れば、ゲームは村人の勝利・・・」

咲「鷺森さんの占いの結果は・・・？」

灼「竹井久さん、●。原村さんと竹井さんの人狼ペア・・・。」

久「・・・私としては、鷺森さんが狂人臭く感じるわね・・・。」

優「素直に吊るのもどうかと思うじえ？」

久「つていうより、●出された身としてはもう信じられないのよね。悪いけど私は鷺森さんに投票するから、みんなは私か鷺森さん、どちらかに投票してちょうだい。」

宥「穏乃ちゃんも、それでいい・・・？」

穏「だ、駄目です！灼さんは吊つちやいけません！」

久「・・・え？」

優「どうしてだじえ？」

咲「どちらか迷うつていうなら分かるけど・・・」

穏「和は○！和は○なんです！つまり、玄さんは間違いなく人外です！」

宥「嘘・・・なんで・・・!？」

優「じよ、冗談キツイじえ・・・？」

咲「えっと・・・つまり、どういうこと・・・!?」

久「玄ちゃんが人外？確かに嘯まれてるから、人狼でないってのは分かるけど・・・ああ、なるほど。そこに狂人がいたわけか・・・！」

宥「・・・うん。狂人さん見つけたね。」

咲「ええ!?じやあ鷺森さんが真で、部長が人狼・・・!?」

優「部長、自首するの难道じえ!」

久「するわけないでしょうが！狂人は、穩乃ちゃんよ！」

優「・・・ほえ？」

宥「・・・玄ちゃんが嘯まれたのを見て、人狼が誰か分かったんだよね？穩乃ちゃん？」

穩「え、えっと、灼さんが真だから、つまり竹井さんが人狼のはずかと・・・！」

灼「・・・穩乃が信じてくれるのはありがた・・・でも、人狼は何を考えて・・・!?」

久「考えるまでもなく、鷺森さんが人狼よ。騙りに出たのが鷺森さんで、潜伏を選んだのが和だったってことよ。」

咲「で、でも、それなら何で穩乃ちゃんを嘯まなかつたんですか!?穩乃ちゃんが生きてたら、答えが分かっちゃうのに・・・！」

宥「……噛みたくても、噛めなかったんだよね。狩人の所在が分からなかったから、噛みに失敗して平和を出すより……」

久「……●を出して、せめて自分は狂人だとアピールしたかったのよ。これで私を吊れば、最終日に引き分けに持ち込めたけど……」

宥「……まさか、穩乃ちゃんが真霊能じゃなくて、狂人だったなんて考えなかったんだね。」

久「穩乃ちゃんが初心者だったことが、裏目に出た結果ね。人狼を庇おうとして、逆に人外であることが証明されたわ。」

穩「ち、違うんです！私は本当に霊能力者で、狂人は玄さんのほうで……！」

宥「……さすがに、それはちよつと信じられないよ……？」

優「……やつと理解できたじえ！つまり、今日は鷺森先輩を吊るんだな!!」

灼「違……人狼は竹井さん……！」

咲「でも、これでもし終わらなかつたら……？」

久「その時こそ、穩乃ちゃんを吊つて終わりよ。もし明日が来た時点で穩乃ちゃんが残つてたら、逆に狂人を庇おうとした人狼だったっていうのが正解ね。」

穩「だ、騙されちゃ駄目です！大体、私が偽者だって言うなら本当の霊能はどこへいっちゃったんですか!？」



宥「・・・初日嘯みされた憧ちゃんか・・・」

久「吊られたまこだったってことね。・・・考えがあつて伏せたのかもしれないけど、混乱するから今後はやめてほしいわね・・・！」

咲「なるほど・・・」

優「納得だじえ！」

晴：残り一分を切つたよ。

そろそろ結果をまとめてね！

穩「ち、違うんです・・・本当に違うんですよ・・・！」

灼「・・・私は穩乃を信じる・・・不甲斐ない結果で、申し訳な・・・」

穩「灼さくん・・・」

久「・・・決まりね。今日は鷺森さん吊りよ。」

咲「もし終わらなかつたら、穩乃ちゃん吊りですわ・・・！」

優「村人の勝利だじえ！」

灼「違・・・！」

穩「違うんですよ・・・！」

宥「・・・」

晴：時間だよ！

怪しいと思う人物に投票してね！

○投票結果

久(2) ↓ 灼 咲(0) ↓ 灼 優希(0) ↓ 灼  
 宥(0) ↓ 灼 灼(4) ↓ 久 穩乃(0) ↓ 久  
 投票の結果、鷺森灼さんは処刑されました。

灼「・・・敗因は、間違いなく私・・・」

○5日目(昼) 犠牲 晴絵・憧・玄

処刑 まこ・和・灼

生存 久・咲・優希・宥・穩乃

平和な朝を迎えました。

晴：ようやく平和な朝を迎えたね！

でもゲームが終わってないってことは、つまり人狼がまだいるってことだよ。

今日の会話時間は2分間。

それじゃあ、がんばって推理してね！

スタート!!

咲「おはようございます。これ、狩人さんがまだいるってことですよね・・・？」

久「ええ、そういうこと。どうせ最後だし、CO狩人よ！昨日は優希を守って、見事に成功したわ！」

優「おお！部長が狩人だったんだじえ!?!」

穂「・・・その、灼さんは○です。」

宥「・・・うん。分かってるよ、穂乃ちゃん・・・。」

久「まあ終わってないんだから、鷺森さんが人狼ではなかったってことね。でも今日は穂乃ちゃん吊りよ。みんなもそれでいいわね？」

咲「分かりました。」

優「分かったじえ！」

宥「・・・うん。それは駄目だよ、みんな・・・。」

穩「……宥さん……?」

宥「……狩人COだよ。私が昨日護衛したのは、穩乃ちやんだよ……!」

咲「……え……!?!」

優「狩人まで2人になったじえ……!?!」

久「……ここに来てまた騙りとはね。みんな、もう騙されちゃ駄目よ?ここは昨日決めてた通り、穩乃ちやんを吊るわ。」

宥「いえ、絶対に聞いてもらいます。私が言えることじゃないけど、昨日の推理は、間違ってたんだってこと……!」

優「……どうなってるんだじえ?」

宥「……初めは、私も玄ちゃんが真だと考えました。この場合、吊られた和ちゃん  
は人狼だよな?そして対抗して出てきた灼ちゃんは人外。原村さんの結果をこまかそ  
うとした穩乃ちやんも人外……」

咲「確かに、私もそれに納得したんですけど……」

宥「……でも、どうしても昨日の夜、違和感を感じてたんだよ。何だか、村人にとつ  
て理想の流れになりすぎてるって……!」

優「理想の流れ……だじえ……?」

宥「……これが本当に正しい推理だったらいいけど、もし間違っていたら、人狼の

思惑にまんまとはまっちゃう・・・そう思つて、昨日は念のため、穩乃ちゃんを護衛したの・・・!」

久「・・・」

宥「そしたら、まさかの平和だよ!そして竹井さんが狩人をCOしたことで、灼ちゃんが真であることが証明された・・・!」

咲「真が・・・鷺森さん・・・!」

宥「灼ちゃんが真ではなく、人外だとしたら、当然玄ちゃんは真の占い師つてことになる。そうすると、●の原村さんは人狼。対抗した灼ちゃんは人外。嘘をついている穩乃ちゃんも人外。

・・・でも、みんなよく考えてね?これで私か竹井さん、どちらかが必ず騙りをしているつてことは、人狼陣営は4人つて計算になるんだよ・・・!」

咲「・・・ああ!」

優「ひ、1人多いじゃえ!」

久「・・・狩人は私よ。松実さんが、まさかりア狂だとは思わなかったわね。」

宥「狩人は私です!真は灼ちゃんで、狂人が玄ちゃん。そして、昨日の夜に襲撃を受けた穩乃ちゃんは、真霊能だよ・・・!」

穩「宥さん・・・!」

宥「……昨日はごめんね、穩乃ちゃん。私、騙されて灼ちゃんを吊っちゃって……」  
穩「いいんです……！宥さんが信じてくれて、本当に嬉しいです……！」

咲「穩乃ちゃん……松実さん……」

優「……完全に騙されてしまったじえ。でも、これで人狼が誰なのか、はつきり分かっただじえ……！」

久「……何度も言うけど、今日は穩乃ちゃん吊りよ。昨日そうしようって決めてたんだから、ちゃんと守らなくちゃ駄目よ。」

咲「……すいません、部長。それには従えません。」

優「そうじえ！今日は部長を吊るじえ！そして、明日は咲ちゃん吊りだじえ……！」

咲「違うよ、優希ちゃん。明日は、優希ちゃん吊りだよ……！」

晴：残り1分だよ！

今日の投票先は、もう決まったかな？

宥「……ごめんね、みんな。あとはよろしくね……？」

穩「宥さんのおかげです……！必ず、勝つてみせます……！」

咲「……松実さんは、今日嘸まれるだろうね……」

優「残念だけど、それは間違いないじえ・・・狩人COは、危険だじえ・・・！」  
久「・・・信用されないって、つっらいわね。」

晴：時間だよ！

みんな、怪しいと思う人物に投票してね！！

○投票結果

久（4）↓宥 咲（0）↓久 優希（0）↓久

宥（1）↓久 穩乃（0）↓久

投票の結果、竹井久さんは処刑されました。

久「ふふ・・・結果がどうなるのか、楽しみね。地獄で一緒に観戦しましょう？松実さん・・・！」

最終日へ続く・・・

## 清澄・阿智賀③

○6日目（昼） 犠牲 晴絵・憧・玄・宥

処刑 まこ・和・灼・久

生存 咲・優希・穩乃

松実宥の無残な死体が発見されました。

晴：さあ、とうとう3人になっちゃったね。

でも、ゲームはまだ終わっていない。

つまり、人狼が確実に1匹は残ってるってことだ！

今日の会話時間は、わずか1分！

余計なことは話してる暇ないよ。

運命の最終日・・・



スタートだ!!

穩「おはようございます! 竹井さんは●、人狼です・・・!」

咲「松実さんのおかげだね・・・!」

優「その通りだじえ! 犠牲になった松実先輩のためにも、必ず勝つじえ!」

咲「人狼は優希ちゃんだよ。穩乃ちゃん、信じてくれるよね・・・!?!」

優「違うじえ! 人狼は咲ちゃんだじえ!」

穩「わ、私は・・・!」

咲「こればかりは、信じてもらうしかないよ!」

優「その通りだじえ! でも、咲ちゃんは初日に狂人に○貫ってるじえ! 怪しいじえ!」

咲「そんなの、なんの説得力もないよ! むしろ、グレーのままここまで来た優希ちゃ

んのほうが怪しいよ!」

優「咲ちゃんは、分からないふりして部長の案を素直に実行してたじえ!」

咲「周りの意見を聞くだけで、自分の意見をまともに言えなかつた優希ちゃんに言わ

れたくないよ!」

穩「私は・・・!?!」

晴：残り10秒！

咲「穩乃ちゃん、信じて！」

優「騙されちゃ駄目だじえ！」

穩「私は・・・私はく・・・!!」

晴：・・・そこまで!!

さあ、最後の投票だ！

泣くか笑うか、運命の分かれ目だよ!!

穩「私は・・・こつちに投票します!!」

○投票結果

咲(2) ↓ 優希      優希(1) ↓ 咲      穩乃(0) ↓ 咲

咲「え・・・!?!」

投票の結果、宮永咲さんは処刑されました。

優「……」

この結果……

穩「……！」

この村から、人狼は全て処刑されました！  
おめでとうございます！

村人の勝利です！！

穩「……当たった……!?」

優「やったじえ〜！」

咲「……あ〜あ……」

久「負けちゃったわね・・・」

玄「でも、咲ちゃんも頑張ったよ！」

咲「ごめんなさい・・・最後に負けちゃいました・・・」

宮永咲・竹井久（人狼）・松実玄（狂人）

灼「ありがとう・・・穏乃と宥さんのおかげ・・・！」

宥「ううん。私も、疑っちゃってごめんね？灼ちゃん・・・。」

穏「うう・・・当たって良かった〜!!」

鷺森灼（占い師）・高嶋穏乃（霊能）・松実宥（狩人）

憧「まさか初日に嘯まれるとは思わなかったけど、何にしても助かったわね！」

和「鷺森さんが吊られたときには、敗北を覚悟しましたが・・・」

ま「こりやく松実の姉さんのファインプレーじやのう。」

優「本当だじえ！あれがなかったら、騙されたまま終わってたじえ！」

新子憧・染谷まこ・原村和・片岡優希（村人）

晴「みんなお疲れ様！職員室からいいゲーム内容だったって声が届いてるよ！」

久「悔しいわね・・・っていうか、あの状況でよく穩乃ちゃんを護りに行こうって思えたわね・・・？」

宥「あの時は、自分でも半信半疑で・・・ただ、穩乃ちゃんが人狼なら、逆に穩乃ちゃんだけは狙われるはずがないって思ったから・・・」

咲「あの時平和が出て、凄いビックリしましたよ・・・もう、絶対に勝ったって思ってたから・・・」

久「本当よ。初日から玄ちゃんが狂人だつていうのはすぐ分かったから、逆に玄ちゃんを噛んで勝率を上げたつていうのに、まさか護衛されるとは思わなかったわ・・・」

玄「私が噛まれたときは、てつきり本当に和ちゃんが人狼かと思ったんだけどね。」

優「おかげで、本当に玄さんが真占い師だと思つたじえ！」

ま「わしは完全に思い違いをしとつたからのう。てつきり新子さんが靈能だと、犠牲者スペースから見てて思つたわ。」

憧「私だつて同じよ。シズが狂人だつてなつたとき、本当にびっくりしたんだから！」

和「私は●を出された時点で、真がどちらかの判別は出来てましたから。ただ、その後すぐに玄さんが噛まれたときには、正直首を捻りましたね・・・。」

宥「玄ちゃんをのこして灼ちゃんを噛めば、PPには持ち込めたわけだしね・・・。」

久「だって、それだと良く引き分けにしかならないじゃない。まして玄ちゃん狂人はばれるんだから。やるからには、何が何でも勝たないとね！」

咲「でも、まさかの平和で逆転されちゃいました・・・。」

穩「もう・・・最終日、心臓バクバクだったんだよ？私の選択で、勝敗が決まっちゃうって思うと・・・！」

憧「でも、二分の一を見事に選んだのよね。あれって勘？それとも何か確証でもあったの？」

穩「そんなの何もなかったよ。私、2人の名前を同時に押して、全部運に任せただから！」

和「・・・完全に運任せだったんですか・・・」

優「自販機で、買うのに迷ったときによくやるじゃえ！」

咲「・・・私、それで負けたの・・・!？」

灼「・・・よく勝てたと思・・・」

宥「あ、あつたかくない・・・！」

玄「お姉ちゃんが凄いい勢いで震えてる!?!お姉ちゃん！」

ま「やれやれ・・・最後はまさかの運任せとは・・・」

憧「まあ、勝つたには勝つたわけだし。それに、なんだかその方がシズっぽいしね。」

久「……納得できないわ……！」

咲「……全くです……！」

晴「まあともかく、見てるこちらも楽しめたよ。どうだい？もう一回やらないかい？」  
久「ぜひともお願いするわ。今度こそ、運任せなんかで勝敗を決めさせたりしないわよ……！」

咲「……全部……（ゴツ）倒す……！」

玄「うん！今度こそ勝つんだからね！」

晴「……うん。そう言ってくれると思ってたよ……！」

一同『……？』

「……まあ凡々の割には、多少はやるようやなあ……！」

「いうても、俺らの敵にはならんけどなあ……！」

「うちと怜が組めば無敵や！」

「まあ、せいぜい来年に向けてデータ取らせてもらいますわ……！」

泉「……って、何でそんなノリノリなんですか？先輩がた……」  
怜「……ノリ？」

玄「あ、園城寺さん！」

怜「お久しぶり……ってほどもないけどな、玄ちゃん。」

宥「こつちへ来てたんだ……。」

泉「大会終わって、しばらくは骨休めですわ。それに夏休み終わったら、先輩方と会う機会も減ってまうんで。」

セ「見てたで憧……。お前いきなり嘯まれよつたな〜!？」

憧「放つといて……。っていうか、だから抱きつくなく〜!？」

Q「ちつ……。いちやいちゃしくさつてからに……!？」

灼「どうも……。」

Q「ん。話は聞いてますわ。せつかくの機会やし、一口嘯ませてもらいます〜。」  
穩「竜華さん、お久しぶりです！」

竜「久しぶりやな〜。話は聞いとるから、目一杯楽しもな〜♪」

久「……まさか、千里山の部員も呼んでるなんてね……。」

ま「……一応聞いとくが、これに関してはお前さん嘯んどらんのか？」



久「出来るわけないでしょ？いくらなんでも、連絡先分からなければ無理よ。」

和「連絡先が分かれば、どうにでもなりそうな言い方ですね・・・。」

優「さすが部長だじえ！」

咲「あはは・・・。」

晴「彼女たちが今日来るのは、前に連絡貰ってたから知ってたんだよ。清澄のみんなと日付がかぶったのは偶然だけだね。」

穩「それじゃく何で教えてくれなかつたの!？」

晴「サブライズって奴さ！まあ、それでさつき連絡して見たら、到着しだい参加した  
いって言うからさ！」

怜「そういうわけや。こっからはうちらも参加させてもらうで・・・！」

セ「俺らが混じるんや。中途半端なプレイングは許さへんで・・・！」

竜「うちと怜が組めば無敵や！」

Q「根金際、しゃぶりつくしたるで・・・！」

泉「えっと・・・その、よろしくつす・・・。」

怜「・・・ノリ悪いなあ・・・」

泉「そ、そないこと言われても・・・!?」

久「・・・いつもこんな感じなの？」

セ「当然や！」

Q「まあ、頑張らせてもらうんで、よろしくお願いします。」

穩「うう・・・燃えてきた〜！」

宥「あつたか〜い・・・」

優「今度もきつちり勝たせてもらうじえ・・・！」

和「そうですね。やるからには、勝たせていただきます・・・！」

憧「頼むから、またいきなり嘯み付かないでよね？」

竜「えつと・・・う、うちと怜が組めば無敵や！」

ま「あんた・・・さつきからそれしか言うたらんな・・・？」

竜「だ、だって、怜が何か言えって言うんやもん・・・！」

咲「あ、あはは・・・」

玄「それじゃあ、私と灼ちゃんが組めば、無敵だね！」

灼「わずらわし・・・」

続  
く

## 清澄・阿智賀（犠牲者たちの集い）

○3日目（昼） まこ・憧

ま「いや／＼参った。まさかいきなり吊られるとは思わんかったわ。」

憧「まだ分かる分いいじゃない。私なんて、いきなり噛まれたのよ？」

ま「ふむ。新子さんはノーマークじゃったが、確かにいきなり噛まれるとは思わなかったな……。」

憧「逆に、私はあんたが危ないって分かってたけどね。いくらなんでも、初日から疑いすぎよ？」

ま「そりや仕方なからう？そういうゲームじゃ。」

憧「まあそうなんだけどさ。」

ま「……で、新子さんはどっちが真と見る？」

憧「……正直、まだ半々ね。灼の占い理由があれだけど、私が占い師になっても初

日はシズ占つちやうかもしれないし……」

ま「そうじゃな。いくらメタは禁止言うても、仲がええ相手の色は早々に知つときた  
いしろう。」

憧「逆に、玄がよく宥姉えを占わなかったなつて思つたわ。玄の性格を考えると、問  
答無用で身内を占つてくると思つたから……」

ま「その点から考えると、松実の妹さんのほうが人外くさいんじやが……」

憧「……メタじゃないからつて理由じや、さすがに疑えないしね……」

ま「……ん？妹さん、和に●を出しおつた……！」

憧「これが本当ならいいけど、間違えてたら痛いわね……！」

ま「痛いじやすまんわ。下手せんでも、そのまま人狼ペースじやな。」

憧「……嘘……灼、私を占つたの!？」

ま「……こりや、妹さん真かのう……？」

憧「正直、私はまだ睨まなくても良かったつて思うんだけど……」

ま「……信じたいからこそ、逆にじやな。鷲森さん真なら、完全に人狼の術中には  
まつとるのう……」

憧「……やっぱ、和を吊つて確かめみたいね。」

ま「仕方なからう。この状態でそれを否定したら、それこそ疑われかねんわ。」

憧「でも……」

ま「……ただ、これがもし人狼の思い通りに進んでおるつちゆうんなら、1人分かったかもしれないのう……」

憧「……もしかして、それ……」

ま「……久の色を見てみたいのう。こういう心理戦や話術は、あいつの得意分野じゃ。」

憧「竹井さんか……確かに、今あそこのリーダー枠におさまってるわね……！」

ま「特に何かせんでも、気づけばわしらの中心におる。それが久じゃ。もし、あいつが人狼なら……！」

憧「……明日の犠牲者次第ってわけね……！」

ま「和が○なら鷺森さん。本当に●なら妹さんが噛まれるのお。」

憧「真は護りたいけど、それ以上にシズを消されちゃいけないし……！」

ま「……こりや、やばいかもしれんのう……」

○4日目(昼) まこ・憧・和・玄

和「何度も言いますが、私は村人です！○です！なのになんで玄さんが噛まれてるんですか!？」

玄「和ちゃんも往生際が悪いのです。私が嘔まれた理由なんて、考える必要もないのです！」

ま「……どう思う？」

憧「……私としては、やっぱ玄が真に思えるわ。」

ま「じゃよなあ。鷺森さんが久に●出したが、正直素直に信じられんのう。」

憧「確かに、玄が狂人の誤爆って可能性もあるけど……」

ま「ここは念のため、鷺森さんを吊っておきたいのう。それで終わらんかったら、久を吊るかどうかが議論すればええ。」

憧「そうよね。……あれ？何でシズは竹井さんを疑って……○!？」

ま「和が○じゃ言うんか!？」

和「だからそう言ってるじゃないですか!？」

玄「穩乃ちゃん、どうして?……まさか……!？」

ま「……そういうことじゃったか。……お前さん、どうしてCOせんかったんじゃ?」

憧「そりゃこつちの台詞だつての!」

和「ですから!何で私の人狼だつて信じてるんですか!？」

ま「ああ、久が気づいたのお……」

憧「宥姉えもね。」

玄「これで、何とか村の勝ちにはなりそうだね！」

ま「全くじゃな……。」

憧「シズが初心者で助かったわ……。」

和「……(グスン)……。」

○5日目(昼) まこ・憧・和・玄・灼

灼「申し訳な……。」

玄「灼ちゃん頑張ったよ！今回はポジションが悪かったね！」

灼「……何度も言うけど、私が真。狂人には言われたくな……。」

ま「まあ、今日は高嶋さんを吊って終わりじゃな。」

憧「そうね。シズには、ああいう場合は誤魔化すようにちゃんと教えてあげないと！」

ま「それにしても、まさかあの奴が狩人じゃったとは……。」

憧「話の中心にいるから、逆に噛まれづらかったってことかしらね。」

ま「全くじゃ。毎度ながらあいつの手腕には恐れ入る……ちよう待たんかい。なん

で姉さんが対抗C Oしとるんじゃ……!？」



憧 「嘘!? だってもう人外いないでしょ!」

ま 「……つてことは、まさか……!?」

灼 「……私が真……!」

玄 「……あは♪」

和 「……くろくろくさくろく……!!」

ま 「……参った。完っ璧に騙されたわ……」

憧 「宥姉えだからこそそのGJね、これは……!」

和 「となると、最後の人狼は……」

灼 「……宮永さんか、片岡さん……!」

玄 「分かった! 裏をかいて穏乃ちやんだよ!」

ま 「……」

憧 「……」

和 「……」

灼 「……」

玄 「……ご、ごめんなさい……」

○6日目（昼） まこ・憧・和・玄・灼・久・宥

久「これは楽勝だって思ったんだけどね。」

宥「危ないところでした・・・」

ま「いや、姉さんのおかげで命拾いしたわ。」

憧「宥姉え、ナイス！」

灼「さすが・・・！」

玄「さすがはお姉ちゃんなのです！」

宥「・・・玄ちゃん？嘘をついたらメツだよ・・・？」

玄「あう・・・」

久「まあこれはゲームなんだから、ね？」

ま「・・・で、どっちが人狼なんじゃ？」

憧「・・・全く分からないわね。」

和「・・・咲さんではないと、信じたいのですが・・・」

灼「・・・どちらも確証がない・・・」

宥「私にも、これは分からないよ・・・」

久「ふふ・・・全ては、穏乃ちゃんに委ねられたってわけね。さあ、どっちを選ぶの

かしら・・・!？」

ゲームは終了いたしました。

## 清澄・阿智賀・千里山①

晴：さて、それじゃあ第2回戦を始めるよ！

今回の参加者は15人。

よって、新たに二つの職業を追加するから、みんな注意してね！

## 1、共有（2人）

占い師等のような特殊能力は存在しないが、互いが互いに共有だと認識しあえるため、占われなくとも○確定される。

ただし万が一にも騙りに乗っ取られた場合、吊りや占う候補にあがらないため、大変危険。

## 2、狐（1人）

村人、人狼に続く第3の陣営。

第3の陣営ではあるが、扱いとしては村人となるため、占い、霊能の結果には○と出る。そのため、誰が狐なのか判別することが難しい。

人狼に噛まれても死なないが、真占い師に占われると死亡する。これを通称『呪殺』と

いう。(この場合、占いの結果には○としか出ないため注意。)

狐の勝利条件は、要約すると最後まで生き延びること。

村人、もしくは人狼陣営が勝利条件を満たしたとき、その場に狐が残っていると狐の勝利となる。

例：村人2人、狐1人、人狼0人。↓村人の勝利条件を満たしたが、狐が残っているため狐の勝利。

村人1人、狐1人、人狼2人。↓狐の扱いはあくまで村人となるため、2人対2人で人狼の勝利条件を満たし、残っている狐の勝利。

晴：狐が少しややこしいかもしれないけど、それはやりながら理解していったね。

今回の内約は、人狼(3)、狂人(1)、狐(1)、共有(2)、占い(1)、霊能(1)、狩人(1)、村人(6)だよ。

咲「・・・あれ？合計すると16人になりませんか？」

ま「あく・・・まさかとは思いますが・・・」

晴：初日役欠け有り、占い有りだよ。

憧「うわあ・・・役欠け有りなんだ・・・」

穩「役欠けて？」

Q「つまり、この場合は初日の犠牲者になつてる赤土さんが、何かしらの役職を持つ  
とる可能性があるつちゆうことですわ。」

セ「・・・酷い話や。」

怜「生きるんてつらいなあ・・・」

優「でも、人狼や狐が欠けてればチャンスだじえ！」

晴：残念だけど、それはないよ。

人狼は仲間を嘯めないし、狐は嘯まれても死なないからね。人外で欠けている可能性  
があるのは、あくまで狂人だけだよ。

久「まあ、そりやそうよね。でも、これで占いや狩人が欠けてたら大ピンチね・・・」

和「占いがいないと人狼の判別が出来ませんし、狐を呪殺することも出来ませんか  
ら・・・」

竜「狩人がおらんかったら、人狼が役職嘯み放題やで！」

宥「あ、あつたかかない・・・！」  
怜「生きるんで、ほんまにつらいなあ・・・」

晴：どの役職が欠けているのか、それとも欠けていないのか、それをしっかりと判別することも必要になるわけだね。

初日の会話時間は5分間。

さつきと同じで、日が経つごとに時間は少しずつ減っていくから注意してね。

それでは人狼ゲーム、第2回戦・・・

スタートだよ!!

○2日目(昼) 犠牲 晴絵

処刑 なし

生存 久・まこ・咲・和・優希・宥・玄・灼・憧・穂乃

怜・セーラ・竜華・浩子・泉

久「さて、それじゃあ早速なんだけど・・・」

憧「その前に、私からいい？私、共有COよ。」

穩「憧が共有なんだ……。もう1人の共有って誰？」

憧「悪いんだけど、相方は伏せさせてもらうわ。これ、相方とも相談して決めたことだから。」

Q「ほう……。共有トラップ仕掛けるつちゆうわけですか。」

玄「共有トラップ……。？」

泉「もし相方が●を出されたとき、その人は自分の相方だから○なので、占った相手、もしくは霊能した人は騙りですってやるテクニクの一つですわ。」

優「なるほど……。つまり、騙りを見つけることが出来るわけだな!？」

久「でもそれ、分かっているとと思うけどリスクも大きいわよ？」

ま「見つけれられればええけど、その前に新子さんが囁まれたら大惨事じゃな。」

憧「その時は、翌日にすぐにCOすることに決めてるわ。もしその時私の相方を名乗る共有が2人以上出たら、構わないから全部吊っちゃってちょうだい。」

和「人外を、確実に道連れにするわけですわ……。」

怜「まあ相方さんがそれでええ言うなら、うちらもそれに従うわ。実際、それで人外見つけれられるやろうしな。」

咲「犠牲も出るかもしれませんがね……。」



有「でも、相方がいるってことは、共有は欠けてないんだよね・・・。」

憧「そういうこと。共有が欠けてるのが、一番分かりやすかったんだけど・・・。」

Q「確かに、相方は初日の犠牲者でしたってことがすぐに分かりますしなく。」

憧「・・・まあ、私ら共有に關してはそういうこと。それで早速提案んですけど、占いCOを一齐にやつてもらわない?」

セ「ん? そりやどういうこつちや?」

久「・・・なるほど。騙りが真に乗らないようにするのね?」

憧「そう。自分は占い師だって人は、一齐に誰々は何々ですって言うってほしいのよ。そうすれば、人外が真の占いに乗ることは出来ないからね。」

竜「ええ考えなんちやう? それなら、上手くいけば真しか出れない可能性もあるで?」

ま「・・・1人しか出てこんかったら、逆にそれはそれで怪しいがのう。」

優「占い欠けだじえ!」

灼「・・・それだけは、起こってほしくな・・・。」

憧「みんながそれでいいっていうなら、それでやりたいんだけど、どうかな?」

穩「私はいと思うよ?」

和「反対する理由が見当たりませんね。」

泉「私もそれでええと思います。」

憧「ん。それじゃあいくわよ？誰々が何々ですってのはつきり言つてね？・・・それじゃあ、せうの！」

久「松実宥さん、○よ。」

玄「竹井久さん、○なのです！」

宥「玄ちゃん、○です。」

咲「」

セ「・・・あく、とりあえずいろいろと突っ込みたいことが盛り沢山なんやけど・・・」

和「・・・憧。この場合はどう判断しますか？」

憧「・・・待つて。お願いだからちよつと待つて。私だつてこんな予想してないっ

ての・・・!？」

久「・・・あく・・・私からすると、私が占つた宥さんが狂人。そして私を占つた玄ちゃんが人外ね。」

宥「私から言わせて貰うと、玄ちゃん狂人で、竹井さんが人外です。」

玄「違うよ！狂人は竹井さんで、お姉ちゃんは人外だったので！」

ま「・・・こいつら、もしかして全員人狼じゃ・・・？」

怜「身内をみんなで囲ったってことやな。確かにこれなら、1人は真として残せるやろうけど……」

泉「だとしたら、真欠けつてことですか……!?」

久「ちよつと待つてちようだい……!」

玄「真は私なのです!」

宥「みんな、お願いだから騙されないでね……?」

和「……どうしますか? 狐が残っている状態で、占いをロラするのはリスクが大きいですか……?」

竜「もしほんまに3人とも人狼やったら、ロラ終わった瞬間に狐勝ちやで……!?」

Q「……とりあえず、お三方の占い理由を聞きたいですな。」

懂「……そうね。とりあえずそれを教えてちようだい。」

久「私が占った理由は、単に強敵だと思ったからよ。さっきのプレイで身に染みただ、宥さんは土壇場で何かしそうな気がしたしね。もし人狼だとしたら、ちよつと洒落にならないもの。」

玄「私が竹井さんを占ったのも同じような理由だよ。さっきのゲームも、お姉ちゃんがいなかったら竹井さんの思い通りに終わってしまったのです。だから、今のうちにはつきりさせておきたかったんだよ!」

宥「私は、玄ちゃんか穩乃ちゃん、どっちを占うか迷って・・・」

穩「あ、私も占う候補だったんですか？」

宥「その・・・本人の前で言うのもあれなんだけど、役職とは関係無しにミスリードされそうで・・・」

穩「」

玄「お姉ちゃん!？」

セ「・・・つまり、お馬鹿を占ったちゆうわけやな？」

優「むむ・・・確かに、納得できそうな気がするじえ・・・!」

和「・・・良かったですね？優希。占われなくて。」

Q「ほんまですなあ、江口先輩？」

優「」

セ「」

竜「んく・・・玄ちゃんも穩乃ちゃんも、言うほどお馬鹿ちやうで・・・？」

怜「・・・一応言うとかけど、その候補には竜華も入ってるんやで？」

竜「」

宥「えつと・・・ごめんね？」

憧「・・・まあ理由があれだけど、宥姉えの考えも分かるからいいわ。でもどうしよ

うかしら。このままだとグレランになるわけだけど……」

咲「……ちなみに、この3人の中で一番真としてありそうな人って……」

灼「……宥さんかな。メタな理由だけど、竹井さんと玄はちよつと……」

和「……玄さん、また狂人ですか？」

玄「私真だよ!?!」

宥「玄ちゃんはまた狂人だよね? あんまり嘘つくと、お姉ちゃんでも怒るんだよ……?」

玄「お姉ちゃん!?!」

久「まあ、玄ちゃんは人外で、狂人は宥さんだけだね。っていうか、私も疑われてる

わけ……?」

怜「さっきの見てると、素直に信じられんならぬ。」

Q「実際、また人狼やったら強敵になるわけですしね。」

久「今回は味方なんだから、少しは信じてちょうだいっての……。」

ま「まあお前さんの場合、普段の行いがあれじゃからのう……」

咲「あはは……その、味方なら心強いんですけど……」

優「怪しいのは吊つてくじえ!」

久「……なんで身内にすら疑われなくちゃいけないの……!?!」

和「反省してください。それで、どうしますか？グレランですか？」

憧「……まあグレランよね。でも時間もまだあることだし、もう少し話し合いましたらう。」

ま「今怪しいと思う奴じゃな？」

泉「……鷺森さんはどないですか？あまり喋ってへんし、私目には怪しいと思うんですけど。」

灼「……口数が少ないのは、元々。それより、ステルスって意味なら二条さんも怪し……。」

Q「確かに、普段の泉を知っとる分、若干の違和感は感じますな。」

泉「え、船久保先輩は私疑つとるんですか!？」

Q「仕方がないやろ。人狼見つけるデータ、まだ空つきしなんやから。」

セ「まあいつもの泉なら、もうちよいグイグイきそうやけどな。」

久「……なら、明日の占い先は二条さんにする？みんながそれで構わないなら、私占っておくけど……。」

玄「竹井さんが占っても意味ないよ！私が占わなくちや！」

宥「……なら、私が占おうか……？」

怜「よっしゃ。ここは間を取ってうちがやな……！」

久&玄&宥「どうぞどうぞ。」

ま「・・・なあ共有。こいつらまじで吊っちゃいかんのじやろうか？」

セ「俺的には結構おもしろかったで？」

和「意味が分かりません。」

咲「あはは・・・」

竜「つていうか、怜は占えないんちやうん？」

怜「・・・まあ、そこはノリやな。」

憧「（・・・笑いそうになったとは言えない・・・！）ま、まあ悪ふざけはそれぐらいにして、きちんと話し合いましたよう。何だかんだ言つて時間が少なくなってきたし・・・」

晴：正解。

残り1分だよ。

優「・・・おう、だじえ・・・」

和「・・・無駄に時間を使いましたね。」

灼「・・・吊る？」

ま「わしとしては吊りたいのう。」

泉「・・・分かりました。皆さん！今日は私を吊ってください！」

竜「へ!? できないしたん泉！」

Q「いや、怪しい言うただけで、そこまで疑つたらんよ？」

泉「いえ、ここは私吊りてお願いします！幸い私は何の役職も持つてませんから、グレランで万が一にも霊能や狩人吊つてまうよりはええと思うんです！」

和「・・・柱COですね。」

穩「柱？」

憧「人柱のことよ。こうやって自らが吊られることを提案して、役職が吊られることを防ぐの。」

優「当然人外は出来ないCOだけ。」

咲「でも、いいの？二条さんはここで終わりで・・・」

泉「仕方ないですわ。それに私が残つて、先輩方が吊られんのも嫌ですし・・・。」

怜「泉・・・」

セ「・・・感謝するで、泉。」

竜「泉の分も、うちら頑張るからな・・・！」

Q「・・・あとは任しとき。必ず村人勝利で終わらせたる・・・。」

久「・・・いい後輩じゃない。ねえ園城寺さん？二条さんとうちの一年交換しない？」



どうもあの3人には先輩を敬う精神っていうのが足りないみたいなのよ。」

怜「ん〜・・・泉にはこれから千里山を引つ張つてもらわなあかんしなあ・・・」

優「・・・酷い現場を見たじえ・・・！」

和「ああいうことを言うから、素直に敬えないんです。」

咲「あ、あはは・・・」

ま「わしが却下じや。このあほんだらが。」

晴：教師の前で身売り発言はやめてね〜。

それじやあ時間だから、みんな投票しちやつてちようだい！

穩「二条さんの分まで、頑張らないと・・・！」

憧「・・・まあ、負けられない理由が増えたつてことね。」

### ○投票結果

久(0)	↓泉	まこ(0)	↓泉	咲(0)	↓泉	和(0)	↓泉	優希(0)	↓泉
宥(0)	↓泉	玄(0)	↓泉	灼(1)	↓泉	憧(0)	↓泉	穩乃(0)	↓泉
怜(0)	↓泉	セーラ(0)	↓泉	竜華(0)	↓泉	浩子(0)	↓泉	泉(14)	↓

灼

投票の結果、二条泉さんは処刑されました。

泉「皆さん、あとはよろしく頼みます・・・！」

3日目に続く・・・

## 清澄・阿智賀・千里山②

○3日目（昼） 犠牲 晴絵・優希

処刑 泉

生存 久・まこ・咲・和・宥・玄・灼・憧・穩乃

怜・セーラ・竜華・浩子

片岡優希さんの無残な死体が発見されました。

晴：さて、昨日の犠牲者は片岡さんだったみたいだね。

今日の会話時間は4分。

犠牲になってくれた二条さんのためにも、頑張つて推理してね！

では、3日目スタート！

和「おはようございます。やられたのは優希だったんですね・・・。」  
咲「優希ちゃん、今頃犠牲者スペースで怒つてそうだね。」

セ「ちなみに聞いとくけど、片岡の奴が相方ちやうんやな？」

憧「違うわ。私の相方は残ってるから、安心してちやうだい。それで、今日の占いのほうを聞かせてもらえる？」

久「これはばらばらに言つていいの？」

竜「一応、合わせたほうがええんちやう？」

灼「後半、時間が少なくなつてきたらやめればい．．．」

憧「そうね、今日のところは合わせてちやうだい。それじゃあ．．．せうの！」

久「園城寺さん、○よ。」

宥「船久保さん、●です。」

玄「穩乃ちゃん、○だよ！」

ま「．．．ついに●が出よつたか。」

Q「ほほう。よりによつて私に●とは．．．！」

久「占つた理由は、二条さんの気持ちを汲んだつてところかしら。特に怪しい人も見当たらないし、それなら千里山のメンバーの判別をつけてあげれば、少しは安心できるんじゃないかと思つてね。」

宥「私も同じ理由です。千里山の中で一番頭脳プレイという意味で怖そうな人を占ったんですけど、結果は人狼でした。」

玄「私は穩乃ちゃんを占ったよ！きっきのプレイのときと同じで、なんだか口数が少ないから気になってたよ！でも○だし、呪殺してないから狐でもないみたいだね！」

セ「・・・どないする？浩子を吊って色を確かめてみるんか？」

怜「ちなみに、船Qは共有ちやうん？」

Q「あいにく、うちは共有ちやいます。ただ私目線としては人外が分かりましたし、それに私を吊ってまうと色が分からなくなりまつせ？」

穩「へ？それじゃあ船久保さんって・・・!?」

Q「そういうことや。靈能COや！騙りや思うんなら対抗出てきてみい！」

灼「船久保さんが、靈能・・・!?」

久「他に靈能COはいないのかしら？」

憧「いるんなら、出てきてちやうだい？」

Q「・・・いないよやな。なら私としては、うちに●つけよつたその人外を吊らしてもらいたいんやけどな？」

宥「・・・靈欠けか、優希ちゃんが真靈能だったってことだよ。みんな、騙されない

でね・・・？」

竜「宥ちゃんが人外・・・!?」

怜「・・・決め付けるのはまだ早いで、童華。ほんまに船Qが人狼の可能性もあるんや。」

セ「もしほんまに浩子が人狼やつちゆうんなら、あとで泉に謝らなあかんで？」

Q「私は霊能です。ついでに言うのとくと、泉は○ですわ。まあ柱COしたんやから当然やけどな。泉と約束したんやから、うちがちゃんと村人勝利で終わらせたりますわ・・・！」

憧「・・・さて、どうするべきかしらね・・・。」

ま「船久保さんしか霊能COがないんじや、吊つて確かめるわけにもいかんしのお。」  
和「確かに、決断するには時期尚早ですね・・・。」

咲「でも、もし本当に船久保さんが人狼だとしたら、この先吊りづらくなるよ・・・？」  
久「どつかで決め打つしかないわね。まあ私としては、対抗がつけた●は、出来れば信じたくないんだけど・・・！」

灼「・・・あとは、共有トラップにかかるかどうか・・・！」

憧「これで宥姉えがトラップにかかってくれれば、船久保さん真で話を進められるんだけど・・・。」

宥「……私はかからないよ？ 私は、色を間違えないもん。」

穩「……どうするの？ 憧。これだとグレランになるよ……？」

ま「……吊つてもええんじゃないか？ 姉さんは人外目に見えるが……。」

宥「……占い師を消したがるって、狐さんの行動だよ？ そういうこと言われると、占つてみたくなるんだけど……。」

ま「……ほう。それはあれか？ わしに○をつけて噛みにかかるつちゆう人狼のやり口か？」

宥「……うん、決めたよ。明日は染谷さんを占うね？ 私でも、そこまで疑われると怒つちやうんだよ……！」

ま「……わしが明日死んどつたら姉さんを吊つとくれ。こうなりや人外道連れじゃ……！」

咲「」

和「」

玄「お、お姉ちゃんがあつたかかないのです……!？」

久「……まこ、少しは落ち着きなさいっての。あんたが熱くなつてどうすんのよ？」

ま「む……すまん。」

怜「……清澄さんところも、なかなか過激やな……。」

セ「リアルファイトなら俺に任しとき！」

穩「うくん・・・運動量なら負けないんだけど・・・」

憧「張り合わなくていいっての。染谷さんも宥姉えも、そういうことしていると人外目に見えるわよ？」

宥「・・・その、ごめんね？」

ま「・・・わしも言い過ぎたわい。どうにも最近誰かさんの悪影響を受けとるみたいじゃ。」

和「・・・それは仕方ないかと。染谷先輩は一番付き合いが長いんですし・・・」

咲「わ、私たちは気にしてないから大丈夫ですよ!？」

久「・・・あれ?もしかして私に矛先が変わってない・・・!？」

怜「これはどうぞどうぞって変わってあげられんなく。」

竜「えつと・・・そんな気にせんほうがええで・・・?」

久「あら・・・ありがとう、清水谷さん。あとであなたのメアド教えてくれると助かるわ・・・?」

竜「・・・ふえ!?いや、う、ううううちには怜がおんねん!？」

怜「なんでうちがそこにおんねん・・・」

ま「・・・そうやってすぐに手え出すから、周りに変な噂たてられるんじゃ。」



久「む・・・新しい友達の連絡先を知りたがっただけなのに・・・」  
憧「はいはい、漫才はそこまで！時間も無いし、今日はグレランよ！」

晴「・・・憧、もしかして時間計ってる？」

まあ確かに残り1分だから、そろそろ決めたほうがいいよ？

咲「グレランの対象は、占い3人と、園城寺さん、船久保さん、穂乃ちゃん、あとは憧ちゃん以外だね？」

セ「おい憧、共有吊れてまうかもしれないけどええんか？」

憧「構わないわ。むしろそれで船久保さんが●でしたら、船久保さん人外が確定するわけだしね。」

怜「船Qが人狼なら、そう簡単に●出さないんちゃうか？人狼なら身内が分かっってるんやろ？」

久「それでも、どこかで自分の身代わりを作らなくちゃいけないもの。船久保さんがもし人狼なら、どこかでぼろが出る可能性は高いわ。」

Q「せやから私は真やって言うとりまずでしょうが。あんま疑うんなら、真偽関係無しに占い全部吊ってまうで・・・!？」



竜「や、やっぱりやく！うちのあほく!?」

○4日目（昼） 犠牲 晴絵・優希・まこ・咲

処刑 泉・竜華

生存 久・和・宥・玄・灼・憧・穩乃・怜・セーラ・浩子

染谷まこさんの無残な死体が発見されました。

宮永咲さんの無残な死体が発見されました。

晴：昨日の夜は、どうやら2人も犠牲になったようだね。

これは一体、どういうことか・・・!?

今日の会話時間は3分。

一応人数の関係で明日も3分でいく予定だけど、会話はスムーズにね！

それでは4日目、スタートだよ！

セ「おはようさん。まさか清澄から2人も消えるとは予想できんかったで・・・。」

穩「私たちは、全員残ってるのにな！」

怜「……一応聞いてくけど、阿智賀で人狼3人ちやうやろな？最後の信用勝負になったら、有利にしようとしてるんちやうか……!？」

灼「……違う……はず……！」

憧「できればそこは言い切ってほしかったわ……。とにかく、今は話し合いよ！分かってると思うけど、今日の犠牲は間違いないく1人は狐よ！」

Q「そうでしょうな。このルールでは、それしかあらへんはずですわ。」  
憧「それじゃあ占いの結果を聞かせてちょうだい！せくの！」

久「まこ、○よ。」

宥「染谷さん、○です。」

玄「咲ちゃん、○だったのです！」

セ「……竹井と松実のお姉ちゃんが染谷を、妹のほうに宮永を占ったわけやな？」

久「理由としては、昨日のまこと宥さんの会話からよ。私としては、まこがあそこまで喧嘩腰になるのがどうにも理解できなくてね。それでもしかしてって思ったんだけど、どうやら本当に狐だったみたい。おそらく宥さんに占わせて、自分は人外じゃな

いってアピールしようとしたんじゃないかしら？」

宥「私も、同じ理由です。昨日はちよつと反省しなくちやだったんだけど、やっぱりどうしても気になったんで占いました。おそらく染谷さんも、私が真だとは思わなかったんだと思います。」

玄「2人に騙されちやだめだよ！狐は咲ちゃんだったんだから！私が占ったのは、穏乃ちゃんと同じでステルス気味だったからだよ。灼ちゃんや江口さんも気になったけど、まずは咲ちゃんから占ったの！」

Q「・・・狐は染谷さん言うとするんが、竹井さんと松実のお姉さん。宮永や言うとするのが妹さんやな。」

和「・・・咲さんが人外だとは、正直考えたくはないのですが・・・」

憧「和、メタな先入観は捨てなきや駄目よ。それより船久保さん、昨日の清水谷さんの結果は？まさか本当に人狼だった？」

Q「ああ、そういうえばそうやったな。清水谷先輩は、あいにくですが○でしたわ。どうやらあの発言、単なる天然さから来たものようですよ。」

怜「竜華・・・ほんまものあほやで・・・」

セ「竜華も聞いとるんやから、そういうことは言うてやるなって。・・・それよりどうすんのや？●が出てないんじゃないやまたグレランか？」

憧「……正直そろそろキツイのよね。残り4吊りで、人狼3人吊らなきゃいけないわけだし……!」

久「一応言わせてもらうと、私目線では和、鷲森さん、穂乃ちゃん、江口さん、船久保さんの中に2人。そして玄ちゃんが人狼ね。まあ船久保さんが人狼だった場合、清水谷さんもちよつと怪しいんだけど。」

宥「私目線では、原村さん、灼ちゃん、穂乃ちゃん、園城寺さん、江口さんの中に1人。もし清水谷さんが人狼だった場合、竹井さんと船久保さんの2人を吊って終了ですね。」

玄「2人の予想は必要ないので!私目線からすると、和ちゃん、灼ちゃん、園城寺さん、江口さん、船久保さんの中に2人。清水谷さんが人狼だったら、お姉ちゃんとおと1人を吊って終了なのです!」

Q「……まあ分かりきったこと言わせてもらいますが、今まで吊った中に人狼はおりません。この残ってる10人の中に、間違はなく3匹残っておりますわ。」

セ「……一体誰が人狼なんやっちゃうねん……!?!」

和「……憧。そろそろ占いの決め打ちを行わないといけないかと判断しますが……?」

穂「確かにここでグレランして間違うと、狐以外の人外がまるまる残っちゃうことに

なるんだよね・・・!?」

灼「・・・占い師の真偽がつけられな・・・でも・・・!」

久「・・・一応言っておくと、もし私を信じてくれるなら、宥さんに投票するのはやめてね? 私からすると、宥さんは狂人なんだから。」

玄「狂人は竹井さんだよ! だから今日はお姉ちゃんに投票するべきだよ!」

宥「玄ちゃんは狂人で、人狼は竹井さんと船久保さんです。もし私が処刑されても、この2人は必ず吊ってください・・・!」

Q「・・・どうするんや、共有。ここは各自の判断でいいんか?」

怜「時間的にもそろそろ厳しいで・・・?」

憧「・・・占いに投票しましょう。怪しいと思う人・・・人狼だと思う人に、各自投票してちょうだい。」

セ「・・・ちなみに聞いとくけど、憧は誰を真目で見てるんや?」

憧「・・・ごめん。若干だけど、宥姉えは狂人なんじゃないかって・・・」

宥「憧ちゃん・・・!」

久「・・・つまり、私を信頼してくれてるってことね。いいわ。明日は必ず●を見つけてあげる・・・!」

晴：さて、残り30秒を切ったよ。

誰に投票するか、覚悟を決めるときだね！

和「……私が真だと感じるのは……！」

憧「……みんな、もう決めた？」

セ「ああ、決めたで……！」

Q「悩む必要もないですわ。」

穩「私は、この人に投票します……！」

灼「……！」

晴：時間だよ！

怪しいと思う人物に投票して！

### ○投票結果

久(3) ↓ 玄      和(0) ↓ 久

宥(5) ↓ 久      玄(2) ↓ 宥

怜(0) ↓ 宥      セーラ(0) ↓ 宥      浩子(0) ↓ 宥

灼(0) ↓ 宥      憧(0) ↓ 玄      穩乃(0) ↓ 久



投票の結果、松実宥さんは処刑されました。

宥「信じてもらえなかったんだね・・・凄く、寒いよ・・・」

5 日目続く・・・

## 清澄・阿智賀・千里山③

○5日目（昼） 犠牲 晴絵・優希・まこ・咲・憧

処刑 泉・竜華・宥

生存 久・和・玄・灼・穩乃・怜・セーラ・浩子

新子憧の無残な死体が発見されました。

晴：昨日の犠牲者は憧だったみたいだね。

みんなのリーダー的位置にいた子がいなくなつたみたいだけど、これからどうするのかな？

さて今日の会話時間は3分間だ。

みんな、スピーデイにいきましょうね！

それでは5日目、スタートだよ！

久「みんなおはよう。．．．唯一私を信じてくれた、新子さんがやられちゃったわけね．．．!」

玄「憧ちやんがやられちゃったってことは、もう狩人さんいないのかな．．．?」

セ「なんにせよ、まずは占い結果を聞かせてや。できれば●を聞きたいんやけどな。」

Q「ちなみに先に言うとききます。松実宥さんは●。つまり、竹井さんは人外．．．狂人ですわ。」

怜「ほな、玄ちゃんが真つちゆうことやな?玄ちゃんを真と見た、うちの眼力も捨てたもんやないな。」

穩「そんな、宥さんが．．．!」

久「．．．松実さんは○のはずよ。それに、私も●を見つけたわ。」

Q「ほう．．．まあ狂人のたわごとですが、一応は聞かせてもらいましょか。」

久「船久保さん、●よ。つまり霊能は、欠けか優希よ。」

和「．．．そこを占ったんですか．．．?」

灼「．．．正直、信じられな．．．。」

久「必ず見つけるって約束してたしね。．．．正直、外してたら吊られて終わりだと思つてたけど、賭けには勝てたみたい。」

玄「ふっふっふ．．．嘘をつくにしても、もうちよつとましな嘘をつくのです!ちな

みに、私もちやんと●を見つけたよ！」

怜「おお、さすがは玄ちやんやで・・・！」

和「ちなみに、誰が人狼だったんですか？」

玄「ふっふっふ・・・和ちやん！今度こそ和ちやんの最後なのです！和ちやん●！」

穩「・・・ええ!？」

セ「へえ・・・そこにおつたんやな。」

Q「ほなこれで、竹井さんと原村さんを吊って終了ですわ。」

和「・・・まさかここで私に来るとは思いませんでした。ずっと潜んでいた甲斐があったというものですね・・・！」

怜「・・・ん？」

和「CO共有です！玄さんは破綻！私の対抗が出るなら、一緒に吊られてもらいますよ！」

玄「・・・う、嘘お!?!えっと、えっと、本当の共有は誰！穩乃ちやん!?!」

穩「い、いえ、違いますけど・・・」

セ「・・・つておいおい、こりやどういうこつちや・・・！」

久「・・・ここにきて、ようやくトラップが発動したわけね。ちなみに、共有の対抗はいないの？」

灼「・・・いないみたい。まあここで出てきたら、怪しまれるだけ・・・」

久「もしくは、出るだけの余裕がもうないのかもね。もしもう1人が清水谷さんだったら、騙りをできる人物が残ってないわけだし。」

怜「・・・ちよい待ちいや。ほんなら、竹井さんは・・・!?」

和「・・・玄さんは人外確定です。そしてこのことで、真は松実宥さんか、部長のどちらかに決まりました。そしてこの2人に、そろって●を出された人がいます・・・!」  
セ「・・・船Q、お前・・・!」

Q「・・・はあ。・・・つたく、せやから原村さんは危ない言うたんですわ。素直に江口先輩にでも●を付けとけば良かったんです。」

玄「え、ええ!」

怜「・・・ん?なあ船Q?船Qは人狼確定やけど、玄ちゃんも人狼と認めてええんか?」

Q「そんなん仕方ないやないですか。竹井さんが真つてことは、玄ちゃんが人狼やつてすぐばれてまう。狂人も吊られてもうたし、他にどうせえつちゆうんですか・・・。」

灼「・・・竹井さんが真・・・!」

Q 「は？何を今さらそんなこと・・・」

和 「・・・真は、部長か松実宥さんのどちらか、としか言わなかったのですが・・・」

Q 「・・・」

久 「・・・あく・・・ありがとう？」

セ 「・・・こいつテンパリよったな。人外確定しただけなのに、玄ちゃんが身内やつて喋りよった・・・！」

穩 「そ、それじゃあこの2人を吊れば終了ですか!？」

Q 「・・・いや、間違えたで。玄ちゃんは狂人や。」

和 「・・・申し訳ありませんが、さすがにそれは信じられません。」

Q 「・・・玄ちゃんは狂人や。竹井さんがうちの仲間やで。」

久 「悪いけど、今回は人狼じゃないのよね。・・・一応聞いておくけど、もう1人のお仲間COするつもりある？」

玄 「言うわけけないのです！絶対に見つからないよ！」

怜 「ついに玄ちゃんもぶちまけよった・・・！」

久 「・・・一応、清水谷さんが人狼じゃなかった場合、もう1人残ってるってことになるのよね。」

怜 「あ・・・そか。その場合、残つとるのは・・・」

久「江口さん、穩乃ちゃん、あと鷺森さんね。」

和「それなら、今日はこのどちらかを吊つて、明日、占いの結果を教えてください。」  
久「そうするわ。まあ誰でもいいっていうなら……」

セ「ああ、それならそっちの2人にしてくれや。俺はCO狩人や。ちなみに対抗するんか？」

穩「わ、私はないです！」

灼「……同じく……。」

セ「まあそらそうやな。対抗し騙りやし。」

久「……えつと、いいの？もう勝負が決まったとはいえ、今日江口さんが嘯まれるわよ？」

セ「構わへん。俺が嘯まれても、そっちを占つてくれりや明日で決まるわ。」

Q「……ほう。江口先輩が狩人ですか。ほんならそこ嘯ませてもらいましょか。」  
玄「だ、駄目だよ！そこは残して怪しませないと……」

怜「いや、もう遅いつちゆうねん。」

和「みんなの前で、それを堂々と言われましても……」

久「……なら、今日は玄ちゃん吊りね。まあ正直、どっちでも構わないし……」  
怜「そうやな。ほんなら今日は玄ちゃん、明日は船Qや。」

Q 「違います。今日はうち、明日は竹井さんです。」

セ 「船Q・・・もしそれで終わらんかったら、明日の竹井の占い結果を聞いてくれや。明日には答えが出るで。」

久 「一応言つとくけど、今日は私を護衛してよ？これで今日噛まれたら、あなただつて疑わしくなるんだからね？」

怜 「最終日にもつれこんでの信頼勝負なんて勘弁やで。そうなつたら、明日は間違はなくうちが噛まれるやろうし・・・」

セ 「ちゃんとわかつとるつて。・・・なあ赤土さん？もう答え出たんやし、一気に投票に行かせてくれへん？」

晴：みんながそれでいいなら、私は構わないよ？

久 「私はいいわ。・・・つていうか、面倒だから明日も引き続きやらない？」

怜 「確かに、勝敗決まったんにいちいち部屋に戻るの面倒くさいわ・・・」

セ 「わいは賛成や。」

Q 「・・・私としては、部屋に戻りたいんですがね。」

灼 「・・・それは、最後の仲間との相談・・・？」



和「相談する内容は、もう残ってないと思うのですが……?」

Q「あくもう！賛成や賛成！全く……!」

穩「……こういうのって、ありなんですか?」

晴：狩人の護衛先とか、人狼の次の襲撃場所とかばれちゃうけどね。

それでもいいならって感じかな。

久「まあ、この状況なら構わないでしょ。」

晴：それじゃあ投票にいつちやっていいね?

投票に行ったら、もう後戻りは出来ないからね?

怜「大丈夫やで。」

セ「いや／＼なかなか楽しめたで!」

灼「……これで、村2連勝……」

Q「……まだ、それは決まってませんか?」

セ「しつこいつちゆうねん。」

晴：それじゃあ、みんな投票しちやって！

○投票結果

久(1) ↓ 玄                    和(0) ↓ 玄

玄(7) ↓ 久                    灼(0) ↓ 玄    穩乃(0) ↓ 玄

怜(0) ↓ 玄                    セーラ(0) ↓ 玄    浩子(0) ↓ 玄

投票の結果、松実玄さんは処刑されました。

玄「勝つのは私たちなのです!!」

セ「いやいや・・・」

穩「やった〜！また勝った〜！」

晴：さて、じゃあ人狼チーム、今日はどこを襲撃する？

Q「・・・仲間と相談したいんやけど、まあ今日は江口先輩で決まりですわ。」

穩「ま、まだいるってことかな・・・!?」

灼「単に、そう思わせたいだけかもしれない・・・」

晴：他の人は喋らないでね。それじゃあ次に狩人の人、どこを守る？

セ「竹井やな。なんや横から俺を襲撃する言う物騒な声が聞こえてきたけどな！」

晴：了解。

さて、これで人狼の襲撃は成功したわけだ。

それじゃあ、6日目の昼を始めるよ？

和「・・・？まだ部長が占い結果を聞いてませんよ？」

久「ああ、大丈夫よ、ちゃんと分かっているから。鷺森さんも穩乃ちゃんも○でしょ？」

穩「え？まあそうなんですけど・・・」

灼「・・・ん・・・？」

晴：さて、6日目の昼になったよ。

昨日、江口セーラさんが無残な死体となつて発見された。

玄「……」

セ「……おい。なんで竹井に占い聞かないんや？なんかおかしいんちゃうか……!？」

灼「……竹井さん、まさか……!？」

和「……そんな……!？」

久「……調べなくても分かつてるわよ。だって●は、私たちしかいないんだから……!？」

Q「……せやから、まだ勝負は決まっとらん言うたんですわあ……!？」

怜「……これぞまさに、最高のファイナーレつてやつやで……!？」

晴：この瞬間、人狼と村人の数が同じになった。

おめでとう！

今回は、人狼陣営の勝利だよ!!

穩「・・・え〜!?!」

灼「やっぱり・・・!?!」

和「そんな、それじゃあ・・・!?!」

Q「いやいや、案外楽勝でしたわ。」

怜「ほんまや。最後なんか笑いそうになるの必死にこらえてたんやで?」

久「本当よ。船久保さん、あなたアカデミー賞狙えるんじゃないの?」

玄「すぐにそつちの考えを読めた私も褒めてよ!?!」

久&Q&怜「偉い偉い。」

玄「えへへ・・・」

竹井久・園城寺怜・船久保浩子（人狼） 松実玄（狂人）

憧「あくもう！最後、絶対騙されちゃうと思つてたわよ！」  
和「」

セ「う、嘘やろ・・・!?」

宥「その・・・ごめんね？真は私なの・・・。」

新子憧・原村和（共有） 松実宥（占い） 江口セーラ（狩人） 初日犠牲者（霊能）

泉「よりもよつて、船久保先輩が人狼つて・・・!?」

優「・・・強く生きるんだじえ・・・！」

竜「・・・つて、怜も人狼なん!？」

咲「もう・・・だからああいふ心理戦になつたら、部長の言動には気をつけなくちゃ

駄目だよ・・・。」

穩「うわく!?完全に騙されたく!？」

灼「・・・最後にまとめて人外が見つかつて、油断した・・・！」

二条泉・片岡優希・清水谷竜華・宮永咲・高鴨穩乃・鷺森灼（村人）

ま「・・・姉さんは絶対狂人じゃと勘違いしとつたからのう・・・挑発せんほうが良かったわ・・・。」

染谷まこ（狐）

晴「はくいみんなお疲れ！最後にみんな騙された形になっちゃったね！」

和「・・・もつと、疑いを持つべきでした。人狼だとばれたからつて、そんな簡単に真占いを言うはずがないのに・・・！」

灼「・・・玄、最後のあれ、演技なの・・・？」

玄「もちろんだよ！船久保さんが私に話しかけてきたから、すぐに竹井さんを真扱いしたいんだなって分かったのです！」

穩「じゃあもしかして、和に●を出して自分が破綻したのも、わざと・・・!?」

玄「・・・あれは、単純に和ちゃん吊つちやおうつて思つて・・・」

穩「」

Q「いやいや、どこで玄ちゃんを破綻させよう考えてましたけど、まさかすぐに破綻してくれるとは思ってませんでしたわ。」

久「そうね。そのためにわざと松実さんに●を出して、玄ちゃん真のように見せたんだから。」

Q「破綻せんかったら、うちがそのまま残ればええだけでしたし。」  
久「狩人COしてくれて助かったわね。」

怜「うちなんて、椅子に座つてのほほんしてるだけの楽な仕事やったからなく。こんなで良ければいつでもやったるわ。」

竜「酷いで怜!?!うちに嘘ついてたん!?!」

怜「・・・いや、これそういうゲームやし。」

宥「船久保さんの●はすぐに見つけたのに、霊能が欠けてたせいでみんなの信用を得られなかったよ・・・」

セ「そ、そうやそれや!おい船Q!お前何で霊能おらんって気づいとったんや!?!」

Q「そんなん気づけるわけないでしょうが。ありや単にラツキーだっただけです。」

怜「●出されたら、すぐ霊能COしとこうって決めとったしなく。」

久「松実さんが吊られたのも助かったわ。彼女残したくなかったけど、噛みたくても噛めない状況だったし。」

ま「心理戦仕掛けて、気づかれるリスクが減ったつちゆうことか。・・・もしかして、咲や新子さん噛んだんもそれか?」

久「危険要素は極力減らしとかないとね〜♪」

Q「新子さん噛むときは、GJでないか冷や冷やもんでしたけど。」

セ「あゝ・・・俺、あん時は船Qの護衛しとったからなあ・・・」

憧「・・・まあ、仕方ないわよ。あの時は霊能は限りなく真目で見てたもの。」



和「・・・それにしても、私が共有だということには気づいていたんですか？全然私を占つてくれないので、少しつまらなかつたのですが・・・。」

久「もしかしたら、つて程度だったけどね。やけに新子さんにどうするかを確認してたし、もしかして・・・。」

咲「その・・・私も噛まれた日には気づいてたよ・・・。」

和「・・・そ、そうですか・・・。」

優「和ちゃんがっかりしてるじゃえ。」

泉「仕方ないんちゃいます？せつかくのトラップが、よりによつて人狼にばれとつたんですから。」

穩「和、元気出してよ!？」

玄「そうだよ！私は騙されちゃったよ!？」

灼「・・・玄を騙せても、あまり嬉しくはな・・・。」

玄「灼ちゃん!？」

宥「・・・それより玄ちゃん？嘘はついちゃ駄目だよって、私言つたよね・・・？」

玄「・・・はうつ!？で、でも・・・。」

宥「・・・。」

玄「」

晴「まあとにかく、これだけやればもう慣れたろ。どうする？もう一回やつとく？」  
久「いいわね。どうせなら勝ち越して終わりたい・・・！」

咲「私、まだ勝ってないよ・・・！」

晴「よし。それじゃあ時間的にもあと一回かな。さつそく役職を決め・・・」

「ちよい待ちいや！」

穩「え・・・!？」

憧「だ、誰・・・!？」

玄「・・・モウウソツカナイヨ・・・」

灼「・・・玄・・・!？」

宥「えつと・・・？」

「なんや見させてもろうたけど、所詮はお子ちやまのレベルやな・・・!？」

久「・・・あ、忘れてた。」

ま「つてまたあんたか・・・!?!」

咲「えっと、誰を呼んだんですか・・・?」

和「この声・・・」

優「どっかで聞いた気がするじえ!」

「まして最後にあつさりと騙されよつて!こりや大阪の面汚しやで・・・!?!」

セ「な、なんやと!?!」

怜「・・・なあ竜華。この声つて・・・」

竜「・・・多分、間違いないなあ・・・」

Q「・・・ほんま何やつとるんですか・・・!?!」

泉「あ、あはは・・・」

「まあこうなつたら、うちが人狼の手本つちゆうのを見せたるわ!ええか!?!人狼の洋榎とは・・・」

洋「うちのことやで!?!」

漫「ワーワー」

絹「ワーワー」

恭「・・・つてことで、よろしく頼みます。」

由「よろしくなのよ。」

セ「・・・いや、お前何しとんねん!？」

洋「ふふくん。どや? 派手な登場シーンで羨ましいやろ!？」

セ「阿呆か! 派手な登場なら、俺らかてやったわ! しかもこっちは5人でや!」

洋「な、何やて!?! くうく・・・絹! 漫! もう一回やり直すで!?! うちらは3人で、質を

高めるんや!!」

漫「えく・・・」

絹「もう・・・やりたきやお姉ちゃん1人でやってや。うち向こう行つとるで?」

洋「き、絹く!?!」

久「お久しぶりね。来てくれたんだ?」

恭「こっちの都合無視して呼んどいて、何をぬけぬけと・・・」

由「恭子だったら、咲ちゃんに会えるって聞いて他の用事、全部キャンセルしちゃったのよ。」

恭「ちよ、由子!？」

咲「・・・あ、末原さん、こんにちは。」

恭「!!・・・あ、ああ。久しぶりやな。その・・・元気しとったか？」

咲「はい!」

恭「・・・そ、そか・・・!」

洋「・・・っていうか、呼んだんはうちやないか!なんでうちやのうて恭子らに声かけるんや!」

久「そう怒らないですよ。洋榎も来てくれて感謝してるわ。」

洋「ふんっ!そんなの当然や!せいぜい感謝しくや!」

絹「原村さん、こんにちはやなく。」

和「はい、お久しぶりです。」

絹「言うほど久しぶりでもないけどなあ。それより見とったで?最後の最後にやられてもうたなく?」

和「・・・迂闊でした。ですが、次は負けません・・・!」

絹「あはは。次はうちらも混ざるから、一緒に頑張ろうな。」  
和「はい！」

優「よつすだじえ！」

漫「ああ、こんにちは。」

ま「すまんのう。うちの部長の悪巧みに付き合ってもろうて・・・」

由「いいのよ。私たちも、実はちよつと楽しみだつたのよ。」

漫「主将と末原先輩、電車止まったときめつちや怒つてはりましたからね。」

由「なだめるのが面倒だつたのよ。」

優「なんにせよ、次こそは勝たせてもらうじえ！」

ま「ほんじやよろしく頼むとするかのう。同じ陣営だつたらの話じやが。」

由「全くなのよ。」

穩「うおお・・・こんなにいっぱい・・・！」

憧「こりや收拾つけるのも大変そうだわ・・・」

宥「でもこんなに人がいると、何だかあつたかいね。」

玄「・・・アッタカイノデス・・・」

灼「……玄。そろそろ戻っておいで？」

玄「……はうっ!？」

晴「うわあ……こりやまた大変そうだ……」

「心配せんでも、私らも手伝いますわ。」

「そうやで。」

晴「え?……つて、愛宕監督に、赤坂代行!？」

雅「うちの部員がお世話になって……感謝します。」

郁「電車が止まったせいで、うちら遅れてもうたからなく。その分、こつからはいくのんも手伝うで。」

雅「うちも娘たちと一緒に来てもうたから、部員たちと離れてもうたしな。なんやつたら、次は赤土先生も参加しはらったらどうです？」

晴「ははは……こりやありがたいです……!？」

怜「……まさか姫松まで来るとはなあ。」

竜「でも、あつちの子らと遊ぶんも久しぶりやし、うちは楽しみやで？」

セ「へん!あの男女には絶対負けへんからな!？」

Q 「監督から電車遅れてるいうんは連絡もらってましたけど、まさかあつちの面子が一緒だったとは予想外ですな。」

泉 「私、次は柱C O せえへんですからね!？」

Q 「え、してくれへんの？」

泉 「お断りです！」

晴 「・・・よし！それじゃあみんな！準備はいい!？」

一同 『OK!!』

晴 「それじゃあ最後の人狼ゲーム・・・スタートだよ!!」

続く・・・



清澄・阿智賀・千里山（犠牲者たちの集い）

○3日目（昼） 泉・優希

優 「なんで私を嘯むんだじえ〜!？」

泉 「まあ仕方ないんちやう？ 誰かは必ず嘯まれるんやし・・・。」

優 「うう・・・でも、どうせならもうちよつとやってたかつたじえ・・・。」

泉 「それにしても、片岡さんはどう見ます？ あの占い師たち・・・。」

優 「・・・さすがにまだ分かんないじえ。でも、下手すると本当に全員人狼って可能性も・・・。」

泉 「さすがにそれはないって言い切れんのが面倒なところすなあ・・・って、船久保先輩が●やて!？」

優 「宥お姉ちゃんが踏み込んだじえ。これが本当かどうか・・・!？」

泉 「嘘に決まっつとります！ 昨日私が吊られるとき、先輩は約束してくれはったんですよ!？」

優 「これで宥お姉ちゃんが真だったら、千里山がぼろぼろになるじえ．．．つて、靈能COしたじよ！」

泉 「なるほど．．．！船久保先輩のあの台詞は、靈能としての自信やったんやな!?松実さんざまあみい！」

優 「對抗もないようだじえ：．．でも、私は違うけど、靈欠けつていう可能性も：．」  
泉 「．．．一応言うときますけど、私はちやいますからね？」

優 「分かつてるじえ。つてかこれで二条が靈能だったら、終わつたらみんなからボコボコだじえ。」

泉 「まあ違いますからええんですけど．．．なんか、雰囲気おかしゆうない？」

優 「．．．まこ先輩が、宥お姉ちゃんに嘯み付いてるじえ．．．」

泉 「えつと．．．染谷先輩つて、そんな危ない人やつたん？」

優 「そんなわけないじえ。まあ年上には若干強めに出るときもあるけど、優しいいい先輩だじえ。」

泉 「何とか収まりましたけど．．．ああ、結局グレランになるんですね。松実さんが破綻しよつたんやから、松実さん吊つてまえばええのに．．．！」

優 「確かに船久保先輩は真目に見えるけど、まだ決め付けるには早いつてことだじえ。」

泉「……あれ？清水谷先輩……？」

優「……これで清水谷先輩が人狼だったら、お人よしにもほどがあるじえ……」

○4日目（昼） 泉・優希・竜華・咲・まこ

優「一気に増えたじえ。」

ま「……咲。狐はお前じやつたんか。」

咲「染谷先輩です。」

竜「うう……うちはほんまの阿呆や……ごめんな怜、最後まで守ってあげられん

で……！」

泉「ま、まあまあ。でもこれで、残るは10人になったわけですね。」

咲「その中に、人狼が3匹もいるんだね……！」

ま「……ちなみにじやが、お前さんは人狼じやつたんか？」

竜「そんなわけあらへん！うちは普通の村人や！」

泉「いや、普通の村人って……」

優「普通じゃなければ狂人だじえ。」

咲「さすがに、占いの真偽を決めにかかっていますね……」

ま「真は誰じゃ? . . . っっていつても、もう玄ちゃんしかおらんのか。」

咲「部長が宥さんですね。」

優「その2人だと、どっちが真に見えるじゃえ . . . ?」

泉「私目には、若干竹井さんのほうが真目に見えますけど . . .」

ま「何となくじゃが、姉さんがどうにも狂人くさく感じるんじゃないやよなく。」

優「でもそうすると、真は部長だじゃえ。」

咲「 . . . もしかして、部長が . . . ?」

泉「ん? どないしたんですか?」

咲「部長が真ならいいんだけど、もし人外なら . . .」

ま「 . . . どうしたんじゃ?」

咲「 . . . 何となくですけど、今日囁まれる候補が分かったかも知れません。」

優「ど、どういふことだじゃえ!」

咲「私の予想が正しければ、今日囁まれるのは . . . !」

○5日目(昼) 泉・優希・竜華・咲・ま・宥・憧

憧「っってここで私が囁まれるの!? 普通なら船久保さんでしょう!」

ま「数減らしじやろうか・・・？」

優「確定してる○を消しにかかったんだじえ！」

宥「ごめんね。もうちよつとちやんとした結果を出せれば良かったんだけど・・・」

泉「・・・船久保先輩に●出されてますけど、やつぱり人狼だったんですか？」

宥「違うよ？でも、終わらないと信じてくれないよね・・・」

竜「まあ結果的には玄ちゃんが残ってるわけやし、大丈夫なんぢやう？」

咲「玄さんが、本当に真ならいいんですけど・・・」

優「つて和ちゃんが●だじえ！」

泉「さつきも出されてませんでした？」

憧「嘘!? つてことは玄のやつ・・・！」

優「・・・共有COだじえ!!」

ま「ほ、ほんまか!？」

憧「間違いないわ! 対抗しないでよね・・・!？」

竜「・・・出ないみたいやで？」

ま「つてことは・・・」

泉「嘘や・・・船久保先輩が・・・!？」

咲「・・・悪い流れだね・・・!」

優「……ん？なんでだじえ？」

憧「船久保さん●は確定したし、玄だって人外……って、なんで玄が人狼って決め付けてんのよ……!?!」

咲「狂人なら、絶対に人狼に協力する。そして、それを他に気づかれないように、自然に見せるためには……」

ま「……勘が鋭い人は、残しておけんいうことか……!」

泉「そんな、ほな宮永さんと新子さんが噛まれたのって……!?!」

優「……狩人COしちやっただじえ……」

宥「……気づきそうな人は、まとめて処理しちやっただね……」

咲「……もしかしたら、鷺森さんが気づくかもって思ってたけど……」

竜「だ、駄目や怜!気づいてや〜!」

咲「……いえ、園城寺さんはさつき、船久保さんではなく玄さんを先に吊ることを率先してました。だから……」

竜「……え？」

ま「……終わったのう……」

優「負けちやっただじえ……」

泉「……船久保先輩の阿呆く……」

竜「・・・え？」

ゲームは終了いたしました。

## 清澄・阿智賀・千里山・姫松①

雅：ほんなら第3回戦を始めるで。

今回は21人っちゅう阿呆みたいな大人数やからな。

新しい役職が追加されとるから注意し。

## 1、背徳者

狐陣営の村人。

役割としては狂人と同じで、騙りを行いながら狐陣営の勝利を目指す。

狂人との大きな違いは、『狐が誰かを最初から分かっていること』、『狐が全滅したとき、後追い自殺をしようこと』である。

占い、霊能には○と出て、また村人なので人狼に噛まれば死亡するし、占われても死ぬことはないので注意。

## 2、猫又

村人陣営のある意味ジョーカー。



特殊な能力は存在しないが、その真価は死亡したときに発揮される。

猫又が死亡したとき、もし人狼に噛まれば人狼の誰かを、投票で処刑されれば残っている人物の誰かを道連れにして死亡する。(この時、投票で処刑されても人狼、狐を道連れにすることがある)

村人としては絶対吊りたくないし、人狼としても絶対に噛みたくない存在。もし猫又を騙られてしまうと、そのまま敗北が決まることもあるので注意。

久「猫又とは、また面倒くさい役職を・・・」

恭「複数出た場合には、覚悟を決めなあかんな。」

咲「選択を間違えれば、犠牲者が出ますしね・・・。」

優「猫又は、扱いは村人のままでいいのか?」

和「問題ありません。占い師や霊能のような、村人の役職の一つと考えて結構です。」  
穩「分かった!」

宥「でも、今回は狐さんにも味方がいるんだね・・・」

ま「狂人とは違って、初めから狐が分かるとるつちゅうのが怖いわ・・・」  
由「狂人が怒りそうなのよ。」

漫「まあ、人狼の内約が分かる役職も、これとは別にありますし・・・」

泉「……まあ、適当に頑張ればええんです……」

Q「……どうしたんや？急にやる気なくなつたやん？」

セ「やりたくない役職でも当たつたんか？」

泉「そんなんすぐ分かりますよくだ……」。

Q&セ「？」

雅：まずは5分からスタートや。

だけどこれ以上話し合うことがない思つたら、時間をパスすることも可能やで。

そんなときはうちに言つてもらえれば、過半数の同意でスキップするわ。

洋「まあ、うちがおるんや。5分もいらへんけどな。」

絹「期待しとるで、お姉ちゃん！」

怜「最後のほうは、むしろ足りなくなりそうやけどな。」

竜「うちも、今度は頑張るで！」

雅・今回の内約は、人狼（4）、狂人（1）、狐（2）、背徳者（1）、共有（2）、占い師（1）、霊能（1）、狩人（1）、猫又（1）、村人（8）や。

玄「・・・あれ？ 足すと22人になるよ？」

憧「1人は初日の犠牲者だとして、もう1人は・・・」

晴「私も今回は参加するってことだよ！」

和「赤土さんも参加するんですね・・・！」

絹「今まではずっと犠牲者やったしね。」

晴「愛宕監督と赤坂代行の恩赦でね。私もやるからには、ばんばん活躍するからよろしく！」

洋「んなこと言つて、実は人外ちやうんかく？」

久「まあ、始まってみれば分かるでしょ。」

雅「あと気づいとるもんもおるかもしれないが、今回は狐も2人や。狐も人狼と同じで、身内同士が分かるから注意せよ。」

咲「あ、本当に2人になつてる。」

優「面倒臭さも2倍だじえ・・・！」

雅：ルールは初日役欠け有り、占い有り。あと特別ルールとして、人数が3分の1になった翌日、進行役から欠けの役職の発表があるから忘れんなや？

漫「欠けの役職・・・？」

由「珍しいルールなのよ。」

恭「つまりうちらの場合、参加している人数21人の3分の1、つまりは7人以下になった翌日に、欠けがなんだったかを知ることが出来るわけやな。

セ「それって何かメリツトあるんか？」

Q「大有りですわ。終盤まで占いが残ってそいつを真だと信じ込んだときに、欠けは占いやって言われたらどうなります？」

玄「騙りだつてことが無条件でばれちゃうのです・・・!?」

宥「あつたかくない・・・!?」

恭「逆に欠けを知ること、推理の最後の詰めにもなりますわ。」

灼「・・・でもこのルールだと、人外が騙りを行うのも覚悟が必要・・・！」

絹「そうやな！もし欠けの役職乗っ取ってもうたら、終盤で必ずばれてまうんやから・・・！」

雅：まあメジャーなルールやないけど、今回はこれでやるで。

・・・ほんじゃ泉、悪いんやけど・・・

泉「は～い。ほな皆さん頑張ってください。」

優「?どこ行くんだじえ?」

和「もう始まりますが・・・」

雅：それじゃ第3回戦・・・

スタートや!!

○2日目(昼) 犠牲 雅枝・泉

処刑 なし

生存 晴絵・久・まこ・優希・和・咲・宥・玄・灼・憧・穂乃

怜・セーラ・竜華・浩子・由子・洋榎・恭子・漫・絹恵

愛宕雅枝さんの無残な死体が発見されました。

二条泉さんの無残な死体が発見されました。

久「はあっ!？」

優「だじえ!？」

和「」

咲「えつと・・・？」

Q「・・・なるほどなあ・・・」

セ「泉・・・不憫なやつちゃ・・・!」

怜「おいしすぎるやろ・・・!？」

竜「と、怜・・・笑ったらあかん・・・!」

洋「・・・えつと・・・？」

晴「・・・なるほど。そういうことだったわけか。」

灼「・・・狐・・・!」

穩「泉が狐・・・!？」

憧「まあ、それしかありえないしね・・・」

恭「・・・とりあえず、始めましょか。」

由「そ、そうするのよ。」

宥「それじゃあ、私からいいですか・・・？」

晴「宥から？COかい？」

宥「はい。私は共有のCOです。」

久「宥が共有か・・・」

ま「・・・今度は疑われん位置についたわけじゃな？」

宥「はい。それでなんですが、対抗はいますか・・・？」

憧「・・・いないみたいね。」

洋「なら確定やな。これ以降出てきても信じんで？」

穩「えつと、1人しか出てきてないって事は・・・」

宥「うん。私の相方さんは伏せることにするよ。」

和「共有トラップですね・・・！」

咲「複雑そうだね、和ちゃん・・・」

宥「それで、今日はさつきと同じで、せうので占いの結果を言ってください。・・・誰を占ったかは、もう分かっているんですけど・・・。」

洋「むしろ違う奴を占ったく言う奴が出たらおもしろいんやけどな。」

怜「・・・」

久「いいんじゃない？共有の判断に任せるわ。」

晴「そうだね。宥に任せるよ。」

由「任せるのよ。」

宥「そ、それでは・・・せうの・・・！」

晴「二条さん〇！」

恭「二条〇や！」

竜「泉は〇やで！」

玄「泉ちゃんは〇なのです！」

怜「洋ぼんは●やで!!」

宥「」

Q「」

セ「」

洋「・・・って誰が人狼やねん!？」

怜「おお、やつと突込みがきたで。」

久「えつと・・・」



宥「・・・あ、冗談・・・？」

怜「そうやで。でもあんま面白くなかったな。洋ぼんは嘘つきやで。」

洋「つてなんでもうちが嘘つきになつとんねん!？」

絹「・・・あ、もしかしてさっきのお姉ちゃんの・・・？」

和「・・・一応聞いておきますが、遺言はそれでよろしいでしょうか？」

咲「の、和ちゃん・・・」

優「和ちゃんが怒ってるじえ・・・!？」

怜「すまん・・・うちは洋ぼんに騙されただけなんや。許してほしいわ・・・!」

竜「怜・・・!」

セ「・・・あり、すまん。ちよつと悪ふざけしとるだけで、悪気・・・もあるんやろ  
うけど、とりあえず勘弁してくれや。」

Q「あとでちゃんと言うときますんで。」

怜「うち、責められとる・・・!？」

竜「だ、大丈夫やで怜!うちがちゃんと守つたるからな!？」

和「・・・」

咲「あ、あはは・・・」

宥「え、えつと・・・それじゃあ、それぞれの理由を教えてくださいませんか・・・？」

晴「いいよ。私はさっきのプレイ内容からだね。さっきは柱C〇してくれたのに、今度はグレランでくっつてなったらさすがに可哀想だから。占いの真偽はともかく、〇を貰っておけば参加時間も増えるだろうしくっつて考えてただけど・・・仕方ないとはいえ、ちよつと悪いことしたね。」

恭「うちもほとんど同じですわ。私はそれプラス、千里山で一年でレギュラー取った奴つて認識しとります。注意するにこしたことはありません。」

玄「私も同じだよ！」

竜「うちもや！」

セ「・・・おい待て、後半2人。」

漫「さすがに、それは・・・」

玄「うう、でも、本当に言われちゃったし・・・」

竜「付け加えることもあらへんし・・・」

久「・・・吊るべきかしら・・・？」

ま「かなり疑わしいがのう・・・」

Q「まあ、それでも真つて可能性は、多少ありますしな・・・」

怜「ちなみにうちの理由はな・・・！」

和「つまみ出しますよ？」

怜「……だ、黙っとくで……」

憧「……どう思う？」

穩「赤土先生と、末原さんが真目に見えるけど……」

灼「……っていうか、そうとしか見えな……」

宥「……玄ちゃん。もしかして、また嘘ついてる……?」

玄「ち、違うよ!? 今度はちゃんと真だよ!」

晴「嘘は駄目だね? 玄?」

恭「真は私やしな。」

竜「ちやう! 真はうちや!」

宥「今日は……グレランかな……?」

久「……いいんじゃない? 占いロラしちやつて。」

咲「え……?」

絹「も、もう……!?」

久「だってあんなに怪しいのが2人もいるんだし、グレランするだけ吊りの無駄よ。」

Q「……いや、さすがにそれは賛成できませんわ……」

ま「どうしたんじや．．．？」

和「部長．．．？」

洋「．．．うちが言うのもなんやけど、何言つとるんや．．．!？」

晴「．．．そつちの2人が怪しいつてのはいいけど、さすがにそれでロラはされたくないな。」

恭「ほんまですわ。．．あえて聞かせてもらいますけど、竹井さん、あんた狂人ちゃうやろな．．．!？」

久「狂人なわけではないでしょ。私はちゃんと考えて言つてるのよ。」

玄「あうあう．．．!？」

竜「う、うち、めつちや疑われとる．．．!？」

灼「．．．どうするの？宥さん．．．？」

宥「．．．グレランです。まだ、占いの決め打ちはいけません．．．!？」

久「．．．ちゃんと考えてるつて言つてるのに、結局グレランにするわけ？私の話聞いてたの？．．．あなた、もしかして人外の騙りじやないでしょうね．．．!？」

宥「．．．私は、共有です．．．!？」

ま「．．．おい。ほんまどうしたんじやお前!？」

和「お、落ち着いてください!？」

優「部長らしくないじえ!」

咲「ぶ、部長……!」

セ「……落ち着けつちゆうねん。ほんまどうしたんや?」

怜「竹井さんらしくないで……?」

Q「……狂人?それなら納得もできませんが……」

漫「ど、どういことやろ……!」

絹「う、うちに聞かれても……!」

晴「……猫又か……?」

灼「……でも、吊られに行くのは猫又でも悪手……」

憧「ましてあんだけ怪しいと、人狼としても噛みづらいわよね……」

洋「……もしかして、それを狙つとる人狼なんちゃうか?逆に噛まれんでも可笑し

ない思わせるつもりで……」

穩「ど、どういことなの……!」

優「もしかして、柱COだじえ……?」

由「こんな物騒な柱は勘弁してほしいのよ……」

恭「わざわざ怪しまれるメリットでもあるんか……?」

セ「……なあ、どうするんや?グレランや言うても、このままなら俺は竹井に投票

するで？」

憧「さすがにそうなるわよね・・・」

宥「・・・いえ、今日は竹井さんには投票しないでください。」

絹「え？どうしてや？」

穂「宥さん・・・？」

宥「お願いなんですけど、明日は竹井さんの色を教えてください。あの行動には、何かしらの意味があるんじゃないかって・・・」

和「・・・なるほど。部長の色によつて、それを確かめるわけですか・・・！」

竜「でも、狐やったらうちが占ったら死んでまうで？」

セ「それは別にええやろ？」

恭「いや、何で騙りが占つて狐が死ぬねん。」

晴「まあ、私が占わないとね。」

玄「ちゃんと色を見せるのです！」

宥「・・・狐なら、もう一匹しかいないので構いません。もしかしたら、背徳者も死

ぬかもしれないし。」

ま「逆に●なら、久がこんなことをする理由を探るつちゆうわけじゃな・・・!!」

咲「そつか。もしかしたら、こうせざるをえない理由があるのかも・・・!!」

雅：残り1分を切ったで。

考えることが多そうやけど、とにかく結果をまとめてやろ。

宥「・・・グレランでお願いします。」

穂「占いと、竹井さんと宥さん以外ですね！」

和「・・・私としては、占いの真偽関係無しに、怪しい人は吊ってしまいたいのですが・・・」

玄「全くなのです！でも、今日はお姉ちゃんの言うとおり別の人にするのです！」

咲「でも、これで○だったら、占いの無駄遣いにならないかな・・・？」

晴「仕方ないよ。それに○なら○で、ある程度推理することが可能だしね。」

恭「まったく、面倒なプレイングしくさって・・・」

雅：時間やで。

怪しいと思う人物に投票してや。

○投票結果

久(4) ↓ セーラ まこ(2) ↓ 漫 優希(0) ↓ 洋榎 和(0) ↓ 久 咲(0)  
↓ 怜

宥(0) ↓ 由子 玄(0) ↓ 漫 灼(1) ↓ 久 憧(0) ↓ 漫 穂乃(0)  
↓ 漫

怜(1) ↓ 久 セーラ(2) ↓ 洋榎 竜華(0) ↓ 灼 浩子(1) ↓ 漫

由子(1) ↓ セーラ 洋榎(3) ↓ 久 恭子(0) ↓ まこ 漫(5) ↓ 浩子 絹(0)  
↓ まこ

晴絵(0) ↓ 洋榎

投票の結果、上重漫さんは処刑されました。

漫「うう・・・話すこと考えてる間に終わってもうた・・・」

○3日目(昼) 犠牲 雅枝・泉・穂乃

処刑 漫

生存 久・まこ・優希・和・咲・宥・玄・灼・憧



怜・セーラ・竜華・浩子・由子・洋榎・恭子・絹・晴絵  
高嶋穩乃さんの無残な死体が発見されました。

郁：おはようさん。

今日はいくのんが進行役やで。

穩乃ちゃんがやられてもうたな？

あの子の分まで、しつかり頑張つてな。

時間は今日も5分やな。

それじゃ始めるで？

3日目、スタート！

憧「シズがやられたっての・・・!?」

セ「あいつなら返り討ちにしそうなんやけどなあ。」

Q「あんたと一緒にせえへんでください。」

宥「おはようございます。早速なんですけど、占い結果を教えてください・・・。」

久「わざわざ無駄に占わせたんだから、さっさと終わらせて他のこと話し合いますよ」

う。当然、全員○なのよね？」

宥「……それではお願いします。……せいの……！」

恭「竹井、○や。」

竜「竹井さん、○やで！」

晴「竹井さん、○だね。」

玄「竹井さん、●なのです！」

久「……決まりね。今日は玄ちゃんを吊りましょう。無駄な占いかと思つたけど、一応は効果があつたみたいね？」

ま「……久……？」

優「……部長……？」

宥「……みなさんの、その色を見ての推測を教えてください……！」

恭「まあ狂人やろうな。生きとるつちゆうことは狐じやなさそうやし、おそらくこうやつて無駄に占わせて、時間稼ぎするつもりなんぢやうか……？」

竜「私もそう思うわ。初めは、泉がおらんって自暴自棄になつた狐やと思つたけど、まだ生きとるわけやしな……」

晴「それもあるけど、私はむしろ背徳者なんじゃないかって睨んでるよ。せめて一度でも占われる危険性を減らして、狐の生存にかけてるんじゃないかな？この場合、竹井さんがそういう戦術を取ってきたことで、狐が占われる危険性の高い人だつてとこまでは推理できるんだけど……」

灼「さすがハルちゃん……！」

憧「いや、まだ晴絵が真だつて確定したわけじゃないんだからね……？」

玄「みんな騙されているのです！竹井さんは人狼だよ！きつと、自分を犠牲にして真を見つげに来たんだよ！狐は残り一匹、人狼は4匹、ここで真を消しちやえば、あとは大丈夫だと判断したんだよ！」

絹「え……？」

玄「だから、あとは噛んでる間に見つけなければいいんだよ！それで人狼が2匹以上残つてれば、人狼の誰かが狐はあの人だつて言つちやえば、狐はもう吊るしかないんだよ！」

怜「……く、玄ちゃんが……！」

セ「……輝いとるで……!？」

玄「ムフ〜！」

久「……まさか、玄ちゃんの言を真に受けるわけじゃないでしょうね？」

和「……ですが、もし玄さんが真なら、その理由にもうなげます……！」

Q「……確かに、狂人や背徳者ならともかく、人狼は竹井さんに●をつけづらいでしょうなあ……！」

咲「身内切りするにしても、どちらにしろ無用に注目を浴びてしまいますからね……」  
 ま「……なあ久。そろそろ教えてくれんか？お前さん、一体なにを考えとる……!?!」  
 久「……私が言えるのは、人外は玄ちゃんだつてことよ。もし私を切るなら、それなりの覚悟をしておきなさい……！」

優「部長……!?!」

宥「……占いの理由は分かりました。それで、霊能にCOしてほしいんですが、いかがでしょうか……?」

晴「……いいと思うよ。後になってぞろぞろ出てくるより、早いうちから出てくれたほうが真偽つけやすいしね。」

恭「潜伏して嘯まれたりしたら、それこそ洒落にならんしな。出てきて嘯まれるかもしれんけど、うちも賛成しとくで。」

竜「うちは潜伏しといたほうがええと思うんやけど、確かに知らんうちにおらんかったほうが困るしな……。」

玄「……私は、まだ潜伏してたほうがいいと思うよ……?」

宥「……え？玄ちゃんは、どうしてそう思ったの？」

玄「だって、出てきたら嘯まれる危険性があるんだよ!?この状態だと、お姉ちゃんと霊能は危なすぎるよ．．．!？」

セ「．．．なるほど。霊能は出んで、姉さんを守れつちゆうことか。」

洋「．．．分かる気がするわ。うちが占いで共有に絹が出とつたら、霊能には伏せてほしくなるで．．．。」

絹「お姉ちゃん．．．!」

怜「．．．玄ちゃんの気持ちも分かるけど、多分大丈夫なんちゃうか?」

竜「え?それってどうしてなん?」

怜「人外は8匹．．．泉が消えても、まだ7匹もおるんや。悪く見て占い真欠けとしても、まだ3匹も潜伏しとるちゆう計算になる。霊能COはここでしか信じていえば、騙りは絶対に来るはずや．．．。」

Q「．．．確かに園城寺先輩の言うとおりですわ。むしろここで1人しか出んかったら、霊欠けの騙りの方がよほど信憑性ありますで．．．!」

恭「それは分かるんやけど、そんなこと言ったら真かて出づらいわ．．．」

和「．．．覚悟を決めていただきますしよう。これだけの大人数でやっているのですから、無血の勝利などありえませんが．．．!」

咲「．．．もし後で出てきても、絶対に信じないよ。占いで○をもらってるひとでも、

狂人だつて決め付けちゃうんだからね……!!」

宥「……ありがとう、玄ちゃん。でも、お姉ちゃんも頑張るから……ね?」

玄「お姉ちゃん……!?!」

灼「……宥さんの覚悟を、無為にしないためにも……!」

憧「霊能は、絶対COしてちょうだい……!」

由「一つ目の天王山なのよ……!」

宥「昨日の上重さんが、○か●かだけを言つてください。……せうの!」

優「○だじえ!!」

洋「○や!!」

絹「お、お姉ちゃんが霊能やったん……!?!」

ま「優希が霊能じやったとはのう……」

洋「……ほんまは、もうちよい潜伏するつもりやったんやけどな。確実に●を見つけてから出よう思つてたんやけど、これは仕方ないで……!」

優「でも、これで人外は見つけたじえ……!」

洋「ああ、その通りや……!」

久「・・・面白い展開になつてるけど、どつちを信じるの？私としては、もう面倒だから占い同様全部ロラしちやえばいいと思うんだけど・・・？」

恭「そんなん賛成できるわけないやろが・・・!？」

晴「・・・分からないな。それは策か？それとも、単に私が竹井さんを見誤っていただけか・・・？」

憧「宥姉え、どうするの？ここもグレラン・・・？」

灼「・・・竹井さんは、一応パンダになつてるけど・・・!？」

絹「でも、霊能の騙りもいるんやで!？霊能結果もパンダになつたらどうするん!？」

ま「・・・単なる信頼勝負だけは、勘弁してほしんじやがのう・・・!？」

宥「・・・もう一つだけ、聞きたいことがあるんです。」

咲「え?」

由「何なのよ?」

宥「・・・私は、昨日竹井さん以外に投票してくださいってお願いしました。でも、竹井さんに投票した人がいますよね・・・？」

和「・・・!？」

咲「・・・和ちゃん・・・!？」

Q「・・・昨日、共有の指示を無視して竹井さんに投票した人は、園城寺先輩、洋榎

姉、鷺森さん、それに原村さんですわ……。」

宥「……理由を聞きたいです。」

怜「……すまん。怪しいんやからいいやろって思うてもうた。ほんますんません……。」  
洋「同じや。あんだだけ大口叩いとるんやから、吊られても文句ないやろって思うてもうた……。」

灼「……今までのプレイングから見て、明らかにおかしいと……だから、その……」  
和「……すいません。共有の指示を無視して、自分の考えに走りました……。」

晴「……共有の指示は絶対だよ。それは忘れちゃ駄目だからね？」

宥「……時間を使ってすみませんでした。それで、今日なんですわ……竹井さんを吊ります。」

久「!?……黙って聞いてたけど、ここでその話になるんだ……? 4人中3人も私を○つて出してるのよ!? 私を吊るのおかしいでしょうが!!」

ま「つて、落ち着かんか!？」

怜「せやかららしくないやろ……!？」

洋「ほんまどうしたつちゅうねん!？」

久「今日は宥吊りよ! こんだけおかしい指示出すなんて、共有としてありえないわ!

騙りよ!!」



咲「そ、それはないです！部長、一体なにを考えて……」

郁：荒れとるなく♪

でも残り1分やから、ちゃんと考えてや〜？

和「そ、そんな……もう……!?」

怜「やっぱ時間が足りんで……」

宥「……今日は竹井さんです！そして、わがままですが一つお願いがあります……  
！」

セ「お願い？……なんや？」

由「私に出来ることなら、なのよ。」

宥「……もしまだ残っているのなら、狩人の人は今日は私を護衛してください  
！さつきあんなことを言いましたけど……もしかしたらだけど、人外が分かったかも  
しれないんです……!?!」

洋「な……なんやて〜!?!」

恭「それほんまか!?!」

Q「一体、どこに気づいたつちゆうねん……!?!」

宥「ですから、今日だけはお願ひします．．．！もし嘯まれてしまったら、戦犯は私  
で結構です．．．！」

絹「松実さん．．．!?!」

セ「．．．おい狩人、いるんなら分かつてるやろうな!?!」

洋「今日は共有護衛や！もしうちが死んだら、あのちびじやりも吊ったつてや!?!」

優「それは私のせりふだじえ！私が死んだら、あの垂れ目を吊つてほしいじえ！」

洋「つて誰が垂れ目やねん!?!」

郁：時間やで。

ほな、みんな投票初めてなく？

怜「分からへん．．．一体なにに気づいたんや．．．!?!」

### ○投票結果

久 (17) ↓ 玄 まこ (0) ↓ 久 優希 (0) ↓ 久 和 (0) ↓ 久 咲 (0) ↓  
久

宥 (0) ↓ 久 玄 (1) ↓ 久 灼 (0) ↓ 久 憧 (0) ↓ 久

怜(0) ↓久 セーラ(0) ↓久 竜華(0) ↓久 浩子(0) ↓久  
由子(0) ↓久 洋榎(0) ↓久 恭子(0) ↓久 絹(0) ↓久  
晴絵(0) ↓久

投票の結果、竹井久さんは処刑されました。

久「3日日落ちとは……まあ、これで私の役目は終わりだから、いいんだけどね……」

4日目続く……

## 清澄・阿智賀・千里山・姫松②

○4日目（昼） 犠牲 雅枝・泉・穂乃・まこ

処刑 漫・久

生存 優希・和・咲・宥・玄・灼・憧

怜・セーラ・竜華・浩子・由子・洋榎・恭子・絹恵・晴絵

染谷まこさんの無残な死体が発見されました。

雅：昨日の夜の犠牲者は染谷さんみたいやな。

今日の会話時間は4分や。

時間なんてあつちゆう間に過ぎてまうんやから、余計なおしやべりは必要ないで。  
それじゃあ4日目・・・

スタートや！

恭「おはようさん。人狼、どうやら嘯みをずらしてきたみたいやな。」

Q「ここで松実さん嘯んでも狩人がおればGJ出てまいりますし、霊能を嘯んだら嘯んだで、残ったんは騙りや気づいてまうしな。」

晴「なら、残る狐を探しに行つたほうがつてことだね。そうすると、染谷さんは人狼目線からして怪しく映つたつてことか・・・？」

優「分らないじえ。それより、宥お姉ちゃんの考えを聞きたいじえ！」

洋「そうやな。話しあうんはそれからでええやろ！」

宥「はい。それではまず、霊能の結果から教えていただけますか・・・？」

優「○だじえ。部長も何かおかしかったけど、やつぱり狂人だじえ！」

洋「いや、●やつたで。どうやら玄ちゃんの言うとおり、真を探しにきたつてところなんやろうな。むしろこれで、うちからは人外が4人も確定したわ・・・！」

憧「姫松の主将が玄と・・・」

灼「片岡さんが、それ以外の3人とつながつたつてことだね・・・。」

怜「玄ちゃんと洋ぼんが真なら、これで決まりなんやけど・・・」

由「まだ断言できないのよ。」

恭「まあうちからしても、霊能の真偽がつかしましたわ。主将、頼みますから騙るんは顔だけにしてもらえまへん・・・？」

洋 「つて誰がおもしろい顔やねん!？」

絹 「お姉ちゃん、うちはかわいい思うとるで？」

洋 「へ？あ、そ、そか・・・？」

由 「照れてるのよ。」

洋 「・・・つてうっさいわ!？」

晴 「・・・さて、これで何が分かったんだい？そろそろ教えてほしいんだけど・・・？」

宥 「はい。それでは、まず結果からお話します。それは・・・」

宥 「今日は玄ちゃん。明日は愛宕洋榎さん吊りということです。」

玄 「お姉ちゃん!？」

洋 「な、なんでうちらが吊られなあかんねん!？」

Q 「松実さんには、竹井さんが人狼ではないと映つとるんか・・・!？」

竜 「な、なして!?!うちはともかく、なんでそんなに断言できるん!?!」

和 「松実さんは、何の確証を持って・・・!？」

咲 「・・・あ、もしかして部長つて・・・!」

晴 「・・・そうか。そういうこと!」

灼「ハルちゃん、何が分かったの・・・!?」

セ「俺らにもちゃんと説明しいや!」

恭「・・・ようやく気づいたわ・・・!」

憧「まさかこんなにあつさりと騙されるなんて・・・!」

由「な、なんなのよ・・・?」

咲「・・・部長が役職を持たない村人だった場合、絶対の確証は持てません。それこそ真占いに占つてもらわない限りは。」

絹「そ、そうやな。ほな、松実さんは真の占い師が分かったつちゆうんか!」

晴「私が言うのはあれだけど、この状態では真の判別はできないよ。それこそ決め打ちでもしない限りはね。」

恭「せやけど役職持ちやった場合、松実さんからははつきりと判別できる役職がある・・・!」

怜「・・・そういうことやったんやな。うちにもようやく分かったで・・・!」

咲「・・・松実さん。部長は・・・共有ですな・・・?」

宥「・・・うん。竹井さんは、間違いなく私の相方だよ・・・!」

玄「」

洋「・・・ふ、どうやら人外がついに名乗りをあげたようやで・・・!」

絹「お、お姉ちゃん・・・?」

洋「共有COや!相方は玄ちゃんや!」

玄「へ?・・・あ、そうなのです!共有COなのです!」

洋「あえて騙りの役職を騙ることで、占いや霊能の真偽を確かめよう思ったんや!これぞ、共有あえての騙りの術やで!ちびじやり、疑ってすまんかったな!真霊能は間違いなくお前やで!」

優「全くもって嬉しくないじえ。」

由「・・・っていうか、洋榎はさつき、共有はこれで確定って言ってたのよ。」

恭「・・・見苦しいにもほどがありますよ、主将・・・」

絹「・・・お姉ちゃん?いくらなんでもそらないで・・・?」

雅：こら晩飯抜きやな。

洋「つてなんで!?!」

憧「一応聞いておくけど、この戯言を信じる人っていないわよね?」

晴「これを信じるのは、さすがに・・・ね?」

玄「私は共有だよ!お姉ちゃんは人外なのです!」



宥「……玄ちゃん？あとでお姉ちゃんとお話しようね？」

玄「」

竜「……えっと、共有は宥ちゃんと竹井さんでええんよな？」

怜「当たり前やないか……」

優「つまり部長は、自分から吊られにいったってことだじえ……！」

和「自分を犠牲にして、人外を炙り出したということですか……!？」

咲「まさか、味方の村人まで騙してくなんてね……！」

セ「味方でも油断できんやつちゃで……！」

宥「……竹井さんは言っていました。自分なら、多少の怪しい言動でも必要以上に怪しまれる。複数の占いと霊能が出れば、必ず自分と入れ替わろうとする騙りが出てくる。霊能からは出ないかもしれないけど、占いからはまず確実に1人は見つかるだろうから、それを吊ってしまおうって。」

Q「結果としては、霊能からも見つかって万々歳ってことやな。」

恭「確かに占い1回と吊り1回を無駄にしたけど、これならじゅうぶんにお釣りがくるで……！」

竜「ほえ……竹井さん、凄いこと考えてたんやな。」

怜「……発想の転換ってやつやな。生きてるうちに人外を見つかるんやなくて、死

ぬことで人外を見つけるっちゆうこつちや．．．」

灼「．．．私には、出来そうにない．．．!」

晴「誰もができるわけじゃないよ、灼。あれは、彼女だったからこそ有効な策だったんだ。」

憧「確かに私らがやろうとしても、色を確認するまでもなく、単に人外だろうから吊つちやえ〜で終わりよね．．．」

絹「でも竹井さんがやると、あの人がおらんなくなっても不安が残る．．．!」

和「そして、それは人狼側にもとつても同じ．．．!」

セ「せやからせめて色を見て、少しでも不安材料は消しときたいっちゆうこつちやな．．．!?!」

由「．．．完全に騙されたのよ．．．!」

宥「．．．今日の吊りは確定です。それでは、占いの結果を教えてください．．．玄ちゃんは、別に言わなくてもいいんだよ?」

玄「あう．．．」

洋「」

絹「お、お姉ちゃん．．．うちの晩御飯、少し分けたげるから元気出し．．．?」

洋「．．．って、うちそれで落ち込んだるちやうで!?!」

宥「えっと……それではお願いします。せうの……」

晴「船久保さん、●だ！」

竜「怜は○やで！」

恭「宮永は○や！」

玄「うう……憧ちゃん○なのです！」

憧「……って、この場面で私に色付けないでよ!? 困いに見えるでしょうが！」

玄「憧ちゃん! 一緒に逝こう……?」

憧「絶対嫌！」

晴「……理由としては、単に疑わしいところからってとこだね。私は竹井さんが背徳者で考えてたから、さつき同じだった人狼で、なおかつ船久保さんが今回は狐なら、底おうとするんじゃないかって思ってたんだけど……まあ、結果的にはいい方向に転んだみたいだね……!」

灼「さすがハルちゃん、頼りになる……!」

憧「……いや、だからまだ真だって確定したわけじゃないんだからね……?」

Q「私からすれば、これで赤土さんは人外確定ですわ。真は清水谷先輩か、もしくは

末原さんっちゆうこっちゃん。」

竜「うちが怜を調べたんは、怜の身の潔白を証明するためや！これで怜は吊られんですむで！」

怜「……いや、○貰えんのは嬉しいんやけど……」

セ「……これ、やっぱ真は末原か赤土さんなんちゃうか？」

Q「末原さんやったってことですか。」

竜「なして!？」

恭「まあ信じてもらえるんはありがたいんやけど……うちが占った理由も、そんな変わらへんで？」

由「恭子は どうして咲ちゃんを占ったのよく？」

恭「うちが占ったんも、宮永の色を確認したってだけの話や。○なら村やと証明できるし、もし●や狐なら、彼女はかなり怖い存在やしな。竹井さんの影に埋もれとるけど、この子もかなりの切れ者やで？」

咲「末原さん……」

恭「まあ、結果として占い一回無駄にしたわ。単に村やと証明しただけになつてもうたな。」

咲「いえ……ありがとうございます……!」

恭「・・・べ、別にお礼はええ・・・」

和「むむむ・・・!」

優「和ちゃんがジエラシってるじえ!」

絹「末原先輩、顔真つ赤や。」

由「照れてるのよ。」

恭「う、うっさいわ!」

玄「ちなみに私が占ったのは、憧ちゃんは怪しいからだよ!これで憧ちゃんも吊りだよね!」

憧「何でそうなるのよ!あなたは黙ってなさいっての!?!」

宥「・・・この場合、船久保さんが明後日の吊り対象になるけど・・・」

Q「・・・その日まで、他に怪しい人物がおらんいうなら、吊られても構いまへんで?少なくとも私を吊れば、赤土さんの破綻は確定するわけやしな。」

セ「ん?ずいぶんとあっさりしとんのやな?」

Q「私は今回村ですからね。竹井さんの真似するわけやないけど、吊られて人外を確定できるなら儲けもんですわ。むしろこれで私に●が出るようなら、片岡さんも騙りの霊欠けやったってことです。」

優「む・・・そういつて、私に疑いの目を向けさせる、人狼の手口つてこともあるじえ

!

Q 「そう思うんなら、素直に○つければええんですわ。そんなら疑う余地はありまへん。」

宥 「船久保さんの件は、また後日にしよう？それで明日の占い先なんだけど、一つ提案があるの。」

晴 「ん？どこか怪しいところでも見つけたかい？」

竜 「教えてほしいわ！」

宥 「昨日、竹井さんに投票した人たちは気にかけていてくれるかな？その・・・竹井さんが、ここで自分に投票してくる人の中に、人外がいる可能性は高いって言うてて・・・」

恭 「なるほどな・・・まあ、一応気にはかけておくわ。」

宥 「絶対じゃないので、他に気になる人がいたら、そつちを優先してください・・・」

雅：残り1分や。

結果をまとめたほうがええで？

宥 「・・・それでは、今日は玄ちゃんに投票をお願いします。」

和「分かりました。」

咲「明日は愛宕さんのお姉ちゃんだね。」

洋「すまんのう、玄ちゃん……！」

玄「仕方ないのです。正義も敗れるときはあるのです……！」

憧「いやいや……」

灼「……ちなみに、玄は何だったの？まさか3連続で狂人……？」

玄「共有だよ！」

和「……占いじゃなかったんですか？」

セ「……ま、言うわけないわな。」

宥「今度は、簡単に口車に乗らないでね？それが人外の手口かもしれないんだから……」

怜「うちは今回村やしな。あれを自分がやられる思うとぞつとするで……！」

Q「ほんまですわ。まあ私がおる限り、そんなことはさせまへんけどな……！」

絹「うちも気をつけなあかん……！」

晴「見てる分には楽しかったんだけどね。」

優「実際かけられたら、たまつたもんじやないじえ！」

由「全くなのよ。」

恭「まあ、最後まで油断はできへんっちゆうこっちな。」

雅：時間や。

怪しい思う人物に投票しい！

○投票結果

優希(0) ↓ 玄      和(0) ↓ 玄      咲(0) ↓ 玄

宥(2) ↓ 玄      玄(14) ↓ 宥      灼(0) ↓ 玄      憧(0) ↓ 玄

怜(0) ↓ 玄      セーラ(0) ↓ 玄      竜華(0) ↓ 玄      浩子(0) ↓ 玄

由子(0) ↓ 玄      洋榎(0) ↓ 宥      恭子(0) ↓ 玄      絹恵(0) ↓ 玄      晴絵(0) ↓

玄

投票の結果、松実玄さんは処刑されました。

玄「私は共有だよ！みんな騙されないでね!？」

○5日目(昼) 犠牲 雅枝・泉・穩乃・まこ



処刑 漫・久・玄

生存 優希・和・咲・宥・灼・憧

怜・セーラ・竜華・浩子・由子・洋榎・恭子・絹恵・晴絵

平和な朝を迎えました。

郁：おお、平和な朝を迎えたで〜？

やっぱみんな仲良しが一番やな〜。

せやけど、こん中には人外がまだおるんや〜。・・！

それが誰なんか、みんなにはもう分かつたんかな〜？

今日の会話時間は4分やで〜。

ゆっくりせんと、はよ決めたってな〜。

それでは、スタートやで〜！

咲「おはようございます。・・・この平和、どう見ますか？」

洋「狐や！きつと人狼が狐を噛んだんやで〜！」

由「人外は黙ってるのよ〜。」

洋「」

晴「・・・私は、狩人G Jじゃないかって思うね。」

恭「奇遇ですな。それはうちも賛成ですわ。」

宥「・・・私か、片岡さんが狙われたってこと・・・？」

絹「もしくは、赤土さんがほんまに真で、人狼がそれを嘯みにいったつちゆうこともありえますわ。」

セ「もしそれが本当なら、狩人のファインプレーやな。」

優「判別前に、赤土さんを信じたってことになるじえ・・・！」

Q「それですと、無条件に信じてるってことになるんやけど・・・」

憧「・・・まさかとは思うけど・・・」

灼「・・・先に言っとくけど、私は狩人じゃな・・・」

晴「もし灼が狩人ならありがとうだけど、まだ狩人は探す場面じゃないよ。人狼の生贄にするつもりかい？」

洋「見つけたで！狩人を探しとる新子が人狼や！」

憧「違うっての！単に気になっただけよ!？」

宥「・・・優希ちゃん。それで、玄ちゃんの色は・・・？」

優「そうだったじえ！玄先輩の色は○、人狼ではなかったじえ！」

洋「いいや違うで！玄の色は●や！うちの相方を騙るとは、なんとも不屈き千万なやつやで！」

セ「お前はなにがしたいねん!？」

絹「もう・・・いいからお姉ちゃんは黙つとき？」

洋「」

灼「・・・玄、まさか本当に狂人・・・？」

咲「狐つて可能性も、ないことはないけど・・・」

和「ですが、いきなり一匹になってしまった狐が、はたして騙りに出るでしょうか：？」

怜「それに狐なら、背徳者はどこへいったつて話やな。」

Q「その場合は背徳欠けか、上重さん、高嶋さん、染谷さんの中にいたつちゆうことですね。」

晴「まあおそらく、狂人か背徳者だろうね。」

恭「そつちの意見に賛成するのも癪ですけど、うちもそう思いますわ。ただ・・・」

由「どうしたのよ？」

絹「末原先輩・・・？」

恭「・・・玄ちゃんが狂人ならええんやけど、もし背徳者やった場合、やけに狐くさ

いやつがおる思うてな。」

咲「それって……」

晴「……憧だね。」

憧「ちよ、私が狐だつていうの!?!違うわよ!」

竜「なして憧ちゃんが狐なん?」

和「自分が吊られると判断した背徳者が、せめてもの悪あがきとして囲つていったということですか……?」

恭「人外確定した後の○やからな。当然身内にはやらないやろうつて思うんやけど……」

晴「逆にそれを狙つて、憧を占いの対象から外したつてことだね。」

憧「違うつての!こういうミスリードこそが玄の狙いよ!」

灼「玄が頭脳プレイを……?」

宥「……憧ちゃんの真偽は置いときましょう。まずは、占いの結果をお聞きしていいですか?」

セ「あ、そうやったな。」

優「すっかり忘れてたじえ!」

咲「いや、一番忘れちゃいけないことだからね……?」

宥「それではお願いします。．．．せうの．．．！」

竜「原村さん、●やで！」

恭「絹ちゃん、○やな。」

晴「和、○だよ。」

セ「．．．ついにパンダが出たで〜。」

Q「．．．これなら、私吊られんでもええんちやいます？」

和「何ですか。赤土さんが真なら、船久保さんが人狼ですよ？」

咲「和ちゃんを吊って、赤土さんと清水谷さんの真偽を確かめるんだよ。」

和「咲さんは私が人狼だ?!」

咲「えっと．．．清水谷さんが真の可能性もあるから．．．」

由「でも、恭子は絹ちゃんに○なのよ〜。」

絹「うちに○はありがたいんですけど、初日に竹井さんに投票した人たちって言うて  
まませんでした？」

恭「絶対じゃないって言うてたからな。確かに怪しいとは思うけど、それは議論で話し合っても何とかなる。それより、ちよつとステルス気味な絹ちゃんが実は狐やったつ

てことのほうが、よっぽどおつかないからな。」

晴「私は、共有の意見を参考にだね。対抗が●をつけたみたいだけど、和は間違いない村人だよ。」

和「当然です。」

竜「いや、原村さんは●や！宥ちゃんに言われたとおり占ったら、ずばりビンゴやったで！」

灼「……明日、吊って確かめる？」

宥「……そうだね。今日は愛宕洋榎さんで、明日は原村さんかな。」

和「それでしたら、狩人は赤土さんの護衛に行くべきです。この時点で、人狼には真偽が見えている可能性は高いです！」

晴「いや、私の護衛はいらないよ。むしろ絶対を守るべきは片岡さん、ついで宥かな。私が囓まれたら、それはそれで証明になるよ。」

憧「確かに、晴絵が囓まれたら船久保さんは怪しくなるわね……！」

怜「対抗の竜華もやな。」

竜「うち!？」

セ「いや、当たり前やろう。」

恭「うちからすると、赤土さんが狐やつちゆう可能性もあります。うちとしては赤土

さんは人外確定やし、確認のためにも嘸んでほしいところすわ。もちろん、赤土さんが人狼やったら無理やろうけどな。」

晴「確かに私が人狼なら、自分を嘸むことはできないね。でも今の推測、末原さんに対する私の率直な意見でもあるんだよ？」

恭「うちは真ですから、そもそも嘸めまへん。それより、うちの話に対抗してきたっちゆうことは、赤土さんほんまに人狼なんちやいます・・・？」

晴「残念だけど違うよ。私の立ち位置が欲しいみたいだけど、そう簡単にいくとは思わないほうがいいよ？」

灼「・・・ハルちゃん、落ち着いて・・・？」

絹「末原先輩も、もつとりラックスせんとな・・・」

和「・・・鷺森さんのあれは、真に對する擦り寄りでしょうか・・・？」

優「もしくは、人狼同士の庇いあいだけえ！」

憧「・・・そうだったらいいんだけど、灼の場合はなく・・・」

宥「・・・普段から、あんな感じだしね・・・？」

Q「データ取るのも一苦労ですわ・・・」

洋「よっしゃ！ここは怪しい鷺森を吊るべきや！」

灼「拒否。」

洋「ついでに狩人COやで！ちびじやりを守るためにも、うちは残さんとあかんで！」  
絹「お姉ちゃん・・・」

由「監督。この子もう連れて行って欲しいのよ。」

洋「なして!?!うちの味方はおらんの!?!」

恭「いるわけないでしょうが・・・。」

郁：連れてつてもええけど、残り1分を切ったで〜?

もう話し合うことはないんかな〜?

晴「・・・まとめようか。今日は愛宕さんのお姉さんでいいんだね?」

宥「はい。今日はそれでよろしくお願いします。」

咲「分かりました。」

和「これでようやく静かになるんですね・・・。」

洋「・・・あとちよつとだけや!あと1日だけ置いてくれへん!?!きつと役にたつで!?!」

恭「だめに決まってますでしようが。」

セ「うっさいからはよ逝つてまえ。」

洋「なんやと〜!?!」



絹「ほらお姉ちゃん、もうちよい静かにしい？」

由「世話が焼けるのよ。」

恭「・・・うちの身内が、ほんまにすんまへん。」

咲「あはは・・・」

優「仕方ないじえ！」

怜「洋ほん、さらばやで・・・」

郁：それじゃあ時間やで。

みんな洋榎ちゃんに投票したってや。

洋「・・・って名指し!？」

○投票結果

優希(0) ↓ 洋榎

和(0) ↓ 洋榎

咲(0) ↓ 洋榎

宥(1) ↓ 洋榎

灼(0) ↓ 洋榎

憧(0) ↓ 洋榎

怜(0) ↓ 洋榎

セーラ(0) ↓ 洋榎

竜華(0) ↓ 洋榎

由子(0) ↓ 洋榎

洋榎(14) ↓ 宥

恭子(0) ↓ 洋榎

絹恵(0) ↓ 洋榎

浩子(0) ↓ 洋榎

晴絵（〇）↓洋榎

投票の結果、愛宕洋榎さんは処刑されました。

洋「うう・・・こうなりやあつちで暴れたるわ〜！」

郁：あ、洋榎ちゃん〜？

犠牲者スペースの子らが、こつち来るなつてゆうとるで〜？

洋「そんな!？」

6 日目に続く・・・

# 清澄・阿智賀・千里山・姫松③

○6日目(昼) 犠牲 雅枝・泉・穂乃・まこ・宥

処刑 漫・久・玄・洋榎

生存 優希・和・咲・灼・憧

怜・セーラ・竜華・浩子・由子・恭子・絹恵・晴絵

松実宥さんの無残な死体が発見されました。

雅：6日目になったで。

昨日の犠牲者は松実宥さんや。

これで共有が1人もおらんなくなつたみたいやけど、どうするつもりや？

今日の会話時間は3分や。

時間的にも厳しくなってきたんやから、どつかの阿呆みたいに無駄口叩いとる暇はないで。

それでは6日目、スタートや!

由「おはようなのよ。松実さんがやられちゃったのよ……。」

晴「……さっそくだけで提案だよ。進行役は片岡さんにしない?」

Q「まあ、この中で一番真目に近いですしな。」

恭「うちは賛成です。異論はありまへん。」

和「優希、頼みましたよ?」

優「……分かったじえ!私に任せるじえ!」

セ「頼むからミスリードだけは勘弁してくれやろ?」

怜「そんな時はまわりで止めればええやろ。」

優「よろしく頼むじえ!早速だけど、あのうるさいのは●だったじえ!」

灼「人狼1匹目……!」

咲「あとは人狼3匹と、いれば狐だね……!」

絹「もしかしたら、まだ狂人か背徳者も残ってるかもしれん。油断はできんで……!」

優「それじゃあ占いの結果を頼むじえ!せゝの……!」

晴「江口さん○だ。」

竜「憧ちゃん○やで！」

恭「片岡、○や。」

セ「おつ、俺を占ったんがおるんやな。」

Q「人外ですけどな。」

晴「占った理由は、そろそろステルスの中から探さないと危険だと思ったからだよ。」

真瀬さんもだけど、江口さんも口数が少ないしね。」

由「申し訳ないのよ．．．。」

セ「喋りたいんやけど、頭ん中ぐちやぐちやでな．．．。」

竜「うちが占ったんは憧ちゃんや！昨日狐や疑われとつたし、これで安心やで!？」

憧「えつと．．．うん、ありがとう．．．。」

怜「．．．憧ちゃんも可哀相にな。どうせなら他の2人に占ってもらいたかったやろ  
うに．．．。」

竜「ええ!?!うちまだ疑われとるん!？」

恭「．．．うちが占ったんは片岡や。正直、今日辺り松実さんがやられるんは明白やつ  
たからな。今後の中心になる可能性の高い子は、白黒つけるべきやと思つたんや。」

晴「・・・なるほど、最もな理由だね。そう言つて霊能に近づくわけだ？」

恭「ちやいます。うちがやられた後も、村が混乱せんようにする配慮ですわ。いくら真目に近い言うたつて、確定してない限りは安心できんでしょうが。」

晴「けど、もしこれで片岡さんが本当に人外だった場合、君たちの勝利は確実になるわけだね？」

恭「・・・そんな疑うなら、試しに占つてみたらどないです？もつとも、人外の結果なんて信じるに値しませんけどな。」

晴「・・・言葉のブーメランつて知ってるかい？」

恭「あんたは・・・！」

咲「お、落ち着いてください・・・!？」

由「少し冷静になるのよ？」

灼「ハルちゃんも、挑発しないで・・・！」

憧「本当よ。時間、短いんだからね？」

優「その通りだじえ！今日は●もないし、予定通り和ちゃんを吊つて色を確かめるじえ！」

和「仕方ありませんね・・・私としては、船久保さんを吊つてしまったほうが早い気がするのですが・・・」

Q 「心配せんでも、あんたが○なら次の候補はうちや。霊能が騙りやない限りな……！」

恭 「片岡は確定や。それは心配せんでええ。」

竜 「うち占つてないんやから、まだ決め付けるわけにはあかんで!？」

怜 「……一応聞いておくけど、明日は優希ちゃん占おうなんて考えてへんか……？」

竜 「へ? あかんの?」

Q 「……言つときますけど、ここまできてまだそんなことしてたら、周りからの信用さらにながた落ちでつせ?」

セ 「占い投票になれば、竜華が落ちるで?」

竜 「う、嘘!? あ、危ないところやったで……!」

咲 「……どう思います?」

絹 「あれが全部人外の演技なんやとしたら、かなりのもんなんやけど……」

優 「怪しすぎて、逆に真目に見えてくるじえ……」

怜 「……うちが言うのもなんやけど、竜華が真つてのは結構あると思うで?」

竜 「と、怜! 怜はうちを信じてくれるんやな!？」

怜 「この子阿呆の子やし、こんな演技が出来るとは思えへんもん。」

竜 「」

和「……これは、なんというか……」

由「ものすごい説得力なのよ……!」

晴「……なんていうか、こつちからすると演技だと分かつてるんだけど……」

恭「……確かに、納得してまいそうな自分がおりますわ……」

セ「……良かったな竜華。お前今、真目にグツと近づいたで?」

竜「うう……あまり嬉しくないわ……!」

怜「ちなみに、竜華の目線としてはどのへんが怪しいんや?」

Q「……ふむ。確かに少し気になりますね。」

絹「清水谷先輩が真なら、確かに今後の参考になるかもしれへんし……」

恭「あくまで真ならって話やで?絹ちゃん。」

竜「ん……優希ちゃんは占ったらあかんのやろ?それなら、灼ちゃんか……咲

ちゃんあたりやろか?」

灼「私……?」

咲「私ですか?」

晴「ちなみに、それはなんで?」

竜「灼ちゃんも咲ちゃんも、もつと話に参加してもおかしい思うんや。さつきも裏

で、咲ちゃんの推理が当たってたんは知つとるし、灼ちゃんもさつきに比べて、少し静



か過ぎる気がするし……」

優「うむむ……」

咲「……私の中の答えが確定するまでは、なるべく表に出したくないっていうのが本音ですね。さっきはもう脱落しちゃったから、気にせず、素直に言えましたけど……」

恭「ミスリードはしたくないっちゆうわけか。……それでも、なんか考えがあんのやったらすぐに言うべきやで？ 噛まれて脱落してもうたら、どうしようもなくなるからな。」

咲「……そうですよね。気をつけます。」

憧「灼は？まさか本当に人狼なの？」

灼「……ごめん。ハルちゃんと一緒にプレイだから、あまり深く考えてなかった……」

晴「……灼。ちゃんと自分で考えなくちゃだめだよ？」

灼「……うん、気をつける……」

セ「……これが見事に予想通りなら、ある意味凄いんやけどな。」

Q「ですが、決め付けるにはさすがに弱いですわ。もう少しはつきりした要素が欲しいんですけど……」

雅：残り30秒や。

はよまとめやろ。

優「……今日は和ちゃんを吊るじえ！」

和「はあ……それでは、狩人は優希の護衛をお願いしますね？これで優希が噛まれたら、たまったものじゃありませんよ。」

咲「えつと……ごめんね？和ちゃん。」

和「咲さん……あとは、お任せしますね？」

咲「うん。私、頑張るよ……！」

絹「うちもちゃんと考えんとな……！」

セ「結構頭痛くなってきたんやけどな……」

雅：時間や。

怪しい人物に投票しいや。

○投票結果

優希(0) ↓和 和(11) ↓竜華 咲(0) ↓和  
 灼(0) ↓和 憧(0) ↓和  
 怜(0) ↓和 セーラ(0) ↓和 竜華(2) ↓和 浩子(0) ↓和  
 由子(0) ↓和 恭子(0) ↓和 絹恵(0) ↓和 晴絵(0) ↓竜華  
 投票の結果、原村和さんは処刑されました。

和「私は村人ですからね！これで負けたりしたら、承知しませんから！」

○7日目(昼) 犠牲 雅枝・泉・穂乃・まこ・宥・竜華

処刑 漫・久・玄・洋榎・和

生存 優希・咲・灼・憧・怜・セーラ・浩子

由子・恭子・絹恵・晴絵

清水谷竜華さんの無残な死体が発見されました。

郁：昨日の犠牲者は竜華ちゃんやっただけ。

ついに占い師の中から犠牲が出たな〜？

これは一体どういうことなんやろ〜？

今日の会話時間も3分やで〜。

頑張つて推理してな〜。

それじゃ〜7日目、スタートや〜！

怜「竜華が・・・」

晴「おはよう。初めに言わせてもらおうけど、片岡さんの占い結果は●だった。みんな騙されないでね・・・！」

優「違うじえ！和ちゃんの結果は●だじえ！赤土先生は破綻だじえ！」

怜「・・・やっぱ、竜華が真やったってことかな〜？」

恭「違うで。うちの占い結果は船久保○や。逆囲いを警戒したけど、まんま村人やつたな。今日の噛みは、清水谷さんを真と誤解しての噛みや。まあともかく、その先生には吊られてもらいましょか！」

灼「嘘、ハルちゃんが・・・!?」

晴「違うよ灼。騙されないでね？」

灼「う、うん・・・！」

憧「つて、なんで素直にうなずいてんのよ!? どう見ても晴絵は怪しすぎるでしょうが！」

絹「さすがに、これで赤土さんが真目には見えんで・・・!?」

晴「1回戦を忘れたのかい? あえて狂人を囁んで、真を吊る。まして霊能まで乗っ取られてるこの状況じゃ、人狼の思う壺だよ・・・?」

咲「っ!・・・確かに、その可能性もあるんだよね・・・!」

恭「・・・宮永。それを信じるつちゆうことは、うちを疑うつちゆうことか?」

咲「え?・・・あ、いや、そういうわけじゃ・・・!?!」

晴「私からすれば、船久保さんと片岡さんが人狼だ。清水谷さんは狂人か背徳者。末原さんは人外のいずれか。愛宕さんのお姉さんも人外で、玄も人外。欠けが狂人か背徳者だった場合は、末原さんが狐で人外全露出。欠けなしの場合には、グレーの中に人狼か狐が1匹だ。ともかくここは、これ以上の頭脳プレイを止めるためにも船久保さんを吊るか、狐目の大きい末原さんを吊るべきだよ。」

恭「内約を言つて信頼を集めよういんですか? それならうちも言わせてもらいますわ。うち目線では、欠けの可能性は背徳だけです。背徳欠けの場合、玄ちゃんも狐。清水谷さんが狂人。赤土さんと主将と原村が人狼。グレーの中に人狼が1匹や。」

由「恭子は、狂人欠けはないのよ?」

恭「それやおかしくなるんや。その場合、玄ちゃんが背徳者が狐になる。背徳者なら清水谷さんは狐やけど、占つてないから呪殺はありえんし、噛まれて死ぬわけがない。逆に玄ちゃんが狐なら、背徳者の清水谷さんが狐全滅後も生きとつたことになるんや。ただうちの予想は、今回は欠け無しと見とる。」

Q「確かに、狐一匹で騙りに出るのはリスクが大きいですしな。」

恭「うちもそう思う。欠け無しの場合、赤土さんはおそらく人狼。この状況で狐つてことはさすがにないやろ。主将と原村は人狼。清水谷さんと玄ちゃんが狂人が背徳。もし玄ちゃんが狐なら、背徳は漫ちゃん、染谷さん、高鴨の誰かやな。そこでグレーの中に、人狼が一匹+狐や。」

晴「私に疑いの目が向いてるのは仕方ないけど、ここは信じてくれとしか言えないね。実際霊能を乗っ取られている時点で、村勝ちが薄いよ……!」

憧「状況的には、確かに晴絵のほうが怪しいとは思うけど……」

セ「言ってることも、決して間違つてはいないんやな……!」

由「もし本当に赤土さんが真なら、村が負けちゃうのよ……!」

咲「なにか、他に確証になるものさえあれば……!?!」

優「今日は赤土さん吊りだしえ!」

Q「そうやな。うちはもちろん霊能に賛成や。」

恭「まだ清水谷さんが真目の可能性もあるって思うてるんやろうけど、今回はうちも赤土さんに投票するで！」

怜「うちはどうするべきかな・・・？」

絹「どっちを信じればええんや・・・!？」

郁：残り30秒やで。

そろそろ覚悟は決まったかな？

晴「・・・私は船久保さんに投票するよ。本当に村勝ちにしたいんなら、私に乗ってちようだい。」

灼「ハルちゃんか・・・!?!それとも・・・!?!」

憧「・・・決めたわ!間違えてたら最悪だけどね!?!」

セ「俺も決めたで!ようするに2分の1で正解なんやろ!?!」

怜「まあそらそうなんやけど・・・」

咲「・・・私も、決めたよ・・・!」

郁：運命のお時間やで。

それじゃくみんな、投票したってなく♪

○投票結果

優希(0) ↓ 晴絵      咲(0) ↓ 浩子

灼(0) ↓ 浩子      憧(0) ↓ 浩子

怜(0) ↓ 晴絵      セーラ(0) ↓ 晴絵      浩子(5) ↓ 晴絵

由子(0) ↓ 浩子      恭子(0) ↓ 晴絵      絹恵(0) ↓ 晴絵      晴絵(6) ↓ 浩子

投票の結果、赤土晴絵さんは処刑されました。

晴「駄目か・・・こりやく負けちやったかな・・・」

8日目に続く・・・



清澄・阿智賀・千里山・姫松④

○8日目（昼） 犠牲 雅枝・泉・穂乃・まこ・宥・竜華

処刑 漫・久・玄・洋榎・和・晴絵

生存 優希・咲・灼・憧・怜・セーラ・浩子

由子・恭子・絹恵

平和な朝を迎えました。

雅：ついに8日目を迎えたで。

この平和は狩人GJか、はたまた狐囃みか、どっちなんやろうな・・・？

今日の会話時間は2分や。

スムーズに話し合わんと、分からんまま投票になつてまうから氣いつけや。

それでは8日目・・・

スタートや！

優「おはようだじえ！赤土さんは●、人狼だじえ！」

Q「狐やなくて人狼か・・・こりや気をつげんと、狐勝ちの可能性もあるで・・・！」  
 恭「占い結果は、新子〇や。ええ加減はつきりさせんとあかん場所やったけど、平和つてことは狐やなかったみたいやな。ならおそらく玄ちゃんは狂人で確定やろ。ほんならうち目線では、背徳欠けなら鷺森さん、江口、由子、園城寺さんの中に人狼が1匹。欠け無しならプラスで狐1匹や。」

咲「ちよつと待つてくください！みなさんに確認したいんですけど、本当に赤土さん人狼で確定でいいんですか!？」

憧「私もそれが気になる！占ってくれたのはありがたいけど、これで晴絵が真なら人狼が2匹から3匹、それに狐まで残ってるってことになる！慎重に、まずは船久保さんや末原さんを吊るべきよ！」

Q「さつきまでならともかく、今はもう却下や。狐を探さなあかんのに、うち吊るなんて無駄吊りは容認できまへん。」

恭「ちよい待ちい！宮永、お前うちを信じてくれたんとちやうんか!？」

咲「信じたいですけど・・・全部を信じることは、まだできません！」

絹「なあみんな聞いてや！今日の平和、狐囃みちやうんか!？」

由「もしそうなら、人狼には狐の位置が分かったかもしれないのよ。」

優「それなら、ぜひとも教えてほしいじえ!」

灼「複数残っているなら、COしてほしい・・・!」

怜「昨日の囁み先・・・」

セ「誰や？自分が犠牲になるいう奴はいないんか!？」

由「・・・いなさそうなのよ。」

恭「つてことは、やっぱ人狼は1匹つてことや！宮永、これでうちを信じれるな・・・

!？」

咲「それは・・・!？」

恭「なしてや!?!うちがどんだけ頑張つてると・・・」

絹「お、落ち着いてください!？」

由「恭子、落ち着くのよ!?!」

Q「ほんならグレランや！4人の中から狐を探すで!」

灼「・・・私はお勧めできない。」

セ「は？でもお前もグレーなんやで?」

優「むしろ怪しいと睨んでるじえ！」

灼「CO猫又。狐を道連れに出来ればいいけど、万が一人狼を選んでしまったら、狐の勝ち……！」

雅：残り30秒や。

急いだほうがええで？

優「だじえ〜!？」

憧「灼が猫又だったの!?!なら仕方ないから、残りの3人で……」

怜「……騙されたらあかん!CO猫又や!この瞬間に騙って来るいうことは、鷺森はんは狐の可能性が高いで!」

セ「つて怜が猫又やて〜!？」

灼「……人外が乗ってきた……！」

絹「ど、どないすんの!?!」

由「困るのよ……！」

恭「……時間があらへん!その2人の信用勝負や!!どつちかに投票しい!!」

優「ど、どつちかに投票するじえ!?!」

憧「嘘っ!?ミスったら最悪よ!」

咲「いけない・・・何だかこの流れ、凄くいやなものを感ずるよ・・・!」

雅：時間や!

各自、投票しいや!!

○投票結果

優希(0) ↓ 憧      咲(0) ↓ 灼

灼(4) ↓ 憧      憧(0) ↓ 憧

怜(6) ↓ 灼      セーラ(0) ↓ 灼      浩子(0) ↓ 憧

由子(0) ↓ 憧      恭子(0) ↓ 灼      絹恵(0) ↓ 憧

投票の結果、園城寺怜さんが処刑されました。

怜「あかん、やってもうた・・・よりによってここで吊られるとは・・・!」

船久保浩子さんの無残な死体が発見されました。

Q 「つ……園城寺先輩が猫又かいな!？」

○9日目（昼） 犠牲 雅枝・泉・穂乃・まこ・宥・竜華

浩子・絹恵

処刑 漫・久・玄・洋榎・和・晴絵・怜

生存 優希・咲・灼・憧・セーラ・由子・恭子

愛宕絹恵さんの無残な死体が発見されました。

郁：みんなおはようさくん。

とうとう9日目まで来てもうたなく。

残ってるのはたったの7人や〜。

7人つてことは、お約束の特別ルール発動やで〜!

いくのんが担当の日になって、うち嬉しいわ〜!

セ「鷺森は間違いなく人外や。これで背徳欠けならあいつが人狼で確定やけど……」

由「もし欠け無しなら、セーラも人外になるのよ……!」

セ「んなわけあるかい!」

恭「……悪いけど、これでうちは役職が全部分かるわ……!」

郁：そんじや発表するで〜?

心の準備はええか〜?

咲「……」

優「一体何が欠けてるんだじえ……!?!」

憧「もしくは、欠けてはいないかも……!」

灼「……」

郁：愛宕雅枝監督の〜役職が分かりました〜!

その役職は〜……

村人や〜!

つまり、欠けは無しやで〜!

咲「・・・やつぱり・・・!」

優「ん? 咲ちゃん、何か分かったんだじえ?」

郁: それじゃ〜始めるで〜?

今日の会話時間は2分やから、急いで話し合つてな〜?

それじゃ〜9日目・・・

スタートや〜!!

恭「おはようさん! 結果を言わしてもらうで!?! うちの占い結果はセーラ〇や!」  
由「のよっ!?!」

憧「真瀬さんが人外だったってことね・・・!?!」

由「違うのよ〜! 恭子、いったい何考えてるのよ〜!?!」

優「一応言っておくじえ! 怜先輩は〇、当然だじえ! さあ、LWはCOするべきだじえ



!

由「私は違うのよ！私は正真正銘村人なのよ！？」

セ「往生際が悪いで！」

灼「・・・待って。みんな聞いて。」

憧「へ？なに、LWCOでもすんの？」

灼「するよ。LWCO。狐も大体の目星はついてる。」

セ「鷺森、お前が人狼かい・・・！」

灼「聞いて。・・・真瀬さんは、まだ狐だとは確定してない。」

セ「はあ!？」

優「だじえ!？」

由「・・・？なんで人狼が庇ってくれるのよ？？」

灼「まだ確証はないけど、狩人に教えて欲しい。一昨日の平和、どこを守った・・・？」

恭「・・・耳を貸す必要はないで！鷺森は狐や！人狼騙って生き延びようとしとるん

や!!」

灼「教えて。私は一昨日の夜、真を消そうと思って、末原さんを噛んでる・・・！」

セ「・・・何やて!？」

優「だ、誰だじえ狩人!？」

憧「……CO無し……?ってことは……!?!」

咲「……絹恵さん、だね……!」

灼「……嘘……狐か確かめたくて、噛んじやった……!?!」

咲「……末原さん、はつきり答えてください。」

恭「……」

咲「……あなたが、狐なんですわね……!?!」

セ「な……!?!」

優「そんな……!?!」

憧「嘘……完全に信じちゃってた……!?!」

恭「……違うで。COLWや。仲間は洋榎、原村、それに赤土さんや。狐は鷺森や……

!」

由「恭子……!?!」

灼「違う。その3人は、私の仲間……!」

郁「30秒前やで。」

結果がどうなるのか、楽しみやなく?

咲「……私は、末原さんに投票します……！」

恭「……宮永……」

灼「……私か末原さんに投票して。もう勝ち目もないし、村に勝ちを上げる……」

憧「灼……!？」

優「……これで本当に末原先輩がLWだったら、恨むどころじゃすまないじえく!!」

セ「これは……！」

由「……まさかの二度目の天王山なのよ……」

郁：時間やで。

さあ、投票や〜！

### ○投票結果

優希(0) ↓ 恭子      咲(0) ↓ 恭子

灼(1) ↓ 恭子      憧(0) ↓ 恭子

セーラ(0) ↓ 恭子    由子(0) ↓ 恭子    恭子(6) ↓ 灼

投票の結果、末原恭子さんが処刑されました。

恭「……まあ仕方ないな。ここまで残ったんやから、もうじゆうぶんやろ……」

○10日目（昼） 犠牲 雅枝・泉・穂乃・まこ・宥・竜華

浩子・絹恵・セーラ

処刑 漫・久・玄・洋榎・和・晴絵

怜・恭子

生存 優希・咲・灼・憧・由子

江口セーラさんの無残な死体が発見されました。

雅：ついに10日目に突入や。

残り5人にまで減つてもうたけど、今日で決着はつくんかな？

会話時間はたったの1分や。

お喋りはご法度やで！

それじゃあ10日目、スタートや！

灼「とりあえず聞いて。私は明日吊つていいから、今日は宮永さんか真瀬さんを吊らせてほしい。」

優「ん？何でだじえ？」

灼「昨日の江口さん噛みで気づいてもらえるかもしれないけど、もし末原さんが狐じゃなくて背徳者だった場合、狐はまだ残ってる。狩人が末原さんを守ってたかも分からないし、その場合、残る候補はその2人。」

憧「そつか・・・確かにその可能性もあるのね・・・！」

由「気づかなかったのよ〜！」

優「なら、今日はどつちか吊つて、明日鷲森先輩を吊ればいいじえ！」

咲「・・・人狼の意見に、ずいぶんと好意的なんだね？優希ちゃん・・・！」

優「へ？」

憧「咲・・・？」

咲「確かに清水谷先輩が真なら、それでもいいよ？でも末原さんが人外だったつてことは、人狼が騙ってるだけで、赤土さんが真の可能性もあるんだからね・・・！」

由「・・・その通りなのよ〜!？」

憧「嘘・・・確かにそれってありえるじゃん!?その場合人狼つて・・・！」

灼「違・・・！」

優 「わ、私は人狼じゃないじゃえ!？」

咲 「欠けはないみたいだけど、上重さんが霊能の可能性だつてあるんだよ!？」

雅：残り10秒や!!

憧 「嘘っ!? 早っ!!」

咲 「安全策をとつてる暇なんてないんだよ!ここで身内に投票させるのが、人狼の必勝の策なんだよ! 私たちが勝つためには、確定の鷺森さんはもう吊るしかないの!」

優 「でも・・・!」

由 「・・・まさかの3度目のよう・・・」

灼 「何で信じてくれな・・・もしかして、宮永さん・・・!？」

雅：そこまでや!

各自、投票しい!!

○投票結果

優希(0) ↓ 咲 咲(2) ↓ 灼

灼(3) ↓ 咲 憧(0) ↓ 灼 由(0) ↓ 灼  
投票の結果、鷺森灼さんは処刑されました。

灼「そんな・・・!?」

この瞬間、人狼は全て処刑されました。

ですが残念なことに、この中には狐が残っていたようです。

おめでとうございます！今回は狐陣営の勝利です!!

憧「・・・ふきゅ!?」

由「……のよう。」

優「……だじえ。」

灼「やっぱり……！」

咲「……はあ……疲れた……。」

恭「やったやないか宮永！お前ならやれるって信じてたで!!」

泉「ほんまですわ！私ほんまに何もしてまへんけど、見ていて痺れましたわ！」

咲「あはは……でも、末原さんには本当に助けられました。」

宮永咲・二条泉（狐） 末原恭子（背徳者）

晴「やられたね……」

灼「ごめ……勝ちの目が見えないから、せめて村勝ちにしようとしたけど、最後に持ったかれた……！」

洋「仕方あらへんって。ありやほんまもんのペテン師やで。」

和「咲さんの悪口は許しません！」

玄「うう……何でくじ引きで、3連続狂人なの……!?!」

赤土晴絵・鷺森灼・愛宕洋榎・原村和（人狼） 松実玄（狂人）



久「しくったわね・・・まさか咲が、よりにもよって狐だったなんて・・・！」

宥「久のフラインプレーがかすれちゃったよ・・・」

竜「うう、なして誰もうちを信じてくれんの？」

優「・・・す、すまぬだじえ・・・！」

絹「大戦犯はうちやで・・・末原先輩が真やと思ひ込んで、護衛してもうた・・・！」

怜「しゃらないって。うちも傍目には末原はんが真目に見えとったしなく。」

竜「せやからうちは!？」

怜「個人的には信じてたで？でもあんまメタな憶測は出来んからなく。」

竹井久・松実宥（共有） 清水谷竜華（占い師） 片岡優希（霊能）

愛宕絹恵（狩人） 園城寺怜（猫又）

セ「何で最後の最後で俺を嘔むねんって思ったんやけど、まだ狐の可能性が残ってたんやなく。」

Q「こりや完全にしてやられましたわ。清澄さんとこの、要チエックしとかんと・・・！」

由「最後まで残れたけど、間違えたうえに、ほとんど何も出来なかったのよ・・・。」

漫「ええやないですか。本当にちよつとだけ喋って終わってもうた、うちに比べれば……」

穩「咲が狐だったの!?全然分かんなかったんだけど!」

憧「……だからなんで素直に信じちゃうかな、私。最後にああいうことしてきたら、間違いなく心理戦仕掛けてきてるんだって分かったはずなのに……!」

ま「仕方ないわ。末原さんが人外なら赤土さん真の目が戻つとつたし、もしそうなら優希と鷺森はんが人狼なのは確実じゃつたしな。」

江口セーラ・船久保浩子・真瀬由子・上重漫・高鴨穩乃・新子憧・染谷まこ（村人）

泉「初日はがっかりどころやなかったですわ!これで私もちゃんと参加できる思うて咲と話しとつたら、監督来て『お前占われたで?』ですよ!?!ほんま泣くかと思いましたが!」

竜「ご、ごめんなく?泉のためを思って占つたんやけど、まさかいきなり狐やとは思わなくて……」

恭「正直勘弁してくれ思つたわ。勝たせなあかん2人の片割れが、始まる前に脱落するとは思わへんかつたわ。」

晴「占つた理由を即興で考えたけど、どうやらまんまその通りだったみたいだしね。

皆と話しながら、必死に理由を作ってたよ。」

灼「さすがはハルちゃん・・・！」

怜「うちは何とか人狼に噛んでもらえへんか思ってた初日に遊んでみたけど、むしろ吊られそうになってもうたし・・・猫又つてつらいなあ・・・。」

セ「あれはさすがに怪しすぎたで？」

恭「竹井さんがおらんかったら、園城寺に投票するところやったわ。」

Q「・・・でも鷺森はんが人狼やったつてことは、清水谷先輩が噛まれたんは、やっぱり鷺森はんを怪しんでたからですか？」

和「清水谷さんの話を聞きながら、心臓が破裂するかと思いました。まさか最後の仲間の位置まで見抜かれるとは思っていなかったの・・・。」

晴「私に擦り寄ることで、逆に露骨過ぎて違うだろうって思わせたかったんだけど：清水谷さんから灼の名前が出た時点で、勝ちの目は消えてたね。」

灼「末原さんよりも、やっぱり清水谷さんが真目に見えたから・・・。」

晴「清水谷さんを噛んだときは、彼女が狐であることを願ってたんだけどね。そして私が人狼COして、少しでも灼から目をそらすつもりだったんだけど・・・。」

恭「・・・うちもあんどき清水谷さんが噛まれた知ったとき、心ん中で人狼GJ！つて思うてたしな。」

咲「あはは・・・あ、私占われたかなって覚悟してました・・・。」

竜「うう・・・でもあんとき、灼ちゃんが●やいうんは占って分かってたんやで!?!せ  
やから咲ちゃんは次の日に占おう思ってたのに・・・。」

灼「・・・やつぱり、ばれてた・・・!?!」

Q「占う順番が逆でしたら、村勝ちになつてたでしような・・・。」

セ「・・・良かったな竜華。お前のおかげで人狼の勝ちの目は消えてたみたいやで?」

竜「ほ、ほんまか!?! 怜!?! うち頑張つたで!?!」

怜「あゝ・・・よしよし。」

竜「く♪」

洋「・・・っていうか、だいたい何やねんあのえげつない策は!?!いきなりあんなんさ  
れたら、実力の半分も出せへんわ!?!」

久「あら。実力の半分も出させなかつたっていうなら、あれは大成功だつたつてこと  
ね。洋榎が敵対してるなんて、ぞつとするとどころじやないもの。」

洋「せやろ!?!せやから次やつたら、うちの実力ちゃんと見せたるからな!?!」

久「期待してるわ♪」

絹「・・・あかん。お姉ちゃんがええように転がされとる・・・!」

由「単純なのよ。」

ま「全くあいつは……」

穩「惜しかったな。もう少しで村勝利になったのに……!?」

優「全くだじえ。咲ちゃんにはしてやられたじえ!」

和「ですが、さすがは咲さんです。最後のあのプレイ、もしあの場に私がいたら、私も鷲森さんに投票してしまうかもしれませぬ……!」

漫「いや、それはあかんやろ……!?」

優「和ちゃんだから仕方ないじえ!」

憧「和だしね。」

穩「昔はこんなんじゃないやなかったんだけどな。……?」

漫「清澄はんって……!?」

由「清澄はとんでもないのよ……」

宥「……でも、本当に玄ちゃんが狂人だったんだね。さすがに3回は無いと思ってたから、てつきり人狼かと思ってたよ……?」

玄「一番驚いてるのは私だよ! たまには狩人とかやってみたかったです!」

憧「最も任せたくない役職ね。」

灼「信頼できな……」

絹「狩人欠けを疑うんやな?」

宥「CO〓騙りだね。」

玄「」

咲「・・・でも、本当に助かりましたよ。私を占ってきたから、真ではないことはすぐに分かりましたけど、それが背徳なのか狂人なのか、もしくは人狼なのか最後まで判別出来ませんでしたから・・・」

恭「こっちは結構アピールしたつもりやったんやで？私を信じてくれ〜って、むしろ露骨過ぎて周りにばれんか心配なぐらいやったで。」

由「・・・それは心配なかつたのよ〜。」

恭「ん？なんでや？」

咲「・・・その、素でアピールしてきたのかと思つたので・・・」

恭「」

怜「まあ泉も、とりあえず勝ち星はゲットしたわけやし、まだマシなんちやう？」

泉「私、ほんまになんもしてないんですけどね・・・」

セ「せやけど、まともに参加した俺や竜華は勝ち星無しや。どっこいどっこいなんちやうか？」

泉「まあ仕方ありまへん。次の機会にでも頑張らせてもらいますわ。」

竜「泉も占い師になって頑張るんや！」

Q 「まあ機会があるかどうかは分からんけどな。」  
泉 「ですよねく……」

郁：みんなお疲れ様やく。楽しかったく？

久 「最後にまた負けちゃったけど、まあじゆうぶんに楽しめたわね。」  
宥 「友達がいっぱい増えて、あつたかくい……！」

雅：そら良かったな。

Q 「監督もありがとうございます。……つて、いつまで撮ってるんです？もうゲームは終わりましたで？」

郁：ゲーム後のひと時くってやつやな。

ま「……ん？」

憧「……ねえ、何か私、嫌な予感してきたんだけど……？」

怜「……見えるで。うちには最悪な未来がな……」  
恭「……代行？まさか……!?」

郁：動画のランキングもぐいぐい上がつとるで♪  
やっぱインハイ出場者のゲームは、関心が違うな♪

漫「」

泉「」

由「……のよ……」

晴「うわ……私なんにも聞いてないからね……?」

咲「……全国に流れちゃったの……!?」

久「……やってくれるわね……!?」

宥「……あつたかかない……!」

玄「お姉ちゃん!?!」

雅：ほなそろそろ中継終わるで。

郁：見てくれとつた人、どうもありがとな♪



洋「ちよ、どういうこつちや!？」

絹「いくらおかんでも、うちかて怒るで!？」

お詫びに今日の晩飯はから揚げにしたるわ。

ほんまか!?! よつしや〜!

お姉ちゃん・・・

ブツン・・・

「・・・ねえこれ!見た見た〜!？」

「どれ?・・・これ、インターハイの・・・?」

「そう!あの時の高校生たち!」

「へ〜・・・」

「今度テレビ局で企画を立ち上げるんだけど、これ通らないかな!？」

「これって・・・人狼ゲーム？」

「そう！全国から参加高を募って、みんなで遊ぶの！」

「遊ぶって・・・さすがに無理なんじゃない？クイズ番組じゃないから勝敗とかもつけづらいだろうし、視聴率とれないんじゃないかな・・・？」

「まあそうかもしれないけど、もし通ったら、また相方よろしくね!？」

「まあ考えてはおくよ・・・」

続く・・・？

清澄・阿智賀・千里山・姫松（犠牲者たちの集い）

○2日目（昼） 泉

泉「わくい。私一人でこの部屋貸切やう。」

泉「・・・」

泉「はあ・・・なしてこないなことになつとるんやろ・・・?」

泉「狐の相方は分かつとるけど、私を占つた阿呆はどこどいつやん・・・!?」

泉「こうなつたら、うちが先に人狼を全部見つけたる・・・!」

泉「お・・・占いCO・・・」

泉「・・・つてなにやつとるんですか、園城寺先輩・・・?」

泉「あの人インハイ終わつてから、やけにはつちやけとるからなく。」

泉「でもあの面子で、松実さんが私を占うんか?ほかの3人はありそうやけど・・・」

泉「・・・つて竹井さんなに言うとるんですか!」

泉「いきなり占い口ラつて・・・狂人?それともまさかの人狼・・・!」

泉「いつたい、今度はなにを考えてるんや・・・!？」

泉「・・・」

泉「・・・はたから見たら、ただの危ない奴やな、私・・・」

○3日目(昼) 泉・慢・穩乃

穩「いきなり噛まれた〜!？」

漫「残念やったな。でも全然喋れんかった私に比べれば、まだマシやん？」

泉「・・・それ、こつち見て言ってもらえませんか？」

穩「」

漫「・・・ごめん。」

泉「・・・まあええんですけどね。最初から分かってたことですし。」

穩「あ、やっぱり分かってたんだ？」

泉「それそうや。隠しても意味ないから言うてまうけど、狐の控え部屋に監督が来た思うたら、『お前占われたで?』ですわ。相方の前やなかつたら泣いてましたで・・・!」

漫「ハハ・・・ちなみに、その相方うちゆうんは・・・?」

泉「それはさすがに秘密ですわ。・・・それより、お2人はどう思います? 實際目の

前で見てきた感想は？」

穩「・・・なんか、らしくないって感じがしたな。そりや、私は竹井さんとそんなに親しくもないけど、でも・・・」

漫「うちもおかしく感じたわ。今占いの結果を言うてますけど、案外背徳者だったりするんちゃう？ 泉がおらんって焦つとるとか・・・」

泉「そのぐらいで動揺する人には見えんのやけどな・・・」

穩「うう・・・分かんない！」

漫「同じくや。」

泉「霊能COをここで求めましたな・・・まあ、確かに知らんうちに消えられとるほうが怖いですし・・・」

穩「そうすると優希か・・・」

漫「うちの主将やな。」

泉「・・・実は上重さんなんちゃいます？」

穩「あっ!？」

漫「いやいや、うちは違いますわ。つていうても、最後までは分かりませんがどな？」

泉「それで、今日の結果は・・・ああ、やっぱり竹井さん吊るみたいやな。」

漫「まああんな危なっかしい人、あの場に残すんは危険ですし・・・」

穩「・・・あの、ちよつといいですか？」

泉「ん？どないしたん？」

穩「竹井さん・・・吊られるんですよ？」

漫「まあ確実やろうな。反対する人もおらんみたいやし・・・」

穩「つてことは・・・来るんですよ？ここに。」

泉「・・・」

漫「・・・」

穩「・・・」

泉「私ちよつとジュース買ってきますわ。お2人はなに飲みます？」

漫「いや、こう見えてうちが先輩や。うちがおごつたる。」

穩「しまった！私お金持ってない!？」

泉「いや、ここは後輩の私が・・・」

漫「先輩のう치가やな・・・」

穩「えつと・・・ちよつと山に行つてくる!」

泉&漫「待たんかい!？」

○4日目(昼) 泉・漫・穩乃・久・まこ

久「全く・・・あんなの演技に決まってるでしょ？だからそんなに怯えないでよ。」

泉「ほ、ほんまですか・・・!?」

穩「嘯み付きません・・・!?」

漫「落書きしまへん・・・!?」

久「しないっての・・・っていうか、何で落書きなの？」

漫「その、色々ありまして・・・」

ま「・・・にしても、やっぱり演技じやったんじやな。で、何であんな演技したんじや  
？」

久「決まってるじゃない。人外を見つげるためよ？」

穩「竹井さんが人外に見えるんですけど・・・？」

久「そう思われてるっていうんなら、演技した甲斐があるってもんね。」

ま「・・・ん？どういことじや？」

漫「あ・・・でも、主将が●出しましたよ？」

泉「やっぱり人狼なんじや・・・？」

久「ラッキー！まさか本当に2人も吊れるなんて思わなかったわ！」

ま「ちよい待たんかい。だからどういことじや!？」

久「だから、玄ちゃんと洋榎が人外ってことよ。」

穩「でも、それを信じる人つていますかね・・・？」

久「いるわよ。宥は私の相方だもの。」

泉「・・・はあ!!」

漫「まじですか!？」

久「大マジよ。・・・ほら、宥が2人を吊り指定したでしょ？」

ま「ほんまじゃ・・・!？」

穩「嘘お・・・」

久「霊能が両方○だったら死に損だったけど、どうやら欲張ったみたいね。確かに私を人狼にすれば村人の位置を奪えるけど、そもそも私は共有なんだから、無理な話なのよ。」

ま「お前さん・・・もう少し素直なプレイングはできんのか？」

久「ありがとう♪」

ま「褒めとらんわい・・・!」

泉「騙されましたわ・・・松実さんを騙りやいうてたから、竹井さんが共有の可能性なんてちつとも考えへんかった・・・!」

漫「こんなんすぐ見抜けるほうがおかしいわ。・・・今度は、船久保さんが●出され



ましたな。」

泉「つてあの人またですか!？」

穩「でも、今度はどうなんだろう?赤土先生が真なら、確かに決まりなんだけど……」

ま「……ちなみに、お前さんの目にはどう映つとるんじや?残つた3人は。」

久「……勝手なイメージでしかないけど、真の可能性は3人ともイーブン。でも、清

水谷さんは真じゃなければ人狼だと思っうわ。」

漫「そらまた何ですか?」

久「勝手なイメージよ。あの子、根本的に嘘がつけなさそうじゃない?」

泉「……確かに、清水谷先輩は少し正直すぎるところが……」

ま「お前さんとは真逆ということじゃな。」

久「……だから真じゃなかったとしたら、仲間のいる人狼だと思っうのよ。仲間に指しをもらつてそれをこなしているんだと思っうわ。だから残り少なくなつて、もし彼女が人狼だとしたら……一気に崩れるかもね。」

穩「うわ……そんなこと、考えもしなかつた……!？」

漫「見てるところがちやう……!」

ま「確かに清水谷さんが狂人なんかやろうもんなら、しつちやかめつちやかになりそ  
うじゃな……。」

久「まあ、今日はとりあえず保留でいいでしょ。吊る人物が明日まで確定してるんだから。」

泉「それまでに、占いの真偽をつけることができるかもしれないしね．．．！」

ま「．．．ん？お前さんに投票してる中に．．．？」

穩「確かに、和とかは投票してたけど．．．」

漫「そこまで読んどるんですか!? 適わんなあ．．．」

久「．．．言つてないわね。」

泉「．．．え？」

久「あれ、私が言つたつて言ってるけど、私は一言もそんなこと言つてないわよ．．．？」

ま「．．．ほんまか？ここまできて嘘はええんじやぞ？」

久「本当だつての．．．彼女のの中では、あれが引つかかつてること？それとも別の何か．．．？」

穩「じゃああれは、本当に宥さんの．．．!?」

漫「ど、どうなつちやうんや、このゲーム．．．!?」

○5日目（昼） 泉・漫・穩乃・ま・久

玄「来るのです・・・お姉ちゃんがやってくるのです・・・!?」

ま「今回は大丈夫みたいじゃがのう。こりや姉さんを守ったんか？」

久「もしくは優希でしょうね。」

穩「平和な朝がやってきた〜！狩人さん、GJで〜す！」

漫「実質2分の1を当てたんやな。こりや大きいですわ〜。」

泉「私としては、平和無しにさっさと終わってほしいんですけどね。」

ま「まあお前さんとしてはそうじゃろうな。」

穩「人狼が勝利条件を決めれば、狐の勝利になっちゃうからですよね!？」

久「そういうこと。洋榎がわめてたけど、実際今日狐を噛んだら申告してもらいたいわね。」

漫「でも主将もなにも言ってますし、やっぱGJですかね？」

泉「まだ主将さんが人狼とは決まってますんで？確定してるのは人外ってだけです。」

漫「あ、そやった・・・」

久「・・・あら？洋榎が玄ちゃんに●を出したわね。」

ま「何がしたいんじゃ・・・」

玄「むっ！ここにきて私を裏切るなんて、愛宕さんは酷いのです！」

久「いやいや・・・でも洋樓、人外としては立派に勤めをはたしてゐるわね。」

穩「それってどういうことですか？」

久「彼女が喋つてゐるせいで、さつきから話が微妙に脱線してゐるでしょう？まあ人外露出しちやつてゐるからなのかもしれないけど、見事に無駄な時間を使つてゐるわ。」

ま「全く・・・面倒なお人じゃ・・・！」

漫「あはは・・・」

泉「・・・原村がパンダになりましたで!？」

穩「本当だ!？つてことは・・・!？」

久「片方は船久保さんに●をだした赤土さんね。これなら、和を先に吊つて真偽をつけられるわ。」

玄「でも、真は末原さんかもしれないのです!」

久「もう占い師じゃなくていいの？」

玄「相方に裏切られた共有だったのです!」

久「新ジャンルね・・・ゲームとしては破綻もいところだけど。まあ末原さんが真だとしても、とりあえず真偽はつけられるわ。あの2人の真偽を確かめて、残ったほうと末原さんを真偽すればいいの。もつとも・・・」

ま「吊りに余裕があれば、じゃな。」

久「そういうこと。少しでも危険だと感じたら、占いの決め打ちが必要になるわ。それこそ間違えてでもね。」

漫「うちとしては、やっぱり末原先輩を信じたいとこですけど、そういうわけにもいかんしな〜」

穩「う〜ん・・・難しい！分かんない！」

玄「全くなのです！」

久「考えなさいっての。・・・それにしても、もう少ししたらここに洋榎が来るのよね・・・？」

ま「そうじゃな。どうかしたんか？」

久「ちよつと連絡をね。」

○6日目（昼） 泉・漫・穩乃・久・まこ・玄・洋榎・宥

宥「・・・」

玄「」

洋「・・・ありや何や？」

久「姉妹のスキンシップよ。あなたも絹恵ちゃんとしなの？スキンシップ。」

洋「あれがか!?! なんや玄ちゃんか蛇に睨まれた蛙みたいになつとるで!!」

久「そういうのもあるつてことよ。それより・・宥? 私もあなたに聞きたいことがあるんだけどな〜?」

宥「あ・・・その、勝手に名前を使つちやつたことですよね・・?」

洋「・・・どういうこつちや?」

ま「まあいろいろあるんじや。」

漫「にしても、主将は人狼やつたんですね。見てビックリしましたわ。」

洋「そうやろ〜? ほんまはもうちよい滅茶苦茶にしてやりたかつたんやけど、見事にやられてもうたからなく。まあうちの実力は、次回のお楽しみつてことや!」

泉「にしても、今日は原村を吊るんで確定としても、また全員○判定ですね・・。」  
穩「仕方ないんじやない? 人狼の数も決まつてるんだし。」

泉「まあそりやそうやけど、ここまで結構●が出つたから、今日も楽しみにしてたんやけど・・。」

宥「・・・二条さんとしては、早く人狼を吊りたいからだよな?」

泉「あ、戻ってきたんですか。・・: まあ本音をいえばそうですわ。ここまで村人ペー  
スできとるし、そんなら私の相方見つかる前に、全部吊つてほしいとこですわ。」

久「もし全部見つかつたとしても、1匹は飼われて終わりよ?」

宥「あ、たけ・・・久も、こっちに來たんだね？」

久「いけない？宥の近くに來ちや・・・？」

宥「え、えつと・・・」

玄「む！お姉ちゃんから離れるのです！」

ま「つていうか、いつのまに名前呼びになつとるんじや・・・？」

久「さつきね。勝手に私の名前を使ったんだから、今度から私のことは呼び捨てで呼ぶように、つて。」

ま「ほんまにお前は・・・」

穩「それより、飼うつてどういうことですか？」

洋「人狼を一匹、吊らずに置いておくことやな。狐対策の一つや。」

久「人狼を全部吊つたら、狐の勝利になつちやうからね。そうならないように、確実に狐が消えたつて分かるまで人狼を置いておくのよ。」

漫「それで、狐がいなくなつたら人狼を吊つて終わりつて寸法やな。」

宥「あまりあつたかくないよね・・・」

久「仕方ないわよ。勝つためには、使えるものは何でも使わなくちゃね。」

泉「まあ実際そうなつてまうんかな。・・・そろそろ時間ですね。」

玄「今日吊られるのは和ちやんだね！」

洋「どうなのか楽しみやな！」

○7日目（昼） 泉・漫・穩乃・久・まこ・玄・洋榎・宥・和・竜華

和「ですから！なんで私に●をつけた清水谷さんが噛まれてるんですか!？」

竜「原村さんは間違いなく●や！ばれたからうちが噛まれたんや！」

ま「・・・どっかで見た光景じゃな。主に2ゲーム位前に。」

穩「どう思います？」

漫「普通に考えると、原村さん●で、清水谷さんが真だと思うんやけど・・・」

泉「普通にそん読んで、人狼の思うがままってこともあるわけやし・・・」

久「赤土さんが真だった場合、優希が見事に霊能を乗っ取ってるってことなのよね・・・」

宥「そうなると、確かに村の勝ち目はなくなっちゃうよ・・・?」

玄「どっちが真なのか、全く見分けがつかないのです・・・!」

竜「せやから真はうちや！なんで噛まれんで残つとるほうを真にするん!？」

和「事実だからです。」

竜「原村さんなんか嫌いや〜！」



久「……さすがに決め打ちをするみたいね。」

洋「對抗の恭子やなくて、浩子を指定してくるあたりが嫌らしいわ。」

泉「そろそろ流れも決まりそうですね……！」

漫「ちなみに、狐の相方は……？」

泉「言いまへん！」

穩「ちえ。」

○8日目（夜） 泉・漫・穩乃・久・まこ・玄・洋榎・宥・和・竜華

晴絵

晴「やれやれ……微妙に競り負けちゃったね……。」

和「残念です。鷺森さんや咲さんは真実に気づいたというのに……！」

久「つていつても、まだ赤土さん人狼の目は消えてないのよ？もちろん真目も残ってるんだけど……。」

竜「……真はうちやく……。」

晴「……あれ、どうしたの？」

和「誰も信じてくれないので、いじけてるみたいですね。」

泉「・・・ほら先輩、元気出したってください。私は信じてもええですから。」

竜「い、泉は信じてくれるんか!？」

泉「ええですよ？私を初日から呪殺しよった占い師、清水谷先輩やったんですか？」

竜「・・・ちよ、ちよい考えさせてや・・・」

晴「・・・なんにしても、狐は誰なんだ？やはり末原さんか・・・？」

久「その可能性も高いけど、人狼や背徳者って可能性もあるのよね・・・」

宥「なんにしても、ここまできたら末原さんを真と信じるしか・・・」

玄「それも微妙なのです！」

洋「ほんまやで。・・・って、鷺森が猫又COしたで？」

晴「灼、猫又だったのか・・・？」

和「猫又だとしたら、もう少し推理に参加して、人狼に噛まれてほしかったのです

が・・・」

穩「だよね。・・・って、対抗が出た〜!？」

竜「怜が!？」

漫「園城寺さんは鷺森さんを狐や言うてるけど・・・!?」

久「・・・やばいわね。これ外すと痛いかも・・・!?」

泉「ドキドキしますわ・・・！」

○9日目（昼） 泉・漫・穩乃・久・まこ・玄・洋榎・宥・和・竜華

晴絵・怜・浩子・絹恵

穩「一気に増えたね……！」

Q「選択間違えましたからな……！ てつきり後出しの園城寺先輩が騙りや思うたんですが、痛恨のミスですわ……！」

久「……いや、案外そうでもないみたいよ？」

絹「……え？ 鷺森さんがLWやて!？」

洋「狐じゃなかったん!？」

漫「ほんなら、もし鷺森さんが吊られてもうてたら……！」

宥「……狐勝ち……!？」

晴「……こうなると、やはり末原さんは……！」

久「……したわね、対抗CO。でも……」

玄「狐は末原さんだよ！ ついに正体を現したのです！」

絹「でもこれで、人外が全部分かったで!？」

ま「そうならええんじゃけど……！」

宥「え、違うの……?」

久「……分らない?宥。もし、赤土さんが真だとしたら……!」

怜「……なんてことや……人狼が2人も残ってるっていうことやな……!」

竜「せやからうちが真く……」

Q「そんなわけありまへん!あとは末原さん吊つて、鷺森さん吊れば終了です!」

穩「どうなっちゃうの……!」

泉「……」

○10日目(昼) 泉・漫・穩乃・久・まこ・玄・洋榎・宥・和・竜華

晴絵・怜・浩子・絹恵・恭子・セーラ

恭「あとちよつとやったんやけどな……」

セ「ほんまやで!危うく騙されるとこだったわ!」

絹「でもこれで、あとは鷺森さん吊ればええだけやね……?」

Q「そのはずですわ。」

晴「……この際だから聞いちやうけど、末原さんは本当に狐かい?」

穩「え?違うんですか?」

恭「もちろんですわ。これで村勝ちですな。」

久「・・・やっぱり、どうにも引つかかっているのよね・・・」

宥「やっぱり、赤土さんが真なんじゃ・・・？」

漫「・・・って、鷺森さんがほんまに吊り稼ぎしとりますよ!?!」

ま「いかん!そんならほんまに優希が・・・!?!」

絹「ありえへん!そこはもう吊らんと!?!」

和「ここで鷺森さんが吊られれば・・・!」

洋「ああ・・・!」

穩「・・・咲が気づいたろ!」

恭「・・・気づいたようやな、宮永・・・!」

久「気づいてくれたわね・・・!」

宥「よかった・・・これで・・・!」

玄「残念なのです・・・」

泉「・・・ほんまにさすがですわ・・・!」

恭「・・・ああ、さすが宮永や・・・!」

泉「末原さんも、ナイス演技でしたわ・・・!」

恭「これで、うちの勝ちやな・・・!」

一同「……え？」

ゲームは終了いたしました。

## 清澄去りし後

『うちはそれほど部費もらってるわけじゃないし、さすがに泊まりはね。そちらのご好意に甘えてばかりもいけないし、予定通り帰らせてもらうわ?』

『できれば観光とかもしたいところじゃが・・・まあ、それは後日の楽しみじゃな。』

『それでは帰りますね? 穩乃たちも、体調にはじゆうぶんに気をつけてください。』

『今度会ったときには、絶対負けないじえ〜!』

『・・・それじゃあ、また今度ね? 末原さんたちも、また会えるのを楽しみにしています。今日は、本当にありがとうございました・・・!』

「・・・宮永・・・」

夕闇が辺りをつつむこの時間。

場所は松実館の一室に、1人黄昏る少女の姿があつた。

「・・・末原先輩、清澄の人らが帰ってから元氣無くなつちやいましたね・・・?」

「仕方ないのよ。本当は、もうちよつとお喋りしたかったはずなのよ。」  
「全く・・・意地張つとるんからあなるんや。」

「末原先輩・・・」

本来は日帰りの予定で来ていた一同であったが、せつかくのこの機会、もつと親睦を深め合おうと宿泊することが提案された。

それをすぐさま了承したのは姫松と千里山。

元々が麻雀の強豪校であり、かなりの額の部費を残しているこの2校にとっては、突如の宿泊も決して不可能ではなかった。

「でも夕食食べ終わつた後に打つた麻雀でも、先輩振り込んでばかりやったし・・・」  
「自動卓があつたのは嬉しかったのよ。」

「まあ松実姉妹の実家やしな。むしろあつて当然やろ。」

「末原先輩・・・」

だが、清澄だけはそういうわけにもいかなかった。

今年こそインターハイに出場し、全国から脚光を浴びるだけの活躍を見せた彼女たちではあるが、去年までは弱小どころか、その存続すらも危ぶまれていたというのがその実態。

当然部費もわずかなものしか支給されておらず、それさえもインターハイで東京に



行つた際にかんりの額が消えている。

今回の練習試合とて、日帰りだからこそ何とか実現できたというのが、その現状だったのだ。

「やっぱり心配ですわ。何とか元氣出してもらえんでしょうか・・・?」

「こればかりは本人に任せるしかないのよ。周りがごちゃごちゃ言つても、逆効果になるのよ。」

「その通りやで、絹。恭子かて子供やないんや。ちゃんと自分で解決するに決まつてる。」

「末原先輩・・・」

姫松の赤坂代行と千里山の愛宕監督は、清澄のそんな現状を憂い、なんなら自分たちのポケットマネーから出してもいいと提案する。

それが心苦しいなら、貸しても構わないとさえ言うが・・・清澄の一同はそれを拒否。ただ静かに、長野の地へと帰つていったのである。

来年からは部費も増額間違い無しであろうが、今年はまだ切り詰めていかななくてはいけない。

必要以上の贅沢を、するわけにはいかない。

所詮は一弱小校というその現実を、一同にその重みをひしひしと感じさせることと

なった……。

「失礼いたします。お布団のほうをご用意しに参りました。」

「え? ……つて、松実さんが用意してくれるんですか!？」

「悪いのよ。それは自分たちでやるからいいのよ。」

「うん。お父さんが格安でいいとは言ってくれたけど、それでもお代をいただきます。ちやつてるから……」

なお宿泊先として名が挙がったのは松実館で、確か数室の空きがあつたはずと松実姉妹が手配してくれた。

館長である姉妹の父も、そういうことならと格安でのプランを用意。

ただひたすらに頭を下げる大人2名をよそに、やれ温泉だやれ麻雀だ、しまいにや飯は唐揚げやと、生徒たちは存分にこの機を楽しんでいた。

「……そういえば、さつき高嶋が来とつたよな? あいつらはもう家に帰つたんちゃうんか?」

「うん。そのことも伝えに来たの。」

旅館に飯のおかずを要求し、見事それを成功するという快挙をなしとげた洋榎が、頭に出来たたんこぶをさすりながらも首をひねる。

顔を真っ赤にした母親によって作られたそれは、すでに結構な時間が経つというのに

いまだに若干の熱を持っていた。

「さつき穩乃ちゃんが、明日も阿智賀で遊ばないか？つて言ってくれたの。今度は動画とか無しで、あくまで阿智賀の関係者だけで楽しもうって……」

「賛成なのよ。それなら、私も今度は頑張るのよ。」

「うちですわ。今度こそ戦犯にならんよう頑張ります！」

「もちろんうちかて大賛成や！……おい恭子、聞こえとつたか!？」

「……ああ、聞こえとるで。」

窓際で外を見続けていた少女が、ゆっくりとした動作で皆に振り向く。

その瞳にあるのは、決して先ほどまでのような力無き光ではなく……

「……ほんなら、またうちが勝たせてもらいましょか。姫松の参謀の力、はつきりと見せ付けてやりますわ……!」

ただ勝利のみを求める、貪欲なまでの炎。

それが、彼女の瞳にははつきりと映し出されていた。

「ふっ……!普段はすかしとるくせに、勝負事となると途端に別人やな。それでこそ恭子や……!」

「なら明日に向けて、たっぷり英気を養うのよ。」

「もちろんですわ!明日こそうちが大活躍や!」

「末原先輩……！」

「なんだか、とつてもあつたか……♪」

「（……見とつてや、宮永。たとえお前がおらんでも、うちは負けへんで……！）」

少女たちの決意が、阿智賀の夜を照らす。

決戦の火蓋は、明日切られる——！

### ○その頃の原村邸

「よし！これで上がりだじえ〜!?」

「優希、それダウトです。めくつて下さい。」

「じえ〜!?!」

「やつぱりですか。そんな簡単に上がれるとは思わないでくださいね?」

「じゃあ、私がこれで上がりね。一抜け確定つと……」

「部長？ すいませんけど、それダウトです。」

「うぐ．．．本当に、もう少し年長者っていうものを．．．!」

「代わりに、私上がりですね。一抜けです。」

「咲ちゃん！ それ絶対ダウトだじえ〜!」

「残念だけど本当だよ？ ね？」

「じえ〜〜〜!?!」

「．．．いかん。咲が上がりてしもうた．．．」

「．．．これ、人数減ると無理ゲーになるわよね．．．」

「やろうって言い出したのは部長ですからね？ ちゃんと勝負がつくまで、最後まで付き

合っていたいただきますよ。」

「絶対終わらないじえ〜．．．」

「じゃあ私、あつちで本読んでよう〜つと♪」

それなりに、清澄の面子も楽しんでいたらしい。

続  
く  
．  
．  
．

## 千里山・姫松①

雅：準備も出来たし、ほなさつそく始めよか！

まずはルールなんやけど・・・

洋「・・・あゝ、その前にちよいええか？おかん？」

雅：ん？何や？

絹「いや、何って・・・」

洋「確かに動画とかの撮影はしとらんみたいやな。それはええんやけど・・・」

頑張って〜！

騙されんじゃねえぞ〜!?

若い子は元気があつてええのう・・・

そうですねえお爺さん

洋「このギャラリーは何やねん!?うちらだけやなかつたんか!?!」

雅：松実さんはちゃんと伝えたはずやで?

阿智賀の関係者だけで楽しむってな。

Q「・・・阿智賀の関係者って・・・」

雅：阿智賀女子麻雀部の後援会の皆さんや。

昨日の動画を見てくれとった人がおったみたいでな。

ぜひもう一回見たいいうリクエストがあつたんや。

泉「関係者って、そういう意味ですか・・・!?!」

セ「大人の汚さを見せ付けられたで・・・」

怜「生きるんてつらいなあ・・・」

竜「うち、また晒し者にされるん・・・!?!」

雅：まあそう身構える必要も無いで。

金取るわけやないし、単なる道楽の一つや。

由「全然安心できないのよ〜・・・」

漫「うう〜・・・またいきなり吊られてもうたら・・・!?」

洋「陰謀や！うちは大人の陰謀になんか負けへんで〜!?」

雅：ちなみに、松実館の板長さんも楽しみにしとるみたいやな。

この意味、洋榎は分かるか？

洋「よっしゃ！そんじやさつそく始めよか!？」

恭「おかずの変更なんて要求するからや・・・」

由「ばちが当たったのよ〜。」

絹「お姉ちゃんの阿呆・・・!」

雅：ちなみに、初戦は姫松と千里山の10人や。



阿智賀のみんなは昨日もたくさんやつとるし、まずは見学みたいやな。

うお〜！頑張ってください〜！

まあ気をつけなさいよね。

皆、頑張つてね〜。

応援するのです！

頑張る……

怜「……見事に観客の一部になつとるで。」

セ「俺ら、はめられたわけやな……」

Q「彼女らからすれば、後援会も身内みたいなもんですからね。」

泉「私らええとぼつちりやないですか……!?!」

セ「主にあいつのせいやな。」

洋「」

怜「……洋ぼん……」

竜「めっちゃみんなに怒られとる・・・!?」

泉「・・・こうなったら、もうやるしかないですわ・・・!」

雅：そういうこつちや。

そんじやルールやけど、まずは始めやし特別なルールは無しや。

人狼（2）、狂人（1）、占い（1）、霊能（1）、狩人（1）、村人（4）の、初日役  
欠け無しの占い有りやな。

絹「こ、今度こそ負けへんで・・・!」

由「頑張るのよ・・・!」

雅：役職はもう選んだから分かつとるな。

初日は5分や。

何かしらの不都合が起こらん限り、昨日と同じでいくで?

それじゃあさつそくやけど、2日目スタートや!

○2日目(昼) 犠牲 雅枝

処刑 なし

生存 怜・セーラ・竜華・浩子・泉・由子・洋榎・恭子・漫・絹恵

愛宕雅枝さんの無残な死体が発見されました。

洋「よつしや始めよかろ!? 過ぎたことを悔やんどつてもしやあないで!」

セ「それお前にだけは言われたないわ!」

漫「どうします? やつぱり占いCOからいきみますか?」

泉「私はそれに賛成です。とりあえず何かしらのヒントがないことには、推理のしようがないですわ。」

Q「そうですね。ほなら、また一斉にCOしますか?」

恭「それがいいやろ。騙りに乗られんようにするにはそれしかないで。」

絹「それじゃあ合図は誰がやります? 今回は共有がおらんのですよね?」

由「なら私がやるのよ。私は占いじゃないから構わないのよ。」

怜「ほな、真瀬さんにお任せやな。」

竜「頑張つてな。」

泉「なにをどう頑張れと・・・?」

洋「なら由子でええやろ。ほな由子、頼むで！」

由「お任せなのよ。それじゃあいくのよ？・・・せくのよ・・・！」

恭「主将、○ですわ！」

Q「江口先輩、○やな。」

怜「・・・うちの頭脳が見事に分かれよったで・・・」

竜「えっと、恭子が洋榎さんに○出して・・・」

由「浩子がセーラに○出しなのよ。」

恭「・・・占った理由としては、人狼やった際のトラッシュ防止ですわ。放っておくと場の雰囲気を中心になってまうようなお人ですからね。警戒するにこしたことはありまへん。」

Q「私が江口先輩占ったんは、周りからの信頼を集めやすいということ、まあ単純に確率論ですわ。2回戦3回戦と村側やつたし、そろそろ人狼なつてもええんちゃうか思うんですが・・・まあ見事に村人でしたわ。」

洋「ふふん！恭子もうちのこと分かってるようやないか・・・！」

セ「あいにく俺は今回も村人や。人狼とはあんま縁がないな。」

絹「つてことは、どないします？またグレランやるか・・・？」

怜「まあそれが妥当やろうな。この4人を抜かしての勝負つちゆうこつちや。」

漫「うう・・・私、またいきなり吊られてまうん・・・!？」

竜「まあ今日はグレランになるとしてや。占いの内約はどうなつとるんやるな？」

泉「内約、ですか・・・。」

怜「・・・どうしたんや、竜華。」

セ「お前、まさか変なものでも食つたんちやうやるな・・・!？」

Q「あかんですわ・・・さすがにこれは予想外すぎです・・・!？」

竜「うちまともなこと言うたらあかんの!？」

由「・・・無難に、また真狂だと思ふのよ。」

絹「今回は人狼が2匹やし、まだ潜伏してるとちやいますか？」

洋「いや、うちは案外真狼が正解やないかと睨んでるで!」

漫「人狼が1匹騙つてるつちゆうことですか・・・?」

竜「でも、それやと危険やないか?いきなり注目浴びるんやで?」

洋「ずばり!うちが注目してるんはそこや!」

泉「・・・ん?」

漫「注目・・・?」

セ「・・・ああ、なるほどな。俺にもお前が何言いたいんか、分かった気がするわ・・・！」

怜「なるほどな・・・確かにこの2人ならそれも有りそうやで・・・」

絹「ど、どういうことや・・・？」

竜「さ、さあ・・・？」

由「・・・分かったのよ。つまり2人とも、自信家なのよ。」

洋「その通りや！このどっちかが人狼やったら、自分が場を操作したるぐらいのつもりで騙ってきてもなんもおかしなないっちゅうこつちや！」

恭「・・・なるほど。確かに主将の言うこともありえそうですね・・・！」

Q「つていうか、案外正解なんちやいます？末原さん、あんた実は人狼なんやろ？」

恭「私は真ですわ。人狼はそっちやろうが・・・！」

泉「ちよい待ってください!?!つてことは、占われた2人も人狼なんちやいますか!?!」

怜「いきなり、囲ってきたつちゅうこつちやな・・・」

Q「・・・ありえますわ。正解言つて信頼させようとしとる、洋榎姉えが人狼つちゅう可能性が・・・！」

セ「お前が人狼か。確かにそんな顔しとるしな。」

洋「つて何でや!?!そんな男顔に言われたないわ！」

セ「誰が男顔やこの唐揚げが!？」

洋「唐揚げ美味しいやろが!？」

セ「それは認めたるわ!」

セ&洋「ガルル・・・!」

竜「セ、セーラ! 仲良うせなあかん!？」

絹「お姉ちゃんも落ち着かなあかんで・・・」

漫「どつちかが人狼なんやろか・・・?」

怜「・・・もう面倒くさいし、この2人吊つてまおうや・・・?」

セ&洋「何でや!？」

セ&洋「つて真似すんなや!？」

由「・・・もう勝手にするのよ・・・」

泉「手に負えませんわ・・・」

恭「・・・今日はグレランやろうな。妥協策やけど、しやあないで・・・」

雅：残り1分やな。

喧嘩せんとちやんと話し合いしいや。

Q 「ほなグレランですわ。私としては対抗に投票したいところはあるんですがね……」

恭 「そんな私かて同じや。」

竜 「誰に投票すればええんやろ……？」

怜 「さすがに見当がつかんで……」

由 「本当に私たちの中に人狼がいるのかも疑問なのよ。」

泉 「ほんまですわ。案外、本当にあの4人の中にいるんちやいます？」

絹 「なんや私もそんな氣いしてきたわ……」

漫 「あかん……私また吊られてまう……!?」

セ&洋 「ガルル……！」

雅：そこまでやな。

とりあえず喧嘩しとる2人はあとで私んところに来いや。



ほな、投票始めえや！

○投票結果

怜(1) ↓ 由子    セーラ(0) ↓ 漫    竜華(0) ↓ 漫    浩子(0) ↓ 由子    泉(2)

↓ 由子

由子(4) ↓ 漫                    洋榎(0) ↓ 泉    恭子(0) ↓ 怜                    漫(3) ↓ 泉    絹恵(0)

↓ 由子

投票の結果、真瀬由子さんは処刑されました。

漫「危なっ!？」

由「残念なのよ……。」

○3日目(昼)    犠牲    雅枝・怜

処刑    由子

生存    セーラ・竜華・浩子・泉

洋榎・恭子・漫・絹恵

園城寺怜さんの無残な死体が発見されました。

穩：皆さんおはようございます！

昨日の犠牲者は園城寺さんでした！

惜しい人を亡くしましたが、勝利に向かって頑張りましょう！

あと、先ほどから皆さんが食べているお饅頭は、私の実家『高鴨和菓子店』で販売中です！

ほどよい甘さと、リーズナブルなお値段が自慢の一品です！

お土産の際にはぜひどうぞ！

それでは、スタートです！

憧：シズ〜？

時間言い忘れてるわよ〜？

穩：ああっ!?

今日の時間は4分です!?

セ「・・・色々と突っ込みたいことがあるんやけどな。」

竜「でも、このお饅頭美味しいで？うち帰りに買うてくわ♪」

Q「ほどよい甘み、それでいてしつこすぎず、何個でもいけそうなこの口当たりの良さ・・・研究のしがいがあるっちゅうもんですわ・・・！」

泉「いや、何を研究してるん・・・いやまあ、確かに美味しいんですけどね・・・」

漫「良かった・・・！いきなり吊られんでほんまに良かった・・・！」

恭「結構危ないところやったけどな。」

洋「どうでもええんやけど、何も昨日と同じ場所殴らんでもええやないか・・・!?ほんま鬼かつちゅうねん・・・!?!」

絹「喧嘩してたお姉ちゃんが悪いんやで？それに江口さんも怒られたんやし、どっこいどっこいやないか。」

洋「あいつ殴られてないんやで!?不公平や！」

絹「そらよそ様の子やしな。最近色々うるさいみたいやし。」

セ「俺はそんな気にせんけどな。多分うちの親も気にせんで？むしろ殴られるようなことした俺が悪いって、さらに殴ってくんに決まってんわ。」

竜「監督も大変やな。この前も各方面に電話してたみたいやし・・・」

Q 「そら仮にも強豪校が、準決勝で敗退ですからね。悪い言葉も出てくるっちゅうもんですわ。」

セ 「ほんま、なんで監督が頭下げなあかんねん。負けたのは俺らのせいやろうが……！」

恭 「そらしやあないですわ。名門の監督っちゅうもんは、そもそも負けが許されへんのだ。」

漫 「酷いお話ですわ……」

泉 「……って、なんでお饅頭食べつつ談笑しとるんです！私らゲーム中ですよ！」

絹 「あ。」

竜 「忘れとった……」

セ 「こいつのせいやな。」

洋 「何で!？」

Q 「ほな、結果言いましたよか。誰か合図頼みますわ。」

絹 「ほな私がやりますわ。……せいの！」

恭 「漫ちゃん、○や。」

Q 「泉、●や。」

泉 「・・・船久保先輩。また人狼ですか・・・!?」

Q 「ちやうわ。人狼はお前やないか。」

恭 「船久保さんが人外なのは確定やな。私が漫ちやん占ったんは、やけに吊られることを嫌がってたからや。昨日初っ端に吊られたからかもしれんけど、それを利用して生き残ろうとしたつちゆうんなら見逃せへんからな。まあ結果は○なんやけども。」

Q 「私が占ったんは、泉の昨日の台詞からやな。『占われた人も人狼なんちやうか』って言うてたけど、確かに囲いの可能性があるとはいえ、それを最初に口にしたんは泉や。私から見て、周りの視線をこっちに集めようとしてるように見えたわ。そこが気になったんやけど、見事に当たったみたいやで。」

泉 「そんなん誰かて分かることですよ！私は船久保先輩に投票させていただきますからね!？」

竜 「泉・・・泉が怜をやったんか・・・!?」

泉 「つて怖いからやめてください!？」

洋 「・・・これはどうなんやろな。吊るべきか否か・・・」

セ 「吊って確かめればええんちやう?それで違ったらフナQ吊りでええやろ?」

絹「けど、二条さんが○やったとき、浩子が狂人やったらどうするんです？吊ったら村負けですよ？」

漫「私は、占ってくれた末原先輩を信じたいんですけど・・・」

竜「ほな、試しに泉を吊ってみようや。吊って○やったら、また考えへん？」

泉「物は試しで私吊らんといてくださいよ!!」

洋「そんなら霊能COしとこか。うちが霊能や！ちなみに由子は○やったで！」

絹「お姉ちゃんが・・・ってほんまか？」

洋「絹っ!!」

漫「か、騙りですわ！CO霊能！確かに真瀬先輩は○やったけど、主将は人外です！」

セ「よっしゃ！今日はこいつ吊りで決まりや！」

洋「って何でや!!こら漫！お前が人外やったんか!!」

漫「私は本物です！せやからいきなり吊られるんが怖かったんですわ!!」

Q「・・・まあ言い訳は聞いときますよ。占った2人がこうなつとるわけですけど、こりやどういふことですか？」

恭「考えるまでもないわ。主将か漫ちゃん。どっちかが狂人やったつちゆうことや。つまり船久保さんは人狼確定や。」

Q「ほう・・・私からすれば、すでに人外は3人とも見えてるわけですがね？」

絹「えっと、つまり浩子が真やった場合、二条さんが人狼で、末原先輩、お姉ちゃん、漫ちちゃんの中に人狼と狂人やな。」

竜「逆に恭子が真なら、浩子が人狼で、洋榎か漫ちちゃんが狂人、そんでもってグレーに人狼やな。」

セ「・・・つたく、結局誰を吊ればええつちゆうねん。」

泉「そんなん船久保先輩に決まっています！こんなん考えるまでもないやないですか!?!」

洋「あくもう！どいつが人狼やつちゆうねん!?!」

宥「残り時間、1分を切りました。」

玄「さあ、覚悟を決めるのです！」

竜「だ、誰に投票すればええん!?!」

絹「うちかて分かりませんわ!?!」

セ「もうしやあない！こいつが怪しい思う奴に投票や!」

泉「言つときますけど、私は人狼ちやいますからね!?!」

漫「主将が人狼か狂人・・・ほな末原先輩は・・・」

Q 「まあ私は泉に投票やな。確実に見える場所から吊ってきましょか。」  
 洋 「漫が騙りや!・・・けどそうすつと、恭子はどうなのや・・・?」  
 恭 「この2人が○なんは確かや。ここは船久保さん吊りしかあらへん!」

灼:・・・そこまで。

それじゃあ、みんな投票してほし・・・。

### ○投票結果

セーラ(0) ↓ 洋榎 竜華(0) ↓ 泉 浩子(2) ↓ 泉 泉(3) ↓ 浩子

洋榎(2) ↓ 漫 恭子(0) ↓ 浩子 漫(1) ↓ 洋榎 絹恵(0) ↓ 泉

投票の結果、二条泉さんは処刑されました。

泉 「せやから私は人狼ちゃうんですつてば!?!」

○3日目(昼) 犠牲 雅枝・怜・絹恵

処刑 由子・泉



生存 セーラ・竜華・浩子・洋榎・恭子・漫  
愛宕絹恵さんの無残な死体が発見されました。

晴：みんなおはよう！

やっと職員会議終わって、ようやく合流だよ！

夏休みも会議だなんて、やってられないね！

今日の会話時間は3分間！

そろそろ話をまとめてかないと、苦勞するよ？

それじゃあ3日目、スタート!!

洋「おはようさん！泉は●！本物の人狼やったで!？」

漫「おはようございます！皆さん騙されんといってください、泉ちゃんは○です！つまり船久保さんが人外ですわ！」

Q「私の占い結果や。洋榎姉え○。困いを警戒したんやけど、まあ霊能結果から見ても人外は対抗と上重さんで確定やな。」

恭「私の占いは江口○や。私も困いを警戒したけど、どうやらそんなことは無かった

みたいやな。江口は確実に村人やで。」

セ「俺が村確すんのはありがたいんやけど・・・」

竜「つまりどうなってるんや・・・!?!」

洋「こら漫う！お前ようも絹をやってくれたなく!?」

漫「主将こそ、妹追い出すなんて酷いですわ!?!」

Q「私の提案は、とりあえず対抗吊りですわ。上重さんでもええんやけどな。」

恭「認められんわ。私も対抗吊り以外あらへん。主将が真ならそれで終わりやし、漫

ちやん真ならあとは竜華だけや!」

竜「うち!?!うち人狼ちやうよ!?!」

セ「まあ性格的に向いとらんのは分かっとるんやけどな・・・」

洋「こんな漫吊りに決まっとるわ！お前あとでこに『吊』書いたるからな!?!」

漫「私に落書きしていいんは末原先輩だけです！主将には触らせまへん!」

洋「何やと!?!」

漫「何ですか!?!」

Q「・・・・・・・・・・・・・・・・関係ない疑問なんですけど、あんたらもしかして・・・?」

恭「事実無根や。そんなん一切あらへん。」

漫「先輩!?!」

洋「へっ! ざまあみくや!」

漫「うう・・・末原先輩のスパッツマニア〜!」

恭「つて何でやん!」

竜「あかん・・・場が混沌しとる・・・!?」

セ「もうゲーム関係ないやないか・・・」

竜「と、とにかくまとめなあかん!? みんな、落ち着くんや!」

Q「な・・・清水谷先輩が・・・!」

セ「輝いとるで・・・!?」

竜「トキイ!」

洋「・・・つてどういう効果音やねん・・・!?」

漫「(・・・末原先輩やったら、やっぱりスズウとか言うてくれるんやろか・・・!?)」

恭「(・・・サキイ・・・いやいや・・・)」

竜「ほなまず確認やな。漫ちやんが真やとすると・・・」

恭「船久保さんが破綻。終わらんかったらあとは童華が人狼で終了や。」

セ「で、万が一このおもしろいんが真やとすると・・・」

洋「その呼び名ははむしろ誉れやで!・・・まあうちからすると、そこが問題なんや。」

漫が騙りは確定としても、問題は3人の中の誰が人狼なんやっちゆうことや。間違いな

くこの3人、真狂狼やからな。」

Q「まずは確実に吊るべきや。末原さんか上重さん。このどつちかを吊ろうや。」

恭「駄目に決まつとる。靈能が真狂である以上、船久保さんしか吊りはあらへん！」

竜「：：残りはどう思つとる？ちなみにうちは、漫ちやん吊りしかありえへんけど：：」

セ「・・・迷うとこやな。個人的にはこいつ吊つてまいたいんやけど、竜華が人狼つ

ちゆうのがどうにも腑に落ちんとこやし・・・」

漫「私は船久保さんです。主将は騙りですけど、間違ひなく狂人ですわ。なら末原先輩の言うとおり、今日は船久保さんに投票します！」

洋「うちからすると、まだ両方真の目が残つとるつちゆうことが困りもんや。こうなると、とりあえず確実に漫は吊つておきたいとこやな。」

セ「つてことは、迷つてるんは俺だけつてことかい・・・」

洋「優柔不断なやつちやな・・・男ならばしつと決めたらどうなんや？」

セ「他の奴に言われても気にならんのに、お前にそれを言われるとやけに腹立つわ：：  
!？」

晴：残り1分だね。

さあ、そろそろ結果をまとめようか！

Q 「完全に意見が分かれとりますな・・・」

恭「・・・しゃあないわ。今日も自分の意思で投票や。」

洋「漫・・・今日がお前の最後やで・・・！」

漫「主将こそ、明後日の朝日は拝めんと覚悟しといてください・・・！」

竜「うう・・・うまくまとまった思ったんやけど・・・」

セ「・・・まあ、竜華もようやくやってると思うで？」

晴：時間だね。

それじゃあ投票開始！

○投票結果

セーラ(0) ↓ 慢 竜華(0) ↓ 漫 浩子(2) ↓ 恭子

洋榎(0) ↓ 漫 恭子(1) ↓ 浩子 漫(3) ↓ 浩子

投票の結果、上重漫さんは処刑されました。

漫「私ですか!?!・・・はあ、まあ初っ端に吊られるよりはええか・・・」

5 日目へ続く・  
・  
・

## 千里山・姫松②

○5日目（昼） 犠牲 雅枝・怜・絹江・竜華

処刑 由子・泉・漫

生存 セーラ・浩子・洋榎・恭子

清水谷竜華さんの無残な死体が発見されました。

雅：今日でいよいよ決着やな。

人狼は一体誰やったのか、その答えが出るつちゆうことや。

ちなみに聞いときたいんやけど、赤坂さんはどないしたんや？

もう来ててもおかしいんやけど、携帯にも出えへんし。

まあとにかく、今日の会話時間は2分や。

無駄話は厳禁やで！

それじゃあ5日目、スタートや!!

洋「おはようさん! 漫は○やったで!?! つちゆうことは狂人やったつちゆうことやけど・・・」

Q「末原さん●や。まあ当然やな。」

恭「竜華○や。まあ噛まれた以上は当然や。船久保さんがLWやで!」

Q「違いますわ。LWは末原さんや。」

セ「・・・結局こうなるわな・・・」

Q「泉に●出したんは私ですわ。こんなん疑うまでもないでしょうが?」

恭「単に逆囲いして信用得ようとしただけや! 私はちゃんと主将と漫ちゃんが真狂やって当てとるわ!」

Q「人狼が適当に○出してけば、そりやそうなりますわ。お二方はどっち信じてるんです?」

洋「ん・ん・・うちのには、恭子を信じたいとこなんやけど・・・」

セ「ん・ん・・どっちが腹黒いか言われたら、間違いないフナQを選ぶんやけど・・・」

Q「・・・・え。もしかして、私が不利なんか・・・!?!」



恭「その考えで合つとるんや！船久保さんに投票しましよ！」

Q「つてそれで決められてたまるかい!?むしろ今の発言、人狼が調子付いたように聞こえたはずやで!」

恭「人狼はそつちやろうが!」

Q「あんたもしつこいお人やな!」

恭&Q「ガルル・・・!」

洋「あかん・・・なんて醜い争いなんや・・・!」

セ「底が知れるつてもんやで・・・!」

恭&Q「あんたらだけには言われたないわ!」

雅：残り30秒や。

さあ、運命のお時間やで。

恭「主将！主将の決断力つちゆうもんを見せてください!」

Q 「先輩は、土壇場で後輩裏切るんですか!？」

恭 「ちよつと待てや!?!なに同情で票貰おうとしてるんや!」

Q 「そつちかて、上手いこと言つて票貰おうとしとるやないか!？」

恭 「真が票貰つて何が悪いんや!?!」

Q 「せやから真は私や言うてるでしようが!?!」

恭 「大嘘こくなやこの眼鏡!」

Q 「絹恵かて眼鏡やろうが!?!」

恭 「悪人顔!!」

Q 「それ後輩侍らせとるような奴に言われたないわ!」

雅：ああ・・・そこまでや!

各自投票しい!

洋&セ「」

洋&セ「どうしろっちゅうねん!？」

○投票結果

セーラ(0) ↓ 恭子 浩子(2) ↓ 恭子

洋榎(0) ↓ 浩子 恭子(2) ↓ 浩子

雅：同票やな。

再投票いくで。

セーラ(0) ↓ 浩子 浩子(2) ↓ 恭子

洋榎(0) ↓ 恭子 恭子(2) ↓ 浩子

雅：また同票やな。

次がラストやで。

セーラ(0) ↓ 恭子 浩子(2) ↓ 恭子

洋榎(0) ↓ 浩子 恭子(2) ↓ 浩子

投票は終了いたしました。

本日のゲームは終了いたしました。  
結果は引き分けとなります。

洋「」

セ「」

恭&Q「あんたら何しとんねん!？」

Q「信じられへん。あそこまでいって引き分けって何やねん．．．!?」

泉「見てるこっちは面白かったんですけどね．．．」

漫「うう．．．お力になれずすみまへん．．．!」

船久保浩子・二条泉（人狼） 上重漫（狂人）

恭「優柔不断にも程があるつちゆうもんですわ．．．!?」

洋「せやかてあんなん選べるわけないやん!？」

怜「まあ、何も出来ずに退場した割には、主要な役職は残ったんやけどな．．．」  
 末原恭子（占い師） 愛宕洋榎（霊能） 園城寺怜（狩人）

由「確かにどつちが真なのか、判別できなかつたのよ。」

絹「眼鏡の何が悪いねん．．．!？」

竜「ま、まあまあ．．．セーラもそんな落ち込まんと．．．?」

セ「あかん．．．俺がよりによってあれと同じやと．．．!？」

真瀬由子・愛宕絹恵・清水谷竜華・江口セーラ（村人）

穩「皆さんお疲れ様でした〜!」

憧「これ、やるのと見てるのでは全然違うわね。面白かつたわよ?」

玄「皆、まだまだだね!」

灼「その自信はどこから来てるのかと．．．」

宥「お疲れ様でした。あつたかいお茶を用意しましたので、どうぞ．．．。」

Q「どうも．．．って、この暑いのにお茶って．．．!？」

泉「罰ゲームですか．．．!？」

漫「あかん．．．どう考えても私が戦犯や．．．!？」

宥「えっと、そういうわけじゃ・・・」

竜「あ、うちもらうで。疲れたときにはホツとするのが一番やで♪」

宥「竜華さん・・・あつたか〜い・・・♪」

怜「なんや・・・こののほほんした空間は・・・!?」

セ「俺もそれほしいわ。なんやほんまに疲れたで・・・」

穩「あ、江口さんと愛宕洋榎さんはこれをどうぞ！」

セ「ん？なんやこれ・・・って苦っ!?これマジで苦いんやけど!?」

洋「どれどれ・・・ってほんま苦っ!?何やこれくそマズやないか!?」

玄「罰ゲーム用に作った特製青汁なのです！」

宥「栄養バランスには、ちゃんと気を使つてますので・・・。」

穩「ギャラリーに選ばれたお2人へのプレゼントです！」

恭「・・・一応確認なんやけど、それはその2人だけでええんよな？」

Q「私らは嫌ですよ。そんな得体のしれないもん飲むのは・・・!?」

憧「別にいいわ。今回の戦犯は、どう見てもこの2人だし。」

漫「ほっ・・・ほんま良かった・・・」

洋「・・・漫。お前少しこれ飲んでみいや。」

漫「お、お断りです！」

洋「ちつ……」

絹「ほらお姉ちゃん？ ちゃんと我慢しなくちゃ駄目やで？」

怜「セーラも覚悟せなあかんで？」

竜「ほんまやで？ 戦犯なつてもうたんやから。」

セ「なりたくてなつたわけやないっちゆうねん……!?」

由「……初日に吊られて、正解だったのよ。」

泉「そんな逃げ道があつたとは……」

漫「……つていうか、末原先輩何ですか!? いつも私にあんなことしとるくせに、い

ざとなつたら否定つて……!?」

恭「ちよ、漫ちゃん待ちいや。誤解を招く言い方はあかん……!」

漫「誤解!? なんで誤解なんですか! だいたい末原先輩は……」

雅「……ところで、ほんまに赤坂さんから何の連絡もないんか？」

晴「私の携帯もつながらないんだよね……」

竜「旅館出るとき、確かに後から行く言うてたんやけど……」

由「ちよつと心配なのよ。」

恭「・・・いや、案外大丈夫なんちゃうか？」

泉「どういことですか？」

恭「私の予想が正しければ・・・」

○松実館（いくのんが使った部屋）

郁「」

郁「」

郁「・・・エヘ・・・」

郁「」

郁「」

郁「・・・あかんで末原ちゃん・・・それはパフエちやうで・・・」

郁「zzzz・・・」

赤坂郁乃、快眠中。



続  
く

## 千里山・姫松（犠牲者たちの集い）

○3日目（昼） 由子・怜

由「いきなり吊られちゃって残念なのよ。」

怜「ほんまや。何もせんもまま退場とか、生きるんてつらいなあ・・・」

由「それで、園城寺さんはどう思うのよ？」

怜「あの2人やな？・・・メタな目線で見ると、フナQが人狼っぽい気はするんやけど・・・」

由「同じなのよ。でも、それだと根拠に弱いなのよ。」

怜「そうや。せやから明日の占いを見て〜思うてたんやけど、まさかいきなり噛まれるとは思わなかったで。」

由「私もビックリなのよ。てっきり漫ちゃんや泉ちゃんが噛まれると思ったのよ。」

怜「……その理由はうちは聞かんで。」

由「聞かれても困るのよ。いなくても別にくなんて、口が裂けても言えないのよ。」

怜「……あかん。のほほんしてるけど、この子姫松版フナQや……!？」

由「失礼な話なのよ。」

怜「……おつ。泉が●出されよつたで。」

由「……確かに、昨日の囲いの話は唐突だったのよ。」

怜「せやけど、ちよつとゲームかじってるもんなら誰でも思いつくもんやないか？うちのには、まだ上重さんとかのほうに怪しい気いしたんやけど……」

由「それは何でなのよ？」

怜「末原も言うてたけど、吊られてまうぐらいしかまともにも言つてなかつたやないか。逆に何考えてんのか分からん分、うちとしては怪しく思えたで？」

由「でも、○なのよ。」

怜「末原が真やつたらな。お、何や洋ぼんが霊能やつたん……おう。」

由「……出たのよ……」

怜「よりもよつて、末原が占つた2人なんか。こりやフナQ真目なんかなく？」

由「分からないのよ。もしかしたら本当に恭子が真かもしれないのよ。」

怜「こりや、どつちが真かを見極めるの、大変そうやな。」

○4日目(昼) 由子・怜・泉・絹恵

泉「ありえへん！船久保先輩どんだけ人狼好きなんですか!？」

絹「二条さんは人狼なんちゃうんか？」

泉「ちやいます！私は正真正銘村人ですわ！」

由「漫ちやんは泉ちやんが○つて言ってるけど・・・」

怜「洋ぼんは●や言うてるな。」

泉「決まりですわ！末原さんが真で、主将さんが狂人です！」

絹「となると、もう一人は・・・」

怜「・・・互いに相手の初日を占ったみたいやな。やつぱり囲いを警戒したみたいやで。」

泉「・・・つまり、清水谷先輩ですわ！まさかあの人の人狼やったなんて・・・!？」

絹「・・・見えへんなあ。」

由「見えないのよ。」

怜「人狼の器ちやうやろな。」

泉「そんなら皆さんは、私が人狼や言うんですか!？」

怜「んゝ．．．なあ泉ゝ？」

泉「何ですか？」

怜「後で竜華の前で、あなたが人狼やゝつて言えるかゝ？」

泉「．．．」

絹「．．．」

由「．．．」

怜「．．．」

泉「．．．．．少し、考えさせてください．．．」

○5日目（昼） 由子・怜・泉・絹恵・漫・竜華

竜「どうしたんや泉ゝ？なんや怜から話がある聞いたでゝ？」

泉「あ、いえ、その．．．」

竜「？」

怜「．．．ま、泉が人狼やろうな。」

絹「私もそう思いますわ。」

由「上下関係がはつきりしてるのよ。」

漫「うう・・・っていうことは、私が狂人つてこともばれとるんですね・・・？」

怜「まあそうなるな。」

絹「まさか漫ちゃんが狂人やつたとは・・・」

由「それ以上に、洋榎が真霊能だつたことのほうが驚きなのよ。」

絹「・・・その、確かに・・・」

竜「せやけど、ほんなら真占いはどつちなんや？」

由「分からないのよ・・・」

絹「全然見分けがつきませんわ・・・」

怜「漫ちゃんは、見分けついたらんか？」

漫「いえ、そのお・・・」

怜「・・・人狼の迷彩が完璧すぎて、狂人にも分からなくなつてもうたんやな・・・」

竜「もちろん、泉は分かつとるんやろ？」

泉「そりやもちろんですわ。私の相方ですしね。」

竜「どつち？」

泉「・・・っていうか、さつきから漫才繰り広げてますね。」

怜「逃げてきよつたで・・・」

絹 「ほんまやなう。」

由 「意気地無しなのよ。」

漫 「その・・・ドンマイ・・・？」

泉 「・・・私の味方は上重さんだけですわ・・・！」

ゲームは終了いたしました。

## 阿智賀・千里山・姫松①

郁：呼ばれて飛び出てジャジャジャジャーン♪

ここからはいくのんが進行役やで♪

恭「ほな、さっさと始めましょか。」

郁：ええ。

末原ちゃん何か冷たない？

Q 「1時間近くも待たされたんですわ。怒って当然つてもんです。」

郁：いくのんも、寝坊したくてしたわけやないのに。

まあええわ♪

ほなルール説明やで♪



懂「……私が言うのもあれだけど、凄い神経してるわね……?」

恭「まともに付き合ったらあかん。疲れるだけや……」

漫「末原先輩の目が濁つとる……!？」

郁：今回は阿智賀も参加しての15人やな。

内約は、人狼(3)、狂人(1)、狐(1)、共有(2)、占い(1)、霊能(1)、狩人(1)、村人(6)の、初日役欠け有りの占い有りやで。

怜「一般的なやつやな。」

セ「同じルールばかりやと飽きが来るで。」

郁：勘弁してな。

次の試合はちよつと趣向を凝らしてみるから、我慢してな。

初日は7分やな。

ほんじゃ始めるで。

## 2 回戦の2日目、スタート♪

○2日目(昼) 犠牲 郁乃

処刑 なし

生存 宥・玄・灼・憧・穩乃

怜・セーラ・竜華・浩子・泉・由子・洋榎・恭子・漫・絹恵

赤阪郁乃さんの無残な死体が発見されました。

恭「ほなさっそく……っていうても、犠牲者が代行なら議論せんでもえええ気もしま  
すけどね。」

洋「ほんまやで。議論は明日からでもええんちゃう？」

怜「真の犠牲者が出てからにしようか。」

憧「そういうわけにもいかないでしょう？ほら、誰からいく？」

宥「それじゃあ私から……CO共有です。」

灼「宥さん、また共有……？」

宥「うん。また共有に当たったよ……？」

Q「ほかに共有のCOはおりまへん？いなけりや確定ですわ。」

竜「・・・いなさそうやね。」

洋「ほな確定や!もう出てきても信じんからなく!」

玄「全くなのです!」

由「鏡を見たほうがいいのよ。」

絹「お姉ちゃん?また変なことしちや駄目やで?」

憧「玄もだからね。」

玄「あう・・・」

洋「そんなんするわけやないか?うちは一日一日、着実に進歩しとるんやで!」

セ「けどお笑いの基本は繰り返しちゅうんもあるからなく。」

洋「確かにその通りや!」

泉「・・・吊ったほうがええんですかね?」

漫「場を滅茶苦茶にされる前に、吊ってまったほうが・・・?」

洋「って何でやん!今回そんなことせえへんっての!」

セ「ほんまやろな?また共有だくなんて抜かしたおつたら、即ゲームから除外するで

?

由「恩赦で進行役にするのよ。」

洋「嘘やん!」

恭「・・・進行役は進まんようになりそうやから却下や。それより松実さん？1人つてことは、また潜伏ですか？それとも・・・」

宥「あ、今回も潜伏します。共有は欠けてませんから、安心してください。」

Q「承知や。さて、今回はなにが欠けとんのか・・・？」

怜「占いと狩人はほんま勘弁やな・・・」

灼「人外無双・・・」

穩「・・・あ、あの！COします！」

憧「え、シズ？」

泉「もしかして占いですか？でも占いは一斉にやったほうが・・・」

穩「私、霊能です！」

絹「・・・はあ!？」

Q「そりやまたずいぶんとお早いCOやな・・・？」

洋「明日以降でも良かったんちゃうか？これで真なら狙われるで？」

穩「その、始めはそうしようかと思っただけ・・・」

宥「穩乃ちゃん・・・？」

憧「・・・なにか、考えがあるのね？」

セ「ええで。言うてみい？」

穩「……何喋ればいいか分からないから、初日に吊られそうで……！」

憧「」

セ「」

漫「……気持ちはよう分かります……！」

泉「……まあ、そりやそうなんです……！」

灼「……信じなくていい。そのCO……」

恭「ん……？」

由「何でなのよ？」

穩「あ、灼さん、もしかして怒ってます……！」

灼「怒ってはいない。騙りだと分かってるだけ。……CO霊能。霊能は私……」

憧「あ、灼が！」

玄「灼ちゃん!？」

怜「……阿智賀対決とはなあ。」

竜「ど、どっちが本物なんや……！」

恭「……どつちかが騙りやつちゆうことは確かや。それより、そろそろ占いの結果

をやりませんか、時間が無くなりますわ。」

洋「む！確かに恭子の言うとおりで!？」

Q「この2人はこのまま置いておきましょう。どちらにしろまだ真偽がつきませんわ。」  
宥「……もし噛まれたら、残ったほうも吊るから狩人さんは護衛無しでお願いしま  
す。それでは占いの方、いきますね? ……せくの……」

セ「フナQ、○や!」

怜「竜華、○やな。」

玄「お姉ちゃん○なのです!」

憧「……今日の吊り、もう決まりでいいんじゃない?」

泉「まさか、また……!」

絹「さすがに4回連続は……?」

洋「今日は玄ちゃん吊りや! 狂人候補はさつさと消しとこか!」

竜「玄ちゃんごめんなく? 庇うとうちも吊られてまうんよ。」

怜「玄ちゃん、さらばやで……」

玄「……って違うよ!?! なんでいきなり私が疑われてるの!?!」

憧「だって玄だし。」

穩「騙りじゃないんですか？」

灼「繰り返しはお笑いの……」

宥「私を占ってるし……」

玄「今度こそ本当だよ!?!それにお姉ちゃんが共有だったなんて、初日には分からないよ!?!」

恭「……まあ、確かにそりやそうなんやけど……」

Q「……一度ついたイメージつちゆうんは、なかなか消えないもんですからなあ……」

怜「つていうか、うちの対抗やしな。疑うのは当然やろ?」

セ「一応言うтокくけど、怜かて俺ん中では人外確定やからな?」

怜「セーラもやで?」

漫「その、占いの理由を聞いてもええですか?」

絹「そうやな。まあ初日やし、そこまで具体的なんはないやろうけど……」

怜「そうやな。うちが童華占ったんは、まず童華の色が単に知りたかったつちゆうことや。」

竜「怜……!」

怜「童華に演技なんて出来んやろうからな。人外ならさっさと吊るか呪殺してまったほうが、童華のためや思うたしな。」

竜「怖い！ 怜がそこまでうちのことに心配してくれとるなんて、うち嬉しいで〜！」

洋「・・・おや？」

絹「お姉ちゃん？ つつこんだらあかんで？」

泉「・・・はあ。」

セ「まあ竜華やしな。で、俺が占ったんはフナQやな。理由は簡単や。さつき騙されてもうたし、人狼やったらさつきと吊つてやろう思うたんや！」

Q「ふつ。残念ですけど、今回は村人ですわ。当てが外れて残念ですな？」

セ「いや、おかげでフナQは○やつて分かったからな。こつからは頼りにさせてもらうで？」

Q「む・・・まあ、その位は当然ですわ。」

漫「・・・もしかして、照れとる？」

泉「分かりにくいかもしれませんが、あれが船久保先輩なりの乙女アピールなんですわ。」

漫「なるほど・・・！」

Q「・・・私は今日は泉に投票やな。」

泉「そんなあ!？」

玄「えっと、私がお姉ちゃんを占ったのは・・・！」



憧「宥姉えの色を知りたかったただけでしょ？」

玄「そ、その通りだよ……」

憧「後付の理由としては最適ね。まして表に出てきた共有だし、いきなりトラップに引つかかることもないし。」

穩「なるほど……！」

玄「……って違うよ!？」

恭「……さて、どうしましょうかね？」

洋「またグレランやろ。●が出とらんなら、真偽の確認も出来んからな。」

Q「まあそうなるでしょうな。若干1名、怪しいんはおりますが……」

玄「うう……」

宥「でも、玄ちゃんも今回は本当かもしれないし……」

灼「……確かに、4連続狂人は……」

泉「それはそれで、もの凄い確立ですよね……?」

漫「えつと、10分の1と、16分の1と、22分の1と、また16分の1……?」

Q「……この4試合4連続で狂人を引くんは、56, 320分の1。四捨五入して、0, 002%ですわ。」

穩「……プスプス……」

憧「ほらしズってば。あんたは難しいこと考えちゃ駄目だったの。」

絹「それなら、今回は狂人認定しなくてもええんじや・・・？」

恭「0じゃあらへん。それに、狐や人狼の可能性もあるんやで？」

怜「ま、実際そうやろうしな。つまりセーラが狂人の可能性が高いっちゅうこつちや。」

セ「何でや。怜かて同じやろうが？」

由「でも、真は間違いなく1人しかいないのよ。」

泉「下手すると、3人とも騙りっちゅう可能性もありますしね・・・！」

洋「占い欠けやな。まあ今回は人外5人やから、おそらく欠けてはないんちゃうか？」

恭「無難にいくならそうですね。占いと霊能の真が2人に人外3人。潜伏2人は、数の多い人狼と、迂闊なことが出来へん狐あたりでしょうな。」

漫「うう、考えることが多いですわ・・・。」

郁：あと1分やで。

そろそろまとめちゃおか。

宥「・・・グレランでお願いします。初日はそれぐらいしか出来ないし・・・。」

洋「まあしやあないわな。」

Q「●が出んことには、推理なんてでけへんですし……」

泉「今回グレランの対象外は、占いの3人と、共有と……」

恭「霊能2人と、占われた3人。まあ松実さんかぶつとるから実質2人やな。残った7人の中から選ぶつちゆうこつちや。」

漫「(……あかん。うち、また……!?)」

恭「(……また吊られる思ってる顔やな。全く……)」

セ「ほんなら明日は誰を占ったらええんやろな……?」

怜「セーラは適当にやればええんちやう?占いはうちに任しとき?」

セ「何でやん……」

玄「私が本物なの!」

セ&怜「はいはい……」

玄「むむむ……!」

郁：時間やで。

投票始め♪

## ○投票結果

宥(0) ↓ 絹恵 玄(0) ↓ 恭子 灼(0) ↓ 絹恵 憧(2) ↓ 漫 穩(0)

↓ 恭子

怜(0) ↓ 絹恵 セーラ(0) ↓ 憧 竜華(0) ↓ 由子 浩子(0) ↓ 洋榎 泉(1)

↓ 絹恵

由子(1) ↓ 洋榎 洋榎(2) ↓ 漫 恭子(2) ↓ 絹恵 漫(2) ↓ 憧 絹恵(5)

↓ 泉

投票の結果、愛宕絹恵さんが処刑されました。

絹「あちやあ・・・もつとちやんと喋れば良かったわく。」

## ○3日目(昼) 犠牲 郁乃・由子

処刑 絹恵

生存 宥・玄・灼・憧・穩乃

怜・セーラ・竜華・浩子・泉・洋榎・恭子・漫

真瀬由子さんの無残な死体が発見されました。

郁：昨日の犠牲者は由子ちゃんみたいやで〜？

今回は人狼どういふ戦略で嘯んできたんやろな〜？

今日の会話時間は6分。

昨日よりは短いけど、まだ余裕はあるんちゃうか〜？

ほな3日目、スタートや〜！

穩「おはようございます！絹恵さんの色は○、村人です！」

灼「おはよ・・・同じく絹恵さん○。狐ならいいけど、樂觀視はできな・・・。」

洋「昨日やられたんは由子やったんやな。なんやうちからいきなり2人も消えてもうたやないか。」

セ「んなこと言つて、実はお前が人狼ちゃうんか？同情誘いやとしたら裏目やで〜？」  
恭「いや、さすがにそれはないでしょ。確かに主将が怪しいんは確かですけど、基本からしてこれですし・・・。」

漫「でも・・・もしかしたらそれを逆に利用して、かもしれませんよ？」

泉「なるほど・・・！自分が疑われとるのを利用して、逆に候補から消えようとして

るわけですか・・・!?

怜「確かに洋ぼんが人狼なら、まんますぎて逆に分からんわ・・・」

竜「そうやって迷わせるつもりなんやで、怜! 騙されたらあかん!?

洋「・・・つて何でうちが人狼つちゆう前提で話進めとんねん!?! もうええから占いの結果や! おい共有、さっさと合図出し!」

Q 「話そりましたで・・・」

宥「えつと、それでは占いの結果を聞かせてください。それでは、せくの・・・」

玄「末原さん、○なのです!」

セ「懂、○やで。」

怜「穏乃ちゃん、○やな。」

穏「・・・あれ? 私占ってくれたんですか・・・?」

セ「おいどういうつもりや怜? わざわざ霊能占うとは、そつちが騙りや言うもんやで・・・?」

怜「ほなそれを含めて説明しとこか。まず、うちは自分が真やと分かつとる。そつちから考えると、占いの残りは狂狼狐のどれかや。でもまあ、おそらく狐はないんやないか

と思うから、実質は狂狼やな。ここまではええか？」

竜「そうやな。その通りやで！」

Q「園城寺先輩が真ならって話ですからね？」

玄「全くなのです！」

怜「そうすつと霊能で残つとるのは、真狼狐や。ここで気をつけなあかんのが、狐が霊能を騙った場合や。なにせ傍目には、狩人に守られてるだけなのかそうでないのか、それが分からんのやからな。」

恭「なるほど・・・園城寺の言いたいことが分かってきたで。」

玄「??？」

憧「・・・確かに、霊能が人外だと認定されても、それが狐だつてことまでは分かりづらいしね。」

Q「それに、人狼が身内消されたから残りを噛みに行つたとしても、狐なんですから当然失敗しますわ。ですが・・・」

泉「残つた霊能つちゆうことは、狩人が守つとる可能性が高い・・・！」

漫「つまり人狼からしたら狩人に邪魔されたように見えるし、村からは狩人がGJ出したように見えてまうんですね・・・!!」

怜「そういうことや。せやからうちは、今回は人狼探しやなくて、あえて霊能を探り

に行つたんや。これで●でも出ようもんならうちの信頼ガタ落ちやけど、結果はご覧の通りや。うち目線からしたら、穩乃ちゃんは少なくとも狐ではないつちゆうこつちやな。」

竜「怜……！さすがは怜やで……!?」

セ「……なんやめつちやそれっぽいこと言つとるし、確かに理屈も分かるんやけど、そいつ人外やからな？」

玄「全くだよ！むしろ私から見たら、人狼が身内を囲つたようにしか見えないのです！」

宥「……確かに、園城寺さんが真なら、穩乃ちゃんは真か狂だろうけど……」

灼「悪いけど、私から見たら身内を囲つたとしか見えな……!」

洋「確かに、素直に信じるつちゆうわけにもいかんし……」

漫「下手すると、狂人が適当言つてるだけの可能性もありますよ？」

泉「一番最悪なのは、園城寺先輩自身が狐の時ですわ。それこそ信用集めて狩人に守つてもらつとるようを見せて、最後まで生き残ろうとしてるんちやいます!」

怜「……な、なんや。怜ちゃんなかなかのフラインプレーのつもりやったのに、非難の嵐やないか……ほんま、占い師つてつらいわ……」

竜「だ、大丈夫やで怜!? うち怜のこと信じとるからな!」



Q 「まあ清水谷先輩は初めからそうですしな。それより、他2人の説明聞かせてもらいましょか?」

セ「お、そやったそやった。俺が憧占ったんは、単にどこ占ったらええか分からんかったからや。」

憧「……ちよつと。」

Q 「……そんな理由やと、江口先輩疑いまつせ?」

セ「そうは言うてもなあ。實際怪しい思うのなんてそこの垂れ目ぐらいやし、だからってわざわざ占うんもあれやしな。そんなら、逆に人狼じゃないほうがええ奴らから占ったほうが、よっぽどええんちゃうかって思っただけやで?」

泉「……つまり江口先輩の中では、新子は船久保先輩に次いで人狼じゃないほうがええつていうことですか……?」

漫「……そ、それって、つまり……!」

憧「……へ、下手な詮索は禁止よ。ほら、次いきましょ。」

穩「憧照れてる。」

灼「珍し……」

宥「あつたか……」

憧「う、うっさいわよ!」

セ「照れるな照れるな♪」

憧「うっさい馬鹿！」

Q「決まりですわ。私は泉に投票します・・・！」

泉「つて何ですか!?!」

セ「・・・ま、俺の理由なんてそんなもんや。さすがにおかしい思ったらちゃんと占うから、すまんけど待つとつてくれや。ほんで、次は玄やけど・・・？」

玄「ようやく出番が回ってきたのです！私が占ったのは末原さんだよ！」

恭「みたいやな。でも、何で私なんや？」

玄「簡単だよ！この中で、一番危険だと感じるのが末原さんだからだよ！」

漫「危険つて・・・そりやどういう意味です・・・!?!」

恭「漫ちゃん落ち着きいや。・・・そりやあれか？発言的な意味っちゆうことか？」

玄「そうなのです！確実にみんなの中心になり始めてるから、もし人外だったりしたら大変だと思っただよ！」

宥「・・・えつと、玄ちゃん、もしかして・・・」

灼「・・・本当に真・・・？」

玄「だからそうだって言ってるでしょ!?!」

怜「玄ちゃんは騙りや。まだそれが何なのかまでは分からんけどな？」

セ「それは怜もやからな？」

憧「・・・宥姉えどうする？さすがに真偽がまだつかないけど・・・」

洋「今日もグレランか？せやけど、あんま悠長なことも言つてられんで？」

Q「GJ 出ん限り、残り6吊りで5人外・・・最低でも3から4は吊らんといけませんからな。」

泉「ですが、決め打つにも考える材料つちゆうもんが足りないですわ・・・」

宥「・・・決めました。」

恭「ん。どうするんや？グレランか？」

灼「・・・それが妥当・・・」

宥「・・・非難されるかもしれないけど、霊能を決め打ちします。」

穩「・・・ええ!？」

灼「え・・・!？」

洋「ま、まじで言うとするんか!？」

漫「間違えたら最悪ですよ!？」

憧「宥姉え、あの人の悪い影響受けちゃったんじや・・・!？」

玄「お姉ちゃん!」

宥「・・・ちゃんと、私なりに考えた結果です。実際そこまでの余裕がないし、何より霊能結果がパンダになるのも困るから。」

恭「でも、間違えたらそれこそ人狼の思う壺ですわ・・・!」

竜「間違えたまま終わってまうで!」

宥「だからこそその決め打ちなの。それに、もしここで間違えて、人外が残ってしまったとしても・・・」

泉「・・・まさか、人狼に狐を告発させるつもりですか!」

穩「ど、どうということ!」

洋「ちゃんと説明しい!」

宥「もし人狼優位に進んでいても、狐がいる限りは人狼も安心できないよね?だからもし狐の所在が分かったら、騙りの霊能には狐の正体を教えてほしいの。それで・・・」  
 恭「・・・狐が消えた。もしくは狐が分かったという時点で、残る霊能も吊るつちゆうわけやな・・・!」

Q「残った霊能が人狼なら、素直にCOしなくちゃあかんような状態に、あえて持つていくつちゆうわけや・・・!」

漫「な、なんと過激な・・・!」

灼「でも、確かにそれならいけるかも・・・!?」

穩「さすが宥さん！」

宥「もちろん吊り数的に、村勝ちが無くなるかもしれない。それでも、2分の1でいい結果になるなら、賭けてみてほしいんじゃないかって・・・！」

郁：残り1分を切ったで。

面白そうなことになったとるけど、そろそろ決めてほしいなく？

宥「・・・そういうことだから、2人にはごめんなさいだけど・・・」

穩「とんでもありません！私は宥さんの考えにお供します！」

灼「うん。宥さんの判断なら、私も従う・・・！」

セ「ようするにどつちに賭けるつちゆうわけやな!?何やめつちや俺好みの展開やん  
！」

泉「せやけど江口先輩の場合、高嶋は信用しづらいんちやいます？高嶋は対抗に○出  
されてますよ？」

セ「何でや？そんなん気にせんでええやん！」

Q「いや気にしてください。まあとにかく、霊能のどつちに投票ですわ。しかしこ

の場合、狩人は残った霊能護衛についたほうがええんですかね？」

恭「狩人の判断に任せるべきやな。もし何かおかしい思ったら、噛まれるん覚悟してCOしてもらうしかないわ。」

竜「う、うちはどっちに投票すればええんや・・・!?」

怜「あんまこういうこと言うのもあれやけど、竜華はうちを信じたんちゃうんか・・・!?」

玄「むむ・・・私が霊能だと感じるのは・・・!」

洋「つまりこつちが霊能やってほうに投票すればいいんやな!? 分かりやすく結構やで!」

恭「逆ですわ! 間違えんといってください!」

洋&玄&セ「・・・おうっ!」

竜「?」

郁：時間やで。

一応言うてあげるけど、最多投票が処刑やからなく?

信じたほうに入れたら吊られてまうで?

ほな、投票スタート!

## ○投票結果

宥(0) ↓ 灼  
玄(0) ↓ 穩乃 灼(7) ↓ 穩乃 憧(0) ↓ 灼  
穩乃(6)

↓ 灼

怜(0) ↓ 灼 セーラ(0) ↓ 灼 竜華(0) ↓ 穩乃 浩子(0) ↓ 穩乃  
泉(0)

↓ 穩乃

洋榎(0) ↓ 灼 恭子(0) ↓ 灼 漫(0) ↓ 穩乃

投票の結果、鷺森灼さんは処刑されました。

灼「信頼勝負に負けた・・・でも、相手が穩乃じゃ仕方な・・・」

4 日目に続く・・・

## 阿智賀・千里山・姫松②

○4日目(昼) 犠牲 郁乃・由子・浩子

処刑 絹恵・灼

生存 宥・玄・憧・穩乃

怜・セーラ・竜華・泉・洋榎・恭子・漫

船久保浩子さんの無残な死体が発見されました。

郁：昨日の犠牲者は船久保さんやったまみたいやで。

着々と進行しとるみたいやけど、内約はどうなってるんやろな〜？

今日の会話時間は5分や。

ほなそろそろ始めるで〜？

4日目〜、スタート〜！



怜「おはようさん。初めに一言だけ言わせてほしいわ。竜華、あんたには失望したわ……！」

竜「ちや、ちやうんや怜！あれは疑ったんやなくて、勘違いしただけなんや〜!?」

憧「まあ清水谷さんの投票には驚いたわね。あんだけ言つといて、園城寺さん疑ってるんだって思ったし……」

泉「でも今の聞くと、本当に勘違いしただけなんちやいます？実際ありえそうで怖いですわ……」

セ「俺でさえギリギリで気付けたつちゆうんに……」

漫「これで高嶋さん吊られてて、園城寺さんと高嶋さんが真だったら……」

洋「今回の戦犯は決定してたつちゆうわけやな！」

竜「ちやうんや怜〜!?」

怜「ツーン」

穩「えっと、灼さんの結果は●です！信じてもらえないかもしれませんが、私目線では人狼です！」

宥「とりあえず、今は穩乃ちゃんが真という目線で行きます。もし違ったら、急いで考え直すという事です。」

恭「その余裕があるうちに、答えが出てほしいわ・・・」

憧「ま、こうなった以上は仕方ないわよ。宥姉え、占いよろしく!」

宥「うん。それでは占いの人、お願いします。せくの・・・」

玄「二条さん、●なのです!」

怜「洋ぼん、○やで。」

セ「竜華、○や。」

竜「・・・あ、あれ? セーラもうち占ってくれたん?」

憧「・・・セーラ、あんた・・・!」

泉「・・・なんか、私って毎度●出されてません・・・?」

玄「人狼だから仕方ないのです!」

泉「つてちやいますわ! 松実の妹さん、人外確定です!」

セ「落ち着きいや泉。・・・とりあえず、俺から言わしてもらうで? 初日に怜に占われとつたけど、それでも俺が竜華占ったんは、正に昨日の投票が理由や。もし竜華と鷺森が人狼やったら、身内庇つて穩乃に入れたんちやうかつて思つてな。せやけど結果は○やったし、どうやら本人が言ってる通り素で間違えただけみたいやで。」

竜「き、聞いたか怜!? セーラの言うとおりなんやで!」

怜「騙りの言うことなんか信じられんわ。」

竜「怜く!?」

怜「・・・ま、次は私が言わせてもらおか。うちが洋ぼん占つたんは、みんなも思ってる通りや。そろそろ色見んことには、危なつかしくて仕方ないからな。」

洋「なるほどく。どうやら園城寺は分かっているみたいやないか! よっしや! ほなあと  
の2人は騙り確定やな!」

セ「何でや!? 騙りの占い結果なんか信じられるか!」

玄「全くだよ! それに私はちゃんと●を見つけたんだからね!」

泉「信じられませんわ! 騙りがわざわざ名乗つたんですから、今日は松実さん吊りに  
決まっています!」

憧「・・・ちなみに、占つた理由は?」

玄「昨日の泉ちゃんの発言が気になったんだよ! 『人狼に狐を告発させるつもりか  
?』って言ってたけど、あそこまで読めるのは人狼自身だからじゃないのかなって思っ  
たの!」

怜「な、何でや・・・玄ちゃんは間違いないく騙りのはずやのに・・・!」

セ「か、輝いとるで・・・!」

玄「ムフ〜！」

恭「・・・悪いけど、確かに泉ちゃんは吊りやな。」

漫「無視するわけにもいきませんわ・・・。」

泉「な、何ですか?!?だって松実さんですよ!?!他の2人ならともかく、思いつきり人外候補やないですか!?!」

怜「対抗の●信じたくはないけど、こりやさすがに仕方ないで・・・」

セ「そうやな。泉、お前が村人や言うんなら、ここは素直に吊られとき?そんなら明日は玄ちゃんの騙りがばれるんやからな。」

泉「うう・・・確かにそりやそうなんですけど・・・!」

穩「その・・・村人なら、ちゃんと私が○だって証明します!ですから安心してください!?!」

泉「・・・一応は言うておきますけど、高嶋さん騙りつちゆう可能性も残ってるんですからね?」

穩「うっ・・・確かに・・・」

憧「自分で納得してどうすんのよ。真ならちゃんと胸張ってなさいっての。・・・それで、今日は二条さん吊りでいいの?」

宥「・・・そうだね。泉ちゃんには悪いけど、ここは占いの真偽を確かめるためにも、

吊られてくれるかな・・・？」

泉「・・・分かりましたわ。それなら村のため、この身捧げさせていただきます！」

宥「ごめんね？でも、ありがとう・・・。」

恭「・・・今日の吊り先が決まったんはええけど、若干時間が残りましたな。」

漫「どうします？時間スキップしますか？」

郁：ようやくスキップの定番？

いくのんワクワク♪

恭「・・・何でもいいから話し合いましたよか。ほな、とりあえず各目線の内約を言ってもらえますか？」

郁：・・・いくのんガツカリやく。

怜「そうやな。うち目線からすると、穩乃ちゃんは○や。これが狂人やなくて真とした場合、鷲森はんは人狼。○は竜華、洋ぼんやから、宥さんとうちを抜いて、残る6人の中に人狼2人と狐やな。対抗が狂人と人狼の確率が高いから、4人の中に人狼と狐や

で。」

憧「その4人っていうのは、私、二条さん、末原さん、上重さんでいいのよね？」

怜「その通りや。」

セ「次は俺やな。俺も穩乃が真つてことで話すで？その場合、鷺森は人狼。対抗が人狼と狂人つて考えると、こつちもグレーの中に人狼と狐や。ま、ほぼ同じやな。」

恭「こつちの場合、グレーの対象は、私、漫ちゃん、泉ちゃん、洋榎やな。」

セ「そういうこつちや。」

玄「私の内役は……」

郁：さくてあと1分やで〜♪

別にこれは仕返しちやうで〜♪

玄「」

憧「あく……シズが真の場合、人狼は灼と二条さん。末原さんをのぞいた7人の中に人狼と狐でしょ？」

玄「そ、そうなのです！ありがとうございます♪」

宥「玄ちゃん、難しいことは分かんないもんね？」

玄「あう……」

洋「……よう分かるで。うちも数学やら科学やらの時間には、常に頭痛と眠気に襲われとるんや……！」

セ「分かるわ〜。」

竜「うちはそんなことあらへんけど……」

怜「……成績良くても頭悪いつちゅうのがおるつちゅうこつちやな……」

竜「？」

穩「……エへ……」

憧「……言っておくけど、シズもそれに含まれてんだからね？」

穩「あうう……」

漫「……皆大変ですわ……」

恭「……吊り先が決まっつとるからええけど、もうちよい喋らんと漫ちゃんも吊られるで……」

漫「あう……!？」

郁：時間やで〜。

ほな投票初めてや〜？

## ○投票結果

宥(0) ↓ 泉      玄(1) ↓ 泉      憧(0) ↓ 泉      穩乃(0) ↓ 泉  
 怜(0) ↓ 泉      セーラ(0) ↓ 泉      竜華(0) ↓ 泉      泉(10) ↓ 玄  
 洋榎(0) ↓ 泉      恭子(0) ↓ 泉      漫(0) ↓ 泉

投票の結果、二条泉さんは処刑されました。

泉「うう・・・私いつもこんな役ばかりや・・・!？」

## ○5日目(昼) 犠牲 郁乃・由子・浩子・穩乃

処刑 絹恵・灼・泉

生存 宥・玄・憧・怜・セーラ・竜華・洋榎・恭子・漫  
 高嶋穩乃さんの無残な死体が発見されました。

郁：昨日の犠牲者は穩乃ちゃんみたいやで。

残った霊能も噛まれたみたいやなく？



もしかして、これって……♪  
今日の会話時間は4分や。

そろそろペース上げとこか♪

ほな5日目、スタート♪

憧「……ここでシズが嘯まれるってわけね。」

洋「つちゆうことは、玄ちゃん真目が強いつちゆうこつちやな。」

漫「泉ちゃん、人狼やったってことですか……!？」

恭「そう考えても間違いないやろうな。それよりむしろ問題は……」

セ「……狩人、おらんちやうか？」

竜「昨日は穩乃ちゃんの鉄板護衛なんちやう!？」

怜「それを抜いてきたんや。つまり狩人は欠けか……」

憧「……船久保さんの可能性が高いわね。嘯まれる前日、狩人が霊能を守るかどうか気にしてたし……!」

洋「もしそれが当たりなら、人狼にそれを見抜かれたつちゆうこつちやな……!」  
セ「……あかん。狩人おらんって、これではれたわけや。」

怜「もしかしたら、まだ伏せとるかもしれん。昨日は気まぐれ起こしただけつちゆう可能性もあるしな。」

憧「そんな気まぐれ起こす狩人、こつちから願ひ下げだつての！それより、これで對抗の2人は吊り候補になつたわけなんだけど？」

宥「とりあえず、占いの結果をお願いします。それで判断しますので。」

セ「了解や。少しでも情報は残してくで。」

怜「そつちの情報はいらんわ。うちは大情報を見つけたんやからな．．．！」

玄「何を言つても、人外のたわ言にしか聞こえないのです！」

宥「それではお願いします。せくの．．．！」

怜「玄ちゃん、○やで！」

玄「洋榎さん、●なのです！」

セ「玄ちゃん、○や！」

怜「．．．ん？」

セ「お前、俺と同じ結果つて．．．!?」

憧「．．．どういうこと?つていうか、何でそこを占つたわけ．．．?」

セ「ああ、説明しとこか。まず俺目線、玄ちゃんは人外や。これで泉が単なる犠牲者ならともかく、逆囲いなら洒落にならん。そう思つて先に占つたんやけど、結果は○。呪殺もしとらんから狂人確定や。」

怜「悪いけどうちも同じやで。逆囲いされたら真の目を持つてかれてまうと思つたからな。それで占つたんやけど、結果は○。うち目線でも狂人確定や。」

玄「わざわざ私を占う理由が分からないのです！でも私は見抜いたよ！昨日園城寺さんに囲われたんじゃないかと思つて占つたら、やっぱり●だったのです！でもまだ狐が分からないから、吊つちや駄目だからね!？」

漫「確かに、高嶋さんが真の場合、主将でラストになりますわ・・・!」

憧「つてことは、あとは狐ね。こうなると、狩人不在つてのは痛いわね・・・!」

竜「洋榎、玄ちゃんを噛んじや駄目やで？狐勝ちになつてまうわ。」

洋「心配せんでも噛めへんわ。おい玄ちゃんや。ようもうちに●つけてくれよつたな・・・!？」

玄「私の目は誤魔化せなかつたつてことだよ！この調子で狐も見つけるからね、お姉ちゃん!」

宥「・・・うん、そうだね。あとでたつぷり、お話しようね・・・?」

玄「へ?」

憧「……………え、まさか…………」

洋「耳かっぽじってよう聞きや！CO共有や！宥の相方の洋榎とは…………うちのことやで〜!!」

玄「」

怜「……………なんや。わざわざ占わんでも自爆してくれてたつちゆうことか。」

セ「いや、狂人やつちゆうことは分かったからな。あとは怜の内約だけや。」

恭「……………つちゆうことは、人狼ではないつちゆうことやから…………」

漫「……………なんか分かったんですか？先輩。」

恭「……………ああ、分かった気がするわ。園城寺と江口は真と狼、そこで狐が潜伏やな。」

竜「ど、どうして分かるんや!？」

憧「……………ああ、そっか…………!」

恭「新子は分かったみたいやな。理由は、今日高鴨が噛まれてるつちゆうことや。」

宥「……………うん。多分人狼は残り1匹。その内約で間違つてないと思うな。」

漫「え、えつと…………?」

恭「つまりや漫ちゃん。昨日泉が吊られた時点で、人狼は1匹の可能性が高いんや。」

そして高鴨を噛んだんは、これ以上の情報が私らに漏れるんを防ぐためと、2番目に消えてほしい役職やったからや。」

憧「おそらく、人狼の目にも玄が真だと映っちゃったんでしょね。でも、これで玄を噛んだら玄が真だって証明するようなものだし、何よりシズが残るわけだから、人狼が1匹だつてばれることにもなる。そうすると疑いの目は残る占いに向けられて、遅くても明日日には吊るされる。人狼の残る手は、COLWして、命乞いするぐらいしか残ってはいない。」

宥「でもそれをしたら、狐が消えた時点で吊られちゃう。仕方ないから人狼は穩乃ちゃんを噛んで、色が分からなくした。そして玄ちゃんに○をつけることで、あくまで玄ちゃんは狂人で、あれは狂人の誤爆。霊能を噛んで色を分からなくしたのは、人狼が玄ちゃんを真だと勘違いしただけ。真は自分なんだ、と混乱させたかった。」

竜「・・・でも玄ちゃんが自爆して、さらに真も玄ちゃんを占っていたことで、はっきりと答えが出たんやな！玄ちゃん人外確定で、2人とも狂人認定しとるつちゆうことは・・・！」

漫「で、でもこの場合、真がおらん可能性もあるんじゃないですか!?!もし占いが、狂狼狐やつたら・・・!?!」

憧「確かに占い真欠けの場合、今回のケースにも当てはまるわ。まず噛まれたシズは

確実に真か狂人。シズが真で占い真欠けなら、玄も含めて3人で狂狼狐。園城寺さんとセーラのどっちかが人狼ね。それで二条さんと灼も人狼だわ。そして灼が真、シズが狂人の場合。でもこの場合、占い真欠けの時には、狼狼狼か狼狼狐。正直わざわざシズを嘯む理由が見当たらないわ。」

恭「実際、泉ちゃんが村の可能性もある。だけどその場合、残った占い2人は確実に人外+1匹潜伏や。さすがに人狼3匹で占い騙りはしてこんやろ。どちらにしる占い吊りは確実やな。」

憧「それに、これで人狼は対抗を嘯みづらくなつたわけだしね。」

宥「私たちの目には、まだどっちが真か分からないしね・・・。」

洋「対抗嘯んだら残りが狼は確実やろ。まさか人狼が伏せてて狐が騙つとるっちゆうことはないやろうし。」

竜「そ、その通りや！もし占い皆おらんなくてもゲームが続けば、人狼が伏せとるっちゆうことが分かるだけで・・・！」

怜「・・・それにしても、まさかそういう理由で玄ちゃんに○出したとは・・・セーラ、こういうゲームには頭回るんやな・・・？」

セ「回るかつちゆうねん。そういう狡賢いんは怜とフナQの十八番やろうが。」

郁：残り1分やで。

ほな結論まとめよか？

宥「……では、今日は玄ちゃん吊りです。」

憧「で、本当に狂人だったの？何回狂人やれば気が済むのよ……!？」

竜「普通に凄い思うけどな？」

玄「違うのです……私は狂人じゃないのです……!？」

漫「でもこれで、あとは人狼と狐だけですわ！」

恭「そうやな。占いはギリギリまで占ってほしいわ。」

洋「呪殺が出たら、それで終了やで。」

怜「全くや。ほなさっさと狐さん探すとしよか。」

セ「それは俺の仕事やっちゅうねん。」

郁：投票のお時間やで。

ほな皆、投票してや〜♪

### ○投票結果

宥(0) ↓ 玄 玄(8) ↓ 憧 憧(1) ↓ 玄  
 怜(0) ↓ 玄 セーラ(0) ↓ 玄 竜華(0) ↓ 玄  
 洋榎(0) ↓ 玄 恭子(0) ↓ 玄 漫(0) ↓ 玄  
 投票の結果、松実玄さんは処刑されました。

玄「うう……ワオ……ン!?」

憧「……っていうか、何で私に投票してるんだつての……!?」

6 日目に続く……



## 阿智賀・千里山・姫松③

○6日目（昼） 犠牲 郁乃・由子・浩子・穂乃・セーラ

処刑 絹恵・灼・泉・玄

生存 宥・憧・怜・竜華・洋榎・恭子・漫

江口セーラさんの無残な死体が発見されました。

郁：あれれ、昨日は江口っちゃんがやられちゃったみたいやなく。

明日は誰がやられるんか、いくのんワクワクやで♪

今日の会話時間は3分やで♪。

そろそろ大変になってきたんちゃう？

ほな6日目、スタート！

憧「……まさか対抗を噛むとはね。」

怜「ちやうで。うちの占い結果はセーラ○や。万が一セーラが人狼やなくて狐やった場合を警戒したんやけど、本当に人狼やなくて狐やったわ。死体が一つしかないつちゆうんは、人狼の噛み先がうちの占い先と被ったつちゆうことやな。」

洋「占いの内約は真狂狐で、占いを消しに昨日襲撃したつちゆうことか?・・・正直、うちにはめつちや怪しく思えるんやけどな。」

漫「た、確かに・・・」

宥「・・・でも、園城寺さんが真なら、残った中に人狼が一匹だよね・・・?」

怜「そうや。つまり、新子さん、上重さんのどつちかが人狼やつちゆうことや。昨日玄ちゃんやんが憧ちゃんに投票しとったから、逆に上重さんが怪しいんやないかってうちは思うんやけど・・・」

漫「わ、私ですか!?!私は普通の村人ですう!!」

憧「私だつて違うわよ!あれは玄の私に対する嫌がらせよ!」

恭「・・・せやけど、江口が真の可能性だつてあるんやで?その場合、残った園城寺が狐つちゆうことやろ?正直怪しすぎるし、私は確実に吊つておきたいとこなんやけど・・・」

憧「確かにそつちが真なら、園城寺さんは狐。末原さん、上重さんのどつちか、よね・・・」

?

竜「うちは……？」

怜「竜華と共有の2人は確定や。うちもセーラム、両方竜華を占つとるからな。」

洋「ん……今日は誰を吊ったほうがええんやろうか……？」

宥「……今日は、園城寺さんに投票しましょう。それで本当に終わらなかつた場合は、憧ちゃんと上重さんを明日選びます。」

恭「確かに、そんなら吊り数的にも間に合うな。」

竜「最終日までいってまうけど、これで村勝ち確定やな！怜のおかげやで♪」

怜「ふむ……確かに狐はおらんわけやし、うちの占い無しで吊つても、吊り数的にもギリギリ間に合うか。」

宥「はい。その、疑うわけじゃないんですけど、念には念を入れたいので……」

怜「いや、謝る必要はないで。むしろよく気付いたつちゆうもんや。宥ちゃん、あんたは本当に頼りになるで……！」

竜「怜……！」

宥「園城寺さん……！」

怜「……ま、COLWするんやけどな。」

郁：残りーぷるん♪

竜「」

宥「」

洋「……って何でこんなギリギリでそんな大事なこと言うねん!？」

怜「しゃあないやないか……。吊られるんが分かってたら、さすがに言わんと狐勝ちやし……」

憧「……つてことは、セーラのほうが真だったつてことね。えつとこの場合……」

恭「……私と漫ちゃんやな。」

漫「嘘……末原先輩……!？」

恭「……漫ちゃん。さっさとCOしい。」

漫「!?ちや、ちやいます!私は狐じゃありません!？」

洋「……どうするんや?宥。」

宥「……そ、その2人に投票で。明日は残った人。最後に園城寺さんです。」  
 憧「ん。分かったわ。」

怜「……ま、しゃあないやろ。」

竜「」

郁：時間が来たで〜。

ほな投票や〜♪

○投票結果

宥(0) ↓ 恭子      憧(0) ↓ 漫

怜(0) ↓ 恭子      竜華(0) ↓ 恭子

洋榎(0) ↓ 漫      恭子(4) ↓ 漫      漫(3) ↓ 恭子

投票の結果、末原恭子さんは処刑されました。

恭「……はあ。まさか、ここで対抗噛んでくるとは予想外やで……」

○7日目(昼) 犠牲 郁乃・由子・浩子・穂乃・セーラ・洋榎

処刑 絹恵・灼・泉・玄・恭子

生存 宥・憧・怜・竜華・漫

愛宕洋榎さんの無残な死体が発見されました。

郁：ついに7日目やで〜♪

もう決着つくんかな〜？

はたして明日は来るんやろか〜♪

今日はわずか1分やで〜。

明日もそのまま1分やから、ちゃんと決めてな〜。

ほな7日目〜スタート〜！

宥「おはようございます。それで、念のため今日は上重さんを吊りたいんだけど……」  
 怜「おはようさん。とりあえずうちの話聞いてほしい。まずはすまん。うちの占い  
 結果は憧ちゃん●や。吊られたくなくて、昨日嘘をついたことを謝るで。うちは真の占

い師なんや……！」

宥「」

憧「」

漫「」

怜「エツヘン」

宥「……上重さんを吊りたいんだけど、いいかな？」

漫「構いまへん。私は村人ですけど、念には念を入れるべきです！」

怜「……あれ？おおい、無視はきついで〜？」

竜「怜……もうやめようや……？」

憧「……さすがに、誤魔化される人はいないと思うわよ？」

怜「……ちっ……」

憧「……なんていうか、もう吊っちゃってもいい気がしてきたわ……！」

宥「……い、一応……ね？」

郁：残り10秒や〜♪

宥「では、上重さんでお願いします。」

憧「りよくかい。念には念を入れましょう。」

漫「後はよろしくお願いしますう！」

怜「あ、あかん！今日は憧ちゃんを吊らな・・・!？」

竜「怜・・・もうやめようや・・・!？」

郁：時間やで♪

ほな投票スタート♪

○投票結果

宥(0) ↓ 漫      憧(1) ↓ 漫

怜(1) ↓ 憧      竜華(0) ↓ 漫

漫(3) ↓ 怜

投票の結果、上重漫さんは処刑されました。

漫「ほな、あとは園城寺さんを吊るだけですわ！」



○8日目(昼) 犠牲 郁乃・由子・浩子・穩乃・セーラ・洋榎・憧

処刑 絹恵・灼・泉・玄・恭子・漫

生存 宥・怜・竜華

新子憧さんの無残な死体が発見されました。

郁：ついに3人やなく♪

残ってる人の内約、ちゃんと分かつとるんか？

もしかしたら、ドキドキな結果になるかもしれなくて♪

最終日はやっぱり1分や。

スピード勝負で決めていこか！

ほな運命の8日目・・・

スタートやっ!!

怜「うちの占い結果は宥ちゃん●や！まさか共有を乗っ取ってるとは・・・完全に騙されとったで。危うく負けるところやったわ・・・！」

竜「」

宥「」

怜「つまり相方の洋ぼんも騙りやったわけやな！共有騙りとは、ようもうちを騙してくれたもんやで……！でも竜華、これでうちを信じてくれるな……!?!」

竜&宥「スキップで。」

怜「……ちえ……」

○投票結果

宥（1）↓怜      怜（2）↓宥      竜華（0）↓怜

投票の結果、園城寺怜さんが処刑されました。

この瞬間、全ての人狼が処刑されました。

おめでとうございます！

今回は村人の勝利です!!

怜「竜華なんて嫌いや・・・」

竜「・・・ええ加減にせんと、うちかて怒るときは怒るんやで?」

怜「・・・あ、あかん・・・!?」

宥「・・・か、勝てたく・・・♪」

怜「・・・本当に残念や。あともう少しやつたんやけど・・・」

灼「し、仕方な・・・今回は運が悪かった・・・」

泉「全くですわ。っていうか、まさか妹さんが誤爆するとは思いませんで・・・!!」

玄「ただただ申し訳ないのです・・・!」

園城寺怜・鷺森灼・二条泉（人狼） 松実玄（狂人）

洋「最後は人狼もよう粘ってたけど、さすがに逆転はされんかったな。」

宥「うん。なんとか、あったかい結果になったよ・・・♪」

セ「それにしても、まさかあそこで俺を嘯んでくるとは思わなかったわ・・・」

穩「泉が●って出たときは、てつきり玄さんが真だと思っていました・・・！」

Q「まあ何にしても、勝つて良かったですわ。これで負けてたら、狩人やつちゆうことがばれた私の責任になるとこでしたわ・・・！」

愛宕洋榎・松実宥（共有） 江口セーラ（占い師） 高鴨穩乃（霊能） 船久保浩子（狩人）

恭「今回はいけるんちやうか思ってたんやけどな・・・本当に残念ですわ・・・！」

末原恭子（狐）

漫「酷いですわ末原先輩は！私を疑うなんて！」

絹「まあ末原先輩自身が狐やったんやし、仕方ないんちやう？」

憧「まあでも、本当にセーラの奴が真だなんて思わなかったわ。正直ビックリしたわよ。」

由「私も、てつきり玄ちゃんか、占い欠けかと思つたのよ。」

竜「全く酷いで怜！全部嘘ばっかりやないか・・・!？」

新子憧・愛宕絹恵・上重漫・真瀬由子・清水谷竜華（村人）

セ「いや〜！とにかく勝てて良かったで〜！」

憧「良かった〜じゃないわよ！真なら真らしく、もつとちゃんと考えて占いなさいっての！おかげで全然信じれなかったじゃない!?」

セ「そんなんはしゃ〜ないわ。考えても分からんもんは分からんのや。」

Q「全く、そんなんじゃ次のゲームで遅れをとりますで？私がレクチャーしたりしますから、こんな小娘放つといて、はよ向こういきましよう!」

セ「は?・・・って、い、行くから引つ張るんやないって・・・!?」

憧「・・・いや、取りやしないから安心しなさいっての。」

漫「や、やっぱりあの2人・・・!?」

泉「・・・一応言うときますけど、あくまで一方通行ですからね？ほんまに。」

穩「うあ〜。瞞まれちゃったけど、でもやっぱり勝つと気持ちいい〜！」

憧「最後はグダグダになりかけたけどね。本当、狐に漁夫の利を持つてかれなくて良かったわよ・・・」

宥「そうだね・・・。」

穩「え！何それ強そう!？」

憧&宥「え・・・？」

呂布海苔

灼「でも、いきなりCOされて、ちよつと焦った・・・」

玄「うう・・・私のくじ運おかしいよ。なんでまた狂人なの・・・？」

憧「・・・そ、そればかりは、さすがに謎よね・・・」

灼「驚いてるみたいだよ・・・？」

穩「え？誰がですか？」

灼「書いてる人。」

穩「？」

洋「・・・まあメタな話はおいといてや。今回の罰ゲームは誰なんや？」

郁「ああ、それならみんなが選んでくれたで〜？」

恭「誰になったんです？」

漫「まあ何となく分かる気も・・・」

郁「はいコレ。ちゃんと飲みきってな〜♪」

玄「」

憧「・・・ま、そりやそうよね。」

絹「仲間の人狼追い込んでまったからなく。」

怜「戦略とは別にな。ほんまにあれは参ったで・・・」

泉「私口を滑らせたんがばれてた〜って思ったんですけど・・・その相手が狂人ですからね。」

灼「それで○ならともかく、さらに追い討ちを・・・」

怜「庇いようがないつちゆうこつちやな。」

玄「」





泉「いや、明らかにおかしかつたやないですか？あの時、狩人はどうしたらいいのかなんて本人しか気にしませんて。」

セ「フナQも泉にやられてまうようじゃ、まだまだってことやなく？」

Q「ほんまですわ．．．！こりややること色々増えたつてもんです．．．!？」

泉「ひっ．．．!？」

竜「次嘘ついたら、もう膝枕してあげんどく？」

怜「そ、それは殺生やで．．．!？」

セ「．．．なんちゆうか．．．ま、俺らはこんな感じが一番やな！」

宥「玄ちゃん、大丈夫．．．？」

玄「の、飲みき．．．った．．．ので、す．．．!？」

憧「うわ．．．よく飲めたわね、あれ．．．!？」

穩「さすがに全部はきついよね。」

灼「．．．そういえば．．．」

憧「ん？どうしたの？灼？」

灼「ハルちゃん達がいな．．．」

穩「．．．あれ、本当だ．．．？」

宥「愛宕監督も、いないみたいだけど．．．？」

郁「あの2人ならくそろそろ戻ってくるで？」

恭「どこ行つてゐるんですか？」

洋「もしかしてジューズか!？」

穩「飲み物ならここにまだ．．．」

洋「．．．つて、それはいらん!？」

セ「もう勘弁や．．．」

玄「ひい!？お、お姉ちゃ〜ん!？」

宥「よしよし．．．」

憧「．．．一応聞いてくけど、作ったメインは玄なのよね．．．？」

絹「．．．でも、本当にどこへ行つたんですか？」

郁「行つた〜いうよりは、ちよい準備やな〜♪」

宥「．．．準備．．．？」

憧「．．．まさか．．．!？」

郁「ちやうで〜？次はちよつと趣向を凝らす〜言つたやろ〜？」

泉「あ、そういえば．．．」

由「忘れてたのよ〜」

穩「つてことは、何か新しいルールが!？」

晴「準備できたよ!!」

灼「ハルちゃん……!」

怜「鷺森はんが……」

セ「輝いとるで……!?!」

憧「いや、それはもういいっての……。」

雅「準備つちゆうても部屋を用意しただけや。今日最後のゲームになるんやから、ちちゃんと聞きたいや。」

晴「そういうことだよ!最後の人狼ゲーム、それは……」

晴「題して……!!」

続く……

## 阿智賀・千里山・姫松（犠牲者たちの集い）

○3日目（昼） 絹恵・由子

由「もう・・・またいきなり嘯まれちゃったのよ・・・!!」

絹「しゃあないですって。こればかりは人狼の都合なんですし？」

由「それは分かるけど、もうちよつと参加したかったのよ。」

絹「それはうちも同じですわ。ほんまもうちよい喋つときやよかったですわ。」

由「全くなのよ。」

絹「それにしても・・・由子先輩はどう思います？各役職の真偽は。」

由「・・・正直、まだ判別がつかないのよ。でも、何となく鷺森さんはちよつと怪しいかなうって思うのよ。」

絹「やっぱそう思います？何だか慌てて霊能に乗ってきたって感じがしましたわ。」

由「私もそう思うのよ。でも占いのほうは、本当に分からないのよ。」

絹「正直、3人とも騙りくさい雰囲気ですからね。今日の占い結果も、全員○出しやし・・・って、霊能を決め打つやて!？」

由「ど、度胸あるのよ・・・」

絹「でもこれ、間違えてたら洒落になりまへんで!?!ほんまに人狼ペースになつてまう!」

由「でも、確かに一つの手ではあるのよ。余計な情報はカットするって言うのも、一つの良策なのよ。」

絹「それが正しいんなら、そら問題はないですけど・・・」

由「間違えてるって分かったら、急いで修正するのよ。」

絹「間に合えば、ですよね・・・?」

由「・・・もちろんなのよ・・・。」

○4日目（昼） 絹恵・由子・灼・浩子

Q「あかん・・・まさかここで嘯まれてまうとは・・・!？」

灼「・・・一応聞いておくけど、まさか狩人?そんな雰囲気が出てたけど・・・?」

Q「・・・ノーコメントです。ゲームが終わればはつきりしますわ・・・」  
 灼「そ、そう・・・」

絹「ちなみに、灼ちゃんは真なん？それとも騙り？」

灼「私は真・・・でも、負けた以上は何も言えない・・・」

由「でも、穏乃ちゃんは鷺森さんに●出してるのよ。これが正しいんじゃないんだ  
 けど・・・」

絹「あ、今は穏乃ちゃん真で話進める言うてますね。松実さんって、見た目よりグイ  
 グイいくタイプみたいですわ・・・」

灼「・・・宥さんは、普段は裏方に徹してるけど、元々はああいう人。回りに気を使  
 いすぎるから、いつも引き下がっちゃうけど・・・」

Q「ふむ。ゲームとはいえ、リーダーの役目を与えられた以上は、それをしっかりこ  
 なすつちゆうわけですな。また新しい情報手に入れましたわ・・・！」

由「・・・あ、泉ちゃんが●出されたのよ。」

灼「どうなんだろ・・・玄が本当に真なら、ほぼ決まりなんだろうけど・・・」

絹「江口先輩は清水谷先輩占つとりますね？もしかして、江口先輩が狂人なんちゃい  
 ますか？」

Q「確かにそうかもしれんですわ。ですが、昨日の清水谷先輩の投票が気になったん

も、確かに間違いないですし・・・」

由「千里山のメンバーは、余計にそれが不思議に見えるのよ。・・・ああ、やつぱり泉ちゃんが吊られるのよ。」

灼「仕方な・・・あまり嫌がっても、人狼だと認めるだけ・・・」

Q「ほんま、どうなるんでしような。できれば明日の霊能結果には期待したいとこなんですが・・・」

絹「穏乃ちゃんが真かどうか分からはいえ、さすがに今日は守りに行くんちゃいますかね？狩人さん。」

Q「いや・・・そうやな・・・」

灼「・・・残ってれば、ね・・・」

由「・・・のよ・・・？」

○5日目（昼） 絹恵・由子・灼・浩子・泉・穏乃

穏「噛まれたら!?!」

泉「何してんですか!?!私の無実証明する言うてたやないですか!?!」

穏「そんなの狩人の人に言つてよ!?!それに、私の結果には泉は●つて出たんだからね

!

泉「はあ!? ってことは、やっぱりあんたも騙りやないか?!

穩「違うよ!」

泉「違いますわ!」

穩&泉「ガルル・・・!」

灼「お疲れ、2人とも・・・」

Q「今日高嶋さんが噛まれたことについて、まさに議論してるところやで?」

絹「・・・あの、狩人は船久保さんやないかって言うてるんですけど・・・?」

由「どうなのよ?」

Q「・・・ノーコメントですわ。」

穩「船久保さん狩人だったの?!

Q「せやからノーコメント言うてるやろうが!」

灼「落ち着いて・・・あ、占いの結果が・・・」

絹「お姉ちゃんが●!?ほんま!」

由「なんだか納得できそうな結果なのよ・・・。」

泉「ちやいます!松実さんは騙りですわ!」

穩「玄さんは真だよ!だから私噛まれたの!」



洋『うちのことやで〜!?』

穩□

灼□

Q□

由□

絹□

泉「……さて、聞かせてもらいましょか。誰が真ですって？」

穩「……あつれ〜!?」

Q「……となると、泉も村人っちゆうことか？」

灼「それは分からな……玄はほぼ狂人認定されてるから、単に誤爆したっていう可能性も……」

絹「お姉ちゃんが生き生きしとる……」

由「きつと、あれを言いたくてうずうずしてたのよ〜。」

泉「でもまあ、これで松実さん吊りも確定ですわ。」

灼「うん。後は、潜伏してる人外を探すだけ……」

Q 「にしても、こうなるとどつちが真なんや？正直どつちも胡散臭いんやけど……？」

泉 「もしかして、本当に占い欠けの狼狼狐とかじゃ……？」

絹 「それはまたレアなケースやな……」

由 「度胸ありすぎなのよ。」

灼 「あとは、明日の占い待ち……」

泉 「何にしても、これで村勝ちにはなりそうですわ。」

絹 「ほんまやね。」

由 「全くなのよ。」

Q 「助かりますわ……」

穏 「……あつれ……!？」

6日目(昼) 絹恵・由子・灼・浩子・泉・穏乃・玄・セーラ

セ 「ここで俺囃まれるんかい……」

玄 「でも、園城寺さんは狐だって言ってるのです。」

セ 「んなわけあるかい。ありやそれっぽいこと言っただけや。」

Q 「ほんまですか？」

灼 「疑わし……」

セ 「ほんまやっちゅうの。まあすぐに怜の化けの皮が剥がれるわ。よう見ててみい。」

穩 「んゝ……江口さんが真？でも園城寺さんの可能性も……？」

絹 「……ん。今日は園城寺さんみたいですわ。」

由 「残りの吊り数を考えれば、安全にいくべきなのよ。」

Q 「その通りですわ。ここは園城寺先輩吊って、あとは残りを吊ればええですわ。」

泉 「でもこれで、何とか村勝ちになりそうですわ！」

怜 『ま、LWCOするんやけどな。』

Q 「」

穩 「……うきゆ？」

セ 「ほくれみい。そもそも俺は昨日怜を占ってるんやから、こうなることぐらい分かっとるわ。」

絹 「え……ってことは……？」

泉 「……末原さんが、上重さんにCOしいって言ってますわ。」

セ「確定やろ。狐は末原やな。」

Q「・・・ま、まあ、勝ちはずわ。うん。」

○7日目（昼） 絹恵・由子・灼・浩子・泉・穩乃・玄・セーラ・恭子・洋榎

恭「・・・勝てるわけがないわ。」

洋「つたく、最後の最後に何やらかしてくるんやつちゆうねん！」

セ「危なく狐勝ちになるとこだったわ。」

洋「つちゆうか、お前が占い師やったんか!? さつぱり分からんかったわ！」

セ「迷彩が利いてたつちゆうことや。俺のプレイングもなかなかやろ？」

洋「阿呆抜かしいや!?! 単に胡散臭かっただけや！」

絹「・・・えつと、園城寺さんが新子さんが●や言うてますけど・・・？」

Q「いや、信じてええでしょ。」

洋「当たり前や! ここまで来て騙されるかい!?!」

穩「でも、園城寺さんが真なら・・・？」

セ「・・・穩乃はあれやな。うん。お前はそのまま育つんやで？」

灼「間違いな・・・」

玄「癒されるよね〜♪」

穩「ウキユ？」

○8日目（昼） 絹枝・由子・灼・浩子・泉・穩乃・玄・セーラ・恭子・洋榎・漫・憧

漫「末原先輩なんか嫌いですう！」

恭「しゃあないやないか。私かて生き残るんに必死やったんやから・・・」

憧「つていうか、私に●出してるのに私を嘔むの？矛盾しすぎだつていうのよ・・・」

セ「怜本人も気付いてやってるんやろ。さすがにもう無理やて。」

洋「ほんまやで。こつからひっくり返すんはさすがに出来ん・・・つて、今度はよりによつて宥に●かい・・・！」

絹「園城寺さん、もうやけになつとるわ。」

Q「しゃあないですわ。こうなつたら、清水谷先輩に同情で票をもらうぐらいしか出来んですし・・・。」

穩「あ、スキップした。」

泉「終了ですわ・・・。」

玄「負けちゃったのです・・・」

ゲームは終了いたしました。

阿智賀・千里山・姫松+α ①

郁：さて始めるで〜♪

今回は晴絵ちゃんと愛宕さんも混ざったの17人プレイやな〜。

遅刻した罰言うて、うちが進行役なんて酷いと思わん〜？

ま、別にええんやけどな〜♪

恭「ええんならいちいち言わんといってください。それで、結局今回はどんなルールな  
んですか？」

郁：簡単やで〜？

いつも一日の終わりに皆で投票してるやろ〜？

あれを無くしちやうだけ♪

洋「はあ!？」

セ「そんなら誰が吊られるっちゆうねん!？」

郁：その答えがこれやで♪

ずばり、『絶対者村』♪

絹「絶対者・・・？」

由「新しい役職なのよ？」

郁：ちやうで？

絶対者っちゆうんは、共有の片方だけがなれる特別な役職や。

どっちがなるかは、共有で話し合って決めてもらったわ。

ゲームが始まったら一切の変更は不可能やで♪



漫「それで、その絶対者っちゅうんは結局何なんです……？」

郁：投票権を持つ、唯一の役職やな♪

つまり、村人たちの命運は、全て絶対者の判断に委ねられるんや♪

憧「うわ……」

灼「……お願いだから、まともな人になってほし……！」

泉「ほんまですわ……」

郁：なおそのルール上、絶対者がいなくなったらゲームの進行が出来なくなるからな  
。

人狼は、決して絶対者には嘸み付けんようになってるで？

ちなみに絶対者を占つてもええけど、絶対者を騙つてもすぐにばれてまうからな

。

占うだけ一回無駄にするだけやな♪

恭「……つまり、絶対嘸まれない共有で……」

Q 「唯一投票できる役職つちゆうわけや……。」  
怜 「まさに絶対者つちゆうこつちやな……。」

郁：絶対者に意見を言うのは構わんけど、それでも指示は絶対やで〜？

絶対者が何々しろ〜言うたら、必ず従つてな〜？

ゲーム残り30秒になった時点でそれ伝えるから、そつからは一切の会話は禁止や。

そこからは絶対者のターンやで〜♪

晴 「用意してたから分かつちやいたんだけど……。」

雅 「ほんまに、誰が絶対者になるかで命運変わるわこれ……。」

郁：ちなみに、絶対者にも逃げ道はあるで？

絶対者がグレランや言うたら、皆で怪しい人の名前を言つてつてな？

そんでそれを聞いて絶対者が投票するんやけど、そのとき必ずしも一番投票が多い人に投票せんでもええからな〜？

ほなルールの説明や。

今回は人狼(3)、狂人(1)、狐(1)、背徳者(1)、共有(2)、占い師(1)、霊能(1)、狩人(1)、猫又(1)、村人(6)で、初日役欠け有り、占い有りの、17人プレイや。

ちなみに絶対者を騙つてもええけど、投票時に一発ではばれるから、あんまお勧めはできんぞ〜?

なんせうちは本物にしか投票させんからな〜♪

玄「むむ。腕が鳴るのです!」

穩「頑張るぞ〜!」

竜「うちも頑張るで!」

憧「……………ま、頑張るのはいいことよね……………」

郁：初日は7分や。

残り30秒言うたら、一切の会話は禁止やで?

ほな、絶対者村……………

スタート〜！

○2日目（昼） 犠牲 郁乃

処刑 なし

生存 晴絵・雅枝・宥・玄・灼・憧・穩乃

怜・セーラ・竜華・浩子・泉・由子・洋榎・恭子・漫・絹恵

晴「おはよう。今回もよろしくね！」

雅「うちは今回が初めてやな。まあよろしく頼むわ。」

竜「監督が一緒なら心強いで！」

Q「村人ならつちゆう前提が付きますけどな？」

セ「んで、絶対者つちゆうは一体誰なんや？まさかとは思うけどお前じゃないやろうな？」

洋「ふつ。あいにくやけどうちじやないで。うちが絶対者やったら問答無用でお前を吊ったつたとこなんやけどな・・・！」

セ「奇遇やな。俺が絶対者やったら、お前を吊つてたところやったわ・・・！」

怜「・・・で、結局誰なん？」

宥「共有の、片方がそうなんだよね・・・？」

憧「絶対者さくくん。COよろしく。」

玄「・・・絶対者は、私なのです!!」

恭「」

Q「」

憧「」

セ「・・・狂人、だよな？」

洋「そ、そうに決まっとる・・・！」

宥「く、玄ちゃん？そこは嘘ついちゃ駄目だよ・・・？」

玄「本当だよ！私が絶対者なの！」

穩「玄さんが絶対者だったんですね！」

竜「玄ちゃん頑張つてな〜♪」

玄「私に任せます！」

泉「あかんですわ・・・！」

漫「は、はは……」

由「……お先が真つ暗なのよ……」

恭「……つちゆうか、共有の相方は誰なんや!? 玄ちゃんに絶対者任すとは……!」  
洋「ほんまやで! 潜伏せんと出てきい!」

玄「相方は初日の犠牲者さんだったのです!」

Q「」

セ「……あかん。もう終わってもうた……!?」

灼「……残念……」

絹「うち、もうちよい活躍したかったわ……」

晴「……ま、まあ、頑張ろう。うん……」

雅「先が思いやられるわ……」

玄「それじゃあさつそくだけど、占いからお願ひするよ! 準備はいい?」

憧「……そ、そうよ。落ち込んでなんかいられないわ……!」

Q「……その通りや。まだ負けと決まったわけやないんや……!」

恭「私の推理で、何とか村勝ちに導いたで……!」

漫「末原先輩……！」

玄「それじゃあいにくよ！占い、せうの！」

晴「愛宕監督、○だよ。」

竜「怜、○やで！」

雅「洋榎、○やな。」

怜「おう。また竜華が占い師なんか……」

セ「でも、大人2人も占い師候補やで？」

洋「おかんは何でうちを占ったんや？」

晴「えっと、理由を言ってもいいかい？」

玄「お願いするのです！」

晴「それじゃあ私から……私が愛宕監督を占ったのは、この中で一番発言力がある  
と予想したからだよ。初参加者でも、あの人の意見には強い力があるからね。もし人狼  
だったりしたら、それこそ村負け一直線になりかねない。それを警戒して占ったんだけ  
ど、騙ってきたことは狂人が背徳者ってことだね。」

雅「うちから見れば、そっちは人外確定やけどな。うちがわざわざ娘占ったんは、まあ

言つてまえば信用出来へんからや。麻雀の実力はともかく、こいつが口八丁なのは親のうちが一番よう分かつとる。せやから最初に確認しといたんや。」

洋「おかんなんて嫌いや・・・！」

絹「まあまあ・・・」

竜「うちが占つたんは怜や！これで怜は村人確定やで!？」

怜「・・・いや、せやから理由をやな・・・？」

Q「おそらく、園城寺先輩だからつちゆうことやないですか？」

泉「ほんまにありえそうで怖いですわ・・・」

セ「竜華が嘘つくとは思えんけど、一番騙りくさいんも事実やしなあ・・・」

怜「全くやで・・・」

竜「つて、うち騙りちやうよ!？」

晴「騙りだね。これで私から見ると、少なくとも2人は人外が見えてるわけだ。」

雅「何でや。騙りはそつちやろうが。・・・まあ竜華が嘘吐いてるつちゆうんはうち

もビツクリなんやけどな。」

竜「うち嘘吐いてへんで!？」

憧「・・・どう見る？」

穩「分かんない！」



灼「少しは考え……」

宥「竜華さんが、嘘をつくとは思えないけど……」

絹「メタな視線は禁止ですしな……」

玄「むむ……さすがに見分けがつかないのです……!」

Q「そりやそうや。ここで見分けがついてたらそれこそ驚きや。」

恭「もう少し推理するためのヒントが欲しいとこやな。」

由「でも、何となく監督たちのほうが騙りは上手そうなのよ?」

泉「そりやそうですけど、だからって決め付けるわけにはあかんし……」

洋「む……おかんは嘘吐いてへんのか?」

雅「吐いてへんわ。お前、自分のお母ちゃん疑つとるんか?」

晴「……そうやって信頼を集めるのはやめませんか? さつきも言いましたけど、発言

力が強いんですから。」

雅「それはしやあないことやわ。騙る相手を間違えたってことやな。」

竜「せやから真はうちやく!」

憧「……まずいわね。本当に分かんないだけ……?」

怜「うちとしては竜華信じたいんやけど、さすがにまだな……?」

竜「なして!? うち怜占ってあげたやん!」

セ「それだけで信じれんわ・・・」

Q「さすがにそりや無理つてとこです。」

穩「玄さんどうするんですか？これだとグレランになりませんか？」

玄「むむむ：・グレランにするなら、せめて靈能もC Oしてほしいところだけど：・」

恭「・・・確かに、今回は欠けは分かつとるからな。」

絹「グレランで吊つてまうよりはええんちやいます？」

由「それに、噛まれたら相手も吊つちやええばいいのよ。」

洋「確かにその通りや！ほな靈能C Oしとこか!？」

玄「・・・うん！靈能はC Oしてほしいのです！せくの！」

洋「うちや！」

穩「私です！」

憧「シズが靈能か・・・」

絹「・・・なあお姉ちゃん、ほんまなん？」

雅「まさか狂人占つてたとはな・・・」

洋「つてなんで身内にここまで疑われなくちやあかんの!？」

セ「決まりやろ。今日はこいつ吊りでええんちゃう？」

玄「決まったのです！今日は洋榎さんに投票するのです！」

洋「嘘お!？」

宥「だ、駄目だよ？玄ちゃん？」

玄「む．．．でも、怪しいのです。」

宥「ちゃんとみんなの意見も聞かなくちや駄目だよ？それに、穂乃ちゃんが騙りつていう可能性もあるんだからね．．．?？」

穂「わ、私騙りじゃないです!？」

灼「身内としては信じた．．．。」

憧「でも、まださすがにね．．．。」

泉「どうするんです？結局グレランですか？」

漫「さすがに見分けがつきませんわ．．．。」

由「全くなのよ。」

玄「．．．お姉ちゃんがそう言うなら、今日は洋榎さんを吊るのはやめておくよ！今日はグレランなのです！」

洋「ゆ、宥がおらんかったらさっそく餌食になるとこやったで。ほんま助かったわ．．．!」

Q「・・・ふむ。つてことは、1人ずつ怪しい人の名前を上げていくんやな。もう言うてええんですか？」

玄「お願いなのです！」

Q「なら私は末原さんや。やっぱり頭回る人つてのは放つてはおけませんわ。」

泉「私は・・・新子やな。いつもと違うような気がするし・・・？」

怜「んゝ・・・分かん。分かんから泉でええわ。」

泉「ちよつと!？」

セ「俺は上重やな。オドオドしとるし、なんか隠してゐんちやう？」

竜「対抗に投票したらあかんのやろ？せやったら・・・絹恵ちゃんかな？何となくな

んやけど・・・」

絹「うちは村ですよ？私は浩子に投票しますわ。末原先輩人外なら確かに怖いんやけ

ど、村なら心強い人ですし、それをいきなり消そうとするつちゆうんはちよつと・・・」

漫「私も船久保さんです！末原先輩は人外じゃありません！」

恭「信用してくれるんはありがたいけど、漫ちゃんもつとちゃんと考えんとあかん

で？ちなみに私も船久保さんや。理由は船久保さんと同じなんやけど、いきなり初日か

ら疑つてくるつちゆうんが少し気になるわ。」

洋「うちはセーラやな。飄々としとるけど、お前何か隠しとるんちやうか？」

セ「何も隠しとらんっちゅうねん。」

由「私は宥さんのよ。」

宥「わ、私ですか・・・？」

玄「む・・・!?」

由「・・・一応言っておくけど、玄ちゃんのその反応が理由なのよ。」

泉「・・・なるほど。確かにこの中で、一番絶対者と仲いい人ですからね。」

恭「絶対者に指示できる、唯一の存在と言ってもええわ。」

由「そういうことなのよ。だから警戒だけはしておいたほうがいいのよ。」

憧「宥姉えは人外目には見えないんだけど・・・ちなみに、私は船久保さんね。理由

はみんなと同じで、確かに敵なら怖いけど、味方なら心強い人を真っ先に疑うっていうのが正直引つかかるわね。」

穩「ん・・・私は園城寺さんかな？何考えてるか分かんないし・・・」

竜「怜ならうちが占ってるで？」

穩「へ？・・・あ、ああ!?すいません！それじゃえつと・・・とりあえず泉で！」

泉「せやからそういう理由で私に入れんといて!?」

灼「私は、愛宕監督が怪しいとは思うけど・・・グレランなら、上重さんで。やつぱり、静かな人は正直怖・・・」

憧「言つとくけど、灼だつてステ気味なんだからね？ちやんと喋らないと怪しまれるわよ？」

灼「気をつけ……」

宥「私は……個人的には上重さんなんだけど、ここは船久保さんかな……？」

憧「やっぱり皆と同じ？」

宥「うん。船久保さんも末原さんも、味方なら心強いから……」

Q「……あかんですわ。いきなり私狙われとるんですか……？」

セ「俺は信じとるで？でもいきなり疑つたらあかんて。」

晴「確かに気になるところではあるんだけどね。……でも私としては、上重さんあたりが少し気になるかな。やっぱりステルスな子には注意しておかないとね。」

雅「……あんま身内を疑うのはあれなんやけど、私も浩子やな。浩子やつたら、もうちよい別の見方が出来そうな気がするんやけど……？」

Q「おばちゃんも私疑つとるんですか……!？」

雅「皆の前では監督って呼びい。」

恭「……一票が多かったんは船久保さんやな。」

Q「いや、一応言い訳させてもらおうとすね……？」

郁：残り30秒や。

こっからは一切のお喋りは禁止やで〜♪

Q「(・・・あ、あかん・・・!?)」

玄「むむむ・・・！」

郁：そこまで〜。

ほな絶対者さんは、投票してな〜♪

玄「私が睨むのは・・・この人なのです！」

○投票結果

松実玄 ↓ 船久保浩子

絶対者の投票により、船久保浩子さんは処刑されました。

Q「はぁ・・・考えをそのまま口に出すつちゆうんは、控えんとあかんですわ・・・」

## ○3日目(昼) 犠牲 郁乃・宥

処刑 浩子

生存 晴絵・雅枝・玄・灼・憧・穩乃

怜・セーラ・竜華・泉・由子・洋榎・恭子・漫・絹恵

松実宥さんの無残な死体が発見されました。

郁：おはようさん。

昨日の犠牲者は松実宥さんやったで〜？

これはどうなるんやろな〜？

今日の会話時間は6分や。

ちゃんと話し合わんとあかんで〜？

ほな3日目〜、スタート〜♪

玄「



憧「嘘……いきなり宥姉えがやられたってわけ……!?」

恭「……人狼狙ってきとるな。これは……!」

泉「ブレーキ役が、いきなり消えたら……!」

灼「……玄。落ち着いて……?」

玄「……落ち着いてるよ。お姉ちゃんへの仇は、必ず取るのです……!」

セ「……あかん……」

怜「絶対者が暴走したら、うちら終わりやな……」

竜「だ、大丈夫や! 怜はうちが守つたるからな!」

玄「……霊能お願いするのです! せうの!」

穩「船久保さん、●でした!」

洋「浩子、○やで。」

漫「つてもう分かれよつたんですか……!」

絹「これはどっちが正しいんや……!」

穩「船久保さんは人狼でした! 私もビックリしたけど、多分末原さんをまず消そうとして、失敗したんじゃないかと思えます!」

洋「ちやうわ。浩子は○、村人や。昨日は恭子を疑つとつたみたいやけど、ありや単なる勘違いだったみたいやで？」

由「どっちが正しいのよ……？」

恭「……船久保さんがほんまに人狼やったとしたら、昨日私を狙つてきたんも分かるんやけど……」

泉「でも、さすがにそれだけで確信は出来ません？ それこそいきなりですよ？」

竜「浩子が人狼やったら、もうちよい色々してきそうなんやけど……？」

セ「俺もそう思うわ。あいつが人狼やったら、それこそ何かしらの罠とか作つてきそうやからな。」

漫「単に、本音が漏れたんちやいます？」

絹「やとしたら、浩子のうっかりミスなんやけど……」

怜「……うっかりつちゆうんはありそうやな。」

泉「た、確かに……！」

晴「……船久保さんが人狼か否かは置いておこう。否応無しに後で分かることだしね。それより玄？ 占いの結果を言つていいかい？」

玄「お願ひするのです！ 占い、せうの！」

雅「末原、○や。」

晴「穩乃、○だね。」

竜「絹恵ちゃん、○やで！」

穩「……あれ？何かこのパターンってさつきも……？」

雅「……騙りがいきなり身内を囲ってきたってことや。もうその占いと靈能は吊りでええんちゃう？……って、高鴨吊ると残るんはうちの娘か……！」

穩「も、もう私吊られちゃうんですか!？」

洋「つてこらおかくん!?そりやどいう意味や〜!？」

晴「……一応理由を言っておくよ?占った理由はさつきの園城寺さんと同じで、狐を警戒してだよ。疑われるのは分かっているけど、靈能の真偽はつけておきたいしね。私目線では、穩乃はこれで狐では無くなったよ。」

雅「信じる理由があらへん。単に囲っただけや。私が占ったんは末原やな。浩子が吊られたいうんもあるけど、もしこれで浩子が村で、末原が本当に人狼やったら洒落にならん。人狼やったらさつさと吊ったろう思ったけど……まあ村人やったわ。狐でもなさそうやし、狂人とかでない限りは信用出来るんちゃうか?」

漫「やっぱり末原先輩は村人やないですか!つてことは、主将は人外確定ですう!」

洋「つて何でや!? くら漫! お前もうちよいちやんと考えくや!」

竜「うちが占ったんは絹恵ちゃんや。何か気になつとつたんやけど、単なる勘違いだつたみたいやな。疑つて申し訳ないで。」

絹「ええんです。これで私も一応〇貰えたわけですし。」

泉「・・・と、また〇しか出とらんのですけど・・・」

怜「どうやろうなあ? またグレランかいな・・・?」

恭「今回は8吊りで6人外。船久保さんがほんまに人狼なら、残り7回で5人外や。ここは確実に吊っておきたいとこやけど・・・」

憧「でも気をつけないと駄目よ? 何せ今回、猫又がいるんだからね?」

由「猫又を吊つて、村人犠牲になったら、ちよつと笑えなくなるのよ。」

穩「それだつたら、今のうちに猫又にCOしてもらえばいいんじゃないですか? それだつたら吊らなくてすみますよ?」

洋「阿呆。お前ほんまに人狼なんちやうか?」

セ「・・・今の台詞は、俺も少しばかり引つかかったで・・・?」

穩「え・・・ええく!? な、何でく!?」

灼「・・・穩乃・・・まさか・・・?」

憧「・・・一応言つておくと、猫又の存在を知りたいのは、村人以上に人狼のほうな

のよ。嘸んだらあつちは確実に仲間が消えるんだから。」

洋「……これ、決まりなんちやうか？こいつとそつちの先生が人狼やろ？」

恭「……確かに、かなり疑わしいところなんやけど……」

怜「……庇うわけじゃないけど、穏乃ちゃんやで？他の人ならともかく、その子の場合ほんまに分からなかつたんちやうか？」

泉「先輩……？」

絹「その……園城寺さんの言うことも分かるんですけど、ここでそれを言う……」

セ「……あんま疑いたくないけど、ちよつと怜怪しく見えるで……？」

怜「……酷いわ……うち、竜華が占つてくれたんやで？」

竜「そ、その通りや！怜は間違いなく村人やで!?!怜を疑うつちゆうことは、セーラもしかして人狼なんちやう!?!」

セ「違うつちゆうねん。俺かて疑いたくないけど、さすがにさつきの台詞を流すんはちよつとな……？」

竜「うう……そんなこと言うなら、うちはセーラを占つちやうで！これで人狼やつたら、ちゃんと怜に謝りい!?!」

セ「まあ人狼やつたらな。……つちゆうか、竜華にしてはやけに熱くなつとんな……？」

泉「まあ、園城寺先輩が疑われてるわけですから……」

由「真偽が分からないのよ……」

漫「何となく、愛宕監督が真の気がするんですけど……?」

恭「……それ、まさか私を占ったからちやうやろな? ちゃんと考えなあかんで?」

漫「うっ……も、もちろんですわ……!」

灼「……まとまらな……玄、どうする……?」

憧「このままだと、またグレランになっちやうけど……?」

玄「……1人、怪しい人はいるのです。」

洋「ん? 玄ちゃん目線ではどこを睨んどるんや?」

穩「わ、私違いますよ!」

晴「穩乃は間違はなく○だよ。でも、狂人の可能性は否定できないけどね?」

玄「……昨日嘯まれたのはお姉ちゃんなのです。そのお姉ちゃんを、1人だけ怪しんでた人がいるのです……!」

絹「……それって……」

由「……い、言い訳させてほしいのよ……」

玄「今日のところはまだ真偽がつかないのです。なら、怪しい人は吊っちやうのです……!」

由「私村人なのよ〜!?宥さん噛んだりしてないのよ〜!?」

憧「ちよ、ちよつと玄落ち着きなさいって・・・・!」

灼「真瀬さんが人狼なら、むしろ宥さんは噛めな・・・・」

漫「昨日の状況で松実さん噛んだら、思いつき怪しまれるの分かるとるわけですし・・・・?」

玄「むしろ、だからこそなのです!自分が怪しまれるのは分かっているから、逆に大丈夫だと思つたに違いないのです!」

由「違うのよ〜!?!」

泉「あかんですわ・・・・やっぱり松実さんのお姉さんおらんと・・・・!」

怜「・・・・こりや、完全に人狼に狙われてたんちやうか?この状況・・・・?」

恭「・・・・由子が人狼?・・・・いや、さすがにそれは危険すぎるよな・・・・」

洋「あかん・・・・ほんま人狼はどいつなんや・・・・!?!」

郁：残り30秒や。

会話はしゅ〜りよ〜♪

由「」

玄「・・・」

郁：ほな時間や〜♪

玄ちゃん投票したってや〜♪

玄「・・・私は、騙されないのです！」

○投票結果

松実玄 ↓ 真瀬由子

絶対者の投票により、真瀬由子さんは処刑されました。

由「やっぱりなのよ・・・玄ちゃんの馬鹿〜なのよ・・・」

4 日目に続く・・・



阿智賀・千里山・姫松+α ②

○4日目(昼) 犠牲 郁乃・宥・洋榎

処刑 浩子・由子

生存 晴絵・雅枝・玄・灼・憧・穩乃

怜・セーラ・竜華・泉・恭子・漫・絹恵

愛宕洋榎さんの無残な死体が発見されました。

郁：昨日の犠牲者は洋榎ちゃんやったな〜♪

まさか霊能が犠牲になるなんて、いくのんびりやで〜♪

今日の会話時間は5分や。

時間は有意義に使ってな〜？

ほな4日目〜・・・

スタート〜！

穩「おはようございます！真瀬さんは○、村人です！・・・なんですけど・・・」

憧「・・・あえて私が聞いてあげるわ。シズ、遺言はある？」

穩「うう・・・やっぱり疑われてる？」

憧「当たり前でしょうが!？」

玄「おはようなのです！ちよつと穩乃ちゃんは怪しい気がするけど、まずは占いを聞かせてほしいのです！せ〜の！」

竜「セーラ、○やった・・・。」

雅「鷺森、●や。」

晴「愛宕さんのお姉ちゃん、○だよ。」

灼「・・・っ！」

憧「灼が人狼・・・って、晴絵はもう1人の霊能も占ったわけ!？」

晴「理由を言わせてもらうよ。あらかじめ言っておくけど、私目線では愛宕洋榎さんが狐の可能性は高いと思う。ただ犠牲者が彼女しかいないから、まだ断言は出来ない。

彼女こそが狂人の可能性もあるし、逆に真で今日人狼に襲撃されただけかもしれないしね。」

雅「ステルスしとる子を占ったんやけど、結果は●や。……っていうか、もうその先生と残った霊能は吊ってええんちゃうか？こんなんあからさますぎるやろ？」

竜「うう……。セーラを占ったんやけど、結果は○や……。セーラ、疑って申し訳ないわ……。！」

セ「いや、別に謝らんでもええって？」

怜「ふむ。セーラも人外ちゃうんか……。」

セ「そういうことや。ちゆうても、まだ竜華が真かは分からんからな。絶対の信用はできんで？」

怜「そらしゃあないわ。これ、そういうゲームやしな。」

晴「……。私としては、そろそろ占いの決め打ちをしてほしいな。自分が疑われてるのは分かっているけど、吊り数的にもここらが限度だと思っようよ？」

雅「ずいぶんと潔いやないか？せやけどうちとしては、確実な鷲森さんか、人狼目の高いその霊能を先に吊ってほしいわ。赤土さんが狂人の可能性もあるわけやしな？」

竜「うう……。うちはまだ見つけてへんから、対抗ぐらいしか疑う場所が分からへん……！！」

憧「どうするか……愛宕監督が真なら、ここは間違いなく灼吊りなんだろうけど……？」

灼「私は村……その監督さんは、人外確定。そうなると、本当にハルちゃんが真の可能性が高い……！」

絹「せやけど、うちのお姉ちゃんを占ってるんやで？ 嘸んで○出しつて、人狼の常套手段なんちゃう？」

恭「そうやとしても、ここで赤土さんを真目からはまだ外せんわ。確かにかなり狂人くさいけど、怪しまれるの覚悟で霊能の真偽をつけに来たつちゆうところは、むしろ真目に近い気がするしな……。」

漫「考えすぎなんちやいます？ 逆に露骨な狂人アピールな気もしますけど……？」

泉「それでも、占いの決め打ちを本人が提案するつちゆうんは、少し疑問に思いますわ。自分諸共真を消したい狂人つちゆうのが当たりやないんですか？」

憧「だとしても、晴絵がそんな簡単な嘘吐くとは思えないのよね？ もし晴絵が狂人なら、それこそCOなんかしないで引つ掻き回すのに徹したほうが、よほど自由に動けそうだし……。」

灼「ハルちゃんを狂人扱いしないで……！」

憧「つて、だからそういうメタな理由は止してつての……。」

セ「これはどうなんやろうな・・・ちなみに聞いておくけど、竜華としては次はどこらへん占おう思ってるんや？」

怜「確かに竜華が真なら、結構期待出来るんちゃう・・・？」

絹「そ、その通りですわ！昨日もズバリ当てとったわけですしな!？」

雅「つちゆうても、今回はその竜華本人が人外なんやからな？絹。」

恭「過度な信頼は出来んで？」

竜「うちのでええんか？うちの目線やと・・・んく・・・対抗以外やと、穩乃ちゃんや、憧ちゃんやな。」

穩「わ、私ですか!？」

憧「私も？」

竜「穩乃ちゃんなんやけど、どうにも引つかかるんよ。その、浩子が人狼やったってところが。」

怜「・・・確かに、それはあるな。」

泉「そうですね。人狼役大好きな人ですけど、その割には今回あっさり吊られてしまいましたし・・・」

憧「確かにそれは私も気にはなっているとこだけど、でも何で私が？もしかして私、人外くさかったりする？」

恭「新子が……?」

漫「私はなんも分かりませんでしたけど……?」

竜「人外……なんかな?よう分からんけど、いつもと違う気がするわ。案外役職持ちやったりしない?」

憧「役職は持つてないわね。今回は単なる村だし……つて、もしかして竜華さん狩人探してる……?」

晴「……可能性はあるね。実際、彼女の直感は何れもないし。」

雅「知らんふりして、ほんまに狩人探しとる人狼の可能性は大いにあるで?」

竜「ええ!?!ちや、ちやうよ!?!聞かれたから答えただけやん!?!」

セ「……どうなんやろ?今回は竜華もちよい怪しくないか……?」

泉「そんな気もしますけど、でも真の可能性も捨て切れませんし……」

憧「……ちなみに、現時点では玄はどう考えてるの?さつきからずっと考え込んでるみたいだけど。」

怜「頼むから、安易な結果だけはやめてほしいで……?」

玄「……どっちにするか迷っているのです。」

セ「どっちうちゅうことは、候補は2人なんやな?誰と誰や?」

玄「穏乃ちゃんと、灼ちゃんなのです。」

穩「私……！」

灼「私も……」

恭「……つまり、赤土さんと愛宕監督の真偽をつけたいんやな？」

竜「ねえうちは!？」

怜「竜華は少し黙つとき？」

竜「う、う……」

玄「……多数決をとりたいのです。どっちかをお願いします。」

絹「ん。分かったで！」

漫「怪しいほうやな……！」

玄「では、穩乃ちゃんのほうが怪しいと思うのは？」

晴・灼・怜・竜・恭「はい。」

玄「次に、灼ちゃんが怪しいと思うのは？」

雅・憧・穩・セ・泉・漫・絹「はい。」

穩「……数としては、私のほうが少ないけど……」  
灼「……穩乃が相手だと、勝てる気がしな……」

郁：残り30秒や。

ギリギリ間に合って良かったな〜♪

穩「……」

灼「……」

玄「……」

郁：それではお時間や〜。

ほな投票しちやつてな〜♪

玄「……その、ごめんなさい！」

○投票結果

松実玄 ↓ 鷺森灼



絶対者の投票により、鷺森灼さんは処刑されました。

灼「仕方な・・・本当、穩乃には勝てる気がしな・・・」

○5日目（昼） 犠牲 郁乃・宥・洋榎

処刑 浩子・由子・灼

生存 晴絵・雅枝・玄・憧・穩乃

怜・セーラ・竜華・泉・恭子・漫・絹恵

平和な朝を迎えました。

郁：平和な朝がやってきたで〜。

平和がやっぱり何よりや〜♪

でもでも〜ちゃんとは人外は見つけなあかんで〜？

今日の会話時間は4分や。

そろそろペース上げんといかんちゃう〜？

それじゃあ5日目くスタート〜!

恭「おはようさん。平和やけど、狐噛みかGJかの判断がつかんな・・・」

憧「狐じゃない? シズを噛みに来たとは、ちよつと考えづらいもの。」

玄「おはようなのです! さつそくですけど、穩乃ちゃんから結果を聞かせてほしいよ!」

穩「は、はい! 灼さんの結果は○! 私目線、愛宕監督は破綻です!」

雅「せやから言うたんや。その靈能残してたらあかんつてな。」

絹「お母ちゃん・・・?」

雅「一応言うとかけど、うちの中ではそろそろ答えが決まってきたとるんやからな。問答無用に吊るのだけはやめてくれや?」

玄「じゃあ、占いをお願いします! せくの!」

竜「穩乃ちゃん、○や!」

雅「高鴨、○や。」

晴「二条さん、○だね。」

穩「・・・つて3人とも私を・・・!?」

雅「真偽が絶対に必要な場所やったからな。占う必要もないかと思つたけど、とりあえず内約知りたくて占つたわ。まあ3人とも○なんやし、確実に人狼と狐ではないわな。せやけどうち目線、彼女は間違ひなく狂人か背徳者のどっちかや。」

竜「うちも穩乃ちゃん占つたで! やっぱり浩子のことが気になつとつたんやけど、結果は○や! これで真か狂人か背徳者に確定や!」

晴「私は二条さんだね。いつも思つてただけど、彼女つて結構鋭い見方をするからね。その割にはちよつとステ気味だし、そろそろ占つて答えを知りたかつた場所だよ。」

泉「占つてくれたんはありがたいんですけど・・・うくん・・・?」

セ「赤土さんは真か人狼か、やと思うんやけどな・・・?」

絹「狂人は無いですか?」

セ「無いわけやないけど・・・俺が思うに、狂人つてそいつなんちゃうか?」

穩「私ですか!」

晴「私も占つておいてなんだけど、穩乃は狂人なんじゃないかつて睨んでるよ。理由は昨日の洋榎さんだね。」

漫「へ? せやけど赤土さん、うちの主将占つてませんでした? 狐ちやうんですか?」

憧「・・・晴絵の中の考えを聞かせてもらつていい?」

晴「いいよ。私としてのベストは、もちろん洋榎ちゃんが狐で、穩乃が真つてことだ。でも昨日の犠牲者が1人しかないし、何より前日の結果が怪しすぎる。」

怜「フナQが●つてとこやな。」

晴「そういうこと。人狼からして、あれで霊能の真偽がすでについたはずなんだ。それで、真である洋榎さんを消したって考えれば、昨日の犠牲者が1人なのも頷ける。」

セ「確かに残る騙りが狂人なら、人狼は痛くあらへんしな。」

晴「その通りだ。そうなると次の問題として、残る占い師2人の内約。私の予想は、おそらくだけど愛宕監督は背徳者か狐。そして清水谷さんが人狼じゃないかと考える。」

雅「ほう・・・うちが狐ね？まあうちは真なんやけど、人外のパフォーマンスとしては中々に面白そうや。少し聞いてみたくなったわ。」

晴「意外と単純な理由ですよ？霊能が狂人だって分かってるってことは、迂闊な●は人狼は出せないはずなんですよ。」

恭「・・・なるほどな。確かにその通りや。」

漫「ど、どういふことですか!？」

恭「ラインがつながってないからや。自分らが相手は狂人って分かっても、狂人のほうが相手を人狼と理解しとらん限り、その結果には答えられんのや。」

絹「・・・そうか。穩乃ちゃんは鷺森さんに○を出しとる・・・!」

晴「そういうこと。もしかしたら、灼は実際に人狼だったのかもしれないし、村の犠牲者だったのかもしれない。でもそれより大事なものは、穩乃が早々に愛宕監督とのライオンを切ったこと。おそらく穩乃の中でも、私たち3人の誰が真なのかの判別が出来ていないんだろう。だから穩乃としては、とにかく1人ずつ消してしまおうしかない。」

セ「・・・そしてそんな行動を取るつちゆうことが理解できとれば、人狼としても迂闊な●出しは出来んつちゆうことやな。けどそれを言うなら、赤土さんかてかなり怪しいんやで? 赤土さん自身が人狼なんちゆうか?」

泉「確かに、人狼としての目線が強すぎる気がするんですが・・・!」

晴「真だからこそ、他の陣営の考えも見えるつてことだね。」

雅「ふむ。・・・確かに納得できそうな話やけど、まず前提が間違つとる。そもそもが真はうちで、赤土さんは人外や。そのことから考えるに、赤土さん自身が狐か背徳者なんちゆうか?」

恭「自分の立場を押し付けようとしとるつちゆうことですか・・・」

竜「・・・つて、真はうちやで!?! なんでそつちでそんなに盛り上がったるん!?!」

怜「諦めるんや竜華。騙るには相手が悪いで・・・?」

竜「怜い!?!」

セ「ほんま全く分からんわ。一体どつちが真やねん・・・？」

絹「お母ちゃんが狐・・・？いや、せやけど・・・？」

憧「・・・確かに判断材料としては少し欠けてるけど、晴絵の考えも理解はできるのよね。でもその考え、少し無理がない？」

晴「ん？どの辺りがだい？」

憧「どの辺りっていうよりも、全体的によ。もしその考えが合つてるとしたら、かなり先まで人狼は読もうとしてるってことよ？さすがにそれは・・・」

晴「いや、いると思うよ？そういう読み合いが好きな子が。」

漫「・・・!？」

恭「・・・一応聞いておきますけど、まさか私を疑つとるんですか？」

晴「それが憧だね。園城寺さんあたりも危ないところだけど、まずはこの辺りから調べようとは思ってはいるよ。」

泉「・・・もしかして、私を占ったんって・・・？」

晴「さつきも言つたら？鋭い見方をするって。」

郁：30秒前やで。

お喋りは禁止や。

晴「(……さて、玄はどう判断するか……?)」  
玄「……………」

郁：時間やで。

ほな、投票しちやつてや。

玄「……安全策だけど、これしかないのです……！」

○投票結果

松見玄 ↓ 高鴨穩乃

絶対者の投票により、高鴨穩乃さんは処刑されました。

穩「うわぁ……赤土さん格好いい！」

○6日目(昼) 犠牲 郁乃・宥・洋榎・晴絵

処刑 浩子・由子・灼・穩乃

生存 雅枝・玄・憧

怜・セーラ・竜華・泉・恭子・漫・絹恵

赤土晴絵さんの無残な死体が発見されました。

郁：昨日の犠牲者は晴絵ちゃんやつたで。

これつて〜彼女が真やつたつてことかな〜？

それともまさか〜・・・♪

今日の会話時間は3分。

無駄口叩いとる暇はないで〜？

ほな、スタート〜！

玄「おはようなのです！」

憧「おはよう。・・・晴絵、やられたわね。」

漫「その、まさか先輩・・・？」

恭「無条件に信じろとは言わんで？ただ私は村人やと言わせてもらうけどな。」



玄「末原さんはかなり気になります。ですが、まずは占いなのです。せくの！」

雅「竜華、●や。」

竜「監督、○や！」

憧「・・・対抗を占ったってわけね。」

雅「誤解しとるようやけど、真はうちやからな？赤土さん噛まれたんは、まあ昨日の推察が理由やろ。末原はうちが占ってるからええとして、おそらくは新子か怜が残りの人狼なんちやうか？まあ昨日の夜の時点では、まだ赤土さんが人狼か背徳かの区別がよう出来んかったからな。竜華が狐っちゅうのを警戒して、昨日は竜華のほうを占つてみたんや。」

竜「うちは人狼ちやう！監督は狂人か背徳や！そんで、穩乃ちゃんも真のはずや！そ  
うやないと数が合わへんもん！」

セ「・・・竜華の目線では、浩子が人狼ってわけやな？」

竜「しやあないやないか！せやないと数が合わんのや・・・！」

怜「・・・これはどう判断したらええんや・・・？」

絹「あの、関係ないかもしれんですけど・・・？」

恭「ん？どうしたんや絹ちゃん？」

絹「狩人・・・おらんのでしょうか？もし私狩人やったら、昨日は真偽関係無しに赤土さん護衛しとると思うんですけど・・・？」

憧「・・・確かに、ここで晴絵が嘯まれたのは正直意外なのよね。」

怜「そうやな。昨日の赤土さんの推理が当たってたっちゆうのを認めるようなもんや。」

泉「むしろそれが分かってくれば、赤土さんは危険やつて分かりそうなもんですが・・・!?」

漫「・・・もうおらん、っちゆうことですかね？」

雅「可能性は高いな。うちとしても、ここで赤土さん嘯まれるんは正直勘弁してほしいとこやったんやけど・・・」

絹「赤土さんに真目を持ってかれてまうから・・・？」

雅「実際昨日までならともかく、今はかなり分が悪いと思ってるで？先に嘯まれたほうがどうしても真目に見えるしな・・・ったく、嘯むなら私のほうを嘯めっちゆうねん・・・！」

恭「・・・どうするんや玄ちゃん？ここらが決め打ちの限界やで？」

玄「・・・とりあえず、一つだけ決めているのです・・・！」

憧「うん。どうするの？」

玄「占いは、ロラするのです……！」

雅「……ま、そうなるわな。」

竜「玄ちゃん、うちは……！」

玄「……申し訳ないのです。ですが、危険な場所は吊つていくしかないのです……！」

恭「……英断や。占いは無くなつてまうけど、ここからは純粋な推理でいくしかあらへんな。」

漫「このままいくと、あと4回……ですよね？」

絹「吊り4回の中に、人外を見つけないあかん……！」

雅「……それ考えると、素直に吊られるんも考えものなんやけどな。」

竜「うう……」

怜「竜華……」

セ「……話を進めようや。赤土さん真やった場合、○は泉だけやな？」

憧「そうね。おそらく、まだ狐もいると考えたほうがいいわ……！」

雅「うち目線では、○は末原や。狐も残つとる。」

竜「うちの場合は、○は怜、絹恵ちゃん、セーラや！まだ狐も残つとるで！」

漫「私、完全グレーやないですか・・・!?!」

憧「私もそうね。でも、違うとしか言えないわ。」

セ「そんなん誰かて同じや。それでも探さないあかんのやで？」

郁：残り30秒や。

お喋りストーツプ、やで♪

雅「……」

竜「……」

玄「……」

郁：さあ、お時間がやってきたわ。

玄ちゃん、投票して〜♪

玄「……今回は……この人なのです！」

○投票結果

松実玄 ↓ 愛宕雅枝

絶対者の投票により、愛宕雅枝さんは処刑されました。

雅「やれやれ・・・もうちよい、上手くやれば良かったんやけど・・・」

7日目続く・・・

阿智賀・千里山・姫松十 $\alpha$ 

③

○7日目(昼) 犠牲 郁乃・宥・洋榎・晴絵・憧・恭子

処刑 浩子・由子・灼・穂乃・雅枝

生存 玄・怜・セーラ・竜華・泉・漫・絹恵

末原恭子さんの無残な死体が発見されました。

新子憧さんの無残な死体が発見されました。

郁：いや〜ん♪

ついに2人も犠牲者が出てもうたで〜♪

昨日の犠牲者は、末原ちゃんと新子ちゃんやな♪

これ、どうなんやろうな〜？

狐かな〜？

猫又かな〜？

今日の会話時間は2分間や。

今日からは残り10秒でストップするから気をつけてな〜?

ほな7日目〜スタート〜♪

怜「…おはようさん。竜華に先に騙られても困るし、もう村に勝ちを上げるわ。C  
OLWや。仲間は末原はんと由子。狐は竜華や。まさか憧ちゃんが猫又やったなんて  
思わんかったわ…」

セ「つて、またお前かい!？」

竜「ふえ!？」

怜「このまま潜伏してれば勝てると思うたんやけど、竜華に人狼騙られたら最悪やし  
な。もうしやあないで。」

竜「ちや、ちやう!うちは狐やないで!?!えつと、えつとく…怜○や!狐発見や!!」

セ「竜華…お前は少し落ち着けて…」

泉「初日にも占つとつたやないですか。それに○出して狐つて…」

漫「末原先輩、やつぱりや…」

絹「漫ちゃん、元気出し…?」

怜「竜華が人外やつちゅうのは初日から分かつとつたけど、まさか狐やとは思わん

かったわ。初めはてつきり穩乃ちゃんが狐やと思つとつたからな．．．

セ「だから洋榎囃んだんか？」

怜「そうや。そうすりや残つた狐も吊られる思つたんやけど、3人とも占つても呪殺せんかつたからな。あれにはたまげたで．．．」

竜「ちやうんや！人狼はうちで、怜が狐だつたんや〜！」

泉「もう占い師やなくていいんですか？」

怜「まして最後には監督に●出されてるんやもん。ようするに人狼として生き残ろうとしてるんやな〜つてすぐに分かつたわ。ほんま猫さえ囃まなきやな〜．．．」

竜「違うんや〜!!」

絹「．．．玄ちゃんはどうちが狐やと睨んどるの？」

怜「せやから竜華やで？うちもうラストやし、うち吊つたら狐勝ちになつてまうわ。」

竜「怜〜！それ以上嘘吐いたらうち怒るで!？」

怜「竜華もさつきまで嘘ついてたやないか？」

竜「」

玄「．．．こ、困つたのです．．．!？」

セ「．．．あ〜．．．普通に考えると怜のほうがあからさまに狐っぽいんやけど．．．」  
漫「もしほんまに人狼だったら、確かにここで出とかんと、狐に持つてかれてしま



ますし……」

絹「竜華さんが人狼言うて、園城寺さんが人狼は自分や〜言うても、確かに信じれんですわ……」

泉「けど、それを狙った園城寺さんの策つてことも……」

竜「……う、うちが人狼〜！」

怜「竜華は狐やな？」

郁：お時間やで〜♪

お喋りはそこまでや〜♪

竜「……」

怜「……」

玄「」

郁：ほなお待ちかねの、投票タ〜イム！

玄ちゃんよろしくな〜♪

玄「……狐は……この人なのです!!」

○投票結果

松実玄 ↓ 清水谷竜華

絶対者の投票により、清水谷竜華さんは処刑されました。

竜「……あ……」

この瞬間、村の人狼は全て処刑されました。

ですが、残念なことにまだ村には狐が残っていたようです。

おめでとうございます!

今回は狐陣営の勝利です!!

玄「」

竜「」

泉&絹&漫「・・・はあ・・・」

怜「ま、ざつとこんなもんやで！」

セ「お前ほんま最悪やな!？」

怜「最後に残ったんが童華でほんまに助かったわ。もう人狼1匹しかおらん思つて賭けに出たんやけど、正解やつたみたいやな。・・・けど、最初はてつきり童華が背徳者か思つたんやけどな。」

雅「いきなり囲うのはあからさまやつたからな。3〜4日目あたりに囲おう思つたんやけど、おかげで助かったわ。・・・それにしてもあの先生、ほんまに何者なんや?いくらなんでも鋭すぎるやろ・・・?」

園城寺怜(狐) 愛宕雅枝(背徳者)

竜「うう、申し訳ないわ・・・最後に負けてもうた・・・!」

恭「仕方ないですわ。狩人や思うて猫囃んだ私が悪いんですし、まさかあの時点で自分から名乗り出てくるとは、正直予想外ですわ・・・」

灼「愛宕監督が人外なのは分かったけど、●出されるとは思つてなかつた・・・」

穩「ごめんなさ〜い！ 靈能ですぐ●出せば問題ないって思ってたけど、全部ばれちゃいました〜!？」

清水谷竜華・末原恭子・鷺森灼（人狼） 高嶋穩乃（狂人）

玄「」

晴「お〜い。玄生きてるか〜い？」

洋「あかんな。見事に真っ白や〜。」

憧「〜っつて、狩人あんだだっただの!?! 何してんのよ!?!」

泉「うう〜っつきり赤土さんが本当に人狼やと思つて、監督のほうの護衛に行つてまいりましたわ〜。」

松実玄・初日犠牲者（共有） 赤土晴絵（占い師） 愛宕洋榎（靈能）

二条泉（狩人） 新子憧（猫又）

宥「いきなり囁まれちゃったから、もしかしてっつて思ってたんだけど〜。」

由「案の定、絶対者が止まらなくなつたのよ〜。」

Q「私の予想当たってたやないか!?! もうちよい私のこと信じたらどうなんや!?!」

絹「あ、あはは〜その、ごめんな〜?」

セ「まあ落ち着きいや。今回はあちらさんが一枚上手やったつちゆうことや。」

漫「はあ・・・最後まで残ったんはええけど、何も出来んし結局負けてまうし・・・」

松実宥・真瀬由子・愛宕絹恵・上重漫・江口セーラ・船久保浩子（村人）

郁「お疲れさ〜ん。どやった〜？」

セ「おう。最初は絶対者があいつで大丈夫か心配やったけど、まあ何とかなるもんやな！」

絹「むしろならんで良かったですわ。あれ見るとほんまにそう思うで・・・？」

玄「」

竜「」

泉「」

洋「ふっ・・・哀れなもんやで・・・！」

由「・・・あれ見ると、すぐに脱落して正解に思えてくるのよ〜。」

灼「同感・・・」

憧「つていうか、玄は2杯目だしね。大丈夫なの？あいつ。」

漫「私がならんでほんまに良かったですわ・・・」

雅「素直に賞賛するわ。よくあそこまで見通せるもんやで。さすが、あの晩成破つてインターハイに進んだチームの顧問だけありますわ。」

晴「いや、たまたま当たつてただけですつて。愛宕監督の役職も、そうだったらいなくなつていう私情込みですから・・・」

穩「でも凄いです！私狂人だったけど、聞いてて凄いつて思いました！」

灼「さすがはハルちゃん・・・！」

恭「ほんまに参りましたわ。あれ聞いてしもうたら、もう嘸みに行くしかないやないですか・・・」

由「でも嘸みに成功しても、どちらにしろばれちやうのよく。」

雅「私は嘸んでくれて大助かりやつたけどな？なんせ狐の味方やつたし。」

絹「もう、お姉ちゃんといいいお母ちゃんといいい、うちの家族は嘘つきばかりやないか？」

雅「そりやしやあないやろ？そういう役職に当たつてもうたんやから。」

洋「いゝや許せんわ！娘疑つたんやから、罰としてから揚げ要求するでく!!」

セ「だからどんだけから揚げ好きやねん・・・」

洋&絹「から揚げ美味しいやないか!？」

セ「いや、まあ確かにそうなんやけどな・・・」

由「・・・絹ちゃんもやつぱり愛宕家なのよ。」

漫「絹ちゃんも主将の妹やな・・・」

絹「2日連続でから揚げや〜♪」

洋「この世の春やで〜♪」

晴「・・・さて、時間もいい頃合だし、そろそろ解散だね。」

穩「え〜・・・」

憧「仕方ないわよ。いつまでも遊んでるわけにはいかないんだし。」

宥「楽しかったね・・・」

玄「ウエ・・・次は、絶対に負けないのです・・・!」

灼「まあ、頑張れと・・・」

雅「うちらもそろそろ撤収や。帰る準備しい?」

竜「帰りにお饅頭買ってかんとな♪」

怜「竜華、意外と平気そうやな・・・？」

竜「あれか？意外といけたで？」

怜「」

セ「お前・・・!?」

Q「・・・むしろどんな味やったのか、逆に気になってきましたわ・・・」

泉「うう・・・言うてくれたら、全部上げましたわ・・・！」

Q「・・・いや、ちよつとで良かったわ・・・」

郁「うちらも帰るで♪末原ちゃん面倒よろしくな♪」

恭「全く・・・ほな、みんなさっさと片付けましょう。」

洋「了解や！うちでから揚げが待つとるで♪」

絹「早よ片づけよな♪」

雅「（・・・から揚げにするなんて一言も言っていないやけどな・・・）」

由「でも、終わるとなるとちよつと寂しいのよ・・・」

漫「ほんまですわ。今度はゆつくり来たいとこですね？」

玄「その際には是非うちを！」

宥「特別キャンペーンも実施するかも・・・」



洋「……奈良も意外とたくましいんやな？」

絹「お姉ちゃん？そりや偏見やで？」

雅「ま、機会があればまた来るんもええやろ。」

竜「そんな時はうちも呼んだってな〜♪」

穩「ぜひ！」

灼「次回はボーリング勝負……！」

Q「……いや、鷺森はんの実家って……！」

泉「ええですね！また皆で遊びましょう!？」

由「楽しみにしてるのよ〜。」

漫「うちは、別に末原先輩と2人でも……」

恭「来るなら皆でやで？漫ちゃん。」

漫「」

始まりがあれば終わりあり。

数奇な運命に導かれた少女たちの遊戯は、ここに終了する。

しかし、運命に導かれる者は、彼女たちだけではない——

ま「……なあ久。なんでこの日に学校に宿泊するんじや？」

久「ちよつとお客さんがね。こつちからは行けないけど、来てもらう分には有りつてことよ。」

ま「……また何か企んどるんじやな？……つたく、付き合わされるこつちの身にもならんかい……」

久「そんなこと言つて、ちゃんと付き合つてくれるまこには本当に感謝してるわ。」

ま「……はいはい……。」

「……あ、あの電車みたい！」

「さすがに遠いよね。」

「・・・ダル・・・」

「タノシミ！」

「わくわくするよ〜！」

「・・・あの子から連絡が来たときには驚いたけど、せつかくのいい機会だしね。この子達の思い出作り、手伝ってもらおうよ・・・？」

続く・・・

# 阿智賀・千里山・姫松十α (犠牲者たちの集い)

○3日目(昼) 浩子・宥

Q 「やってもうたわ・・・初っ端から怪しいとこ突っ込むんやなかったわ・・・！」  
宥 「その、ごめんね・・・？」

Q 「いや、謝らんでええですわ。これは私が自爆しただけの話ですし。」  
宥 「でも、玄ちゃん大丈夫かな・・・？」

Q 「一番の心配はそこですわ。松実さんいきなり嘔まれて、暴走しとらなきやいいんですけど・・・」

宥 「・・・あう・・・」

Q 「・・・しとるん、ですかね・・・？」

宥 「えっと、でも、玄ちゃんは優しい子だから・・・」

Q 「それ、今の状況では何の慰めにもなりませんで・・・？」  
宥 「うう・・・」

Q 「・・・つと、赤土さんは霊能の片割れを占ったみたいですね。せやけどこれ、あからさまな囲いちゃいます？」

宥 「うん・・・でも、赤土先生がそんなことするかな・・・？」

Q 「とうとう？」

宥 「赤土先生、洞察力とか、色々凄いから・・・だから、そんな簡単なミスをするか  
なつて・・・」

Q 「・・・なるほど。確かに人外なら、あからさますぎるつちゆうことですね。です  
けど、そう思うからこそあえて、つちゆう行動かもしれませぬよ？」

宥 「うん・・・だから、まだ真偽はつけられないの・・・」

Q 「厄介なことですね・・・」

宥 「・・・それより、穏乃ちゃんには●付けられてるけど・・・人狼？」

Q 「ちやいますわ。」

宥 「だよ・・・ね。」

Q 「・・・ん？そんなら何で私の名前を挙げたんですか？」

宥 「えつと・・・ごめんね？船久保さんの名前が多くなつてきてたから、もう修正で  
きないだろうなつて・・・」

Q 「おう・・・き、絹恵のせいや・・・！」

## ○4日目(昼) 浩子・宥・由子・洋榎

洋「つてうちもう嘸まれたん!?!」

Q「こうなると、高鴨が人外目はかなり大きいですな・・・」

洋「当たり前やないか! うちが真霊能や!」

由「のよ・・・疑って申し訳なかったのよ・・・」

宥「こ、こつちこそ、玄ちゃんが失礼なことしちゃつて・・・!」

Q「・・・まああそこの2人は置いといて、や。洋榎姉の見た感じではどうなんです? 占いの真偽のほどは。」

洋「うくん・・・怪しいんは赤土さんや。せやけど、あれで人外つちゆうんならあからさますぎる思うてな・・・」

Q「洋榎姉もそう考えとりましたか・・・。」

洋「何せ今日はうちを占ってたんやろ? 昨日の時点で信頼落ちとるのに、わざわざさうらに落としに来たんやで? これでほんまに人外やつちゆうんなら、ただの自殺志願者や

ないか。」

Q 「ほんまですわ。私が気になつとるのもそこです。あの行動、疑われるの覚悟でほんまに狐を探しにきてるように見えるんですわ。」

洋 「同じくや。昨日まではうちのおかんか童華が真やと思つとつたけど、もしかしたらがあるかもしれんで……」

Q 「……そうなると、おばちゃんの鷺森はん●つちゆうんも、少々怪しくなつてきましたな。」

洋 「玄ちゃんも悩んどるみたいやな。人外がほぼ確定しとる高鴨と、真目が強いおかんが出した●の鷺森。どつちを吊るか……」

Q 「多数決を取るみたいですわ。多いんは……鷺森さんのようやな。」

洋 「せやけど、決定権は玄ちゃんにあるからな。……絶対者つちゆうんも、なかなかにめんどいシステムやで……」

由 「申し訳ないのよ……」

宥 「こちらこそ玄ちゃんが……」

○5日目(昼) 浩子・宥・由子・洋榎・灼

灼「残念・・・」

洋「鷲森は人狼なんか？つていうても、まだ答えるわけにはあかんのやな。」

Q「今日の平和は狐噛みでしょうな。そんならCO人狼して、狐教えてくれも良さそうなもんやけど・・・」

宥「まだ吊り数が5回あるからじゃないかな・・・？ギリギリまでは黙っておいたほうが、人狼にとつても勝算が高いし・・・。」

由「そうなのよ。それにもし真占いが狐を呪殺すれば、COする必要も無くなるのよ。」

灼「おそらくそうだと思います・・・3匹とも残ってればCOしてもいいかもしれないけど、2匹ならまだ黙っておいたほうが良作・・・」

洋「それはあれか？自分吊られたらから残りは2匹っちゆうことか？」

灼「私は村・・・」

Q「どちらにせよ、村としてはモタモタしてられませんわ・・・と、おばちゃんと清水谷先輩が高鴨占つといたみたいですよ。」

宥「狐対策だね。それにこれで3人とも○だから、穩乃ちゃんは狂人が背徳者なんだと思う。」



由「でも、もしかしたら真かもしれないのよ？人狼がわざと真を残して、混乱させようとしているのかもしれないのよ。」

洋「真はうちやつちゆうねん。まああれや。これで高嶋の内約が分かったんはええけど……」

Q「……赤土さんの推察は、はたしてほんまなんでしょうか……？」

灼「さすがはハルちゃん……！」

宥「赤土先生が真なら、おそらくは当たってるんだと思う。でも、これが人外だとしたら……」

由「とんだペテン師なのよ。洋榎なんて目じやないのよ。」

洋「ってなんでそこでうちが出てくんねん!?うちはペテン師ちゃうわ！」

Q「……」

宥「……」

灼「……」

洋「……っておい!？」

由「知らぬは本人ばかりなり、なのよ。」

○6日目(昼) 浩子・宥・由子・洋榎・灼・穩乃・晴絵

穩「赤土さん凄いです！私聞いてて感動しました！」

晴「それはありがたいんだけど・・・私の考察だと、シズは狂人判定なんだけど、それはいいの？」

穩「ああ!?違います！」

洋「違わんやろうが。ようもうちの役職を騙ってくれたもんやで・・・!?」

Q「まあ落ち着きましよ。向こうも赤土さんが真の可能性高いっちゅう目線で話進んどりますわ。」

灼「当然・・・！」

宥「愛宕監督が、真は自分だって言っではいるけど・・・？」

洋「・・・さすがにこれで真目には見れんわ。もしこれでうちのおかんが真やいうなら、完全に人狼の術中にはまっとることになるで。」

由「でも、竜華がちよつと大変そうなのよ。」

Q「私が人狼確定の目線しか出来なくなりましたからね。そうなるっちゅうことは、高鳴を真と確定するしか出来ませんわ。そりやさすがに無理っちゅうもんです。」

灼「・・・船久保さんは、本当に人狼じゃないの・・・？」

晴「おそらく違うだろうね。船久保さんが本当に人狼なら、人狼もいきなり霊能を襲

撃するなんてことはやりづらひはずだよ。それに襲撃するにしても、それこそ狂人の可能性のある愛宕さんは残したいだろうし。」

洋「ま、うちは真なんやから、人狼の味方なんかさせえへんけどな。」

穩「真は私ですよ！」

宥「穩乃ちゃん？これ、お茶受け様のお菓子だよ？」

穩「おお！ありがとうございます宥さん！」

Q「・・・扱いやすい奴ですわ。」

由「後輩に1人ほしかつたのよ。」

晴「純粹なのがいいところなんだけど・・・」

灼「・・・いささか、正直すぎ・・・」

洋「とりあえず、玄ちゃんも占いロラを決めたみたいや。これで負けることはないやろな。」

○7日目(昼) 浩子・宥・由子・洋榎・灼・穩乃・晴絵・雅枝・憧・恭子

恭「やってもうた・・・めげるわ・・・」

憧「ようやく噛んでくれたってわけね。もういつ噛んでくれるのか心待ちにしてたわ

よ。」

雅「新子は自分が猫又や認めるんやな？」

憧「もちろんよ。だから真目に近い晴絵の意見に反論したり、推理だしてなるべく目立つようにしてたんだから。」

恭「あかん……！完全に狩人や思うとつたわ。選択間違えたわ……!?」

憧「……まあ、噛んでくれたんだから結果はオーライね。」

雅「ん……怜がCOLWしたわ。竜華が狐や言うとするな。さすがに狐勝ちは止めさせたいみたいや。」

恭「なあっ!？」

洋「あいつまた人狼かい。浩子と一緒に人狼役大好きやな。」

Q「一緒にせんといってください。私かて占い師とかやりたかったですわ。」

由「でも、なんで今出てきたのよ？もう少し待てば、竜華は否応なしに吊られてたのよ。」

晴「本人が言ってる通り、人狼を騙られるのを防ぎたかつたんじゃないのかな？確かにあの状態で清水谷さんがCO人狼したら、ほかのCOが狐に見えてくるし……。」

灼「……やば……」

宥「だから、狐勝ちだけは防ごうと……？でも、もう少し伏せててもいい気が……」

洋「・・・やとすると、怜はほんまに狐っちゅう可能性が・・・？」

憧「・・・高いわね。清水谷さんが人狼は自分だつて言ってるけど、完全に人狼は園城寺さんだつて流れになってきてるし・・・」

恭「こんなら、竜華やなくて私らが騙るんやった・・・！あの子に伏せさせてもすぐにはれそうや思つたんが、完全に裏目に出とるわ・・・！」

灼「・・・玄は、どつちを選ぶ・・・？」

ゲームは終了いたしました。

## 長野にて

「——ツモ。2, 000, 3, 900です。」

「うわ・・・捲られたし・・・」

「追いつけなかつたよ・・・」

長野に数ある高校の一つ、清澄。

その麻雀部室で、今一つの対局が終わりを告げた。

最後に投了を見せたのは、宮永咲。

清澄高校に在籍する、将来を有望視される高校生雀士の1人である。

「逃げ切れるかと思っただけどなく。やっぱ接戦じゃ無理か・・・」

「塞酷いよ～！私ばかり塞ぐなんて～！」

「いや、だって咲ちゃん塞ぐと疲労が半端ないし、豊音放っておくと洒落にならないし・・・」

「・・・何というか、もうちょい普通の麻雀がしたいところじゃ・・・」

清澄高校主催の練習試合。

それに招かれたのは、遠く離れた地、岩手に存在する宮守女子。

本来なら何の接点もなさそうな2つの高校ではあるが、夏のインターハイの準決勝でぶつかったという過去があり、それ以来友誼を交わし続けていた。

・・・主に、約1名が。

「サエ！オシカツター！」

「あと少しだったね・・・」

「油断するからそうなるの！」

「してないっての・・・」

「うう・・・私3位だったよ・・・」

「・・・ダントツでビリのわしに対する嫌味か、ありやあ・・・」

「ま、まあまあ・・・」

最終局、トップで迎えたのは白沢塞。

細かく刻みつつ点数を上げ、なおかつ同卓していた姉帯豊音の力を随所で抑えることにより、何とかトップで最終局までやってきた。

しかし姉帯の力を塞ぐことに集中するあまり、もう1人の難敵への集中が途切れたのが運の尽き。

最後の最後に宮永がツモ上がりにすること、見事にトップの座を奪われていた。なおもう一人の同卓者、染谷まこに関してはお察し。

不可思議な力が奮われては塞がれ、また奮われては塞がれを繰り返すような珍妙な卓は彼女の記憶に存在せず、その実力を出せぬままズルズルと最下位へと転落していき、浮上することは叶わなかった。

「まこにとつてもいい勉強になったんじゃない？こんな珍しい卓、早々あるもんじゃないわよ？」

「早々あつてたまるかい。全く……！」

「……ですが確率的には確かにありえるとしても、ここまで偶然が続くというのは、いささか腑に落ちないところではありますね……」

「和ちゃんとは相変わらずだじえ！」

「何にせよ、勝つて良かったです……。」

ともかくにも、予定されていた対局はこれで全て終了した。

みなが一同に集まり、牌譜を元にこの打ち方はどうか、いやいやあの打ち方は……と討論に熱が入っていく。

そんな熱を冷ましたのは、部室に入ってきた一人の少年の言葉であった。

「皆さん、頼まれてたジュース買ってきたっす！」



「あ、京ちゃん。」

「遅いじえ犬！」

「そんな言い方はいけませんよ？優希？」

須賀京太郎。

清澄高校麻雀部に所属する、唯一の男子生徒。

その性別ゆえに、前回の阿智賀女子との練習試合に同行できなかった少年である。

「あ、ありがとうね。須賀君。」

「ありがとうだよ。」

「・・・感謝・・・」

「シエイシエイ！」

「エイちゃんちゃんとお礼言うー！」

「スマヌ・・・」

なお今回は清澄主催と言うこともあり、彼もちゃんと参加している。

参加してはいるのだが、その実力はやはりお察し。

彼の名譽のために言うならば、一度は跳ばずに済んだとだけ言っておく。

「ありがとうね、須賀君。領収書はいつもの引き出しに入れといて？・・・あ、ついでに最近整理してなかったからよろしく頼むわ。」

「了解つす。」

「あと、その下の引き出しに今回の牌譜入れといてね？もちろんちゃんともまとめた状態  
で。」

「ういゝつす。」

「．．．京太郎。少しは疑問に思ひんさい．．．！」

「着実に犬化してるじゃえ．．．」

「．．．否定できないのがまた．．．」

「あ、あはは．．．」

「．．．いいね、彼。」

「えっ！どうしたのシロ!?もしかしてまさかしてゝ．．．!?」

「ワクワク．．．！」

「ドキドキだよ〜！」

「ふ、不純異性交遊は駄目絶対！」

「．．．彼がいると楽そう．．．ダルくない．．．」

「．．．」

「．．．」

「．．．」

「ツマラン！」

「・・・みんな楽しんでるみたいだね。どうだったんだい？今日の結果のほどは？」

「あ、先生！」

ふと入り口に目を向ければ、そこにはコンビニのビニールを片手にした女性の姿が。

熊倉トシ。

すでに年輩の域には達しているが、元は有能な雀士スカウトを勤めていた女性である。

もつとも現在はスカウトをやめ、宮守女子の顧問を務めているが。

「その・・・トータルで負けました。ちよつと残念です・・・。」

「でも、私とシロは勝ち越したよ〜！」

「ワタシハマケコシタ・・・。」

「私と塞が、途中で大負けしたのが、トータルで響いちやつたよね・・・。」

「・・・チーム戦。その分を取り返せなかったんだから、気にする必要ない・・・。」

「シロの言う通りだよ。勝てばみんなの勝利。負ければみんな敗北さ。クヨクヨしないで、前を向いてりやいいんだよ。」

彼女の言葉に、宮守の一同が静かに頷く。

そんな彼女たちをどこか羨ましそうに見つめつつ、清澄部長、竹井久は思い出したかのように口を開いた。

「さて、それじゃあ熊倉さんも戻ってきたことだし、そろそろ始めましょうか。話は聞いてるんでしょう?」

「もちろんだよ。実はちよつと楽しみにしてたんだ〜!」

「ちよつとじゃないでしょ〜? 向こうで滅茶苦茶喜んでたくせに〜!」

「わわわ! 塞〜! それは言っちゃ駄目だよ〜!」

「コンドハカツ!」

「つて言つても、くじ引きしただけどね!」

「・・・村人希望・・・役職ダルい・・・」

各々の反応に気をよくしつつ、久は大きく腕を振り上げる。

「それじゃあ清澄主催の人狼ゲーム、イン長野! スタートよ〜!!」

『お〜!!』

かくして、長野の地にて再び遊戯が開催される。

ただ勝利を目指すもの。

己の知略を振るわんとするもの。

片隅でじつとしていたもの。

各々の思惑を絡ませつつ、ゲームが始まる――。

「・・・そういえば、イン長野ってことは、他でもやる予定なの？」

「やるっていうより、やったっていうほうが正確ですね。奈良のほうで、阿智賀、千里山、姫松の皆さんと遊んできました。」

「わ、わ！ちよく羨ましいんだけどく!？」

「ナゼヨバン!？」

「さすがに奈良までは呼べんじやろ・・・」

「っていうか、エイちゃんどうしたの・・・!？」

「・・・ダル・・・」

続  
く

## 清澄・宮守

京：つてことで始まりました人狼ゲーム！司会は私、須賀京太郎が務めさせていただきます！

咲「・・・京ちゃんは参加しないの？」

優「どうせまた部長になんか言われたに決まってるじゃえ！」

久「失礼ね・・・一応言っておくと、私も須賀君のこと誘ったのよ？」

ま「ほんまか？」

和「一概には信じられませんね・・・」

京：本当です！

けどとりあえず最初は、まず10人で始めたほうがいいだろうと考えまして、辞退させていただきました！

それに行行役も楽しそうだったんで！

塞「何だか悪い気が・・・」

白「よろしく・・・」

胡「もう、少しは感謝する！」

豊「ありがとうだよ。」

A「ヨロシクナ！」

京：任せてください！

そんじやまずはルールの説明です！

10人参加の初日役欠け無し、占い有りのオーソドックスなタイプっすね。

人狼(2)、狂人(1)、占い(1)、霊能(1)、狩人(1)、村人(4)の内約です。  
すでにくじを引き終わってるんで、自分の役職等は分かっているはずですよ。

それではさっそくですが始めます！

会話時間はまず5分！

勝つのは村人か人狼か!?



人狼ゲーム、スタート!!

○2日目(昼) 犠牲 京太郎

処刑 なし

生存 久・まこ・優希・和・咲・白望・エイスリン・胡桃・塞・豊音  
須賀京太郎の無残な死体が発見されました。

久「それじゃ始めましょうか。よろしく頼むわね。」

豊「よろしくだよ〜!」

塞「よろしく。」

ま「さて、それじゃあ宮守のものには、さつそくじやがこのゲームの鉄則つちゆうも  
んを一つ教えてやるかのう。」

A「テツソク?」

白「・・・?」

胡「なに?」

和「簡単なことです。このゲームの鉄則は、少しでも疑わしきは吊る。よって・・・」  
ま「久に一票じゃ。危険人物は早々に消すべきじゃな。」

優 「賛成だじえ！」

咲 「仕方ないですね。」

豊 「わ、わ!?!もう人狼見つけちゃったんだよ!?!」

A 「ナツトク！」

塞 「なるほど……！」

胡 「（……突っ込むべき……!?!）」

久 「……ま、まあまこのジョークはともかくとして……」

ま 「大真面目じゃぞ？」

久 「何でよ!?!」

豊 「アハハ♪」

和 「……まあこの位にして、そろそろ進めましょう。」

塞 「えっと……始めは占いCOからだっけ？」

咲 「必ずしもそうでないといけない、というわけではないんですが。でも材料が何もないと、推理のしようがありませんので……」

白 「任せる……ダルくなければ何でもいい……」

胡 「シロもちゃんと真面目に参加する！」

A 「ソレジャアCO、プリーズ！」

久「始めは合わせていきましょ？占い師は誰々、何々って言つてちようだいね？それじゃあ、せくの！」

ま「久、○じゃ。」

胡「豊音、○だよ！」

和「・・・ふむ。染谷先輩と・・・」

塞「胡桃もそうなんだね？」

久「・・・一ついい？ねえまこ？あなた私を占つて○つて出しときながら、いきなり私を疑つたわけ・・・！」

ま「あいにく、このゲームには狂人つちゆう役職があるからのう・・・」

優「名推理だじえ！」

久「何だよ!？」

豊「アハハ！でも、胡桃は私を占つてくれたんだね？」

胡「誰を占えばいいか分からなかったからね！とりあえず豊音は間違いなく村人だよ！」

和「まだ確定は出来ませんよ？占いのどちらかは必ず騙りなのですから。」

A 「クルミ、ニセモノ？」

胡 「私は真の占い師だよ！騙りはそっち！」

ま 「あいにく、そっくりそのままお返しじゃ。狂人か人狼かまではまだ分からないのう？」

咲 「でも、また○だけだから……」

白 「……グレラン……？」

久 「それが一番妥当といえは妥当なんだけど……」

咲 「……怖いのは、この時点で人狼が狂人を見つけてる場合なんだよね……」

豊 「ふえ？」

A 「ツマリドウイウコトダ？」

咲 「占いお2人の内約が、真狂だった場合なんですよ。もしこの時点で狂人が人狼に○を出していれば、人狼には狂人の見極めが出来ることになるんですよね。」

久 「つまり、私か姉帯さんが人狼だった場合、ということなの。もしこれで明日胡桃が噛まれていたりした場合、どう見てもまこと私が怪しく見えるでしょ？」

塞 「確かにその通りだね……」

A 「ウタガワシイ！」

咲 「けど、それを利用してわざと逆も出来るんです。染谷先輩が真で部長が村人。鹿

倉さんが狂人で、もし姉帯さんが人狼だったときに、人狼がわざと鹿倉さんを噛んだりすれば……」

白「……なるほど。真の染谷さんと村人の竹井さんが、今度は怪しく見えてくるわけだ……」

ま「自分の役職じゃからこういうこと言うのは何じやが、占いが初日に噛まれてもその信憑性は薄いということじゃな。無論、素直に真のほうを消しにくることもあるがの。」

優「いきなり●でも出れば話は別だったんだけど……」

胡「豊音、人狼じゃなかったしな。」

豊「うう……ごめんね？ 胡桃。」

胡「つて、謝るところ違うそこ!？」

和「……どちらにせよ、現時点では他に手はありません。グレランにするべきです。霊能のCOは明日にしますか？」

A「デモ、ツラレルトコマル!」

塞「そうになると、一気に人狼ペースだよねえ……」

咲「今日やつちやつてもいいと思うよ？ここで騙りが出るなら、いきなり霊口ラつていう手段も取れるし……」

優 「咲ちゃんもなかなか過激なこと言うじえ．．．！」

A 「オソロシイ．．．！」

胡 「それ言われると、ちよつと真も出づらくなる気も．．．」

和 「いえ、咲さんの言う通りかもしれない。ここで騙りが出るならロラしてしまえば、少なくとも人外一匹は確実に仕留めることが出来ます。それが人狼であれば、なお良しですね。」

久 「確かにその通りね．．．よし、私は賛成するわ。反対の子はいる？」

白 「賛成．．．」

A 「シカタナイ！」

優 「しょうがないじえ！」

塞 「ちよつと怖い気もするけど、いずれは決めなくちやいけないわけだしね。」

咲 「私はもちろん賛成です。」

ま 「ええんじやないか？ わしも賛成じや。」

胡 「ちよつと悩むところだけど．．．仕方ないよね．．．？」

豊 「じゃあ私も賛成するよ〜！」

和 「私もです。」

久 「全員賛成でいいのね？ それじゃあ一斉にCOしましょう。自分が霊能だという人

は、自分だつて声を上げてちょうだい。．．．いい？それじゃ、せくの．．．！」

和「私です。」

和「．．．騙ろうという人がいないのであれば、私を真と信じていただきたいのですが．．．？」

久「．．．本当に他にいないのね？なら、和を真霊能で話を進めるわよ？」

白「いいんじゃない？出てこなかったんだから、今さら弁解は無しつてことで．．．」  
塞「全員が賛成したわけだしね。原村さんを真確定でいいと思うよ？」

豊「原村さん、頑張つてね〜！」

A「オウエンシテル！」

和「．．．ありがとうございます。精一杯、推理させていただきます．．．！」

京：残り1分つす！

そろそろ結果をまとめてくださ〜い！

久「じゃあここからは和が進行してちょうだい。狩人は霊能護衛でよろしく頼むわね

？」

咲「それがいいですね。和ちゃんが嘯まれると、混乱しそうだし……」  
和「よろしくお願いします。それでは、今日はグレランでお願いします。対象は5人ですね。」

優「私と咲ちゃんと……」

塞「シロとエイちゃんと私だね。」

和「怪しいと思う人に投票してください。占いの2人は、怪しいと思ったところを占ってみてください。」

ま「ん。了解じゃ。」

胡「任せといて！」

京：それじゃあ時間です！

怪しいと思う人物に投票してください！

○投票結果

久(0) ↓ 白望

まこ(0) ↓ 咲

優希(2)

↓ 咲

和(0)

↓ エイスリン

咲(3) ↓ 塞



白望(2) ↓ 優希 エイスリン(1) ↓ 咲 胡桃(0) ↓ 塞 塞(2) ↓ 白望  
豊音(0) ↓ 優希

投票の結果、宮永咲さんは処刑されました。

咲「うわ、いきなり吊られちゃった・・・霊口ラとか言ったから、怪しまれちゃったかな・・・？」

○3日目(昼) 犠牲 京太郎

処刑 咲

生存 久・まこ・優希・和・白望・エイスリン・塞・豊音

平和な朝を迎えました。

京：おはようございます！

何といきなりの平和つすね！

平和は何よりつすけど、こうなると咲は暇そうですね!?

今日の会話時間は4分！

昨日よりも短いんで、話し合いはスムーズにお願いします！

それでは3日目、スタート！

豊「みんなおはよう〜！いきなり平和だよ〜♪」

久「まさかいきなりGJが出るとは思わなかったわね・・・狩人の子、やるじゃない  
♪」

和「狐の役職が無い以上、狩人以外に平和は起こせませんからね。ですが、つまり狩人は私の護衛を外したということでしょうか・・・？」

優「おそらくそうじゃえ！それで見事にGJじゃえ！」

塞「それってかなり勇気があるわよね？これで原村さん嘯まれてたりしたら、大戦犯確定だよ。」

白「・・・どこを守ったか知りたいたいけど、それは後にしよう。それよりも・・・」

A「ウラナイノケツカ！プリーズ！」

和「そうですね。ちなみに咲さんの結果は○でした。当然ですね。・・・では、占いのお2人お願いします。・・・せ〜の！」

ま「白沢さん、●じゃ。」

胡「久、○だね！」

塞「・・・へ!？」

和「ふむ。・・・とりあえず、●が出たようですね。」

久「胡桃も、私を占ってくれたんだ？」

胡「昨日みんなが言ってたけど、人狼が狂人の見極めがついてるってところに警戒したの。これで久が人狼だったら危なかったけど、疑いすぎたみたい。」

優「でも、これで部長が確定○だけえ！」

ま「じゃが、まだ狂人っちゅう可能性がある。油断は禁物じゃ。」

優「・・・あ、危なかったじゃえ・・・！」

久「だから何でそこまで私を疑うのよ!?!・・・それより、まこは●を見つけたのね？」

ま「おおそうじゃった。占った理由は特に無いわ。怪しいもんもおらんかった思うし、適当に、じゃな。まあ強いていうなら、最後の対局の仕返しかのう？」

塞「ちよ、ちよと待ってよ！私が●って・・・え!?!何で染谷さんが!?!」

豊「塞が人狼だったの!?!」

胡「騙りの●は信じたくないけど、でも狂人の誤爆っていう可能性も・・・」

A「サエ！カクゴヲキメロ！」

塞「ちよつと待って！とりあえず話を聞いて！」

和「COですか？言っておきますが、今さら霊能だと言っても、信じる人はいませんよ？」

塞「違うの！私狩人！CO狩人よ！」

久「・・・うげ・・・」

白「・・・塞、それが本当なら言わないほうが・・・？」

胡「全くだよ！どちらにせよ、原村さんの結果で村だつて証明されるんだから！」

豊「原村さんが危なくなるよ？」

A「キョツケイニシヨス！」

塞「うっ・・・いや、それはそうなんだけど！昨日の護衛先が問題なのよ！」

久「・・・狩人が本当だつていうなら、それは聞いてみたいわね。そこは間違いなく村人なわけだし。」

ま「聞く必要はなからう。どう考えても人狼の悪あがきじゃぞ？」

豊「でもでも、ちよつと気になるかも・・・？」

優「・・・ちなみに、どこを守つたつていうんだじえ？」

和「まあ、聞くだけは聞いてみましょう。」

塞「染谷さんよ！私染谷さんを護衛してるの！！」

久「」

白「」

和「」

ま「・・・はあ？」

胡「えつと・・・んう？」

A「サエ・・・トチクルツタカ・・・!?」

塞「だから私だって訳が分かんないんだってばく!?平和が出たから、てつきり染谷さんが真だと思ったのにく!?」

和「えつと・・・つまり、昨日の襲撃先は染谷先輩で・・・」

白「・・・彼女を守ったのが塞で・・・？」

久「その白沢さんを、まこは●とした・・・？」

ま「・・・いや、どう考えても破綻しとるじやろ？」

胡「さすがにそれは・・・」

白「・・・無理が、ある・・・」

豊「塞、塞ぎすぎてついに・・・!？」

A「アバヨ・・・!」

塞「少しは信じてよ!？」

久「・・・どうにも気になるわね。」

和「え、何がですか？」

優「どう考えてもおかしいじえ？」

ま「つていうか、それはつまりわしを疑つとるつちゆうことか？」

久「あんただつて私を疑つてたでしょうが。和、悪いけど進行役借りるわよ？ 確かめたいことがあるの。」

和「え？・・・まあ、部長は○確定ですし、構いませんが・・・？」

久「ありがと。それじゃさつそくで悪いんだけど、狩人の真は自分だつていう人は出てきてちょうだい。」

和「・・・つて、ええ!？」

ま「はあ!？」

優「だじえ!？」

白「・・・？」

胡「ど、どうしたの・・・？」

豊「わ、訳分らないよ・・・？」

A「・・・??？」

塞「・・・竹井さん・・・？」

久「出てこないなら、狩人は白沢さんで確定よ。そうすると、今日はまこを人外として吊るわ。」

ま「・・・待て待て待て！お前さんほんまに狂人じゃないじやろうな!？」

久「白沢さんの言ってることはおかしすぎるのよ。けど、単に狩人が狂人を守つただけって考えれば辻褄が合うわ。だからここで狩人が出てこないなら、今日は狂人としてまこを吊るわよ。」

和「・・・なるほど。その確認のためのCO要請ですか・・・！」

胡「でも、出たら狙われない!？」

白「・・・覚悟を決めてもらおう。むしろここで出ない場合には、真は塞。出てきたら、人狼の悪あがき・・・そう考えたほうがいい。」

優「・・・さ、さすがに納得できないけど、仕方ないじえ！CO狩人だじえ！」

A「データ!？」

優「これで染谷先輩を吊られるのはたまらないじえ！ちなみに昨日は和ちゃんを守つ

たじええ！」

久「……ん？」

豊「……原村さんを？つてことは、人狼はいきなり霊能を狙いに行つたの？」

和「……私を、ですか……？」

優「？そうだしえ？」

久「……それが本当だとすると、人狼はよほどの博打好きみたいね。私でもいきなりは狙いに行けないわ……。」

塞「い、言つとくけど私が真だからね!?今日やられるかもしれないけど、それでも騙りはそつちだから！」

白「……守つたのが、胡桃や別の人だつて言うなら信じれたんだけど……。」

胡「原村さんだつて言うんじや、ちよつと信じづらいかな……？」

A「……バキヤクヲアラワシタ！」

優「……な、何で私が疑われてるんだじええ!?」

京：残り1分を切りました！

そろそろ結果をまとめましょう！



久「狩人の怪しいほうに投票しましょう。といつても、怪しすぎるのがうちの後輩にいるわけなんだけど・・・」

和「優希・・・正解を言えればいいというわけではないんですよ?」

豊「これは、決まりかな?」

白「・・・考えなくても、良さそうだね・・・」

胡「つていうことは、染谷さんは狂人つてこと・・・?」

A「タブンソウ!」

ま「違うわい。全く・・・!」

優「じえく・・・」

塞「助かったわ・・・とりあえず、今日は原村さんを守るわ。あ、でも胡桃のほうがいいのかな・・・?」

京：時間です!

怪しい人物に投票してください!

○投票結果

久(0) ↓ 優希

ま(0) ↓ 塞

優希(7) ↓ 塞

和(0) ↓ 優希

白望(0) ↓ 優希 エイスリン(0) ↓ 優希 胡桃(0) ↓ 優希 塞(2) ↓ 優希  
 豊音(0) ↓ 優希

投票の結果、片岡優希さんは処刑されました。

優「じえゝ・・・」

○4日目(昼) 犠牲 京太郎

処刑 咲・優希

生存 久・まこ・和・白望・エイスリン・胡桃・塞・豊音  
 平和な朝を迎えました。

京：おはようございます！

まさかまさかのまた平和！ですよ！

これは人狼なんていなかったってことじゃないでしょうか!?

今日の会話時間は3分間。

そろそろスピードアップでよろしくお願いします！

それでは4日目、スタート!

和「おはようございます。言うまでも無いでしょうが、優希は●でした。・・・とはいえ・・・」

久「・・・勝負、決まったんじゃない?」

豊「村の勝ちだよ!」

ま「そうじゃのう。その通りじゃのう。けつ・・・!」

塞「えっと、昨日はやっぱり胡桃を守ったんだけど、正解だったみたいね・・・?」

久「まあそこさえ守れば、今日で答えが出るしね。で、胡桃?占いの結果は?」

胡「えっと、シロが○だったよ!」

和「・・・ということは、真の私と鹿倉さん。」

久「狂人のまこと、狩人の白沢さん。」

豊「○を貰った私とシロと・・・」

塞「竹井さんと咲ちゃん。」

白「残ったのは●の片岡さんと・・・」

A「」

塞「えつと・・・」

白「・・・エイスリン。」

A「・・・シロオ・・・！」

白「・・・遺言は？」

A「」

久「・・・確定でいいと思うんだけど、他の可能性はあると思う？」

和「無いと思うんですが・・・」

白「・・・原村さんは真で確定だよな？なら、片岡さんの結果から見ても塞も真と見て間違いない・・・」

豊「塞が真なら、●を出した染谷さんは破綻だよな？」

塞「なら、胡桃は占いの真で確定でしょ？欠けは無いわけだし。ってことは・・・」

A「・・・ケツ。」

一同『スキップで。』

○投票結果

久(1) ↓エイスリン

まこ(0) ↓久

和(0) ↓エイスリン

白望(0) ↓エイスリン

エイスリン(6) ↓塞

胡桃(0) ↓エイスリン 塞(1)

↓エイスリン

豊音(0) ↓エイスリン

投票の結果、エイスリン・ウィツシユアートさんは処刑されました。

この瞬間、村から全ての人狼は処刑されました。

おめでとうございます！

村人の勝利です!!

A「ヤツテラレン！」

優「申し訳ないじえ・・・！」

ま「何でよりによって和の護衛なんて言ったんじや!? 適当なところ守ったって言っときやいいじやろうが!」

片岡優希・エイスリン・ウィツシユアート（人狼） 染谷まこ（狂人）

胡「勝つたのは嬉しいんだけど、これは喜んでいいのかな・・・?」

和「素直には喜べないかと。喜んでいいのはうちの部長と、白沢さんだけでしょうね。」

塞「私も? 正直やっちゃったかなろって思ってたんだけど・・・」

鹿倉胡桃（占い師） 原村和（霊能） 白沢塞（狩人）

豊「村の勝ちだよ♪」

咲「おめでとうございます。でも、結局まともな犠牲者って私だけでしたね・・・」  
久「須賀君を抜かせばね。でも、白沢さんのおかげね。あれで一気に流れが掴めたわ。」

白「・・・喋りすぎた・・・ダル・・・」

竹井久・宮永咲・小瀬川白望・姉帯豊音（村人）

優 「最悪だじえ〜。これなら狩人COしないで、そのまま染谷先輩には吊られてもらうんだっただじえ〜。」

ま 「わしが言うのもなんじやが、あの結果なら確かにのう。ま、次は頑張りんさい。」

A 「ウラナイカメバ、カッテニミウチアラソイスル、オモツタノニ〜。」

塞 「エイちゃん〜。何だか最近黒くなってきてない〜!!？」

A 「サエノオカゲ！」

塞 「つて何で!？」

咲 「私も見てて、『あ、これ詰んだかも』つて思いましたね。優希ちゃんが吊られたあの状況だと、白沢さんを噛むと小瀬川さんかエイスリンさんだけだし〜。」

久 「胡桃が噛まれても同じで、まこを噛んでも信頼するのはまず無理。」

和 「私を噛めば、念のため白沢さんもとなるかもしれないませんが〜。」

塞 「その場合、私とエイスリンを吊れば良しつてなるよね？胡桃生き残るわけだし。それで胡桃のほうを守ったんだけど〜。」

白 「〜。どちらにしろ詰み。片岡さんが人狼認定で吊られた時点で、村勝ちほぼ確定〜。」

A 「ウウ〜。ヤリナオシヲヨウキユウスル！」

優 「今度は負けないじえ!!」

和「そうですね。勝ったとはいえ、結局いいところは部長に持っていられましたし……！」

咲「私だけ吊られ損だよ……！」

豊「私も、次は活躍するよ〜♪」

京「部長〜！お約束してるってお客さんが来てるつすよ〜!!」

久「……あら。来たみたいね……？」

ま「……もう何も言わんわ……」

塞「あれ？他にも誰か呼んでるの？」

胡「聞いてないよ!？」

久「ごめんなさい、胡桃。でもせっかくだし、みんなで楽しもうと思ってるね？」

胡「むう……！」

久「いいわよ〜？入ってちようだ〜い？」

「……いきなり呼ばれたから来てみれば、まさか岩手代表……確か、宮守だったか？  
その人たちも来ているとは……」



「ワハハ。何だかいつぱいいるぞ〜?」

「少し、緊張しますね・・・!」

「あわわわ・・・!?!」

「せっかくのみんなでのお出かけ先があの子のところって、一体どういうことつすか!?!  
説明してほしいっす〜!!」

久「紹介するわ。長野県県予選決勝で戦った相手、鶴賀学園麻雀部のみんなよ。」

ゆ「久から大体の説明は聞いている。が、本筋での説明は聞いていないぞ。これはどういうことなんだ?」

ワ「ワハハ。一応部長の蒲原智美だ。よろしく頼むぞ〜?」

睦「津山睦月といえます。その、よろしく願います。」

佳「その、妹尾佳織です〜。」

桃「東横桃子っす!それよりも説明を要求するっす〜!?!」

豊「みんな、よろしくね〜♪」

塞「一気に増えたわね・・・!」

胡「もう、久つたら・・・!」

A「カカッテコイ!」

白  
〔  
・  
・  
ダ、  
ダル  
・  
・  
〕

続く  
・  
・  
・

## 清澄・宮守・鶴賀①

ト：さて、それじゃあ始めるとしようか。

今回進行役を務めさせてもらう熊倉だ。

みんな、よろしく頼むよ？

さて、さつそくだけど今回はちよいと変わった役職が入っているから、みんな気をつけとくれ。

○狂信者

人狼陣営の村人。

基本は狂人と全くの同じだが、最大の違いは『人狼の内約が分かること』である。人狼側からは狂信者が誰かを理解できないので、その点には注意が必要。

ト：・・・とまあ、こういった役職が追加されるわけさ。  
別に難しく考えないで、人狼が分かる狂人って考えちまいな。

ま「また面倒くさい役職が入りおって・・・」

久「傍目には狂人との見分けがつかないのが面倒なのよね。」

和「もつとも、人外と分かった時点で吊ってしまえば問題はありませんが。」

咲「最後のPPにはじゆうぶんに気をつけないとね。」

優「その通りだじえ！」

ト：それじゃあルールの説明だ。

今回は16人参加の、初日役欠け有り、占い有りだ。

京「つてことで、今回は俺も参加しまゝす！」

咲「ようやくだね。もう進行役はいいの？」

京「おう！始めから内約が全て分かるのも楽しかったんだけど、やっぱ実際にやってみてゝしな！」

優「そんなこと言つて、いきなり嘯まれたりするんだじえ！」

和「推理の邪魔だけはしないでくださいね？」  
京「」

ト・内約は人狼（3）、狂人（1）、狂信者（1）、共有（2）、占い（1）、霊能（1）、狩人（1）、村人（7）だよ。

今回は狐は無しだ。

ちよいと人狼陣営が不利になるかもしれないけど、それは上手いこと連携して頑張っておくれ。

ゆ「・・・7吊りの5人外というわけか。狐がいないのは助かるな。」

ワ「ワハハ。その分、人狼は大変だぞ。」

睦「うむ。狂信者が、いかに上手く立ち回れるかがポイントになりそうだね。」

佳「でも、あからさまだとすぐにばれちゃうよ？」

桃「まあそこは人狼さん達に頑張ってもらえないかな。・・・っていうか、なんですんなり参加する流れになってるんすか・・・!？」

ゆ「久だからな。」

ま「仕方ないわい。」

ト：初日の会話時間は5分間だよ。

分かっていてと思うけど、日が経つごとに時間は減っていくからね？

豊「うう〜！頑張るんだよ〜！」

塞「今度もいいところ見せちゃうんだから！」

A「オメイバンカイ！」

胡「それを言うなら汚名返上！」

白「・・・ダル・・・」

ト：それじゃあ始めるとしようか。

今度は一体どちらの陣営が勝つのか、楽しみだね？

じゃあ人狼ゲーム、スタートだよ。

○2日目（昼） 犠牲 トシ

処刑 なし

生存 久・まこ・優希・和・咲・京太郎

白望・エイスリン・胡桃・塞・豊音・智美・ゆみ・睦月・佳織・

桃子

熊倉トシの無残な死体が発見されました。

京「そんなじゃ、よろしくお願いしまゝす！」

ゆ「ああ、こちらこそよろしく頼む。」

桃「よろしくするのは考えるつす。でも先輩に近づいたらただじゃおかないつす。」

塞「まあまあ。とにかくよろしくね？」

久「さて、さっそく始めましょう！とりあえず誰からいく？占い？それとも共有？」

佳「は、はい！共有COです！」

ま「ほう。お前さんが共有じゃったか。」

睦「佳織が共有か。相方は伏せるの？」

佳「相方は熊倉さんです！」

優「おう・・・さっそく欠けが見つかったじえ・・・！」

和「対抗する方はいらっしやいますか？いなければ共有は妹尾さんと、初日欠けとい

う認識でいかせていただきますよ？」

咲「・・・いないみたいだね。」

久「分からないまま進むよりは余程やりやすいわ。それじゃあ進行役よろしくね？」

佳「は、はい！それでは、さっそく占いのかたにCOをお願いします！」

ワ「ワハハ。佳織？もう少し肩の力を抜いたほうがいいぞ？」

豊「リラックスだよ♪」

白「・・・任せて・・・」

胡「シロはしゃきつとする！」

佳「あ、は、はい。それじゃあいきます。せくの・・・！」

ゆ「須賀君。○だ。」

ワ「ゆみちん、●だぞ。」

白「塞、●だったよ・・・。」

ゆ「・・・ほう。蒲原がな・・・？」

ワ「ワハハ。ゆみちくん、素直にお縄についたほうがいいぞ？」

塞「・・・って私!?シロ、あんた・・・！」



白「：ダルいけど、占い師になっちゃったしね。とりあえず、やることはやるよ：」  
 桃「つていうか、何で先輩が人狼になっちゃうんすか!？」

京「俺を占ってくれたんすね・・・？」

優「みただじえ。なんで犬なんか占ったんだじえ？」

ゆ「ふむ。とりあえず説明しておこう。・・・といっても、正直に言うところ日は誰を占えばいいのか分からなくてな。唯一の男子生徒ということで、彼を占ってみただけだ。」

ワ「私は少し具体的だぞ？久もそうだが、ゆみちはこういう頭を使うゲームには滅法強いからなく。味方なら心強いけどつて思つて占つてみたんだ。まあ、結果的には人狼だったんだけどなく。」

豊「シロは？何で塞を占つたの？」

白「・・・何となくかな・・・？」

塞「ちよつと!？」

胡「だから真面目にやる!」

A「シナイヒキズリマワサレテカ!」

胡「つて、だからそういう言葉禁止!」

久「・・・パツと見では、智美かゆみが真つぽいけど・・・」

咲「でも、いきなり切り捨てるわけにはいきませんよ?」

京「つていうか、この場合って加治木さんを吊るわけにやいかねくんじやねくの?」

桃「何で先輩が吊られなきやいけないんすか!?! どう見ても先輩を疑う蒲原部長が怪しいっす!」

佳「でも、智美ちゃんが真の可能性もあるよ?」

睦「うむ。まだ断定するには早いと思う。」

和「この場合は、白沢さんを吊って色を確かめるのが最善ですね。」

塞「うえ・・・やっぱそうなるの?」

豊「仕方ないかな?」

優「でも、これで村人ならシロ先輩の人外確定になるじえ!」

A「シロ、ニセモノ?」

白「本物・・・」

久「・・・うん。妹尾さんとしてはどうしたいの? 白沢さんを吊って確かめるのか、それともいきなりゆみを吊ってみるのか?」

佳「ええ? え、えつと・・・」

桃「・・・カオリン先輩。分かってるっすね・・・!?!」

佳「え、ええ!?!」

ゆ「……モモ。私を信じてくれるのは嬉しいが、とりあえず私情は抜きにしておけ。私に対する擦り寄りに見られるぞ?」

ワ「まあそれは元からだからなく。そこまでは気にならないぞ?」

咲「いや、気をつけたほうがいいですよ? 私たちはともかく、宮守の皆さんにはそうは見えないでしょうし……」

胡「確かに……」

豊「ちよつと気になつてるよ!」

桃「む……気をつけるつす。」

京「けど、本当にどうすんだ? まさかグレランになんの?」

佳「……い、いえ! 今日白沢さんを吊つて、小瀬川さんの真偽を確かめたいと思います!」

睦「うむ。それがいいと思う。」

塞「うわあ……やっぱりそうなるわけね……」

白「仕方ない……恨むんならくじを恨んで……」

塞「シロを恨むに決まってるでしょうが!」

久「じゃあ今日の吊り先は白沢さんで確定ね。グレランじゃないし、霊能は明日にする?」

ワ「吊られないんだから、それでいいと思うぞ〜?」

A「カマレタラ!」

優「噛まれて騙られたりしたら、最悪だじえ!」

咲「その時は・・・騙りに自力で気づくしかないよね。」

和「少しでもおかしいと感じたら、すぐに吊るしかありませんね。」

ま「不自然さに気づければいいんじゃない?」

白「・・・確かに・・・」

桃「騙られて終わったりしたら、それこそ最悪です。」

久「その点、今回は狐がいなくていいというのは助かるわね。狐の霊能騙りは独壇場になりかねないもの。」

ゆ「そうだな。幸い今回占い師になったわけだが、狐有りだと呪殺したのか噛まれただけなのかも予想しなくてはいけなかった。その点では大いに助かるというものだ。」

ワ「ゆみちゃんは騙りだろ〜? 狐の予想はともかくとして、占いとしては信じるわけにはいかないぞ〜?」

ゆ「それはこちらの台詞だぞ、蒲原。狐有りなら、対抗占いもしてみたいところだ。」

白「・・・今回狐はいないんだし、その話は別にいいんじゃない? 何だか、無駄に時間を使われてる気が・・・」

ゆ「む。・・・確かに今は関係ない話だったな。失礼した。」

ワ「ゆみちんの信頼がぐくつと落ちたぞ。」

ゆ「・・・言っておくが、お前もだからな？」

ト：残り1分を切ったよ。

今回は狐はいないから、安心しておくれ。

佳「そ、それでは今日は白沢さんに投票でお願いします！」

塞「仕方ないよね。・・・でも、私は村人だからね！霊能の人は、ちゃんと明日に証明してよね！」

胡「明日か。・・・」

睦「本当に、霊能だけは助かってほしいですね。」

豊「本当だよ！」

A「ワクワク！」

和「・・・それは少し違う気が・・・？」

咲「でも、グレランなしっていうのは初めてじゃない？大体初日はグレランだったし。」

ま「これが無駄吊りではないことを祈るしかないのう。」  
京「(・・・頼むから、明日の朝日ぐらいは・・・!)」

ト：時間だよ。

それじゃあ各自投票してちょうだい。

○投票結果

久(0) ↓ 塞	まこ(0) ↓ 塞	優希(0) ↓ 塞	和(0) ↓ 塞
咲(0) ↓ 塞	京太郎(0) ↓ 塞	白望(1) ↓ 塞	エイスリン(0) ↓ 塞
胡桃(0) ↓ 塞	塞(15) ↓ 白望	豊音(0) ↓ 塞	智美(0) ↓ 塞
ゆみ(0) ↓ 塞	睦月(0) ↓ 塞	佳織(0) ↓ 塞	桃子(0) ↓ 塞

投票の結果、白沢塞さんは処刑されました。

塞「まさかの初日落ちとは・・・みんな、頑張つてね！」

○3日目(昼) 犠牲 トシ・睦月

処刑 塞

生存 久・まこ・優希・和・咲・京太郎

白望・エイスリン・胡桃・豊音・智美・ゆみ・佳織・桃子

津山睦月さんの無残な死体が発見されました。

ト：昨日の犠牲者は津山さんだったみたいだね？

参加したばかりの子をいきなり噛むなんて、今回の人狼には血も涙もないのかね？

？

今日の会話時間は4分だよ。

明日も4分で行くけど、話し合いはスムーズにね？

それじゃあ3日目、スタートさ。

ゆ「おはよう。津山がいきなりやられたな・・・」

桃「ムツキー先輩・・・！」

佳「津山さん・・・！」

ワ「・・・っていうか、噛んだのはゆみちんだろ？白々しいぞ？」

ゆ「違ふと・・・時間の無駄だな。妹尾、進行を頼む。」

佳「は、はい！それでは早速なんですけど、霊能の人は結果を教えてください。騙りが出るかもしれないから、一斉をお願いします。せくの・・・！」

久「○だったわよ、彼女。」

豊「塞、●だったんだよ〜！」

和「・・・案の定ですね。」

咲「部長と、姉帯さんですか・・・。」

ま「この時点で、すでに怪しさが漂っておるもんがいるんじゃないやが・・・？」

久「だから・・・まあいいわ。私目線で言わせて貰うと、すでに小瀬川さんは破綻してるわ。だから私は、小瀬川さん吊りをおすわよ。」

豊「違ふよ〜！塞は●だったよ〜。だから、シロが真なんだよ〜！」

ゆ「・・・いや、いきなり真目を取られても困るんだが・・・？」

ワ「さすがにそれはなく・・・」

胡「もしかしたら、狂人の誤爆かもしれないし・・・」

優「人狼の逆囲いっていう可能性もあるんだじえ〜！」



京「だけど、この場合の真偽はどうなるんだ？判断しづらいなんだけど・・・？」

A「シロ、ヤツパリニセモノ？」

白「本当に本物・・・」

和「・・・可能性としてあるのは、身内が消されたのを誤魔化すために出てきた部長か・・・」

胡「人外のシロを真として動かしたい豊音だね！」

佳「うう・・・その、判別ができません。ですので、占いの結果をお願いします！」

ゆ「ああ、分かった。」

ワ「分かったぞ。」

白「・・・ダルいけど、仕方ない・・・」

佳「それでは3人とも、せくの・・・！」

ワ「外人さん、○だぞ。」

白「竹井さん、○だよ・・・」

ゆ「原村、●だ。」

A「・・・ガイジンツテワタシカ！」

和「……なるほど。蒲原さん真目が強くなったということですね。」

久「あら……小瀬川さんは私を？」

ワ「理由を言うぞ。まあ彼女の言動が、何となく気になったんだ。見事に外したぞ。」

ゆ「私も、単に直感としか言いようがないな。特に怪しい人物がいな中で、比較的气になる場所を調べてみた結果だ。」

白「……さっきのゲームでもそうだけど、やっぱり竹井さんは中心にいることが多いからね……警戒して調べて、○で安心したんだけど……おそらく、狂信者だと思うよ。人狼を吊られて、私を消しに来たんでしょ……！」

豊「……シロがいつぱい喋ってるよ……！」

白「……ダル……」

咲「……和ちゃんの●、素直に信じていいのかな……？」

胡「●を初日に付けられた占い師が出した●だしね……」

和「信じる必要がありません。この場合、加治木さんは破綻ということで吊るべきかと。」

優「それが出来たら苦労はないじえ……」

ま「ほんまじゃ。まだ加治木さん真目は残ってるわけだしのう。」

桃「つていうか先輩が真に決まってるっす！おっばいさんは人狼っす！」

豊「じく……」

A「ジく……」

桃「……な、何でもないっす。」

咲「……でもこうなると、加治木さんの真偽は確かめなくなるよね。」

胡「うん。その結果を見てからでもいいんじゃないかと思うけど……？」

ワ「お勧めはできないぞ？何せ人狼が出した●だしなく。無駄吊りになるぞ？」

和「全くです。」

咲「でも、もしかしたら逆囲いつていう線もあるよね？それなら結果的には吊れるわ

けだから……」

和「ですから咲さんは私を疑うんですか!？」

咲「え？ああ、いや、その……あはは……」

久「……やっぱり議論としては平行線になっちゃうのよね。和を吊って色を見るの

もいいけど、騙りがいるんじゃないかな可能性が高いし……」

豊「全くだよ。私的には、むしろ竹井さんを吊ってほしいかも！」

久「あら。私もあなたを吊りたいと思ってたのよね……？」

豊「……こ、怖いよ……!？」

胡「豊音をいじめちゃ駄目！・・・でも、本当にどつちが真なんだろう・・・？」

ゆ「それさえ分かれば、何の苦勞もないんだが・・・」

ワ「久じやないのか？私から見ても、さっきのは狂人の特攻だと思っぞ？」

白「・・・豊音だね。間違いなく・・・」

ま「・・・いつそのこと、霊能の決め打ちでもしてみるか？」

桃「信頼投票つか？」

久「却下よ。勝てる気が全くしないわ。」

和「・・・逆に潔いですね・・・」

咲「あ、あはは・・・」

ト：残り1分だよ。

まとまってないみたいだけど、そろそろ決めないとね？

京「つて、やば・・・!？」

優「ど、どうするんだじえ!？」

豊「時間がないよ!？」

胡「どうするの!？」

A 「バンジキユウスカ!？」

久 「・・・仕方ないわね。妹尾さんに決めてもらいましょう?」

佳 「ふええ!？」

咲 「それが良さそうですね。反論は禁止ってことで。」

和 「仕方ありませんね・・・」

佳 「あの、えっと、そのう・・・!？」

ワ 「ワハハ。佳織? 佳織がやりたいようにやればいいんだぞ?」

桃 「そうっす! カオリン先輩の指示に従うっすよ!」

白 「・・・賛成。ついでに、明日の占い先も指定してくれると助かる・・・」

胡 「それは自分で考える!」

白 「・・・ダル・・・」

佳 「みなさん・・・そ、それじゃあ今日は、原村さんでお願いします!」

和 「・・・はあ。まあそうなりますよね・・・」

京 「まあ仕方ねくって。」

和 「代わってください。」

京 「え? ああ、いや・・・」

ト：時間だよ。

それぞれ投票を始めておくれ。

○投票結果

久 (0) ↓和	まこ (0) ↓和	優希 (0) ↓和	和 (13) ↓京太郎
咲 (0) ↓和	京太郎 (1) ↓和	白望 (0) ↓和	エイスリン (0) ↓和
胡桃 (0) ↓和	豊音 (0) ↓和	智美 (0) ↓和	ゆみ (0) ↓和
佳織 (0) ↓和	桃子 (0) ↓和		

投票の結果、原村和さんは処刑されました。

和「私は村人です。みなさん、どうか騙されないように！」

京「つていうか何で俺に投票してんの!？」

和「身代わりになっていただけないかと思ひまして。」  
京「」

4 日目に続く・・・

## 清澄・宮守・鶴賀②

○4日目（昼） 犠牲 トシ・睦月・久

処刑 塞・和

生存 まこ・優希・咲・京太郎

白望・エイスリン・胡桃・豊音・智美・ゆみ・佳織・桃子  
竹井久さんの無残な死体が発見されました。

ト：おやおや、昨日の犠牲者は竹井さんだったみたいだね？

これは一体なにを意味するのか？

よく考えないと大変そうだよ。

今日も時間は4分さ。

時間なんてあつという間に過ぎちまうんだから、事は素早くね？

それじゃあ4日目、始めるよ。

豊「みんなおはよく！原村さんは○だったよく！つまり加治木さんは破綻だよく♪」

ゆ「・・・」

ワ「・・・」

咲「・・・」

豊「・・・し、信じてほしいんだよく・・・!?」

胡「・・・個人的には信じたんだけど・・・」

優「素直には信じられないじえ・・・！」

京「ようするに、昨日で霊能の真偽がついたから、真を消しに来たってことか？」

ま「その可能性は高いのう。じゃが・・・」

A「ユダンハキンモツ！」

白「・・・エイスリン、正解。あえて真を残すことで、私と豊音の信頼を消しに来て

る・・・」

佳「うう・・・その可能性もあるんだよね・・・!?」

咲「・・・素直には信じられませんが、とりあえず置いておきましょう。」

佳「う、うん。それじゃあ今日の占いをお願いします。せくの・・・！」



白「・・・東横さん、●・・・」

ワ「宮永、○だぞく。」

ゆ「モモ、○だ。」

桃「・・・つてやつぱり先輩が真じやないっすか！小瀬川さんは吊るっすよ〜！」

ま「まあ落ち着きんしゃい。」

優「とりあえず理由を聞かせてほしいじえ〜！」

白「・・・私から見て、残ってるのは人狼2匹とおそらく狂人。対抗のどちらかを人狼として見た場合、加治木さんが人狼だった場合の東横さんの擦り寄りが危険だと思っただ。それだけ・・・」

ゆ「擦り寄りに警戒したのは同じだが、あいにくとモモは村人だ。・・・今までもそうだが、私に対する擦り寄りを警戒してみた。まさか普段の行動を利用して、私に近づいているのではないかと考えたのだが・・・どうやら、普段通りなだけらしい。」

桃「当たり前っす！私は先輩についていくっすよ〜！」

ワ「ワハハ〜。こうなると確かにモモもちよつと怪しいけど、私が調べたのは宮永だなく。理由としては、騙りの可能性がある久に代わって、中心になりかねないと感じたからだ〜。これが人狼だったら、上手いこと言っつて佳織に近づくんじやないかと警戒し

たけど、まあこれで安心だな。」

咲「……私は、そこまで中心に行くつもりはないんですけど……？」

胡「……いや、結構きてると思うよ？」

京「自覚がね〜んだよな……」

A「シラヌハホンニンバカリナリ！」

ま「……じゃがこれで、東横さんがパンダになったわけじゃな。」

優「普通なら、ここは吊って色を確かめてみるところだけど……」

豊「……(ワクワク)♪」

ゆ「……この状態では絶対に賛成できん。どう考えても●をつけられる落ちが見えてる。」

白「……実際に●なんだから仕方ない……」

桃「違うっす！私はれっきとした村人っす！」

胡「もう……どっちが真だっというの……!？」

ワ「どっちも騙りだぞ〜？」

咲「……妥協策だけど、姉帯さんを吊るしかないですかね……？」

豊「わ、私〜!？」

優「仕方ないじえ。対抗が噛まれてる以上、安全策はそれしかないじえ。」

ま「まああいつに比べればまだ信用できそうじゃが、絶対ではないのう……」

A「トヨネ……！」

豊「エイスリンさん……！」

A「アバヨ……！」

豊「」

白「……私は賛成できないけど、まだ吊り数には余裕がある。私から見て、人狼はほぼ確定してるし……」

ゆ「……何とかギリギリ間に合うか？君達3人を吊っている間に、グレーから人狼を探せれば……！」

ワ「ワハハ。何とか間に合うとは思うんだが……」

佳「……き、決めました！今日は姉帯さんです！」

豊「うう……やっぱりそうなの？」

京「……仕方ないっすよ。姉帯さんが村人だっていうなら、どうか向こうで俺達の勝利を願っててください……！」

豊「須賀くん……！」

咲「……リアルに吊りませんか？」

優 「盛りのついた犬だじえ．．．！」

胡 「豊音にちよつかい出しちや駄目！」

ま 「．．．去勢つちゆう手段もあるぞ？」

A 「チョンギレ！」

京 「ひいつ!？」

白 「．．．弁護はしない．．．」

ゆ 「．．．清澄の問題は清澄で解決してくれ。とにかく、今日は姉帯さんでいいんだな？」

佳 「は、はい! そうしたいです！」

ト：残り1分だよ。

豊音に手を出そうっていうなら、色々と手続きが必要になるんだけどね？」

京 「だからそういうつもりじゃなくて．．．!？」

咲 「京ちゃん。覚悟は決めてね．．．！」

優 「犬には相応しい末路だじえ．．．！」

ワ 「ワハハ．．．清澄はやっぱりおっかないところだな．．．」

佳「本当だね・・・」

桃「先輩も早く離れるっす！空気感染したらどうするっすか!？」

京「俺は病気か!？」

白「・・・まあ、実際その気はないんだらうけど・・・」

胡「でも豊音は駄目絶対!」

A「ツルセ！チョンギレ！ヒッコヌケ!」

豊「ド、ドキドキだよ・・・!」

ト：時間だよ。

危険な人物じゃなくて、あくまで怪しい人物に投票しておくれよ？

京「ちよつと!？」

○投票結果

まこ(0) ↓ 豊音

優希(0) ↓ 豊音

咲(0) ↓ 豊音

京太郎(0) ↓ 豊

音

白望(0) ↓ 豊音

エイスリン(0) ↓ 豊音

胡桃(0) ↓ 豊音

豊音(11) ↓ ゆ

み

智美(0) ↓ 豊音

ゆみ(1) ↓ 豊音

佳織(0) ↓ 豊音

桃子(0) ↓ 豊

音

投票の結果、姉帯豊音さんは処刑されました。

豊「残念だよ．．．でも、みんな頑張つてね〜！」

京「良かった、吊られなくて本当に良かった．．．!!」

○5日目(昼) 犠牲 トシ・睦月・久・京太郎

処刑 塞・和・豊音

生存 まこ・優希・咲・白望・エイスリン

胡桃・智美・ゆみ・佳織・桃子

須賀京太郎の無残な死体が発見されました。

ト：おや、昨日の犠牲者は須賀くんだったみたいだね？

因果応報とはいうけど、いやはや・・・

今日の会話時間は3分だよ。

明日も3分の予定だけど、時間は有意義に使っておくれ。

それじゃあ5日目、スタートさ。

優 「犬の末路としては当然だしえ・・・！」

咲 「弁護できないよね。まあ京ちゃんのことにはきつきと忘れろとして・・・」

佳 「早速ですが、占いの結果をお願いします！せくの・・・」

ゆ 「宮永、●だ。」

白 「・・・加治木さん、●だね・・・」

ワ 「鹿倉さん、○だぞ・・・」

咲 「・・・私に●ですか・・・」

胡 「私も占ってくれたみたいだけど、これは・・・」

白「……昨日の時点で、こうなるんじゃないかって思ってたよ。人狼は加治木さんと東横さんと塞。おそらく狂人が蒲原さんで、竹井さんが狂信者じゃない……?」

ゆ「違うと言っておく。私は、昨日の蒲原の占いを警戒した。もし蒲原が人狼なら、上手いことを言って宮永を中心に持ってこさせようとしたんじゃないかと思つてな。結果は見ての通りだ。恐らくだが、蒲原も人狼で確定じゃないのか?」

ワ「私は話の中心から離れているところを占つたぞ。また外したけどなく……。」  
佳「……智美ちゃん……?」

優「……これは、蒲原さんは狂人じゃないかだじえ……。」

ま「……確かに少々疑わしいのう。対抗2人が争つている中で、1人だけ枠から外れておる……。」

咲「……私目線では、真は小瀬川さんだと判断します。小瀬川さんが真なら、あとは東横さんと加治木さんを吊れば終了ですね。」

桃「真は先輩つす! あとは嶺上さんと蒲原部長、それで終わらなければ小瀬川さんを吊れば終了つす!」

胡「万が一、蒲原さんが真の場合は……?」

ワ「万が一じゃなくて、真なんだけどなく……。確定してるのはゆみちんだ。おそらく原村と白沢さんはどつちかは人狼だろうから、あとは染谷か片岡、それにモモの誰



かに人狼だな。多分だけど、小瀬川さんは狂人じゃないか?」

白「……言わなくてもいいだろうけど、私の仕事は終わったから……後はよろしく……」

胡「つて、休むの早いそこ!?!」

白「……つて言つても、私の内約はさつき言った通り……」

胡「そ、それはそうなんだけど……」

A「……シロ、ホントウニホンモノ……?」

白「間違いない本物……」

咲「……自分で言うのも何ですけど、私か東横さんで投票するべきかと思えます。真は加治木さんか小瀬川さんか。もしくは蒲原さんだったとしても、東横さんはまだグレーです。」

桃「つてそれずるいっす! 私ちよつと不利じゃないっすか!?!」

ゆ「同感だ。宮永よりモモのほうが不利な状況で、2人の投票は出来ん。ここは占いの真偽を決め打つべきだ。」

ワ「真は私だぞ。私なんだけど……凄く不利に感じるぞ……!」

白「……なんだつたら、私を吊つてもいいよ? 明日明後日で必ず東横さんと加治木さんを吊つてくれれば、狂人含めてのPPも出来ないまま村勝ちだし……」

ゆ「……そう言って、いかにも自分が真のように振舞うのはやめてもらおう。私からすれば、それは狂人の狂言に過ぎん……!」

ま「……あかんのう。誰に投票すればええんじや……!」

優「わ、分かんないじえ……!」

佳「……き、決めました!」

胡「どうするの!」

A「キカセロ!」

佳「桃子さんか宮永さんで投票します!」

桃「つて、カオリン先輩!」

ま「……うむ。なるほどのう……!」

ゆ「妹尾……!」

ワ「(……何だか蚊帳の外だぞ……)」

咲「……英断かと。」

A「……ノッタ!」

桃「うゝ!・・・仕方ないっす!言いたくなくなかったけど、CO狩人っす!これで信じられないっすか!」

ゆ「なっ、モモ・・・!」

優「じえゝ!」

桃「初日はカオリン先輩、あとはずっと加治木先輩を護衛してたっす!これでも信じてくれないっすか!」

咲「信じられないよ。・・・CO狩人。私の役職を騙ろうなんて、オイタが過ぎるんじゃないかな・・・!」

優「・・・じえゝ!」

ま「な・・・よりによってそこに對抗じゃと・・・!」

A「ウソダトイツテヨバーニイ!」

胡「本当にエイちゃんどこで覚えてきてるの!」

咲「初日から、嘸まれるのを警戒してずっと小瀬川さんの護衛してたよ。妹尾さんが狙われなくて良かったよ・・・!」

桃「か、騙りつす〜！こんな都合のいい対抗があるはずないつすよ〜！！」

咲「最後の悪あがきで狩人を炙り出そうとしたの？けど、私が対抗なんだから意味ないよね・・・!?」

ト：残り30秒だよ。

さて、ここらで命運が分けられそうだね・・・？

佳「・・・ど、どつちかに投票してください！」

ま「とは言うても、これは・・・!?」

優「どつちが真なんだじゃ〜・・・!?」

ゆ「くつ・・・！」

白「・・・考えなくても決まってる・・・」

ワ「ワハハ〜・・・完全に蚊帳の外だぞ〜・・・」

胡「うう、どつちが・・・!?」

A「・・・ヘルプミ〜・・・」

桃「騙りは・・・そっちつす!!」

咲「ううん。騙りはそっちだよ・・・！」

ト：時間さ。

さあ、覚悟を決めて投票しとくれ！

○投票結果

まこ(0) ↓ 桃子 優希(0) ↓ 桃子 咲(4) ↓ 桃子 白望(0) ↓ 桃子

エイスリン(0) ↓ 桃子 胡桃(0) ↓ 咲 智美(0) ↓ 桃子 ゆみ(0) ↓ 咲

佳織(0) ↓ 咲 桃子(6) ↓ 咲

投票の結果、東横桃子さんは処刑されました。

桃「う、嘘つすよ・・・!?」

6 日目に続く・・・

## 清澄・宮守・鶴賀③

○6日目（昼） 犠牲 トシ・睦月・久・京太郎・胡桃

処刑 塞・和・豊音・桃子

生存 まこ・優希・咲・白望・エイスリン

智美・ゆみ・佳織

鹿倉胡桃さんの無残な死体が発見されました。

ト：昨日の犠牲者は胡桃だったみたいだね。

全く、私よりも先に逝くなんて・・・

冗談はおいといて、今日の会話時間は3分だ。

ここからは、無駄吊りは即敗北だよ？

それじゃあ6日目、始めるとしようか。

ゆ「おはよう。占い結果は小瀬川●だ。どうやら人狼は蒲原ではなく小瀬川の方だったらしい。最終日のPPでの引き分けを防ぐためにも、ここは宮永か小瀬川を吊りたい。頼むから信じてほしい……!」

白「……蒲原さん○。当然だね。狂人確定だよ……」

ワ「染谷○だったぞ。これで片岡が●じゃなければ、この2人を吊って終了なんだが……?」

咲「ここまで来た以上、躊躇う必要はないかと思いますが……?」

ゆ「勢いを得た人狼が、よく言うものだ……!」

優「うう……でも、咲ちゃん狩人なのに噛まれてないじゃ……?」

咲「当然だよ。私は加治木さんに●をつけられてるんだから、ここで噛んだら自分の首を絞めるだけだもん。」

ま「確かにのう……じゃが、だからといって安易に加治木さんを吊るわけにも……」

佳「……えっと、残りは3回ですよね……?」

A「……マニアウ?」

ま「……着実にいくなら、まずは咲。次に小瀬川さんか加治木さんじゃが……?」

咲「駄目です。忘れたんですか？私はともかくとして、その後に小瀬川さんを吊った場合は、最終日に人狼と狂人が残るんですよ？」

ワ「だから、私は真だぞ〜・・・？」

優「・・・ここまで来て、PPで引き分けにはなりたくないじゃ・・・！」

白「・・・忘れてるかもしれないけど、私目線だとあと加治木さんだけ。もしそれで終わらないようなら、破綻認定すればいい。・・・まあ、終わるけど・・・」

ゆ「認められん！そんなこと言って、最終日にPPに持ち込む気だろう!？」

A「ド、ドウスル・・・!？」

ま「・・・加治木さんを吊って、終わらなければ引き分けか・・・」

優「蒲原さんはどうだじゃえ？」

咲「それでもいいと思うよ？でもその後に小瀬川さんか私を吊って、最後は残ったほうと加治木さんで信頼投票だね。」

ま「・・・それもキツイのう・・・！」

佳「うう・・・き、決めました〜！」

優「マジだじゃえ!？」

A「ドキョウアルナ!？」

咲「・・・聞かせてください。」



ま「ふむ……。」

ゆ「……。」

白「……。」

ワ「……ワハハ……。」

佳「今日は加治木先輩です！昨日の結果を信じます!!」

ゆ「……妹尾……。」

白「……終わったね……。」

咲「……よく決めてくれました。」

ま「……確かに引き分けになるかもしれないが、それでもその決意は見上げたもんじゃ。」

優「格好いいじゃえ！」

A「ヤルナ！」

ワ「……ワハハ……。」

佳「それでは今日以上です！明日が来ちゃったら、ごめんなさい……！」

『スキップします』

## ○投票結果

まこ (0) ↓ゆみ 優希 (0) ↓ゆみ 咲 (0) ↓ゆみ 白望 (1) ↓ゆみ  
 エイスリン (0) ↓ゆみ 智美 (0) ↓ゆみ ゆみ (7) ↓白望 佳織 (0) ↓ゆみ  
 投票の結果、加治木ゆみさんは処刑されました。

佳 「・・・」  
 ま 「・・・」  
 優 「・・・」  
 A 「・・・」  
 咲 「・・・」  
 ワ 「・・・」  
 ゆ 「・・・」  
 白 「・・・」

この瞬間、村から全ての人狼は処刑されました。

おめでとうございます！

村人の勝利です！！

佳「……あ……！」

優「やったじえく！」

ま「ほんま大した奴じゃ！」

A「スゴイ！」

咲「……良かった……！」

ワ「」

ゆ「……負けたか……」

ワ「」

ゆ「……すまないな、蒲原。何とか小瀬川と宮永を吊って、引き分けにはしたかったんだが……全ては、私の実力不足だ……！」

ワ「・・・あく、えつとなく・・・？」

塞「うわゝ負けたら!?まさかシロのやつが本当に占い師だったなんて!?」

桃「4回全部人外にヒットさせるとか、洒落にならない的中率です・・・これじゃあ勝ち目がないですよ・・・」

咲「今回は、完全に小瀬川さんの独壇場だったね。これで負けたら、それこそどうしようもなかったよ。」

久「うあく・・・私を嘸んできたあたりはナイスって思ってたんだけどなく・・・」  
ま「ま、今回は運が悪かったということじゃな。」

和「当然の結果です。あれだけ頼りになる占い師はそうそういません。」

睦「凄かったね。見えて鳥肌が立ったよ・・・!」

佳「うん。頼りになったよ〜!」

豊「やっぱりシロは格好いいよ〜♪」

A「イエス♪」

胡「本当だね。いつもこの位やってくればいいのに・・・。」

優「まあおかげで勝てたじえ!」

京「俺、結局いいところ無しじゃねえかよ……」

ゆ「はあ!? おい蒲原! それは冗談じゃないのか!？」

ワ「ほ、本当なんだぞ……」

咲「ん……?」

和「どうしたんでしょうか……?」

優「何だか凄く驚いてるじえ……?」

京「何だつてんだ……?」

白「……あらかじめ言っておくよ……」

白「……謝罪の準備は出来ている……!」

小瀬川白望（狂人）

一同「」

一同「はあゝ!?」

ゆ「……まさか、狂人誤爆がことごとく命中していたと……!?」

桃「信じられないっす！一体何をやっているんすか!?!」

塞「こら正座を崩すな！しばらくそのまま反省してろお!!」

久「……さすがにこれは、私も怒っていいところよね……!?!」

白「……ダ、ダルい……!」

加治木ゆみ・東横桃子・白沢塞（人狼） 小瀬川白望（狂人） 竹井久（狂信者）

ワ「……結局、ゆみちんに当てただけで終わってしまったぞ……」

豊「え〜と、その……勝てたからいいんじゃないかな〜とか……」

咲「……た、確かに勝てはしましたけど……!?!」

佳「ふええ・・・!!」

妹尾佳織・初日犠牲者（共有） 蒲原智美（占い師） 姉帯豊音（霊能）

宮永咲（狩人）

ま「・・・何と言うか・・・リアルに狂人じゃったのう・・・」

和「確かに、確率的には決してありえないことはないんですが・・・」

優「それでも驚きだじえ・・・!!」

京「まさか、狂人に導かれて村勝ちつて・・・」

睦「う、うむ・・・」

A「シロ・・・トチクルツタ・・・!!」

胡「びつくりだよ!」

染谷まこ・原村和・片岡優希・須賀京太郎・津山睦月・エイスリン・ウィツシユア

ト

鹿倉胡桃（村人）

白「・・・人狼は蒲原さんと宮永さん、それと原村さん・・・」

白「・・・占い師は加治木さんで、霊能は竹井さん。狂信者は豊音・・・」

白「……狩人は東横さんで、共有は妹尾さんと熊倉先生……」

白「……そう思ってたから、東横さんを吊った時点で人狼勝ちを確信してただけど……」

白「……最終日に加治木さんが私に●をつけて、あれ?……ってなりまして……」

白「……その、今さら狂人だとも言えず……」

塞「……以上、聞くに堪えない狂人の言い訳でした。」

白「……あの、そろそろ足が……!」

豊「シロ、足痺れたの?」

胡「じゃあ、次は足裏マツサージの刑だね!」

A「ワタシニマカセロ!」

久「いいわね。私も手伝ってあげるわ♪こういうの得意なのよ♪」

ゆ「……ふむ。手伝うのも、やぶさかではないな……」

桃「私に任せるっす!!」

白「や、やめ……!?!」



咲「うわ・・・地獄絵図・・・」

ま「・・・小さなお子様には見せられんことになつとるな。」

優「画像がないのが残念だじえ！」

ま「何を言うとするんじや、お前さんは・・・」

和「・・・それより、いつまでそつちを見ているんですか？破廉恥ですよ？」

京「うえ!?!す、すまん！」

咲「・・・ねえ京ちゃん。いい加減にしないと、本当に吊るされちゃうよ？」

優「まったく反省してないじえ・・・！」

ま「男の子じやもんなあ・・・」

和「半径30M以内に近づかないでいただけますか？」

京「そんな!?!」

佳「よしよし・・・智美ちゃんも頑張ったもんね？」

ワ「全く信じてなかったくせによく言うぞく・・・」

佳「あう・・・」

睦「ですが、あれはさすがにどうしようもないかと・・・」

佳「そ、そうだよ。あの2人が相手じゃ分が悪いと思うよ？」

睦「うむ。」

ワ「ワハハ・・・占い師なんて嫌いだよ・・・」

ト「見てるこっちは楽しかったんだけどね。いつシロが騙りだと気づくのかと思ってたけど、まさか気付かないまま村勝ちになるなんて、全く予想してなかったよ。」

久「普通狂人が真目をとつても、どこかで破綻するのが目に見えてるしね・・・」

ゆ「私達から見ても、もはや初日の●出しは狂人の誤爆ではなく、完全に占い師が見抜いてきているとしか考えられなかったからな・・・」

桃「先輩に駄目元で困ってもらったのに、即効で●つけられちゃったつすからね。もうどうすればって感じだったつす。一か八かで狩人COして、騙りが出たから小瀬川さんは破綻だゝって言おうとしたら、まさかの嶺上さんが狩人でしたし・・・」

塞「役職の配役にも恵まれなかったつてことよね。これで宮永さんが村人とかなら、もう少し延命出来たかもしれないけど・・・」

久「私に○をつけて、狂信者だつて言ってきたときには焦ったわよ。これ間違いない真だと思つたもの。」

ゆ「・・・最大の敗因はあれだな。やはり、狂人が仕事をしなかったということか・・・」

桃「しなかったというより、する方向を完璧に間違えてたつて感じっす。」

塞「シロって変に勘が鋭いところあるから、それも合わさつて最悪な方向に進んじやつたわけね。」

久「以上で反省は終わり！ほら、シロもいつまでも寝てないでさつさと起きなさい？」

白「・・・ダ・・・ダ、ダル・・・」

胡「（・・・シロがさらに真つ白に・・・！）」

A「ドキドキ♪」

豊「ワクワクだよ♪」

ト「それじゃあ次の準備だね。そうだね。次は狐も混ぜて・・・」

「・・・あら？久に呼ばれたんだけど、何だかいつばいいるわね・・・？」

「本当だし！」

「えっと、鶴賀の人と・・・？」

久「・・・あ。」

ま「・・・なあ？そろそろええ加減にしといたほうがええぞ？」

久「わ、忘れてたのよ・・・。」

ま「なお悪いわこのポケナスがあ！」  
咲「あの人たちって・・・」

竹井久の思惑にはまりつつも、ゲームは進む。

新たに現れた人物は一体誰なのか？

全ては次回、明らかになる・・・！

「久。これ、頼まれてたお弁当作ってきました。でも、こんなにいっぱいいるなんて思わなかったから、さすがにちよつと少ないかもしれないけど・・・」

「キャプテンをパシリに使うなんて最悪だし！」

「か、華菜ちゃん。他の人もいるんだから落ち着いて・・・！」

続く・・・

## 清澄・宮守・鶴賀（犠牲者達の集い）

○3日目（昼） 塞・睦月

睦「うむう・・・まさかもう嘯まれるなんて・・・」

塞「災難だったね。津山さんは、特に役職無しだったの？」

睦「持つてませんね。まあ、終わるまではネタバレ禁止らしいから、信じてもらえるかは分かりませんが。」

塞「そうだね。それにしても、まさかシロの奴がな・・・」

睦「一応聞きますけど、人狼だったんですか？」

塞「違うよ。おそらくシロは、狂人か狂信者じゃないかな？人狼がいきなり●出しは考えづらいし・・・」

睦「そうですね。可能性としては、本当に占い師だったっていうのがありますが、蒲原部長も加治木先輩に●を出していますし・・・」

塞「どちらにしろ、今回は結構ペースが早いわよね。．．お、豊音が霊能．．つて、なんで私が●なのよ!？」

睦「．．．対抗は竹井さんですか。あつちは白沢さんに○をつけてますけど．．．」

塞「豊音が嘘をつくって考えづらいけど、これってそういうことよね．．．?」

睦「姉帯さんが真の可能性もありますよ? 白沢さんが人狼なら、当然答えは●なわけですし．．．」

塞「むゝ．．．そりやそうなんだけどさ?」

睦「うむ．．．加治木先輩が、原村さんに●ですね。」

塞「．．．私としてはそつちを信じたいとこなんだけど、でも加治木さん本人も●をつけれちゃってるんだよな．．．」

睦「蒲原部長が真なら、原村さんは村人．．．ですよ?」

塞「もしかしたら、逆囲いっていう可能性もあるわよ? いきなり●をつけられた人狼が、あえて仲間を犠牲にすることで信用を復活させようとしているのかも．．．!」

睦「その点に気付いたのは、どうやら宮永さんでしょうか．．．?」

塞「．．．麻雀といいこれといい、あの子万能すぎない．．．!？」

睦「聞いた話では、それ以外が本当に空つきらしいですよ?」

塞「．．．．．それもそれで、不憫よね．．．」

睦「麻雀の才能があるというのは、私からすると羨ましい限りなんですが……あ、やっぱり今日は原村さんを吊るみたいです。」

塞「まあ妥当なところね。ただ明日も霊能結果がパンダになりそうだけど……」

睦「そればかりは、仕方ないかもしれませぬ……」

○4日目（昼） 塞・睦月・和・久

和「決まりです！加治木さんは人外確定です！」

塞「私からすると、シロも人外確定なんだけどね。」

睦「ちなみに、竹井さんの霊能結果にはどう出てたんですか？」

久「私の結果には、和は●って出たわ。まあ真を昨日の時点で判別できたんだから、狩人に護衛される前に嘯みに来たってことね。」

和「騙りです！つまり部長と加治木さんは人外です！」

塞「つてことは、豊音が真霊能？●付けられた身からすると、それは素直に信じられないわよ。」

睦「今回は欠けは共有だって分かってますからね。」

久「そうね。まあ私が真なんだから、姉帯さんと小瀬川さんはさっさと吊ってほしい

ところだけど……あら？」

塞「……東横さん、パンダになったわ。」

睦「うむ。……真偽が完全に分かれている2人が、同時に●○出しましたね……！」

和「東横さんは人狼の可能性が高いです。……ですが、まだ蒲原さんが真だという可能性もあるわけです……」

塞「……これが始めのほうなら、まだ吊つて確かめることも出来るけど……」

久「……無理ね。残っているのは騙りの霊能だもの。おそらくは●をつけられて終わりだわ。」

睦「そうなると、加治木先輩が破綻ですか……」

和「その展開は大賛成なのですが、もしこれで○だったりしたら……？」

睦「真はやっぱり加治木先輩か蒲原部長だったってことですね。もし小瀬川さんが人外なら、ここは吊つて見るのもいいけど……」

久「駄目よ。もし小瀬川さんが人狼で、姉帯さんが狂人じゃなくて人狼や狂信者だったらどうするの？人狼を守るために、確実に●をつけてくるわよ？」

塞「そりゃそうよね。全く、本当に人狼は誰なんだろう……？」

和「白沢さんは間違いありません。ついでに加治木さんと部長も人外です。」

塞「……相変わらずお堅い子だね……」



久「まあ和だから・・・あら？」

睦「えっと、あれって口説いて・・・!?」

和「・・・破廉恥極まりないですね。」

塞「よりによって豊音に手を出すなんて・・・!?」

久「・・・須賀くん、これはお仕置きが必要かしらね・・・？」

和「切りますか？」

睦「」

塞「わお・・・」

久「・・・えっと、それは後で考えましょう。うん・・・。」

○5日目（昼） 塞・睦月・和・久・豊音・京太郎

京「って嘘お!?ここで嘯むの〜!?」

豊「・・・やっぱり格好悪いよ〜。」

京「そんな!?!」

塞「はいは〜いストロップ。豊音に近づいちゃ駄目だからね〜？」

和「須賀くん。時世の句位は詠ませてあげますよ?」

久「確か、鞆の中にはさみがあつたわね．．．」

京「キヤイン!？」

豊「アハハ♪でも、面白いからいいんだよ。今回は残念だったけど、次は頑張ろうね♪」

睦「．．．何ていうか、あの人を見ていると胸が痛くなるような．．!?」

塞「．．．純情なのよ。おかげで、自分達が穢れてるって、嫌でも身につまされるときがあるもの．．!」

豊「〜?」

京「．．．天使や．．!!」

和「．．．姉帯さんに感謝することです。」

久「そうね。それにしても、どうやら面白い流れになってきたみたいよ．．?」

睦「小瀬川さんが加治木先輩に●。それに、加治木先輩が宮永さんに●ですか!」

塞「宮永さん、昨日蒲原さんに○もらつてたわよね．．?」

和「：占い同士がぶつかり始めたということですね。そしてそのキーを握るのが!」

京「．．．咲と．．」

塞「．．．東横さんか．．!」

豊 「わわわ！何だかドキドキしてきたよ〜！」

久 「・・・外すと痛いわよ、これ。外せば、そのまま人狼勝利で終わりかねないわ。」  
和 「ですが、当てれば村勝ちは間違いないでしょう。残された人狼には、もう打てる手はないはずですよ・・・！」

塞 「・・・妹尾さんが、その2人で投票するって！」

久 「覚悟を決めたわけね・・・！いいわ、こういう展開って大好き！あの場にいるのが悔やまれるわ！」

豊 「ドキドキするよ〜！どっちに投票すればいいのかなく♪」

和 「・・・姉帯さんとしては、東横さんに投票するのが筋なのでは・・・？」

塞 「・・・ほら。この子って基本的に人を疑うことを知らないから・・・」

京 「天使だから仕方ないっすね！」

豊 「て、天使・・・そんなこと言われると、照れちゃうよ・・・♪」

和 「切りますか？」

久 「切るわよ。」

塞 「縫うっていうのもよくない？」

睦 「裁縫セットなら確かこっちに・・・」

京「お願いだからやめてえ!」

豊「そんなこと言われると、恥ずかしいんだよ〜♪」

○6日目(昼) 塞・睦月・和・久・豊音・京太郎・桃子・胡桃

胡「・・・何あれ。」

京『私はすぐに女性に手を出す悪い犬です。』

桃「なんかプラカードぶらさげて正座してるっすけど・・・?」

和「悪の末路です。」

塞「こつちでも豊音に手を出そうとしたのよ。」

胡「なら仕方ないね!」

桃「当然の報いっす。」

京「(・・・味方がほしい・・・!)」

久「・・・どちらにしろ、モモちゃんが吊られちゃったわけね。」

桃「気安く呼ばないでほしいです。・・・でも、嶺上さんとの投票で負けてしまったっす・・・」

塞「つてことは、加治木さんも吊られる流れよね、これ・・・」

睦「・・・妹尾さん、決めましたね・・・！」

和「これで終了です。村の勝ちです！」

胡「シロのおかげだね！」

豊「シロ、格好いいよ♪」

京「・・・俺、結局何にもしてないじゃん・・・!?」

ゲームは終了いたしました。

清澄・宮守・鶴賀十 $\alpha$  ①

ト：それじゃあ始めるとしようか。

今回は19人でのスタートだね。

新しく参加してくれるのはこの子たちさ。

美「福路美穂子といえます。どうかよろしくお願いしますね？」

華「池田華菜だし！華菜ちゃんと呼んでいいし！」

未「吉留未春っていいいます。よろしくお願いします。」

ト：風越女子の生徒さんみたいだね。

福路さんはインターハイでもお目にかかったから、覚えているんじゃないかい？

さて、今回は狐も入れてのプレイだけど、また新しい役職を入れるから気をつけて  
おくれ？

○サイコキラー

人狼陣営の村人。

特殊能力は以下の3つ。

・真の占い師に占われた場合、その占い師は翌日に無残な姿で発見される。この場合、占い結果には○と出る。

・狩人に護衛された場合、その狩人は翌日に無残な姿で発見される。

・人狼に噛まれた場合、サイコキラーは死なず、人狼が翌日に無残な姿で発見される。

なお、人狼に襲撃された夜に狩人に護衛されていた場合、翌日に無残な姿で発見されるのは狩人だけである。

また吊るされても霊能の結果には○と出て、霊能が死ぬことはない。

○コスプレイヤール

もう一つの狩人。

村人陣営で、狩人と全く同じ能力を持っているが、占いと霊能の結果には●と出てしまう。

あくまで村人なので、人狼に噛まれると死ぬので注意。

久「・・・いきなり2つも新しいのを入れるわけね・・・」

ま「何でも最近、新しい役職を見つけたと喜んでおるようじゃぞ？」

久「誰が？」

ま「作者らしいわい。」

久「・・・へ？」

咲「・・・ていつ！」リンシャンカイホウ〜！

ま「あいたつ!?・・・うん？わしは今何を・・・？」

久「・・・ま、まあ今の話は聞かなかったことにして・・・！」

和「・・・厄介な役職が入りましたね・・・！」

優「全くだじえ！推理するのも大変だじえ！」

京「おめくはほとんど直感でしか動いてねくじゃねくか・・・」

優「何だとっ!？」

ギャーギャー

ゆ「・・・サイコキラーとは、面倒な役職が入ったものだな。」

ワ「ワハハ。狐を探して占ったりしたら、逆に終わりだぞく？」

佳「それじゃあ、もし狐が騙りに出ちゃったりしたら・・・」

睦「うむ。それを探すために、あえてリスクを犯さないといけなくなる・・・！」



桃「下手に信用して、護衛についても駄目っす！返り討ちっすよ!？」

ゆ「唯一の救いは、人狼にとつても諸刃の剣だということか・・・。」

ワ「それでも、人狼が身内だと判断しちやえば、村人は大ピンチなんだけどなく。」

桃「・・・本当面倒くさい役職を入れてくれたもんっす!」

白「・・・コスプレイヤー・・・ダルい・・・」

塞「誤解されそうな役職だよね・・・」

豊「でも、村人なんだよね〜?ならコスプレイヤー(以下コス)だって分かったら、そのまま守ってもらえばいいんだよ♪」

A「ソノトオリ!」

胡「確かにそうなんだけど、騙りが出るよね?これ・・・」

白「・・・多分・・・」

塞「人狼からしても、凄く騙りやすい役職よね。なにせ占いで●を出されたら、コスプレイヤーだって言っちゃえばいいんだから。」

胡「それで対抗が出て、どつちかを吊つても、霊能は両方●なわけだし・・・!」

豊「あうう・・・じゃあ、どうすればいいのかなく・・・?」

A「・・・ナルヨウニナル!」

豊「あ、そっかく♪」

A「ウム！」

塞「……この2人は……！」

白「……ダル……」

ト：それじゃあ今回の内約だよ。

人狼（3）、狂人（1）、サイコキラー（1）、狐（1）、背徳者（1）、共有（2）、占い（1）、霊能（1）、狩人（1）、コスプレイヤー（1）、猫又（1）、村人（6）さ。

初日役欠け有り、占い有りだね。

狐をいきなり占うのはいいけど、サイコキラー（以下サイコ）を占ってたりしたら最悪だね。

華「全くだし！」

未「いきなり死体が初日犠牲者さん以外に2つあった場合は、狐と背徳者……だよ  
ね？」

美「そうね。でも1つの場合は、背徳者欠けの狐か、もしくはサイコを占った占い師  
ね。」

華「華菜ちゃんたち入ったばかりなんだから、もう少し手加減しろし!」

未「か、華菜ちゃん落ち着いて・・・?」

美「そうよ、華菜?・・・それにしても、9吊りの7人外なのね。これは、猫又とサ

イコがどうなるかで勝敗が決まるかも。頑張らなくちゃね・・・!」

未「キャ、キャプテンが・・・!」

華「燃えてるし・・・!!」

美「(・・・えつと、ヒサア・・・なんて・・・)」

ト：初日は10分だね。

今回はややこしい役職もあることだし、ちよいと長めにいくよ?

あと1日おきに1分ずつ減らしていくけど、最短で3分以下にはしないから安心しておくれ。

それじゃあ準備はいいかい?

人狼ゲーム、スタートさ。

## ○2日目(昼) 犠牲 トシ

処刑 なし

生存 久・まこ・優希・和・咲・京太郎・白望・エイスリン・胡桃

塞・豊音・智美・ゆみ・睦月・佳織・桃子・美穂子・未春・華

菜

熊倉トシさんの無残な死体が発見されました。

美「それではよろしくお願いします。みなさん、頑張りましたよね？」  
 未「よろしくお願いします。」

華「よろしくだし！とりあえず、いきなり犠牲者が増えなくて良かったし！」  
 久「全くね。まあ2体死体が出てくれれば、それはそれで助かったんだけど。」

咲「狐と背徳ですね。まあそんなに上手くはいきませんよ。」

ま「全くじゃ。さて、それじゃあ恒例のやつ、いつとくかの？」

優「おう！部長に一票だじえ！」

和「危険人物は吊りましょう。」

咲「仕方ないね。」

京「賛成っす！」

久「ついに須賀くんまで合わせてきたわね……でも！今回はそうはいかないわ！共有COよ！」

ゆ「ふむ。……今回は久が共有なのか。」

美「頼りにしますね、久？」

胡「頑張つてよね！」

久「ふふ……任せてちょうだい！」

ま「：で、真の共有はどこなんじゃ？騙りはさつさと吊ってしまいたいんじゃが……？」

久「つてちよつと!?どこまで信用がないわけ!?!」

和「どこまでもです。」

優「部長だからな！」

咲「そうだよね。」

京「仕方ないっす！」

久「吊り指定、今日は須賀くんです。」

清澄一同「はい。」

京「つて嘘お!?!」

豊「アハハ♪」

A 「マンザイ！」

ゆ 「・・・まあ漫才はそこまでにしておいて、そろそろ始めよう。久、進行役は任せたいんだな？」

久 「もちろんよ。でも、本当に対抗はいないのよね？ 後で出てきても知らないわよ？」  
ま 「さすがにおらんじやろ。こんだけ待ったんじや。」

塞 「今さら出てきても、ちよつと困るよね。それで、共有の相方は伏せ？ それとも欠けだった？」

久 「私の相方は伏せることにするわ。それと、●出しされるか私が噛まれるかしない限り、一切出ないことにするから覚えておいて。」

優 「？ 何でだじえ？」

咲 「・・・なるほど。人狼に対する狩人対策ですな？」

ワ 「なるほど。そういうことなら納得だぞ。」

佳 「えつと・・・智美ちゃん、どういうこと？」

ワ 「つまり、○確定しても共有だとは言わなければ、はたから見たらどの役職なのか分からないだろ？ そうすることで、狩人の候補を増やさせるんだ。」

睦 「うむ。これで人狼からすれば、狩人の候補は1人増えるわけですね。」

久 「その通りよ。それでもし相方が噛まれても、しばらくはそのことは黙ってるから

心得ておいて？」

咲「え？でも、それはさすがに危険じゃ・・・？」

久「もちろん私が囁まれた翌日にはCOさせるけど、いきなり2人ともいなくならな  
いか心配なんでしょ？でも、その辺りには当てがあるのよ。」

ゆ「久がいなくならない当て・・・もしかして、狩人に護衛させるつもりか？」

未「うええ!!」

桃「狩人を自分専用にする気つすか!？」

久「今回は、幸いコスつていう役職があるしね。コスの人には自分の判断で動いても  
らつて、狩人には私を守ってもらいたい。もちろんみんなが反対するなら、従来通り  
のやりかたでやるつもりだけど。」

白「・・・いいんじゃない？○確定の進行役は、いたほうがいい・・・」

美「そうね。それにそれが久だつていうんなら、むしろ心強いわ・・・！」

桃「むむむ・・・悔しいけど、確かに頼りになりそうつす・・・！」

ま「・・・わしはええと思うぞ？じゃが、後半になつたらちやんとすぐに言うんじゃ  
ぞ？後半まで狩人が残つておるか分からのじゃからな。」

ゆ「そうだな。それであれば私も反対はしない。」

久「了解。それじゃあ狩人の人は、しばらくは私を護衛しててちょうだい？もし吊ら

れそうになつても、なるべくC Oなしでお願いね？」

睦「少しでも人狼の目を欺くためですね……！」

A「カシコイ！」

京「なるほど……！」

久「じゃあ進めましょう！ さつそくだけど占いからいくわ。自分が占いだつて人は、結果を発表してちょうだい。それじゃ、せくの……！」

華「キャプテン、○だし！」

豊「エイスリンさん、○だよ！」

桃「加治木先輩、○っす！」

美「あら、私を占つてくれたのね？」

A「トヨネ、ウラナイ！」

ゆ「ふむ、モモは私を占つたのか……。」

華「真は私だし！ 初日はとにかく、キャプテンの無実を証明したかつたし！」

豊「私はエイスリンさんを占つたよ。間違はなく○だからね？」

桃「そつちの占い先は当てにならないっす！ 確定○は先輩だけっすよ！」



久「ふむ。見事に○スタートね……。」

咲「この場合、やっぱりグレランですかね……?」

優「なら、霊能だけでもCOしたらどうだじえ?今回はコスやサイコがいるし、判断材料は少しでも残しておくべきだと思っじえ?」

和「……どうしたんですか、優希……。」

京「お前、タコスの食い過ぎで……!?!」

優「どういう意味だじえ!?!」

豊「……でも、私もそのほうがいいと思うよ?」

白「……賛成。騙りも含めて、内約の確認は早くしたい……。」

塞「そうだよ。嘸まれる危険は増えるけど、嘸まれたら対抗も吊ればいいわけだし……。」

未「初日に吊られるよりはマシかと……。」

久「……賛成の意見が多いみたいね。それじゃあ霊能にも出てもらいましょうか。霊能の人……せくの……!」

ゆ「私だ。」

ゆ「……ん？対抗はいないのか？」

桃「先輩が霊能つすか!?!先輩とラインが繋がるなんて、これはやっぱり運め……」

ワ「もしかして、霊欠けか……?」

桃「……つて、どういう意味つすか!?!」

睦「疑いたくないけど、候補が一人だけというのは……」

佳「……少し、不安だよ……」

ゆ「……その不安は最もだな。」

久「……あら?ゆみがそれを言っちゃうわけ?」

ゆ「客観的に見た率直な意見だ。少しでも危険性を排除するなら、私はいずれかで吊るべきだな。」

咲「……なるほど。そう言つて、信頼を集めようというんですね?」

ゆ「そうではない。人狼が残り1〜2匹になって吊りに余裕があるなら、私も人外候補として疑うのは当然だ。特にこの場合、最も危険なのは私が狐の場合だな。後半になつて狐が分からなければ、私を疑えばいい。」

塞「ん……これは真?それともそう思わせて……?」

ゆ「言つておくが、私とて序盤に吊られるのは反対するぞ?村勝ちは願うが、せめて5〜6日ぐらまでは置いてほしいものだ。」

咲「むう……これは、どうなんでしょうか……？」

ま「さすがに、素直には信じれんのじゃが……」

ワ「だからといって、否定することもできないぞ……？」

美「……加治木さんが真なら、それこそ吊つてしまえば、私たちの勝利が遠のいて  
しまいますから……」

華「私がいれば大丈夫だし！」

豊「真占いは私だよ！」

桃「騙りは黙ってるつす！先輩は私が守つてみせるつすよ！」

久「……とりあえず、暫定としてゆみは真確定にしておきましょう。でも少しでも怪しかったり、さつき自分で言ったとおり狐が見つからなかったら、ゆみも吊り候補にするからそのつもりでね？」

桃「何でつすか!?先輩は真に間違いないつす！」

ゆ「やめろ、モモ。……久の言葉に異論はない。霊能結果を伝えるのはもちろん、少しでも役に立つ情報を残すつもりだ。」

久「ん、ありがとう。」

桃「むう……先輩は真に決まってるつす……」

和「……加治木さんが真だとしても、東横さんも真だとは確定してませんかね？」

ま「ま、そりやそうじゃ。」

桃「むっ……それなら、すぐにでも●を見つけてやるっす！」

佳「頑張つてね、桃子ちゃん？」

睦「うむ。」

A「デモ、マダワカラナイ！」

胡「そうだね。少しでも早く確定できればいいんだけど……！」

白「……なるようになる……後はよろしく……」

塞「駄目に決まってるでしょうが……」

胡「シャキツとする！」

白「……ダル……」

未「……どちらにしろ、今日はグレランですかね？」

久「そうね。それ以外に方法もなさそうだし。」

美「……でも、今回は人外の潜伏が多いみたいね。」

咲「そうですね。占いと霊能の欠けが無ければ、騙りに出ているのはたったの2人。

7人の人外がいると考ええると、少し不気味です……！」

ま「後半に気をつけねばならん。こりやあ狩人や猫又、それにコスあたりが騙られる

可能性が高いわい……！」

和「特にコスについては、要注意ですね。狂人や背徳ならともかく、人狼が騙った場合には判別が出来ませんから……！」

睦「うむ。その場合には、コスの人には覚悟を決めてもらうしかないね……！」

京「全部諸共つてことつすね。仕方ないつすけど、そりやくきつそうつすね……！」

塞「吊り回数が間に合えばいいんだけど……！」

久「ほかに何か気になることがある人っている？ いなければスキップしたいんだけど……！」

優「ないじえ！」

佳「はい。」

ゆ「……この残った時間を、後半に持ち回せないものだろうか……？」

久「それが出来れば一番いいんだけどね。……じゃあ、反対もないみたいだし……」

『スキップで！』

ト：おや、いきなりスキップかい？

まああんたらが決めた結果なら構わないけどね。

それじゃ、投票しちやってちようだい？

## ○投票結果

久(0) ↓京太郎 まこ(2) ↓佳織 優希(1) ↓胡桃 和(3) ↓

白望

咲(0) ↓智美 京太郎(2) ↓智美 白望(1) ↓佳織 エイスリン(0) ↓

まこ

胡桃(1) ↓佳織 塞(0) ↓智美 豊音(0) ↓優希 智美(3) ↓

未春

ゆみ(0) ↓京太郎 睦月(1) ↓まこ 佳織(4) ↓和 桃子(0) ↓

睦月

美穂子(0) ↓和 未春(1) ↓佳織 華菜(0) ↓和

投票の結果、妹尾佳織さんが処刑されました。

佳「あう・・・人数が増えると、会話に混ざりづらくて・・・でも、みんな頑張つて下さい・・・！」

○3日目(昼) 犠牲 トシ・優希

処刑 佳織

生存 久・まこ・和・咲・京太郎・白望・エイスリン・胡桃

塞・豊音・智美・ゆみ・睦月・桃子・美穂子・未春・華菜

片岡優希の無残な姿が発見されました。

ト：昨日の犠牲者は片岡さんだったみたいだね。

いやいや、これにはビックリさ。

今日の会話時間は9分間だよ。

昨日みたいに、話すことがないと思ったらスキップしていいからね？

それじゃあ3日目、スタートだよ。

ゆ「みんなおはよう。妹尾の結果は○だ。静かだから多少は気になっていたが、どうやら内気な性格が災いしただけらしいな・・・。」

久「優希がやられたか・・・そう。残念だけど仕方ないわ。次を当てるためにも推理していきましょう？それじゃあさつそくなんだけど、占いの結果、いつていい？」

華「大丈夫だし！」

豊「いいよ。」

桃「もちろんつす！」

久「ん。じゃあいくわよ？占いの結果・・・せゝの・・・！」

豊「胡桃、○だよ。」

桃「染谷さん、○つす！」

華「原村、○だし！」

胡「あ、私占ってくれたんだ？」

ま「む、わしをか・・・？」

和「なるほど・・・」

豊「理由っていうほどじゃないけど、胡桃にしてはなんだか静かかな〜って思ったんだよ。もしかしたら〜って思ったんだけど・・・疑ってごめんね〜？」

胡「ううん。とりあえず、これで一応○はもらえたわけだしね。でも、まだ豊音が真確定じゃないからね？」

豊「うう、明日も頑張るよ。」



桃「私が占ったのは染谷さんです。●出すつもりで怪しい人を占ったんですけど……申し訳ないです。結果は○だったです……」

ま「……わし、そこまで人外臭かったかのう……?」

桃「気持ちはずんごく理解できるんですけど、共有を騙りのように言ってたすから、もしかして〜と思ってしまったです……申し訳ないです……」

ま「なるほどのう……それなら仕方ないわい。疑わしきを疑うのは当然じゃ。」

華「華菜ちゃんも占ったのは原村だし! 周りに合わせるようなことしか言ってたから、念のために占ったし! でも○だったから、すまないし……」

和「……なるほど。分かりました。」

久「……となると、今日もグレラン? 出来れば今日ぐらいからはある程度の決め打ちはしていきたいんだけど……」

ゆ「確かにな。ここでも村人を吊れば、あとは人外ペースになってしまふ。少しでも怪しいところは吊っていききたいところだが……」

塞「つて言っても、占いの結果はみんな○だしね。こうなるとステ気味な人が狙い目になるけど……?」

白「……私?……ダル……」

塞「分かっているなら会話に参加しなさいっての!」

咲「ですが、ステ気味だからといって必ずしも人外とは限りません。むしろ、発言が多い人の中に人狼や狐がいることも多々ありますので……。」

美「そうですね。少しでも周りから信用を得るために、積極的に会話に参加する人の中には、人外がいると考えたほうがいいかもしれません……！」

未「でも、だとしたら誰を疑えば……？」

和「……1人、明らかな破綻者がいます。」

久「……へ？」

京「和……？」

咲「破綻って……どこがおかしいところあった？」

睦「うむ……？」

A「……ドコニアツタ？」

豊「さ、さあ……？」

和「……私にしか分からない破綻です。皆さん、後はよろしく願います。」

和「COコスプレイヤー。私の占い結果が、○になるはずがありません！」

美「う、嘘っ……華菜……!？」

華「な……ち、違うし! 私は真で、原村は間違いなく○だったし!!……こいつ、おそらく狂人だし!」

和「言い逃れはさせませんよ。騙りの数の少なさから見ても、恐らくは池田さんは狂人が背徳者でしょう。サイコなら嬉しい限りですが……あなたはどれですか?」

華「だから、私は真だって言ってるし!？」

京「で、でも和が本当にコスだつてんなら、黙つてたほうが良かったんじゃないのか? そうすりゃしばらくは参加できて、護衛の仕事も続けられたわけだし……?」

和「おそらくは狩人が残っているであろうこの序盤に、わざわざ人外を見逃す必要はありません。私がいなくても、護衛職は1人いれば何とかなるでしょう。」

豊「た、確かにそうかも……」

ゆ「……どう思う、久。」

久「……若干、和のほうが真かと思うわね。でも、池田さんが真の可能性も、まだ否定しきれないし……!」

未「……いえ、原村さんの弁は信じる必要がありません!」

美「よ、吉留さん……?」

未「CO、コスプレイヤーです！私の騙りは、絶対に許さないんだから!!」

豊「

A「

胡「嘘・・・!?」

京「ほ、本当に対抗が出ちまったぞ・・・!?」

ワ「・・・こうなるかと思ってたけど、頭が痛いぞく・・・」

和「・・・ありがたいですね。この場を利用して、私を潰そうと出てきましたか・・・

!」

未「違うの！コスは私で、華菜ちゃんは・・・まだ真とは確定できないけど！」

華「みはるん!」

未「でも！原村さんは間違いなく人外です！これは間違いありません!!」

塞「これ・・・どっちが本当なの・・・!」

睦「う、うむう・・・!」

桃「お、おっばいさんか、そうじゃない人か・・・」

未「ギロツ」

桃「うひいっ!？」

和「……説得材料になるかは分かりませんが、あえて言っておきます。」

ゆ「……む？」

和「もし吉留さんが真だというのなら、ここはCOするはずがありません。放つておけば、私は人狼の格好の餌食です。」

A「……オウツ!？」

豊「そ、その通りだよ!？」

未「そんなの!原村さんが人狼なら何の説得力も……!」

和「その通りです。もしかしたら、狩人が襲撃を察して私の護衛に付くと予想して、今日は私も生き延びるかもしれません。ですが明日を迎えた時点で、私の信用はほぼ0でしょう。」

久「……確かにその通りだわ。」

美「狩人は久にとって、昨日も言っているし……」

咲「明日、和ちゃんが生きてたら、やっぱり不安に感じるね……」

和「そうです。つまり、放つておけば私は間違いなく明日には吊られるんです。それなのに、なぜあえてこの場で対抗COしてきたのか?……つまり、この場をチャンスと勘違いした、騙りが出てきたという証明に他なりません!」

未「……い、言いがかりですよ！凄くそれっぽいけど、騙りは原村さんです！」

白「……これは……」

塞「どつちが真かな……いや、若干は原村さんっぽい気がするんだけど……!？」

豊「もしかしたら、全部嘘かもしれないよ〜!？」

A「コタエヲオシエロ!？」

ま「……あかんのう。確かに和のほうが真っぽいけど、こりや決め打ちか……!？」

京「……その、あえて今日は置いておくつてのはどうなんすか？人狼からしたら、真は捨て置けないっすよね？なら明日残っていたほうを吊るつてのは……?」

久「……その場合、今日の吊りが無駄になる可能性があるわ。なにより、このどちらかが人狼ならいいけど、そうでない場合は人狼だつて噛みにいけないわよ……!」

ワ「ワハハ〜……サイキラーだなく……」

京「……ああ!？」

ゆ「……ここでサイコが来るとは思いづらい。むしろ人狼に被害を与える可能性のほうが大きいからな。だが、あえてそう思わせようとするために、ここで人外が出てきたというのも否定できん……!」

睦「本人が、自分をサイコと勘違いして人狼が噛まなかった、という言い訳が出来ますからね……!」

胡「うう……！つまりどうすればいいの!? 久! 早く決める!」

久「つてここで私に答えを求めるの!? せめてもうちよつと考えさせてよ!」

美「……ま、まだ、少し時間があると思います。……その……私は、華菜と吉

留さんを信じたいんだけど……」

華「そ、そうだし! 私は真だし! 原村は間違はなく○だったし!」

未「私だつて……真のコスだよ!」

和「騙りはそろそろ止めてください。真のコスは私です。そして、池田さんと吉留さ

んは騙り確定です……!」

桃「そ、そりゃあ池田さんは騙りだつて分かつてるつすけど……」

豊「原村さんが真かまでは、分からないよ……!」

咲「この場合、どっちが……!」

ま「くうつ……なんで3日目からこんな追い込まれなきやいけないんじや……!」

久「……くうつ……決めたわ!」

A「ナニヲダ!」

久「今日は和か吉留さんのどつちかに投票! 残ったほうが明日も残っていれば、問答無用で吊りよ!!」

美「……っ!？」

未「え……!？」

和「……それが正しい選択かと。では、あとは狩人の人にお願ひしますね。」

京「……つてそうっすよ!?!?せめてあと1日置いとけば、護衛先は一つ広がるんすよ

!?!?ここは置いといたほうが……!」

ま「……京太郎。」

京「え……?」

ま「久とて、何も考えとらんわけではないわ。久を責めんといてやるな……。」

京「あ……」

久「……いいのよ、須賀くん。まこ、ありがと……」

ま「……ふん。」

咲「……じゃあ、今日はどつちかですな?」

久「ええ。昨日と同じで、まだ何か言いたい人はいる?無ければスキップするけ

ど……」



久「……無さそうね。それじゃあ……」

一同『スキップで。』

ト：おやおや、ずいぶんとスキップが大活躍だね。

少し時間を延ばしすぎたかね？

まあ、とにかく投票しておくれ？

○投票結果

久 (0)	↓未春	まこ (0)	↓未春	和 (8)	↓未春	咲 (0)	↓未春
京太郎 (0)	↓和	白望 (0)	↓未春	エイスリン (0)	↓和	胡桃 (0)	↓和
塞 (0)	↓未春	豊音 (0)	↓和	智美 (0)	↓和	ゆみ (0)	↓未春
睦月 (0)	↓未春	桃子 (0)	↓未春	美穂子 (0)	↓和	未春 (9)	↓和
華菜 (0)	↓和						

投票の結果、吉留未春さんは処刑されました。

未「た、確かに・・・これならCOしないほうが良かったかも・・・！」

4 日目に続く・・・

清澄・宮守・鶴賀+α ②

○4日目(昼) 犠牲 トシ・優希・華菜

処刑 佳織・未春

生存 久・まこ・和・咲・京太郎・白望・エイスリン・胡桃

塞・豊音・智美・ゆみ・睦月・桃子・美穂子

池田華菜さんの無残な姿が発見されました。

ト：・・・おや？

昨日の犠牲者は池田さんだったみたいだね？

彼女がこんな姿になるなんて、昨晚一体何があったのか・・・

今日の会話時間は8分だよ。

もちろんスキップも可能だけど、そろそろ考えることも増えてきたんじゃないのかい？

それじゃあ4日目、始めようかね・・・？

久「おはよう、みんな。・・・池田さんがやられたわね・・・！」

ゆ「昨日の吉留の結果だ。彼女の結果は●。人狼なのか、それとも彼女が真のコスだったのか、判断に苦しむところだな。」

咲「・・・でも、和ちゃんは残ってるね。」

和「・・・そうですね。吊られるのは分かっていますから、嘸まずとも良いと考えたのでしょうか。それより私が疑問なのは、池田さんのことです。」

ワ「ワハハハ。原村目線からすると、池田は人外のはずだったなく？それなのに、なんで死体が池田のしかないんだ？」

桃「そうっす！そのあたりの弁明を聞かせてほしいっす！」

ゆ「・・・私から見ても、原村は限りなく怪しい。だがもし、彼女が真だとすると・・・」  
和「・・・私が考えられる可能性は2つです。池田さんは狂人等ではなく、人狼だった。もしくは狐で、占われて死亡した。後者の場合は、狩人のGJが発生していると考えます。」

久「・・・始めに言っておくけど、今日は和を吊るわ。よほど納得できる答えが見つ

からない限りはね。じゃあ池田さんの答えを確認するためにも、一度占いの結果を聞かせてもらいましょう。2人とも、いい？」

豊「了解だよ！」

桃「任せるっす！」

久「それじゃ。．．．せうの．．．！」

桃「蒲原部長さん、●っす！」

豊「福路さん、○だよ。」

ワ「．．．ワハハ。なるほどな．．．？」

美「あ．．．姉帯さんも私を占ってくれたんですか？」

豊「そうだよ。インターハイですっごい人だな．．．って思ってたの！だから、今回選ばせてもらったよ！」

美「あら．．．ふふ、ありがとうございますね？」

豊「とんでもないよ♪」

桃「．．．私から見ると、池田さんと姉帯さんで福路さんを囲ったようにしか見えな  
いっす。でもあいにくっすけど、私は今度こそ●を見つけたっす！何考えてるか分から

ないから警戒したんすけど、ずばりピングゴだったつすよ!!」

ワ「ワハハハ……これで私からすると、怪しい1人と、確定人外が見つかったぞ……！」

桃「人狼は部長さんのほうつす！」

ゆ「……蒲原が●、か……。」

久「……とりあえず、池田さんが狐つてことはなさそうね。智美の色を吊つて確かめたいとこだけど、ここは和の真偽が先ね。」

塞「……ちよつと怖いけど、しばらく置いておくつてのは？後半になってから吊つても、まだ間に合うんじゃない？」

睦「うむ。確かに原村さんが真だった場合、その恩恵は大きいかと。ですが……」  
胡「もし人外だったらどうするの？それこそ人狼とかだったら、むぎむぎ放置するつてことになるよ？」

白「……それはダルい……」

咲「……まずないとは思うけど、狐でも困るよね。それこそすぐにでも吊らないといけないくなるけど……？」

豊「狐なら、私が占つてみようか？狐なら呪殺しちゃうんだよ！」

桃「なんでそつちが呪殺するんすか！それは私の仕事つす！」

ゆ「占い師が占うのだけはやめてほしい。最悪な結果になられても困るからな。」

美「・・・なるほど。確かにサイコがまだいる可能性が高いこの状況では、怪しすぎる原村さんを占うのは得策とはいえませんが・・・。」

A「ナラドウスル？ヤツパリツル？」

久「・・・一番の安全策はそれね。和の色も確認できるし、何よりサイコだった場合の危険性も減るし・・・。」

ま「それしかないじゃろうな・・・さすがにこの状況で、飼う必要性もなからう。」

京「確かに、危なすぎるつすね・・・」

久「よし、決まりよ！今日は和を吊ることにしましょう。反対の意見の人はいる？」

和「・・・仕方ないかと。自身が●なのは分かっていますから、早かれ遅かれいずれ吊られるのは覚悟していましたし・・・。」

咲「その・・・ごめんね？和ちゃん。」

和「・・・いえ、構いません。では今日は私吊りとして、残った時間は占いのお二方の真偽についてお話しませんか？」

ワ「ワハハ。とりあえず、モモは人外だな。」

桃「私は真つす！部長さんが人狼つす！」

豊「真は私だよ？」

桃「違うっす！」

久「・・・まだ断定は出来ないけど、池田さんって可能性も十分にあるわよね？」

ゆ「あるな。原村の色次第だが、池田が真か、もしくは欠けだったという可能性もある。」

桃「先輩!？」

ゆ「・・・個人的にはモモを信じてやりたいが、まだ全面的には無理だ。私に○をつけてくれたが、○出しはそれこそ誰にでも出来るからな・・・。」

美「そうですね。むしろ出した●が確実でないと、信用することは出来ないかと・・・!」

胡「なら、豊音も頑張らないとね！」

A「フアイト!トヨネ！」

豊「うん、頑張るよ〜！」

塞「・・・ちなみに、もし真欠けじゃなかった場合の内約ってどうなってるのかな？私、さつきからそれが凄く気になってるんだけど・・・？」

白「・・・狂、背、サ。この内2つ・・・」

ゆ「同意見だ。無論、池田が人狼だった場合には話は別だが、私もその3つの役職ではないかと考えている。言ってしまうえば、陣営を勝たせるために自分を駒に出来る役職



だからな。」

胡「特にサイコは怪しいよね！護衛にきた狩人も狙えるし、対抗占いできた真も消せるんだから！」

咲「・・・私的には、サイコの候補は占いの3人以外にもいますよ？」

豊「え？誰？」

ま「・・・まあ、怪しいところではあるのう。」

ゆ「・・・私だな。私がサイコの場合は、占いと狩人は絶望的といっているだろう。」  
 塞「それを自分で言っちゃうんだもんなく・・・加治木さん、本当に霊能で合ってるのかな・・・？」

久「・・・今はゆみの真偽を確かめるところじゃないわ。それに一応は真確定でいくつて言つたでしょ？しばらくはその路線でいくわ。」

咲「むう・・・」

京「・・・咲。おめくやけに加治木さん疑ってんな？」

咲「当たり前でしょ？霊能候補が1人だけなんて、むしろ信じられないよ。」

京「まあそりやそうだろうけど・・・」

白「・・・話を戻そう・・・？」

睦「うむ。今は、占いの真偽を考えないと・・・！」

ワ「そうだぞ〜？ゆみちゃんは後回しだ〜。」

ゆ「・・・そう言われるとあれだが、確かにその通りだな。しかし実際問題として、確かめるには吊つて色を見るしかあるまい？」

塞「まあ、最終的にはそうなるわよね・・・」

ま「霊能もいずれかで決め打たにやあならんわ。信じるか、信じんのかをな。」

桃「先輩は真に決まつてるつす！それで部長さんを吊つて、私も真である事を証明するつすよ！！」

ワ「されないぞ〜？ゆみちゃんも騙りじゃない限りはな〜？」

美「ふむ。・・・久？そろそろいいんじゃないかと思うけど・・・？」

久「・・・そうね。これ以上は堂々巡りになりそうだし。」

ゆ「では、今日は原村を吊るということでいいんだな？」

久「そうね。みんなも和に投票してちょうだい。あとこれでコスもいなくなるから、狩人は自分の判断で護衛をしてちょうだいね。それじゃ・・・」

『スキップで。』

ト：了解だよ。

それじゃあ早速投票を始めちゃってちようだいな。

ズルズル・・・ズズズ・・・

○投票結果

久(0)	↓和	まこ(0)	↓和	和(14)	↓ゆみ	咲(0)	↓和
京太郎(0)	↓和	白望(0)	↓和	エイスリン(0)	↓和	胡桃(0)	↓和
塞(0)	↓和	豊音(0)	↓和	智美(0)	↓和	ゆみ(1)	↓和
睦月(0)	↓和	桃子(0)	↓和	美穂子(0)	↓和		

投票の結果、原村和さんは処刑されました。

和「あまり役に立てませんでしたね・・・ですが、最低限の仕事は出来たということ  
で、良しとしておきましょう・・・」

○5日目(昼) 犠牲 トシ・優希・華菜・白望

処刑 佳織・未春・和

生存 久・まこ・咲・京太郎・エイスリン・胡桃・塞

豊音・智美・ゆみ・睦月・桃子・美穂子

小瀬川白望さんの無残な死体が発見されました。

ト：おや、昨日の犠牲者はシロだったみたいだね。

あの子を手にかけるなんて、ずいぶんと大胆不敵だね〜？

今日の会話は7分だよ。

吊り対象は決まってるのかもしれないけど、話せることは時間があるうちに話しちまったほうがいいよ？

それじゃあ5日目、スタートさ。

塞「おはようみんな。まさかシロがやられちゃうとはね〜。〜」

胡「むう〜。シロの勘、結構頼りにしてたんだけど〜。〜」

A「ザンネン〜。〜！」

久「おはよう。いきなり私が狙われなかったのはありがたいわね。それで早速なんだけど、ゆみから結果を教えてください？和の色、●だった？」

ゆ「〜。いや、原村の色は○だった。」

咲「う、嘘……!？」

ま「和が○つて……つまりコスではないっちゆうことか……!？」

ゆ「私自身も信じがたい結果だが、恐らくは狂人か背徳、もしくはサイコだろう。自分が占われたのを利用して、真を誘い出し、消しに来たと考えられる。」

豊「でもでも、それって危なくないかな？」

美「そうね。COして対抗が出なければ、それこそ無駄死になるだけだし……?」

ゆ「……賭けに出ていた、としか考えられん。私も昨日の夜、この結果にずいぶんと頭を悩ませられた……。」

久「……もし和が騙りだとしたら、見事に賭けに勝ったってことか。」

ゆ「最善としては、原村が狂人、吉留がのせられた人狼。そしてコスはまだ残っているというのがいいのだが……さすがにこれは無理だと思っていだろうか。」

咲「……それより、もっと根本的に疑う場所があると思うんですけど……!」

ワ「そうだな……さすがにこれは、少々疑わしくなってきたぞ……?」

ゆ「……信用を落としているのは分かるが、それでも虚偽の報告をするわけにはいかん。」

桃「せ、先輩を疑うのはやめるっす!」

塞「でも、やっぱりちよつとね……?」

ま「……そろそろ決め打つべきかもしれないぞ？ 加治木さん、ほんまに人外の可能性ありじゃわい。」

久「……ちよつとだけ待って。まずは占いの結果を教えてちようだい。」

豊「あ、そうだったよ〜！」

桃「忘れるところだったす〜！」

久「忘れないで、お願いだから。それじゃあいくわよ？ せくの……！」

桃「嶺上さん、○っす〜！」

豊「蒲原さん、○だよ〜！」

咲「……東横さんが私に○、ですか……？」

ワ「ワハハ〜。姉帯は私に○か〜。これで私がパンダになってしまったぞ〜。」

桃「嶺上さんは昨日から先輩を疑いまくってっす〜！ これは真を消したい人狼に違いないっす〜！……そう思ってたんすけど、申し訳ないっす……。」

豊「私は、逆囲いつていうのに気をつけたよ〜。もしモモちゃんと蒲原さんが人狼同士だったら、私が疑われちゃうからね〜。でも、結果は○だから村人だよ〜！」

桃「い〜や！ 間違いない人狼っす〜！」

豊「村人だよ〜?」

胡「・・・この場合、今日の吊り候補は蒲原さんだよな?」

A「マチガイナク!」

睦「ですが、色を確かめようにも・・・」

ゆ「・・・正直、疑われて終わりそうだな。どちらの結果を出しても、占い師共々吊られそうだな。」

美「・・・ですが、確かめるには加治木さんを吊るわけにはいきませんし・・・?」

ま「厄介なところじゃのう・・・!」

塞「・・・とりあえず今日は蒲原さんで、明日の霊能結果がおかしかったら吊るとかは・・・?」

久「・・・確かに、それでもいいんだけど・・・」

ゆ「・・・GJ無しでいけば、吊りはあと6回だ。私目線では、まだ●が1つ。それもおそらくはコストの●だ。人狼3匹と狐と考えると、そろそろ私の処遇を決めるべきかもしれない。」

塞「・・・だから、それを自分で言わないでつてば・・・!?」

胡「本当に真なのか人外なのか、分からないよ!」

ゆ「む・・・すまん。客観的に言っていたつもりだったのだが・・・」

桃「だから先輩は真つす！あんまり疑うんなら占つちやうつすよ〜!!」

京「・・・東横さんのこれも、本当に素でやつてるだけなのか分からなくなってきたもんな・・・？」

ま「案外、本当に繋がつとるのかもしれん。狂人と人狼、もしくは・・・」

咲「・・・背徳と狐ですよね。加治木さん、始めに東横さんに占われてましたし・・・！」

A「・・・デモソレ、ワカリヤススギル！」

美「そうね。もし彼女たちが本当に繋がつていたら、いくら何でもあからさますぎるわ・・・」

京「そう思わせといてつてことなんじゃないすか？こんだけ露骨ならそれはないだろうつて・・・」

桃「つていうか、何でこんなに疑われなきやいけないんすか!?直訴してやるつす〜!」  
久「仕方ないわよ。確定するまでは、全てを疑わなくちやいけないんだもの。」

豊「私は・・・どうなのかな〜?モモちゃんは騙りつて分かるけど、加治木さんは真の気がするんだけど・・・？」

睦「そう信じたいところではありますけど、でも全部を信用するわけには・・・!」  
ま「・・・どうするんじや久。加治木さんをつとりあえずまだ置いておくんか、信用す



るんか、それともここで吊るんか……」

咲「……といつても、信用するっていうのは領けません……!」

桃「むしろ、吊るって言うなら断固反対っす!」

美「久……?」

久「……置いておきましょう。まだ若干の余裕はあるわ……!」

咲「……あくまで置くだけですからね。私はまだ疑ってますので……!」

京「なんか、おめく怖えぞ……!?!」

ゆ「……分かった。ではここからは信用を得るためにも、客観的な見方などではなく、もつとちゃんとした推察をさせてもらおう……!」

塞「お願いだからそうして……!」

胡「そうしてもらえないと、こつちだつて信用できないんだからね!」

A「マツタクダ!」

久「よろしく頼むわ、本当に……!」

ト：さて、残り1分を切つたよ。

何だかこれを言うのも久しぶりな気がするね……?」

久「……それじゃあ今日は、智美に投票をお願いね！」

桃「人狼は吊るっす！」

ワ「ワハハ。これで私が●だったら、モモとゆみちんを疑ってくれよう？」

豊「蒲原さんは○なんだよ！」

睦「どういう結果なのか、少し怖いすね……！」

塞「でもこれで●だと、疑うとこまた増えるわね……」

京「大丈夫っす！みんなで考えれば、何とかなるっすよ！」

塞「……うん、そうだよ。ありがとう。」

咲「……今度は白沢さんなんだ……？」

ま「……いい加減にしとかんと、本当に去勢されても知らんぞ？」

A「チョンギレ！」

京「つてだから違うんだって!？」

ト：そこまでだよ。

懲りない子がいるみたいだけど、投票を始めておくれ？

○投票結果

美 久(0) ↓ 智美 まこ(0) ↓ 智美 咲(0) ↓ 智美 京太郎(0) ↓ 智美

子 エイスリン(0) ↓ 智美 胡桃(0) ↓ 智美 塞(0) ↓ 智美 豊音(0) ↓ 桃

美 智美(11) ↓ 桃子 ゆみ(0) ↓ 智美 睦月(0) ↓ 智美 桃子(2) ↓ 智

美穂子(0) ↓ 智美

投票の結果、蒲原智美さんは処刑されました。

ワ「ワハハ。ゆみちゃんとモモは怪しいぞ。．．．!」

6 日目に続く．．．

清澄・宮守・鶴賀十 $\alpha$  ③

○6日目（昼） 犠牲 トシ・優希・華菜・白望

処刑 佳織・未春・和・智美

生存 久・まこ・咲・京太郎・エイスリン・胡桃・塞

豊音・ゆみ・睦月・桃子・美穂子

平和な朝を迎えました。

ト：昨日は犠牲になった子はいないみたいだね。

平和が何よりだけど、この平和の裏では何が起こってるんだろぅね？  
今日の会話時間は6分だよ。

さすがにそろそろスキップは使いづらくなってきたんじゃないかい？

さて、6日目が始まるよ・・・

久「みんなおはよう。この平和、果たして狐囃みか狩人GJか・・・。」

美「おはようございます。本音を言うと狩人GJのほうがありますがいいんですけど・・・  
何にせよ、平和はいいですね。」

咲「そうですね。吊り回数が増えないのは残念ですけど、犠牲者無しっていうのは少しホツとします。」

ま「全くじゃ。このまま何事もなくつちゆうのが一番なんじゃが、まあそうはいかな。」

塞「そうよね。とにかく隠れてる人外を全部見つけないと・・・！」

A「ジンガイ、センメツ！」

豊「その通りだよ〜！」

桃「全くつす!!」

久「そうね。そのためにも、まずはゆみから結果を聞かせてちょうだい。・・・智美の色、どっちだった？」

ゆ「・・・蒲原は○だった。よって、モモが破綻だ。」

桃「へ?・・・って、嘘つす!?!先輩まさか・・・!?!」

豊「ほらね〜」

胡「つてことは、今日の吊りは東横さんだね！」

睦「うむ。だが、疑問なのは……」

咲「……加治木さんの結果、素直に信じてても大丈夫だと思いますか？」

京「あ……そっか。加治木さんが人外の可能性もあるわけだし……」

桃「……信じたくないけど、先輩は人外だったす！破綻は先輩のほうつすよ！」

ゆ「あいにくだが、私は間違いないで、先輩は中途半端な態度が、周りにいらぬ不安を与えてしまったからな。今日からは、自分が真だと思わせてもらおうつもりだ。」

美「……これで人外だとしたら、凄い演技力だと思うんですが……？」

久「まあ、そういう面もあるゲームだしね。まあゲームはゲームよ！騙されたら相手のほうが上手だったってだけ！ここはゆみを信じるわ。」

ま「ふむ。……いささか無用心にも感じるが、まあ仕方なからう。じゃが少しでもおかしいと思えば、すぐに嘯み付かせてもらおうぞ？」

ゆ「ああ。疑われぬよう、最善をつくそう。」

久「それじゃあ今日はモモチちゃんを吊ると仮定して、占いの結果を頼むわ！いい？せ  
くの……！」

豊「咲ちゃん、○だよ！」

桃「うう……ムツキー先輩、●だったつす……!」

睦「……うむ。確かにこれは、東横さんが人外か……」

桃「違うつす!ムツキー先輩は間違ひなく人狼だったつす!」

咲「……姉帯さんも、私を占ってくれたんですね?」

豊「そうだよ。昨日蒲原さんが吊られちゃったから、今日破綻するのはばれてたしね。ギリギリで囲ったりしてないか、調べて見たんだ。」

ま「……ふむ?すると、姉帯の姉さんの中では……」

豊「えつと……染谷さんと、塞と、加治木さんと、あと津山さんと須賀くんだね。この中に人狼と、あと狐がいるかもだよ。」

ま「……なるほどのう……」

ゆ「……気づいたか、染谷は。」

ま「そうじゃのう。こりや、姉帯の姉さんも人外かもしれんわ……!」

京「え、何でつすか!」

豊「え?な、何で?!」

ゆ「……私目線で、●はまだ1つだけだ。だがそれは、おそらくコスの吉留のものとなる、当然人狼は2〜3匹はいるはずなんだ。」

胡「……2と3匹？3匹じゃなくて？」

久「……聞かせてちょうだい。ゆみの推測。」

美「そうですね。加治木さんには何が見えているのか、私たちにも説明してください……！」

ゆ「……私が疑問に思っているのは、池田の死だ。3日目にグレーの片岡。次に占いの師の池田。次にまたグレーの小瀬川で、今日が平和。池田が人狼だったとすると、答えは簡単だな。サイコに噛み付いたんだろう。これが答えなら手っ取り早くて助かるのだが……」

咲「……なにか、不審な点が？」

A「ド、ドコニ!？」

ゆ「……もし池田が真と仮定して、池田がサイコを占っていたとすると、当然池田は死亡。この場合には、人狼は3匹の可能性が高い。だが、池田が真偽関係なく、人狼の餌食になっていたのだとしたら……」

京「ど、どうなるんすか!？」

塞「須賀くん、落ち着いて聞こうね？」

胡「静かにする！」

京「う、ういつす……」



ゆ「なぜ、占い師の犠牲が池田だけなのか疑問に残る。真偽関係無しに嘯み付いたとしたら、その前後の日でも占い師が犠牲になっていてもおかしくない・・・！」

久「そっか・・・占いの結果で、人狼もまだ真が誰かを判別できていなかったとしたら・・・」

睦「・・・うむ。確かに原村さんは○だったから、仮に狂人で人狼の陣営だったとしても、人狼からは身内だと判断できなかったはずですね。」

塞「まして他の2人の占いからも推測できなかったら・・・！」

ゆ「そこで私が昨日考えたのは・・・もしかすると今回の人狼たちは、狐探しをせず、いきなり占い師を消しに来たのではないかということだ。」

咲「いきなり・・・！」

ま「・・・そりやまた随分と大胆不敵な人狼どもじゃな。下手すると狐勝ちじゃつちゆうに・・・！」

ゆ「そして、もしこの仮説が合っていた場合、怪しいのは・・・小瀬川だな。」

胡「え、シロが!？」

塞「何で・・・!？」

美「・・・なるほど。華菜が嘯まれた次の日、東横さんは蒲原さんに●を出していますね。」

ゆ「そうだ。まず3人のうち、原村の件で追い込まれていた池田を嘯む。次の候補は姉帯かモモ。だがその日、モモは蒲原に●を出した。これで人狼からすると、モモは少なくとも真ではないと分かったはずだ。そうなれば人狼が狙うのは・・・」

A「トヨネ！」

豊「ふえ〜!?でも、私嘯まれてないよ〜!?」

ゆ「いや、おそらくは嘯まれているはずだ。君は死なずに、逆に人狼がやられただけと考えればおかしくはない。」

睦「・・・サイコですか・・・!」

京「なっ・・・姉帯さんがつすか!?!」

久「・・・確かに、そう考えればおかしくはないか。姉帯さんがサイコなら、占い師の犠牲が池田さんだけだったのも領けるし・・・!」

ゆ「もしこの仮説が正しければ、人狼は残り2匹だ。そしておそらくは狐もいるだろう。そして先ほどの染谷の反応からすると、染谷、君は・・・。」

ま「・・・もう良からう、久。占い2人とも人外認定なら、もう潜んでも意味はないわ。」

久「む・・・何よ。せっかく華麗にまこ爆弾を炸裂させようと思ったのに・・・」

ま「勝手に人を危険物にせんでほしいの・・・!?!」

咲「……じゃあ、染谷先輩が……！」

ま「……ふむ。共有の相手じゃ。今回はこいつと組まされる羽目になってしもうたわ……」

ゆ「やはりな……」

美「(……久の相棒……羨ましいです……!)」

塞「ちよつと待ってよ! それじゃつまり、加治木さんが真だとして、染谷さんが共有なら……!?!」

睦「私と白沢さん、それに須賀くんが人外だというんですか……!?!」

京「ええ!?! 俺違うつすよ!?!」

咲「京ちゃんは怪しいけどね。」

京「」

ま「……わしが予想したんは、人狼3匹と狐1匹なら、わしか加治木さんもそれに含まれるつちゆうことじゃ。わしは違うし、もし加治木さんが人狼なら、さすがにここまで姉帯の姉さんを放つてはおかんじやろ。姉帯の姉さんがサイコじゃつちゆうところまでは、さすがに予想しとらんわい……」

胡「なるほど……豊音、サイコ?」

豊「ち、ちち違うよ!?!」

塞「あく……もしかすると当たりかもね。この子、本気の嘘つてつけないから……」

桃「なら、今日は姉帯さんを吊るつす！それで明日はムツキー先輩つすよ〜！」

睦「……ずっと黙っていると思つたら……」

ゆ「今日はモモに変わりはない。モモが破綻しているのは確かだからな。」

桃「何でつすか!?!破綻してるのは先輩のほうつす!!」

ゆ「……モモ、そろそろ諦めろ。」

桃「諦められないつす〜！」

久「……今日はモモちゃん吊りに変更はないわ。ゆみ、あなたの真目、少し強めに見させてもらつていいかしら？」

ゆ「……ありがたいな。その期待、応えてみせよう……!!」

ト：さて、ここで残り1分だね。

今日の結果は以上でいいのかい？

久「いいわ。みんなも今日は東横さんに投票してちょうだい。」

ゆ「分かつた。明日は姉帯が候補だな。」

桃「違うつす〜……先輩が人外に間違いないつす〜……!!」

豊「私はサイコじゃないんだよ……もしかしたら、加治木さんって……!?」

ト：時間だよ。

それじゃあ投票を始めておくれ?

○投票結果

久(0) ↓ 桃子    まこ(0) ↓ 桃子    咲(0) ↓ 桃子    京太郎(0) ↓

桃子

エイスリン(0) ↓ 桃子    胡桃(0) ↓ 桃子    豊音(0) ↓ ゆみ    ゆみ(2) ↓

桃子

睦月(0) ↓ 桃子    桃子(9) ↓ ゆみ    美穂子(0) ↓ 桃子

投票の結果、東横桃子さんは処刑されました。

桃「うう……私は真つす!先輩が人外つすよ〜!」

○7日目（昼） 犠牲 トシ・優希・華菜・白望・まこ

処刑 佳織・未春・和・智美・桃子

生存 久・咲・京太郎・エイスリン・胡桃・塞・豊音

ゆみ・睦月・美穂子

染谷まこさんの無残な死体が発見されました。

ト：昨日の犠牲者は染谷さんだったみたいだね。

共有だって明かしちゃったから、○消しに来たのかね？

今日の会話時間は5分さ。

みんな、じっくり話し合うんだよ？

それじゃく7日目、スタートさ。

ゆ「みんなおはよう。モモの結果だが、○だった。おそらくは背徳者ではないかと睨んでる。」

久「おはよう。とうとうまこもやられちゃったわけだけど・・・そう、モモちゃんも

○か・・・！」

美「ということとは、まだこの中に2匹以上は残っているということですね．．．！」

豊「えつとく！占いの結果は加治木さん●だよ！みんな、騙されちゃ駄目だよ！」

咲「っ．．．!？」

京「うえっ!?!加治木さんが．．!？」

塞「嘘っ!?!」

睦「うむう．．．!」

ゆ「．．．今さらだが、私の中では彼女は人外と確信している。今回の真は、おそらく池田か欠けだ。彼女の言に惑わされないでほしい。」

豊「違うよ！嘘吐きは加治木さんだったんだよ！」

胡「うう．．．もし本当に豊音が真だった場合って．．．」

豊「えつとく．．．須賀くん、塞、津山さんの中に人狼が1〜2匹で、もしかしたら

狐もだよ！」

京「．．．ってそれ、全員じゃないっすか!？」

睦「．．．さすがに、それを信じるわけにはいけませんね．．．!」

豊「え！何で!？」

塞「私も人外認定でしょうが！そんなの認められるか！」

A「サエ！オトナシクヨウジョウシロ！」

胡「それを言うなら往生！」

A「……オウツ!？」

美「……白沢さん、どこか痛めてるのかしら……!？」

久「いや、お願いだから美穂子もまじで言わないでちょうだい……」

美「？」

ゆ「……まあとにかく、今日の吊りは昨日の案そのままに、姉帯を押させてもらう。久、どうだ？」

久「そうね。私もそれに賛成なんだけど……」

咲「……その前に、そろそろ加治木さんの真偽を決めたほうがいいと思います。」

塞「え……?？」

京「咲……?？」

久「咲……ゆみは真つてことで確定したんじゃないの?？」

咲「確かに加治木さんが真なら、このままいけば村勝ちです。でも……」

豊「そ、そうだよ!加治木さんは人狼なんだからね!？」

咲「……かどうかは分かりませんが、人外である可能性は残っています。ここま  
で残つて推理してくれたことはありがたいんですけど、それも加治木さんが人外なら意  
味が無くなります。」



胡「・・・た、確かにそうなんだよね・・・」

塞「もし人外なら、このままでいくと最後まで残っちやいそうだし・・・」

美「でも、もし加治木さんが人外だとしたら、今までの推察が全て水の泡よ・・・？」

京「そ、そうなると、一体誰を疑えばいいんだよ・・・!?」

咲「・・・今までの会話の流れと、憶測で決めていくしかないね。」

ゆ「・・・始めは私を疑えばいいと言つてしまつたが、今は自分が真霊能だと言わせてもらう。そう決めたからには、意見の変更はしないつもりだ・・・！」

咲「後半になってきて、欲が出てきたんじゃないですか？このままいけば、自分の陣営が勝てるって・・・！」

久「・・・参つたわね。私としてはゆみは信じたいんだけど、結構人外目で見てる人が残つてるってこと？」

睦「・・・宮永さんに乗るわけではないですが、私も加治木先輩は疑つてもいいかと思ひます。あれだけ真目扱っていたモモを破綻させたのも、もしかしたら私たちの信用取りなんじゃないかって・・・」

塞「・・・そうよね。もしそうなら、見事に騙されてるわけだし・・・」

京「えつと、俺は・・・」

胡「決めるべきだよ。この辺りで決めとかなないと、後で後悔するかもしれないよ？」

京「」

A「……チョット、ファン……！」

久「……でも、今日は姉帯さんよ。ゆみを吊るとしたら明日。それでもいい？」

豊「え〜!!」

睦「それは構いませんが……」

塞「私たちが人外扱いなわけだし……」

京「そうっす！俺は……」

咲「仕方ないですね。でも、明日は必ず加治木さんを吊りますので。」

京「」

ゆ「……ここまで疑われたか。これでは反対もできんな……」

久「ごめんなさいね……さすがに、私の一存でつてわけにもいかないから……」

ゆ「いや、仕方ないさ。せめて姉帯の色を伝えることで、最後に貢献するつもりだ。」

ト：残り1分だね。

今日の吊り先は決まりでいいのかい？

久「それじゃ、今日は姉帯さんよ。ゆみは明日だから、間違えないでよね？」

豊「うう……誰も信じてくれないよ……！」

塞「……その、さすがにね……？」

胡「こればかりは……！」

A「ムリ！」

睦「うむ。」

美「今日は姉帯さんで、明日は加治木さん、なのね……」

京「そ、そう！つまり今日は姉帯さんで……」

咲「ですが、明日は必ず加治木さんを吊りますからね？」

京「」

久「分かっているってわよ。」

ゆ「……しかし、こうまで疑われると……宮永、もしかして君が……？」

ト：時間だよ。

今日の投票を始めておくれ。

京「」

## ○投票結果

久(0) ↓豊音      咲(0) ↓豊音      京太郎(0) ↓豊音      エイスリン(0) ↓

豊音

胡桃(0) ↓豊音      塞(0) ↓豊音      豊音(9) ↓ゆみ      ゆみ(1) ↓

豊音

睦月(0) ↓豊音      美穂子(0) ↓豊音

投票の結果、姉帯豊音さんは処刑されました。

豊「残念だよ．．．みんな、騙されちゃ駄目だからね〜!」

8 日目に続く．．．

清澄・宮守・鶴賀+α ④

○8日目（昼） 犠牲 トシ・優希・華菜・白望・まこ・咲

処刑 佳織・未春・和・智美・桃子・豊音

生存 久・京太郎・エイスリン・胡桃・塞・ゆみ・睦月・美穂子

宮永咲さんの無残な死体が発見されました。

ト：昨日の犠牲者は宮永さんだったみたいだね。

これで残りは8人。

一体どういう内約になっているんだろうね？

今日の会話時間は4分間だよ。

みんな、頑張つて勝ちを目指しておくれ。

それじゃあ8日目、スタートさ。

ゆ「おはよう、みんな。姉帯の結果だが、やはり○だった。サイコと見て間違いないだろう。」

久「おはよう。でもそうすると、この中に確実に2匹残ってるのよね・・・？」

美「その、昨日は加治木さんを吊るって言ってましたけど、少し考え直したほうがいいのでは・・・？」

塞「でも、いくらなんでも怪しくない？だって咲ちゃん噛まれてるんだよ・・・？」

睦「うむ。最後の腹いせに噛んだという可能性も・・・！」

ゆ「それがおそらく人狼の狙いだ。あえて私を最も敵対視していた宮永を噛むことで、私の人外目をさらに強くしようとしているのだろう。」

A「デモ、キノウハツルツテ・・・？」

京「けど、人狼2匹だけならいいすけど、狐も残ってるんすよね・・・？」

ゆ「・・・GJが出ない限り、吊り回数は残り3回だ。昨日は吊られることに納得したが、それを考えると素直に承服しかねる・・・！」

睦「・・・加治木先輩、意見を変えるんですか・・・？」

ゆ「誰だつて変えざるをえまい？ここで私を吊れば、人外の勝利が確定するだけだ。」

胡「けど、もし加治木さんが人外だったら、ここで吊らないと駄目！」

美「・・・そうなのよね。もし加治木さんが人外なら・・・」

久「・・・占い師はもういないから、完全に推理していくしかないわ。ちなみに、現時点でゆみを吊りたいって人はどれだけいるの？」

胡「私はそう！」

睦「私もです・・・。」

塞「・・・その、ごめん。やっぱり私も賛成・・・」

A「ワタシモ・・・」

久「・・・4人か。真つ二つに分かれちゃってるわね・・・」

京「その・・・加治木さんが人外なら、確かに吊るしかないと思うんですけど・・・」

美「もし違えば、それこそ自分の首を絞めるだけだもの・・・」

ゆ「私は自身のことだからな。この状態では、さすがに反対だ。」

久「・・・ちなみに、私も反対なの。さて、どうしたものかしらね・・・？」

胡「昨日の咲ちゃんの言葉忘れたの!?!明日は加治木さん吊ってって言ったよ!?!」

睦「うむ。あれが遺言と考えると、無視するのはさすがに・・・!」

塞「そうよね・・・危なくなつたから、やっぱり無しでつてのは・・・」

京「けど、余裕がないんすよ!?!なら遺言に従うより、ちゃんと考えて結果を出したほ

うが・・・!」

胡「だから考えて言ってるの!」

A 「ウルサイキンパツ！」

京 「いや、これは地毛で……って、金髪はあなたもでしょう!？」

A 「シマツタ!？」

美 「……加治木さんを怪しむのは分かるの。でも、そうまで吊りたがるっていうのは、もしかして本当に人外が追い込まれてるからじゃないかしら……？」

塞 「……って、つまり私たちが人外だつて言いたいわけ!？」

美 「あ……そ、そういうわけじゃないんですけど……」

ゆ 「……なるほど。確かにこれ以上私がいれば、人外からすると相当なプレッシャーか……となると、その4人は人外目が強いといえるな……!？」

A 「ワ、ワタシチガウ！」

胡 「私だつてそうだよ！」

睦 「私もです……!？」

塞 「も、もちろん私だつてそうだからね!？」

ゆ 「私の提案としては、この中の4人から吊つてみたい。おそらく、この中に人外がいるはずだ……!？」

胡 「そ、そんなの反対!？」

睦 「うむ……!？」



A 「ダンコハンタイスル！」

塞 「わ、私も反対……でいいのかな？」

胡 「なんで迷うの!？」

睦 「うむあ!？」

A 「サエ、トチクルツタカ!？」

塞 「い、いやだつて、このままだと4対4でしょ!？それつて引き分けじゃ……!？」

京 「そ、そつか……」

久 「……確かに、これで投票にいつちやうと引き分けになる可能性があるわね……

！

美 「そんな!？ここまで来たのに……!？」

ゆ 「……白沢。君の意見を尊重しよう。だから今回はこちらへ来てはもらえないか

？

塞 「え……!？」

胡 「つて塞を誘惑しない！」

睦 「モモはどうするんですか!？」

A 「クサバノカゲデナイトルゾ!？」

ゆ 「い、いや、そういう意味じゃないんだが……!？」

ト：残り1分だよ。

もしかして、まだ決まってるのかい？

これは、どうなることかね．．．？

久「嘘っ．．．!？」

美「ひ、久．．．!？」

ゆ「くっ．．．久、どうする!？」

胡「早く決めて!？」

久「ちよ、ちよつと待ってよ．．．!？」

A「コウナツタラキンパツニ．．．!？」

京「やめてっ!？」

塞「あゝん！誰に投票すればいいの!？」

睦「うむう．．．!？」

久「えつと、えつと．．．!？」

久「……す、須賀くん！とりあえず須賀くんに投票して!!」

京「嘘おつ!? だつて俺……!!」

久「あなたにだつて可能性はあるのよ！ 違っててもいいからとりあえず犠牲になつて!？」

ト：時間さ。

おしやべりは禁止だよ？

さあ、後悔しないといいんだけどね……？

○投票結果

久（1）↓京太郎 京太郎（7）↓久 エイスリン（0）↓京太郎 胡桃（0）↓

京太郎

塞（0）↓京太郎 ゆみ（0）↓京太郎 睦月（0）↓京太郎 美穂子（0）↓

京太郎

投票の結果、須賀京太郎さんは処刑されました。

京「……やべっ……だって俺……!？」

竹井久さんの無残な死体が発見されました。

久「……え……!？」

京「俺、猫又っす……!」

久「……何で言わないのよ〜!？」

京「だって時間無かったでしょう〜!？」

○9日目（昼） 犠牲 トシ・優希・華菜・白望・まこ・咲・久

処刑 佳織・未春・和・智美・桃子・豊音・京太郎  
生存 エイスリン・胡桃・塞・ゆみ・睦月・美穂子  
平和な朝を迎えました。

ト：おや、また平和な朝が来たみたいだね。

まあ昨日は最後に1人増えちゃったから、これでトントントンかね？  
今日の会話時間は3分さ。

明日からも3分だから、忘れないでおくれよ？

それじゃあ9日目、始めようかね。

ゆ「おはよう。平和とはすばらしいものだな。」

A「・・・？」

塞「」

睦「」

胡「」

美「」

ゆ「ちなみに昨日の須賀くんの結果は●だ。いやはや、どうやって久を道連れにしたんだか・・・」

塞「えっと・・・？」

A「ド、ドウイウコト・・・？」

胡「やっぱり・・・！」

美「……よくも騙してくれましたね……！」

睦「うむ……！」

ゆ「……COLWだ。さて、狐の正体は分かっているが、一体誰なんだろうな……？」

A「……ヤツパリカタリジヤネ〜カ!!」

美「誰なんですか！狐の正体を言ってください!!」

睦「……加治木先輩ですよ。COLW。私が昨日噛んだのは、加治木先輩です……！」

A「オウツ!!」

塞「ふえっ!!」

ゆ「……ん?」

睦「自分が噛まれたのに気づいたんですね。ですが、先輩といえど騙りは許しませんよ。もし狩人がいるというならCOしてください。いませんよね？私は昨日、そして4日目の夜にも加治木先輩を噛んでいます。GJしていたんですか……!!」

ゆ「……私の役職を騙らないでもらおうか津山。人狼は私で、私が噛んだのは両方お前だ。もはやこれ以上の言い逃れは……」

A 「……C、C Oカリユウド！」

睦 「……へ？う、うそ……本当にいたの……!？」

ゆ 「……っ……!？」

胡 「エ、エイちゃん!？」

塞 「エイちゃんが狩人だったの!？」

美 「まだ残っていたなんて……!？」

A 「ワタシ、ズットユミマモツテル!!」

塞 「……って昨日も!？」

胡 「何で昨日も守ったの!？」

A 「ソノ……スマヌ……」

ゆ 「……ふむ。どうやら騙るに落ちたようだな。津山がLWと判明したことだし、こ  
こは津山を……」

美 「……その前に、あなたですよね……!？」

胡 「当たり前だよね！」

塞 「へ？……あ、そっか……!」

ゆ 「……大嘘をついてしまったことを謝罪しよう。須賀くんの結果は○だ。そして

LWだと嘯いたのも、全ては人狼を誘い出すための……」

美「信じられません！」

A「……ユミ、キツネ？」

胡「うん！きつとそう！」

塞「そ、そうじゃないかな……？」

美「おそらく今日の平和で、人狼に自分が狐であることがばれたと思つたのでしょう。だからあえて人狼のふりをしようとしたけど、実際には狩人が自分を護衛していた。こうなると、むしろ人狼ではないということが証明されます……！」

ゆ「……勘違いだ福路。私は間違いなく、真の霊能だ。」

美「ですから、信じられません！あつちで久に謝つてきてください！」

A「……ユミツリ？」

塞「そ、そう……でいいんだよね……!？」

美「そうです。今日は加治木さん。そして明日は津山さんです！」

睦「……失敗しました。本当に狩人がいるなら、確かめてからにすれば良かった……」

胡「……エイちゃんのおかげで助かったよ！」

A「ワタシノオカゲ!？」

塞「うんうん！エイちゃん偉い！」



A 「♪」

ト：さて、残り1分だ。

今日はもう決定なのかい？

美「もちろんです。今日は加治木さんです。」

ゆ「落ち着け福路。ここは確実に狐を吊るべきだ。私と津山、ウィツシユアートが違うという事は、候補は君か鹿倉、それに白沢だ。ふむ、誰が狐なんだ・・・!?」

美「白々しいです！」

胡「全くだよ！」

塞「さすがにこれは、もう騙されないかな。」

A「イエス！」

睦「ここから逆転は・・・どうやっても無理か・・・」

ト：時間だね。

それじゃあ投票を始めちゃっておくれ。

## ○投票結果

エイスリン (0) ↓ゆみ 胡桃 (0) ↓ゆみ 塞 (0) ↓ゆみ ゆみ (5) ↓睦月

睦月 (1) ↓ゆみ 美穂子 (0) ↓ゆみ

投票の結果、加治木ゆみさんは処刑されました。

ゆ「私は断じて狐ではない。みんな、騙されるなよ・・・！」

○10日目 (昼) 犠牲 トシ・優希・華菜・白望・まこ・咲・久・美穂子

処刑 佳織・未春・和・智美・桃子・豊音・京太郎・ゆみ

生存 エイスリン・胡桃・塞・睦月

福路美穂子さんの無残な死体が発見されました。

ト：昨日の犠牲者は福路さんみただね。

これが最後の犠牲になればいいんだけどね。

今日も会話時間は3分だよ。

さて、今日が最後になるのかどうか・・・

10日目、始めるとしようかね・・・

睦「・・・もう少し待ちませんか？」

胡「無理！」

A「キノウサエマモツタ！ミスツタ・・・」

塞「いいいいいよ。エイちゃんありがとう。」

A「♪」

睦「・・・もしかしたら、まだ本物の狐がいるかもしれないし・・・？」

胡「私村人！」

A「アイムカリユウド！」

塞「私も違うな。」

睦「・・・エイスリンさん、実は狐なんじゃないですか？ここは安全に引き分け策を・・・」

宮守3人「駄目（ダメ）!!」

睦「・・・はあ・・・」

『スキップで〜♪』

○投票結果

エイスリン（1）↓睦月 胡桃（0）↓睦月 塞（0）↓睦月 睦月（3）↓エイス  
リン

投票の結果、津山睦月さんは処刑されました。

睦 「……失敗しました……」

この瞬間、全ての人狼は処刑されました。

胡 「やった〜！ありがとうエイちゃん〜！」

塞 「本当偉いよ〜！」

A 「マカセロ♪」

しかし残念なことに、村にはまだ狐が残っていたようです。

3人「・・・え？」

塞「本当ありがとうございます！エイちゃん♪」

おめでとうございます！

今回は狐陣営の勝利です!!

塞「やった~~~~♪」

胡「」

A「」

睦「

ゆ「9日目に平和が出たときには、てつきり白沢が噛まれたと思つてな。誤魔化せないかとCOしたが・・・狩人がいてくれたおかげで助かった。」

塞「加治木さんが背徳だったんだ。全然気づかなかつたよ。」

白沢塞（狐） 加治木ゆみ（背徳者）

華「全然見せ場が無かつたし・・・」

ワ「ワハハ・・・まさかゆみちゃんが、狐じゃなくて背徳だったとは・・・」

睦「すいません・・・完全に誤解してました・・・!」

豊「池田さん、私噛んじやつたんだね。痛かつた?」

和「ふむ・・・さすがに、これは予想していませんでしたね・・・」

池田華菜・蒲原智美・津山睦月（人狼） 姉帯豊音（サイコキラー） 原村和（狂人）

久「ゆみの奴・・・!」

ま「・・・じゃから言つたんじゃ。お前さんにしては素直に信用しすぎじゃわい。」

桃「うう・・・先輩の馬鹿く！浮気者くくす!!」

A「・・・ワタシ、ヤツチマツタ・・・!？」

未「見事にのせられちゃった、私よりはいいかと・・・」

京「いや、今回の戦犯は部長でいいかと・・・」

竹井久・染谷まこ（共有） 東横桃子（占い） 初日犠牲者（霊能）

吉留未春（コスプレイヤー） エイスリン・ウィツシユアート（狩人）

須賀京太郎（猫又）

優「むう・・・全然活躍出来なかったじえ・・・!」

咲「白沢さんは予想してなかったな・・・加治木さんが狐だって信じ込んだじゃってた

よ・・・」

白「・・・嘘の推理に利用された・・・ダルい・・・」

胡「でも、豊音が本当にサイコだったみたいだよ?」

佳「結果的には、合ってたってことだよね・・・?」

美「うう・・・全然お役に立てなかったです・・・」

片岡優希・宮永咲・小瀬川白望・鹿倉胡桃・妹尾佳織・福路美穂子（村人）

塞「誰も私に触る気配が無かったから、てつきり背徳欠けなんじゃないかって心配してたよ。加治木さんはてつきり真霊能だと思ってたし。」

ゆ「敵を欺くには、というやつだ。下手に触るより、場を乱すほうがいいと考えてな。しかしウィッシュアートの勘違いと、霊能欠けに救われたな。」

久「絶対真だっと思って思い込んでたわ・・・今度からもつと疑ってかからないと・・・！」  
咲「部長にしては、やけに加治木さんの肩を持つな〜って疑問だったんですよ。なんであんなに信じちゃってたんですか？」

久「う・・・その・・・」

ま「・・・こいつ、主導権を取られる相手には昔から弱いからのう・・・」

久「ち、違うわよ！」

咲「・・・なるほど・・・」

京「・・・っていうか、なんであそこで俺なんすか!?! どう考えても俺関係なかったでしょう!?!」

久「し、仕方ないじゃない。めぼしい吊り候補がいなかったんだもの・・・」

京「だから加治木さんは!?!」

久「う、うるさ〜い!」



咲「……部長も、意外と乙女だったり……?」

ま「(……イライラ……)」

美「(……イライラ……)」

A「……オダongo、キライ!」

塞「それって、もしかして私……?」

胡「あゝあ。エイちゃん怒らせちゃった〜。」

豊「いゝけないんだ〜いけないんだ〜♪」

胡「せ〜んせ〜に言ってやろ〜♪」

塞「何でっ!?!」

A「……シロ、ナグサメロ!」

白「……よしよし……」

A「〜♪」

塞「……意外と平気そうだね。」

豊「良かったよ〜♪」

胡「うん!」

A「〜♪」

白「（・・・ダルい・・・とは言えないか・・・）」

華「いきなり騙りがばれたから、占い囁んだらサイコだったし・・・しかもばれた原因が、よりよって狂人の演技だったし・・・!？」

和「ですが、おかげでコスを吊ることはできました。結果としては良かったのではないかと思いますか？」

華「よくないし!？」

未「華菜ちゃんが本当に人狼だとは思わなかったな。てつきり人外の騙りだと思っただから・・・」

睦「モモに部長がばれたときには焦りましたね。その前に囁みに行ったら、案の定狩人がついてましたし・・・」

ワ「ワハハ。そうだな。ゆみちゃんが真だったら、ムツキーもすぐにばれてたな。」

睦「ええ。でも騙りだって分かった後は、狐だと思い込んでしまいました・・・」

ワ「仕方ないぞ。私から見ても、ゆみちゃんかなり怪しかったからな。」

桃「・・・っていうか、何で他の女を口説いてるんすか!?!ゲーム中にあんなことする

なんて、信じられないっす!!」

ゆ「いや、だからあれは誤解だと・・・!」

睦「・・・当の本人はあれなんですけどね。」

ワ「・・・平和だな。」

佳「本当だね。」

ト「・・・さて、そろそろ時間だね。今日は学校に泊めてもらえるみたいだから、そろそろ準備を始めようかね?」

塞「はくい。じゃあ準備しようか?」

豊「了解だよ。」

A「マカセロ!」

白「・・・任せた・・・」

胡「駄目!シロもちゃんと手伝うの!」

白「・・・ダル・・・」

それぞれの命運を分けたゲームは、ひとまず終了する。  
しかし、これも所詮は一休憩。

戦いの幕は、まだ閉じてはいない……！

久「……よしっ！」

ま「何がよしなんじゃ？……ああええ。言わんでええわ……」

久「あら、そう？」

ま「嫌な予感がするんでな……」

続く……

清澄・宮守・鶴賀+α（犠牲者たちの集い）

○3日目（昼） 佳織・優希

優「むう・・・また早々に嘯まれてしまったじえ。」

佳「残念だったね〜?」

優「全くだじえ。これから私の華麗な推理劇が始まるところだったのに、残念で仕方ないじえ!」

佳「そうだったんだ〜。もしかしたら、それが人狼にばれたのかもしれないね〜?」

優「お、おう!もちろんだじえ!」

佳「そっか〜♪」

優「(・・・や、やりにくいじえ・・・!?)」

佳「ニコニコ♪」

優「・・・と、ところで、カオリン先輩はどう考えてるんだじえ?」

佳「え？」

優「あの3人の占い師だじえ。私は、ちよつと池田が怪しいと思ってるじえ！」

佳「そ、そうなのかな？ 私にはまだ真偽がつかないんですけど・・・」

優「まあ私も何となくってだけなんだけど・・・おっ！和ちゃんがCOしたじえ！」

佳「コスですか!?!じゃあ池田さんはやつぱり・・・！」

優「ふっふっふ・・・どうやらもう尻尾を出したようだじえ！」

佳「す、凄いです！さすがですね〜♪」

優「もちろんだじえ♪」

佳「・・・あ、あれ？吉留さんもコスのCOしてますけど・・・？」

優「む？つてことは・・・」

佳「・・・」

優「・・・」

佳「・・・？」

優「・・・ど、どつちかが偽者だじえ！」

佳「そ、そうですね！一体どつちが本物なのでしょうか・・・!?!」

優「（・・・誰でもいいから早く来てほしいじえ・・・!?!）」

○4日目（昼） 佳織・優希・未春・華菜

未「うう……せっかくコスになったのにく……」

華「みはるん、元気出すし！」

優「池田もお疲れだじえ！やっぱり偽者だったのか？」

華「違うし！華菜ちゃん噛まれてしまったし！」

佳「やっぱりそうなんですか？でも、さつきは……？」

優「ウオツホン！だじえ……。それはそうと、今は和ちやんの真偽だじえ。向こうでも話し合ってるみたいだけど……」

未「偽者です！本物のコスは私なんだから！」

佳「えっと、そうなんですか……？」

未「そうなの！」

華「……多分、みはるんが真だとは思うんだけど……原村が騙りなのは確かだけど、みはるんが人狼の可能性は否定できないし……！」

優「だじえ……結果が●つていうのは厄介すぎるじえ……」

未「華菜ちゃんも私を疑うの!？」

華「そ、そういうわけじゃないし!？」

佳「ふえく……一体どういう配役になっているんでしょうか……?」  
優「本当に、ややこしすぎるじえ……!?!」

○5日目(昼) 佳織・優希・未春・華菜・和・白望

和「私の結果が○とは……どうやら、加治木さんも人外だったようですね……!?!」  
未「違うでしょ! 原村さんは偽者だよ!」

和「残念ですが、真のコスプレイヤーは私です。名前を聞いたときから、ぜひともやってみたいと思っていましたし……!」

未「真は私く!!」

優「……おう……和ちゃんの知られざる趣味が明らかになってしまったじえ……!?!」

華「原村、そういう趣味だったんだな……?」

白「……」

優「でもコスプレなら、シロ姉ちゃんも似合いそうだじえ。シロ姉ちゃんはやらないのか?」

白「……私はやらない。でも、よくエイスリンや豊音たちが男装させようとはして



くる……」

佳「……な、なるほど……！」

和「……アリですね……！」

白「……ダル……」

華「……話を戻すし！みんなの予想はどうなってるし！」

未「私は……華菜ちゃんが比較的真目かな？なんか、残ってる2人とも人外なんじゃないかなって……？」

優「私は豊姉ちゃんだしえ！きつとズバツと解決してくれるじえ！」

佳「私は……やっぱりモモさんかなあ？その、何となく……？」

白「……豊音……って言いたいけど、なんか違和感を感じる……池田さんか、東横さん……？」

和「池田さんではないことだけは確かかと。」

華「何でだし!?っていうか狂人は黙ってるし！」

和「私は、真のコスプレイヤーです！」

未「だからコスは私〜！」

優「……和ちゃん、あの言い回しが気に入ったっぽいじえ……」

白「……ダル……」

○6日目(昼) 佳織・優希・未春・華菜・和・白望・智美

ワ「ワハハ。吊られてしまったぞ。．．．」

華「．．．これで鶴賀の大将が●出したら．．．!？」

佳「．．．智美ちゃんたち、何話してるのかな？」

優「．．．怪しいじえ。」

和「案外、あの2人が人狼だったのでは？東横さんが真なら、その可能性はあると思います。」

未「確かに、それはありそうだけど．．．あ、蒲原さんは○だって加治木さんが言ってる．．．」

ワ「当然だぞ。」

華「当たり前だし！」

優「うお!?!戻ってきたじえ．．．!？」

佳「智美ちゃん、何話してたの？」

ワ「ワハハ。佳織には少し難しいかもな。」

佳「そうなんだ。」

和「・・・この人は、人を疑うということを感じたほうがいいのでは・・・？」

華「けど、宮永みたいにすぐに疑いすぎるのも駄目だし！」

佳「加治木先輩のこと、凄く疑ってるよね？」

未「もしかして、宮永さんって人狼なんじゃないかな？」

和「・・・って、咲さんの悪口等は許しません！」

優「いつもの和ちゃんに戻ったじえ。それはそうと、霊能の真偽について話し合ってるじえ？」

ワ「おそらくは真かもしれないな。けど、信用しすぎると痛い目にあいそうだし。」

華「全くだし！」

未「でも、東横さんは津山さんに●出してゐるね？東横さんが真だったら、これであと1匹なのかな？」

和「プラス、狐が1匹ですね。おそらくはまだ残っているでしょうし。」

ワ「・・・」

華「・・・」

優「・・・この2人、怪しすぎるじえ・・・？」

ワ「気のせいだぞ〜?」

華「その通りだし!」

白「・・・zzzz・・・」

○7日目(昼) 佳織・優希・未春・華菜・和・白望・智美・桃子・まこ

ま「あゝ・・・やっぱり噛まれてしもうたかあ・・・」

佳「お疲れ様です、染谷さんにモモさん。」

桃「うう、お疲れっす〜。」

ワ「ワハハ〜。ゆみちゃんには嘘は通じなかったようだな〜?」

桃「むっ・・・蒲原部長さんは間違いない人狼っす! ムツキー先輩もそうっす!」

和「ですが、加治木さんには否定されたいたようですが・・・?」

桃「・・・認めたくないけど、先輩も人外だったっす。絶対に真だと思ってたんすけど・・・!」

華「まあ残念だったし! こつちにみはるんたちが入れてくれたお茶があるし!」

未「どうぞ〜。」

佳「はい、これ♪」

桃「おお、ありがたいっす！」

ま「・・・じゃが、東横さんも違うとするなら、やはり真は池田じやつたんか？それとも欠けか・・・？」

華「当然だし！真は華菜ちゃんだっし！」

桃「違うっす！真は私っす！」

優「豊姉ちゃんつてことはもうないのかだじえ？」

和「・・・難しいでしょうね。ここまで出したのが全て○。そして狐を呪殺していないということも考えると・・・」

未「昨日向こうで話してた通り、おそらくはないんじゃないかなって・・・」

優「むう・・・予想が外れていたってことだじえ・・・」

ま「まああれじゃな。あとは残つとる人外と、加治木さんを吊りやええじゃろ。」

和「ですが、部長は加治木さんを吊りたくはないようですね。部長は加治木さんが真だと決め打つたのでしょうか・・・？」

ま「ああく・・・そりやあれじゃ。お前さんが睨を妄信するのと同じじゃな。」

和「なるほど・・・」

優「納得だじえ！」

桃「……って納得できないっす！何すかそれ!?あの人、本気で先輩のこと……!？」  
 ワ「ワハハ。こりやとんでもないとところに伏兵がいたな。……?」

桃「やっぱりあの人は敵っす！次は容赦しないっすよ！」

白「……あ、豊音が吊られる……」

優「あ、起きたじえ。」

佳「どうぞ、お茶です。」

白「感謝……」

○8日目（昼） 佳織・優希・未春・華菜・和・白望・智美・桃子・まこ・豊音・咲

咲「うわ……嘔まれちゃった。」

優「お疲れだじえ！」

和「お疲れ様です、咲さん。はい、お茶です。」

咲「あ、ありがと。……って、何だかこっちははずいぶんと和やかなムードだね？向

こうは結構大変なことになってるんだけど……?」

華「みはるんは癒しメーカーだし！」

ワ「佳織もいるぞ。」

咲「なるほど……。」

豊「あうう……最後まで残れなかったよ。」

白「お疲れ……。」

豊「シロ、人狼だったの？」

白「なんかそういう話してみたいんだけど、違うからね……？」

豊「違うの？ てつきりそうだと思いますよ。」

和「……つまり、自分がサイコだと認めると……？」

豊「へ？ ……あ、ち、違うよ！ 私は占い師なんだよ！？」

優「むう……ここまで嘘が苦手な人も始めて見たじえ……!？」

和「優希とは違うということですね。」

咲「……で、さっきから気にはなっていたんだけど……あれ、何があったの？」

和「……聞かないください。」

優「ノーコメントだじえ！」

白「……ダル……。」

ワ「ワハハ……。」

華「だし！」

咲「？」

桃「やっぱりあの人は敵つす〜！リアルに吊つてやるつす〜!!」

佳「お、落ち着いて〜?」

ま「まあ気持ちは分かるんじやが・・・」

○9日目（昼） 佳織・優希・未春・華菜・和・白望・智美・桃子・まこ・豊音・咲

京太郎・久

京「俺、今回は悪くね〜よな!?!」

咲「確かに、今回は部長が戦犯だね。」

久「うぐっ・・・」

優「猫又を指定するとは・・・」

和「これほど似合わない猫又もあつたもんじやありませんがね。」

京「放つといて!?!」

ま「しかしまああれじゃな。お前さんにしては見事に・・・」

咲「・・・日和つたね。」

和「間違いない。」



優「だじえ！」

久「な、何よろ!? 誰か1人ぐらい味方してくれてもいいじゃない!?」

ま「これでもかなり譲歩しとるんじゃないやがな、あれに比べりや?」

桃「離すつす〜!あの女に天誅を喰らわせてやるつす〜!」

佳「だ、駄目だよ〜!?」

ワ「落ち着け〜・・・」

久「」

ま「ま、あれでもだいぶ落ち着いたんじゃないやがな?」

咲「さつきまでは凄かったですからね。白沢さんが声をかけられているのを見て・・・」

『・・・また新たな敵つすか!? ここには敵しかいないんすか〜!?』

和「でしたから。」

優「モモちゃんも大変だじえ!」

豊「でも、これで清澄は全員落ちちゃったね〜。」

京「ういつす。役職が役職だから、今回は最後までいけるかと思っただけ……」  
華「まあ仕方ないし！私も見ててあれはないと思っただけ！」

未「さすがに、ちよつとね……」

白「……それはそうと、ついに加治木さんがCOしたよ……」

ワ「ワハハ。対抗したのはムツキーだぞ。」

佳「津山さんが人狼だったんですか？」

久「むう……ゆみの奴め……」

ま「全く……しかし、こりや加治木さんが狐か？狐の霊能騙りっちゅうのはよくある話じゃが……」

豊「あ！エイスリンさんがCOしたよ！」

白「……狩人……」

未「ま、まだ残ってたんですね。私は早々に脱落しちゃったのに……」

華「みはるん、元氣出すし！」

咲「……あれ？加治木さんCOを取り下げちゃったよ……？」

優「何でだじえ？まだ狩人がいたつてのは驚きだけど、別に下げる必要はないじえ？」

和「そうですね。実際どちらが狐かは分からない訳です……」

京「あ、でも福路さんが加治木さんを狐だつて見破ったぞ！さすがだな！」

華「キャプテンなら当然だし！」

咲「……？」

久「……咲も、おかしいと思う？」

咲「はい。……あんなことしたら、自分が狐だつていうような……!？」

久「……やばいわね……!？」

ま「……そうか。ありやあ……！」

優「どうしたんだじえ？」

和「さあ……？」

京「？」

○10日目（昼） 佳織・優希・未春・華菜・和・白望・智美・桃子・まこ・豊音・咲

京太郎・久・ゆみ・美穂子

ゆ「……やれやれ。あと少しだと思つたんだが。」

桃「先輩酷いっす！私を裏切つたんすか?!？」

ゆ「そう言わないでくれ。これはあくまでゲームだ。」

桃「ゲーム!?先輩はゲームだからって他の女に手を出すすか?!？」

ゆ「・・・へ？」

美「最後に嘯まれちゃいましたね。どうせなら最後まで生き残りたかったのですが・・・。」

久「お疲れ、美穂子。」

美「久！見てくれましたか？私、ちゃんと狐を見つけてきました！」

ま「じゃといいんじゃが・・・。」

美「え？」

華「どういうことだし？」

未「えつと・・・？」

久「・・・ねえゆみ。あなた、本当に狐なの？」

桃「む!?先輩に話しかけないでほしい・・・って、それどういう意味っすか？」

ワ「ワハ・・・？」

佳「ふえ・・・？」

ゆ「・・・ふむ。まあすぐ終わるわけだしな。残りも4人で、津山を吊る以外に道はないだろうし・・・。」

豊「え、えつとく・・・？」

白「……ダルい結果に……」

ゆ「……答えはノーだ。この勝負、我々の陣営の勝ちだな。」

優「じえ!？」

和「そんな……!？」

京「嘘っ!？」

久「……最後の最後までやられたわけか……!」

ま「……大半はお前さんの過失じゃな。」

咲「全くです。」

久「……ちえく……」

ゲームは終了いたしました。

## 長野の夜

「お月様が奇麗だよ。」

「マンマル！」

「本当だね……」

時刻は既に0時過ぎ。

食事を終え、シャワーを浴び終えた一行は、そのほとんどが就寝に入っていた。

「鶴賀の人たちは残念だったね……」

「ザンネン……」

「仕方ないよ。向こうも泊まりの予定はなかったみたいだし、それに明日は別の予定があるっていうんだから。」

遊戯が終わり、片付けも終わったところで、鶴賀の面々とは別れを告げることになった。

どうやら今日呼ばれたのも久の思いつきだったらしく、明日は明日で別のところ遊びに行くらしい。

すでに予定も立て終えているので、今回はこれで、ということとなった。

「でも、明日も違う学校の人たちが来るみたいだし。一体どこの人たちなんだろうね？」

「シッテルヒト・・・？」

「竹井さんは、おそらく知ってるんじゃないかって言ってたけど・・・？」

「何だか、ワクワクするよ〜♪」

「タノシミ♪」

はしゃぐ2人に苦笑しつつ、塞は何気なく室内に目を見やる。

そこにはとても年頃の乙女たちとは思えないような、凄惨な現実があった。

「（・・・枕投げするのはいいけど、そのまま雑魚寝しちゃうんだもんなく・・・）」

疲れ果て、座り込んだ場所でそのまま寝に入ってしまった一同。

昼間に見せる理知的な雰囲気をかなぐり捨て、大の字で眠る久。

そのそばで、まるで幼子のように丸くなって眠るまこ。

反対側には寄り添うように眠る美穂子の姿があり、その背中には猫のように引っ付い

て眠る華菜の姿があった。

「・・・今日は、凄く楽しかったよね〜・・・」

「・・・ウン・・・！」

少し離れたところには、ちゃんと布団に入って眠っている咲と、そのすぐ脇で眠る和

の姿。

和にしがみついて眠る優希のせいか、和は少しうなざれているようにも見える。

部屋の片隅には、ちやつかりと安全圏を確保した未春がスヤスヤと眠り、そしてすぐそこには……

「……さ、私たちもそろそろ寝よつか。明日も目一杯遊ぶんだからさ？」

「うん！」

「オウ〜♪」

早々に就寝に入った白望と、そのすぐ脇で眠る胡桃。

自分たちの親友の寝姿に微笑を浮かべつつ、3人もまた、己の布団の中へと入っていくのだった……。

「……明日が待ち遠しいな……」

「……そろそろ寝ないと、明日寝坊しますわよ？」



同じ時刻、月を眺める2人の少女の姿があった。

身長の差こそあるものの、その髪はともに月の光に照らされて、美しい黄金の輝きを放っている。

「ハギヨシが起こしてくれるから平気だ！」

「……少しは自分で起きれるように努力しないとイケませんわね……」

無邪気な幼子のようなその笑みに、もう1人はどこか呆れたような息を漏らす。

だがその中には、確かに親愛の情に満ち溢れた感が含まれていた。

「……さ、そろそろ寝ますわよ。ハギヨシには、明日は衣は起こさなくていいと告げておきますわ。」

「ふえっ!? ひ、酷いぞ透華〜!」

室内に戻る少女の後に、もう1人の少女も慌ててついてゆく。

辺りに、再び静寂が戻る。

しかしこれも、全ては遊戯前の休息に過ぎず。

遊戯の幕が下りることは、まだない——。

○その頃（某家）

「・・・おっ！これでテンパツたぜ！よっしゃリーチ・・・」

『ロン』

「・・・って嘘お!?倍満って・・・!?!」

少女中心の宿泊故に、帰宅を余儀なくされた少年が、人知れずトンでいたという・・・。

続く・・・

宮守・龍門渕+α ①

衣「咲く、ののかく！」

咲「衣ちゃん……今日はよろしくね？」

衣「うむ♪」

塞「うわ……知ってる高校って龍門渕だったんだ……！」

豊「うわ……！あ、天江衣さんだよ!!」

衣「ん？……おお！いつぞやの大きい人！」

豊「サ、サイン下さい！」

衣「サイン？……衣のサインがほしいのか！よろし……！」

透「今日はよろしくお願いしますわ。」

和「こちらこそ、よろしくお願いします。」

ま「お前さんらにまで声をかけとったとは……ご足労すまんのお。」

一「アハハ。まあ僕たちも楽しみだつたからいいんだよ。特に衣は大はしやぎだったしね？」

透「そうですわね。」

久「ごめんね？わざわざ来てもらつて。」

胡「今日はよろしくね！」

A「ヨロシク！」

白「・・・よろしく・・・」

一「僕たちこそ、よろしく頼むね。」

A「ウン♪」

美「こんにちは、皆さん。」

純「おつ。風越のも来てたのか？」

未「うん。つていつても、文堂さんと深堀さんは用事で来れなかつたから、来れたのは私たちなんだけどね。」

智「よろしく・・・」

未「こちらこそ！」

美「よろしくお願ひします。今日は負けませんので。」

純「へっ。こっちだつてそのつもりだつて……！」

ハ「こんにちは、須賀くん。」

京「あ、ハギヨシさんも来てたんすね!？」

ハ「ええ。執事ですから。」

京「なるほど、そうつすね！」

ハ「はい。」

華「……執事つてそういうもんなのか？」

優「私に聞かれても分からないじえ……」

久「じゃあさつそく始めましょうか!……つていつても、いきなり多人数はあれだし、少し減らしましょうか。」

咲「なら、最初は私たちが見学でいいんじゃないですか?一番やつてる回数も多いですし。」

和「咲さんの言うとおりにか。」

久「そうね……じゃあ最初は、私たち5人は抜けて見学ね!」

ま「了解じゃ。」

優「ま、仕方ないじえ！」

ト：さて、準備も出来たことだし始めるとしようか。

今回の内容は15人でのスタートだね。

塞「私たち宮守と・・・」

透「私たち龍門測。」

美「それに私たち3人と・・・」

京「俺とハギヨシさんっすね！」

ハ「僭越ながら、お相手をさせていただきます。」

ト：始めはオーソドックスなルールだね。

人狼（3）、狂人（1）、狐（1）、共有（2）、占い（1）、霊能（1）、コス（1）、  
村人（6）で、初日役欠け有りの、占い有りだよ。

胡「狩人の代わりにコスが入ってるね・・・」

一「面倒だね・・・人狼が少し有利かもしれないよ、これ。」

美「吊りが7回で、人外は5人・・・」

智「・・・コスが存在が、ネックになりそう・・・」

ト：初日だけは5分でいくよ？

次からは4分が2日、3分が2日、と減っていくから注意しな。

豊「スムーズにいくと、2分以上で決着がつくよ。」

透「GJや、狐噛みが起こらない限りですわ。」

純「それ考えると、1分までいっちまいそうだな・・・」

白「・・・面倒・・・」

ト：自分の役職はもう分かっているね？

それぞれ勝利を目指して、頑張っておくれ。

それじゃあ早速、スタートさね。

## ○2日目(昼) 犠牲 トシ

処刑 なし

生存 白望・エイスリン・胡桃・塞・豊音・純・智紀・一

透華・衣・美穂子・未春・華菜・京太郎・ハギヨシ

熊倉トシさんの無残な死体が発見されました。

透「それでは皆様、よろしくお願いいたしますわ！」

一「よろしくね。」

豊「よろしくだよ。」

衣「頑張るぞ〜！」

京「それじゃあまさは占いつすか？それとも共有つすかね？」

智「・・・共有のほうがいいと思う・・・」

純「だな。進行役がいたほうがまとまるってもんだ。」

塞「誰？共有の人。」

透「ずばり！私ですわ!!」



衣「おお！透華が共有か〜！」

ハ「透華お嬢様に、相応しき役職かと。」

豊「本当だよ。よろしくお願いね〜？」

透「ふふふ．．．全ては、私にお任せですわ！人外は見事、私が見つけてさしあげます!!」

胡「確かに、何ていうか似合う役職だね．．．」

純「まかせつきりつてなると、ちよいと不安だけだな。」

一「純くん、シツ。」

透「ちなみに、私の相方は伏せさせていただきますわ。決して欠けではないのでご安心を。．．．それでは、さつそく占いの結果をお聞きしますわ！我こそはという方は、挙手をなさって下さいな！」

塞「あ、新しいやり方。はい。」

胡「占いの結果は後でいいのかな？はい。」

美「ちよつと目新しい感じがしていいですね。はい。」

ハ「頑張って下さい、お嬢様。ちなみに私も挙手です。」

一「．．．うわ。いきなり4人も出た．．．」

A 「ウラナイイツパイ・・・」

衣 「この中に、本物は1人だけなのか・・・？」

京 「そのはずっすね。もし欠けだけだったりしたら、全員人外つてことになるっすけど。」

華 「こんだけいるんだから、占い欠けはないんじゃないのか？」

智 「・・・油断は、出来ない・・・」

未 「そうだね。もしかしたら、本当に欠けてる可能性もあるわけだし・・・！」

塞 「真は私だから、欠けてはいないよ。それで、占いの結果を言っつていいの？」

胡 「真は私！それで、やっぱり一斉に言っつたほうがいいかな？」

ハ 「無論、私ですね。お嬢様、いかがいたしますか？」

美 「言うまでもないと思うけど、私ですよ？騙りに合わされないように、一斉に言っ

たほうがいいかと思いますが・・・？」

透 「ふむ・・・では、一斉にお願いしますわ！いいですよ・・・せうの！」

ハ 「透華お嬢様、○です。」

胡 「天江衣さん、○だったよ！」

塞 「シロ、○だね。」

美 「華菜、○だったわ。」

一「・・・見事な○スタートだね。」

A「マタグレラン・・・？」

京「そうなりそうつすね。こりや・・・。」

透「ふむ。・・・1人ずつ、占った理由をお聞かせいただいてもよろしいかしら？」

ハ「畏まりました。では、僭越ながら私から・・・。私が占つたのは透華お嬢様です。執事たる者、主の詳細は常に見極めるべきだと一考いたしました。・・・透華お嬢様が共有だと分かっていたら、次点の衣様の結果でも良かったのですが・・・。」

衣「うむ。共有である透華を占つたというのは怪しいが、しかしそれがハギヨシであるというのなら・・・。」

京「確かに、普通にありそうつすよね・・・。」

胡「次は私だね。私は天江さんを占つたよ。まだ誰が怪しいかなんて分からなかったし、それなら麻雀のほうで怖そうな人を調べてみたの。」

一「そつか。確かに誰を調べていいのか分からない状態だと、衣は少し不気味かもしれないね・・・。」

純「本性はお子様だけどな。」

衣「お子様じゃない！」

塞「次は私か。私はシロを占ったよ。誰が怪しいか分からないなら、逆に敵を回したくない人をつてね。シロが人外だと、結構面倒くさそうだし。」

白「・・・そう・・・?」

A「ジツセキアリ!」

豊「全部滅茶苦茶だよ〜!」

白「・・・いや、だからあれは・・・ダル・・・」

美「最後は私ですね。私もみんなと同じで、新しい人を占わせていただきました。人狼や狐だったら仕方なかったけど、そうでないなら華菜を疑いたくはなかったの  
で・・・。」

華「キャプテン・・・!」

純「・・・一応言つとくけど、まだ真確定じゃね〜からな?」

華「わ、分かってるし!」

未「でも、キャプテンも候補の1人なんだよね・・・?」

智「・・・内約予想は・・・?」

京「あ、そつか。無難に真・狂・狼・狼とかじやないっすか?」

一「もしくは真・狂・狼・狐だね。真欠けじやなければだけど。」

ハ「ふむ。・・・なるほど。占いの中に狐がいる可能性もあるのですね。それでした

ら、許されるのであれば対抗を占ってみたいのですが・・・？」

塞「私もそうしたいな。3人も騙りがあるんだから、この中に狐がいてもおかしくなさそうだし・・・」

胡「そうだね。まあそんなこと言って、案外塞が狐なんじゃないの？」

美「先ほどもそうでしたし、可能性はありますね。今度は伏せずに出てきた、ということでしょうか？」

塞「いや、私は真だつての・・・」

純「どうするんだ、透華？対抗占いを許可すんのか？」

未「でも、狐が占いの中にいなければ無駄打ちになりかねないよね・・・？」

華「確かにそうだし。ここは、まだ占うとこじやないと思うし。」

衣「うむ。まずは他の者の真偽を明かさすべきだ。」

透「・・・池田さんと衣の言うとおりですわね。まだ対抗は占わず、それぞれの目線で怪しいものを占ってみてくださいいな。」

ハ「畏まりました。」

塞「りよゝかい。任せといて！」

胡「任せられるのは私！」

美「皆さんはゆっくりしててください。私がちゃんと占いますので。」

ト：残り1分だよ。

そろそろ結果をまとめたほうがいいんじゃないのかね？

透「・・・仕方ありませんわね。今日はグレランですわ。」

一「残念だったね？ズバツといけなくて？」

透「全くですわ。皆様、明日はよろしくお願いいたしますわよ？」

塞「うん。」

胡「任せといてよ！」

ハ「お任せください、お嬢様。」

美「人外を見つけてみせますね？」

京「霊能のCOはしてないっすけど、明日でいいんすか？」

透「構いませんわ。最も、吊られたりすると困るのですけど。」

白「・・・上手く抜けてほしい・・・」

ト：それじゃあ時間だね。

みんな、怪しいと思う人物に投票しておくれ。

## ○投票結果

白望(0) ↓智紀      エイスリン(3) ↓京太郎      胡桃(0) ↓智紀      塞(0)

↓京太郎

豊音(3) ↓未春      純(2) ↓豊音      智紀(3) ↓純      一(1)

↓豊音

透華(0) ↓豊音      衣(0) ↓エイスリン      美穂子(0) ↓一      未春(1)

↓エイスリン

華菜(0) ↓エイスリン      京太郎(2) ↓純      ハギヨシ(0) ↓智紀

ト：再投票だね。

もう一回頼むよ。

白望(0) ↓智紀      エイスリン(4) ↓智紀      胡桃(0) ↓智紀

塞(0) ↓京太郎

豊音(3) ↓智紀      純(1) ↓豊音      智紀(5) ↓エイスリン

一(1) ↓豊音

透華(0) ↓豊音      衣(0) ↓エイスリン      美穂子(0) ↓一      未春

(0) ↓エイスリン

華菜(0) ↓エイスリン 京太郎(1) ↓純

ハギヨシ(0) ↓智紀

投票の結果、沢村智紀さんが処刑されました。

智「……し、しまった……」

○3日目(昼) 犠牲 トシ・未春

処刑 智紀

生存 白望・エイスリン・胡桃・塞・豊音・純・一・透華

衣・美穂子・華菜・京太郎・ハギヨシ

吉留未春さんの無残な死体が発見されました。

ト：おや、昨日の犠牲者は吉留さんみたいだね。

今回の人狼たちは、一体何を企んでるんだろうね？

今日の会話時間は4分間だよ。



昨日より短いから、スピーデイにやつとくれ。

それじゃあ3日目、スタートだよ。

透「・・・皆様に悲報ですわ。私の相方が嘯まれましたわ。」

一「・・・わお・・・」

衣「も、もう嘯まれたのか?!」

美「吉留さんが共有だったのね・・・」

純「なんか、3日目にして既に暗雲が漂ってきてね・・・?」

京「確かに、ちよつとやばそうっすね・・・」

透「そ、そんなことありませんわ!私がいる限り、人狼たちの好き勝手にはさせませんことよ!」

豊「でも、いきなり共有がやられちゃったよ・・・」

A「トラッププハツ・・・」

透「いい、いいのですわ!トラップなど無くても、見事勝利に導いてみせますわ!それでは占いの方、よろしくて!」

塞「いいよ。」

胡「うん！」

ハ「準備は出来ております。」

美「はい。」

透「それではお願いいたしますわ！せくの……！」

塞「エイちゃん、○だね。」

胡「豊音、○だよ！」

ハ「吉留さん、○です。」

美「須賀くん、●ですね。」

京「うえ!?!福路さんが人外……!?!」

美「私は真、人狼はあなたですね。理由を説明すると、昨日沢村さんが内約は？って言ったときに、須賀くんは躊躇なく真・狂・狼・狼だと言っていました。考えれば確かに分かることですが、あれほど即座に答えることが出来たのは、彼が狐だからなのでは？と考えたんです。結果は狐ではなく人狼でしたが、結果オーライということ。」

京「違うっす！俺は人外じゃないっすよ!?!」

塞「対抗の●は信じたくないけど、逆囲いっていう可能性も……。あ、私が占った

のはエイちゃんね。昨日の再投票でギリギリで難を逃れてたし、もしかしたらうって思っただけど、外しちゃったわ。」

A 「ワタシ、ムラビト！」

胡 「私は豊音だよ。理由は塞と同じで、豊音も難を逃れた一人だったからだよ。エイちゃんどどつちを占うか迷ったけど、とりあえず今回は豊音を選んだよ。でもこうなると、ちよつとエイちゃんが怪しく見えてくるね……。」

豊 「私も村人だよ。」

A 「ダカラ、ワタシムラビト！」

ハ 「私が占つたのは吉留様です。口数が少なく、昨日対抗占いを真つ先に止めさせようとしていたことから、身内を庇う人狼ではないかと一考いたしました。透華お嬢様の言を聞くまでは、もしや狐を呪殺出来たのではと考えておりましたが……どうやら、私の浅慮だったようで。情けない限りでございます。」

透 「ふむ。ハギヨシは吉留さんを占つたですね……?」

華 「……ちよつと怪しい。無難に過ごそうとしてる狂人臭がするし！」

一 「確かに、この3人だと一番萩原さんが怪しい気がするけど……」

純 「けど、ハギヨシさんが言ってることもおかしくはねくぜ?もしかしたら、本当に噛み先と被つちまっただけじゃねくのか?」

衣「うむ。ハギヨシが言うことも、また一つの道理・・・！」

豊「でもでも、こうなると・・・」

京「・・・まさか俺っすか!?!いや、役に立てるなら吊られますけど・・・！」

透「・・・この調子でいくとそうなりますわね。そういえば、霊能の結果を聞いていませんでしたわね。昨日の智紀の色、教えて下さらない？」

塞「誰？霊能の人は？」

透「・・・あら？」

ハ「・・・これは、もしやすると・・・」

胡「嘘・・・!?!」

透「も、もう一回お聞きしますわ！ここで出ないなら、後で出てきても人外認定いたしますわ！素直に出てらっしゃい!!」

透「」

一「・・・霊能欠けか・・・」

白「・・・沢村さん、だね・・・」

A「ヤッチマツタゼ・・・」

純「・・・大丈夫かこの村？暗雲に囲まれまくってね〜？」

豊「ど、どうするの〜!？」

京「・・・つて、これじゃ俺吊られたくないっすよ!?!どう考えても吊られ損じゃないっすか!?!」

衣「むう・・・確かに、判別できるものがないのでは・・・」

華「ど、どうするし!?!占いの真偽がつけられないし!」

京「とりあえず、福路さんは人外っす!俺が●なわけないっすよ!?!」

華「そんなこと言つて、キャプテンが真なら間違いないからお前が人狼だし!」

京「絶対違うっす〜!」

一「・・・どうするの透華?これ、かなりやばくない・・・?」

純「情報が無すぎだぞ・・・これで何を予想しろつてんだ・・・?」

白「・・・こうなったら、先に狐を探したほうがいいかも・・・」

透「!そ、それですわ!私もそれを言おうとしていたんですよ!!」

白「」

ハ「さすがはお嬢様です。」

一「……えつと……ごめんね？」

白「……まあ、いいんだけど……」

透「対抗占いを許可いたしますわ！今日は対抗を占い、見つからなければ明日も……！」

美「えくと……1ついいかしら？」

透「ん？何ですか？」

胡「対抗占いを許可してくれるのはありがたいけど……」

塞「……それって、人狼に噛まれるだけじゃない？私。」

ハ「おそらく、私は明日にはいないかと。御武運をお祈りしております。」

透「」

純「……まあ、そりやそうだよな。」

ト：残り時間1分だね。

そろそろ結果をまとめてくれるかい？

華「や、やばいし……!？」

京「ど、どうするんすか!?このままだと・・・!」

豊「決まらないで終わっちゃうよ!?」

衣「透華く!?」

透「・・・きよ、今日は・・・!」

一「・・・今日は?」

純「・・・嫌な予感がすんだけど・・・」

透「各々が怪しいと思う人物に投票ですわ!」

美「・・・分かりました。つまり須賀くんですね?」

京「つてちよつと〜!?」

胡「いや、対抗の●は・・・!?」

A「デモ、ギャクカコイノカノウセイ、アル!」

豊「そっか〜♪」

京「いや無いから!本当に無いですから!?」

華「諦めるし!」

一「アハハ・・・ごめんね?」

純「怪しい奴なんて、分かるわけねくだろっての・・・」

ハ「お疲れ様でした、須賀くん。」

透「ちなみに、対抗占いは却下ですわ！占いが囁まれたら、みんな吊ってしまいますわよ！！」

ト：時間だよ。

それじゃあ、投票を始めるとしようかね？

○投票結果

白望(0) ↓美穂子    エイスリン(0) ↓京太郎    胡桃(0) ↓美穂子

塞(0) ↓京太郎

豊音(0) ↓京太郎    純(0) ↓京太郎    一(0) ↓京太郎    透

華(0) ↓京太郎

衣(0) ↓京太郎    美穂子(3) ↓京太郎    華菜(0) ↓京太郎    京太郎

(10) ↓美穂子

ハギヨシ(0) ↓京太郎

投票の結果、須賀京太郎さんは処刑されました。



京「お、俺は人狼じゃないっすよ〜!?」

4 日目 続く . . .

宮守・龍門澗十 $\alpha$  ②

○4日目（昼） 犠牲 トシ・未春・白望

処刑 智紀・京太郎

生存 エイスリン・胡桃・塞・豊音・純・一・透華・衣

美穂子・華菜・ハギヨシ

小瀬川白望さんの無残な死体が発見されました。

ト：昨日の犠牲はシロだったみたいだね。

今頃向こうでゆつくりとしてるかもしれないね。

今日の会話時間も4分だよ。

昨日みたいなことにならないよう、キツチリ話し合ったほうがいいよ？

それじゃ4日目、スタートさ。

透「おはようございますわ！占い師の方も無事みたいですし、時間短縮のためにもさっそく占いの結果をお願いいたしますわ！」

純「賛成だな。昨日みたいのはもう勘弁だつての・・・。」

衣「至極道理！」

豊「シロがやられちゃつたのは残念だけど、その通りだよ。」

A「イソイデヤル！」

透「それではお願いいたしますわ！せくの・・・！」

胡「福路さん、○だよ！」

美「小瀬川さん、○です。」

塞「豊音、○だよ！」

ハ「ウイツシユアート様、●です。」

A「・・・ナンデストく!?!」

美「あら・・・わざわざ私を真認定してくれるんですか？」

胡「するわけないでしょ！私が占つたのは福路さんだよ！駄目って言つてたけど、どうしても気になってね。これで●だったら須賀くんは逆囲いかもしれなかったけど、○

で呪殺してないってことは、福路さんは狂人確定だね！」

美「そういう鹿倉さんこそ狂人なのでは？・・・それはともかく、私が小瀬川さんを占つたのは昨日の投票内容ですね。みんなが須賀くんに投票する中で、鹿倉さんと彼女だけが私に投票していました。身内を庇う人狼か、もしくは真を消したい狐なのではないでしょうか？」

ハ「あいにくですが、小瀬川様は人狼に襲撃されただけの被害者でしょう。私が占つたのはウィッシュユアート様です。昨日やけに己が村人であると連呼しておられましたので、もしや嘘が苦手なのでは？と一考いたしました。どうやら、正にその通りであったようですね？」

塞「エイちゃんは○だよ、間違いないからね。私が占つたのは豊音だよ。昨日胡桃に占われてみたいけど、対抗の○は信用できないしね。正直どこ疑えばいいか分からないし、ならせめて身内だけでも調べておこうと思つて占つたわ。これで胡桃以外、私たちは全員○確定だよ！」

A「ワタシチガウ！アイツニセモノ！」

ハ「私は真ですよ？」

衣「むむ！ハギヨシがついに人外を発見したか!？」

豊「で、でもでも！エイスリンさん本当に村人かもしれないよ！？」

塞「だからエイちゃんは間違いないく村人よ！昨日私占ったんだから!？」

ハ「……ふむ。つまり、身内を囲っていた、ということでしょうか？」

塞「ち、違うわよ〜！」

純「……どうするよ？素直にハギヨシさん信じてても大丈夫かね……？」

一「普段だったら、絶対に嘘なんかつかないって信じられるんだけど……」

衣「……もしかすると、ここぞとばかりに楽しんでるかもしれないぞ？」

ハ「……残念です。どうやら信じてはもらえないようで……」

透「……わ、私は信じ……たいのですが……！」

塞「違うつての！エイちゃんは間違いないく村人！」

胡「ううくん……でも、確かに昨日塞に占われてたんだよね。それを考えると……

!？」

美「……対抗の●ですが、可能性はありますね。何より私からしてみれば、白沢さんも人狼候補の1人ですし……」

胡「でも、真は私だからね!？」

美「私です。」

華「困ったし……こうなると、どの占い師を信じればいいのか分からないし……!？」

衣「衣は……えつと、ハギヨシが真なんじゃないかと愚考するが……？」

胡「それ、絶対身内びいき！」

美「天江さん？間違えた思考は、敗北へと進むだけですよ？」

塞「いや、真は私だからね!?何でそこで争ってんの!？」

豊「あううゝゝゝ誰が怪しいのか分からないよゝゝゝ!？」

純「ゝゝゝ霊能がないせいで、あと何匹残ってるのかすら分からねゝからなゝゝゝ!！」

一「つていうか、本当に狐がやばいよ？ちゃんとその辺りは考えてもらわないと、狐勝ちになつちやうからね？」

純「ゝゝゝそれは誰に言つてんだ？」

一「純くん。」

純「何で!？」

一「だつてリアル狼っぽいし。」

純「」

塞「とにかく、エイちゃんは間違いない村人なの!ここは占いの真偽を決め打つべきだと思ふ！」

美「それには賛成ですがゝゝゝやけにエイスリンさんの肩をもつんですね？」

胡「何ていうかゝゝゝさすがに怪しすぎる気がゝゝゝ!！」

ハ「ばれた人狼の末路とは、哀れなものですねゝゝゝ」

A 「ワタシチガウ！ムラビト!!」

ト：さて、残り1分さ。

今日はちゃんとまとまるかね？

純「・・・やっぱ。」

衣「むう・・・どうするのだ？透華？」

塞「占いの決め打ちをしましょう!？」

A 「ソレガイイ！」

豊「でもでも、もしエイスリンさんが本当に人狼だったら・・・!？」

A 「トヨネ!？」

ハ「・・・それでも構いませんが、ウィツシユアート様だけは吊っておくことをお勧めします。見つけた人狼を、わざわざ放置しておく必要はないかと愚見いたしますが・・・?」

塞「絶対駄目だったら！」

胡「むう・・・塞はどうにも人狼っぽいね。こうなると、狐はハギヨシさん？それともまだ隠れてる・・・?」

美「鹿倉さんではないんですか？私、そろそろあなたの色を見てみたいんですけど……？」

胡「見てもいいけど、○以外は聞かないよ？もちろん真の○だからね！」

華「どうするし!?早く決めるし〜!!」

透「し、仕方ありませんわね。こうなったら……!」

一「こうなったら？」

透「怪しい人に投票ですわ!!」

A「」

塞「」

ハ「畏まりました。」

純「……なるほど。透華が共有引いた時点で、負けが確定してたわけか……」  
一「ア、アハハ……」

ト：時間さ。

上手くまとまったようには見えないけど、投票時間は絶対さ。



さ、始めておくれ。

○投票結果

エイスリン (6) ↓ハギヨシ      胡桃 (0) ↓エイスリン      塞 (2) ↓ハギヨシ      豊

音 (0) ↓塞

純 (0) ↓エイスリン      一 (0) ↓美穂子      透華 (0) ↓エイスリン      衣

(0) ↓エイスリン

美穂子 (1) ↓エイスリン      華菜 (0) ↓塞      ハギヨシ (2) ↓エイスリン

投票の結果により、エイスリン・ウィツシユアートさんが処刑されました。

A 「ムウ・・・ワタシジンロウジヤナイ！」

○5日目 (昼) 犠牲 トシ・未春・白望

処刑 智紀・京太郎・エイスリン

生存 胡桃・塞・豊音・純・一・透華・衣・美穂子

## 華菜・ハギヨシ

平和な朝を迎えました。

ト：おや、どうやら昨日は犠牲者が出なかったようだね？

やつぱり平和が一番だよ。

今日からは会話時間は3分さ。

明日も3分だから、じゅうぶんに気をつけるんだよ？

それじゃあ5日目、スタートさ。

透「おはようございますわ！これは、まだコスが残っているということですよ！！」

純「いや、分かんねくぞ？もしかしたら、狐を噛んだだけじゃねくのか？」

一「そうだね。油断は禁物だよ？」

衣「とにかく、今日も占いの結果だ！みんなよろしく頼むぞ！せくの！」

ハ「衣様、○でございます。」

胡「井上さん、●だったよ！」

美「井上さん、○でした。」

塞「ハギヨシさん、○よ！」

透「」

衣「・・・む？ハギヨシも衣を占ってくれたのか？」

ハ「左様にごさいます。万が一にも、人狼に囲われているのではないかと疑念を抱いてしまいました。主を疑ってしまったこと、申し訳ありません。」

衣「うむ、構わぬ！どうやらハギヨシが真であつたようだな！」

胡「つて違うそこ!?真は私!・・・私が占つたのは井上さんだよ。昨日リアルで狼とか言われてたから、気になって占つてみたよ!そしたら見事ビンゴ、人狼発見だよ!」

美「いいえ。残念ですが井上さんは○です。周りが浮き足立っている中で、1人落ち着いているのが気になりました。もしやこの状態を見て喜んでいるのではと思ひ占いました。・・・結果は○。呪殺されていないところを見ると、ただの村人だつたようですね。」

純「へえ・・・？」

塞「違うからね!真は私なの!昨日は結局エイちゃんをやられちゃつたからね。そろそろ狐をつて思つただけ・・・ごめん。ハギヨシさんは狂人だわ。」

ハ「ふむ。対抗の占いを、決め付けるのが簡単な狂人とは．．．どうやら人外の1人は、そろそろ限界を感じているようですね？」

塞「つて違うから！間違いないくハギヨシさんは狂人なの！」

衣「むむ．．．これはどう判断したものか．．．!?」

豊「えつとく、井上さんがパンダになつちやつたから、吊つてみるのがいいかなと  
か．．．？」

華「つて言つても、霊能がいらないんじや確かめようがないし．．．!」

純「確かめる必要はねくよ。少なくとも人外1人はこれではつきりしたんだからな。」

胡「言つとくけど、私は真だからね！ここは井上さんを吊るべきだよ！」

美「残念ですが、井上さんは村人です。ここは鹿倉さんを吊ることを提案します．．

！」

純「いやいや、そうじゃねくよ。人外は風越のキャプテンのほうだ。」

華「え、何でだし!？」

衣「へ？」

一「．．．!?」

純「COコスだ。俺が●なのは当たり前前さ。」

ハ「何と．．．井上さんがコスでしたか．．．」

塞「うわ、そこにいたんだ・・・」

美「・・・なるほど。まさか狂人がまだ伏せているとは思いませんでした。つまり、狐は占い師の中にいるということですね・・・!」

一「違うよ!みんな騙されないで!!」

純「ん?」

衣「??」

一「COコスだよ!占いの真偽は正直微妙だけど、純くんは騙りだよ!」

豊「え、ええく!」

華「また出てきたし!」

純「・・・まさか国広くんが釣れるとは思わなかったな。まあせっかく騙りが釣れたことだし、今日は国広くんを吊ろうぜ?」

一「純くんには騙されないで!おそらく福路さんが騙りで、比較的真目なのは鹿倉さんだよ!純くんは人狼だよ!」

ト:さて、残り1分だよ。

今日は誰を吊るんだい?

純「迷う必要はねくだろ。今日は国広くんだな。」

一「駄目だよ！みんな、純くんを吊って！」

衣「えつと・・・どうするんだ、透華く？」

透「・・・はっ!?今どうなってますの!?!」

純「つておいしい!?!」

一「透華く!?!」

豊「この2人のどっちかに投票する流れになってるよう・・・?」

透「な、なるほど！それでしたら・・・」

透「純か一、怪しいほうに投票ですわ!!」

純「・・・いやまあ、正にその通りなんだけどよ・・・」

一「・・・透華の馬鹿あ・・・!」

ト：時間だよ。

それじゃあ投票しておくれ。

○投票結果

胡桃(0)	↓一	塞(0)	↓純	豊音(0)	↓純	純(7)	↓一
一(3)	↓純	透華(0)	↓純	衣(0)	↓純	美穂子(0)	↓純
華菜(0)	↓純	ハギヨシ(0)	↓一				

投票の結果、井上純さんは処刑されました。

純「ちえく、信じてもらえなかったぜ・・・」

○6日目(昼) 犠牲 トシ・未春・白望・一

処刑 智紀・京太郎・エイスリン・純

生存 胡桃・塞・豊音・透華・衣・美穂子・華菜・ハギヨシ

国広一さんの無残な死体が発見されました。

ト：昨日は国広さんが犠牲になったみたいだね。

はてさて、彼女が本当にコスだったのかどうか・・・

今日の会話時間は3分さ。

明日は2分だから、大事なことは今日の内に話しておいたほうがいいよ？

それじゃあ6日目、スタートだよ。

透「みなさん、おはようございますわ・・・」

衣「透華く、元氣出せく？」

豊「今日から頑張ればいいよく！」

華「その通りだし！」

透「みなさん・・・！私、今度こそ人狼を見つけてみせますわく！」

衣「おうく♪」

豊「頑張つてねく♪」

透「それでは、占いの結果をお願いしますわ！せくの・・・！」

塞「胡桃、●だよ！」



胡「塞、●だよ！」

美「ハギヨシさん、●でした。」

ハ「白沢様、●でございます。」

透「・・・なるほど、そろって対抗を占ったわけですね・・・！」

塞「いい加減占いを決め打たないとやばいと思ったからね。私視線では、●は胡桃だ  
け。狂人はハギヨシさんだよ。井上さんと須賀くんが微妙だけど、福路さんは人外。グ  
レーは天江さんと池田さんだから、このどつちかは人外なんじゃないかな？」

衣「むっ・・・衣は村人だく！」

華「華菜ちゃんだってそうだし！」

胡「私の結果は塞が●だよ！これで●は井上さんと塞だけど、国広さんが噛まれたつ  
てことは井上さんは人狼なんじゃないかって思うの。福路さんは狂人だから、人狼がま  
だ吊られてなければ、ハギヨシさんと池田さんは人狼か狐なんじゃないかって思うんだ  
けど・・・」

華「だから華菜ちゃん違うし！」

胡「まだ吊られてなかったらって話！須賀くんかエイちゃん、沢村さんに人外が入れ  
ば村人だから安心する！」

華「お、おう・・・！」

美「聞くに堪えませんが・・・私の結果はハギヨシさん●です。私の内約を説明しますね？狂人は井上さん。●は須賀さんとハギヨシさん。怪しいのはエイスリンさんと小瀬川さんですが、鹿倉さんは間違いなく人狼か狐です。ここは安全に、狐の可能性を考慮して鹿倉さんに投票しませんか？」

ハ「確かに狐の可能性はありそうですが・・・私の結果は白沢様●ですね。●はウイツシユアート様と白沢様。まだ福路様と鹿倉様が対抗で残っていることを考えますと、このどちらかが狐ではないかと。あとは井上さんが人狼か狂人なのかさえはつきりすれば、答えが出るのですが・・・」

豊「えっと、つまり・・・？」

衣「・・・どういふことなのだ？」

華「さ、さっぱりだし・・・！」

透「」

胡「・・・何でこの面子が残っちゃったのかなあ・・・！」

美「華菜・・・ちゃんと勉強はしましょうね・・・？」

塞「お願いだから迷わないでよ・・・！」

ハ「ふむ。・・・これは困りましたね・・・」

透「……ど、どちらにせよ！占いの真偽を決めないことには始まりませんわ！ここは決め打ちますわよ！」

衣「おお！真を決めるのだな!？」

華「それなら華菜ちゃんに任せるし！」

豊「えつとく、頑張つて当てるんだよ！」

胡「つまり、対抗に投票すればいいんだね!？」

美「なるほど……それはいい考えかと。」

塞「つていうか、吊り回数的にも余裕ないしね！」

ハ「対抗に投票……畏まりました。」

ト：残り時間1分だよ。

さあ、今日の結果をまとめておくれ？

衣「衣は誰に投票しようかな〜♪」

豊「迷つちやうんだよ〜♪」

華「むう……キャプテンがきつと真だし！」

胡「占いに投票か……」

美「つまり、ここで投票するべきは……」

塞「おそらく、狐だと思っただけ……」

ハ「……私が投票するのは、彼女のみですね……」

透「さあ！投票ですわ!!」

ト：時間さ。

投票を始めておくれ。

○投票結果

胡桃（2）↓塞      塞（4）↓美穂子      豊音（0）↓ハギヨシ      透華（0）↓胡桃

衣（0）↓塞      美穂子（1）↓塞      華菜（0）↓胡桃      ハギヨシ（1）↓塞

投票の結果、白沢塞さんが処刑されました。

塞「嘘っ!?!って、この投票の固まりってまさか……!?!」

○7日目(昼) 犠牲 トシ・未春・白望・一・華菜

処刑 智紀・京太郎・エイスリン・純・塞

生存 胡桃・豊音・透華・衣・美穂子・ハギヨシ

池田華菜さんの無残な死体が発見されました。

透 「昨日の犠牲は池田さんでしたのね・・・」

豊 「仇は取るよ〜!」

この瞬間、村人と人狼の数が同じになりました。

おめでとうございます!

今回は人狼陣営の勝利です!!

透&豊「……へ？」

胡「やった〜！私たちの勝利〜!!」

衣「ワ〜イ♪勝った〜♪」

美「良かったですね♪」

ハ「おめでとうございます、衣様。」

鹿倉胡桃・天江衣・福路美穂子（人狼） ハギヨシ（狂人）

透「」

未「えつと……固まっちゃってる……」

塞「うわあ……やっぱ最後の投票、人外がまとまってたんだく……!？」

智「……その……ごめんなさい……」

一「ともきくはもうちよつと喋れないと駄目だよ？今回みたいになつちやうからさ？」

龍門洩透華・吉留未春（共有） 白沢塞（占い） 沢村智紀（霊能） 国広一（コス）

白「・・・完全にやられたね・・・」

A「クヤシイ・・・!」

豊「本当だよ・・・」

華「キャプテンが人狼だったし・・・」

京「えつと・・・ドンマイつす。」

小瀬川白望・エイスリン・ウィツシユアート・姉帯豊音・池田華菜・須賀京太郎（村人）

初日犠牲者（村人）

純「やっぱあの2人とも人狼か。タイミングがおかしすぎると思ったんだよな  
く・・・」

井上純（狐）

久「お疲れ様。人狼のパーフェクトゲームになっちゃったわね♪」

美「霊能が初日に吊られたというのが勝因ですね。おかげで躊躇いなく●が出せましたし♪」

華「うう・・・キャプテンが嘘ついたし・・・」

美「えくと、その・・・ゲームだから、ね・・・？」

優「哀れなもんだじえ！」

華「うっさい!？」

久「でも、さすがに占いが4人もいて、ずっと放っておいたらダメよ？」

透「ミスりましたわ・・・まさか、この私が・・・!？」

和「あの状況では、最低でも4日目には決め打ちを始めないと人狼ペースです。決断力に乏しい証明になりましたね。」

透「ぐはあっ!？」

一「透華く!？」

透「チ〜ン♪」

優「と、止めを刺しよったじえ・・・!？」

華「血も涙もない奴だし・・・!？」

衣「ハギヨシ、よく気づいたな!衣たちが人狼であることが!？」

ハ「お恥ずかしながら、そうなのではないか、といった程度でございまして。」

未「でも、どうして気づいたんですか?最後の投票、完全に息が合っていましたよね?」



ハ「占いの真偽は、比較的すぐに。私を狂人認定するのが白沢様だけでしたので。」

塞「あ、そっか。それで気づかれちゃったんだ・・・」

豊「えっと、どういうこと？」

ハ「鹿倉様は福路様を、福路様は井上さんを狂人認定していました。真占いなら狐は呪殺しますので、狂人認定できるのはそれぞれ1人だけなのでございます。」

塞「そうなんだよね。もし対抗に○2つ出したら、その時点で騙りだつてばれちゃうから・・・」

未「なるほど・・・！」

ハ「私が衣様に○を出したのは、単なる偶然ですね。ですがその直後に白沢様が真だと気づきましたので、まず間違いはないのではないかと予想いたしました。」

塞「胡桃が初っ端に占つてたからか・・・」

ハ「左様にございます。唯一の懸念は狐でしたが、鹿倉様と福路様が井上さんに仕掛けておりましたので、おそらくは井上さんがそうではないかと。当日には平和も出ておりましたので。」

純「・・・だよな。俺もやられたって思ったぜ・・・」

衣「あ、純♪」

純「うおっと・・・それはそうと、俺がCOコスするところまで見越してたのか？あれ。」

衣「いや、あれはしてくれたら助かるくとは話していたぞ！狐が見つかったらパンダにすれば、助かるためにコスになるうとするんじゃないかって！」

ハ「霊能のいないあの状態でしたら、相手の色で騙りがばれることもありませんでしたし。」

純「うげ、まじか・・・」

未「完全にしてやられてたんだね・・・もしかして、私を囓んだのも共有だつてばれてたから？」

衣「それは・・・」

未「？」

衣「衣が、適当に選んだ結果だ♪」

未「」

塞「・・・あ、今度は吉留さんが固まっちゃった・・・」

透「」

一「・・・ほら透華。いい加減元氣出しなつて？」

透「優柔不断な私のことなんか、どうぞ放っておいてくださいまし・・・」

一「もう・・・全く、透華つたら・・・」

和「・・・まだ落ち込んでたんですか？」

咲「いや、和ちゃんのせいだからね？・・・でも、勝敗は結構運もあるし、そこまで気にしなくてもいいと思うんだけど・・・？」

一「さつきからそう呼びかけてるんだけど、さっぱりだよ・・・」

咲「ふくん。・・・ねえ和ちゃん？これ読んでみて？」

和「これを読めばいいんですか？えつと・・・『龍門渕さんがこの調子なら、次の勝負はいただいたも同然ですね』・・・？」

透「・・・それはつまり、私を強敵だと認めているのですわね・・・！」

和「え？」

透「よろしいですわよ原村和！次のゲームで、どちらが真の人狼ゲームマスターかを、たっぷりと証明してさしあげますわ!!」

一「」

和「・・・は、はあ・・・」

咲「さ、私は向こうに行ってよ〜っと。」

さ、咲さん!?私を置いていかないでください・・・

お待ちなさい原村和く!

つてどこ掴んでるんですか!?

もう勝手にしなよ・・・

久「さて、それじゃあ次は私たちも参加しようかしらね!」

ハ「では、私は控えのほうに・・・」

透「なりませんわ!ハギヨシも引き続き参加なさい!」

ハ「は・・・透華お嬢様が仰られるのであれば。」

京「俺も、次は大活躍っす!!」

A「マケナイ!」

豊「おく!」

続く・・・

## 宮守・龍門渕+α（犠牲者たちの集い）

○3日目（昼） 智紀・未春

智「・・・やってしまった・・・」

未「えっと・・・沢村さん・・・？」

智「・・・何も聞かないで・・・」

未「そ、そう・・・？」

智「うん・・・あ、吉留さんが共有・・・？」

未「うん。まさかいきなり嘯まれるとは思わなかったよ。」

智「・・・残念・・・あ、福路さんが須賀くんに●・・・」

未「どうなんだろうね・・・沢村さんは、あの4人の誰が真だと思う？」

智「微妙・・・強いて言うなら、鹿倉さんは若干怪しい・・・」

未「あ、やっぱりそう思う？なんかあの4人の中で、一番占い理由がおかしかったよ  
うな気がするんだよね！」

智「うん・・・衣は確かに麻雀強いけど、このゲームで警戒する理由には・・・」

未「だよね。あつ、霊能の人が・・・」

智「・・・」

未「・・・霊能？」

智「・・・ノーコメントで・・・！」

○4日目（昼） 智紀・未春・京太郎・白望

京「だから俺は違うのに〜!？」

白「・・・ダル・・・寝る・・・」

京「つて寝ちや駄目っすよ!？」

白「ちえっ・・・」

未「・・・どう思う？」

智「・・・福路さんが真なら・・・でも、確認の仕様が・・・」

未「そうだよね。霊能がないし・・・はっ!？」

智「ドヨン」

未「き、気にすることないよ!？」

智「・・・うん。ありがとう・・・」

京「あ、そういうえば霊能って沢村さんだったんすか？」

智「・・・ぐはっ・・・」

未「沢村さくん!？」

京「・・・え？俺のせい・・・？」

未「酷いよ須賀くん!そんなだからデリカシーが無いって言われちゃうんだよ!？」

京「ぐはあっ・・・って誰が言ってたんすかそれ!？」

未「片岡さん。」

京「優希!？」

白「・・・ん。エイスリンが●出された・・・」

未「え?・・・って、ハギヨシさんが？」

智「・・・ハギヨシさんは、ちよつと怪しい・・・」

京「昨日一昨日の占いつすよね。でも、ありえないことじゃないんじや？」

智「・・・一昨日はいい。けど、昨日があからさま・・・」

未「そ、そうだよね!私全然怪しくなかつたもん!」

白「・・・真・・・福路さん・・・塞・・・？」

京「福路さんつすか?でも、鹿倉さんに狂人認定されてるつすよ?」

未「うくん・・・あんまりキャプテンを疑いたくはないんだけど・・・」

智「……昨日と同じ投票……透華……」

京「……こう言うのもなんつすけど、もしかして龍門渕さんって、優柔不断だったり……?」

智「……ノーコメントで……」

○5日目(昼) 智紀・未春・京太郎・白望・エイスリン

A「ワタシチガウ! アイツニセモノ!」

白「……よしよし……」

A「ウウ……シロオ……!」

京「……ハギヨシさんは、今度は天江さんを占ったんすね。」

未「でも、鹿倉さんとキャプテンが井上さんを占ってるよ? しかもパンダになっちゃってるし……」

白「……?」

智「……白沢さんは萩原さんを……でも……」

京「何か気になることでも?」

白「……いや、タイミングがいいなって……」



京「へ？」

白「・・・今日の平和、GJならいいけど、もし狐噛みなら・・・」

未「あ、そっか。その可能性もあるんだよね！」

智「・・・こうなると、純は吊りたくなる・・・」

白「・・・もしかして、井上さんが狐・・・？」

京「・・・つて、井上さんCOコスしましたよ!？」

A「ソコニイタカ！」

未「○判定を出した、キャプテンが騙り・・・!？」

白「・・・ん。対抗が出た・・・！」

智「・・・一が・・・！」

京「こ、これってどっちが真のコスなんすか!？」

A「シラン！」

未「2人の決め打ちしかないのかな・・・!？」

白「・・・やばいね、この状況・・・」

京「へ？」

智「・・・吊り回数が、足りないかも・・・！」

A「・・・オウツ!？」

未「うわ……じゃあ、この状況つてもしかして……!？」

白「……ここに、人狼がいることを願おう……」

A「オマエジンロウ！」

京「つて違うつす?!？」

○6日目（昼） 智紀・未春・京太郎・白望・エイスリン・純・一

純「だから、コスは俺だつて。」

一「ボクだよ！」

京「……見事に候補が2人とも消えちまったつてわけつすね。」

白「……今日は、みんな対抗占いで……」

未「今日からは、もう占いの決め打ちをしていかなくちやいけないよね……?？」

A「イエス! マニアワン！」

純「……実際どうなんだ? 俺は風越のキャプテンは気付いたけど、他の3人は……」

?

一「む……ボク的には、鹿倉さんが真なんじゃないかとは思うけど……?？」

智「……正直、微妙……」

未「残ってる人たちも、さすがに迷ってるみたいだね……?」

京「真を失いたくは無いつすからね……」

A「アノオトコ、ニセモノ!」

京「それを言うなら、福路さんだつて人外つすよ。」

白「!……決め打ちしないの……?」

智「……それぞれが、投票……?」

京「いいんじゃないつすか? つていうかそれしかない気が……?」

A「キメラレン!」

純「いや……ミスつたな。透華の奴……」

一「うん。やばいよね……!」

京「え? 何で?」

A「セツメイ、プリーズ!」

未「えつと……?」

白「……あそこには、確実に人外が最低3人はいる……」

智「そんな状況で、各自の判断にしたら……」

京「……ど、どうなるんすか!」

A「??」

純「……いや、だからな……?」

一「……あそこにいるのは8人。4票入ったらほぼ確実。3票でも十分に吊り候補なんだよ。つまり、人外が3人以上つてことは……!」

A「……ヤバイ!?!」

白「……かなり……」

未「で、でも、人外にも真判定が出来てなかったら……!?!」

智「……もう6日目……」

白「……その希望は、多分ない……」

未「あうう……」

純「……終わったかね、こりや……」

一「……うん。せめてあそこにいれたら、間違えてもいいから透華の指定先のほうがいいって言ってあげられたんだけど……!」

京「……え。もしかして……負け……?」

白「……多分……」

京&A「……オウツ……!」

○7日目(昼) 智紀・未春・京太郎・白望・エイスリン・純・一・塞・華菜

華「嘯まれたし!？」

塞「うわあ、最悪だ・・・」

白「・・・やられたね、塞・・・」

塞「・・・シロ・・・やっぱあの投票って・・・？」

智「・・・おそらく、身内投票・・・」

塞「・・・やっぱいかあ・・・!？」

A「・・・オワツチャツタ・・・!？」

京「・・・嘘だろ。パーフェクトゲームって・・・!？」

未「キャプテンが・・・」

純「・・・ちえく・・・」

一「残念だよ・・・」

華「・・・うにやあ・・・」

ゲームは終了いたしました。

## 清澄・宮守・龍門渕＋α ①

ト：さて、それじゃあ引き続き始めるとしようかね。

今回は人数も多いし、新しい役職を入れるから、みんな注意しておくれよ？

## ○キューピッド

村人、人狼、狐とは違う新たな陣営。通称『恋人陣営』。

ゲームスタート時に誰か2人を指定し、その2人を『恋人』の役職にすることができ。その際、恋人たちの元々の役職を知ることが出来ないので注意。

勝利条件は、『いずれかの陣営が勝利条件を満たしたときに、恋人の2人が生き残っていること』。

つまり、例えキューピッドが死んでいても、恋人の2人が生き残ってさえいれば勝利となる。

扱いとしては村人と同じ。つまり○判定で、人狼に噛まれば死ぬので注意。

恋人を指定する際、自分自身を恋人の相手方に指定することも可能である。

○恋人

キューピッドに指定された2人がなる役職。

もし元々の役職を持っていた場合、その役職と兼用になるので注意。

相手の恋人が誰かは分かるが、相手が元々に持っていた役職までは分からない。また、キューピッドが誰かも分からない。

もし相手の恋人が死亡すると、残された恋人は『後追い自殺』をしてしまう。これは村人、人狼、狐などの役職関係なく発生する。

勝利条件はあくまで『恋人陣営の勝利』であるので要注意。

和「恋人陣営ですか。ぜひともやってみたい役職ですね、咲さん……！」

咲「そう？ 私は面倒くさいだけだと思うんだけど……？」

和「………。そ、そうですか……」

咲「？」

優「……和ちゃんが撃沈したじえ。」

華「清澄ってこんな奴らばっかりだし……」

久「・・・役職兼用つてのが危険よね・・・」

美「そうですね。人狼でありながら恋人だったりもしますから・・・!」

塞「人狼と村人が恋人同士つてこともありえるもんね。」

豊「平和な証だよ〜♪」

A「ミンナトモダチ♪」

一「いやいや・・・」

未「平和なのはその2人だけだしね・・・」

純「・・・厄介なのは、村の役職が被つちまつたときだよな。」

衣「どういうことだよ?」

胡「つまり占い師とかが恋人になつちやつたら、占い結果を言わなかったり、もしくは嘘つくことがあるつてこと!」

華「な、何でだし!?それじゃあ狂人と変わらないし!」

透「恋人になつた場合、優先されるのはあくまで『恋人陣営』の勝利ですわ。つまり、人狼が勝利条件を満たしてしまつても一向に構いませんのよ。」

ハ「何より、そうすることで人狼から身内だと判断され、噛まれる危険性が減ることになります。生き残つてさえいれば恋人たちの勝利です。」

白「・・・ダルい・・・」



智「・・・人狼たちにも、判断が試される役職・・・」

京「うへえ・・・20人もいて考えることが多いつてのに、さらにそれも考えなくちゃいけないのかよ・・・」

優「全くだじえ・・・」

ト：説明を続けるよ？

人数は20人。

内約は人狼(3)、狂人(1)、狐(1)、背徳(1)、キューピッド(1)、共有(2)、占い(1)、霊能(1)、狩人(1)、猫又(1)、村人(8)の、初日役欠け有りの占い有りさ。

さらにこの中に、キューピッドに指定された恋人が2人いることを忘れないようにね？

美「村人、人狼、狐、恋人。4つの陣営の争いなんですネ・・・！」

優「まさに戦国乱世だじえ！」

久「下手な信用は、あとでこっ酷く返されそうね・・・！」

一「恋人なんて、名前はいいいけど、ようするに裏切り者だからね・・・」

ト：初日の会話時間は10分でいくよ。

必要ないと思えばスキップしてくれて構わないから、遠慮なく言いな。  
時間は1日ごとに1分ずつ減っていくからね。

さて、それじゃあ始めるよ？

一体どういう結果になるのか、今から楽しみで仕方ないよ。

それじゃあ人狼ゲーム、スタートだよ。

○2日目(昼) 犠牲 トシ

処刑 なし

生存 久・まこ・優希・和・咲・白望・エイスリン・胡桃

塞・豊音・純・智紀・一・透華・衣・美穂子・未春

華菜・京太郎・ハギヨシ

熊倉トシさんの無残な死体が発見されました。

久「それじゃ始めましょう！厄介な役職が追加されちゃったけど、頑張って推理していきましよう！」

美「そうですね。頑張ります。」

豊「頑張るよ〜！」

A「オウ！」

透「それでは、まずは共有からかしら？今回の共有はどなたですか？」

一「今回は透華じゃなかったんだね？」

純「まずは第1難関クリアだな。」

衣「わ〜い♪」

透「んなっ・・・!?」

一「ま、まあまあ・・・」

ま「で、誰なんじゃ？共有は。」

白「・・・私だよ。CO共有・・・」

塞「あ、シロだったの？」

白「相方は伏せてるよ．．．本当は、私が伏せてたかったんだけど．．．」  
胡「なるほど．．．!」

豊「シロにちゃんとお仕事させてるんだよ。」

A「グッドアイディア♪」

白「ダル．．．それで、対抗はいるの．．．?」

衣「いるのか?」

京「．．．どうやらないみたいっすね。」

ハ「それでしたら、小瀬川様が真認定でよろしいかと。」

一「そうだね。よろしく頼むよ。」

白「．．．まあ、やることだけはやる．．．じゃあ、さっそく占いにいくよ．．．?」

智「．．．今回は、何人位出る．．．?」

華「正直、予想つかないし!」

未「あんまり多いと厳しいしね。できれば2〜3人が助かるんだけど．．．」

優「逆に1人なら占い欠けだじえ!」

白「．．．それも困る。じゃあ、いくよ．．．せゝの．．．」

京「咲、○だったつす！」

塞「ハギヨシさん、○だったよ。」

ま「久、○じゃな。」

久「美穂子、○だったわ。」

透「一、○でしたわよ？」

華「……いっばい出たし。」

和「……5人もいると面倒ですし、ロラしてみても……？」

久「つてちよつと！何いきなり恐ろしいこと言ってるのよ!？」

咲「あはは……でも、確かにちよつと面倒だね……」

智「……5人……おそらく、占い欠けは起こっていない……？」

一「多分ね。これだけ出てきたんだから、誰かは真だと思うよ？」

白「……とりあえず、理由かな……？」

京「了解つす！俺が占ったのは咲つすね。あいつこのゲームになると結構怖えし、何より人外だったときのプレイングが洒落にならないときがあるつす。ですから最初に確かめといたつすよ。」

和「なるほど。咲さんの魅力を存分に理解しているようですね。これは、もしかする

と須賀くんが真だということでしょうか・・・?」

塞「いや、どのへんに魅力とかいきなり真目とか、突っ込みたいことは結構あるけど・・・とにかく、次は私ね。私が占つたのはハギヨシさんね。理由は単純に、さつきハギヨシさんの振る舞いに翻弄されちゃったからよ。また人外だったら怖いから、最初に占つてみたわけ。」

豊「なるほどく・・・!」

A「ナツトク!」

ハ「私を占つて下さったのですか。感謝いたします。」

胡「・・・でも、だとすると2連続で占い師になつたつてこと・・・?」

A「ん? ツマリ・・・サエ、ニセモノ?」

塞「本物だつての・・・。仕方ないでしょ? 私だつて2連続で占いになるとは思わなかったよ。」

胡「むう、ちよつと怪しい気が・・・!」

塞「あのね・・・」

ま「まあ真はわしなんじゃ。疑われて当然じゃな。・・・わしが占つたんは久じゃ。みなも分かつとると思うが、こやつは味方なら心強いときが時たまあるのかもしれないが、人外ならただ最悪なだけじゃ。じゃから最初に占つたんじゃが・・・騙りに出てきたつ

ちゆうことは、やはりお前さんは狂人か背徳、もしくはキューピッドか恋人じゃったちゆうことじゃな？」

久「あいにくだけど私は真なの。っていうか、私の評価がちよつと気に食わないんだけど……。私が占ったのは美穂子ね。さっきのゲームもそうだったけど、一度型にはまるとずれると自分のペースに持つてっちゃう子だからね。用心して占つてみたわ。結果は○だけど、まだ恋人とかの可能性があるから、絶対の信用はできないけどね？」

美「大丈夫ですよ？ 私は、今回は役職無しの村人ですから。」

久「……。それ、素直に信じたいんだけどね……。？」

透「信じられないのは当然ですわ。なにせ、真の占い師は私ですもの。私が占ったのは一ですわ。鋭い観察力がありますから、用心するにこしたことはないと思いましたがの……。まあ単純に、私が色を見たかったというのもありますけど。」

一「心配しなくても、ボクは村人だから安心していいよ？ 透華？」

純「とか何とか言つて、実はまたなんか持つてるんじゃないやね？」

一「あいにく、今回は役職無しの村人だよ。」

智「……。特に、怪しい人はいない……。？」

胡「塞以外はね！」

塞「だ〜か〜ら〜……。！」

豊「わわわ！塞、落ち着くんだよ〜!？」

A「オチツケ！」

衣「落ち着け〜♪」

未「でも、それならグレランでしょうか・・・？」

白「・・・その前に、霊能の人が誰か聞いていい・・・？」

ま「ふむ？もうCOさせるのか？」

久「別にいいんじゃない？下手にグレランで吊られたら困るわけだし。」

智「・・・」

一「ま、まあまあ・・・」

咲「・・・私はいいいと思いますよ？この時点で確認しておけば、後々騙りが出ることもないでしょうし。」

京「けど、これでまた3人も4人も出てきたらどうすんだよ・・・」

和「その時こそ役職ロラですね。欠けがあつたとしても、占いと霊能で8人を超すようでしたら、ロラしてしまつたほうが効率的にいいですから。」

美「そうね。人外が7人に、プラスで恋人が2人と考えれば、そのほうが効率的だわ。」

華「むう・・・難しい計算は分かんないし！」

優「全くだじえ！」



ま「……いや、難しくも何ともないと思うのじゃが……?」

久「……まこ、そこは見守ってあげましょう……?」

ま「……お、おう。」

透「それでは、霊能もCOでよろしいのですわね?」

白「……うん。自分がって人は、挙手よろしく……せくの……」

和「私です。」

和「……これはこれで危険ですね。」

咲「……霊欠け?」

和「咲さんは私が……って、確かにこの状態は怪しまれて当然ですね……!」

優「むう……和ちゃんが人外?狐とかだじえ?」

胡「真の可能性だってあるよ?ただ、恋人だったら困るけどね!」

京「……霊能で恋人だと、結果が分からなくなっちゃうじゃね?か……!?!」

和「……一応言っておきますと、私は真霊能で、恋人ではありません。ですので結果を誤魔化したりはしませんのでご安心を。」

純「それを素直に信じてくけどよ……」

智「……確かに……」

白「……霊能候補は原村さんだけだね？まだ伏せてるんなら、早めに出てきて……」

豊「……いないみたいだよ？」

衣「ならば、霊能はののかに決定だ〜！」

透「と言っても、まだ真かどうかは分かりませんからね？」

ハ「恋人等の危険性も残っております。じゅうぶんにご注意を。」

衣「……おうっ!？」

和「……まあこればかりは仕方ありませんね。私の真偽はみなさんにお任せします。」

塞「そうだね。私個人としては真がありがたいんだけど……」

未「余計な情報が少なくてすみませすしね。」

華「全くだし！」

美「ところで、今回の占いの5人。内約はどうなっていると思いますか……？」

純「そうだな。……無難に、狂人と背徳は入ってそうだけだな。」

咲「あとは狼と、狐かキューピッドでしょうか……？」

和「それプラス真でしょうね。もし真欠けなら、狐の代わりにもう一匹の人狼か、恋

人の片割れが出ている可能性もあります。」

久「なんにせよ、油断は禁物よ。私以外は騙りだつてことぐらいしか分からないんだから。」

ま「何を言うとるんじや。騙りはお前さん自身じやろうに。」

塞「さっきのゲームのときからずっと言つてるけど、真は私だからね？頼むから今度は信じてよね？」

透「無理ですわね。私が真である限り、あなた方が騙りなのは明白ですわ！」

京「いや、真は俺……」

咲「一番怪しいよね、京ちゃんつて？」

優「間違いないじえ！」

京「何で!？」

白「……こんなものかな。他に、何か気になることがある人いる……?」

胡「……いないみたい！」

豊「なら、スキップする？」

白「……ん。早く戻つて休みたい……」

久「じゃ、今日はグレランでいいのね？」

白「……うん。後はよろしく……」



↓華菜

一 (0) ↓未春 透華 (0) ↓エイスリン

衣 (2) ↓豊音

美穂子 (0)

↓胡桃

未春 (1) ↓優希 華菜 (5) ↓エイスリン 京太郎 (0) ↓華菜

ハギヨシ (0)

↓胡桃

投票の結果、池田華菜さんは処刑されました。

華「にやあゝ!? 考え込んでたら処刑されちゃったしゝ!?」

○3日目(昼) 犠牲 トシ・豊音

処刑 華菜

生存 久・まこ・優希・和・咲・白望・エイスリン・胡桃

塞・純・智紀・一・透華・衣・美穂子・未春・京太郎

ハギヨシ

姉帯豊音さんの無残な死体が発見されました。

ト：おや、昨日の犠牲は豊音だったみたいだね。

あんなに張り切ってたのに、現実つてのは非情なもんさ……。

今日の会話時間は9分だよ。

まだ余裕は十分だろうからね。

今のうちにたつぷり話しときな？

それじゃあ3日目、始めるかね。

白「……ダルい……」

胡「ちゃんと挨拶する！」

白「……おはよう……豊音がやられたね……」

塞「いきなりだね……」

A「トヨネ……」

透「……こちらから見てても、姉帯さんには特に怪しいところは感じられなかったのですが……？」

ハ「狐や恋人探しではなく、単なる数減らしの犠牲ということかもしれませんね。」

ま「じゃとすると、運が悪かったちゆうことじゃな。」

未「そうですね・・・」

久「・・・とにかく、今日も始めましょう！シロ、進行よろしくね！」

白「・・・ダル・・・まず、原村さん・・・？」

和「はい。昨日の池田さんの結果ですが○です。おそらくは村人とみて間違いないかと。」

京「まあ狐とは思えないしな・・・」

優「それだったら背徳欠けだじえ。さすがにそれはないと思うじえ。」

和「はい。確率的にはありえないことではありませんが、それに期待するのは間違っ

ているかと。」

白「・・・ん。それじゃ、占いくよ？・・・せうの・・・」

ま「優希、○じゃ。」

透「鹿倉さん、○ですわ。」

京「沢村さん、○っす！」

塞「胡桃、●よ！」

久「井上さん、○ね。」

胡「む……塞、やっぱり偽者じゃん！」

塞「残念だけど、私の目は誤魔化せなかったってことね！昨日やけに私を疑ってくるから、おかしいとは思ってたのよ。それで占ってみたら、案の定だったわ！まずは1匹目よ！」

透「生憎ですけど、鹿倉さんは○ですわ。占った理由は同じですわね。確率的にはありえないわけではありませんのに、まして身内の占い候補をあれほど疑うのはいささかおかしいと思いましたの。けど結果は○ですわ。そのままなところを見るに、狐でもないようですわね。」

塞「ほほう……困おうとしたら遅かったってことね？ってことは、龍門渚さんも人狼なんじゃない……？」

ま「……向こうで騒いでおるようじゃが、真はわしじやということは忘れんようにな？わしが占ったんは優希じや。理由は昨日の和への発言じやな。確かに和は怪しいところじゃが、いきなり狐扱いしようとおったからのう。むしろ優希が狐なんじやないかと思つたんじやが……大外れじやな。すまんわ。」

優「むむ。これは失言だったじえ。」

和「……染谷先輩が背徳なら、優希が実際に狐なのかもしれませんね。」



優「ち、違うじよ!？」

京「優希は怪しいとこだけど、俺が占ったのは沢村さんっすね。何が気になったってわけじゃないんすけど、さっきのゲームに比べて若干発言が増えてる気がしたっす。もしかしてステルスで吊られたくない人外なんじゃないかと思ったんすけど・・・」

智「・・・吊られたくなかったのは正解。またグレランで吊られないように、頑張った・・・」

京「・・・も、申し訳ないっす・・・」

智「・・・別にいい・・・」

久「最後は私ね。井上さんを占ったのは昨日の台詞ね。一に對して、実は何か持つてるんじゃないか?って冗談っぽく言っただけど、もしかして狩人を探してる人狼なんじゃないかって思ったの。それで占ったんだけど、見事に大外れね。」

純「あちゃ・・・そういう風に取りられちまったか。わりい、ありや本当に冗談で言っただつもりだったんだ。」

久「そうみたいね。呪殺もしてないし、おそらくは村人で間違いないわ。」

塞「まだ確定できないけどね。だって真は私なんだから!それで、今日は胡桃を吊ることをお勧めするわ。これで霊能に○が出るようなら、原村さんも人外か恋人ってことよ!」

透「その必要はありませんわ。むしろ吊つて●が出るようなら、それこそ原村和は人外か恋人だったということですよ！」

胡「まああれだね。今日は塞を吊ればいいよ。だって私、共有だし。」

塞「甘いわね胡桃！たとえ胡桃が共有だろうが何だろうが・・・」

塞「・・・」

塞「」

A「・・・サエガシンダ・・・!?!」

ま「・・・なんじやい。盛大に自爆しとっただけか。」

久「・・・みたいね。まあ騙りが減るのはありがたいけどね。」

衣「全くだ。占いがいつぱいいてもよく分からないぞ！」

京「俺だけでいいっすね。」

咲「京ちゃんは明日あたりに消えてるかもね？」

京「だから何で!?!」

白「・・・ちなみに、胡桃が私の相方なのは本当だよ。それで塞、遺言はある・・・?」

塞「・・・違うのよ。間違えたの。胡桃は●じゃなくて○だったの。言い間違えただけなのよ・・・!?!」

胡「思いつきり吊る気満々だったくせに。」

透「・・・ということ、私の占いが1度無駄になったと・・・?」

ハ「ですが、その分透華お嬢様が真目に一步近づいたかと。」

衣「おお! 凄いぞトールカ!」

透「当然ですわね!!」

純「・・・って言うてるけど?」

一「・・・ま、まあ近づいたのは確かだし・・・」

咲「・・・えつと、今日は白沢さんでいいんですよね? 白沢さんの役職って何だった

んですか?」

塞「・・・占い・・・」

胡「いや、もう諦めなつて。」

塞「じゃあ人狼でいいわ・・・」

和「じゃあつて・・・狂人でしょうか・・・?」

久「おそらくはね。そのまま人狼つてことはないだろうし、恋人なら相方が庇いに来

てもおかしくないしね。」

ま「庇いに来てても終わりじゃがな。その2人が恋人認定されて終了じゃ。」

衣「狐つてことはないのか? 狐なら吊つても○だぞ?」

ハ「いささかりスクが大きいかと。狐の占い騙りは、かなりの難易度にございます。」

美「そうね。村人と人狼、両方に信用されなくちゃいけないんだもの。」

未「それなら、まだ霊能とかにいったほうが可能性はありますね。」

優「むむ、つまり和ちゃんが……」

和「……」

咲「……」

優「……な、何でもないじえ……」

衣「……ふっふっふ。先程からその言動……ユーキ！衣の目は誤魔化せんぞ！狐

発見だ〜！」

優「じえ!?だ、だから違うって言ってるじえ!?」

ま「……ちゆうか、優希はわしが占つとるわい。」

衣「む……じゃあ違うのか?」

優「違うじえ!」

久「まあまこは騙りだしね。それを考えると、確かに優希は怪しいんだけど……」

透「そうですね。その慌てよう、案外本当に狐なんじゃありませんの?」

純「そんなら試しに吊ってみるか?今なら上手くいきや背徳も吊れるんじゃね?」

優「吊れるわけないじえ!?っていうかそんなこと言うノツポが怪しいじえ!」

一「そうだね……いくらなんでも、いきなり吊ってっていうのは早すぎない?」

純「そうか？怪しいんなら吊っても構わねーと思うんだが・・・？」

塞「なら、今日は片岡さんを吊ってみましょう！それで何もなかったら、言い出した井上さんを吊ってみるってのはどう!？」

白「却下。」

胡「塞、往生際が悪いよ？」

A「アキラメロ！」

塞「」

白「・・・とにかく、今日は塞を吊るよ。占いの人は、人狼か狐を見つけてね・・・」

ま「ん、了解じゃ。」

透「お任せですわ！」

久「そうね、怪しい人はっ・・・」

京「俺としては、部長が怪しいんすけどね？」

咲「あ、分かる気がする。」

優「間違いないじえ！」

塞「じゃあ私が占ってあげるから・・・！」

白「却下。それじゃあスキップするよ・・・？」

塞「・・・ちえ・・・」

『・・・スキップで。』

ト：おや、昨日よりも早く終わったね？  
それじゃあ投票を始めてちょうだい。

○投票結果

久(0)	↓塞	まこ(0)	↓塞	優希(0)	↓塞	和(0)	↓塞
咲(0)	↓塞	白望(0)	↓塞	エイスリン(0)	↓塞	胡桃(1)	↓塞
塞(17)	↓胡桃	純(0)	↓塞	智紀(0)	↓塞	一(0)	↓塞
透華(0)	↓塞	衣(0)	↓塞	美穂子(0)	↓塞	未春(0)	↓塞
京太郎(0)	↓塞	ハギヨシ(0)	↓塞				

投票の結果、白沢塞さんは処刑されました。

塞「うう・・・胡桃の馬鹿〜！」

4日目続く・・・

# 清澄・宮守・龍門渕+α ②

○3日目（昼） 犠牲 トシ・豊音・まこ・純・衣・京太郎

処刑 華菜・塞

生存 久・優希・和・咲・白望・エイスリン・胡桃

智紀・一・透華・美穂子・未春・ハギヨシ

染谷まこさんが後追い自殺を行ったようです。

井上純さんの無残な死体が発見されました。

天江衣さんの無残な死体が発見されました。

須賀京太郎さんの無残な死体が発見されました。

ト：おやおや・・・昨日はまたずいぶんと大変なことになってたみたいだね・・・？

昨日の犠牲者は合計4人。

さて、これは一体どういうことかね・・・？

今日の会話時間は8分だよ。

みんな、よく考えることだね。

それじゃあ3日目、スタート……。

白「」

胡「」

和「白沢さんの結果は○でした。おそらくは狂人……だと思ったのですが……？」

咲「……えっと、これって……？」

美「……染谷さんが後追い自殺をしているから、おそらく彼女が背徳者なんだと思うんだけど……」

智「……今回の場合、恋人って可能性もある……決め付けはいけない……」

ハ「まさか、衣様が先に逝かれるとは……。しかしこの場合、衣様は……？」

白「……とりあえず、占いの結果を……せうの……」

久「天江さん、○ね。」

透「純、○でしたわ。」



未「竹井さんが、天江さんで……」

智「……透華が、純……」

久「……私の予想としては、おそらくは天江さんが狐だと思うわ。昨日やけに優希に突つかかっていたけど、思い出してみるとその前から狐のことを気にする発言をしていたの。少し気になって占って見たんだけど、おそらくビンゴよ、これ。」

透「いえ、狐は純に間違いありませんわ。昨日の純は、どうにもらしくない振る舞いをしていましたわ。まるで、その日の吊りをさつさと決めてしまいたいような。ですから気になって占って見たのですわ。」

美「……どちらも、狐を占ったという考えなんですわね。」

久「私目線でいくと、天江さんが狐。まこは背徳か恋人。それで須賀くんと井上さんが、狼猫だと思うの。背徳欠けか、もしくはすでにいないなら、まこの相手が3人の中の誰かにいたってことになるけど……」

透「私目線は、純が狐。染谷さんは背徳か恋人。須賀さんと衣が狼猫ですわね。それから同じで、背徳欠け、もしくははいないなら相手が3人の中の誰かですわ。」

未「実際どうなんでしょうか……自殺ってことは、染谷さんは必ず背徳か恋人のどちらかなんですよね？」

ハ「間違いありませんね。ですがこの場合、問題となるのは……」

和「・・・須賀くんですね。」

咲「うん。京ちゃんの役職が何だったのかで、答えが変わっちゃう・・・」

A「スガクン、ウラナイ？ソレトモ・・・！」

白「・・・須賀くんが、もし真占いだった場合は・・・」

一「・・・いや、それはないんじゃないかな。その場合、どうしても死体が一つ多くなると思うから・・・」

美「そうね。自殺は染谷さんだけだから。天江さんか井上さんのどちらが自殺だったなら、背徳と恋人が両方とも吊れて、須賀くんが真の可能性はあったけど・・・」

ハ「・・・やはり、須賀くんは騙りで確定ですね。となると、やはり人狼でしようか？」

和「その場合、答えは簡単かと。残ったこの2人のどちらかが真だということでは？」

咲「・・・ううん。必ずしも真がこの2人かどうかは分からないよ？染谷先輩が真で、なおかつ恋人っていう可能性があるよ・・・」

白「・・・そうだね。染谷さんが狐を呪殺。背徳は欠けか、もういない。須賀くんは人狼で、猫又を噛んだ。須賀くんか猫又が恋人の片割れだったと考えれば・・・」

優「染谷先輩が後追い自殺しちゃうじえ・・・!?!」

A「・・・カズモ、ピツタリ・・・！」

胡「えっと、どちらにせよ狐はもういないってことでもいいんだよね・・・？」

美「そうですね。狐はほぼ確実に、この中には残っていないかと。」

久「間違いないわね。ただ怖いのは・・・」

透「・・・恋人ですわね。」

ハ「左様にございます。染谷様が背徳だったのか恋人だったのか。その真偽が分からぬ今となつては、無用の安心は出来ぬかと・・・。」

未「染谷さんが、背徳で恋人だったらどうなんでしょう？それだったら、もう恋人もいなくなつてゐるんですよ？」

智「・・・確かに・・・でも・・・」

一「それを希望して話を進めるのは、さすがにちよつとね・・・」

優「あとで痛い目にあいそうだしえ・・・」

咲「そうだね。油断は出来ないよ・・・！」

和「・・・ですが、もし本当に恋人が昨日で死んでいたとすれば、もう恋人陣営の勝利は無くなるんですよ・・・？」

透「そのはずですよ。もしかするとキューピッドが残っているかもしれませんが、あの陣営の勝利条件は『恋人たちの生存』ですもの。もはや勝利条件が無くなり、途方に暮れていることでしょうね。」

A「……デモ、オチコンデルヒトイナイ！」

ハ「……そう簡単には姿を見せぬかと。例え勝利の目は消えても、最後に推理の邪魔をしていく可能性はございます。」

一「うわ……お願いだから、それだけはやめてほしいな……」

優「全くだじえ！負けが決まったなら、素直に自首してほしいじえ！」

久「まあ結論としては、私のおかげで狐の危険性は無くなったってことね。まずは1つクリアよ！」

透「私の手柄を横取りしないでいただけます？狐が消えたのは、私の観察眼あつてのことですわよ！」

咲「……染谷先輩の可能性もあるんだけど……」

透「何か言っています!？」

咲「いや、その……あはは……」

美「でもそうすると、今度はこの2人の真偽を確認しないといけませんね……!」  
未「5人が2人になって、かなり楽になりましたね!」

一「とはいっても、間違えればアウトなことに変わりはないんだけどね……?」

智「……確実に、真を見抜かないと……!」

A「ムウ……マダワカラナイ……」

白「…今日はグレランだね。染谷さんの占い先も含めて、それ以外の人が対象で…」  
 ハ「ふむ。となると対象は私と…」

未「私ですね…」

咲「私もです。」

智「…私も…それと…」

A「…ワタシモカ！」

和「…この場合、私はどうなるんでしょうか？一応グレーといえばグレーなのですが…」

胡「原村さんは除外でいいんじゃない？真かどうかはともかくとして！」

白「…うん。とりあえず、今の5人の中の誰かに投票で…」

優「分かったじえ！この中から人狼を見つければいいんだな！」

美「ですが、まだ恋人が残っている可能性もあります。人狼が残り2匹ということを考えて、ここは恋人のほうを吊りたいところではありますが…」

一「そうだね。残っていればの話だけど、楽観視は出来ないし…」

久「私としては、そろそろ龍門澗さんを吊りたいところではあるんだけどね。どう考えても彼女、キューピッドか恋人、それか人狼だもの。」

透「その言葉、そっくりそのままお返しいたしますわ！」

胡「……そっか。占いの中に恋人がいるって可能性もあったんだ……」

白「……否定は出来ないね……」

未「でも、だとしたらどっちが……?」

優「……案外、染谷先輩が真で、この2人が恋人同士だってことはないかだじえ?」

咲「2人で協力して、村を混乱させようとしているってこと?それはさすがに……」

透「ありえせんわ!」

久「無いわね。」

美「絶対に駄目です!」

咲「……え?」

美「……な、何でもないです……」

未「キャ、キャプテン……?」

一「……気持ち、分からないでもないけど……でも、ちよつと怪しいよね。もしかして、福路さんが恋人の片割れってことはないかな……?」

智「……ありえる……相手は、そのどちらか……?」

A「ナルホド!」

透「絶対に違いますわ!私は占い師であつて、恋人ではありえせんわ!」

久「いえ、案外あるかもしれないわよ。恋人の相方、龍門渕さんが疑われて、思わず

違うと言ってしまったって可能性が……!」

美「ち、違うんです久! 私は久以外と恋仲になるつもりなんて……!?!」

久「……って何で私が相方みたいに言うのよ!?!」

ハ「フム。……これは、どう判断したものか……?」

和「……確認のため、福路さんを吊ってみるといっのはいかがですか?」

優「確かに、本当に恋人なら後追いが出るじえ!」

咲「そうだね。グレランもいいけど、ここは福路さんを吊って確認してみたほうがいいかもしれないよ?」

一「うん。それにもし竹井さんが恋人ではなくキューピッドだったとしても、恋人の

片割れを最初に囲ってたっていう可能性はあるし……!」

久「ないっての! 私は本当に占い師だってば!?!」

白「……どうしようか……グレランやめて、福路さん吊ってみる……?」

A「サンセイスル!」

未「その、さすがに反対出来ないな……」

美「そ、そんな、吉留さん……!?!」

未「す、すみませんキャプテン。さすがにこれは……」

胡「……ちよっと怪しすぎるしね……!」

白「・・・うん。じゃあ決定。今日は福路さんで・・・」

久「・・・〇が消えるのは痛いけど、恋人の可能性は否定できないしね。仕方ないわ・・・！」

透「ふふ・・・実は、内心凄く焦っているんじゃないですか？」

久「ないわ。これで恋人が消えれば、あとは人狼だけだしね。」

美「うう・・・！」

白「・・・他には何もいよね・・・それじゃあ、スキップするね・・・？」

『・・・スキップ・・・』

ト：はいはい。

それじゃあ投票を始めておくれ？

### ○投票結果

久(0) ↓美穂子

優希(0) ↓美穂子

和(0) ↓美穂子

咲

(0) ↓美穂子

白望(0) ↓美穂子

エイスリン(0) ↓美穂子

胡桃(0) ↓美穂子

智紀



(0) ↓美穂子

一 (0) ↓美穂子

透華 (1) ↓美穂子 美穂子 (12) ↓透華

未

春 (0) ↓美穂子

ハギヨシ (0) ↓美穂子

投票の結果、福路美穂子さんは処刑されました。

美「疑われるような真似をしてしまいました・・・でも、本当に私は違うんです・・・」

○5日目 (昼) 犠牲 トシ・豊音・まこ・純・衣・京太郎・エイスリン

処刑 華菜・塞・美穂子

生存 久・優希・和・咲・白望・胡桃・智紀・一・透華

未春・ハギヨシ

エイスリン・ウィツシユアートさんの無残な死体が発見されました。

ト：昨日の犠牲はエイスリンだったみたいだね。

おや、犠牲は他にはいないみたいだよ？

つまり、福路さんは・・・

今日の会話時間は7分さ。

まだ多少の余裕はあるかね？

それじゃあ5日目、始めるとしようか・・・

白「・・・おはよう・・・外したね・・・」

和「そうですね・・・福路さんの色は○でした。つまり、人狼でもありません。」

久「つまり、あれは素の行動だったってこと？何であんなことしたってのよ・・・？」

咲「・・・あ、あはは・・・」

優「・・・哀れだじえ・・・！」

透「・・・さすがに、少し同情しますわね・・・」

一「・・・そうだね・・・」

智「・・・確かに・・・」

久「？」

胡「とにかく、外しちゃったんなら今日からはしっかりと当てていくよ！残り5回で、人狼と恋人を吊らなくちゃいけないんだから！」

ハ「その通りかと。無論、恋人がまだ残っているという前提付きではありますが。」

一「楽観視は禁物だしね。それで、今日の占いは？」

白「・・・占い、よろしく・・・せくの・・・」

久「沢村さん、●よ。」

透「宮永さん、○でしたわ。」

和「！・・・ついに出ましたね、●が・・・！」

智「・・・竹井さんが、人外・・・！」

久「ようやく見つけたわよ。とりあえず理由を言くと、候補は沢村さんか咲のどっちかだったの。私目線では須賀くんが人狼なのは確実だし、なら彼がつけた○の中に身内を囲っていないかと思ってね。これで人狼は、残り1匹よ。」

透「智紀が人狼かどうかはまだ分かりませんが、占った理由は私も同じですわね。私目線、須賀さんが人狼なのは確実ですもの。なら2人のどちらかが怪しいとは思ったのですが、今回は外してしまいましたわ。」

未「そっか。確かに須賀くんが人狼なら、その可能性もあるんだよね．．．！」  
 優「だけど、染谷先輩が真の可能性もあるじゃえ？」

ハ「いえ、例えその場合でも、須賀君が人狼なのは可能性は高いかと。ですが．．．」  
 和「?．．．何か疑問がお有りですか？」

ハ「．．．万が一、須賀君が狐だった場合には、どうなるのかと思ひまして。」

胡「須賀君が狐?．．．って．．．！」

咲「．．．しまった。その可能性もあつたんだ．．．!？」

一「そうか．．．須賀君が狐で、染谷さんが真で恋人なら．．．！」

智「．．．衣か純が人狼．．．！」

白「．．．背徳は欠けかない。天江さんか井上さんが恋人．．．」

久「．．．繰り返し言うけど、真は私だからね?須賀君は確実に人狼よ?」

透「真は私ですわ。推理するのは構いませんが、その可能性はありませんことよ?」

優「ど、どうするんだじゃえ?これ、素直に吊つちやつて大丈夫かじゃえ．．．!？」

一「．．．考えどころだね。これでもきくが○だったら、竹井さん破綻は確実だけ

ど．．．」

和「その場合、明日に部長を吊つてまた○が出てしまえば．．．」

咲「残りの吊り回数は5回。2回無駄吊りになるから、3回で人狼2匹を吊らないと

いけなくなるね……!」

未「もし恋人が残ってたら……!?」

ハ「……沢村さんか竹井さま、もしくは人狼のどちらかが恋人でなかった場合、村勝ちはなくなるかと。」

智「……私は竹井さんに投票したい……私から見ても、竹井さんは確実に人外……」  
久「私は沢村さんね。恋人も怖いけど、まずは確実に1匹吊るべきだわ。」

透「……対抗がつけた●を信用するのは愚の骨頂なのですが、もしや逆囲いという可能性が……?」

胡「残り2匹で、逆囲いするかな……?」

咲「むしろ、そう思わせて、という可能性もあります。あえて最後の仲間を見捨て、自分が真目を手に入れようとしていると考えれば……!」

和「なるほど……確かにそれに成功すれば、私たちからはもはや疑いようがない場所を手に入れるわけですね……!」

白「……みんな忘れてるかもしれないけど、疑う場所はもう1つあるよね……?」  
未「え?……あ、もしかして……!」

一「……すっかり忘れてたね。原村さんの真偽を……!」  
優「忘れてたじえ!」

和「・・・そのまま忘れてくれていたほうが良かったのですが・・・とにかく、私としては自分が真で、恋人ではないとしか言えませぬね。」

咲「そういうこと言うと、和ちゃんも怪しく見えてくるんだけど・・・？」

一「確かにね・・・」

ハ「いずれかで、決め打たねばならないかと。」

胡「うくん・・・どうしよつか、シロ・・・？」

白「・・・」

胡「シロ？」

白「・・・沢村さんを吊って、占いの真偽を確かめよう・・・」

智「・・・!？」

久「ナイスな判断ね、シロ。まずは確実に人狼を吊るべきだわ。」

透「む・・・そっちを真だと決めるおつもりですか？」

白「・・・違う。それを決めるためにも、沢村さんの色を確かめたいってこと。駄目かな・・・？」

未「・・・確かに、ここはそれが安全でしょうか・・・？」

咲「そうかもしれないね……」

智「……それは、認められない……」

優「む……?」

一「え?ともきく……?」

智「……COLW。勝ち目が消えたけど、恋人勝ちだけは阻止したい……」

透「なっ……!?!」

ハ「なんと……では、もしや竹井様が……?」

優「それはまだ分からないじえ!でも、それより今……」

一「……ねえともきく。ともきく、今ラストって言つた……?」

咲「でも、人狼はあと2人のはずじゃ……?」

久「……そうね。それだと数が合わないけど……?」

和「推理に、どこか見落としが……?」

智「……今回の人狼は、私と須賀くん。それに……」

智「……白沢さん……」

和「・・・なっ・・・!?」

胡「嘘っ!?!」

ハ「何と・・・」

智「・・・真占いがどちらかは言わない。でも、染谷さんが背徳かどうかの確証がない。そして・・・」

咲「・・・和ちゃん・・・!?」

和「ち、違います! 白沢さんの色は間違いないで! つまり、沢村さんがラストというのは偽りです!」

智「・・・原村さんが恋人ではなく狂人なら、私が自爆しただけ・・・」

一「・・・参ったね。これ、どっちを信じればいいと思う・・・!?」

白「・・・原村さんを吊って、明日は沢村さんかな・・・?」

未「・・・それが、一番いいのかな・・・?」

和「駄目です! 沢村さんが恋人でなかった場合は、真のLWと恋人が残ってしまうんですよ!?!」

智「・・・原村さんが恋人なら、それは無い・・・」

和「ですから違います!」



ト：さて、残り1分だね。

そろそろ結果をまとめたらどうだい？

ハ「……いかがいたしますか？」

白「……私は、さっきの考えを変えるつもりはないよ……」

和「小瀬川さん!？」

白「……原村さんを信じるっていう人は、沢村さんに投票して……」

久「……参ったわね。まさかここでこういう展開になるなんて……!？」

優「じえく……今回は悩むところが多すぎるじえく……」

未「そうだね……」

胡「むう……でも、素直に沢村さんを信じてもいいのかな……?？」

一「迷うところだよね……」

透「まさか騙りの●が当たるとは……私も智紀を占えば良かったですわ……!」

和「咲さん! 咲さんは私を信じて……!？」

咲「わ、私は……!」

ト：時間だね。

それじゃあ投票を始めるとしようか？

○投票結果

久 (0)	↓和	優希 (0)	↓和	和 (7)	↓智紀	咲 (0)	↓智紀
白望 (0)	↓和	胡桃 (0)	↓和	智紀 (4)	↓和	一 (0)	↓和
透華 (0)	↓和	未春 (0)	↓智紀	ハギヨシ (0)	↓智紀		

投票の結果、原村和さんは処刑されました。

和「・・・咲さんは、私を信じてくれたんですね・・・！」

6 日目に続く・・・

清澄・宮守・龍門澗+α ③

○6日目（昼） 犠牲 トシ・豊音・まこ・純・衣・京太郎・エイスリン・胡桃

処刑 華菜・塞・美穂子・和

生存 久・優希・咲・白望・智紀・一・透華・未春・ハギヨシ

鹿倉胡桃さんの無残な死体が発見されました。

ト：昨日の犠牲は胡桃だったみたいだね。

これで宮守で残ったのはシロだけかい。

ちゃんと頑張るんだよ？

今日の会話時間は6分。

そろそろ考えをまとめていかないかと、後で泣きを見るかもしれないよ？

さて、それじゃあ6日目を始めようか。

白「・・・ダルい結果が・・・」

久「胡桃がやられたわけか。・・・シロ、進行ちゃんよろしくね？」

白「・・・はあ・・・後追いが無かった。つまり原村さんは、恋人じゃない・・・」

透「・・・そうみたいですわね。真と見て間違いありませんわ。」

未「え？まだ狂人とかの可能性が・・・」

透「ありえませんが。智紀が嘘をついていたということが、はっきりと分かりましたもの。」

久「あら、それは奇遇ね。私も沢村さんが嘘をついていたっていう確証、手に入れちゃったわ・・・！」

咲「・・・それって・・・！」

白「・・・聞かせて、占い。よろしく・・・せうの・・・」

透「片岡さん、●ですわ！」

久「一、●よ！」

智「・・・」

優「これって・・・！」

一「……なるほど。ともきくは嘘をついてたつてことだね？」

智「……残念、見つかった。もう勝ち目もないし、諦めよう？　……？」

一「つて、さも身内みたいに話しかけないでくれるかな……!？」

智「……誤魔化せなかった。ごめんなさい、片岡さん……？」

優「わ、私にも話しかけるなだじえ！私は人狼じゃないじえ!？」

智「……」

智「……もう一回、COLロントリーウルフW。真は染谷さんだった……」

一「」

優「」

咲「えつと……」

未「その……」

ハ「ふむ……」

白「……」

智「……ブイ……」

透「往生際が悪すぎですわ……!？」

久「全くね……！」

白「……ダル……とりあえず、2人の内訳予想、言ってみてもらえる……？」

透「いいですわ。まず私が占い。原村和が霊能。人狼は須賀さん、智紀、片岡さん。狂人はおそらく白沢さんですわね。狐は純で、猫又が衣。問題なのが染谷さんと竹井さんですが、おそらく竹井さんはキューピッドではないかしら？」

久「違うわね。私の内訳は、占いが私。霊能が和。人狼が須賀君、沢村さん、一。狂人は多分白沢さんで、狐が天江さん。猫又が井上さんってことね。こつちも問題はまこと龍門渕さんよ。あなた、狂人じゃなくてキューピッドじゃないの？」

透「違いますわね。」

久「ふくん……？」

咲「……どちらを信じるべきでしょうか？」

未「安全策は取れないのかな？ 沢村さんの後に、片岡さんと国広さんを吊れば……？」  
ハ「人狼対策としては、それで問題ないかと。狐もおりませんし、吊りは残り4回です。ですが……」

白「……恋人、残つてると思う……？」

一「それが問題なんだよね……！」

優「残つてたら無駄吊りが出来ないじゃえ……!？」

久「……まだ残ってるならともかく、まこと誰かが恋人で、すでに消えているんだっていうんなら早めにそう教えてもらえないかしら？ その場合、もう勝ち目は消えているわけだし……？」

透「それはこちらの台詞ですわ！ 勝機が消え、なおもがいているというのなら、それはあまりにみつともないですわよ!？」

久「……まあ、簡単に言うわけないか……」

透「ですから、それはこちらの台詞だと……!？」

一「ま、まあまあ……」

優「部長も挑発はやめるんだじえ……」

ハ「ふむ……」

咲「これは……」

未「どっちを信じればいいんでしょうか……？」

白「……沢村さんか、人狼候補のどちらかが恋人なら、それで解決なんだけど……」

一「それは、さすがに都合のいい希望だと思っよ……？」

優「そうだじえ。この3人の中にいなければ、それで終わりだじえ……」

未「……竹井さんと龍門渚さんは、どちらかはキューピッドの可能性が高いんです

よね？ でしたら、明日はどちらかを吊っておくというのは……？」

咲「……あまり賛成できませんね。外せば、恋人陣営のPPが始まるでしょうし……」  
 白「……キューピッドではなく狂人だとしても、最終日に人狼陣営のPPが起こる……」  
 ハ「確かに、決めるのなら明日しかありませんね。明後日になっても残っているようであれば、恋人陣営の勝利は確かかと……」

久「参ったわね……人狼を見つけたっていうのに、素直に吊りにもいけないなんて……！」

透「全くですわ。本当に面倒くさいルールを作ってくれたものです……！」

白「……ダルい……」

一「……今日はともきく確定として……明日は恋人の決め打ち。外したら覚悟を決めて人狼を吊りに行く？」

優「……私もそれがいいと思うじえ。それしか答えがない気がするじえ。」

咲「でも、もし人狼の中に恋人がいたら……」

ハ「現状、それが一番危険ですね。おそらく人狼が恋人ならば、すでにキューピッド、もしくは狂人の人物は把握していますでしょうし……」

未「そうですね……」

智「……仕方ない。ここは恋人の危険性を取り除くために、まずはその2人を先に……」



一同「それは駄目。」

智「……残念……」

ト：さて、残り1分を切ったね。

今日の結果はまとまったかい？

白「……今日は沢村さんで。これは決定だから……」

智「……無念……」

久「了解よ。できれば対抗も吊りたかったけど、もう仕方ないわね……」

透「全くですわ。むしろこの展開、あなたが仕組んでいたんじゃないやありませんの……?」

一「さ、さすがにそれは……」

咲「……部長ならありえそうだけど……?」

未「その、さすがにちよつと難しいんじゃないかな……?」

優「全部否定できないのが、うちの部長の恐ろしいところだじえ!」

ハ「……ずいぶんと後輩に信用されているようで。」

久「・・・全くだわ。本当、どこで教育間違えたのかしら・・・!？」

ト：時間だよ。

教育つて言っても、一言じゃ語りつくせないもんさ。

とにかく、投票を始めておくれ？

○投票結果

久(0) ↓ 智紀 優希(0) ↓ 智紀 咲(0) ↓ 智紀 白望(1) ↓ 智紀

智紀(8) ↓ 白望 一(0) ↓ 智紀 透華(0) ↓ 智紀 未春(0) ↓ 智紀

ハギヨシ(0) ↓ 智紀

投票の結果、沢村智紀さんは処刑されました。

智「・・・今回の恋人・・・もしかして・・・？」

○7日目(昼) 犠牲 トシ・豊音・まこ・純・衣・京太郎・エイスリン・胡桃

ハギヨシ

処刑 華菜・塞・美穂子・和・智紀

生存 久・優希・咲・白望・一・透華・未春

ハギヨシさんの無残な死体が発見されました。

ト：おや、昨日の犠牲者はハギヨシさんだったみたいだね。

冷静に物事を分析できる人つてのはありがたいんだけど、そこを狙われちゃったの  
かね？

今日の会話時間は5分さ。

この調子でいくと、もうすぐ終わりそうだね？

それじゃあ、7日目スタートさ……。

白「……おはよう。沢村さんとハギヨシさんも恋人じゃなかった……」

久「占いの結果は優希○。当然ね。ラストは一しかないもの。」

透「違いますわね。私の結果は吉留さん○ですわ。ラストは片岡さんで決まりですわ  
よ。」

咲「ラストは国広さんか優希ちゃん。あとは恋人、か・・・」

未「うう・・・誰が恋人なんでしょうか・・・!?」

一「・・・ここまで来ると、本当に残っているのかどうかも疑問になってくるね。楽観視できないって言ったけど、いくらなんでも吊れなさすぎな気が・・・?」

優「全くだじえ。これ、本当に恋人がいるのかだじえ?」

白「・・・油断は出来ないよ・・・」

咲「・・・少し疑問なんですけど、恋人って誰でもなる可能性があるんですよ?」

久「あるわね。人狼とか狐でも、キューピッドに指定されれば恋人決定ね。」

一「もちろん、占いや霊能だってそうだね。」

咲「じゃあ・・・小瀬川さんはどうなんでしょうか・・・?」

透「え・・・?」

白「・・・私を疑うの・・・?」

久「・・・そっか。そこっていう可能性もあるのよね・・・!?」

一「・・・確かに可能性はあるね。むしろ確実に人外じゃないってというのが分かるから、疑うのを忘れてたけど・・・!」

未「でも、小瀬川さんが恋人なら、相手は誰なんでしょうか・・・?」

咲「さ、さすがにそこまでは・・・」

白「・・・違うと言っておくよ。そんなダルい役職はついてない・・・」

透「でも、確かにありえますわ。・・・もしかして、竹井さんと小瀬川さんが恋人なんじやありませんの!？」

優「じえ!?!でも部長は真占いのはずだじえ!」

一「竹井さんは騙りだよ。けどその場合、竹井さんは狂人の恋人?もしくはキューピッドで、自分自身を指定した・・・?」

咲「・・・もし白沢さんがキューピッドだつていうなら、その可能性はあるかと思います。部長と小瀬川さんのペアなら、確かに勝機が強いですし・・・!」

未「えっと、なら今日は、小瀬川さんを吊り指定ですか・・・?」

優「むむ・・・確かに怪しいけど、それで無駄吊りになつたらどうするじえ・・・?」  
久「とりあえず、私は恋人ではないわ。だから私が後追いすることはないけど、明日になつてまだ恋人が残っているならその時点でアウトね・・・!」

透「ですが、この際怪しいところは吊るべきですわ!竹井さんを吊れないと言うのなら、小瀬川さんで試してみるべきです!」

一「・・・そうだね。もしそれで外したら、もう恋人はいないって信じて人狼に投票するしかないんじゃないかな?」

咲「私も賛成です。他にもう手はないかと思えます・・・。」

未「えつと・・・!?」

優「こ、これは・・・吊るべきだじえ・・・？」

久「・・・確かにシロは怪しいわね。でも・・・」

白「・・・少し、気になったんだけど・・・」

透「ん・・・？」

未「小瀬川さん・・・？」

白「・・・その3人、何だか急に同調し始めたね・・・そんなに私を吊りたい・・・？」

優「じえ・・・？」

咲「・・・それ、もしかして私たちですか・・・？」

一「・・・なるほどね。疑われて尻尾が出てきたってことかな・・・？」

透「つまり、私の予想が当たったということですかね!？」

久「・・・違うわ。これ、恋人って咲と一なんじゃない・・・？」

未「ええ!？」

咲「騙されなくてください、吉留さん。おそらく、小瀬川さんと部長が恋人です。」

一「そうだね。これ、間違いないと思うよ。」

優「ど、どっちが正しいんだじえ……!?!」

咲「私たちだよ。優希ちゃん、もう部長に騙されないでね?」

久「本当に可愛げのない後輩ね……まあ、咲と一が恋人で間違いないわ。それで、おそらく龍門澗さんがキューピッドよ。」

透「違いますわね! 恋人は竹井さんと小瀬川さんですわ!」

白「……吊り指定するよ。今日は宮永さん。もしこれで違ったら、明日は人狼で……」

一「さすがにそれには従えないよ。どうして恋人の指示に従わなくちゃいけないのさ?」

透「一の言う通りですわ! 今日の小瀬川さんを吊るべきです!」

久「私は咲に投票ね……。でもこれ、すでに2対3で不利ね……。!?!」

白「……片岡さんと吉留さん次第だね……」

未「え、ええ!?!」

優「だじえく!?!」

咲「……信じてとしか言えないかな。あんまり言い過ぎて、言い訳に聞こえちゃうかもしれないし……!」

一「うん。ここは2人の判断に任せるしかないね……。!」

未「いや、あの、その・・・!?」

優「こういうのはやめてほしいじえ・・・!?」

久「・・・言っておくと、あなたたちのどちらかがシロに投票した時点で決着よ。よく考えて投票してね?」

透「相手の優しさにつけこむような言い方はやめて下さる!?」

白「・・・事実だしね・・・」

一「違うね。恋人は間違いなくそっちだよ・・・!」

優「うう・・・でもこれ、シロ姉ちゃんが吊れて、恋人じゃなかったら・・・」

久「・・・優希を人狼認定する人が残るでしょうね。恐らく私もやられるだろうし。」

優「そ、それも困るじえ!?」

咲「優希ちゃんが人狼かどうかは分からないよ。まだ国広さんが人狼の可能性だってあるんだから。」

久「咲のその言葉、明日も本当にそのままなのかしらね・・・?」

咲「む・・・!」

優「・・・き、決めたじえ! 私は咲ちゃんに投票するじえ!?」

咲「つて優希ちゃん!?」

未「あ、ずるい!?」



一「・・・ボクが言うのもなんだけど、恋人勝ちでもいいっての・・・!?」

優「ち、違うじえ! 咲ちゃんがいつぱい喋ってるときは、大体嘘をついてるじえ!」

咲「それ酷くない!」

久「優希正解ね。優希もようやく咲の相手に慣れてきたんじゃない・・・?」

咲「ぶ、部長に言われたくはないですよ!」

ト：さて、残り1分さ。

今日の結果が楽しみだね?」

未「う、嘘・・・!」

白「・・・私は宮永さんに投票するよ・・・」

透「私は小瀬川さんですわ!」

久「咲ね。それしかないわ。」

咲「いいえ。ここは小瀬川さんに投票するしかありえません!」

優「きつと今度も咲ちゃんは嘘ついてるじえ! もう騙されないじえ!」

一「片岡さんは人狼だしね。ここは長引かせて、最終日に逆転を狙ってるんですよ・・・」

?

優「そういう難しいのは分かんないじえ！」  
一「」

ト：さて時間さ。

今日はどうなるのかね？

未「・・・か、華菜ちゃん・・・!？」

○投票結果

久(0) ↓ 咲      優希(0) ↓ 咲      咲(4) ↓ 白望      白望(3) ↓ 咲

一(0) ↓ 白望      透華(0) ↓ 白望      未春(0) ↓ 咲

投票の結果、宮永咲さんは処刑されました。

咲「嘘・・・!？」

どうやら、国広一さんは後追い自殺をしたようです。

一「……あくあ……」  
透「」

この瞬間、人狼は全て処刑されました。  
おめでとうございます！

今回は村人の勝利です!!

未「あ……!?!」

優「や、やったじえく!」

久「吉留さん偉いわ!」

白「……助かったね……」

咲「うわ．．．最後に負けるなんて思わなかった．．．」

一「ごめんね？もう少し上手くフォロー出来れば良かったんだけど．．．」

透「あと少いで．．．あと少しというところで．．．!？」

龍門 瀧透華（キューピッド） 国広一（恋人&人狼）

宮永咲（恋人&村人）

智「．．．やつぱり、一が恋人だった．．．」

一「アハハ．．．さすがにばれてた？」

京「うえ．．．つまり、どう転んでも俺らの勝利は無かったってことっすか．．．!？」

塞「はあ．．．どうにも騙りつてのは苦手よね．．．」

沢村智紀・須賀京太郎（人狼） 国広一（恋人&人狼） 白沢塞（狂人）

白「．．．終わった．．．ダル．．．」

胡「ほら、最後までシャキツとする！」

和「」

久「．．．咲が恋人って分かった途端に固まっちゃったわね．．．っていうか、あな  
たが狩人だったのね？」

未「うう・・・一度もGJできませんでした・・・!!」

純「そんな代わり、最後にフラインプレーじゃねーか。よく間違えなかったな・・・!!」

小瀬川白望・鹿倉胡桃（共有） 竹井久（占い） 原村和（霊能）

吉留未春（狩人） 井上純（猫又）

咲「むう・・・あとちよつとで勝てたのに・・・」

優「やっぱり咲ちゃんには油断出来ないじえ!」

A「オソロシイヤツ!」

ハ「年頃の女性に恐ろしいとは言えませんが・・・確かに、中々の話術かと。」

美「今回は迷惑かけちゃったし、次は気をつけないと・・・ところで、華菜はどうして落ち込んでいるの?」

華「（みはるんのおかげで勝てたけど、私は初日落ちだし・・・!?!）」

豊「とにかく、勝てて良かったんだよ♪」

片岡優希・エイスリン・ウィッシュユアート・姉帯豊音・福路美穂子・池田華菜・ハギヨシ（村人）

宮永咲（恋人&村人） 初日犠牲者（村人）

衣「うえゝ・・・負けちゃったく・・・！」

ま「・・・まああれじゃな。これなら最初つから困つときや良かったわ・・・」

天江衣（狐） 染谷まこ（背徳者）

咲「もう・・・友達を疑うなんて酷いよ、優希ちゃん。」

優「騙そうとした咲ちゃんには言われたくないじえ。」

華「でも、みはるんよく分かったし！どうして分かったんだし!？」

未「そ、その・・・片岡さんと宮永さんなら、嘘が得意そうなのは宮永さんかなうつて・・・」

咲「うぐつ・・・」

優「・・・これは、素直に喜んでいいのかだじえ・・・？」

華「なるほど・・・納得だし！」

優「むう・・・!？」

ハ「今一步でしたね、透華お嬢様。」

透「全くですわ！あと少しで私が華麗に勝利宣言を出来ましたのに・・・!？」

純「まあでも、何で宮永と国広君を恋人同士に指定したんだ？なんか理由でもあのか？」

透「もちろんですわ！あの2人なら、確実に勝利を決められると厳選した結果ですわ！」

純「なるほどね．．．」

一「．．．」

純「まあそういう理由みたいだし、変に落ち込む必要はないみたいだぞ？国広君？」

一「べ、別に．．．ボクは何も気にしてないよ．．．！」

智「．．．でも、おかしいとは思った。私が●を出された日の夜、なんで占いを狙わなかったのか．．．」

一「あ、やっぱりそれでばれてた．．．？」

純「ん？どういうこと？」

智「．．．夜に、竹井さんを噛もうとしたら、一に反対された。ここで噛むと、自分の場所が予想されるかもって言ってたけど．．．」

透「あら、なんで噛みませんでしたの？」

一「その．．．透華がすぐにボクを囲って、宮永さんにも○をつけたから、おそらくキューピッドだろうなってのには気付いてたんだ。ただ、竹井さん噛むと智紀と透華が

吊られちゃって……」

純「……なるほど。人狼と恋人、両陣営のPPがやりづらくなるって思ったわけか……？」

智「……おそらくそうなんだろうとは予想できたけど、人狼が勝つにはもう一に頼るしかなかったから……」

ハ「国広さんが恋人ではないという可能性に賭けたわけですね。」

智「……うん……」

純「結果的には最悪な結末になっちまったってわけか……」

一「そのお……ごめんね？ともきく。」

智「……仕方ない……」

豊「シロのおかげで勝てたよ〜♪」

A「ヤッタゼ〜♪」

白「……別に、特に何もしてない……」

胡「それでもないと思うよ？最後、恋人を見抜いてたじゃない？」

白「……いきなり3人が話を合わせてきたから、おかしいと思っただけ……」

豊「でも、よくそれに気付いたんだよ〜♪」



A 「マツタクダ〜♪」

白 「・・・ダ、ダル・・・」

和 「・・・そんな、咲さんが他の人と恋人だなんて・・・!?」

塞 「・・・こつちはこつちで違うところにシヨックを受けてるしね。」

美 「・・・仕方ないことかと。原村さんの気持ち、私には理解できません・・・!」

和 「福路さん・・・!」

塞 「?・・・どうということ?」

美 「・・・私も、久が別の人の恋人だったらと思うと・・・!?」

塞 「・・・ああ、なるほど・・・」

和 「・・・福路さん!」

美 「原村さん!」

塞 「・・・何か芽生えてるっぽいけど・・・巻き込まれる前に、退散しとこ・・・」

衣 「むう・・・まさか衣の迷彩を掻い潜ってくる者がいるとは・・・!?」

ま「……一応聞いてやるが、どのへんが迷彩だったんじや……?」

衣「うむ! あえて怪しいユーキを疑うことで、自らへの視線をそらすのだ!」

ま「……」

衣「エツヘン」

ま「……あれじやな。そりやあ高等技術すぎて、周りには効かんと思うぞ?」

衣「な、何と……それ故掻い潜られたか……!」

ま「……多分な。」

衣「むむむ……!」

ま「……ああ龍門瀏さん。ちよいとあんたに話があるんじやが……」

ト「……さて、時間的に次が最後になりそうだね。最後はどんな内訳にしようか……」

ハ「……それは、私にお任せいただけませんかでしょうか?」

ト「ん?……でもあんたは、次も参加するんだろう?」

ハ「いえ、透華お嬢様の許可はいただきましたので、次回は進行役に回らせていただきます。熊倉様は、次回はどうぞゲームにご参加下さい。」

ト「おや……そりやありがたいね。それじやあお言葉に甘えて、次回は私も参加するでしょうか……」

京「次こそは、俺が活躍してみせる・・・！」

咲「・・・嫌なフラグにならなければいいんだけどね。」

優「全くだじえ！」

続く・・・

## 清澄・宮守・龍門渕十α（犠牲者たちの集い）

○3日目（昼） 華菜・豊音

豊「あうう……もう嘯まれちやったよお……」

華「残念だったし。でも、仕方ないし！」

豊「そっだよね。ここは我慢だよ……！」

華「そうするし！……で、姉帯さんはどう思ったし？」

豊「え？あ、占い師？」

華「そうだし。」

豊「うくん……まだよく分かんないよ……」

華「やっぱり……正直、あんなにいつぱいいたら判断に困るし！」

豊「そっだよね？個人的には塞が真だといんだけど……？」

華「それ、完全に身内目線じゃ……あ、でも白沢さんが●出したし。」

豊「ええく!? 胡桃、人狼だったのく!?」

華「これが本当だったら、白沢さん真目の可能性があるんだけど．．．?」

豊「ど、どうなんだろう? やっぱり、胡桃を吊るしかないよね?」

華「だなく。それぐらいしか判別が．．．．．もう出たし。」

豊「．．．塞、嘘つきだったよ。」

華「そう落ち込むなし．．．とにかく、一步前進したってことだし!」

豊「う、うん! 勝利に、一步近づいたんだよ!」

○4日目（昼） 華菜・豊音・塞・まこ・純・衣・京太郎

華「一気に増えたし!」

豊「な、何が起こったのく!?」

京「うわあ．．．最悪だく．．．!」

衣「むう．．．やられた．．．」

純「残念だったな?」

ま「はあ．．．何となくこうなるんじゃないかと予想しとったわい．．．」

塞「いや〜みんな残念だったね!」

京「……なんか、滅茶苦茶嬉しそうっすね……?」

ま「……あれじゃ。自分以外にも占い師が脱落したのが嬉しいんじやろ。」

豊「塞、嘘は駄目だよ?」

塞「うぐつ……ち、違うのよ豊音。あれは……あれは、胡桃とシロの罠だったのよ!」

豊「え、ええ?!!」

華「……ん?」

衣「ふえ?」

塞「そう!あの2人、実は人狼の騙りだったのよ!どうやら、共有が乗っ取られちゃつてるみたいなの!」

豊「そ、それ大変だよ?!!」

衣「な、何と……共有が騙りだったとは……!」

塞「……あ、あれ?」

純「あく……衣の情操教育に悪いから、あんまそういう嘘は教えないでやってほしいんだが……」

ま「……素直すぎるんも、問題じゃつちゆうことじゃな……」

京「いや、これに騙されるつても……」

華「……とにかく、ちゃんと責任はとるし。」

塞「……いや、その……」

豊「ど、どうすればいいの〜!？」

衣「このことを向こうに伝える方法は……!？」

塞「……やっぱ、嘘って苦手だわ……!」

京「……ちなみに、染谷先輩って恋人だったんすか？」

ま「さあのう。終われば分かるじやろうて。」

純「俺目線ではある程度の見当はつくんだけど、染谷だけが微妙なんだよな……」

華「むう……とりあえず、お前は人狼だし!」

京「違うっすよ?」

華「……あれ!？」

純「ん?……いや、けどそれってありえんのか……?」

ま「……ふむ。」

華「ど、どうなってるし……?」

京「もう少しすれば分かると思うっすけど……って、福路さんが怪しい行動とつて  
るっすね……?」

華「キャ、キャプテン!？」

純「恋人じゃねくかつて疑われてんな．．．それが当たりなら、染谷は背徳のみつて  
 ことで確定なんだが．．．?」

ま「．．．ま、もうすぐ分かるじやろ。」

豊「塞はやつぱり嘘つきだよ〜!」

衣「嘘つきだよ〜!」

塞「ご、ごめん．．．」

○5日目（昼） 華菜・豊音・塞・まこ・純・衣・京太郎・美穂子・エイスリン

A「マタカマレタ!？」

塞「あ、エイちゃんお疲れ〜。」

A「サエ!．．．ナニシテル？」

塞「その．．．罪滅ぼし．．．」

豊「早くお茶がほしいよ〜♪」

衣「喉が渴いたぞ〜♪」



A「？」

華「キャプテンもお疲れ様ですし！．．．でも、何であんなことしたんです？」

美「その．．．聞かないでくれると助かるかしら．．．」

華「？」

純「．．．けど、風越のキャプテンも恋人じゃなかったんだな。つてことは、やつぱ

染谷が恋人だったのか．．．？」

京「どうなんすかね？もし恋人なら、相手つて．．．？」

純「須賀か衣だよな？」

京「井上さんか天江さんつすね？」

ま「ふむ．．．どうやら、久が●を見つけたようじゃの？」

京「げっ．．．」

純「おう．．．智紀のやつが人狼だったのか？」

美「だとすると、久は真でいいのかしら．．．？」

A「ギャクカコイ！」

ま「その可能性もあるのう。咲が言っておる通り、ありえないつちゆうんが一番気をつけないといかんところじゃ。」

華「だとすると、後は竹井さんがラストだし？．．．つて、LW!？」

京「うえ!？」

純「はあ!?!いや、あと1匹いるはずだろ!？」

美「そんな、じゃあもう1人って・・・白沢さん!？」

A「ジ〜〜〜〜」

豊「じ〜〜〜〜」

衣「じ〜〜〜〜」

塞「・・・・・・・・ち、違うわよ?」

A「サエ、ウソツキ!」

豊「もう怒ったんだよ!」

衣「とりや〜!」

だ、だから違うんだってば〜!?

テンチュウ〜!

もう信じないんだよ〜!

くすぐれ〜!

ちよ、やめ、あひゃ・・・!?

ま「・・・哀れな結末じゃ・・・」

美「須賀くんはそつちを向いててくださいいね？」

京「ういつす。」

○6日目（昼） 華菜・豊音・塞・まこ・純・衣・京太郎・美穂子・エイスリン・和

胡桃

胡「・・・何これ？」

塞「チーン♪」

豊「悪は滅びたよ♪」

衣「オウ殺だ♪」

A「クルミ、オツカレ！」

胡「う、うん。ありがと。・・・で、何これ？」

美「まあ、色々あったということだ・・・」

胡「？」

和「……咲さんが、私を信じてくれた……！」

華「……これも一体何事だし……？」

ま「……まあ、こつちはいつも通りなだけじゃな。」

京「通常運転つすね。」

華「」

和「……ですが、許せないのは沢村さんですね。まさか私を陥れようとは……！」

純「ん？恋人じゃなかったみて〜だけど、それでも人外なんじゃなかったのか？」

和「違います！白沢さんは間違いないく〇でした！つまり、まだ人狼は残っているん

す！」

豊「え？」

衣「ん？」

A「才？」

塞「……だから、違うって言ったのに……！」

美「あ……久と龍門澁さんが……」

ま「……国広か優希のお。優希ならわしが占ったんじゃが……」

胡「む……もしかして、染谷さんが本当に真だったりする？」

ま「もちろんじゃな。」

京「違うつす！真は俺つす！」

豊「人狼じゃないの？」

衣「もしくは狐だく！」

A「ケダモノ！」

京「ちよっ!？」

和「またなにかやったんですか・・・!？」

胡「・・・まさか・・・！」

京「いや、何もしてないって!？」

A「・・・サエノ、アラレモナイスガタ・・・！」

和「切りましょう。」

胡「うん。」

京「だから本当に違うんだってく!？」

○7日目（昼） 華菜・豊音・塞・まこ・純・衣・京太郎・美穂子・エイスリン・和

胡桃・智紀・ハギヨシ

ハ「ふむ・・・？」

京「チーン♪」

智「・・・なに・・・？」

和「悪の末路です。」

胡「本当に切らなかつただけ感謝する！」

ハ「・・・なるほど。深くは聞かないほうが良さそうですね。」

智「・・・同意・・・」

美「それより、沢村さんは人狼なんですよね？仲間はどちらなんでしょうか・・・？」

智「・・・まだ言えない。でも、恋人が分かったかも・・・」

華「マジだし!？」

豊「ふえく!？」

衣「だ、誰なんだく!？」

A「オシエロ!？」

智「・・・恐らく、LWが恋人・・・」

京「嘘お!？」

胡「あ、復活した。」

和「もう少し強めに折檻したほうが良かったでしょうか．．．？」

京「もうやめて!?!?．．．って、それより今の本当っすか!?!?」

智「．．．確証はないけど、多分．．．」

純「おいおい．．．ってことは、まだ恋人が残ってるってことか．．．!?!?」

塞「それ、さすがにきつくない．．．!?!?」

ま「ふむ．．．これはまた．．．」

豊「．．．あゝ! 宮永さんがシロを疑ってるよく!?!?」

A「ナンデストゥ!?!?」

純「国広君と透華のやつもだな。これ、当たり前なのか．．．?」

智「．．．っ!」

京「え．．．まさか．．．!?!?」

ま「っ!．．．久が、咲と国広が恋人じゃと断言しおった．．．!?!?」

和「そんなオカルトありえませんか!」

京「あ、何だかすげ〜久々に聞いた気が．．．」

和「ギラン!?!?」

京「」

ハ「ふむ。これは、一体どちらが正しいのか……？」  
美「久……!？」

ゲームは終了いたしました。



清澄・宮守・龍門澗+β ①

ハ：それでは、今回は私が進行を務めさせていただきます。

ト「代わりに私が入るよ。お手柔らかに頼むね？」

塞「先生が入るんなら、心強いです。」

豊「百人力だよ♪」

A「オウ♪」

胡「百人力はいいけど、人外だったら大変だからね！」

白「・・・ダルい・・・」

ハ：今回の内訳ですが、頭を使いすぎて大変だと思い、少し易しめに設定しました。

久「ありがたいわね・・・。」

咲「そうですね。さすがに4陣営とか頭が痛くて・・・」

和「考えることが少なくてすむというのは、正直助かりますね。」

優「全くだじえ。でもこれだと、私の活躍の場が減りそうだしえ……！」

京「……そもそも、今まで活躍してたっけか？」

優「何だどっ!？」

ま「ほら、大人しくしときんさい。」

ハ：では、内訳の説明です。

人狼（4）、狂人（1）、狂信者（1）、サイコ（1）、共有（2）、占い（1）、霊能（1）、狩人（1）、コス（1）、猫又（1）、村人（7）でございます。

華「」

未「易しめ、かな……？」

美「……狐や恋人がいないのは、確かに助かるんだけど……」

華「……結局頭使いそうだし……!？」

ハ：そこはご了承ください。

ちなみに、初日役欠け、必ず有り。占い有り、でございます。

純「……ちよつと待て。」

一「今、役欠けが必ず有りつて……」

智「……鬼畜……」

衣「でも、今回は人狼側の役職もいっばいだ！あつちが欠けてるかもしれないぞ〜？」

透「そう願いたいですわ……!?!」

一「何ていうか……油断出来ないつてことが分かっただけ、まだマシなのかな……」

純「とてもそうは思えね〜けどな……」

衣「むむ、衣は頑張るぞ〜！」

ハ：初日は10分で参ります。

以降は1分ずつ減っていくのでご了承を。

スキップも可能ですので、どうぞご利用下さい。

ト「おやおや……初プレイだっていうのに、ずいぶんと容赦がないね〜？」

豊「先生なら大丈夫だよ〜！」

A「ダイジヨブ！」

久「けど、またサイコにコスが参戦するのね・・・」  
 咲「・・・結局、頭が痛くなりそうだね・・・」

ハ：それでは、さっそくスタートいたします。

人狼ゲーム、イン清澄、最終戦。

スタート。

○2日目（昼） 犠牲 ハギヨシ

処刑 なし

生存 久・まこ・優希・和・咲・白望・エイスリン・胡桃・塞

豊音・純・智紀・一・透華・衣・美穂子・未春・華菜

京太郎・トシ

ハギヨシさんの無残な死体が発見されました。

ト「さて、それじゃあみんな、よろしく頼むよ？」

咲「よろしくお願ひします。」

久「よろしくお願いします・・・はいけど、人狼側じゃないですよね・・・？」

ト「もちろんさ。私はちゃんと村人側だよ？」

豊「なら安心だよ♪」

A「アンシン♪」

衣「安心だ♪」

胡「(増えてる・・・!?)」

塞「さて、それじゃあ早速なんだけど・・・CO、共有よ！」

白「・・・塞が・・・？」

華「今度は騙りじゃなさそうだし！」

優「多分、だじえ！」

胡「ううくん・・・嘘じゃないんだよね？」

A「サエ、ニセモノ？」

塞「何で?!一応言うけど、相方もちゃんと伏せてるからね!？」

美「対抗の方はいらっしやいますか？」

透「いなければ、白沢さん真で確定ですわ。」

純「・・・いなそうだな。」

一 「じゃあ確定だね。よろしく頼むよ。」

胡 「むう・・・本物だったか・・・！」

A 「ザンネン・・・」

塞 「あんたらは・・・ま、まあいいわ。とにかく！これでようやくまともな仕事が出るつてもよ！」

未 「そうですね。頑張つて下さい。」

ま 「ま、程ほどにな。」

塞 「それじゃあ早速なんだけど・・・」

一 「あ、その前にいいかな？」

衣 「ふえ？」

透 「どうかしたんですの？」

一 「悪いんだけど、始めにＣＯしておくよ。ボク、霊能ね。」

優 「じえ・・・!？」

胡 「む・・・！」

塞 「国広さんが？でも、何で先に出てきたの？」

一 「占いの後から出ると、様子見してる人外に騙られそうだからね。だから先に言うておこうと思つてさ。」

胡「それは騙りだよ！CO 霊能！」

優「また出たじえ!？」

咲「・・・これは・・・」

久「・・・どちらかが真と見ていいのかしらね・・・？」

胡「もちろん私が真だよ！国広さんは騙りだからね!？」

一「騙りはそつちだけだね。ところで、もう騙りはいないの？」

塞「きよ、共有は私なんだけど・・・とにかく、出ちやったものはしょうがないわ！

霊能はもういない!？」

未「・・・いなそうですね・・・？」

一「そう。もう1人出るようなら霊ロラを提案してたけど、命拾いしたね？」

胡「む！これ、霊能を消したがってる人外の台詞!？」

一「何言ってるのさ？霊能が3人も出るなら、ロラしたほうが効率がいいでしょ？」

和「・・・確かに、国広さんの台詞にも一理ありますね。」「

ま「時と場合にもよるがの。しかし、確かにそれも有効な手じゃな。」

豊「じゃあじゃあ、どつちかが霊能で合ってるのかな？」

白「・・・確信は出来ない・・・」

美「そうですね。何せ今回は、どれかの役職が必ず欠けているわけですし……！」

透「下手に信じて、2人とも人外だったらたまつたものじゃありませんわよ……！」

一「む……透華はボクを信じてくれないんだね……」

透「へ？あ、いえ、そういうわけではないんですのよ……！」

胡「そこ！同情で信用を取らない！」

智「……どう判断する……？」

純「……正直分からねくな。そもそも、真がいるのかすら定かじゃねえし……！」

ト「そうだね。ところで塞？そろそろ占いにいかないのかい？」

久「そうね。霊能の真偽はおいといて、とりあえず次にいきましよう？」

京「今回は何人出るんすかね……！」

華「頼むからいっぱい勘弁だし……！」

塞「それじゃあ、占いにいくよ？占いの結果を言つてよね？……せくの！」

久「天江さん、○よ。」

咲「和ちゃん、○です。」

ト「井上純さん、●だったよ。」



純「……はあ!？」

和「……決まりましたね。」

久「……さつき、村人側だつて言つてませんでしたっけ？」

ト「言つたね。嘘はついてないよ？」

咲「嘘ですね……つていうか、部長も人外ですか……!」

久「私から見たら、相手にしたくないのが2人も人外にいるようにしか見えないんだけどね……!」

白「……むう……」

A「ウラナイ……3ニン?」

未「予想してたよりは少ないけど、もしかしてこれつて……?」

京「占い欠けつすか……!？」

和「真は咲さんです!」

ま「いや、そう簡単に決めるわけにはいかんじやろうが……」

優「和ちゃんクオリティーは揺ぎ無いじえ……!」

ト「さて……一応理由を説明したほうがいいんだらうけど、あいにく今回のには理由はないよ。適当に選んだ結果さ。」

純「おいおい……そんな理由で俺に●つけて、信じられると思つてんのか……!？」

ト「私は昔から、ここぞつてときの選択に強くてね？あまり外したことがないのさ。」  
 一「むう・・・怪しいとは思うけど・・・これ、どう思う？」

透「見た目的には、狂人の特攻に見えますけど・・・」

華「でも、逆囲いの可能性もあるし！」

純「そもそも俺は人狼じゃね〜つての!？」

久「狂人の特攻か、それとも人狼の逆囲いか、判断に苦しむところね・・・。私が占つたのは天江さんね。今までに比べてやけに気合が入ってるみたいだから、もしかしたらつて思ったの。もし役職持ちだったらごめんなさいね？」

衣「おお、竹井は衣を占ってくれたんだな!？衣は村人だけど、今回は勝つために頑張るつもりだ！」

豊「頑張つてね〜♪」

A「オウエンズル♪」

衣「うむ♪」

胡「・・・なんか、新しいトリオが結成されてるね・・・!？」

久「・・・これを見ると、私ミスったかと思うわね・・・」

ま「まああれじゃ。確かに演技力には要注意じゃな。」

咲「でも、お2人が騙りであることは確かですからね？」

和「待っていました。咲さんの占い理由を聞かせてください。」  
優「」

京「揺ぎ無えな・・・」

咲「私が占ったのは和ちやんだね。理由って程じゃないけど、まずは和ちやんの色を確認したかったっていうのが正直な感想だよ。」

和「なるほど。どうやら咲さんが真であることが・・・」

ま「あゝ・・・ちよいとお前さんは黙つとこうなく？」

和「モゴモゴ・・・!？」

智「・・・どう思う・・・？」

未「理由は弱いけど、でも初日だしね。それに友達の色を知りたいっていうのはおかしくないし・・・」

塞「そうなんだよね・・・ってことは、今回の吊り指定は・・・」

純「・・・まさか、俺じゃねくよな？」

塞「アハハ・・・ごめんね？」

純「いやいや、どう見ても狂人の特攻だろ!？」

一「仕方ないんじゃないかな？ここは純くんの色を見て、熊倉さんの真偽を出すほうがいいと思うよ？」

純「ま、まじで!」

衣「むう……純はもう終わりなのか。可哀相に……」

豊「残念なんだよ……」

A「アワレ……」

透「……まあ仕方ないですわね。自分が村人だと言うのなら、ここは素直に吊られて潔白を証明なさいな?」

一「そうだね。純くんが村人なら、ちゃんと○出してあげるから心配しないでいいよ?」

純「いや、国広くんが人外だったときが怖えんだけどな……?」

胡「そつちは騙りだから信じちゃ駄目だよ!村人なら私が証明するから!」

塞「……こつちもこつちで信用しづらいんだよね……」

胡「む!塞、友達を疑うのってどうかと思うよ!」

A「トモダチジャナイノカ!」

塞「それ、あんた達だけには言われたくないわよ!」

白「……どうどう……」

ま「……まあ今日は、井上さん吊って色の確認じゃな。」

純「はあ……仕方ねえか。けど、ちゃんと証明してくれよな!」

一「分かってるって。」

胡「私に任せて！」

塞「じゃあ今日は井上さんに投票で決定ね。あと護衛なんだけど、それぞれの判断に任せるからよろしく！」

ま「ふむ？どつかの誰かさんみたいに自分専用にはせんのか？」

久「ちよつと・・・！」

塞「それも少し考えたんだけどね。護衛は護衛で動いたほうが、人狼も動きが読みづらいだろうって思ってる。」

衣「なるほど！」

豊「塞、冴えてるよろ！」

A「カシコイ！」

塞「エツヘン」

和「・・・少し考えれば、誰でも分かることだと思うのですが・・・？」

咲「そこは、あえてスルーしてあげないと・・・」

和「分かりました。」

優「ともかく、今日はノツポに投票だじえ！」

京「お疲れ様です。」

純「ちつ・・・せめてもうちよい参加したかったぜ・・・」

塞「それじゃあそろそろスキップするよ？もういい？」

ト「私は構わないよ？」

咲「いいと思います。」

美「そうね。他に話すことはないみたいだし。」

透「構いませんわ！」

塞「了解。それじゃ・・・」

『スキップで！』

ハ：畏まりました。

では、投票をスタートさせていただきます。

○投票結果

久(0) ↓ 純	まこ(0) ↓ 純	優希(0) ↓ 純	和(0) ↓ 純
咲(0) ↓ 純	白望(0) ↓ 純	エイ(0) ↓ 純	胡桃(0) ↓ 純
塞(0) ↓ 純	豊音(0) ↓ 純	純(19) ↓ トシ	智紀(0) ↓ 純

一 (0) ↓ 純 透華 (0) ↓ 純 衣 (0) ↓ 純 美穂子 (0) ↓ 純  
 未春 (0) ↓ 純 華菜 (0) ↓ 純 京太郎 (0) ↓ 純 トシ (1) ↓ 純  
 投票の結果、井上純さんは処刑されました。

純「ちえっ・・・初日落ちつて、ついてねくな・・・」

○3日目(昼) 犠牲 ハギヨシ・和・京太郎

処刑 純

生存 久・まこ・優希・咲・白望・エイスリン・胡桃・塞・豊音

智紀・一・透華・衣・美穂子・未春・華菜・トシ

原村和さんの無残な死体が発見されました。

須賀京太郎さんの無残な死体が発見されました。

ハ：皆様、おはようございます。

昨晚の犠牲者は、原村さんと須賀くんだったようですね。

昨晚何が起こったのか、興味が尽きないところではありますが・・・  
今日の会話時間は9分でございます。

時間は無駄にはせぬよう、お気をつけください。

それでは3日目、スタートいたします。

塞「みんな、おはよう・・・は、いいんだけどさあ・・・？」

久「・・・早速出ちゃったわけね、犠牲者が・・・！」

美「これ・・・サイコの餌食になったってことですよね・・・？」

ト「おそらくね。もしくは猫又っていう可能性もあるけど、後のことを考えるとまだCOさせて確認すべきじゃないからね。」

優「狐がないから、死因は間違いなくサイコか猫又だじえ。でもこれ・・・」  
未「どつちが、サイコの犠牲者なんでしょうか・・・？」

白「・・・それも分からないけど、犠牲になった人の役職も問題・・・」

華「そうだし！人狼が噛んだんならいいけど、護衛だったらもう1人いなくなっ  
ちやったってことだし!？」

塞「それも確認したいとこだけど、さすがに出来ないしね・・・とにかく！まずは井



上さんの霊能結果からよ。2人ともお願い。せくの……!」

胡「井上さん、●だったよ!」

一「純くん、○だね。」

透「なつ……!?!」

衣「純が●?!?!」

胡「私も驚いたけど、井上さんは●だったよ!おそらく昨日のあれ、全部演技だったんだね!」

一「……まさかいきなり尻尾を出すとは思わなかったな……純くんは間違いなく○だよ。これでボク目線、熊倉さんはすでに破綻だよ。出来れば対抗も吊ってほしいところではあるけどね?」

胡「違うから!井上さん、間違いなく●だからね!?!」

優「じえく……!?!」

ま「こりやあ……いきなり分かれるとはのう……!?!」

美「こうなると、まだ熊倉さんの真偽がつけられないですね……」

華「全くだし!2人とも○なら、間違いなく破綻で吊れたし!」

ト「・・・一応言っておくと、その場合は霊欠けだね。私の結果には間違いなく●つて出てたんだからさ？」

久「・・・狂人の誤爆？それとも、本当に逆囲いのつもり・・・？」

咲「・・・どっちが・・・!?」

塞「・・・し、仕方ないわ。こうなったら占いよ！みんな、せくの！」

ト「染谷さん、○だね。」

咲「小瀬川さん、○です。」

久「沢村さん、○よ。」

未「・・・●は無しだね・・・」

ト「さすがに、2連続つてわけにはいかなかったね。私が調べたのは染谷さんさ。何がどうこうつてわけじゃないけど、どうにも彼女が引つかかってね。ま、結果は勘違いさ。」

ま「ふむ。まあ今回は何も持つとらんしな。勘違いさせてしまったなら申し訳ないわい・・・。」

咲「私は小瀬川さんを調べました。寡黙気味な人たちの中でも、特に気を抜けない」

人ですからね。注意して調べてはみたんですが……外れでした。」

白「……ん。今回は村人のみ……」

久「で、私が調べたのは沢村さんね。理由は咲と同じで、ステ気味な人の中から選んだわ。結果は見事に失敗だけどね？」

智「……同じく、村人のみ……」

優「参つたじえ……つてことは、これはグレランだじえ……？」

透「それしかなさそうですわね……？」

一「ボク的には対抗か熊倉さんを指定したいんだけどね？」

ト「それは困るね。まだあと3匹も残ってるんだから、ここで吊られるわけにはいかないよ。」

胡「私だつて同じ！むしろそっちを指定したいんだけど!？」

豊「あうう……今回は、誰が真なのかなあ……？」

A「ワカラン……」

衣「むむむ……!」

塞「……まあこの結果だと、グレランしかないわよね。とりあえずここからは、残つた時間を使って話し合っていきましょう?」

久「だとしたら、やっぱり気になるのはあれよね?」

ま「うむ。和と京太郎じゃな。」

未「あれ、どっちが人狼の犠牲者なんでしょうか……？」

ト「須賀くんだったら分かりやすいんだけどね。」

白「……ん……？」

豊「先生、それどういこと？」

A「？」

ト「いやね？須賀くんが犠牲者で、原村さんが人狼だったっていうんなら、すでに人破綻するわけだからね。」

華「む……!？」

咲「……和ちゃんは間違いなく○、村人です。そう言つて私の信用を下げるおつもりですか？」

美「宮永さんの中では、どっちが犠牲者だと思つてるの……？」

咲「……私の中では、若干だけど和ちゃんが犠牲者なんじゃないかと考えてます。おそらく京ちゃんは、人狼か護衛職かと。」

透「それは、何か根拠がぁありますの？」

衣「何か分かつたのか？」

咲「根拠つてほどじゃないんですけど……今回は、狐がいないですよね？だから……」

久「……なるほど。○をつけられた人から噛んでいつて、少しでも発見を遅らせるつもりか……でもそれ、咲が人狼でも可能なことよね……?」

咲「む……!」

豊「そつかく。原村さんは、昨日宮永さんに○を貰つてたんだよね。」

胡「……ん? つてことは……」

衣「……もしかして、次は衣が狙われるのか?!」

智「……可能性は、ある……」

白「……それか、今日○がついた3人だね。私と沢村さん、それに……」

ま「……わしもじゃな。こりゃあ、下手したら明日の朝日は拝めんかもしれんなあ……」

塞「えつと、だとしたら……」

美「なにか妙案が……?」

ま「ふむ。あるなら是非聞かせてもらいたいもんじゃが……?」

塞「いや、その……ごめん。何でもなかった……」

美「え……?」

久「……とにかく、今日のターゲットは○の人物になるかもつてことが分かつただけでも、多少の収穫にはなりそうね。」

衣「そ、そうだな。護衛はそれを念頭において護衛すれば……!」

ト「……みんな騙されてるかもしれないけど、ここは○の人を護衛していいところじゃないよ?」

A「エ? ナンデ?」

未「上手くいけば、G Jが出るんじゃない?」

ト「そりゃあG Jが出るなら儲けもんさ。確かにそれにかけて護衛するのも有りだけど、それで霊能や占い、共有がやられたらどうするんだい?」

一「……そっか。少なくともボク達霊能に関しては、すでに真偽の判定がついてるはずだしね。」

胡「じゃあ私が危ないってこと!?!」

一「いや、危ないのはボクだつて。」

ト「私からしても、危ないのは胡桃だと思うけど……とにかく、それを考えれば下手な博打は打たないほうがいいさ。G Jを狙いすぎて、本当に大事な場所が抜かれちゃったなら、それこそ役職ロラしての推理合戦しか手は無くなるよ。」

咲「……私としても、まだ○を護衛に行く場面じゃないと思います。それに京ちゃん人が人狼ならいいけど、護衛職だった場合、すでに村人の盾役が1つ減っているわけだし……」

華「けど、それで本当に○を噛まれたらどうするし!? 完全に人狼の思う壺だし!?!」

久「・・・結局のところ、狩人たちの判断に任せるしかないわね。役職を守るのか、それとも○を守るのか。ただ役職を守る場合、気をつけないといけないのが・・・」

優「・・・サイコだじえ・・・！」

ま「間違いないわ。おそらくじやが、霊能のお2人さんのどちらかがサイコなんじゃないかのう？」

透「可能性は高いですわね。とりあえず護衛にいった人が、サイコの餌食になったと考えれば・・・」

一「もしそれが本当なら、ますます鹿倉さんは危険だよ。本当にグレランはやめて、鹿倉さんに投票しない？」

胡「違うでしょ！サイコの可能性があるのは、間違いなくそっちなんだから！」

白「・・・ダルいなあ・・・」

豊「うう・・・これ、どっちが本物なのお・・・!？」

A「クルミ・・・ハジメ・・・？」

智「・・・一番危険なのは、人狼とサイコの場合・・・」

未「そうだね。対抗の霊能を人狼が噛んでいたとしたら、すでにサイコの存在を認識しちゃってるわけだし・・・!？」

美「例えそうじゃなくても、人狼にはすでに目星がついてるかもしれないわ。2人の

霊能結果は、すでに分かれちゃってるんだから……」

咲「……厄介ですね。真偽を確かめたくても、下手に占うとアウトだなんて……!?!」

久「そうね……間違えたほうを占えば、明日の犠牲者は私ってわけか……!?!」

咲「私です。」

久「それはないわね。」

咲&久「むむ……!」

ま「……対抗なのは分かつとるが、とりあえずは大人しくしときんさい。時間の無

駄遣いじゃぞ?」

優「そうだじえ!ここは、みんなで話し合うところだじえ!」

久「……どうしたの優希、あなた……!?!」

咲「嘘……優希ちゃんがまるで……!」

優「タコス」

ま「……もうええからお前さんらは黙つとれ。」

ト「……何はともあれ、今日の護衛先は狩人たちの判断に任せるべきだよ。2人残っているんなら、本当にGJが出るかもしれないしね。」



胡「むむ……私、凄く危なげ……!?」

一「それ、ボクの台詞だからね？」

塞「……結論としては、結局は護衛の判断に任せましようってことね。私、まだ何も出来てないじゃない……」

ま「仕方なかるう？共有つちゆうても、なにか特殊な能力があるわけじゃないし  
のう。」

優「そうだじえ。とりあえず確定の○ってだけでもありがたいじえ！」

塞「ありがと……こうなったら、何としても人狼を見つけてやるわ……！」

華「頑張るし！」

豊「頑張るんだよろ！」

A「マカセロ〜！」

衣「お〜！」

胡「(……増えた……!?)」

塞「それじゃ、少し時間残ってるけどどこまでかしらね。今日はグレランで、各自投票してちょうだい。」

ト「分かったよ。」

塞「占いの3人は、各自の目線で怪しい人を占ってみて？とにかく●の一言が聞きた



もう一度投票しなおして下さい。

久 (0)	↓透華	まこ (0)	↓未春	優希 (0)	↓未春	咲 (0)	↓透華
白望 (0)	↓華菜	エイ (3)	↓未春	胡桃 (0)	↓華菜	塞 (0)	↓美穂子
豊音 (0)	↓未春	智紀 (0)	↓美穂子	一 (0)	↓エイ	透華 (3)	↓未春
衣 (0)	↓華菜	美穂子 (2)	↓エイ	未春 (6)	↓透華	華菜 (3)	↓エイ
トシ (0)	↓未春						

投票の結果、吉留未春さんは処刑されました。

未「うわ、処刑されちゃった……って、あれ？あの人なんで……」

4 日目に続く……

## 清澄・宮守・龍門渕十β ②

○4日目（昼） 犠牲 ハギヨシ・和・京太郎・塞

処刑 純・未春

生存 久・まこ・優希・咲・白望・エイスリン・胡桃・豊音

智紀・一・透華・衣・美穂子・華菜・トシ

白沢塞さんの無残な死体が発見されました。

ハ：みなさま、おはようございます。

昨晚の犠牲者ですが・・・悲報といってよろしいでしょうか。

白沢塞様でございます。

これは、人狼が護衛の目を掻い潜ったのか、それとももしや・・・

今日の会話時間は8分でございます。

話し合う内容は尽きぬでしょう。

どうぞ、時間は有効にお使いくください。

それでは4日目、スタートさせていただきます……。

久「……おはよう、みんな。」

美「おはようございます……あの、これって……」

ト「……完全にしてやられたね。よりによって、塞が狙われるとは……」

豊「さ、塞く……」

A「グスン……」

咲「……こうなると、残っている共有の人には出てきてほしいんですけど……」

優「……まさか塞お姉ちゃんがやられるとは思わなかったじゃえ……CO共有だじゃえ……」

華「お前が共有だったのか……?」

優「そうじゃえ。●をつけられるまで潜伏してるつもりだったけど、これは仕方ない

じゃえ……」

ま「……まあ、ある意味予想できた結果じゃな……」

白「……染谷さん……?」

ま「CO共有じゃ。優希、騙るからにはわしと吊られてもらおうぞ。」

優「……じゃえ?!」

咲「……やっぱり出ちやうよね……!？」

衣「へ……ふえくく!？」

美「共有の相方が、2人……!？」

ま「……白沢さんが嘯まれた時点で覚悟しとったわい。今回は潜伏人外が多すぎるからのう。」

優「ち、違うじえ! 騙りは染谷先輩だじえ!？」

ま「優希。残念じゃが、共有を騙った時点で生き残りは不可能じゃ。さつきも言うたが、わしと一緒に吊られてもらうぞ……?」

優「そ、そんなだじえ……」

胡「こ、これ……どつちかは真なんだよね……?」

白「……間違いなく……でも、両方吊るしかないね……」

華「どつちか先に吊って、●が出れば問題ないし!？」

美「確かに●が出れば、残ったほうが真のはずね。でも……」

ま「……まず無理じやろうな。優希、どうせお前さん、狂人が狂信じやろ?」

優「ち、違うじえ! それは染谷先輩の役職だじえ!？」

ま「……ま、こうなるわ。」

豊「うう……どつちを信じればいいのか……!？」

A 「ワカラナイ……」

ト 「……染谷さんの提案通り、両方吊るしかなさそうだね。」

一 「……そうだね。●が出ることを祈ろうか。」

胡 「そんなこと言って、そつちが○つけたら何の意味もないし!？」

一 「それはこつちの台詞。それに、本当の色はちゃんと伝えなきゃいけないしね……!」

透 「……それで、ここからはどうするんですの? 進行役が消えてしまったわけですからわよ……?」

ま 「……霊能と占いの合図位ならわしがやつても問題なかろう。それとも優希、お前さんやるか?」

優 「むう……そう言って、いかにも自分が真のように見せる気だじえ。合図だけなら、別に結構だじえ……。」

ま 「ん。そんならわしが合図を出すわ。ただ最後の投票は話し合いで決めなあかんからもう。さつさといくぞ?」

胡 「うん。分かったよ!」

一 「いいよ。」

ま 「ほんじやまずは霊能の結果じゃ。……せゝの。」

胡「吉留さん、○だよ！」

一「吉留さん、○だね。」

衣「……2人とも○だぞ？」

智「……なら、吉留さんはおそらく村人とみて間違いない……」

美「そうね。霊欠けだとしても、おそらくは間違いないと思うわ……」

ま「ふむ。次は占いじゃ。ええな？……せいの。」

ト「龍門渚さん、○だよ。」

咲「姉帯さん、○です。」

久「龍門渚さん、○ね。」

A「マタ○……」

ト「すまないね、エイスリン。……私が龍門渚さんを調べたのは、昨日の投票の結果さ。やっぱり直前で変更して命拾いした子つてのは、注意しないといけないからね。」



久「私も全く同じね。結果も○だったし、龍門澗さんは村人よ。」

透「も、申し訳ありませんわ。その、吊られたくなかったものでつい……」

一「……でも、宮永さんは姉帯さんを占ったんだね？」

咲「……私も昨日の投票が理由ですね。」

優「?でも、豊姉ちゃんは直接は絡んでなかったじえ？」

豊「あ、あうあう……！」

咲「本人は占われた理由が分かってるみたいですけど……昨日の再投票時、姉帯さんは自分とは関係ないところで投票先を変えています。結果的には、その投票先である吉留さんが吊られました。私から見ると、投票を操作した人狼にしか見えなかったのですが……結果は○でした。姉帯さん、なんでああいうことしたんですか？」

豊「あの、その……ごめんなさいだよ……あのままだと、エイスリンさん吊られちゃうって思ってた……」

咲「……」

ま「……落ち着かんか、咲。お前さん目線では村人なんじやろ?身内で争つとる場合じゃないじやろうが……?」

咲「それは……そうなんですけど……」

A「トヨネ……」

豊「ごめんなさいだよお．．．」

白「．．．豊音も、次は気をつけるはず。だから、許してあげてくれない．．．？」

胡「その、ごめんね．．．？」

咲「．．．本当に、次からは気をつけてくださいね？」

豊「うん．．．」

華「．．．でも、これでまた○だけだし。つてことは．．．」

ま「わしと優希の投票じゃ。●が出ん限り、明日も残ったほうを吊るしかないわい。」

優「残念だじえ．．．」

久「こればかりは仕方ないわね．．．そもそも霊能が真確定出来てないつてのに、それを素直に信じ込むことも出来ないし．．．」

一「．．．本当に、なんで霊能に騙りに来たの？来なければ、もう少しは信用してもらえたかもしれないのに。」

胡「それ、こっちの台詞！」

衣「むう．．．本当に、どっちが真なんだ？」

一「あれ？衣はボクを信じてくれてないの？」

衣「ふえ？そ、そんなことないぞ!!」

胡「だから、そういうの禁止！」

ト「……話し合うことはほかにもあるね。」

智「……狩人……」

白「……もしくはコスだね。今回の欠けって、もしかして……」

咲「……可能性は高いと思います。和ちゃんか京ちゃんがどつちかの職で、もう一個の職が欠けなら……」

美「……だとしたら、次に狙われるのって……!？」

胡「嘘……!？」

一「……ボクか……!？」

胡「って私だから!？」

華「どうすればいいし!? 護衛がいなくて人狼にばれちゃったし!？」

ま「……もしかしたら、昨日は○を守りに行ったのかもしれない。悲観するのは早い……!？」

咲「けど、樂觀視もできません……!？」

久「そうね。……一応言っておくけど、私が噛まれたらこの2人も吊つちやつてちやうだいよね? お願いだから様子見なんてやめてね?」

咲「私の台詞です……!？」

ト「私のなんだけどねえ?」

久&咲&ト「バチバチ・・・！」

豊「あうう・・・!?!」

A「ヒバナチルアラソイ・・・!?!」

衣「け、喧嘩は駄目だぞ〜!?!」

透「とはいっても、対抗ですし仕方ありませんわね・・・。」

優「そうだしえ。対抗は信じられないじえ・・・!」

ま「全くじや・・・!」

優&ま「バチバチ・・・!」

A「コツチデモ!?!」

一「・・・ボク達もやる?」

胡「・・・正直今さらだし。」

一「だねえ。」

智「・・・ここだけ平和・・・?」

美「……2人とも、人外ってことはないかしら……?」

胡&一「それはないから。」

白「……ダルい……」

華「なら、今日と明日は共有を吊るとして、明後日からはまた●探しだし?」

咲「……明日明後日で、●が出ればいいんですけど……」

久「……残りの吊り回数は7回。まこと優希を吊って、残り5回。」

ト「その5回の中に、対抗と霊能の騙りを吊って、残り2回。騙りに人狼が2匹出てくれば助かるんだけどね……」

美「みなさんの目線としては、今どうなっているんですか?」

久「……さすがにまだ情報不足ね。分かるのは対抗が人外。共有も片方は人外。後は霊能の真偽次第かしら……」

咲「同じくです。鹿倉さんが真なら、人狼は残り3匹かもってことぐらいしか……」

ト「私目線が一番はつきりしてるのかもね。少なくとも対抗と、国広さんが騙りだったのは分かっているし、もう1匹は吊ってあるからね。あとは原村さんたちの役職次第さ。」

胡「私の中では、比較的眞目なのは熊倉先生だよ。まだ確定はできないけど、それでも●を見つけてるしね！」

一「ボクは逆に、熊倉さんが間違ひなく騙りだつてことしか分からないな。この中に、人狼があと3〜4匹いるだろうつてことぐらいまでしか・・・。」

透「・・・そうですわ！いつそ、CO猫又させてみたらどうですの!?!この際、初日の夜の結果だけでも確認するべきですわ！」

咲「絶対駄目です。・・・っていうか、私の今日の占い先も決まりました。」

一「透華あ・・・」

衣「猫は探しちゃ駄目つて聞いたぞ〜?」

華「全くだし！」

豊「それは駄目だよ〜?」

A「キョツケイニシヨス！」

透「」

ハ：残り1分を切りました。

皆様、今日の結果をおまとめください。

ト「・・・共有のどちらかに投票だね。」

久「そうね。先に●が出てくれればいいんだけど・・・」

咲「さすがに、それはあまり期待できませんね・・・」

ま「全くじゃな。」

優「むう・・・」

美「なら、どちらに投票するべきかしら・・・？」

華「華菜ちゃんはこつちにするし！」

一「つて言っても、○だったら残ったほうも明日吊るんだからね？」

智「・・・疑わしきは、吊るべし・・・」

透「」

衣「透華く。もうすぐ投票だぞく？」

透「・・・はっ!？」

白「・・・どつちが・・・」

A「エツト・・・？」

胡「うくん・・・？」

豊「えつと、こつちかなく・・・？」

ハ：お時間にございます。

それでは、各自投票をお始め下さい。

○投票結果

久(0)	↓まこ	まこ(6)	↓優希	優希(9)	↓まこ	咲(0)	↓優希
白望(0)	↓優希	エイ(0)	↓まこ	胡桃(0)	↓まこ	豊音(0)	↓優希
智紀(0)	↓優希	一(0)	↓まこ	透華(0)	↓優希	衣(0)	↓優希
美穂子(0)	↓優希	華菜(0)	↓優希	トシ(0)	↓まこ		

投票の結果、片岡優希さんは処刑されました。

優「じえく……無念だじえく……！」

○5日目(昼) 犠牲 ハギヨシ・和・京太郎・塞・透華

処刑 純・未春・優希

生存 久・まこ・咲・白望・エイスリン・胡桃・豊音・智紀



一・衣・美穂子・華菜・トシ

龍門澗透華さんの無残な死体が発見されました。

ハ：みなさま、おはようございます。

昨晩の犠牲者は、透華お嬢様でした。

執事として、これほど無念なことはございません・・・

今日の会話時間は7分でございます。

透華お嬢様の仇をとるためにも、人狼を見つけられることをお祈りしております。

それでは5日目、スタートいたします。

咲「・・・おはようございます。」

美「ええ、おはよう・・・って、ずいぶんと不機嫌そうだけど・・・？」

咲「・・・まあ理由はすぐに分かるかと。」

美「？」

ま「・・・まあとにかくじゃ。さっさと始めるとしようかの。霊能の結果、頼むわい。・・・せいの。」

胡「片岡さん、○だよ。」

一「片岡さん、●だね。」

衣「な、何と・・・!?」

智「・・・ここでも分かれた・・・」

胡「そっちの狂言は聞く必要ないよ！私の結果は○だけど、狂人かどうかなのかは分からないよ！だから、残念だけど今日は染谷さんを吊るしかないね！」

一「ボクからすると、すでに答えが出たわけなんだけど・・・とにかく、片岡さんは●、人狼だよ。ボク目線では、染谷さんは間違いない真共有だね。」

ト「あいにくだけど、私は信じないよ？」

一「そりやそうだろうね。熊倉さんからしてみれば、身内を先に吊られちゃったわけだしね？」

華「・・・これ、素直に信じてても大丈夫だし・・・？」

豊「国広さんが真なら、染谷さんは真だけどく・・・？」

胡「駄目！真は私なんだから！」

A「・・・コウナル！」

衣「うう、これでは染谷は吊るしかないのかう……?」

ま「……仕方ないわい。覚悟は出来とるわ。それじゃ、次は占いじゃ。よろしく頼むわい。……せうの。」

咲「龍門測さん、○です……。」

久「美穂子、○ね。」

ト「池田さん、○だよ。」

久「……つて、ずいぶんと分かりやすいことしてきたわね?」

咲「そつちが嵌めてきたくせに……!」

美「えつと……久は、私を占ってくれたのね……?」

久「ええ、そうね。私が占ったのは美穂子よ。ここまできたら、とにかく危険人物には注意しないとね。結果は○だし、信用してもいいと思うわ。」

美「あ、ありがとうございます、久。」

ト「私が占ったのは、福路さんの後輩、池田さんだね。正直に言わせて貰うと、さつきから騒いばかりで推理が出来てなかつたみたいだからね。もしかして場を乱すことを目的とした人外じゃないかと思つたんだけど……まさか、狂人じゃないだろうね

「？」

華「ち、違うし！華菜ちゃん狂人じゃないし！」

ト「じゃあ、まさか狂信者かい・・・？」

華「違うし〜!?!」

咲「・・・で、私が占ったのは龍門測さんです。」

久「・・・はつきり言わせてもらうけど、これって咲は吊つちやつてもいいんじゃないの？どうみても○を出したくない騙りよ？」

咲「違います！昨日占う先を決めたなんて言つちやつたから、人狼に読まれちやつたんです・・・!!」

白「・・・らしくないミスだとは思うけど・・・理由は・・・？」

咲「一番は昨日の発言です。どう考えてもおかしいです。それと昨日、この2人に○を貰っていたつてところも怪しく感じました。・・・狂人とかじゃなければ、村人みただいですけど。」

一「透華の馬鹿・・・」

衣「透華、残念だぞ・・・」

A「ザンネン・・・」

ま「・・・●は見つからなかったつちゆうことじゃな。まあ見つかつても、今日

はわし吊りじゃ。後は頼むわい。」

ト「・・・やけに素直だねえ。もしかして、本当に共有を吊りに来た人外かい？」

ま「違うわい。言い訳が意味ないっちゅうことが分かつとるだけじゃ。」

智「・・・今日は、染谷さんを吊る・・・？」

久「・・・しかないわね。あんまりまこを疑いたくはないんだけど・・・」

ま「・・・一応言うどくが、わしはお前さんを疑つとるぞ？」

久「だから何でよ・・・!？」

ま「昨日お前さんわしに投票しとるじゃろうが。」

胡「むう・・・でもこうなると、本当に真は誰かって話なんだよね。」

一「熊倉さんではないことだけは確かだよ。明日も●が見つからなければ、対抗か熊倉さんをボクはおすよ？」

ト「それじゃあ私はあんたをおすとしようか。確かに、それほど余裕があるわけでもないしね？」

胡「私だって、そっちは騙り確実なんだから！」

豊「でも、どうするの？明日からは共有がいなくなっちゃうよ・・・？」

美「・・・みんなで話し合って決めていくしかないわね。」

華「そ、そうだし！華菜ちゃんも頑張つて考えるし!？」

A 「ワタシも！」

衣 「衣も頑張るぞ〜！」

豊 「・・・わ、私も頑張るよ〜！」

お子様連合軍 「お〜！」

美 「偉いわ、みんな・・・！」

一 「・・・あれを見てると、本当に人狼はいるのかって思えてくるよね・・・？」

胡 「(た、確かに・・・！)」

白 「・・・ダルい・・・」

智 「・・・でも、この中に人狼が・・・？」

白 「・・・どうだろうね。もしかしたら、この中にはいないのかもしれないけど・・・」

咲 「・・・でも、確実に2匹から3匹はいるはずなんです・・・！」

久 「・・・案外、咲と熊倉さん吊つたら終わったりしてね？」

ト 「なるほど・・・確かにあんたらを吊つて、それで終わる可能性もあるわけだね？」

咲 「私を吊つても終わりません。それより、明日からは対抗吊りを提案していきます

ので・・・！」

ま「……ふむ。まだ何か気になることがあるもんはおるか？」

ま「……いなさそうじゃな。それじゃあ最後の仕事じゃ。」

美「その……ごめんなさいね？」

ま「仕方ないわい。……あとはよろしく頼むわ。」

『スキップじゃ。』

ハ：畏まりました。

それでは、投票を始めさせていただきます。

### ○投票結果

久(1)	↓まこ	まこ(11)	↓久	咲(0)	↓まこ	白望(0)	↓まこ
エイ(0)	↓まこ	胡桃(1)	↓まこ	豊音(0)	↓まこ	智紀(0)	↓まこ
一(0)	↓胡桃	衣(0)	↓まこ	美穂子(0)	↓まこ	華菜(0)	↓まこ
トシ(0)	↓まこ						

投票の結果、染谷まこさんは処刑されました。

ま「こりや、今回は手こずりそうじゃな・・・」

久「・・・で、何で私に入れてるわけ？」

ま「仕方なかろう？手ごろな投票先が無かつたんじやから。」

久「それで私に入れないでよ・・・！」

6 日目に続く・・・



清澄・宮守・龍門澗＋β ③

○6日目（昼） 犠牲 ハギヨシ・和・京太郎・塞・透華・白望

処刑 純・未春・優希・まこ

生存 久・咲・エイスリン・胡桃・豊音・智紀・一・衣

美穂子・華菜・トシ

小瀬川白望さんの無残な死体が発見されました。

ハ：皆様、おはようございます。

昨晚の犠牲者は小瀬川様でした。

寡黙な方でありましたが、その洞察力には目を見張るものがあつたのですが……残念です。

今日の会話時間は6分にごぎいます。

必要とあれば、今日もスキップは可能ですが、どうなりますでしょうか。

さあ、6日目の始まりにございます。

久「みんなおはよう！ようやく●を見つけたわ！」

胡「本当!？」

華「それが本当なら、もしかしたら当たりかもしれないし!？」

咲「・・・騙りの●は信用しないで下さい。それに、私だって●を発見したんですから・・・!」

ト「おやおや・・・あいにく私はまた○だったよ。まあ騙りの結果は後でいいだろう。まずは霊能の結果を聞かせてはもらえないかい？」

一「そうだね。まあみんな予想してるだろうけど。」

豊「じゃあ、今日は私が合図するんだよ!・・・せくの!」

胡「染谷さん、○だよ！」

一「染谷さん、○だね。」

衣「2人とも○・・・？」

一「まあ当然の結果だよ。だから染谷さんは真だったって言ったじゃないか？」

胡「まだ分からないよ！2人とも○つてことは、どっちかに狂人か狂信がいたはずだからね！」

美「なるほど……」

智「……でも、これじゃまだ……」

久「判別は不可能そうよね？……でも！今日でようやくその答えが出るわ！誰か合図ちようだい！」

衣「じゃあ今度は衣がやるぞ！せくの……！」

久「胡桃、●よ！」

咲「福路さん、●です！」

ト「エイスリン、○だよ。」

胡「……ひ、久が騙り……!？」

久「あいにく、私は真よ。昨日私が占ったのは胡桃よ。サイコの危険性があるのは分かっていたけど、それでもこのまま置いておくわけにはいかなかったからね！結果はご覧の通りよ！」

胡「違うから！久は騙りだからね！」

咲「鹿倉さんが騙りかどうかはまだ分かりません。それに、私の結果では福路さんが●でした。疑問に思ったのが、昨日福路さんが部長に占われて○を出されたとき、少し返答に口ごもっていたところですよ。おそらくですが、部長が騙りだと気付いて動揺したんだと思いますよ？」

美「・・・そう。宮永さんが・・・」

久「咲の破綻は明らかね。美穂子は昨日、私がちゃんと占ってるわ。わざわざ調べなおして●出すってことは、相当追い込まれてるってことよ。・・・案外、本当に咲と熊倉さんで終わりなんじゃない？」

ト「私は追い込まれちゃいないんだけどね？・・・ともかく、私の結果はエイスリンが○さ。また外しちまったけど、おかげでそろそろ答えが見えてきそうだよ。」

A「センセイ、ホンモノ・・・？」

ト「間違いなく本物さ。信用しておくれ？」

豊「うう・・・これ、先生と竹井さん、どっちが真なのかな？・・・!？」

衣「咲が真の可能性はないのか？」

華「でも、宮永はキャプテンに●つけたし！昨日竹井さんに○つけられてたのに、わざわざ占うなんて怪しいし！」

咲「・・・囲いの危険と、部長を人外だと認識していなかった人狼、という両点から怪しんだだけです。それより、ここで間違った結果を出すとそのまま人狼ペースになつてしまいますから、ちゃんと考えて下さいね？」

智「・・・困った・・・ここまで来て、まだ見分けが・・・」

久「せっかくだし、私の目線は伝えておくわ。いつやられるかも分からないしね？ま  
ず胡桃は人狼。それを考えると、一は比較的眞目ね。現実とは言えないけど、それでも  
あえて一を眞として見るなら、優希が人狼で残りは2匹。ここで気をつけたいのが、和  
と須賀くんの件よ。私の中のグレーは、あとエイスリンさんと姉帯さん、それに一と池  
田さん。対抗が2人って考えると、この中に1匹はいると思うんだけど・・・私の勘は、  
おそらくは和と須賀くんのどちらかが人狼だつて訴えてるのよ。」

豊「わ、私は違うよ〜!」

A「ワタシモチガウ!」

華「華菜ちゃんだつて村人だし!」

久「その中に誰か嘘つきが混じっている可能性はあるからね？それでさっきの続きな  
んだけど、私が怪しんでるのは和なのよ。」

衣「ののか?・・・ののかが何で怪しいんだ?」

久「和、初日に咲に○をつけられたでしょ？あれですでに、咲は人外だつて見抜いた

はずなの。それであえてすぐに咲を囓んで、占い師の信用を消しにかかったんだけど……」

一「……なるほど。久は、宮永さんがサイコだつて睨んでるんだね……!？」

久「そういうことよ。私の予想は咲がサイコ、熊倉さんは人狼か狂信、和と胡桃、優希が人狼ね。和が違えば、残った人たちが一にさらに疑いの目は向けるわよ？」

咲「完全に間違えた推察ですね。真は私です。ただ、見つかったのはまだ福路さんだけつてことを考えると、京ちゃんも少し怪しくなります。対抗2人、共有に1人、霊能に最低1人人外がいると考えると、あと2人潜伏してます。これで京ちゃんが人狼なら、占つてない4人の中に人外は1人つてことになるんですけど……」

ト「……ふむ。私目線でいくと、対抗2人、国広さん、それに共有のどちらかが人外。井上さんが人狼だね。この中だと池田さんとエイスリンが○だから、残り3人の中に人外が2人。原村さんか須賀くんが人狼なら、残り1人さ。」

胡「言つとくけど、私は人狼じゃなくて真だからね!？人狼は井上さんで、久と国広さん、それに共有のどつちかと、占いのどつちかが人外。まだ人狼3匹残ってるかもしれないだから、ここは対抗の国広さんを吊るべきだよ!」

一「それは駄目だよ。人狼は片岡さんで、人外は対抗と熊倉さん。占いだけど、比較的真目なのは久のほうのかな？まだ全部は信用できないけど、ここは確実に鹿倉さん

を吊るべきだね。」

A「……ツマリドウイウコッタ……!?」

豊「だ、誰が本物なの……!?」

衣「ふえく……答えが分からないぞく……!?」

華「華菜ちゃん、大ピンチだし……!?」

智「……欠けは無い?なら真は……でも、必ずどこかに欠けが……」

美「……私の推論も聞いていただけですか?」

久「ん?美穂子もなにか気付いたことあるの?」

咲「……福路さんは人狼です。皆さん、惑わされないで下さいね?」

ト「ふむ……?」

美「……私は初日、白沢さんを護衛しました。3日目の夜には霊能の片方を護衛し、4日目には熊倉さんを、昨日は宮永さんを護衛しました。……白沢さんがやられたのは私のミスです。ごめんなさい……。」

豊「……護衛……?」

智「……護衛……つまり……!」

華「キャプテンが、狩人だったし！」

久「美穂子が狩人だったのね？……ってちよつと待つて。昨日の夜に咲を護衛したつていうのはおかしいわね。私の予想だと、咲はおそらくサイコだもの。……もしかして、咲はただの人外で、一が……!?!」

一「……いや、それは違うね。もしかして福路さんつて……狂人とかじゃないの……?」

衣「人狼が、悪あがきしてるんじゃないのか?」

胡「確かに、私の中では宮永さんも真目が残つてるけど……?」

咲「……私の占いでは、間違いなく●でした。つまり福路さんは……!」

美「……COCOS。昨日私に○をつけた久は破綻。そして、3日目の夜に私が護衛したのは……鹿倉さんです！」

華「か、狩人じゃなくて……コス……!?!」

A「ツマリ……!」

久「……考えて損したわね。てつきり欠けてたのかと思つたけど、そこに狂人がいただけだわ。みんな、美穂子の話を聞く必要はないわ。これ、場を乱すのが目的よ！」



美「私目線では、久は破綻。そして久に●をつけられた、鹿倉さんが真。そして国広さんが……おそらくサイコです！」

一「……ボクがサイコ、ねえ……？」

胡「それ、多分当たってる！」

ト「……確かに、その可能性はあるね。私目線でも、国広さんは人外確定なわけだし。」

豊「な、なら今日は……!？」

A「ハジメ、ツル……？」

一「騙されないでね？ボクは間違いなく真。騙りは鹿倉さんだよ？……福路さんが狂人なら久。人狼なら宮永さんが真になるんだけど……」

智「……これは、靈能に投票……？」

ト「……どうやら、それが良さそうだね。ここは靈能の決め打ちといこうじゃないか？」

久「なら、今日は胡桃に投票よ。対抗や美穂子も人外だけど、まずは見える●から吊つていくべきね。」

美「駄目です。今日は国広さんに投票です。……正直、私目線でも宮永さんと熊倉さんの真偽がまだつきません。今日はこのどちらかを護衛しますが……おそらくは囃

まれると思いますので、あとはすいませんが……」

咲「……人狼なら、噛まれることはないかと。でも、本当に噛まれたら……」

ハ：残り1分にございます。

それでは、本日の投票をお決め下さい。

久「胡桃に投票よ。みんな、確実に人狼を吊りましょう！」

咲「……福路さんが人狼なら、まんまとのせられることになっちゃうけど……!?!」

ト「ここは国広さんだね。人狼かどうかは分からないけど、人外であることは確か  
さい。」

豊「ど、どつちに投票すればいいの〜!?!」

A「コスノタイコウ、イナイ!?!」

衣「……い、いないみたいだぞ〜!?!」

華「な、なら華菜ちゃんはキャプテンを信じるし!?!」

智「……でも、福路さんが騙りなら、負け確……」

胡「私は真だよ！福路さんを信じる！」

一「信じれないよ！みんな、騙されないでね!?!」

美「……そろそろ時間ですね。皆さん、あとはよろしくお願いします……！」

ハ：そこまでにございます。

それでは、投票を始めさせていただきます。

○投票結果

久(0) ↓ 胡桃 咲(0) ↓ 一 エイ(0) ↓ 胡桃 胡桃(4) ↓ 一

豊音(0) ↓ 一 智紀(0) ↓ 一 一(7) ↓ 胡桃 衣(0) ↓ 胡桃

美穂子(0) ↓ 一 華菜(0) ↓ 一 トシ(0) ↓ 一

投票の結果、国広一さんは処刑されました。

一「うわ、ボクが処刑されちゃったか……これ、大丈夫かなあ……？」

○7日目(昼) 犠牲 ハギヨシ・和・京太郎・塞・透華・白望・美穂子

処刑 純・未春・優希・ま……一

生存 久・咲・エイスリン・胡桃・豊音・智紀・衣・華菜・トシ  
福路美穂子さんの無残な死体が発見されました。

ハ：おはようございます。

昨晚の犠牲者は、福路様でした。

福路様は●をつけられていたようですが、この真相は・・・？

本日の会話時間は5分でございます。

残りの日数を考えますに、そろそろ無駄吊りは出来ぬかと・・・。

では7日目、スタート。

胡「みんなおはよう！国広さんの結果は○だよ！」

咲「：福路さんもやられたみたいですし、どうやら本当にコスだったようですね：：  
!？」

久「違うわね。昨日は一が吊られちゃったけど、今日こそ胡桃を吊るわよ？おそらく  
もう護衛はいないし、残り4回で最低3匹吊らなくちゃいけないんだからね・・・!？」

胡「絶対駄目！福路さんを信じて、今日は久を吊るの！」

ト「竹井さんを吊るのは賛成さ。なんせ騙り確実なんだしね?・・・それより、占いの結果を言ってもいいのかい?」

A「ナラ、ワタシヤル!ウラナイノケツカ!・・・プリーズ!」

咲「沢村さん、○です。」

久「池田さん、●よ!」

ト「豊音、○だね。」

華「・・・ってやっぱり騙りだったし〜!」

久「何度も言うけど違うわ。私は真で、美穂子は狂人よ!今日噛まれたのも、人狼が私の信用を消しに来てるのよ!ここでのせられたら、もう勝ち目はないわよ!」

咲「・・・福路さんはコスのはずです。なら私目線、鹿倉さんは真だと認定します。なら人狼は、はつきりしてるのは井上さんだけ。でも国広さんと共有の全員が○ってことは、この中にサイコと狂人か狂信がいたはず。グレーがエイスリンさん、衣ちゃん、池田さんの3人なのを考えると、対抗のお2人のどちらか、もしくは両方が人狼です!」

ト「私目線でいくと、●は井上さんだけだね。でもグレーが沢村さんと天江さんだけなのを考えると、人狼は対抗の2人なんじゃないのかい?もし原村さんか須賀くんが人

狼だつていうんなら、これで終了なだけどねく……?」

智「……竹井さんは、おそらく騙り……なら真は、2人のどちらか……?」

華「間違いないし!華菜ちゃんに●つけた時点で、もう信じないし!」

衣「でも、池田が人狼なら……!」

華「だから違うし!」

A「……ウラナイ、ツル……!」

久「駄目よ!今日は胡桃か池田さんよ!対抗の2人も吊りたいけど、ここで確実に人狼を吊らなかつたら負けちゃうわよ!」

胡「今日は久だよ!福路さんがやられたのは、きつと護衛は残せないからだよ!なら、福路さんは真で間違いないと思うよ!」

咲「私としても、部長はここで吊りたいと考えてます。明日まで生き残れば、最後の人狼が分かるかもしれないんですけど……!」

ト「それはこつちの台詞さね。●が出れば確定。出なくても占つてないほう。まあ原村さんたちの可能性もあるわけだし、ここで竹井さんを吊っておけば大丈夫だねく。」

豊「えつと、えつとく!つまり竹井さんが人外でく!」

久「違うわよ!人狼は胡桃と池田さん!一に真目が強いことを考えると、優希もそうかもしれないわね。美穂子は間違いなく狂人。対抗2人が人外で、和か須賀君のどちら

かが護衛職だったのよ！エイスリンさんは占わなくても○確定だわ！」

A 「ワタシムラビト！・・・ダケド・・・」

衣 「・・・ひ、久は、少し怪しい気がするぞく・・・？」

智 「・・・確かに、福路さんがやられたこの状態では、信じづらい・・・」

華 「つていうか、信じないし！」

胡 「当たり前！」

久 「つ・・・完全にしてやられてるわね・・・この2人が人外だと、こういう心理戦は不利よ・・・！」

豊 「あうう・・・でも、本当に竹井さんが人外なのかなく・・・もし、本当に真だつたらく・・・！」

華 「揺らぎすぎだし!？」

胡 「迷つちや駄目そこ!？」

A 「トヨネ！カクゴヲキメロ！」

咲 「そうです。今日は部長です！」

ト 「そうだね。それに異論はないよ。・・・けど、明日はあんただからね？」

咲 「明日は熊倉さんに決まってます・・・！」

久 「だから、真は私だつて・・・！」

智「……さすがに、無理……」

A「キヨウハ、ヒサツリ……!」

久「っ……!」

豊「……?」

衣「……久く?」

久「……はあ……誰も信じてくれない、か……さすがにこうなると、少し寂しいわね……」

豊「た、竹井さん……?」

衣「ふえく……!」

久「……もういいわ。今日は私を吊ってちょうだい。……みんなのためについて頑張って頑張ったけど……もう、どうしてもよくなつたわ……」

豊「た、竹井さん……!」

衣「ひ、久く……!」



咲&胡 「つて、同情で信用を集めないで！」

豊 「・・・へ？」

衣 「ふえ？」

久 「・・・ちっ・・・！」

華 「最悪だし・・・！」

A 「オソロシイヤツ・・・！」

智 「・・・衣は、少し離れたほうがいいかも・・・」

ト 「豊音も、少し離れたほうがいいかもね？」

豊&衣 「？」

ハ：皆様、残り1分にございます。

今日の結果をおまとめください。

咲 「決まりです。今日は部長で、明日は熊倉さんでお願いします。」

ト 「違うだろ？今日は竹井さんだけど、明日はあんただよ。」

胡「むう……今日の犠牲になる人って……!!」

華「もしかして、真占いが狙われるし……!？」

智「……おそらく。ここで嘯まないと、人狼全露呈の危険がある……」

A「……ドツチカ、ヤラレル……!？」

久「……2人は、私を信じて胡桃に投票してくれるわよね? そういえば駅前に、美

味しいアイスクリーム屋さんがあったんだけど、食べてみたくない……?」

衣「おお! アイスクリームかく♪」

豊「いつてみたいよ♪」

一同「……だからやめんかつ!」

久「……ちえく……」

豊&衣「?」

ハ：お時間にございます。

それでは皆様、投票をお始め下さい。

○投票結果

久(6) ↓胡桃 咲(0) ↓久 エイ(0) ↓久 胡桃(3) ↓久  
 豊音(0) ↓胡桃 智紀(0) ↓久 衣(0) ↓胡桃 華菜(0) ↓久  
 トシ(0) ↓久

投票の結果、竹井久さんは処刑されました。

久「はあ・・・さすがにあの2人だけじゃ、勝ち目はないか・・・」  
 ハ・・・竹井様。少しお話がございますので、どうぞこちらへ・・・  
 久「へ?・・・あ、いや、別に天江さんに何かしようって訳じゃ・・・!？」

8 日目に続く・・・

## 清澄・宮守・龍門渕十β ④

○8日目（昼） 犠牲 ハギヨシ・和・京太郎・塞・透華・白望・美穂子・咲

処刑 純・未春・優希・まこ・一・久

生存 エイスリン・胡桃・豊音・智紀・衣・華菜・トシ

宮永咲さんの無残な死体が発見されました。

ハ：皆様、おはようございます。

昨晚の犠牲者は宮永様でした。

なお、不埒な真似を行おうとした者には、それ相応の罰を与えてありますのでご安心を。

今日の会話時間は4分でございます。

時間も残り少なくなってきましたので、どうぞお急ぎ下さい。

では8日目、スタート。

胡「みんなおはよう！始めに言っとくけど、その2人は反省する！」

豊&衣「ごめんなさい……」

胡「全く！……それで霊能の結果なんだけど、やっぱり久は●だったよ！」

ト「おや、やっぱりそうだったかい。となると、あと残っているのは2匹だね。」

A「……」

豊「……」

智「……」

衣「……」

ト「……おや。私を信じてないのかい？」

華「信じれる訳ないし!？」

胡「先生、人外決定！」

ト「胡桃？それは誤解っていうもんさ。どうやら人狼も、真と狂人の見分けができな

かったみたいだね。」

豊「え？ど、どういうこと？」

ト「簡単さね。私の占い結果は沢村さん●。おそらく宮永さんは狂人か狂信だったんだらうさ。」

智「・・・人外確定・・・！」

ト「違うね。人狼は沢村さんさ。今回の人狼は、井上さん、竹井さん、沢村さん。それと、原村さんと須賀くんのどちらかか、もしくは天江さんだね。」

衣「こ、衣は違うぞ〜!?!」

ト「心配しなくても、今日沢村さんを吊つて、それで終われば無実さ。原村さんか須賀くんだったってことなんだから。ただ・・・」

A「マダナニカアル？」

ト「怖いのは、胡桃が人狼だったときだね。最後に竹井さんに逆囲いされてつたつていう可能性も、決して無いわけじゃないんだよね？」

胡「私違うよ！私は真なんだから!?!」

智「・・・全部嘘。信じなくて大丈夫・・・」

豊「うう・・・でも、もし先生が本物なら・・・?」

A「・・・シンノカノウセイ、アル・・・?」

胡「うう・・・正直、若干だけど残ってるよ。明らかにこの状況おかしいけど、まだ破綻してないんだよね・・・!?!」

智「・・・だから、全部嘘。信じなくていい・・・」

華「でも、真は宮永だと思っし・・・?」

ト「それが、人狼にとつちや痛恨のミスなのさ。おそらく福路さんの●を当てちまつたもんだから、宮永さんの方が真に見えたんだろうね。私の井上さんへの●出しは、おそらく狂人アピールだと勘違いしたのさ。」

衣「なるほどく……！」

智「……いや、だから信じなくて……」

ト「でもまあ、今日沢村さんを発見できたから、もう村勝ちは確実さ。今日は沢村さんを吊つて、私が噛まれても、残り2回で天江さんと胡桃を吊ればいいんだからね。ちやんと間に合うよ。」

豊「そつかく♪村の勝利だよ♪」

A「アイムウイナ〜♪」

華「やったし〜♪」

智「……駄目だこりゃ……」

胡「うう〜ん……でも、宮永さんが真の可能性もあるんだよ？その場合って……」

智「……！私、宮永さんに○貫ってる……！」

豊「えつと、その場合って……？」

華「ん〜と……宮永目線だと、この中で○貫ってないのは、私と、エイスリンと、天江。それに熊倉さんに鹿倉さんだし。」

A 「ホトンドジャン・・・」

智 「・・・宮永さん目線、熊倉さんは確実に人外・・・！」

胡 「そうなんだよね〜：：：ここは安全に、先生を吊ったほうがいいと思うんだけど：：：？」

ト 「おや・・・？胡桃、それはあんたを占われたくないからかい？」

胡 「ええ！？そ、そんなことない！？」

智 「・・・鹿倉さん、頑張つて・・・！」

ト 「もしそうじゃないなら、今日は素直に沢村さんを吊るべきさ。確実に勝てる道を自分から閉ざそうっていうのは、さすがに疑わざるをえないね〜？」

胡 「あ、あうう・・・！？」

智 「・・・負けないで、もう少し・・・！」

A 「・・・センセイ、ホンモノ・・・？」

ト 「もちろんそうさ。私は村勝ちのために精一杯さ。」

胡 「だ、だけど〜・・・！？」

智 「・・・最後まで、走り抜けて・・・！」

豊 「じゃあ今日は沢村さんを吊ればいいんだ〜♪」

華 「決まりだし！」



衣「衣たちの勝ちだ♪」

胡「う、うう・・・」

智「・・・駄目だった・・・」

ハ：残り時間1分を切りました。

本日の結果をおまとめください。

智「・・・本気で考え直して？私、人狼じゃない・・・」

胡「ううくん・・・もしこれで、先生が噛まれてたら真確定だよね・・・？」

ト「いや、ここまで来た以上は私を噛みやしないだろうね。明日も残して、私に疑いの目を向けようとするはずさ。」

衣「むむ、なんと狡猾な・・・!？」

豊「酷いんだよ!？」

A「ユルセナイ!」

智「・・・明日、熊倉さんは必ず残る。自分は噛めない。だから・・・」

ト「それでもまあ、明日で決着はつくさね。天江さんか胡桃、どちらが人狼かが明日はつきりするんだから・・・」

ハ：お時間にございます。

それでは、皆様投票をお始め下さい。

○投票結果

エイ(0) ↓ 智紀 胡桃(0) ↓ 智紀 豊音(0) ↓ 智紀 智紀(6) ↓ トシ

衣(0) ↓ 智紀 華菜(0) ↓ 智紀 トシ(1) ↓ 智紀

投票の結果、沢村智紀さんが処刑されました。

智「・・・なぜ、誰も怪しまないのか・・・残った面子が悪すぎた・・・」

○9日目(昼) 犠牲 ハギヨシ・和・京太郎・塞・透華・白望・美穂子・咲

華菜

処刑 純・未春・優希・まこ・一・久・智紀

生存 エイスリン・胡桃・豊音・衣・トシ

池田華菜さんの無残な死体が発見されました。

ハ：皆様、おはようございます。

昨晚の犠牲者は池田様でした。

果たして、本日で勝負はつくのでしょうか？

本日の会話時間は3分です。

時間を無駄にはせぬよう、会話はスムーズに行って下さい。

では9日目、スタート。

胡「みんなおはよう！沢村さんは○だったよ!?!先生は騙りだよ!」

豊「えく!?!じゃあ、先生は人狼だったのく!?!」

A「ナンダツテく!?!」

衣「おお!つまり熊倉と、胡桃が人狼なのだな!?!」

胡「つて違うそこ!?!」

ト「ふむ。まあ私の占い結果なんだけどね?」

豊 「え？先生何が分かったの〜？」

A 「ナニガワカッタ!？」

ト 「私の占い結果は胡桃が○。つまり人狼は天江衣。これで勝負ありさね。」

豊 「・・・ええ〜!？」

A 「ホ、ホントウニジンロウ!？」

胡 「・・・ん？」

衣 「・・・ついに、衣の迷彩が破られるときが来たか・・・！」

A 「ツテ、ミトメルノカ!？」

豊 「じゃあじゃあ！今日は天江さん吊りだよ〜！」

ト 「さて、結果はご覧の通りだが・・・胡桃。あんなにか言うことはないかい？」

胡 「・・・もしかして先生、真じやなくて本当に騙り？」

ト 「正解さ。」

豊 「・・・へ？」

A 「ド、ドウイウコッタ!？」

衣「なんと……！つまり熊倉も人狼なのだな！」

ト「そういうことさ。」

ト「CO人狼。沢村さんは確かに人狼じゃないよ？」

豊「……せ、先生も人狼だったよ〜!？」

A「……ウソツキバカリカ!？」

胡「……えっと、つまり……」

ト「いやいや、ここまで騙してて悪かったね？でも、もう勝負有りさ。」

衣「うむ！衣も楽しかったぞ〜！」

豊「な、なら今日は先生に投票だよ〜！」

A「ウラギリモノハユルスナ〜！」

胡「じゃあ私、COサイコね。これで勝負ありだね！」

衣「そして衣は人狼だ〜♪」

豊「」

A「」

ト「お疲れ様だね。それじゃあ今日はエイスリンに投票するのでしょうか。」

衣「勝った♪」

胡「お疲れ様！」

『スキップで。』

○投票結果

エイ(3) ↓トシ 胡桃(0) ↓エイ 豊音(0) ↓トシ 衣(0) ↓エイ

トシ(2) ↓エイ

投票の結果、エイスリン・ウィツシユアートさんは処刑されました。

A「・・・セ、セメテミチズレ！」

熊倉トシさんの無残な死体が発見されました。

ト「おやおや。エイスリンが猫又だったのかい？こりや参ったね。」

○10日目(昼) 犠牲 ハギヨシ・和・京太郎・塞・透華・白望・美穂子・咲

華菜・トシ・豊音

処刑 純・未春・優希・まこ・一・久・智紀・エイ

生存 衣・胡桃

姉帯豊音さんの無残な死体が発見されました。

この瞬間、人狼の数が村人と同じになりました。

おめでとうございます！

今回は人狼陣営の勝利です!!

ト「いやはや、やってみると面白いもんだね〜?」

衣「衣の勝ちだ〜♪」

久「まあ、この面子で負けるとも思えなかつたしね。」

美「本当ですわね♪」

優「むう……でも私は大して出番が無かつたじえ……」

一「それでもないと思うよ？共有潰しはかなりありがたかつたよ。」

胡「うん！あれ助かつたよ！」

熊倉トシ・天江衣・竹井久・福路美穂子（人狼） 片岡優希（狂人） 国広一（狂信者）

鹿倉胡桃（サイコキラ）

塞「うう……結局負けちゃつたわけね……！」

ま「ドンマイじやて。あの面子じや分が悪いわ……」

咲「むう……もう少し私のことを信じてても良かつたんじゃないかな……！」

京『ただいま外出中です。』

純「てつきり熊倉さんが真だと思つただけでなく。だからCOしないで素直に吊られたつてのに……」

A「……ミンナウソツキ！」

白沢塞・染谷まこ（共有） 宮永咲（占い） 初日犠牲者（霊能） 須賀京太郎（狩人）

井上純（コスプレイヤー） エイスリン・ウィッシュユアート（猫又）



和「ですから咲さんが真だと言ったじゃないですか！これはなるべくしてなった結果です！」

智「・・・それはどうかと・・・」

透「私、まさか戦犯ですの・・・!?」

白「・・・ダルい負け方したなあ・・・」

豊「うえ〜ん！シロ〜！」

白「・・・よしよし・・・」

華「華菜ちゃん、見事に騙されたし・・・!?」

未「華菜ちゃんは、もうちよつとよく考えたほうがいいかもね・・・」

原村和・沢村智紀・龍門渕透華・小瀬川白望・姉帯豊音・吉留未春・池田華菜（村人）

久「助かったわよ。井上さんがコスだったなんて思わなかったから、胡桃はすぐに人外だつて信じてたけど・・・」

ト「国広さんはつきり真だと思つてたからね〜。片岡さんの●出しが無けりや分かんかったよ。」

一「ボクは逆に、鹿倉さんが真だと思つてたね。純くんにいきなり●出したから、もしかして純くんってコスだったのかなってずっと気になってたし。」

胡「私だつてそうだよ！片岡さん●出されて、本当に人狼が突つ込んできたのかつて焦つてたんだよ!？」

美「でも、鹿倉さんがサイコで助かりました。少しでも話に信憑性を持たせようとして、鹿倉さんを囁んだら逆にやられちゃいましたし・・・」

久「それが、なお胡桃が真であるかのように錯覚させたわね。いや〜見てて笑いそうになつたわ♪」

優「むう・・・本当は霊能でCOするつもりだったのに、いきなり2人も出ちゃつて焦つたじえ。おかげで出遅れたじえ・・・」

一「それを考えると、霊能が欠けで助かつたね。欠けてなかつたら、本当にロラされるどころだつたよ。」

衣「こくら〜！最後まで残つた衣も褒めろ〜!？」

久&美&一「偉い偉い」

衣「エへ♪」

ト「・・・まああれだね。霊能を乗つ取つた時点で私らの勝ちだつたわけさ。」

胡「私は最後まで焦つてたけどね！最終日に先生が残つてたから、これで本当に真

だったらどうしようと思ってたし！」

優 「全くだじえ！」

透 「申し訳ありませんわ……」

和 「全くです！ 咲さんの占いを妨害するなんて、一体何を考えているんですか!?!」

智 「……まあ、その辺で……」

純 「勘弁してやってくれよ？ こいつも悪気があったわけじゃねーしさ？」

和 「当たり前です！ 悪気があってやったのなら、絶対に私が許しま……」

咲 「まあまあ。もう許してあげよう？ 和ちゃん？」

和 「次からは気をつけてくださいね？ これはみんなで楽しむためのゲームなんですから。」

智 「」

純 「」

ま 「……あいつは本当に揺るがんのお……」

塞 「（……あのぐらい揺るがなければ、私ももつと活躍できた……!?!）」

白 「……ダルい考えは禁止だからね？ 塞……」

豊「そうだよ〜?」

塞「え!?!な、何のことかさっぱり!?!」

京「部長〜!頼まれたアイス買ってきたつす〜!」

久「ああ、ありがとう。みんなに配ってあげて?」

京「ういつす!」

咲「……京ちゃん。どこに行ったのかと思つてたら……」

優「……犬扱いされても、文句言えないと思うじえ……?」

豊「わ〜!アイスだよ〜♪」

衣「わ〜い♪」

A「ヤツタゼ〜♪」

華「アイスだし〜♪」

ま「……それにしても珍しいのお?お前さんがみんなの分を奢るとは……?」

久「……ハギヨシさんにね。許してもらうかわりにつて……」

ま「……なるほど。単なる自業自得か。」

咲「……それより、京ちゃんが狩人だったんだね?」

京「おう！・・・鹿倉さん護衛してやられちまったけどな・・・」

未「どうして霊能の護衛を？正直危ない場所だったと思うんですけど・・・」

京「いや、共有はコスの人が守るだろうから、俺は霊能のどつちかを守つとこうつて思つただけど・・・」

咲「・・・見事に一発目からサイコにいつちやつたんだね・・・？」

和「・・・本当に残念な人ですね。」

優「おかげでこつちは助かつたじえ！」

京「ぐはあつ・・・！」

ト「・・・さて、それじゃあそろそろ時間だね。」

豊「ええ、もう終わりなんだよ・・・」

A「サビシイ・・・」

胡「仕方ないよ。いつまでも遊んでるわけにはいかないんだから。」

白「・・・また、遊びに来ればいい・・・」

塞「そうよね！そのときは今度こそ私が勝つわよ！」

豊「・・・わ、私だつて負けないんだよ！」

A 「ワタシモマケナイ・・・！」

ト 「・・・どうやら、みんなのいい思い出になったみたいだね。竹井さん、今回の件、感謝するよ・・・？」

久 「私たちも楽しみましたし。お礼は結構です。」

ま 「そうじゃな。中々に楽しめたわい。」

優 「また遊ぼうじえ〜！」

和 「そうですね。機会があれば是非。」

咲 「うん。次は負けないんだから！」

京 「次こそは・・・次こそはく・・・！」

透 「私だって、次こそは華麗な活躍をお見せしますわ・・・！」

衣 「頑張れトーカー♪」

一 「そうだね。頑張つてね？透華？」

純 「何か、結局俺は不完全燃烧だった気が・・・？」

智 「・・・仕方ない・・・」

ハ 「・・・それでは皆様方。お時間です。」

ついに長野の幕は閉じる。

2日間の遊戯も終わり、後はただ立ち去るのみ。

彼女たちの遊戯は、ここに終了する……。

「……着いたで！数日ぶりのの東京や〜！」

「ほらお姉ちゃん。あんま騒がんといてや？」

「それにしてもあつついな〜……ほんま、生きるんてつらいなあ〜……」

「それ、もう口癖になつとるんやない？ほれ、水分補給は大事やで？スポドリや。」

しかし時を同じくして、別の地にて幕が開く。

ここでは、一体どのような遊戯が繰り広げられるのか……！

「わ〜……人がいっぱいですね……！」

「これだけ人が多いと、はぐれないか心配ね。ほら、手をつなぎましょう?」  
「油断すると、姫様はすぐにごどこかへ行ってしまうのですよ。」

「・・・それが自慢・・・」

「いやいや・・・」

遊戯の幕は、まもなく開く――。

続く・・・



清澄・宮守・龍門渕+β（犠牲者たちの集い）

○3日目（昼） 純・和・京太郎

純「おつ、お疲れさん。」

京「うぐあゝ……やつてしまったあ……!？」

和「……須賀くん、どうかしたんですか？」

純「大方、サイコ嘯んだ人狼だったんじゃない？」

和「なるほど。確かにそれはありそうですね。」

京「違うつす！俺は村人つす！」

純「ん？じゃあ原村が人狼か？もしくは狩人とか……？」

和「いえ、今回は村人です。あいにくですが、役職はいただけませんでしたね。」

純「なるほど。まあ後になりや分かることだし……」

京「うああ……それより、お2人はどう見るつすか？占い師と霊能の真偽は？」

和「占いは咲さんが真ですね。霊能はまだ分かりませんが……」

純「本当に揺るがねえやつだな……ちなみに俺は、熊倉さんと鹿倉が真だと思っぜ

「？」

京「え？でも井上さん、あの2人には●を出されてませんか？」

和「自分が人狼だとお認めになるのですか・・・？」

純「いや、そうじゃねーよ。面倒くせえから言っちゃまうけど、俺コスだったんだ。だから●出したあの2人が真じゃねーかってな？」

京「コ、コスー!?」

和「それなら、なぜCOを・・・!?」

純「COしても、コスじゃ結局は吊られちまうだろ？それなら黙って消えて、まだコスは残ってるんじゃないかって思わせた方が、得なんじゃないかと思ってるさ？」

和「な、なるほど。確かにその通りかと・・・!?」

京「・・・」

純「・・・ん？どうした須賀？やけに顔色が悪いけど・・・？」

京「・・・い、いや、何でもないっす・・・」

純「？」

和「それにしても、咲さんは●を見つけれませんでしたね・・・」

純「いや、宮永は人外目だと思っただけ・・・」

和「何か？」

純「……あぁいや、何でもね〜……」

和「今日はグレランになりそうですね。……咲さん、頑張ってくださいね……！」

京「……やべえ……絶対マジやべえ……!？」

○4日目（昼） 純・和・京太郎・未春・塞

塞「……う、嘘……!？」

未「そんな、白沢さんが……!？」

純「どうなってるんだ？狩人の奴、一体どこを守って……!？」

和「……もしかすると、欠けなのでは……？」

塞「え？ど、どういうこと!？」

和「まあ掻い摘んで説明しますと……」

未「う、嘘っ!？井上さんが!？」

純「ああ。……けどこうなると、さすがにちよつと後悔すんな。狩人がいないって分かってりや、さすがにCOしてたんだが……!」

和「確かに……後の祭りとはいえ、悔いが残りますね……!」

塞「うわあ・・・じゃあもしかして、人狼たちもこれで気付いちやったんじゃ・・・!!」  
未「おそらくは気付かれたと思います。明日からは、役職要注意ですね!」

和「・・・こうなると、人狼にはもう一度サイコを噛んでほしいところですが・・・!」

京「」

純「さすがにそりやねくだろう。もう誰がサイコかなんて分かっているはずだからな。」

塞「そうよね。さすがにそれは・・・って嘘おっ!?!」

和「染谷先輩と・・・優希ですか・・・!」

未「騙ってきましたね。・・・ちなみに、どちらが相方なんですか?」

塞「染谷さんよ!絶対に間違いないんだから!?!」

和「ということは、優希が人外ですか・・・!」

未「で、でも染谷さん、自分たちを吊れって・・・!?!」

● 純「・・・こうなつちまつた以上、仕方ねくな。先にあのタコス吊って、2人とも  
を出せば、まだ多少は信じれるかもしれねくが・・・!」

塞「うう・・・やっぱ昨日、染谷さんが○出された時点でF Oしとけば良かったかなあ・・・!?!」

未「・・・そっか。それで昨日、少し口ごもってたんですね？」

和「なるほど。・・・占いが出ましたね。咲さんは姉帯さんを占ったんですか・・・。」

未「嘘っ!?! 私、絶対あの人人狼だと思ってたのに!?!」

塞「え?ど、どうして?」

純「昨日の投票だろ?あれは見てて俺も疑問だったぜ・・・」

和「しかし、結局は同校の人をかばっただけだったようですね。全く、咲さんの手を

煩わせるなんて・・・!」

未「え?でも、宮永さんはまだ真目ってわけじゃ・・・」

純「ストツプだ。・・・あれは宮永第一主義者だつてことを忘れんな・・・」

未「・・・な、なるほど・・・!」

塞「結局、染谷さんと片岡さんの投票みたいね。染谷さんに、悪いことしちやっ

な・・・」

純「仕方ねくって。」

和「そうです。あまり、お気にしすぎないよう。」

未「そうですよ!」

京「やべえ・・・勝ってくれないとマジやべくって・・・!?!」

○5日目(昼) 純・和・京太郎・塞・未春・優希・透華

塞「共有を騙つてくれちやうとはねく．．．！」

優「ふふん！私の頭脳プレーっていうやつだじえ！」

和「．．．確かに、優希にしてはたいしたものかと．．．」

純「それはそうと、あれはどうかなんねくのか．．．？」

透「」

未「えつと．．．」

和「井上さんが何とかしてください。」

純「ちえく．．．やつぱりかよ．．．」

和「それにしても．．．優希。あなた人狼だったんですか？」

優「ふつふつ。さあ、それはどうだかだじえく。」

未「実際どうなんでしょう？片岡さんが人狼のほうがありますが．．．」

純「俺目線では狂人とかだとは思うが．．．」

塞「でも色が分かれちゃったから、染谷さんも今日吊られちやうよね．．．？」

和「おそらくはそうなるかと．．．」

優 「ふっふるん、だじえ。」

塞 「ぐぬぬ……！」

和 「……それより、私としては気になるのが……！」

未 「……宮永さん、少し怪しくない……？」

和 「そんなことはありません！咲さんは真の占い師です！」

優 「……和ちゃんも、たまには揺らいだほうがいいと思うじえ……？」

純 「透華を占つてたみてくだけど、それが本当なら完全に人狼の手玉に取られてる

ぞ……？」

和 「うぬぬ……！」

未 「どちらにせよ、今日は染谷さんに決まりそうですね……。」

優 「ま、仕方のない結果だじえ♪」

京 「」

透 「」

○6日目（昼） 純・和・京太郎・未春・塞・優希・透華・まこ・白望

ま「やれやれ。まさか優希に騙られるとは思つたらんかったわ……。」

白「……やっぱり、染谷さんが真か……」

塞「シロは分かっていたの？なら言ってくれても良かったのに……？」

白「……確証がないし、言ったら人外目で見られるから……」

塞「あ、そつか……」

ま「まあ、仕方ないわい。それより、ようやく●が出たようじゃな……？」

未「竹井さんが鹿倉さんに……」

和「そして咲さんが福路さんに、ですね……！」

透「これは、どっちを信じればいいんですの？どちらもまだ怪しさ満点だと思うのですけど……？」

和「咲さんに決まっています。というより、それに加担したあなたがそれを言わないでください。」

透「」

純「……けど、竹井さんも思い切ったことしたな。サイコの危険を分かかって占ったってことだろ？」

優「むう。部長が真ならありそうな話だけど……？」

ま「どうなんじゃろな。じゃが、今ところは久と熊倉さん真目が強いわけじゃし……」



ん？」

未「キャプテンが狩人・・・」

京「いい!？」

純「・・・いや、この流れは・・・!？」

白「・・・コス・・・」

和「そんな!?!だつてコスは・・・!?!」

塞「井上さんでしょ!?!嘘じゃないんでしょ!?!」

純「つたりめくだ!！」

ま「・・・なるほど。こりやしてやられたわ・・・!！」

未「嘘・・・!みんなキャプテンが真だつて信じちやつてる・・・!?!」

優「・・・大したもんだじえ!！」

和「・・・それでも、明日になれば偽りだと証明されるはずです!！」

塞「そ、そうよね!?!さすがにコスが残ってれば、みんな気づくはず・・・!！」

白「・・・だと、いいんだけど・・・」

塞「え?！」

純「・・・国広くんが、本当にサイコならいいんだけどな・・・!！」

塞「・・・あ・・・!?!」

○7日目(昼) 純・和・京太郎・未春・塞・優希・透華・まこ・白望・一

美穂子

美「コスは私ですよ？」

純「んなわけねーだろ・・・!?」

和「・・・どう思いますか？」

未「・・・その、普段だったらキャプテンを信じるんだけど・・・」

美「そんな、吉留さん・・・!?」

未「ああいえ、その・・・」

一「それにしても、まさか福路さんが犠牲になるなんてね。やつぱり狂人だったり？」

美「いえ、コスですよ？」

純「こいつは・・・!?」

塞「むう・・・どう思う？シロ？」

白「・・・福路さんの死因が問題。噛まれたのか、それとも・・・」

優「サイコがいるかもしれないじゃえ！きつと咲ちゃんがそうじゃえ！」

ま「さすがにそりやどうじやろうな。案外こうなつてくると、鹿倉さんも怪しくなつてくるわけじゃが……」

和「そうですね。福路さんに庇われていたところをみると、どうもそれが正解な気がしてきます……！」

未「問題は、向こうはこのことを知らないってことですよね？多分、福路さんが真で話は進んじやうだろうし……」

純「裏から見たりやく分かるけど、さすがに向こうにいたら気づけねーか……！」

塞「そうだね。……あ、やっぱり竹井さんを吊る方向で話が進んでるわ。」

ま「……こうなると、久にも真目が残っていそうな気がするが……」

未「……あ、姉帯さんと天江さんに……」

白「……さすがだね……」

優「最後まで勝負は諦めないじゃえ！」

ま「……ああいうのを見ると、やはり真目には見えんのじゃよなあ……」

和「全くです。」

○8日目（昼） 純・和・京太郎・未春・塞・優希・透華・まこ・白望・一

美穂子・久・咲

咲「うわ・・・やっぱり嘸まれちゃったよ・・・」

ま「お疲れさんじゃ。」

和「お疲れ様でした、咲さん。」

咲「ありがとう、和ちゃん。」

久「・・・あうう・・・」

優「・・・部長はどうして真っ白になってるんだじえ？」

塞「さ、さあ・・・」

一「・・・大体の予想はつくけどね。」

純「だな。よりによってハギヨシさんの前で衣にちよっかい出したわけだし。」

透「当然ですわ！」

未「でも、これで真は宮永さんってことになるんですよね？」

美「そうかしら？まだ熊倉さんにも真目は残ってると思うわよ？」

白「・・・さすがに、信じづらい・・・」

塞「だよね。先生疑うのってあれだけど、この状況はちよつと・・・」

ま「ふむ。沢村さんに●を出したようじゃが・・・」

咲「・・・なんで疑ってるのが沢村さんと鹿倉さんだけなの・・・!?」

純「やっぱ、先生って立場が強えよな・・・」

優「むう。ちよつとずるっこいじえ！」

未「確かに熊倉さんが真ならそれでもいいんだろうけど・・・」

和「少しは、疑いを持ったらどうなんですか!？」

純「まあ残ったのが衣と・・・」

塞「豊音と・・・」

白「・・・エイスリン・・・」

未「・・・それに華菜ちゃんだもんね・・・」

ま「・・・勝ち目が見えん人選じゃな。」

優「全くだじえ♪」

和「・・・優希がいても、違和感はなさそうですね。」

優「」

久「・・・あ、須賀くん。ちよつとお願いが・・・」

京「うい？」

○9日目(昼) 純・和・京太郎・未春・塞・優希・透華・まこ・白望・一

美穂子・久・咲・智紀・華菜

華「あとちよつとつてところで噛まれたし・・・」

智「・・・衣の教育方針について話し合いたい・・・」

一「まあそれはそうなんだけどね。」

塞「豊音たちにもちゃんとやってあげないと・・・」

白「・・・任せる・・・ダルい・・・」

美「・・・何にせよ、勝負有りですね。」

久「そうね。ある意味、私たちの計算通りに進んだわけだし。」

美「はい。その通りですね。」

華「む? どういうことだし?」

未「えつと、状況は予想より悪い方向に進んでるってことかな・・・?」

華「にや?」

智「・・・やっぱり・・・?」

和「・・・天江さんが人狼、ですか。」

優「本人もそれを認めてるじえ！」

咲「つてことは……」

純「……だな。まだ残つてたわけだ。」

透「そ、そんな……!？」

塞「嘘っ……胡桃が……!？」

白「……負けたね……」

ま「全くじゃな……」

咲「……あれ？そういえば京ちゃんは……？」

ゲームは終了いたしました。

## 東の都にて

「……つと、そこでうちがこう言うたんや。『皆、騙されたらあかん！洋ぼんは人狼やで!』とな。」

「そ、それで、どうなったんですか!？」

「結果は……うちの睨んだとおりやった。危うく洋ぼんの騙りに皆が騙されるところを、うちの推理が救ったんや。見事、村の勝利になったで……!」

「うわあ……す、凄いです!」

「……全く身に覚えのない話しとるみたいやけど、止めでええのか?」

「けど、恰も楽しそうやし……?」

貸切のマイクロバスの中、少女たちの楽しげな声が響く。

場所は東京のとある場所。

目的地に向かうバスの中で、少女たちは思い思いに寛いでいた。

「わ、私もやってみたいです!『決まりです!人狼は初美ちゃんです!』。」

「ふむふむ。中々さまになつとるようやな。せやけど、もう少しキレがほしいわ。」



「キレ、ですか？」

「そうや。例えばこんな風に・・・」

「あらあら。小蒔ちゃんが楽しそうね。」

「つていうか、いきなり人を人狼扱いしないでほしいのですよ。」

東京で一緒にゲームしよう。

この案を実行に移したのは園城寺怜。

まず誘ったのは同校の仲間たち。

しかし日程の関係上、誘えたのは親友の清水谷竜華だけであった。

「せやけど、まさか東京で人狼ゲームとは・・・怜ちゃんも考えることが突拍子もないな」

？」

「うちもそう思うたんやけど・・・」

「実際、ここまで集まっとるわけですしね。」

次に声をかけたのは姫松高校麻雀部。

しかし先日共に遊んだそのメンバーも、やはり日程の関係上誘えたのは2人だけ。

それが愛宕洋榎・絹恵の姉妹であった。

「でも、その話がこつちに来るなんてね・・・」

「正直、予想も出来なかったのですよ。」

「……予想できるほうが不思議……」

「だけど、話を聞いた姫様がやる気になっちゃいましたし……」

さすがに4人では味気ない。

ほかにメンバーはいないかと洋樓に問いかけた伶に、『それならうつつけの奴がおるないか!』といつて連絡をしてくれたのは……

清澄高校麻雀部部长。

謎の人脈を持つ女、竹井久であった。

「……でも、それで永水の名前が出てきたときには驚きましたわ……」

「ほんまやな。てつきり長野の関係者とか紹介してくれるん思うてたのに……」

彼女によれば、ちょうど向こうの一年生と連絡を取っていたばかりであり、向こうもやりたそうな空気を醸し出していたとのこと。

それを聞いた伶は、すぐさま久越しに永水に連絡。

東京で……?とさすがに考え込んでいる石戸霞や狩宿巴ではなく、神代小蒔や薄墨初美にターゲットを絞り、見事口説き落とすことに成功したのであった。

「……それにしても残念ね。今回も明星ちゃん達来れなくて……」

「仕方ないですよ。まさか、まだ夏休みの宿題の大半が終わってなかったとは思いませんでしたから……」

「宿題は計画的にやらなくちゃ駄目なのですよ。」

「……うん……」

「……一応聞いたくけど、当然2人は大丈夫なのよね……?」

「……も、もちろん(ですよ)……」

「ならいいけど……」

「……『分かりました!人狼は……霞ちゃんです!』。」

「おお!まさにその感じやで!」

「あ……ありがとうございます!園城寺さん!」

「ふっ……苦楽を共にした、うちの仲やないか。気楽に怜やんって呼んでええで?」

「!……は、はい!怜やんさん!」

「……今度は、私が人狼にされちゃったみたいね?」

「的を得た推理なのですよ。」

「つまり何が言いたいのかしら?初美ちゃん?」

「……な、何でもないのでしょ……」

少女たちの楽しげな声は、いつまでもバスの中に響く。

永水がレンタルしたこのバスの行き先まで、あと少し……。

「……あ、見えてきました!」

「おお、ほんまやな。」

「ほく？あそこがな〜？」

「うちも来るのは初めてやな〜。」

「そりや練習試合でもないど、来る機会なんてありませんしね。」

長い時間をかけ、ついに集まった少女たち。

東京での遊戯の幕が、ついに開き始める・・・！

「・・・来た・・・。」

「・・・ようやくか。ずいぶんと待たせてくれるものだ。」

「・・・ズズズ・・・。」

「うわあ・・・冗談じゃなかったんですね・・・！」

「ふっふっふ〜・・・人狼ゲーム100年生の私の実力、見るがいさ〜！」

決戦の地の名は、白糸台——！

続く・・・

# 白糸台・永水+α ①

ふ：ということで始まりました！

人狼ゲーム、イン白糸台く！

実況は私、ふくよかでないスーパーアナウンサー福与恒子と！

30：すこやかでない小鍛治健夜がお送りします。

・・・っていうか、私の表記がおかしくない!? 私まだ27なんだけど・・・!?

ふ：アラフォーが何か叫んでいます、無視して紹介を始めます！

30：アラサーだよお!?

洋「・・・いや、突っ込みどころはそこやないんやけどな・・・？」

怜「これはたまげたなあ・・・」

絹「えっと・・・？」

霞「・・・どうしてテレビ局の方がいるのか、ちゃんとした説明がほしいところなんだけど？」

董「ああ、その・・・」

ふ：その説明は私から！

数日前に動画でアップされた人狼ゲームイン奈良を見た私は、まさにビビビッと来  
ました！

これをテレビでやれば、もしかしたら数字がとれるかもって？！

怜「いきなりぶっちゃけよつたで・・・」

竜「ど、動画ってあんときの・・・!?」

初「ああ、あれですか。」

春「・・・あれ見て、久に連絡した・・・」

ふ：さっそく局のお偉いさんに提案しましたが、さすがに実際の数字は未知数。  
そこで、まずは前哨戦として、この白糸台高校で試してみようということになりま  
して！

巴「・・・ああ、なんか読めてきたかも・・・」

小「ど、どういうことなんでしょうか？」

淡「ふっふっふ。つまり！私たちは選ばれたってことだよ！」

誠「・・・犠牲になった、とも言うけどね・・・」

ふ：実際にゲームの中継を行って、数字が取れたら本格的につて話になりました！  
快く撮影を承諾してくれた白糸台の皆さん！本当にありがとうございます！！

洋「・・・つて言うのとるけど？」

照「・・・董？」

董「いや、ゲームの中継を行いたって話だったから、てつきり麻雀の話かと思っ  
て・・・」

霞「……ちゃんと確認しないで了承したわけね？」

誠「……はあ……」

堯「……ズズズ……」

董「……す、すまん……」

怜「んゝ……でも、うちらにその話がきとらんのは何でなん？」

30：正確に言うと、ゲーム中継のために用意した相手って別の人たちなんだよ。

まだ予定時間前だからその人たちは到着してないけど、そこに君たちがやってきて、目的も同じだって聞いたから……

絹「……間が悪かったつちゆうことですか。」

竜「……せやけど、テレビ局が来るのも、うちらが来るのも分かってたんやろ？そんなら一言ぐらい、あらかじめ教えといてほしかったんやけど……？」

照「……董？」

董「……ほ、本当にすまん。テレビ局が来る日を、明日だと勘違いして……！」

堯「……テレビ局がやってきたとき、部長の顔が真っ青になってました……」

淡「つまり、全ては董の勘違いが原因だったたりしてゝ♪」



董「ぐっ……！」

霞「……意外、と言うべきかしら……？」

巴「あまり、予想はできませんね……」

照「……董、実は意外とドジっ子。」

董「お、お前にだけは言われたくないぞ!？」

ふ：まあそんなわけでして！

せっかくなので皆さんのプレイも撮影しようと思ったわけです！

あ、ちなみに霧島神境のほうにはすでに連絡済です！

あくまでゲームの撮影ならと許可をもらっていますので、そこはどうぞご安心を！

小「あ、じゃあ私たちも問題ないんですね！」

春「……問題なし……」

霞「むしろ、そこまで手回しがいいと困ってしまうのだけど……」

初「ここまで来たなら、楽しんだもの勝ちなのですよ。」

巴「……初美さんの言うとおりかもしれないですね。」

ふ：それではメンバーのご紹介です！  
まずは言わずと知れた、白糸台代表の5人です！

照「・・・よろしく・・・咲、見てる〜？」

董「やめんか恥ずかしい！」

堯「・・・おそらく、部長よりは恥ずかしくないかと・・・」

誠「初っ端からでしたからね・・・」

淡「やったじゃん董！ちよ〜目立ってるよ!？」

董「」

30：そして鹿児島県代表、永水女子の皆さんです。

小「よ、よろしくお願いします！一生懸命頑張ります！」

霞「あらあら。小蒔ちゃんのはりきってるわね？」

初「姫様はいつでも全力なのですよ〜。」

巴「そうですね。あ、私もよろしくお願いします。」

春「・・・よろしく・・・」

ふ：そして！わざわざ大阪からやってきてくれた、千里山女子と姫松の4人です！

怜「やつほ。」

洋「みんな見とるか？！」

絹「お姉ちゃん、恥ずかしいからやめてな・・・」

竜「よ、よろしくな。」

ふ：それではルールの説明です！

今回は通常の役職に加えて、以下のものが入っていますのでご注意ください！

### ○蝙蝠

生き残れば勝利という特殊な役職。

村人や人狼に関わらず、ゲーム決着時点で生き残っていれば勝利である。

カウントは村人であり、占いや霊能の結果には○と出る。

なおこの役職の勝敗と、他の陣営の勝敗は競合しないので要注意。

小「競合しない・・・？」

怜「つまり、どっちかが優先されることはないっちゆうことやな。」

30：園城寺さんの言う通りです。

例：村人2人、蝙蝠1人、人狼0人。

村人の勝利条件を満たしたので、村人と蝙蝠の勝利。

村人1人、蝙蝠1人、人狼2人。

蝙蝠のカウントは村人なので、2対2となり、人狼と蝙蝠の勝利。

このようになりますので、間違えないようにしてください。

洋「面倒な役職やな・・・けど、つまりは人外なんやろ？ほな見つけたら吊つてまえばええんやないか？」

絹「確かにそうかもしれんけど、一概にそうとも言えないんや。」

初「どういふことですか？」

霞「つまりね？蝙蝠はどの役職からしても、PPとしての利用性があるってことなのよ。」

例：村人2人、蝙蝠1人、人狼2人。

もしこの状態で人狼2人の正体が分かった場合・・・

蝙蝠が村人に味方↓村人と蝙蝠の勝利（最終的には）

蝙蝠が人狼に味方↓人狼と蝙蝠の勝利

霞「こうなるのよ。」

巴「もつとも、上記の例で蝙蝠が村人に味方したら、怒った人狼に蝙蝠が噛まれるかもね。それを考えると、蝙蝠としても人狼の味方をせざるを得ないけど・・・」

董「時と場合によっては、村人の戦力としても数えられるということだな。」

淡「いつ裏切られるか分からないから、信用はできないけどね♪」

30：そういうことだね。

もし見つけた場合、吊るのか、それともそのまま放置するのか、判断を間違えると痛い目にあうよ？

ふ・そして今回の内訳は、人狼（3）、狂人（1）、蝙蝠（1）、共有（2）、占い（1）、霊能（1）、狩人（1）、村人（5）となっています！

30：初日役欠け有り、占い有りですね。

照「・・・14人だから、6吊りの4人外。」

堯「・・・蝙蝠を入れると、人外5人ですね・・・」

春「・・・後半に蝙蝠を残すと、危険・・・」

竜「その場合、絶対人狼の味方するに決まるとるで・・・！」

怜「狐がおらんっちゅうのはありがたいんやけどなく・・・」

30：初日の会話時間は5分です。

以降は4分が2日、3分が2日と減っていきます。

ふ：もたもたしてると、すぐに時間は無くなっっちゃうので注意ですよ！

30：それでは、早速ですが始めます。

勝つのは一体どちらの陣営なのか？

ふ：人狼ゲーム、1回戦！

スタート！です!!

○2日目（昼） 犠牲 アラサー

処刑

生存 照・董・堯深・誠子・淡・巴・初美・霞・小蒔・春

怜・竜華・洋榎・絹恵

アラサーの無残な死体が発見されました。

小「みなさん、おはようございます！」

照「・・・おはよう。」

怜「おはようさんや。ほな、さつそくやけどどうする？」

洋「占いでええんやないか？いきなり●を共有にぶつければ、今日の時点で破綻やで

？」

絹「お、お姉ちゃんがまともなこと言つとる・・・!?!」

董「だが、確かにそれはいいかもしれないな。」

堯「・・・では、共有のCOは、占いの後で・・・」

初「そうするのですよ。」

巴「占い結果はバラバラに？それとも一齐にですか？」

誠「一齐にやったほうがいいでしょうね。変に誤魔化される危険もないですし・・・。」

淡「うんうん！じゃあさつそく占いの結果にいくよ!？」

竜「ほな、最初だけはうちが合図出すで？うち占い師とちやうしな？」

春「・・・よろしく・・・」

霞「よろしくお願ひします。」

竜「ほないくで？占いの結果、せくの・・・!」

淡「テルくは○だったよ!」

堯「・・・誠子ちゃん、○でした・・・」

怜「竜華、○やな。」

淡「むむつ！さつそく人外2人発見だよ!」

怜「それは渋谷さんと大屋さんのことやな？」



淡「ぶつぶ〜！私は真の占い師だよ〜！」

堯「・・・真は私だよ？淡ちゃん・・・？」

淡「違うよ〜だ〜！」

照「・・・淡が、占い師？」

誠「堯深も、占い師の候補なんだね？」

竜「怜もやな。ちなみに、うちらを占つたんは初日やったから？」

淡「そうだよ〜！私がテル〜を占つたのは、初日だから親しい人を占つただけだよ〜！」

堯「・・・私も同じです。誠子ちゃんの色を確認したかったので・・・」

怜「うちも同じや。さすがに初日は、誰が怪しいかなんて分からんからな。とりあえ

ず、一番知りたい人の色を見ただけやで。」

竜「・・・怜・・・！」

初「まくた始まったのですよ〜。」

春「・・・バスの中でも、ずっとこれだった・・・」

小「仲が良いのはいいことです！そうですね？霞ちゃん!？」

霞「その通りね？小蒔ちゃん？」

巴「いやいや・・・」

董「・・・ふむ。とにかく、騙りは2人か・・・。」

洋「いくや、油断は出来んで？もしかしたら、占い欠けつちゆう可能性もあるからな。」

絹「そ、それはさすがにないんちゃう？真欠けなら、人狼が2匹も占い騙つとるつちゆうことになるで？」

霞「・・・いえ、もしかしたらだけど、蝙蝠が騙っている可能性もあるわ。」

小「こ、蝙蝠ですか!?!ですが、だとしたら一体誰が・・・!?!」

初「もしかしたら、ですよ?」

淡「むっ!蝙蝠が騙ってる可能性はあつても、占いが欠けてる可能性はゼロだよ!なれたつて、この私が真なんだからね!」

怜「真はうちやで。大星さんなんかは、もろに狂人や蝙蝠っぽいけどなく?」

堯「・・・なんとなく、分かるかも・・・」

誠「蝙蝠か・・・でも蝙蝠なら、潜伏してたほうがいいんじゃないですか?」

春「・・・そうとも限らない・・・」

霞「そうね。潜伏中に噛まれないように、あえて騙ってくるっていう可能性があるわ。」

巴「確かに占いを騙れば、そう簡単には噛まれないとは思いますが・・・」

照「・・・でも、怪しまれて吊られる可能性はあるよ?」

洋「そうなたら、吊られる前に自分は蝙蝠やつて言つてしまえばええんや。無駄吊りが出来ん状況まで待つとけば、もう蝙蝠吊つとる余裕は無くなるんやからな。」

絹「そ、それはそうなんやけど・・・さつきから、ほんまにどうしたんや? お姉ちゃん?」

洋「ん? 何がや?」

怜「・・・ひ、洋ぽんが全然ボケんで・・・!」

竜「あ、ありえへん・・・!」

絹「・・・まさか、それがお姉ちゃん流の狂人アピールなんじゃ・・・!」

洋「何でやん!? テレビの前やから真面目にやつとるだけやろうが!」

怜「・・・そ、そういうことはやめてほしいわ。ほんま、心臓に悪いで・・・」

竜「だ、大丈夫なん!? 怜く!」

絹「お、お姉ちゃん! はよ謝りい!」

洋「何でっ!」

照「・・・えつと、でも、全員が○だね。共有は誰?」

洋「うちが真面目にやつたらそんなにおかしいんかい・・・!? まあそうやな。破綻せんかったのは残念やけど、共有COしてくれへん?」

霞「そ、そうね。共有は誰なのかしら?」

董「う、うむ。C O共有だ。」

春「・・・その相方・・・」

竜「あ、2人とも出てきたんやな？」

絹「ええんですか？1人は潜伏せんで？」

董「・・・共有トラップも確かに考えたのだが、それよりは確定の○を増やして、グレーを狭くしておこうと思つてな。」

春「・・・それに、2人とも初プレイだったから・・・」

伶「・・・なるほどな。万が一潜伏中に噛まれたりしたら、騙られんかが心配やつたつちゆうことか。」

董「そういうことだ。すまんが、今回はこれでいかせてもらいたい。」

洋「まあもう出てきとるんやし、仕方ないやろ。ほんなら今日はグレランか？」

董「そのつもりだ。それですまんが、霊能にはC Oしてもらいたい。間違つて吊りたくはないんでな。」

小「確かに、霊能は大切ですね・・・！」

誠「欠けてたら最悪ですけどね・・・。」

春「……靈能の人、誰……？」

巴「では、CO靈能させていただきます。」

霞「あら、巴ちゃんが靈能だったのね？」

小「が、頑張ってくださいね、巴ちゃん！」

巴「はい。ありがとうございます、姫様。」

絹「えっと……もう他にはおらんのですか？」

照「……いないみたい。」

董「ふむ。これは……」

初「靈欠けてやつですわね？」

巴「むっ。私は真靈能ですよ、初美さん。」

初「でも1人だけじゃ、ちよつと怪しいのですよ。」

淡「そうだよね。実は靈欠けで、あの人つて人狼なんじゃないの？」

堯「……ずいぶん疑ってるね？淡ちゃん……？」

怜「そうやな。怪しいのは分かるけど、ちよつとあからさますぎやないか……？」

竜「ど、どういふことなんや？怜？」

怜「ようするに、大星さんは真を消したい人狼やっちゅうことや。」

淡「むっ！違いますよくだ！怪しいのは怪しいじゃん!？」

董「・・・霊能の真偽はおいておこう。さすがにまだ分からんからな。」

照「・・・だね。それより、今日はグレランとして、誰か怪しい人っている・・・？」

霞「そうね・・・なんとなくだけど、愛宕のお姉さんと妹さん、かしら・・・？」

洋「う、うちか!？」

絹「お、お姉ちゃんが怪しいんは分かるけど、なしてうちまで!？」

洋「つてこら絹う!？」

霞「その、勘違いだったら申し訳ないんだけど・・・さつきから関係ないところで、時

間使われちゃつてるから・・・」

誠「な、なるほど・・・」

小「で、でも！それぐらいで人を疑っちゃいけないと思います!？」

巴「えつと・・・姫様のそういう優しいところは、間違いなく美点だとは思うのです

が・・・」

初「このゲームでは、少しでも怪しければ疑わなくちゃ駄目なのですよ。」

小「うう・・・それは、その通りだと思うんですけど・・・」

董「・・・根本的などころで、このゲームには向いていないと思うんだが・・・？」

春「……それが自慢……」

ふ：さあ、残り1分を切りました〜！

30：今日の結果、そろそろまとめたほうがいいと思います。

董「……時間だな。では、予定通りグレランでいこう。」

春「……今日の対象は……」

小「えっと、私と……」

初「私もですね〜。」

霞「あら、私もかしら？」

洋「そんなもってうちと……」

絹「うちつちゆうわけやな。……お姉ちゃん、人狼ならCOしてええんやで？」

洋「せやからちやうわ!!」

淡「ふっふ〜ん！確かにその2人も怪しいけど、それより怪しい人がいるよね〜……

！

堯「……一番怪しいのは、淡ちゃんだと思っただけ……？」

怜「確かにそうやな。せやけど渋谷さんかて、うち目線では人外やからな？」

竜「えっと、怪しい人つちゆうと……」

照「……誰？」

誠「わ、私にもちよつと……」

巴「誰に投票すればいいのかな……」

ふ：そこまでです！

30：それでは、皆さん投票を始めてください。

○投票結果

照(0) ↓ 霞                      董(0) ↓ 初美                      堯深(0) ↓ 絹恵                      誠子(0) ↓ 初美                      淡(0)

↓ 初美

巴(0) ↓ 洋榎                      初美(6) ↓ 洋榎                      霞(1) ↓ 絹恵                      小蒔(0) ↓ 初美                      春(0)

↓ 絹恵

怜(0) ↓ 洋榎                      竜華(0) ↓ 初美                      洋榎(3) ↓ 絹恵                      絹恵(4) ↓ 初美

投票の結果、薄墨初美さんは処刑されました。



初「うう、巴ちゃんを疑いすぎちゃいましたかね。でもでも！あの2人より票が多いのは納得できないのですよ！」

3 日目に続く・・・

## 白糸台・永水＋α ②

○3日目（昼） 犠牲 アラサー・董

処刑 初美

生存 照・堯深・誠子・淡・巴・霞・小蒔・春・怜・竜華

洋榎・絹恵

弘世董さんの無残な死体が発見されました。

ふ：みなさん、おはようございます！

昨日の犠牲者は、共有の弘世董さんでした〜！

30：確定○が一つ減ってしまいましたね。

追い込まれる前に、何とか人狼を追い詰めたのですが・・・

ふ：今日の会話時間は4分です！

30：昨日より短くなっているの、なるべく無駄話はしないようにしていきたいです  
すね。

ふ：それでは3日目〜！

30：スタートです。

春「・・・おはよう・・・董がやられた・・・」

洋「そうみたいやな。いきなり相方がやられたんは気の毒やけど、進行はよろしく頼むで？」

春「ん。・・・じゃあまず、巴さんから・・・」

巴「うん。昨日の初美ちゃんの結果だけど、答えは○。村人ね。」

小「そんな・・・じゃあ私たちは、無実の初美ちゃんを・・・!?」

霞「・・・そういうゲームだもの。初美ちゃんのためにも、ここからは頑張つて推理  
しましようね？小蒔ちゃん？」

小「は……はい！」

春「……じゃあ、次は占いを……せくの……」

堯「……絹恵さん、●です……」

怜「洋ぼん、○やな。」

淡「絹恵先輩、●なのさ〜！」

淡「……むっ！たかみろが私の真似した!？」

堯「……真似したわけじゃないんだけど……でも、ここでそうしてきたってこと

は、逆囲いしてきたってこと……?」

怜「騙りが同じ子に●か……?」

絹「……つてうちが人狼なわけないやないか!?!あの2人が騙りやで!？」

洋「ふふん。どうやら化けの皮が剥がれたようなやな?絹?……さては昨日うちに絡んできたんも、うちにばれるのを恐れてやったんやな……!?!」

絹「へ?そんなんあるわけないやん?」

洋「」

淡「一応理由を言っとくよ?まあ昨日の投票でもそうだったけど、あからさまに怪し

すぎたからね！こりや占わなくちゃって思ったんだよ！」

堯「・・・理由としては同じですね。票を貰ってない神代さんや石戸さんも占つてみたかつたんだけど、まずは確実にと思ひまして・・・」

怜「・・・占つた理由自体は同じやな。まあうちが占つたんは、洋ぼんのほうやつたんやけどな。」

誠「・・・この場合、やはり妹さんを吊つて確かめたほうがいいんですよね・・・？」

竜「まあ、そらそうなんやけど・・・」

怜「いや、それでええと思うで？」

淡「おや？身内がばれて、もう諦めちゃった？」

小「怜やんさん・・・？」

怜「勘違いしたらあかんで？うち目線、その2人は間違いなく人外、それもおそらく人狼が混じつとる。それを考えると、昨日怪しまれた身内を逆囲い+切捨てにきたつてほうが納得できるんや。もう一人のほうは、おそらく空気読みすぎて誤爆しとるだけやろ。」

竜「ほな怜から見ても、絹恵ちゃんは人狼なんか？」

怜「確実とは言えへん。せやけど、可能性は高い思うてるで？」

絹「ほ、ほんなら園城寺さんがうちを占つてくれたらええんや！それで○が出れば信

じれるやろ!？」

春「……でも、それでも●が出れば……」

絹「そんな時は、占い欠けやっつちゅうことが分かるだけや!とにかく、うちは人狼ちやうからな!？」

誠「うゝん……どうすればいいんでしょうか……?」

霞「……吊るしかないわね。これで村人だったら、騙されてしまったってことだけど……」

洋「……そうやな。さすがに●出されて、まして吊りに余裕があるこの状況で、無視するわけにもいかんわ……」

絹「……お姉ちゃん、もしかしてさっきのこと怒つとるん?せやからうちのこと疑つとるん……!？」

洋「んなわけないやろ。うちは絹を信じとる。せやけど、勝負の結果とはまた別の話や……!」

絹「そんな、お姉ちゃん……!？」

小「うう……何だか、可哀相です……!」

巴「……仕方ないですよ、姫様。」

誠「そうですね……」

春「…なら、今日は絹恵さんで決定。…それで、次に占いの真偽なんだけど…？」

淡「当然、私が真だからね！●ばつちし見つけたんだから、もう決定でもいいんじゃない!?」

堯「…見つけたのは私もだよ？それに、淡ちゃんは逆囲いしただけだよね…？」  
 怜「真はうちなんやけどな。けどこれで本当に絹ちゃんが●やつたら、うちの真目を取られてまうなあ…」

竜「んゝ…うちとしては、怜を信じたいとこなんやけど…？」

誠「けど、●を見つけたのは堯深と淡ですよ？これで本当に結果が●なら、このどちらかが真の可能性が高いんじゃないですか？」

照「…どうだろう。もしかしたら、園城寺さんが言ってるとおり、逆囲いと誤爆が重なっただけかもしれない。」

霞「これで結果が○なら、園城寺さんが真つてすぐに分かるんだけど…？」

淡「そんなはずはないよ！もし結果が○だって言うなら、やつぱり霊能も人外つてことだからね!」

堯「…その点については同意します。私の占い結果には、ちゃんと●と出ていたので…」

巴「私は間違いなく真霊能です。けど、これで結果が○だと私が疑われそうですね……!?」

洋「……まああれやな。とにかく絹吊つて、色見んことには話が始まらないで?」

小「……それしかないんですね……」

ふ：さあ、残り1分を切りました〜!

30：今日の結果をまとめてください。

春「……今日は絹恵さんに投票で……」

絹「うう、うちは人狼ちやうのに……!!」

洋「しゃあないわ。まあ村人やったら村人つて証明してくれるやろうから、あんま気に病むんやないで?」

絹「……妹助けてくれんお姉ちゃんなんて嫌いや。」

洋「つて何で?!」

怜「……まああれやな。もしほんまに人狼やとしたら、明日はうち吊られてまうかもな〜……」



竜「と、怜はうちが守ってみせるで!？」

巴「いやいや・・・」

ふ：そこまでです!

30：それでは、各自投票を始めてください。

○投票結果

照(0) ↓ 絹恵 堯深(0) ↓ 絹恵 誠子(0) ↓ 絹恵 淡(1) ↓ 絹恵

巴(0) ↓ 絹恵 霞(0) ↓ 絹恵 小蒔(0) ↓ 絹恵 春(0) ↓ 絹恵

怜(0) ↓ 絹恵 竜華(0) ↓ 絹恵 洋榎(0) ↓ 絹恵 絹恵(11) ↓ 淡

投票の結果、愛宕絹恵さんが処刑されました。

絹「うちは人狼ちゃうからな! ●なんか出しよったらただじゃおかんで!？」

○4日目(昼) 犠牲 アラサー・董・竜華

処刑 初美・絹恵

生存 照・堯深・誠子・淡・巴・霞・小蒔・春・怜・洋榎

清水谷竜華さんの無残な死体が発見されました。

ふ：みなさんおはようございます！

昨日の犠牲者は、清水谷竜華さんでした！

30：この噛みには何か意味があるのか、人狼たちの真意を知りたいところですね。

ふ：そして本日の会話時間は、昨日に引き続き4分です！

30：スピーディに話し合いを行ってください。

ふ：それでは4日目！

スタートです！！

春「……おはよう……」

怜「おはようさん。昨日は竜華がやられてもうたみたいやな……」

霞「そうね。てつきり役職に襲撃が来るのかと思つてただけど……」

洋「……もしかすると、狩人探しとるんかもしれんな。昨日竜華の奴、最後に怜やんのこと守るつてゆうてたやろ？」

誠「だとすると、それが狩人だと見られて嘯まれたと……？」

照「……可能性は高い。けど、本当に狩人がいないのかどうかは、まだ調べないほうがいいと思う。」

小「そ、そうですね！COしたら、狩人さんがやられちゃいますし！」

春「……間違いない。狩人がいたとしても、まだ名乗らなくていい。それで、巴さん……？」

巴「うん。昨日の絹恵さんの結果なんだけど……結果は●。人狼です！」

洋「……それ、ほんまなんか？」

淡「ほくらみろ〜！これで私が真つて決定だよ〜！」

堯「……私は……？」

怜「……ほんまに逆囲いと誤爆が重なったみたいやな。」

照「……どう思う？」

誠「……私は、やっぱり堯深か淡が真なんじゃないかと思えますけど……？」

巴「私の見解も同じだね。人狼の逆囲いもあるかもしれないけど、それでもこのどつちかが真なんじゃないかって考えてる。」

霞「困ったわね……だとしたら、今日はどうすればいいかしら……？」

春「……とりあえず、占いの結果を聞かせて……？」

小「そ、そうですね！すっかり忘れてました！」

洋「せやから忘れちゃあかんところやで……」

春「……それじゃあよろしく……せうの……」

淡「誠子、○だったよー！」

怜「小蒔ちゃん、○やな。」

堯「……宮永先輩、○です……。」

誠「……あれ。私と宮永先輩って……」

照「……初日に、それぞれ別の相手に占われてるね。」

淡「ずばり！それが占った理由だよ！私目線、人狼として怪しいのはたかみくだから

ね！なら初日に人狼を囲ってないか確かめたの！……まあ結果は○だったんだけどね……」

誠「……って、なんでそんなに残念そうなんだよ……？」

淡「てつきり人狼だと思ってたから。」

誠「」

堯「……私が占った理由も同じです。私目線、人狼の可能性が高いのは淡ちゃんです。初日に囲っていないか調べました……」

霞「……2人は囲いの警戒をしていたのね。それで園城寺さんは、小蒔ちゃんを占ったみたいだけど……？」

照「……何で？」

小「わ、私、そんなに怪しかったでしょうか……!？」

怜「逆や。うちから見ても、小蒔ちゃんが人狼やとはとても思えん。せやから占ったんや。」

洋「……なるほどなく。つまり伏せられたまま終わらんよう注意したってことやな？」

怜「そういうことや。」

小「そ、そうだったんですか……」

誠「……けど、真目として見るには少し弱いのでは……?」

照「……確定ではないけど、やっぱり園城寺さんを真として見るのは……」

巴「……そうですね。やはり、この2人のどちらかが真ではないかと考えます。」

怜「……なんや。うちの味方はおらんのか? ……もしかして昨日竜華を噛んだんは、うちを孤立させるためちやうやろな……?」

洋「実際、それも含めての噛みかもしれんな。まあほんまに人狼がなに考えて噛んだんか、本人らに聞かんことには分からんけどな。」

霞「そうね。……でも、結果として全員がまた○出しなわけね。なら今日の投票は……?」

春「……決定……」

小「え……?」

春「……占いに投票する……」

洋「……まあ、そうなるわな。」

誠「……つまり、一番怪しいと思う人に投票すればいいということですね?」

照「……そういうこと。」

怜「……うち、めっちゃピンチやないか……?」

小「ほ、他の方法はないんでしょうか!?このままでと怜やんさんが……!?」

霞「……小蒔ちゃん?あんまりこういうこと言いたくはないんだけど、必要以上に庇うと、擦り寄りに見られちゃうわよ……?」

小「で、でも……!?」

怜「……まあしやあない。結果を出せんかったうちが悪いんや。小蒔ちゃんには任せるで。」

小「怜やんさん……!?」

淡「ふっふっくん。……なくんかその2人も怪しいよね?」

堯「……案外、あっちが人狼……?」

怜「うちは真やで。吊られるにしても、これだけは変えんわ。」

ふ：残り1分を切ったぞ〜!

30：占いに投票の流れですね。

では、それぞれ誰に投票するか、よく考えたほうがいいかと。

照「……決まった。」

誠「私の中では、この選択以外はありませんね……。」

霞「……園城寺さんが？それとも本当に……？」

小「うう、私は……!？」

洋「んゝ……案外ここらが怪しいんとちやうか……？」

巴「この人以外には、無いと思うんだけど……？」

春「……姫様には、申し訳ないけど……」

淡「つまり怪しい人でしょ？……すつごい人狼くさい人がいるよねゝ……？」

堯「……うん。目の前にね……。」

怜「……竜華。今そつちに行くで……」

ふ：それではお時間です！

30：各自、投票を始めてください。

### ○投票結果

照(0) ↓ 怜      堯深(3) ↓ 淡      誠子(0) ↓ 怜      淡(3) ↓ 堯深



巴(0) ↓ 怜  
霞(0) ↓ 淡  
小蒔(0) ↓ 堯深  
春(0) ↓ 怜  
怜(4) ↓ 堯深  
洋榎(0) ↓ 淡  
投票の結果、園城寺怜さんが処刑されました。

怜「信用されん占い師で、ほんまつらいわ：：はよ竜華に膝枕してもらわんとな：：」

5日目に続く・・・

## 白糸台・永水+α ③

○5日目（昼） 犠牲 アラサー・堇・竜華

処刑 初美・絹恵・怜

生存 照・堯深・誠子・淡・巴・霞・小蒔・春・洋榎

平和な朝を迎えました。

ふ：みなさん、おはようございます！

ついに平和な朝がやってきました〜！

30：狩人のGJですね。

これで吊りの回数が1回増えましたね。

ふ：正に狩人GJだ〜！

30：今日からは会話時間が3分間になります。

昨日よりも早く終わるので、時間配分には気をつけてください。

ふ：それでは始めるぞ〜！

5日目〜！

スタートです!!

春「・・・おはよう・・・狩人GJ・・・！」

洋「まだおるつちゆうことやな。ありがたいことやで！」

誠「そうですね。吊り回数が1回増えるっていうのは助かります。

照「・・・うん。でも、時間が短くなってるから早く始めよう？」

霞「宮永さんの言う通りね。巴ちゃん？」

巴「はい。園城寺さんの結果ですが・・・結果は○。村人です。」

小「じゃ、じゃあやつぱり・・・!?」

淡「狂人だったか〜。ってことは、やつぱり人狼って〜・・・？」

堯「……ほぼ確定。淡ちゃん、蝙蝠じゃないよね……?」  
春「……占い、よろしく。……せくの……」

淡「小蒔、●だよ〜!」

堯「……石戸さん、○でした……」

小「ふ、ふええ〜!」

霞「あら、私も占ってくれたみたいだけど……?」

淡「私は怜やんが人狼だっと思ってたからね。だから身内で庇いあつてるんじゃないかって思って占ったんだよ! まあ怜やんは狂人だったみたいだけど、結果は●だから問題なくし!」

堯「……私は、昨日の投票が理由です。昨日はてつきり園城寺さんに票が集まるかと思つていたんですけど、思つていたより平らな結果でした。だから、私と同じで淡ちゃんに投票した人たちの中に、真に擦り寄ろうとしてる人狼がいるんじゃないかと思つて……」

誠「この場合、やっぱり今日の吊りつて……?」

巴「……その……」

霞「……ごめんなさいね？小蒔ちゃん？個人的には信じてあげたいんだけど……」  
小「……私を吊つて、確かめる場面ですよね。……でも、そんなのは駄目です……！」

洋「気持ちは分からんでもないけどな？あんまり拒否すると、ますます疑われてまうで？」

小「私は、怜やんさんに後を任せました。だから……自分ができる事を、精一杯やります！」

春「……姫様……？」

照「……？」

小「巴ちゃん。巴ちゃんは間違ひなく真で、人狼は残り2匹なんですよね！」

巴「え？そ、それはもちろんそうですけど……？」

小「なら、吊りは残り4回ですから間に合います！」

小「CO！狩人です！」

誠「え……!？」

照「……神代さんが、狩人……!？」

淡「むっ……それ騙りだね！本当の狩人って誰!？」

小「出れるものなら出てきてください！まとめて吊られてもらいます!」

淡「へ……?」

巴「っ！そ、そうか……!？」

洋「……そういうことなんやな。小時のやつ、なかなか考えたやないか……!？」

春「……姫様、賢い……!」

小「もし占い師の中に蝙蝠がいるのでしたら、今すぐCOしてください！私の騙りが出次第、占い師共々全てロラさせていただきます!」

淡「そ、それずっこいよ!？人狼が悪あがきしてるだけだつてば!？」

照「……でも、確かに狩人の対抗が出るなら、それが確実……!」

誠「そ、そうですね。占いの中に人狼1人。狩人の中に人狼1人とすれば、全員吊つてもギリギリ間に合います!」

巴「姫様、やるじゃないですか……!？」

霞「そうね。逆に狩人の対抗が出ないのなら、大星さんの騙りが明らかになるだけなものね。」

堯「……あとは、私がラストを見つげるだけですわ……!」

淡「ち、違うからね!？私本当に真なんだから!」

ふ：残り1分を切ったぞく!?

30：さあ、今日はどのような結果になるのでしょうか？

春「・・・狩人、対抗するなら早くCOして・・・!」

淡「し、しなくていいよ!?!こんなのにのせられちや駄目だからね!?!」

誠「でも、ここで出ないとお前が吊られるけど・・・いいの?」

淡「・・・や、やっぱり早く出てよく!?!」

洋「どっちやねん・・・」

照「・・・どちらにしろ、出る気配は無さそうだね。」

巴「そうですね。なら今日は・・・!」

霞「・・・大星さんね。」

春「・・・決定・・・!」

ふ：それでは、お時間です!

30：各自、投票を始めてください。

○投票結果

照(0) ↓ 淡 堯深(0) ↓ 淡 誠子(0) ↓ 淡 淡(8) ↓ 小蒔  
 巴(0) ↓ 淡 霞(0) ↓ 淡 小蒔(1) ↓ 淡 春(0) ↓ 淡  
 洋榎(0) ↓ 淡

投票の結果、大星淡さんが処刑されました。

淡「うわあくん！小蒔、ずっとこらくらい!!」

○6日目(昼) 犠牲 アラサー・董・竜華・誠子

処刑 初美・絹恵・怜・淡

生存 照・堯深・巴・霞・小蒔・春・洋榎

亦野誠子さんの無残な死体が発見されました。



ふ：おはようございます！

昨日の犠牲者は、亦野誠子さんでした〜！

30：これで、また1人少なくなりましたね。

どのような結果になるのか、想像も付きません。

ふ：今日の会話時間は、昨日に引き続き3分！

30：昨日同様、スピーデイに話し合ってください。

ふ：それでは6日目〜。

スタートです！

春「・・・おはよう・・・」

照「・・・おはよう。誠子もやられちゃったね。」

霞「そうね。でもみんなでまとまれば、きっと人狼の尾はつかめるはずよ。」

小「そうですね！皆で協力すれば、きっと勝てるはずです！」

洋「その通りやな。それで、結局大星ん色は・・・」

堯「・・・その前に言わせて。みんなが騙される前に・・・！」

春「・・・渋谷さん・・・？」

巴「・・・！」

堯「・・・私の占い結果・・・神代さん、●。人狼です・・・！」

小「えっ・・・!?」

霞「そんな、渋谷さんまで小蒔ちゃんを・・・!?」

照「・・・嘘・・・!?」

巴「騙されなくてください！大星さんの結果は○、村人です！つまり残った渋谷さんは、間違いなく人狼です！」

春「・・・嘘・・・これって・・・」

洋「・・・どういふことや。どっちかが嘘ついてるつちゆうことや・・・!?」

堯「……やっぱり、心配した通り……」

照「……堯深……?」

堯「……靈能が、乗っ取られています。狩宿さんも、人外です……!」

巴「違います! 私は間違はなく真靈能です!」

小「わ、私だって狩人です! 嘘じゃありません!」

霞「困ったわね……個人的には身内を信じたいんだけど……!」

春「……けど、もし本当に靈欠けだったら、ここで失敗すると敗北……!」

堯「……私目線、人狼は神代さんと絹恵さん。そして淡ちゃんが狂人で、狩宿さんも……おそらくは、人狼なんだと思います……!」

洋「……ん? ちよい待てや? そうすつと怜やんは何になるんや?」

堯「……おそらくだけど、あの人が蝙蝠だったんだと思います。○しか出さなかったのも、破綻するのを恐れてたんじやないかと……」

照「……確かに、その可能性はあるけど……」

巴「違います! 私目線ですが、渋谷さんは間違いなく人狼。絹恵さんも人狼だから、後

はこの中に一匹潜伏しています。問題は園城寺さんと大星さん、どっちが真かって話なんだけど、おそらく園城寺さんが真だったんじゃないかって考えます……！」

堯「……昨日までは、それは無いって言ったのに……都合が悪くなつたから、意見を変えるんですか……！」

巴「自分でも情けないとは思うけど、ここで間違うわけにはいかないの……！」

小「……私も、やっぱり怜やんさんが真なんだと思います。もしくは、真欠けで、怜やんさんが蝙蝠って可能性もあるかもしれないですけど……！」

春「……園城寺さんが真の場合は……？」

洋「……こん中やと、○貰つて残つてるんはうちと小蒔だけやな。つてことは、明日はうちが噛まれるんちゃうか……!？」

照「……園城寺さんが真なら、その可能性は高い。でも……」

堯「……私目線では、間違いなく神代さんと狩宿さんは人狼です。ここは、確実にどちらかを吊るべきです……！」

霞「……けど、もし本当に渋谷さんが真だとしたら、狩人はどうしちやつたの？昨日のスタート時点では、間違いなくいたはずだと思うけど……？」

堯「……おそらく、誠子ちゃんです。最後に淡ちゃんに、出ないと淡ちゃんが吊ら

れるけどいいの? って確認してたから……」

照「……もしそれが本当なら、誠子はあとでお仕置き……!」

洋「……哀れなやつちゃ……」

ふ:そしてここで、残り1分を切った〜!

30:今日の結果を、急いでまとめてください。

春「……渋谷さんか、巴さん。どっちかに投票して……!」

小「は、春ちゃん!」

霞「……仕方ないわね。こうなってしまった以上は……」

照「……だとしたら、どっちが……?」

洋「ん〜……一体どっちに投票すればええんや……!」

巴「私は……間違いなく真霊能です……!」

堯「……私も、真占いです……!」

ふ:さあ、考えるのはそこまでだ〜!?

30：皆さん、投票を始めてください。

○投票結果

照(0)↓巴 堯深(4)↓巴

巴(3)↓堯深 霞(0)↓堯深 小蒔(0) 堯深 春(0)↓堯深

洋榎(0)↓巴

投票の結果、渋谷堯深さんは処刑されました。

堯「・・・残念。勝ちたかったんだけど・・・」

○7日目(昼) 犠牲 アラサー・董・竜華・誠子・春

処刑 初美・絹恵・怜・淡・堯深

生存 照・巴・霞・小蒔・洋榎

滝見春さんの無残な死体が発見されました。

ふ：おはようございます！

昨日の犠牲者は、共有の滝見春さんでした〜！

30：これで、確定の○が全て消えてしまいましたね。

ここからどういう展開を見せるのか、非常に気になります。

ふ：今日の会話時間は、さらに短くなって2分です！

30：ここからは、残り30秒でのコールになりますのでお気をつけください。

ふ：それでは7日目・・・

スタート〜!!

巴「おはようございます。ついに春ちゃんもやられちゃいましたね・・・」

小「そうですね・・・残念です・・・！」

洋「つていうかあれやな。こうなると残る人狼候補っちゅうのは……」

霞「……私か……」

照「……私。」

洋「……ちなみに、COはないんか？自分が蝙蝠やいうんなら、今のうちに言つていたほうがええで？」

霞「あいにく、ただの村人よ。」

照「……同じく。」

巴「なら、あと2回でお2人を吊れば問題無しですよ。それで村人の勝利です！」

小「そ、そうですね！」

霞「そうね。……確かにそうんだけど……」

照「……石戸さんって、本当に人狼……？」

霞「……宮永さんも、やっぱりそれが気になるわよね……？」

小「へ……？」

照「……単刀直入に聞く。……神代さんと狩宿さん。本当に村人……？」

巴「なっつ！……ここまで来て、まだ疑うんですか!？」

霞「悪いけど、私もそう思ってるの。だって、今日私か宮永さんを吊って、その瞬間にゲーム終了ってなったらって思うと……」



小「わ、私は本当に狩人です！霞ちゃんは私を疑ってるんですか!?!」

照「……ここまできると、それが本当に演技なんじゃないかって思えてくる……!」

洋「……あく、つまりあれか？そちらとしては、この2人を吊りたいってことか？」

霞「……そうなるわね。」

照「……うん……!」

巴「で、ですから！私は本当に霊能で……!」

霞「途中までは、私もそう信じてただけど……ここまできると、実は霊欠けこそ

が正しいんじゃないかって思えてきて……」

小「わ、私は……!?!」

照「……とにかく、今日はどちらかを吊りたい……!」

霞「……そうね。とにかく、無事に明日を迎えたいわ……!」

巴「そんな、何でここまで来て……!?!」

小「あと少しなんですよ……!?!」

洋「……あかん。まとまる気配が見えんで……」

ふ：さあ！残り30秒だ〜！

30：そろそろまとめないと、間に合わなくなりますよ？

霞「……じゃあ、私は巴ちゃんに投票するわね。」

照「……なら、私もそうする……！」

小「だ、駄目ですよ!?!ここは人狼を探して……！」

巴「っ!……もう時間がありません。私は霞さんに投票します。」

小「巴ちゃん!?!」

巴「姫様も、そうしてください……！」

洋「……あかん。なしてうちがここまで岐路に立たされなあかんのや……!?!」

ふ：そこまで……！

30：では、投票を始めてください。

○投票結果

照(0) ↓ 巴

巴(3) ↓ 霞  
霞(2) ↓ 巴  
小蒔(0) ↓ 霞

洋榎(0) ↓巴

投票の結果、狩宿巴さんが処刑されました。

巴「ここまで来たのに・・・姫様、あとはよろしくお願いします・・・!」

○8日目(昼) 犠牲 アラサー・董・竜華・誠子・春

処刑 初美・絹恵・怜・淡・堯深・巴

生存 照・霞・小蒔・洋榎

平和な朝を迎えました。

ふ：おうつとお!?

最終日で、まさかの平和だ!?

30：おはようございます。

恒子ちゃん、スタートの挨拶はちゃんとしなくちや駄目だよ?

ふ：ということはつまり！

もう人狼は見つかつたのではないでしようか？！

30：聞いてないね・・・

とにかく、今日の会話時間も2分です。

時間は短いので、スピーディに話し合ってください。

ふ：それでは運命の最終日！

スタートです！！

小「やりました！またGJです！」

照「・・・驚いた。本当に狩人だった・・・!?」

霞「・・・そうね。それで、誰を守ってくれたの？もちろん私を守ってくれたのよね？」

小「昨日は……………宮永さんを守りました！」

霞「……………」

洋「ほう…………つまり、そっちが人狼やったんやな…………！」

照「…………ごめんなさい。完全に疑ってた…………！」

小「宮永さんが襲撃されたことは、宮永さんは人狼ではありません。そして人狼の正体ですが、もし真欠けなら候補は2人だけど、怜やんさんを真だと信じるのなら、残るは霞ちゃんだけ！つまり…………」

小「人狼は…………霞ちゃんです!!」

霞「…………真欠けだったってことね。つまり愛宕さんが人狼よ。」

小「霞ちゃん…………！」

洋「とりあえず、ちやうつて言うとかで？」

霞「…………CO蝙蝠よ。信じてもらえないかしら…………？」

照「…………悪いけど、もう信じられない…………！」

洋「まあそりやそうやな。これで吊りもラストやし、そいつを今さら信じるんは無理

な話やで？」

小「そうです！これ以上、罪を重ねちや駄目です！」

霞「・・・残念ね・・・」

洋「・・・ほな、これで一件落着やで！」

小「そ、それじゃあスキップしちやいますね!？」

洋「おう。構わんで？」

照「・・・うん、いいよ。」

霞「仕方ないわね・・・」

小「そ、それじゃあ・・・！」

『スキップです!』

○投票結果

照(1) ↓ 霞

霞(3) ↓ 照 小蒔(0) ↓ 霞

洋榎(0) ↓ 霞

投票の結果、石戸霞さんは処刑されました。

霞「……まさか、最後までGJされちゃうなんてね……」

この瞬間、全ての人狼は処刑されました。

小「やりました〜！」

照「……良かった……！」

そして、蝙蝠も生き残っていたようです。

3人「……え？」

洋「これがうちの実力やで〜！」

おめでとうございます！  
村人と蝙蝠の勝利です!!

霞「ごめんなさいね？最後の最後に失敗しちゃったわ・・・」

堯「・・・仕方ないです。あれを当てられてしまったら、どうしようもないかと・・・」  
絹「ほんまですわ。・・・っていうか、お姉ちゃん何ちゃっかりと生き残ってんねん・・・」  
!？」

淡「ぶく！洋ぼん、ずっこくい!!」

石戸霞・渋谷堯深・愛宕絹恵（人狼） 大星淡（狂人）

董「今回は神代に救われたな。見事なものだ。」

巴「姫様も、やれば出来る子なんですよ。」

怜「ほんまやで。ここぞって時に魅せにくるとは思わんかったで・・・!」

春「・・・それが自慢・・・!」



小「……えへへ……♪」

弘世董・滝見春（共有） 園城寺怜（占い） 狩宿巴（霊能） 神代小蒔（狩人）

照「……神代さんがいなかったら、負けちゃってた……」

誠「そうですね。疑っちゃって、申し訳ないことをしました……」

竜「にしても見事なもんやで！GJ2回も出してるんやで!？」

初「これがうちの姫様の実力なのですよ♪」

宮永照・亦野誠子・薄墨初美・清水谷竜華（村人） 初日犠牲者（村人）

洋「……あれ？うち勝ったんよな？なしてこんな孤立しとるん……？」

愛宕洋榎（蝙蝠）

董「……まさか、愛宕が蝙蝠だとは思わなかったな。一体誰がそうだったのか、ずっと考えていた。」

絹「全くやで。蝙蝠ならもうちよい人狼の味方してくれてもええやないか？」

洋「ふふん。ま、うちの頭脳プレーっちゆうやつが炸裂したわけやない！」

絹「それって、もしかして6日目と7日目の投票のこと？」

霞「・・・あれに騙されたわ。6日目に渋谷さんの味方してくれてたから、てつきり勘違いしてるのかと思って・・・」

洋「あの時点で渋谷が騙りやつちゆうのにはさすがに気づいとつたわ。なんせ蝙蝠はうちなんやからな。せやけどあのまま普通に進んでくと、○貰つとるうちが途中で嘯まれてまうやろ？せやからわざとあつちに投票したんや。」

董「なるほど・・・つまり人狼側に、まだ置いておきたいと思わせたわけだな？」

洋「そういうこつちや。次は7日目やけど、あれもわざとや。実際宮永と石戸、どっちが人狼なんか分からなかったからな。それなら真のほうをわざと消して、最終日に村人か人狼とのPPを成立させようと思ってたんやけど・・・」

絹「・・・そこで、まさかの小蒔さんGJかいな。ほなあそこでGJ出たらんかったら、うちら人狼の勝ちもあつたん・・・!？」

洋「まあうちが嘯まれる危険もあつたんやけどな。そこは命拾いしたで。」

霞「・・・あの時は、どっちを嘯むか迷つたわね。投票で巴ちゃんに入れてくれたから、完全に味方だと勘違いしてるって思ってたし・・・」

董「・・・なんと言うか、さすがとしか言いようがないな。これが経験者というやつか・・・!」

洋「ふふ〜ん。もつと褒めてくれてええんやで〜♪」

絹「もうっ……すぐ調子にのるんやから……」

小「……人狼は……霞ちゃんです！」

初「いよっ！格好いいのですよ〜！」

怜「こりやく免許皆伝も近いで。うちもうかうかしてられんなく。」

竜「つてなんの免許やねん……」

小「えへへ……でも、嬉しかつたです！ちゃんと勝てて、ホツとしました！」

怜「ほんまやで。うちが占いの中で一番初めに吊られたときには、もうあかん思うてたからなく。」

竜「ほんまや。小蒔ちゃん様々やで♪」

初「いよっ！姫様が一番なのですよ〜！」

小「えへへ……♪」

初「……で、私はいつまでよいしよしてればいいんですか〜？」

巴「姫様が十二分に満足するまでです。いきなり私を人外扱いしたお仕置きです。」

初「そんな〜……」

怜「いよっ！小蒔ちや〜ん！」

竜「あんたが大統領やで〜♪」

小「〜〜〜♪」

淡「むう・・・まさか小蒔が狩人だったなんて〜・・・！」

堯「・・・全然気づかなかつたね・・・」

誠「もう・・・私なんか、最初から最後まで騙されっぱなしだよ・・・」

照「・・・勝つたのは良かったけど、疑った挙句、全く活躍できなかった・・・！」

董「・・・悔しいのは分かるが、とりあえず腕を回すのは寄せ。」

照「・・・ん。」

淡「でも、次こそは負けないよ！今度こそ、人狼100年生の実力を見せちゃうんだから！」

「ほ〜う？そいつは楽しみだね〜い？」

淡「むむっ！誰だ〜!？」

30「・・・あ、やっと来たんだ？」

「まあ正確には、少し前には到着してただけどね〜い。」

「せっかくですので、少しリサーチをと思ひまして・・・」

「ばつちし見させてもらつたぞ☆」

「まあ腹ごしらえも兼ねてましたので、お気になさらず・・・。」

董「」

照「・・・董？」

堯「・・・固まっています・・・」

誠「つて、誰が来るかも確認してなかつたんですか・・・!?」

淡「・・・さすが董だねっ！」

ふ「お〜つとお!?!ここでもさかの、プロ軍団の登場だ〜!?!」

30「いや、自分で呼んだんだよね!?!」

咏「つてなわけで、三尋木咏。颯爽と登場だぜ〜い。」

戒「戒能良子です。よろしくですね。」

28 「みんなのアイドル、瑞原はやり（28）です♪表記もすこやんには負けていられないぞ☆」

30 「いや、張り合うつもりなんてないよ!？」

☆「じゃあこっちでいいぞ☆」

靖「・・・あゝ、藤田靖子です。よろしく。」

怜「・・・呼んでたんで、プロの人たちやったんやなく。」

竜「と、ととととと怜〜!?!どどどどないしよ!?!うち色紙持つてきてへん!?!」

怜「いや、竜華は少し落ち着きいや・・・」

洋「ほう・・・こらプロに入る前の腕試しっちゆうこっちな・・・!?!」

絹「プロ云々の話も初耳やけど、やるのは麻雀やなくて人狼ゲームやで?お姉ちゃん?」

咏「まあ予定時間も近づいてるし、早速準備して始めようぞ〜い?」

戒「イエス。ウォーミングアップはすんでますよ?」

☆「はやりがバッチシ決めちゃうぞ☆」

靖「まあ、よろしく・・・。」

小「よ、よろしくお願いします!」

春「・・・良子もいる・・・」

霞「あらあら。・・・これは、さっそく汚名返上かしら・・・?」

初「初日に吊られるといいのですよ。」

霞「・・・初美ちゃん?」

初「・・・何でもないのですよ・・・!」

巴「とにかく、よろしくお願いします。」

ふ「では本格的に人が集まったところで!人狼ゲーム、もういっちょスタートだ〜  
〜!」

続く・・・

# 白糸台・永水十 $\alpha$ （犠牲者たちの集い）

○3日目（昼） 初美・董

董「む……もう嘔まれてしまったか。」

初「お疲れ様ですよ。」

董「お疲れ様だ。君も災難だったな？まさか初日から吊られるとは……。」

初「ちよつと巴ちゃんを疑いすぎちゃいましたね。もしかしたら人狼じゃないかって疑われちゃったみたいなのですよ。」

董「狩宿の霊能結果では○と出ているようだが、実際はどうなっているのか……とここで、君の中では占いの真偽はどうなっているんだ？」

初「まだ確定ではないんですけど、何となく大星さんは狂人っぽいですね。ただ彼女の場合、あれが素だって可能性がありますからね？」

董「確かなな。もう少し普段から真面目にやってくれれば、こちらの苦勞も減るのだから……。」

初「まあそればかりは、時間と要相談ですね。……ってあら？絹恵ちゃんが●出



されてますね〜？」

董「……しかも堯深と淡、2人にか。」

初「これはどう考えたらいいんでしょうか？狂人の誤爆、真の人狼発見……」

董「人狼の逆囲いや、単なる●出しという可能性もある。だが同じ人物相手に、同時にというのは多少引つかかるな……？」

初「……これ、片方は真なんじゃないですかね〜？」

董「……何となくだが、私もそう感じている。だがそうすると、園城寺は人外ということで確定するのだが……？」

初「それも微妙なんですよ〜。園城寺さん、占った理由自体は同じみたいですから〜。」

董「ただその対象が、妹ではなく姉に向いた、というだけだからな。もしこれが逆だったらどうなっていたのか……？」

初「まあ何はどうあれ、今日は絹恵ちゃん吊りですね〜。ここは色を見ないことにはどうしようもないですし〜。」

董「そうだな。では彼女が来る前に、お茶の準備でもするとしよう。君も飲むか？」

初「ありがたいのですよ〜。」

## ○4日目(昼) 初美・董・絹恵・竜華

絹「うあああ・・・お茶が五臓六腑に染み渡りますわ・・・」

竜「ほんまやなく♪」

董「・・・喜んでくれるのはありがたいが、私はただ淹れたただけぞ?」

初「何か違うのですか?」

董「渋谷が入れるお茶は、私のよりも美味しい。」

絹「ほな、さつそく後でご賞味に与りませんとな?」

竜「全くやなく♪・・・あ、絹恵ちゃん●出されとるな。やつぱり人狼やったん?」

絹「もう、せやからちやいますわ。おそらく霊能欠けです。」

董「ふむ。これは・・・?」

初「どつちが嘘つきさんなんでしょうかね?」

竜「ん・・・?」

絹「分かんるときには、とりあえずお姉ちゃんのせいにしとけばええんですわ。」

董「・・・なるほど。」

初「説得力があるのですよ。」

竜「洋榎も災難やなく・・・せやけど絹ちゃん、最近洋榎の風当たり強うない?も

しかして喧嘩でもしてるん？」

絹「うちらがですか？そんなんはしとりませんけど・・・？」

董「元々がどの位の仲の良さなのが分からんから、コメントしづらいが・・・ずいぶんと姉にきつく当たっていなかったか？」

初「私も、それは見てて思ったのですよ。」

絹「そないにですか？せやけどお姉ちゃん、いじられると喜ぶからなく・・・？」

竜「・・・何となく、納得したわ。」

董「・・・同感だ。」

初「ドキドキな関係なのですよ。」

絹「それはありえへんです。・・・それより、占いの真偽について話し合つとりますな？」

竜「真は怜やで！間違いないわ!？」

董「ちなみに、その根拠は？」

竜「だつて怜、うちの色が見たい言うてくれたんやで!？あんなに優しい子が騙りのはずあらへんやないか!？」

董「・・・な、なるほど。」

初「これは、回答をしづらいですね。」

絹「無理にせんでもええですよ？これ通常運転なんで。」

竜「……って、みんな怜を疑ってるん!?あかん、怜いゝ!？」

董「……いやはや……」

初「……ここまで自分を貫き通していると、逆に羨ましくなってくるのですよ。」  
絹「ほんまですな。」

○5日目（昼） 初美・董・絹恵・竜華・怜

怜「ううん……ゲームの疲れが癒されるで……」

竜「お疲れ様やな、怜♪」

董「お疲れ様だ。……それで、園城寺は本当に占い師だったのか？騙りではなく？」

怜「こつちでも疑われとるんか？うちは正真正銘の真占いやで？」

初「本当ですか？実は蝙蝠とかじゃないんですか？」

絹「確かに、狩宿さんは○出しとるみたいですけど……」

怜「せやからほんまの占い師やて。さつき絹ちゃんやなくて洋ぼん占つてもうたから、信用勝負に負けてもうたけどな。」

竜「全くやで！なんであれで怜を信じれんのか不思議でならんわ!？」

絹「通常運転ですからね？」

董「なるほど……。」

初「あははは……って、姫様が●ですか？！」

怜「おおう……どうやらうちと仲良うしとったから、目えつけられてもうたみたいやな。悪いことしたわ……」

董「だが、これで彼女が無実だとなれば、今度は淡が窮地に立たされる。それを考えれば……」

絹「せやけど、残りの吊り数も考えなあきませんで？小蒔ちゃん、大星さんって吊つてつて、残り2回で人狼見つけなあかんですから……？」

竜「ほんまやで？それ考えると、ここで素直に小蒔ちゃん吊るんは……って小蒔ちゃんがCOしとるで?!」

董「狩人だ?!だがそれが本当なら、黙っていたほうが良かったのではないか……?!」

怜「……いや、おそらくそれで正解やろ。小蒔ちゃんも中々に考えたで……！」

絹「……な、なるほど……！確かに園城寺さんが○いうことは、あの2人のどっちかは●の確立は高いですわ！」

初「ちなみに、1人はすでに吊られているのですよ？」

絹「……うちは人狼ちやいますで？」

怜「まあ霊能が真かどうかが分かれ目やな。これで霊能が騙りやったら、村人の負けやで。」

初「……これで巴ちゃんが騙りなら、しばらくは姫様から口を聞いてもらえないのですよ。」

董「……ゲームだぞ？そこまでのものか……？」

絹「まあ小蒔ちゃんですしな。」

怜「そうやな。」

竜「仕方ないで。」

董「……な、なるほど。」

○6日目（昼） 初美・董・絹恵・竜華・怜・淡・誠子

淡「ぶくぶく！小蒔ずつこいよ！？」

董「諦めろ。向こうが一枚上手だったということだ。」

怜「そうやな。小蒔ちゃんトラップが見事に炸裂したわけや。」

竜「油断してるとドカ〜ンやで♪」

淡「むう〜……！」

誠「ほら、いい加減機嫌を治せて?・・・それで、やっぱり騙りだったんだな?」

淡「違いますよくだ!私は、真の占い師だよ!」

怜「真はうちやからな。忘れんといてな?」

絹「せやけど、大星さんも○みたいですな。」

初「なんだか、ちよつと危ない空気になっていいますよ!」

誠「・・・堯深も神代さんに●ですね。でも・・・」

董「・・・狩宿が真だとすると、残っている渋谷が人狼の可能性が高いな。」

竜「んゝ・・・もしこれで、渋谷さんも○やったらどうなるん?ほれ、真・狂・騙つていう可能性もあるんやろ?」

怜「もちろんあるで?せやけど、さつき小蒔ちゃんも蝙蝠ならCOしろ言うとなかな。あれ無視して今さら蝙蝠や言うても、人狼の命乞いにしか聞こえんで・・・?」

誠「確かにあの場面、蝙蝠が占いにいたらCOしても良さそうですね。蝙蝠は最終的に残つていれればいいわけですし、それなら素直に出てきてもおかしくはなさそうですね?」

絹「園城寺さんが蝙蝠って可能性もあるけどな。あとは問題があるとすれば、人狼を怒らせんかつちゆうことだけやな。村人の味方しとるって思われたら、人狼の餌食になるだけやで?」

初「そのあたりの駆け引きが、蝙蝠の処世術なんでしょうね。強いものには巻かれて生きていくのがいいのですよ。」

董「……身も蓋もない言い方だが、確かにその通りだな。……しかし、本当に蝙蝠は誰なんだ？」

淡「……案外、欠けてたりするんじゃないの？ 蝙蝠って欠ける可能性あるでしょう？」

怜「いやまあ、確かにあるんやけどな……？」

竜「今回から新しく入れる言うて、いきなり欠けて……」

誠「……それ、いろいろ問題ありません？」

董「多方面に叩かれそうだな。」

絹「ほんま誰なんでしょうな……？」

淡「……まあ結局、あの2人の信用勝負みたいだね！」

董「うむ。こうなると、渋谷は若干不利に思えるがな……」

誠「堯深が真じゃなければいいんですけどね……！」

怜「いや、せやから真はうちやからな？」

淡「私です！」

絹「……ちなみに、宮永さんがお仕置きや言うとりますけど……？」



誠「……免罪です……！」

○7日目(昼) 初美・董・絹恵・竜華・怜・淡・誠子・堯深・春

春「……噛まれた……」

董「お疲れ様だ。すまなかつたな？いきなり大変な役職を押し付けてしまつて……？」  
春「……悪いのは人狼。だから気にしてない……」

董「そう言つてもらえると助かる。……渋谷がお茶を淹れてくれている。そのお菓子にも合うだろうから、少し寛いでくれ。」

春「……ん……」

怜「……何にせよ、これで占い師は全部消えてもうたわけやな。」

竜「ほな、こつからは全部推理でいかなあかんで……!!」

絹「ほんまですわ。残つてるんで怪しいんは………やつぱお姉ちゃんか？」

董「あいつの前では言つてやるなよ？……照なんかはどうだ？のらりくらりとしていて、常に中心から外れているところにいるあたり、正直気が置けんのだが……？」

誠「ありそうですね、それ。……向こうでは、やつぱり真は園城寺さんつていう目

線でいくみたいですわね？」

堯「・・・私が●扱いされちゃったから、仕方ない・・・」

怜「ほんまの人狼なんちやう？・・・まあとにかく、ほなら石戸さんとチャンピオン吊ればそれで終わりやけど・・・？」

初「・・・なんか、また荒れてきているのですよ・・・？」

春「・・・霞・・・？」

董「・・・照もだな。どちらかが人狼だというのなら、確かにこの反応は当然だろうが・・・？」

淡「いいねいいね！面白くなってきたじゃん！」

竜「完全に2対2になってもうたで!? ってことは・・・！」

絹「・・・鍵を握るんはお姉ちゃんいうことやな。相変わらず、ええところにおるで・・・。」

怜「洋ぼん、どつちを選ぶんやろうな・・・？」

○8日目（昼） 初美・董・絹恵・竜華・怜・淡・誠子・堯深・春・巴

巴「姫様流石です！」

春「・・・ナイスGJ・・・！」

董「愛宕が狩宿に投票したから、このまま負けてしまうかと思っただが・・・」

初「まさかこの場面で、またGJがくるとは思わなかったのですよ。」

竜「つちゆうことは、やっぱ小蒔ちゃんは狩人やったっていうことやな!？」

怜「・・・竜華は、実はうちを信じてへんのとちやうか・・・？」

絹「ま、まあまあ・・・」

董「しかし、これで決まりだろうな。」

誠「そうですね。ただ愛宕さんを守つてのGJだと、まだ分からないんですけど・・・」

淡「・・・テルを守つたの!？」

堯「・・・決まりですね・・・」

絹「せやなあ・・・」

巴「霞さんが人狼だったんですね・・・！」

春「・・・狡猾・・・！」

初「全くなのですよ。」

竜「とにかく、これで村勝ちや！小蒔ちゃんのファインプレーやで♪」

怜「そーやな。」

董「・・・そういえば、結局蝙蝠は誰だったんだ？」

一同「あ。」

洋『これがうちの実力やで〜！』

ゲームは終了いたしました。

## 白糸台・永水・プロ組+α ①

ふ：つてなわけで、さっそく第2回戦を始めます！

今回のゲームには、以下の役職が追加されていますのでご注意ください！

### ○吸血鬼

人狼・狐・恋人に続く新たな陣営。

占い、霊能結果には『蝙蝠』と出るので注意。

勝利条件は、生存者が自分と『感染者』だけになること。

2日目の夜から誰か一人を選び、襲撃をかける。襲撃された人物は村人、人狼等関係無しに感染者となるが、狩人に護衛されていた場合には襲撃失敗となる。

カウントは村人であり、人狼に噛まれると死亡するので注意。

### ○感染者

吸血鬼によつて襲撃を受けた人物に、あらたに追加される役職。

感染者になった自覚がなく、また占いや霊能にも証拠が現れないため、現在どれだけの感染者がいるかは吸血鬼にしか分からない。

襲撃された人物は、その役職が人外であつても関係無しに感染者になるので注意。

30「・・・なんでこういう役職入れちゃうかな・・・」

戒「クレイジー・・・気が滅入りそうですね。」

洋「何や何や！プロの人らがびびつとるやないか！」

淡「全くだよ！吸血鬼なんか、この私がズバツと見つけちゃうんだから！」

董「・・・なんで、こいつはこんなに自信満々なんだ・・・？」

照「・・・さあ？」

ふ：ちなみにもう分かつてると思いますが、今回参加するプロ組の中にはすこやんも入っております！

いい加減自分も遊ばせろつて駄々こねるんで、特別に許可しちゃいました〜！

30「こねてないよね!？」

☆「大人気ないぞ☆」

30 「いや、始めからその予定だったんだよ!」

小「一緒に頑張りましょう!」

30 「え、あ、そうだね・・・。」

咏「・・・すこやんも、霧島の姫さんの前では形無しだね〜い。」

春「・・・それが自慢・・・」

巴「いやいや・・・」

ふ：そして注目すべき、今回の内訳です!

人狼(3)、狂人(1)、狐(1)、吸血鬼(1)、キューピッド(1)、共有(2)、占  
 い(1)、霊能(1)、狩人(1)、猫又(1) 村人(7)の、初日役欠け有り、占い有り  
 ですす!

董「・・・つまり、9吊りの人外が7か。これは油断できんな・・・!」

怜「・・・いやいや、見るところはそこやないやろ・・・?」

竜「あ、あかん・・・!?!」

初「め、面倒くさい役職が見えるのですよ・・・」

誠「嘘、キューピッドって・・・!?」

ふ：ちなみにこの中には、すでに指定された恋人が2人いますので、ご注意ください  
い♪

絹「恋人陣営もおるつちゆうこと・・・!?」

靖「・・・総勢5陣営か。頭が痛くなりそうだな。」

30「だから、何で予告無しにこういう面倒なことするかな・・・!?」

☆「・・・さすがに、やはりも〇〇<sup>殺意</sup>が沸いてくるぞ★」

淡「・・・いいじゃんいいじゃん！敵は多いほうが燃えてくるね！」

洋「全くやで！」

ふ：初日の会話時間は10分です！

以降は1日ごとに1分ずつ減っていくのでご注意ください！

霞「・・・良かったわね。そこは普通みたいで。」

堯「・・・そこも変なルール入れられると、さすがにキツイですからね・・・」



照「……うん。」

ふ：え、そこも何かほしかった？

一同「いない！」

ふ：ちえ〜……

まあとにかく、このルールで始めます！

30 「油断も隙もないね……!?!」

戒「イエス。……ありやとんでもないモンスターですね。」

洋「……その台詞、どっかで聞いた気が……?」

戒「気のせいですね。」

洋「?」

ふ：それではそろそろ始めます！

総勢5つの陣営が争う、正にバトルロワイヤル！

勝つのは、一体どの陣営なのか!?

注目の初日、スタートです!!

○2日目(昼) 犠牲 すこやん

処刑

生存 照・董・堯深・誠子・淡・巴・初美・霞・小蒔・春

アラサー・咏・はやり・良子・靖子・怜・竜華・洋榎・絹恵  
すこやんの無残な死体が発見されました。

30 「いろいろおかしくない!？」

靖 「いきなりぶちこんできましたね・・・」

咏 「哀れすこやん、だね〜い。」

☆ 「グッバイすこやん♪だぞ☆」

30 「私ここにいてでしょ!？」

董 「・・・何と言うか、コメントしづらいスタートになったな。」

誠 「そ、そうですね・・・」

淡「きやははは！まじ受けるよあれ〜!?」

洋「ほ、ほんまやで！アラサーのほうが本体つて．．．!」

絹「．．．」

董「．．．」

洋「．．．す、すみません．．．!」

淡「．．．ご、ごめんちやい．．．!」

30「うう、笑われちゃつてるし．．．」

戒「ドンマイです。この位でへこたれていては、あの人のベストパートナーにはなれ  
ませんよ．．．?」

30「いや、別になりたいわけじやないんだけどね．．．?」

巴「と、とにかく始めましょう！さつきより長いとはいえ、時間は限られているわけ  
ですし!」

小「そ、そうですね!」

竜「そうやな！ほな始めは何からいくんや?」

霞「共有か占い、よね・・・？」

靖「なら、占いからでいいだろ。さつきは駄目だったみたいだが、もしかしたら共有トラップに当たるかもしれないぞ？」

咏「一応言つとくけど、共有が欠けてるっていうなら今のうちに出てくれよ？ ●出されてから、相手は欠けてまゝすすつてのは無しだぜ〜い？」

☆「共有つて欠けてるのかな？」

戒「・・・問題ナツシング、ですね。」

照「・・・じゃあ、占いにいく。私違うから、合図やるね？」

堯「・・・お願いします・・・。」

淡「やつちやえテル〜！」

照「・・・任せて・・・！」

董「何をやるつもりなんだお前は・・・！」

照「・・・何となく。それじゃあいきます。占いの結果・・・せ〜の・・・！」

霞「小蒔ちゃん、○ね。」

董「照、○だ。」

小「怜やんさん、○です！」

咏「すこやん、●だね〜い。」

30「え．．．!?」

照「．．．出た．．．！」

咏「．．．早速見つけちゃったんだよね〜い。やっぱり危険人物はマークしといて正解だね〜い？」

霞「．．．対抗の●、ね．．．？」

小「か、騙りです！騙されないでくださいね!？」

董「ふむ。しかしこの場合．．．」

戒「．．．霊能は伏せてくださいね。COは明日でお願いします。」

初「この場合、小鍛治プロを吊るってことでいいんですか〜？」

巴「そうだね。まずはそれで三尋木プロの真偽を確かめて．．．」

春「．．．CO共有。相方は小鍛治プロ．．．」

30「．．．もちろん認めるよ。それで咏ちゃん。何か言い残すことはある．．．!？」

咏「……あれ〜？」

霞「……それも必要なさそうね。」

春「……共有トラップ、発動……」

30「……初日に2人ともCOするつもりだったから、仕掛けるつもりはなかったんだけどね……」

照「……一応確認するけど、共有の対抗っている？」

董「……まあ、さすがにいないな。」

靖「なら、決まりだな。」

春「……それじゃあ、占いの理由を……」

咏「いいぜい。やっぱり危ない人つてのは……」

30「咏ちゃんはパスで。次お願い。」

咏「」

戒「……哀れな……」

☆「……無残な末路だぞ☆」

霞「えつと……私が占ったのは小蒔ちゃんね。初日だし、やっぱり色を知りたいって理由で占ったわ。だけど○で騙ってきたことは、小蒔ちゃんは狂人かキューピツド、もしくは恋人なのね……？」

小「ち、違います！私は占い師です！……私が占つたのは怜やんさんです。今度こそ怜やんさんの色をはつきりさせたいと思って、私占いました！」

怜「ありがとうなく小蒔ちゃん。応援してるでく？」

竜「頑張ってな〜♪」

董「……応援するのはいいが、真は私だぞ？……私が占つたのは照だな。単純に初日だから、一番身近な奴を占つたに過ぎん。」

淡「ふっふ〜ん。董が占い師ね〜……？」

董「……何か文句でもあるのか？」

淡「べつつに〜？」

照「……董。ブレイクブレイク。」

董「……分かってる……！」

春「……占い師候補は3人。霊能は……？」

30「今出てもらつてもいいんじゃないかな？ 嘸まれたら困るし、それに今日の吊りも決まつてるしね。」

咏「……ちえ〜……」

靖「……なんか、向こうで不貞腐れてますけど……？」

☆「予想以上に出番が短かったからだぞ☆」

戒「狙う場所を間違えた、ということでしょうね……。」

誠「……それじゃあ、霊能は今日のうちにCOするんですか？」

巴「そうみたいです。それじゃあCOする人はいます？」

春「……霊能の人、カモン……。」

初「それじゃあ、霊能COするのですよ。」

戒「CO、霊能ですね。」

戒「……おや。こちらでも騙りが出ましたか。」

初「それはこちらの台詞なのですよ……。」

霞「霊能の候補は、初美ちゃんと……。」

春「……良子……。」

巴「……初美さん。まさか人外じゃないでしょうね？」

初「さっきのこと、まだ怒ってるんですか？ 私はちゃんと真なので、安心してほしいのですよ。」

戒「真は私ですね。咏さんは当然として、私としては初美さんも吊ってしまいたいところですよ。」



初「そうはいかないのですよ。」

照「……霊能は2人。さすがにまだ見分けが付かない。」

堯「……でも、これで合計6人のCOが出ました。欠け無しだったとして、騙りは

4人。まだ3人の人外は伏せているってことですね……」

☆「それは分からないよ？もしかしたら、恋人がCOしている可能性もあるぞ☆」

竜「え、えっと、つまり……？」

怜「……恋人がいるとこれやから困るんや。単純な計算が出来なくなるからなく……

？」

絹「ほんまですわ。役職被りやと、余計に意味分からんことになってまいますし……」

淡「分からなくなったら、全員吊つちやえばいいんだよ！もし恋人がいたらラッ

キーってことで！」

董「……素直に賛同できん提案だな……」

小「そうですね……でも！人外を道連れに出来るのなら、私は吊られても構いませ

ん！」

霞「あらあら。小蒔ちゃん、そう言って真目を持っていくつもりかしら？」

咏「悪いがそうはいかぬぞい？何たって真はこの咏さんの……」

30「咏ちゃんは黙ってようね？」

咏「……少しは喋らせろよう……」

靖「……本格的にいじけ始めたみたいですけど……?」

☆「……無残な末路だぞ★」

照「……もし真欠けがなかったとして、内訳はどうなってると思う?」

堯「……狂人とキューピッドは出てきているかと。あの2つは、味方陣営を助ける

ために犠牲になれますから……」

洋「問題は狐と吸血鬼やな。狐潜伏も分かりづらいんやけど、それ以上に吸血鬼の潜

伏が分かりづらいわ……!」

☆「確かに占いかには『蝙蝠』って出るみたいだけど、それだって騙りの人たちも

出してくるから、あまり信用は出来ないぞ☆」

30「かといつて、あまりダラダラ日にちを延ばしすぎても、それはそれで吸血鬼ペー

スになっちゃうからね……」

初「いきなり吸血鬼の勝利ですくなんてことになったら、目も当てられないのですよ

」。

巴「実際、その可能性があるだけに、あまり笑えないけどね……」。

董「だが、正直な感想を言わせて貰えば、吸血鬼はあまり注意視しなくてもいいので

はないか?あれの勝利条件は、自分と感染者のみになったとき、なんだよな?」

照「・・・そうだけど、何で・・・？」

董「何でって、感染者も嘯まれるんだろう？」

怜「・・・確かに董の言うことも分かるわ。いくら感染者を増やそうとしても、一日に増やせるのは一人だけ。その増やした人が吊られたり嘯まれたりしたら、吸血鬼の勢力は一向に増えんのやからな。」

竜「場合によっては、ゲーム終了時に吸血鬼が残つとるのに、肝心の感染者が一人もおらんつていうこともありえるな。」

淡「むう・・・確かにそう聞くと、吸血鬼つてあまり強そうじゃないよね！」

堯「・・・でも、油断は禁物だよ？淡ちゃん・・・？」

絹「そうやで？まだ大丈夫やろう思うてたら、いきなり吸血鬼の勝利つちゆう可能性もあるやからな？」

戒「・・・ですが、感染者が一切の犠牲にならずに日が進んでいったとして、勝利が決まるのは9日目頃でしょう。そこまで焦る必要もないかと思えますよ？」

春「・・・間違いない・・・」

30「なら今は、見えてる部分だけでも何とかしないとね。狂人とキューピッドが出ているとしたら、残り2人つてやっぱり人狼なのかな？」

初「恋人が出ているのかもしれないですよ？戒能さん、はるると恋人だったりしま

せんか〜?」

戒「それはまた、ずいぶんと爛れた関係ですね．．．ですが、答えはノーです。私とハルは、あくまで従姉妹にすぎませんよ。」

春「．．．」

小「えつと．．．はるちゃん、何か怒ってますか．．．?」

春「．．．別に．．．」

ふ：さあ残り時間1分を切りました〜!

今日の結果はどうなるのか〜!?

30 「それじゃあ、今日は咏ちゃんに投票でお願いします。」

咏「え〜?もうちよい遊ばせてくれてもいいんじゃないか〜?」

30 「駄目に決まってるでしょ。」

咏「ケチ〜．．．そんなんだから、嫁の貰い手がないんだぜ〜い．．．?」

30 「それ関係ないよね!」

靖「あ〜．．．とりあえず落ち着いてください。」

☆「小じわがさらに増えちゃうぞ☆」

30 「ないからね!」

洋 「なんやあれやな．．．とてもゲームやつとるようには思えんわ．．．」

淡 「テレビでよく見るね!」

30 「やりたくてやつてるわけじゃないよ!」

小 「なるほど．．．これが漫才というものなんですな．．．!?」

怜 「そうやで?あのノリツツコミが、漫才やるときの命っちゅうもんなんや．．．!」

小 「さすがです．．．!」

初 「．．．姫様が関係ない知識覚えてますけど、放っておいていいんですか?」

霞 「あらあら．．．」

巴 「えつと．．．」

竜 「怜が楽しそうで何よりやで♪」

ふ：終了です!

それでは、今日の投票を始めちゃってください!

### ○投票結果

照(0) ↓ 咏 董(0) ↓ 咏 堯深(0) ↓ 咏 誠子(0) ↓ 咏

淡(0) ↓ 咏 巴(0) ↓ 咏 初美(0) ↓ 咏 霞(0) ↓ 咏  
 小蒔(0) ↓ 咏 春(0) ↓ 咏 アラサ(1) ↓ 咏 咏(18) ↓ アラサ  
 はやり(0) ↓ 咏 良子(0) ↓ 咏 靖子(0) ↓ 咏 怜(0) ↓ 咏  
 竜華(0) ↓ 咏 洋榎(0) ↓ 咏 絹恵(0) ↓ 咏  
 投票の結果、三尋木咏さんは処刑されました。

咏「ちえゝ。もうちよい荒らしてやろうと思つたのに・・・」

○3日目(昼) 犠牲 すこやん・春

処刑 咏

生存 照・董・堯深・誠子・淡・巴・初美・霞・小蒔

アラサー・はやり・良子・靖子・怜・竜華・洋榎・絹恵

滝見春さんの無残な死体が発見されました。

ふ：みなさんおはようございまゝす！

昨日の犠牲者は、共有の滝見春さんでした！

これで残された共有はアラフォーのみとなりましたが、一体どうなってしまうのか!?

今日の会話時間は9分間！

まだまだ時間に余裕はあるか!?

それでは3日目、スタートです!!

30 「だからアラサー・・・お、おはよう、みんな・・・!」

靖 「誤魔化しきれていませんが・・・とにかく、おはよう。」

霞 「昨日はハルちゃん犠牲になったのね・・・?」

戒 「・・・可哀相に・・・」

30 「正直、私もいつやられるか分からないからね。いる間に出来ることはやっていくつもりだよ。・・・それで、さっそくなんだけど霊能の結果いい?・・・あ、せ、せくの・・・」

戒 「咏さん、○ですね。」

初「三尋木プロ、○だったのですよ。」

小「2人とも○ですね・・・？」

竜「つちゆうことは、三尋木プロは狂人か狐・・・？」

洋「いや、もしかするとキューピッドの可能性もあるで？油断は禁物や。」

巴「後追いがいないから、恋人ではないことは確かなんだけど・・・」

怜「・・・万が一霊欠けやったら、人狼や吸血鬼の可能性もあるけどな？」

初「私は間違いなく真ですよ？私が考えたのは狂人なのですよ。おそらく、いきなり●出して狂人アピールしようとしたんじゃないかと思うのですよ。」

戒「真は私なのですが・・・見解としてはミートゥーですね。おそらくは狂人で間違いないかと思います。」

絹「まあそれが一番可能性ありそうやな。狐やったらありがたいんやけど・・・」

淡「さっそく狐陣営は消えたってことだね！」

堯「・・・さすがに、それはないと思うんだけど・・・？」

董「もしそうだとしたら、迂闊にもほどがあるだろうな。それで、霊能の真偽はまだつかないままだが、占いの結果はもう言ってもいいのか？」

霞「そうね。今度は占いの真偽をつけてほしいのだけど・・・？」



30 「そうだね・・・それじゃあ、占いの結果を聞いてもいい？せくの・・・」

小「竜華さん、○です！」

霞「絹恵ちゃん、○だったわ。」

董「大星、○だな。」

竜「あ、小蒔ちゃんはうちを占ってくれたんやな？」

絹「石戸さんはうちをですか・・・？」

淡「それで、董は私を占ったんだね！でも私は村人なんだから、他を占ったほうが良かったんじゃないの？」

董「・・・占いの理由としては、単純に怪しく見えたというだけだな。私に突つかかってきたこともそうだが、逐一行動が怪しすぎだ。それで占ったのだが・・・結果は○だ。」

小「私が占ったのは竜華さんです。・・・正直、誰が怪しいのか全然分からなくて、それで怜やんさんと仲良しの竜華さんを占いました。恋人やキューピッドでなければ、これで村人確定です！」

霞「まだそれは分からないんだけどね？・・・私が占ったのは絹恵ちゃんよ。私もまだ怪しい人が分からなくて、それで若干ステルス気味な子を占ったわ。人狼なら良かった

ただけど、外しちゃったわね・・・。」

靖「ふむ。・・・3人とも、○出しか・・・」

戒「となると、今日はグレランでしょうね。現時点で怪しい人はいないみたいですし・・・？」

初「私としては、戒能さんを吊ってほしいとこなのですよく？」

戒「では、私もユーを吊ることを提案するとしましょう。」

照「・・・霊能の決め打ち、する？」

誠「正直、まだリスクが大きい気もするんですが・・・？」

洋「そうやな。当たりや〜村人ペースやけど、外したらまんま人外ペースや。決め打ちするには早いと思うで？」

怜「せやけど、いつかはやらなあかんのやで？」

☆「だとしても、とりあえず何かしらの結果が出てからでもいいんじゃないかな？人狼か吸血鬼が吊れたって結果が出た後でも、遅くはないと思うんだぞ☆」

30「そうだね。さすがに、まだ霊能の決め打ちは出来ないかな・・・。」

巴「だとしたら、やつぱりグレランですね。誰か怪しい人っていますか？」

淡「なら董だね！きつと何か隠してるよ！」

董「私は占い師だ。・・・占いで○さえ出てなければ、お前を吊ることを提案できた

んだがな・・・！」

小「弘世さんは騙りです！それを考えると、確かに大星さんも怪しい気がするのですが・・・？」

霞「騙りは小蒔ちゃんもよね？でも、確かに大星さんは少し怪しいわね。さつきからやけに弘世さんを疑ってるみたいだけど・・・？」

淡「私の勘が訴えてるんだよ！董は人外だつてね！」

董「・・・なんというか、実はお前が狂人なんじゃないだろうな？もしくはキューピッドか・・・？」

照「・・・董が？」

堯「・・・私には、いつも通りに思えるんですけど・・・？」

靖「・・・大星には、なにか見えているということか？もしかして・・・」

☆「何か分かったのかな？靖子ちゃん？」

靖「いや・・・もしかして、大星って占い師じゃないだろうな？」

絹「へ？」

30「占い師？でも、大星さんはCOしてないけど・・・？」

怜「・・・なるほどな。確かにその可能性もあるか・・・！」

竜「ど、どういことなんや怜!？」

洋「うちにも藤田プロの言いたいことが分かったで？つまり、大星は恋人ちやうかつちゆうことやな？」

淡「むっ！私は恋人じゃないし、まして占い師にもなれなかつたですよくだ！」

誠「・・・確かに淡が占い師で恋人なら、COしてないで、結果だけを見ることも可能でしょうけど・・・？」

董「・・・あいにくですが、その考えは否定させていただきます。占い師は間違いなく私だ。」

霞「私よ？」

小「ち、違います！私です！」

淡「董が真かどうかも疑問だけど、それより私を疑う話にのつてくるって・・・何だか怪しくなくい・・・？」

靖「・・・それは、私に言ってるのか？」

淡「もちろんだよ！」

戒「・・・確かに、どこか誘導しようとしている流れでしたね・・・？」

☆「・・・靖子ちゃんが、何だか怪しいぞ☆」

巴「その、確かに若干ですか・・・」

靖「・・・しまったな。迂闊な発言だったか・・・」

洋「なら、今日は藤田プロでもええんやないか？外れかもしれんけど、当たり前なら有難いで？」

竜「そ、そうやな！もしかしたら、ほんまに人狼かもしれへんし・・・！」

30「・・・そうだね。それじゃあ今日は、靖子ちゃんに投票してみよつか？一応聞いとくけど、なにかCOってある？」

靖「・・・COはしません。ですが、私は吊らないほうがいい。」

初「・・・ふえ？」

誠「COはしない・・・？」

照「・・・それって、つまり役職持ちちつてこと・・・？」

靖「もう一度言うが、COはしない。だが村のことを考えるなら、私は吊らないほうがいいぞ？」

小「ど、どういうことでしょうか!？」

霞「・・・狩人、かしら・・・？」

竜「も、もしかして・・・人狼やなくて猫又なんちゃう!？」

淡「ふっふっふん!・・・そう言つて誤解させて、実は本当に人外なんだよ！今日は藤

田プロを吊つちやおう〜！」

靖「・・・お勧めはできないのだがな。」

戒「・・・どう思います？小鍛治プロ？」

30「・・・気にはなるけど、今日はやめておこう。もしこれで本当に村職だったら、わざわざ不利になつちやうだけだしね。」

淡「え〜!？」

誠「それが安全ですね・・・。」

董「では、今日は藤田プロも除いてグレランか。そうすると対象は・・・」

堯「・・・はい・・・。」

誠「私ものです。」

巴「私ものですね。」

洋「なんや、うちもやないか。」

☆「あとはやはりもだぞ☆」

照「・・・5人・・・」

竜「こん中から選ぶんやな。やとしたら・・・」

怜「・・・ちなみに洋ぽんは、今回は人外ちやうん？」

洋「ちやうわ。あいにくただの村人やで？」

絹「お姉ちゃん………ほんまか？」

洋「……なんや、最近絹によう疑われとるような気がするんやけど……？」

初「姉離れなのですよ。」

霞「あらあら。じゃあお赤飯炊かなくちやね？」

小「お目出度いですね！」

洋「いやいやいや、そんなあるわけ……あらへんよな？」

絹「ほな、うちが怪しい思うんは……」

洋「絹うゝ!？」

怜「……妹離れも出来とらんつちゆうこつちやな。」

竜「そりやしやあないで。うちも怜離れなんて出来へんしな♪」

怜「うちはとつくに出来とるで？」

竜「」

董「……関係ないところで、犠牲者が出たようだぞ……？」

照「……仕方ない。妹が離れていくなんて、そんなオカルトはありえない……！」

誠「……ついこの前まで、妹なんていないって言ってなかったっけ？」

堯「……誠子ちゃん？しゅ……」

ふ：さあ、残り1分だ〜！

今日の結果をまとめよう！

30「えつと・・・それじゃ、今日はグレランで。対象は5人の中から。」

戒「オーケーです。だとすれば、怪しいのは・・・」

☆「むう・・・やはりは怪しくないんだぞ☆」

初「別の意味で、怪しさが大爆発なのですよ〜。」

☆「★」

初「」

霞「あらあら。初美ちゃんが震えちやつてるわね？」

巴「余計なことをすぐに言うんだから・・・」

照「・・・とにかく、今日の吊り先は・・・誰？」

董「いや、私に聞くな・・・」

淡「むう・・・董や藤田プロでいい気がするんだけどなく？」

靖「・・・心配せずとも、後半まで残っていれば怪しまれるさ。」

ふ：そこまで〜！





洋「あちやあ・・・投票先、  
変えんほうが良かったわ・・・」

4 日目に続く・・・

白糸台・永水・プロ組+α ②

○4日目(昼) 犠牲 すこやん・春・淡

処刑 咏・洋榎

生存 照・董・堯深・誠子・巴・初美・霞・小蒔

アラサー・はやり・良子・靖子・怜・竜華・絹恵

大星淡さんの無残な死体が発見されました。

ふ：みなさん、おっはようございます！

昨日の犠牲者は、白糸台の大星淡さんでした！

この犠牲には、一体どんな理由があるのだろうか！？

今日の会話時間は8分！

徐々に短くなってきているので、そろそろペースアップが必要か！？

それでは4日目、スタートです！

30 「みんな、おはよう。昨日は大星さんがやられちゃったみたいだね・・・？」

董 「私目線の○が消されたな。今回の人狼は、何を企んでいるんだ・・・？」

照 「・・・おそらく、恋人探しだと思う。」

怜 「うちもそう思うで。昨日の話で、あの子が恋人やつちゆう流れになつとつたからな。おそらくは確認も含めて嘯まれたんやろ。」

靖 「・・・だとすると、私の発言が原因だな。すまなかつた。」

30 「とにかく、これで大星さんは少なくとも恋人ではなかつたことが証明されたね。つまりまだこの中にいるってこと。皆で考えて、村勝ちを目指そうね？」

☆ 「・・・健夜ちゃんが、恋人っていう可能性もあるんだぞ☆」

戒 「イエス。共有だからといって、全部を信じるわけにはいきませんよ？」

30 「・・・それは仕方ないよね。でも、私は違うって言っておくからね・・・大  
体、現実で恋人がいないのに、ゲームの役職が恋人になるわけ・・・！」

誠 「えっと・・・お、落ち着いて、ください・・・？」

霞 「・・・やっぱり国内最凶ともなると、色々と憑かれちゃうのかしらね・・・？」

初 「いろいろと間違っているのですよ・・・？」

30 「……と、とにかく！まずは愛宕さんの結果だよ！霊能、せくの……！」

戒「愛宕さん、○ですね。」

初「洋ぼんさん、○だったのですよ。」

照「……また、同じ結果。」

戒「残念ですが、そのようですね。……私目線、おそらく彼女は村人で間違いないでしょう。もしかしたら狩人の可能性もありますが、さすがにそこまでは分かりませんね……。」

初「私も同じなのですよ。残念ですけど、昨日は外れたと思っていいのですよ。」

絹「お姉ちゃん、ほんまに村人やったんやな……」

竜「ほんまやで。もしかしたらって思っとったのに……」

怜「……この信用の低さには、さすがの洋ぼんも涙目やな。それで、次は占いやな。結果を教えてくださいへん？」

董「そうだったな。とりあえず、ようやく仕事が出来たとまず言っておこう。」

照「……董……？」

霞「あらあら。仕事が出来たのは、私もだったりするのよね……？」

小「わ、私だってちゃんと見つけました！」

巴「霞さんと、姫様もですか・・・？」

30「・・・それじゃあ、今日の占いの結果を教えてください。せうの・・・！」

董「渋谷、●だ。」

霞「瑞原プロ、蝙蝠よ。」

小「瑞原プロ、●です！」

堯「・・・部長が騙り・・・！」

☆「・・・私目線、騙りが2人も見つかったんだぞ★」

誠「つていうか、蝙蝠つて・・・!？」

霞「まずは私から言わせてもらおうわね？占った理由は、昨日の投票ね。渋谷さんか瑞原プロかで迷ったけど、まずはこちらから占わせてもらったわ。結果・・・瑞原プロは、吸血鬼よ。」

小「違います！瑞原プロは吸血鬼ではなく、人狼です！・・・占った理由は、霞ちゃんと一緒です。私も渋谷さんとどちらを占うか迷って、こちらを選びました。でも人狼ですから、今日の吊りは瑞原プロで問題ないと思います！」

董「私が占ったのは渋谷だな。私が占った理由も、やはりそちらの2人と同じだ。だが先に身内を調べておこうと思ったのだが・・・まさかの結果だった。どうやら先ほどに引き続き、人狼だったようだな？」

堯「・・・違います。私は村人です・・・！」

誠「堯深が・・・？でも、それが違うなら部長が・・・!？」

☆「・・・あえて言わせてもらうけど、私は普通の村人だぞ☆だから今日は、占い師を吊るべきだと思うな☆」

戒「・・・はやりさんが人外？バット、もしそうなら、どちらが真の・・・？」

靖「・・・こうなると、やはり瑞原プロの色を見てみたいな。その結果次第では、占いの真偽がつくかもしれない。」

巴「そうですね・・・姫様と、霞さんのなんですけど・・・」

初「・・・どっちが偽者でも、あまり歓迎できないのですよ・・・」

☆「むむ・・・私を吊る流れになってる気がするよ・・・？」

30「・・・そうだね。やっぱりここは、はやりさんのほうがいいとは思うけど・・・」

☆「・・・私を吊ると、犠牲者が出るぞ★」

照「……え？」

董「……なるほど。騙りたちが見事に自爆したわけか。」

靖「……それはつまり、ご自分が猫又だと……？」

☆「そういうことだぞ☆言いたくなかったけど、噛まれるならともかく、吊られるのは勘弁だぞ☆」

霞「……そんなはずはないわね。間違はなく瑞原プロは吸血鬼よ。」

小「違います！瑞原プロは人狼です！」

30「……あまり聞きたくはないんだけど、猫又のCOっている？もちろん、まだ伏せたままでもいいんだけど……」

堯「……いないみたいですね……。」

☆「ね？」

董「……決まりだろ。今日は渋谷、明日からはその2人を吊っていけばいい。」

誠「えつと……堯深は、何かCOつてある……？」

堯「……ないよ。私は、ただの村人……」

竜「ほ、ほな今日は、渋谷さんで決定やな？」

絹「それがええかもしれませんね。これで瑞原プロ吊って、ほんまに猫又やったら洒



落になりませんわ……」

霞「……私としては、瑞原プロに投票したいのだけど……?」

小「私も、それには同意するんですけど……?」

☆「……先に、君たちを吊ってやってもいいんだぞ★」

戒「……ブレイクですよ、はやりさん。」

30「素が出始めてるよ?」

☆「アハ☆」

靖「……ふむ……?」

初「なら、今日はもう決定なのですよ。」

怜「……そうやな。ほんまに村人やったら申し訳ないけど、ここは吊られてもらわ

なあかんわ……」

堯「……霊能のお2人は、ちゃんと証明してくださいね……?」

董「渋谷が人狼だということをか?」

堯「……部長が騙りだということをです……!」

照「……け、喧嘩は駄目……!」

誠「堯深、落ち着いて?ね?」

堯「……」

30 「なら、今日はもう決定で。まだ何か話したい人がいなければ、今日はスキップしちゃうけど……?」

竜 「えつと……一応確認なんですけど、猫又つて瑞原プロなんですよね? ほな藤田プロは……?」

靖 「……何度も言うが、COはしないぞ?」

☆ 「もう1つしか残ってないけどね☆」

30 「えつと、他にはない? ないなら……」

『スキップで。』

ふ: 了解だ〜!

それじゃあみんな、投票しちやってください〜!

○投票結果

照 (0) ↓ 堯深	董 (1) ↓ 堯深	堯深 (14) ↓ 董	誠子 (0) ↓ 堯深
巴 (0) ↓ 堯深	初美 (0) ↓ 堯深	霞 (0) ↓ 堯深	小蒔 (0) ↓ 堯深
アラサ (0) ↓ 堯深	はやり (0) ↓ 堯深	良子 (0) ↓ 堯深	靖子 (0) ↓ 堯深

怜(0) ↓ 堯深 竜華(0) ↓ 堯深 絹恵(0) ↓ 堯深  
投票の結果、渋谷堯深さんは処刑されました。

堯「……これでいい。おそらく、あの人は……！」

○5日目(昼) 犠牲 すこやん・春・淡・董・靖子

処刑 咏・洋榎・堯深

生存 照・誠子・巴・初美・霞・小蒔・アラサー・はやり・良子

怜・竜華・絹恵

弘世董さんの無残な死体が発見されました。

藤田靖子さんの無残な死体が発見されました。

ふ：おはようございます！

昨日の犠牲者はなんと2人！

藤田靖子プロと、白糸台の弘世董さんでした〜!?

これは、一体なにが起こっているんだく!?

今日の会話時間は7分間!

話すことが無ければ、昨日みたいにスキップしちゃってもいいのでよろしく!

では5日目! スタートです!

30 「おはよう。これって・・・!」

巴 「後追いではないから、恋人ではないですね。となると・・・!」

照 「・・・狐を呪殺したか、猫又を噛んだか・・・!」

竜 「せ、せやけど猫又は瑞原プロなんちゃう!?! ほんなら狐を呪殺したとしか・・・!」

怜 「その確認のためにも、霊能と占いや。ほなよろしく頼むで?」

30 「そうだね。それじゃあまずは霊能から・・・せくの・・・!」

初 「渋谷さん、○だったのですよ。」

戒 「渋谷さん、●でしたね。」

誠 「・・・ついに分かれましたね・・・!」

絹「そ、そやな。せやけど、これだと弘世さんが真なのかどうかの判別も出来んで!」  
 初「私の考えを言うのですよ? 私目線、弘世さんは間違いないく騙りなのですよ。  
 今日犠牲も含めて考えると、呪殺された狐か、もしくは藤田プロが実は猫又で、それを噛んだ人狼なのですよ。」

戒「私の目線ですと、少々厄介ですね。まず、弘世さんが狐か人狼の可能性はあります。その場合の理由は、そちらのおチビさんと同じですね。無論、人狼だった場合には逆囲いしていたということになりますが。ただそれに加え、彼女が真の可能性もあるんですよ。もし藤田プロが狐だったとしたら、それを呪殺した後に、身内を吊られた人狼に噛まれた、という可能性もありますから。」

初「チビ言うなのですよ。」

照「・・・だとすると、狐が消えた可能性もある・・・?」

巴「どうでしょうか・・・さすがにこれだけでは、まだ答えが出せないのですが・・・」

30「・・・難しいね。じゃあ、次は占いの結果を聞かせてもらっていい?」

小「分かりました!」

霞「分かったわ。」

30「それじゃ、せいの・・・!」

小「弘世さん、○です！」

霞「藤田プロ、○だったわ。」

怜「……ん？小蒔ちゃんは対抗を占つとるんか？」

小「はい。もし渋谷さんが本当に人狼だった場合、身内を逆囲いしたのか、それともたまたま当たってしまったのかを知りたかったんです。ただ、私の結果は○です。昨日の犠牲と合わせて見ると、おそらく弘世さんが狐で間違いないのではないかと思います！」

霞「残念だけど、狐の可能性があるとすれば藤田プロよ？小蒔ちゃん？……私目線からすると、藤田プロが狐か、もしくは猫又ね。藤田プロが猫又だったなら、弘世さんは人狼。もし狐だったというのなら、弘世さんは狂人になるわね。」

竜「……せやけど、霊能の2人は三尋木プロにも○出しとるで？もし藤田プロが狐なら、三尋木プロは何になるん？」

霞「……人狼でしょうね。その場合には、霊能の2人はともに騙りということになるわ。」

初「むっ、私は騙りじゃないのですよ〜!!」

戒「そちらは騙りでしょう。ですが、私は真です。あまりに疑いの目を向けるなら、真

は姫様という認識でいきますが……?」

小「はい!それだと思います!」

誠「いやいや……」

怜「……小蒔ちゃんも、ずいぶんとたくましくなったもんやで。」

照「……神代さんが真だとすると、もう狐はいないって認識でいいんだよね?」

30「おそらくはね。ただそれも、霊能が欠けてなかったらっていう前提付きだけ  
ど。」

竜「それで石戸さんが真の場合、狐がいるにないに分かれるんよな?」

怜「そうやな。狐がもうおらんなら、霊能はともに騙り確定。それで猫又やったら、瑞

原プロが吸血鬼つちゆうこつちやな。」

☆「私は吸血鬼じゃないぞ☆」

巴「どうしたらいいんでしょうか。まだ判別がつかないんですが……?」

絹「せやけど、残りの吊り回数は5回やしな。ここで決め打ってかんと、後で追  
込まれるで?」

戒「ならば、やはり対抗を吊るところからお勧めしますよ。そろそろ人外を飼うのも  
やめたほうがいいかと。」

初「それはこちらの台詞なのですよ。ここは戒能さんを吊るべきなのですよ。」

小「霊能の決め打ちもそうですが、私としては霞ちゃんです！これ以上、霞ちゃんが嘘をついている姿は見たくありません！」

霞「あらあら。．．．嘘つきの小蒔ちゃん、おやつ抜きね♪」

小「ふえ!?!．．．そ、そんな脅しは、つ、通用しません．．．!?!」

怜「．．．いや、めつちや動揺しとるやないか．．．?」

竜「小蒔ちゃんが騙りやつたら、おやつ抜きになるん?そりやさすがに可哀相やで：?」

照「．．．確かに、あまりに酷すぎる．．．!」

誠「いやいや．．．」

絹「．．．亦野さん、さつきからそればかりやな．．．?」

☆「どうするの?霊能か占い、決め打ちするの?」

30「．．．そうだね。残り5回つてことを考えると、実際余裕がないわけだし．．．」

30「．．．霊能をロラしよう。おそらくだけど、それが一番安全だよ。」

初「．．．ロラされちゃうんですか?．．．確かに、疑わしいのは吊るべきだとは思いますが．．．?」



戒「・・・正直、あまり賛成は出来ませんね。決め打ちならともかく、ロラでは吊りを1回無駄遣いするだけですよ?」

巴「確かにそうですね。でも、もし本当に霊欠けだとしたら、それが一番安全なわけだし・・・?」

絹「それに、真でも恋人の可能性はあるしな。やっぱり残しとくことは出来んちゃう?」

照「・・・でも、情報がさらに減る・・・」

怜「そりゃしやあないわ。ここまで来てもうた以上、あとは自分の推理も役立てんな。」

☆「全くだぞ☆・・・ちなみに私目線、占いは2人とも人外だから、それも忘れないでほしいんだぞ☆」

小「そんなことはありません!私は間違はなく真占い師です!」

霞「真は私よね?小蒔ちゃん?」

竜「・・・霊能をロラするにしても、占いはどつちが真なん?うちとしては、占ってくれた小蒔ちゃんを信じたいとこなんやけど・・・?」

30「それも含めて考えていかないかね。今日からは、それこそ無駄吊りは出来ないだろうから。」

ふ：ここで残り1分を切った〜！

今日の結果は、果たして決まったのか〜!!?

☆「・・・それじゃあ、今日は霊能に投票でいいんだね？」

30「うん。今日はどつちかに投票して？それで残ったほうも、明日には吊る予定だからそのつもりで。」

戒「・・・仕方ありませんね。あまり文句を言つて、モンスター扱いされるのも嫌ですし・・・」

初「モンスターは戒能さんなのですよく？」

小「えつと、どちらかに投票ですね。なら私が選ぶのは・・・？」

霞「・・・ふむ。この場合、どちらに投票するのが正しいのかしら・・・？」

巴「どちらにしろ、明日には残りも吊られるわけですけど、どうせなら先に人外を吊りたいですね・・・」

照「・・・どつち？」

誠「いや、ですから私に聞かないでくださいって・・・」

絹「ほんまですよ？ちゃんと自分で考えんと、宮永さんも人外扱いされてまいりますよ

「？」

竜「せやけど、ほんまにどつちに投票したらええんやろ……ちなみに、  
 怜はどつちに投票するん？」

怜「……一応言うけど、竜華も自分で考えんとあかんぞ？」

ふ：そこまで！！

それでは皆さん、投票を始めちゃってください！

## ○投票結果

照 (0)	↓初美	誠子 (0)	↓良子	巴 (0)	↓良子	初美 (7)	↓良子
霞 (0)	↓良子	小蒔 (0)	↓初美	アラサ (0)	↓初美	やはり (0)	↓初美
良子 (5)	↓初美	怜 (0)	↓初美	竜華 (0)	↓初美	絹恵 (0)	↓良子

投票の結果、薄墨初美さんは処刑されました。

初「え、私が先に処刑されちゃうんですか？！」

6 日目に続く……

# 白糸台・永水・プロ組十α ③

○6日目（昼） 犠牲 すこやん・春・淡・堇・靖子・霞

処刑 咏・洋榎・堯深・初美

生存 照・誠子・巴・小蒔・アラサー・はやり・良子・怜・竜華・絹

恵

石戸霞さんの無残な死体が発見されました。

ふ：みなさん、おはようございませう！

昨日の犠牲者は、永水女子の石戸霞さんでした！

彼女は古い師候補だったはずですが、一体どうしてこうなってしまったのか！？  
今日の会話時間は6分間！

ドンドン話し合っていきましょう！

それでは6日目、スタートです！！

30 「おはよう、みんな。昨日やられたのって、石戸さんだったんだね・・・？」

☆「みたいだぞ☆健夜ちゃんも、何だかんだと生き残ってるね☆」

30 「そうだね。まあいつかはやられるだろうけど、それまでは頑張るつもりだよ・・・。」

巴「・・・でも、占いの対抗である霞さんがやられてしまったとなると、正直姫様を真として信じるのは・・・」

怜「・・・正直微妙やな。こうなると、さすがに疑わざるをえんで・・・？」

小「うう・・・き、きつと何かしらの理由があるんです！人狼に騙されないでください!?!」

照「・・・どうなんだろう。そういうえば、昨日の結果は・・・？」

30 「そうだね。今日は良子ちゃんを吊るのに変わりはないけど、それでも薄墨さんの色だけは教えてくれるかな？」

戒「そうですね。私としては彼女が吸血鬼とかなら有難いのですが、さすがにそれは楽観しすぎでしょうか・・・」

絹「え・・・？」

誠「えっと、それってどういう・・・？」

30 「……良子ちゃん……!？」

戒「……COLWです。狐はいないでしょうが、私を吊れば恋人勝ちですね。」

竜「嘘っ!？」

怜「……ラストつちゆうたな？お仲間は誰やったんや？」

戒「渋谷さんと三尋木プロですね。つまり初美さんも、何かしらの人外ですよ。」

☆「……参ったぞ？ここで吊ると、本当に恋人勝ちになっちゃうけど……？」

誠「でも、人狼だっというのも本当かどうかは分かりませんよ？もしかしたら狐かもしれないし、それこそ戒能プロが恋人の可能性だってありますし……？」

戒「ちなみに私目線ですと、真占いは弘世さんでしょうね。狐はおそらく藤田プロでしょう。そして残った3人、姫様に石戸さん、それに薄墨さんが、それぞれ狂人、キューピッド、それと吸血鬼ではないかと考えています。恋人が混じっていれば良いのですが、少なくとも石戸さんではなかったようですね。」

絹「つまり、昨日石戸さんを噛んだんはその確認のためつちゆうことか……？」

戒「イエス。本当は他に何かやれることがないか考えたのですが、さすがに霊能ロラが前提では、COする以外道が無さそうでしたので……」

30「……どう思う？このCO。」

小「違います！……おそらく、良子さんは吸血鬼です！もしくは瑞原プロから目をそらせようとしている人狼です！ここは、良子さんを吊るべきです！」

竜「吸血鬼なあ……せやけど、もし戒能プロが本当に最後の人狼やとすると、小蒔ちゃんも人外確定になってまうんよな……？」

誠「ちなみに、神代さんの占いはどうだったんですか？何か分かりましたか？」

小「私の占い結果は、巴ちゃん○です！」

巴「私を占ってくれていたんですか……。」

怜「……せやけど、正直微妙なとこやで。小蒔ちゃんが真ならええけど、これで小蒔ちゃんも騙りやったら……。」

照「……神代さんの目線では、今のところどうなってるの？」

小「私の目線では、確定○が、怜やんさん、竜華さん、巴さん、それに共有の小鍛治プロです。人狼が瑞原プロで、グレーが良子さん、宮永さん、亦野さん、絹恵ちゃんです。狐は弘世さんですので、良子さんは吸血鬼か人狼で間違いないです！」

絹「……これ、どっちを信じたらええん……!？」

30 「吊りの回数は残り4回。もし良子ちゃんが本当に人狼なら、ここではまだ吊れないけど……」

小「まだ人狼の瑞原プロが残っています！ですから今日は、確実に勝利するために、良子さんを吊るべきです！」

☆「……何度も言うけど、私は猫又だぞ☆私目線では、まだ良子ちゃんのほうが信じられるぞ☆」

誠「……試しに瑞原プロを吊ってみるっていうのは駄目なんでしょうか？もし本当に猫又だったら、明日は神代さんを吊るってことにすれば……？」

照「……確かに、この人数なら猫又に誰か道連れにされても、吊り回数が余計に減ることはない。でも……」

巴「恋人が残ってるのに、あまり無駄吊りはしたくないし……」

戒「……もし、私が道連れになれば恋人勝ちですね。……まあ正直勝ちの目が見えませんが、もうそれでも良くなってきてはいるんですが……」

竜「あ、あかん！恋人に負けるのは!?!」

怜「ん？……何でや、竜華？」

竜「だって恋人言うても、パチモんの恋人なんやろ!?!そんなんに、うちと怜が負けるわけにはあかんで!?!」



30「

☆「……アハ★」

怜「……一応言うどくけど、その理由までは聞かんからな……？」

30「……コレダカラサイキンノワカイコハ……ともかく、今日はどちらかに投票するしかないね。良子ちゃんがLWだと信じて神代さんを吊るのか、それともLWではないと信じて良子ちゃんを吊るのか……！」

戒「……まあ勝ち目はなしですし、吊られても構わないんですがね……？」

小「だ、駄目です！ 私は真なんですから、今日は良子さん、もしくは瑞原プロを吊らないといけません！」

☆「……ちなみに、私の中ではもう投票先は決まってるぞ★」

誠「……どうしたらいいんでしょうか。どちらかに投票と言われても……」

照「……分からない。どっちに投票するのが得策……？」

絹「この2人の真偽もそうやけど、恋人のことも忘れたらあきませんよ？ まだこん中に残つとるんですから……！」

怜「そうやな。竜華曰く、パチもんらしいけどな……」

小「うう……占いで恋人かどうかも分かったら良かったんですが……！」

巴「さすがに、それを有りにするとバランスが……」

戒「イエス。恋人陣営が、極端に不利になりますね。」  
竜「何としても、恋人の正体は暴いたるで……！」

ふ：さあ残り1分を切った〜！

もう話し合うことは残ってないのか〜!?

30「……それじゃあ、今日は良子ちゃんか神代さん、どちらかに投票で。」

☆「分かったんだぞ☆」

小「当然、良子さんです……！」

戒「ソーリー……姫様、申し訳ないのですが……！」

照「……えつと、投票するのは……」

巴「迷いますね。下手をすると、そのまま人外ペースになりそうですし……！」

誠「……気づいてないだけで、すでにどこかの陣営のペースになっているってことも有り得ますよね……？」

絹「……不安になるから、そういうことは言わんでほしいわ……」

怜「そうやな。とにかく、今日は確実に吊っていくで。」

竜「その通りや。勝つのはうちらやで……！」

ふ：時間だあ〜！

では各自、投票を始めてください！

○投票結果

照(0) ↓ 良子      誠子(0) ↓ 小蒔      巴(0) ↓ 良子      小蒔(5) ↓ 良子

アラサ(0) ↓ 小蒔      はやり(0) ↓ 小蒔      良子(5) ↓ 小蒔      怜(0) ↓ 良子

竜華(0) ↓ 良子      絹恵(0) ↓ 小蒔

再投票になります。

もう一度投票しなおしてください。

照(0) ↓ 良子      誠子(0) ↓ 小蒔      巴(0) ↓ 良子      小蒔(5) ↓ 良子

アラサ(0) ↓ 小蒔      はやり(0) ↓ 小蒔      良子(5) ↓ 小蒔      怜(0) ↓ 良子

竜華(0) ↓ 良子      絹恵(0) ↓ 小蒔

再投票になります。

もう一度投票しなおしてください。

ふ：次がラストだ〜！

これでまた結果が変わらなければ、引き分けだ〜！

照(0) ↓ 小蒔 誠子(0) ↓ 小蒔 巴(0) ↓ 良子 小蒔(6) ↓ 良子  
 アラサ(0) ↓ 良子 はやり(0) ↓ 小蒔 良子(4) ↓ 小蒔 怜(0) ↓ 小蒔  
 竜華(0) ↓ 良子 絹恵(0) ↓ 小蒔  
 投票の結果、神代小蒔さんは処刑されました。

小「うう、残念です・・・で、でもみなさん！頑張ってください〜！」

○7日目(昼) 犠牲 すこやん・春・淡・董・靖子・霞・はやり

処刑 咏・洋榎・堯深・初美・小蒔

生存 照・誠子・巴・アラサー・良子・怜・竜華・絹恵

瑞原はやり(28)さんの無残な死体が発見されました。

ふ：みなさんおっはようございま〜す！

昨日の犠牲者は、何と瑞原はやりプロだ〜!?

彼女は何かの役職を持っていたはずだが、これは一体どういうことか〜!?

今日の会話時間は5分！

そろそろペースを上げていかないと、間に合わなくなるぞ〜!?

では7日目、スタートだ〜!

30 「おはよう。はやりちゃんがやられたみたいだけど．．．」

巴「．．．瑞原プロだけですね。犠牲者が．．．?」

怜「．．．説明してもらおか。戒能プロ．．．?」

竜「そうやで！戒能プロの話じゃ、瑞原プロは猫又やったんちゃう!?!」

戒「．．．分かっていたので噛んだのですが、やはり猫又ではなく、ただの人外だったようです。つまり真占いは弘世さんではなく、欠けていたということですよ。」

絹「つていうか、LWが猫又候補を噛むつちゅうのがそもそも信じられんのやけど．．

?」

誠「．．．どういいう内訳なんですか？正直、意味が分からなくなってきたんです

けど・・・!？」

30 「・・・占いが欠け？でももし、石戸さんが真の場合、はやりちゃんも吸血鬼だったってことだよ？でもそうすると、狐は・・・？」

照「・・・猫又は瑞原プロではなく、藤田プロ。そしてその場合、董はおそらく人狼。でも戒能プロは、昨日董を仲間だとは言わなかった・・・!」

戒「・・・弘世さんと姫様ですよ。仲間は・・・本当は昨日、私が投票で負けて、姫様を真認定で勝負にしようとしたんです。ですが残ったのは私のほう。これではいずれ吊られるのは分かりきってますし、ならあえて言ってることを破綻させ、昨日の言葉は嘘だったと気づいてもらおうとしたんですよ。・・・まあつまり、まだ狐は残っているということですね。」

怜「・・・正直信じられなくて。戒能プロが、実は狐なんちゃうか・・・!？」

誠「ありえますよ。ここまで来ると、さすがに信じられません・・・!」

戒「・・・もし私を吊ろうというのなら、狐さんは私の味方をしたほうがいいですよ？現状では恋人勝ちが優先されますからね？」

巴「・・・確かに良子さんが本当に人狼だったら、吊った時点で敗北ですよね・・・?」  
 竜「せやけど、狐や恋人なら絶対に吊らなあかんで？村勝ちにするには、残り3回で人狼と狐、恋人は確実に吊らんと・・・!？」

照「……うん。でも占いや霊能がもういないこの状況だと、完全に推察でいくしかない……!」

戒「……一応もう一回言わせていただくと、占いは欠けです。ですのではやりさんが人外なのは確定ですが、狐ではなく、また吸血鬼かどうか分かりません。人狼は私と姫様と弘世さん。初美さんは真霊能ですね。」

絹「……つまり、三尋木プロが狂人かキューピッドっちゅうこと……?」

30「そして、石戸さんとはやりちゃん、この2人が吸血鬼と、残ったもう1つの人外ってことだね。」

怜「つまり、どちらにしろ吸血鬼だけは消えたっちゅうことやな。ただそうすると、やっぱり狐と人狼が問題になってくるで……?」

巴「……どうすればいいんでしょうか?本当は、ここは良子さんを吊るのが一番いいんでしょうけど……?」

照「……万が一にも、本当に人狼だったときが最悪……!」

誠「そうですね。その瞬間、恋人の勝利が決まっちゃうわけですし……!」

竜「……戒能プロが、狐と恋人を兼ねとるっちゅうのはどうなん?そんならここで吊っても問題ないんちゃうか?」

絹「えっと、確かにそれなら問題はないんですけど……」

怜「・・・賢い発言が増えてきつつたから警戒しとったけど、やつぱり竜華は竜華やで・・・」

30「その・・・それならありがたいけど、さすがにそれに期待するのは・・・」

戒「言っておきますが、私は恋人ではなくフリーですよ？つまり小鍛冶プロと一緒にです。」

30「好きでフリーでいるんじゃないよ!？」

誠「・・・ともかく、こうなると完全に吊るか吊らないか、ですね。現時点で、戒能プロを吊りたいって人はいるんですか？」

怜「・・・うちはそうやな。やつぱり狐なんちゃうか？」

竜「うちもそう思うで！怜と一緒にや！」

怜「いや、せやから少しは自分でな・・・？」

絹「あ、あはは・・・その、うちも狐なんちゃうかつて思いますわ。やつぱり昨日と言つてることがちやうつてのは、少し信じづらいですわ・・・」

誠「・・・ちなみに、私も吊るのに賛成なほうです。そうすると、戒能プロはともかくとして、残った3人は反対ということですか・・・？」

巴「・・・賛成と反対、どっちかを選べつていうんなら賛成です。でも、正直まだ迷ってますね・・・」



照「……同じく。人狼だったりしたら、そこで終わり……!」

30「……決めなくちやいけない立場の私が、まだ迷ってるんだよね……!」

戒「……ちなみに、その3名は私以外を吊るとするのなら、誰に投票するおつもりなんでしょうか?狐や恋人候補が誰か、ぜひともお聞きしたいんですが……?」

絹「あ、それはうちも聞いてみたいで。」

竜「そ、そうやな。恋人も探さんとあかんし……!」

照「……狐は正直分らない。でも恋人で怪しいのは、園城寺さんと清水谷さん。」

竜「つてうち!」

巴「……そうですね。私もそこが怪しいんじゃないかと……」

怜「……まさか、それ竜華がうちに合わせとるからちやうやろな?言つとくけど、これが竜華のデフオッチゆうやつやからな?」

竜「そ、そうやで!?!確かにうちと怜は仲ええけど、まだ恋人なんて……!?!」

怜「もうええから竜華は黙つとき……?」

竜「」

誠「……確かにそう言われると、この2人も怪しい気がしなくてもないですが……」

絹「けど、実際普段からこんなんですよ?」

戒「……なら、試しに今日はそのどちらかを吊つてみては?私は最終日でも間に合

うわけですし……」

怜「……なんや。急にうちに矛先向けてきよったな。ほんまに狐か恋人なんちゃうか……!?!」

30「……どうしようかな。ここは良子ちゃんと……園城寺さんかな。その2人の投票にしようか?」

竜「あ、あかんで!ここは戒能プロを吊らなあかん場面やで!」

ふ:さあ、残り1分を切ったろ!

今日の結果はまとまったのか?!」

30「……うん。それじゃあ良子ちゃんか園城寺さんに投票で。実際に、その2人が恋人の可能性って高いんじゃないかと思うんだよね?」

竜「せ、せやけど……!?!」

怜「……」

巴「やつぱり、放置しておくのは怖いですし……」

戒「仕方ありませんよ。怪しまれる言動をとったあなた方のミスということですよ。」

誠「なら、私が投票するのは……」

怜「……つたく、COLWや。うち吊ればそこで終了やっちゅうことはよう覚えと  
き。」

照「……え……?」

絹「……つて、せやからこんな土壇場でそれ言うんはやめてくださいって!!」

竜「」

怜「しやあないやないか……竜華の阿呆のせいで、いらん容疑がかかってまったん  
や。さすがに黙っとくわけにはあかんやろうが……」

戒「……どうやら、本当に狐か恋人だったようですね。なら、今日は決まりでしよ  
う?」

30 「え、えつと……投票先は変えずに、このままで……」

ふ：時間でつす!

それでは、今日の投票を始めてくださ〜い!!

○投票結果

照(0) ↓ 怜 誠子(0) ↓ 怜 巴(0) ↓ 怜 アラサ(0) ↓ 怜  
 良子(3) ↓ 怜 怜(5) ↓ 良子 竜華(0) ↓ 良子 絹恵(0) ↓ 良子  
 投票の結果、園城寺怜さんは処刑されました。

怜「はあ・・・せやから、うち吊つたら終了や言うたやないか・・・」

清水谷竜華さんが、悲しみのあまり後追い自殺をしたようです。

竜「・・・も、もしかして・・・うちのせい・・・？」

この瞬間、人狼は全て処刑されました。  
 しかし残念なことに、村にはまだ狐が残っていたようです。

一同「え・・・？」

戒「・・・自分でもビックリですね・・・」

おめでとうございます！

今回は狐陣営の勝利です!!

戒「・・・今日か明日あたりに吊られて終わりかと思いましたが、まさか人狼同士で恋人だったとは・・・なんともラッキーな結果ですね。」

戒能良子（狐）

怜「・・・ぜくんぶ竜華のせいや。罰としてしばらく口利かんわ・・・」

竜「許してや怜い〜!まさかほんまに疑われるとは思わんかったんや〜!」

董「・・・まさか身内が恋人たちだったとは・・・最悪だな。」

咏「むう・・・咏さんの活躍の場がちつとも無かったじゃね〜かよお・・・?」

弘世董（人狼） 園城寺怜・清水谷竜華（人狼&恋人） 三尋木咏（狂人）

☆「・・・人狼にはばれてるとは思ってたけど、あそこで嘯まれるとは思わなかったよ。やっぱり、真に占われた時点でアウトだよね・・・」

瑞原はやり（28 & 吸血鬼）

30「ごめんね……?」

春「……仕方ない……」

霞「まさか、恋人を吊った時点で残りの人狼がいなくなっちゃうだなんて……さすがに予想外だったわね。」

初「全くですよ。っていうか、霞ちゃんが真だったのにも驚きなのですよ。」

霞「あら、それは私もよ? 初美ちゃん?」

堯「……藤田プロが、おそらく猫又っていうのには気づいたから、あえて何も言わずに吊られたけど……」

靖「……それで人狼に噛まれたまでは、ある意味計算通りだったが……その後が予想外だったな……」

アラサー・滝見春（共有） 石戸霞（占い） 薄墨初美（霊能） 渋谷堯深（狩人）  
藤田靖子（猫又）

照「……また、騙された……」

誠「まさか、本当に人狼だったなんて……!?」

淡「もう何してるのさ〜!?こんなの、私ならちよちよいのちよいだったよ〜!?」

巴「それは、さすがにどうかと．．．?」

洋「．．．まあ確かに残つとる人狼が恋人同士じゃ、狐の独走は防ぎづらいわ。」

絹「そうやな。おかげでみんな、まんまと騙されてもうたで。」

宮永照・亦野誠子・大星淡・狩宿巴・愛宕洋榎・愛宕絹恵（村人） 初日犠牲者（村人）

小「うう、ごめんなさい．．．もう少しお手伝いできれば良かったんですが．．．!?」

怜「まあしやあないで。小蒔ちゃんのせいやない。」

竜「そうやで！せやから小蒔ちゃんは落ち込まんでも．．．」

怜「ええから竜華は反省しとき。」

竜「．．．．．はい．．．」

神代小蒔（キューピッド） 園城寺怜・清水谷竜華（恋人&人狼）

30「もう．．．咏ちゃん、いきなりすぎだよ．．．?」

咏「仕方ないだろお?狂人に当たっちゃまったんだからさあ〜?」

靖「初日の●出しは、狂人アピールとしては最適だというのは分かっているんだ

が・・・」

咏「まあね。どうせだからすこやんにぶつけてやれ〜って思ったんだけど、まさか共有だとは思わなかったぜえ〜？」

30「こっちは伏せるつもりも無かったんだから、せめて3日目まで待てば良かったのに・・・？」

咏「それは結果論ってやつだね〜い。それに、攻めるならガンガン攻めるほうが私らしいっしょ〜？」

靖「・・・まあ、確かにそれはそうなんだが・・・」

☆「それで自爆したら意味がないぞ☆」

咏「ぐふっ・・・言うね〜。大した出番のなかった吸血鬼さんがよく〜？」

☆「仕方ないでしょ？それでも、惜しいところまではいってたんだぞ？」

30「ちなみに、はやりちゃんには誰を襲撃してたの？やっぱ私も？」

☆「健夜ちゃんは3日目の夜に襲撃して、何と成功してたぞ☆ちなみに2日目は良子ちゃん、4日目は園城寺さん、5日目は愛宕さんの妹さん、6日目は狩宿さんを襲撃して、そこで噛まれちゃったよ。ちなみに、全部成功してるぞ☆」

靖「・・・見事に全員が残ってますね。薄墨さんではなく戒能プロを襲撃したのには、何か理由でも？」



☆「良子ちゃんのほうが、真偽関係無しに長生きしそうだと思っただからだぞ☆」

咏「あと2〜3日伸びてれば、本当に吸血鬼勝ちが有り得たってことかい・・・？」

30「でも、よくそこまでみんな生きのびてたね。途中で誰か落ちててもおかしくはなさそうだけど・・・？」

☆「長生きしそうな、役職無しの子を中心に選んだからね☆」

咏「つたく、どうせなら私ももうちよい目立てる役が欲しかったぜえ・・・」

怜「ほんま、竜華には敵わんで・・・よりによつて恋人認定で吊られるって何やねん・・・」

竜「うう、ほんまごめんなあ？うち怜のために頑張ろう思うてたのに・・・」

初「見事に空回りしてたのですよ。」

小「でも、お2人が人狼だとは思いませんでした。どっちか位はそうかな、とは思っていましたが・・・」

怜「・・・恋人の指定が来たときにはたまげただ。なんで竜華とうちやねんって思うたし・・・」

竜「うう、うちは嬉しかったんよ？こりやキューピッドには感謝せなあかんって思うてたし・・・」

小「初め、自分がキューピッドだって分かったときには、誰を恋人同士にしようか迷いました。でもお2人がとても仲良しさんだったので、これはって思いました……！」

竜「そ、その通りやで小蒔ちゃん！うちと怜はめつちや仲良しやねん！」

小「はい！羨ましい限りです！」

初「……姫様も、二心あつて言ってるんじゃないのですよ？」

怜「……いや、それは分かつとるんや。分かつとるんやけど……」

竜「次こそは、怜のためにも頑張るで〜！」

小「私も、一生懸命頑張ります！」

怜「……天然同士が合わさると、もう止まらなくなるんやな……」

初「……姫様も、いい子なんですけどね……」

董「やれやれ……またとんだ嘯ませ犬になつてしまったな……」

淡「……つていうか、私たちがまだ誰も活躍してないじゃん!？」

堯「・・・そういえば・・・」

誠「そうだね・・・！」

照「・・・白糸台の危機・・・！」

董「そんな大層なものか？麻雀ならともかく、しよせんは一ゲームだろう？」

淡「むっ・・・甘いよ董！たとえどんなゲームでも、やるからには勝たなくちゃ！」

照「・・・淡の言うとおり・・・！」

誠「そうですね。ただその場にいるだけなんて、単なる数合わせにしか過ぎません

よ・・・！」

堯「・・・次は、頑張つて活躍しないと・・・！」

董「・・・単なる遊戯に過ぎんと思うのだが・・・？」

淡「危機感足りない董は置いといて、次こそは私たちが大活躍だよ！」

堯「・・・頑張る・・・！」

誠「次こそは、絶対に・・・！」

照「・・・咲に、格好いいところ見せる・・・！」

4人「おっ！」

董「・・・・・・・・・・私が間違ってるのか・・・?」

戒「ラッキーな結果ですね。これは運が良かっただけです。」

巴「でも、まさか霊能騙りに出てきてたなんて・・・」

霞「騙されちゃったわね。もう少し私も用心しないと・・・」

戒「・・・それで、勝てたのは有り難いのですが、これは一体・・・?」

春「・・・・・・・・」

巴「・・・春ちゃんが、さっきから良子さんの傍から離れようとしませんね・・・?」

霞「あらあら。従姉妹発言に怒ってるのかしら?」

巴「・・・え?でも、従姉妹で間違ってるのですね?」

霞「間違ってるから、怒ってるのかもね?」

巴「?」

戒「・・・・・・・・春?そろそろ離れてほしいのですが・・・?」

春「・・・・・・・・嫌・・・・・・・・」

ふ「みんなお疲れ様でした〜！楽しかった〜!?」

30「楽しかったのは楽しかったけど……」

洋「さすがに考えることが多すぎやで。頭痛くなってくるわ……」

絹「ほんまや。もう少しで知恵熱出るところでしたぞ?」

ふ「次回はまた違う内訳でやるから、みんな楽しみにしててね〜!」

30「いや、頼むから普通にやろうよ……?」

洋「そうやな。普通が一番やで……」

絹「ほんまやで……」

ふ「ちなみに、最後のメンバーもすでに到着してるので、次回からはその人も参加し  
まっす!」

洋「……ん?」

絹「……え?」

30「あ、到着したんだ?」

「……正直まだ状況が理解できんのだが……?」

「細かいことは気にしないデスヨ。」

ふ「それじゃあ人狼ゲーム3回戦、スタートするぞ〜！」

続く・・・

白糸台・永水・プロ組+β ①

ふ：ということではまりました第3回戦！

今回から加わるメンバーは、この2人だ！

辻「あゝ……辻垣内智葉だ。いまだに納得はしておらんのだが……」

M「メガン・ダヴァンです。どうぞメグと呼んでください。みなさんよろしくですヨ

！」

董「ああ、よろしく頼む。」

照「……臨海……」

淡「他の3人は？」

辻「帰郷中だな。インターハイが終わったの休暇中といったところだ。」

M「私は帰るのが面倒だったので、そのまま残りましたガネー！」

辻「……どうでもいいが、私は遊びに行こうと誘われたはずだよな？メグ？」

M 「ですから遊びに来てるじゃないですか？」

辻 「……目的地が白糸台で、ましてテレビが来ているだなんて一言も聞いていないか？」

M 「言つてませんケド、聞かれてもませんヨ？」

怜 「……なんや。うちらと似たような状況やな。」

洋 「ちゆうても、あつちの外人さんは分かつとつたみたいやけどな？」

絹 「あかんでお姉ちゃん？ 外人さんやなくて、ちゃんとメグさん呼ばな？」

ふ：今回は、以下の役職が加わります！

みんな間違えないように気をつけるんだぞく！

### ○貴族

村人陣営の役職。

村人なので、占い霊能ともに○と出る。

勝利条件は村人陣営の勝利、かつ自分が生きのびること。

人狼に襲撃された場合、奴隷の人物が身代わりとなる。この場合、貴族ではなく奴隷が犠牲者となる。



奴隷が誰なのかは分からない。

○奴隷

村人陣営の役職。

村人なので、占い霊能ともに○と出る。

勝利条件は村人陣営の勝利、かつ『貴族』が死亡していること。貴族が死亡していれば、自分の生死は問わない。

貴族が人狼に襲撃された場合、貴族の身代わりになってしまう。これを拒否することはない。

貴族が誰であるかを知っている。

○不審者

村人陣営の役職。

特殊能力を持たない村人だが、占いの結果には●と出てしまう。しかし霊能には○と出る。

村人から疑われる存在だが、間違いなく村人なので注意。

霞 「ふむふむ。3つも新しい役職が入るのね・・・？」

小 「えっと・・・奴隷の人は村人なのに、同じ村人の貴族を狙わなくちゃいけない、と

いうことでしょうか・・・？」

初「その通りなのですよ。それも、貴族が人狼に嘯まれるんじやなくて、あくまで吊らないといけないのですよ。」

巴「そうね。貴族が嘯まれちゃうと、奴隷が身代わりになっちゃうから・・・」

春「・・・無情・・・」

誠「確かに奴隷の人は大変そうですね。村人である貴族を吊らないと、勝利することが出来ないわけです・・・！」

董「別に無理に吊らずとも、貴族が嘯まれても問題はないぞ？」

照「・・・奴隷がいなくなつた状態で、また貴族が狙われれば、貴族も死亡する。そのあと村人が勝利すれば、奴隷の勝利・・・！」

淡「んく・・・けどそれって、何だか他人任せだよね！ここはやつぱり、自分でズバツと下克上だよお！」

堯「・・・それが出来ればいいけど・・・」

30「それに、面倒な役職が追加されてるしね・・・」

戒「不審者とは・・・これまた面倒な・・・」

ふ：それでは今回の役職発表です！

今回の内訳は、人狼(3)、サイコ(1)、狐(2)、背徳(1)、蝙蝠(1)、共有(2)、占い(1)、霊能(1)、狩人(1)、不審者(1)、猫又(1)、貴族(1)、奴隸(1)、村人(5)の、初日訳欠け有りの、占い有りです！

☆「貴族と奴隸が入っていること以外は、わりとオーソドックスな内容だぞ☆」  
 咏「つていつても、不審者やサイキキラー、それに蝙蝠もいるからね〜い。油断は禁物だぞ〜い？」

靖「・・・それよりも、人外の数が多いな。10吊りなのに、人外が7人。蝙蝠も入れば8人とは・・・」

照「・・・役職の真偽を見極めないと、すぐに詰む・・・！」

ふ：そして今回の会話時間ですが、最初は5分です！

30「・・・最初は？」

☆「・・・嫌な予感がするぞ★」

ふ：3日目からは、サイコロを使って時間を決めさせていただきます！

時間の割り振りは、5分、4分、3分×2、1分、30秒となっていまゝす!!

怜「・・・あかん。耳まで遠くなってきたみたいやで・・・」

竜「し、しつかりせなあかん! 怜く!?!」

洋「・・・6回に4回は、3分以上みたいやけど・・・」

絹「序盤に30秒なんかきてまったら、最悪なんてもんやないで・・・!?!」

ふ：ちなみに、このサイコロをふる人はランダムで決めさせていただきます!

当日の朝に名前を呼びますので、その人がサイコロをふってくださいね〜!

M「オウ・・・これは、ワクワクしますネ・・・!」

辻「・・・私としては、さっさと終わらせて帰りたいんだが・・・?」

ふ：それでは始めます!

人狼ゲーム第3回戦!

スタートです!!

○2日目(昼) 犠牲 恒子

処刑

生存 照・董・堯深・誠子・淡・巴・初美・霞・小蒔・春

健夜・はやり・咏・良子・靖子・怜・竜華・洋榎・絹恵

智葉・メグ

福与恒子さんの無残な死体が発見されました。

M「それでは始めまシヨウ！みなさんよろしくお願いしますネ！」

辻「よろしく頼む。・・・まあやるからには勝利するつもりだ。」

☆「よろしくね☆・・・それより、健夜ちゃんの表記が間違ってるんだぞ☆」

30「間違ってるないよ!?さっき直させたんだからね！」

咏「こんなところで強権発動とは・・・アラフォーは怖いねえ・・・」

30「だからアラサーだよお!」

洋「・・・まあ何にせよ、とつと話し合いを始めようや。明日からは阿呆みたいな時間になりかねんしな。」

怜「そうやな。そんならうちから・・・CO共有や。対抗はおるんか？」

竜「怜が共有やったんやな!」

怜「そうやで。対抗は……おらんみたいやな。」

照「……みたい。それで、相方は潜伏?それとも……」

怜「朗報やで。うちの相方は初日の犠牲者さんや。これで欠けが判明したで……」

霞「ふむ……。」

巴「……確かに、欠けがすぐに分かったのは嬉しいんですけど……」

初「……人外もきつちり残っているのですよ。」

怜「ま、そういうこつちや。とりあえずうちの共有に関してはそのことやけど、占いのCOについてもええか?」

戒「OKですね。時間は有意義に使いましよう。」

辻「そうだな。5分とはいえ、決して長くはない。」

怜「ほんならいくで?自分が占いやいう奴は、占いの結果を言つてや?……せうの……!」

誠「堯深、○です!」

30「咏ちゃん、○だね。」

照「……藤田プロ、○。」

堯「・・・淡ちゃん、○でした・・・」  
靖「戒能プロ、○だ。」

絹「・・・今回は5人もかいな・・・!?」

春「・・・占いと、騙りの人外が4人・・・」

淡「そうだね!つまり、たかみく以外は偽者だよ!」

誠「何でだつての。・・・私が占つたのは堯深です。けどご覧の通りですので、堯深は背徳者か蝙蝠ですね。」

堯「・・・私は本物だよ?・・・私が占つたのは淡ちゃんです。初日ですので、近い場所から占いました。」

30「それで、私が占つたのは咏ちゃんだね。さっきのお返しのつもりだったんだけど、あいにく○だったよ・・・」

咏「あいにくつて・・・私は村人だぜ?なんでガツカリしてるんだよお?」

30「吊つてやろうつて思つてたから。」

咏「・・・アラサーの考え、まじでわかんね・・・!?」

照「・・・私は藤田プロを占つた。同じ長野出身つてことで占つたけど、やっぱり騙りだった・・・!」

靖「騙りは君のほうだろう?・・・私が占ったのは戒能プロだな。理由はさっきのプレイから。人外だった場合、また美味しいところを持つていかれるんじゃないかと思っ  
てな。」

竜「んゝ・・・いつもそうやけど、この時点じゃ分からんで・・・?」

洋「となるとグレランやろうな。蝙蝠抜かせば、3回は余裕あるわけやし・・・」

董「実際、それしか無さそうだな・・・」

辻「・・・その前にCOだ。私は貴族だ。」

M「ワオ・・・智葉が貴族だったんでスネ・・・!?!」

辻「ああ。グレランになるなら吊られると困るからCOさせてもらった。ちなみに対  
抗はいるのか?」

怜「・・・貴族の対抗がおるんやつたら出てきい?出てこんのなら、辻さん真でいく  
で?」

☆「・・・いないみたいだぞ☆」

絹「ほんなら、辻垣内さんが貴族で決定でもええんやないですか?」



怜「……そうやな。確認したいから、出来れば奴隷にもCOしてほしいとこなんやけど……?」

巴「でも、この状況では奴隷の人もCOしないのでは? 奴隷の人は、貴族である辻垣内さんは吊られてほしいでしょうし……?」

春「……普通なら、確かにそう。でも今回は、もう欠けが共有だつて分かつてる……」  
初「貴族が欠けていないと分かっている現状では、辻垣内さんは真確定になつてしまふのですよ。それなら、村勝利のためにも奴隷の人にはCOしてほしいのですよ。」  
戒「すでに勝利条件が消えかけているわけですが……確かに、無駄吊りを防ぐためにも奴隷の人にはCOしてほしいですね。」

怜「……COするか? してくれただろうが助かるで?」

洋「……つたく、なんで初日に敗北が決まつてんねん! うちが奴隷やつちゆうねん!」

竜「洋榎が奴隷やつたん……!」

洋「そうや。本当なら適当なこと言つて辻垣内の奴吊つてまおう思うてたのに、こうなつてもうたらうちの勝ち目がないやないか……!」

絹「お姉ちゃん……ついに奴隷にまで堕ちたん……!?!」

怜「……洋ぼん……!」

洋「つて、うちかてこんな役やりとうなかつたわ!?!」

辻「ふむ。……で、お前は私を真として認めてくれるのか？お前には貴族が誰か分かっているはずだな？」

洋「ふん！対抗がおればそつちにのるつもりやつたんやけど、出てこんのならしゃあないから認めたるわ！つたく、人外も何やつとんねん……!?!」

董「……一応確認したいのだが、奴隷のCOは愛宕だけなのか？聞いている限りでは、果てしなく人外に聞こえるのだが……?」

堯「……いないみたいですわね。」

淡「なら、洋ぼんは奴隷決定だね！お疲れ様っ!」

洋「やかましいわっ!?!」

怜「……ともかく、これで貴族と奴隷も確定やな。問題は霊能やけど……今日のうちにCOしとこか？」

誠「いいんですか？下手すると騙りが出る可能性もありますし、グレランの範囲がさらに狭くなっちゃいますけど……?」

M「ですが、初日に吊つてしまうよりはいいはずでスヨ？今日ならまだ確実にいるは

ずで〜ス。」

怜「そんな通りや。とりあえず明日からの時間も不安やし、今日のうちにいつとこか。霊能は誰や？」

巴「私です。」

☆「私だぞ☆」

30「・・・はやりちゃんか？」

初「つていうか、巴ちゃんまたなのですか？」

巴「仕方がないでしょ？また霊能に当たっちゃったんだから。」

☆「霊能は私だよ？狩宿さんは人外確定だよ☆」

春「・・・どっちかが騙り・・・」

絹「そうやな。まあさすがにこの状態じゃ分からんけども・・・？」

ふ：さあ、残り1分を切ったぞ〜！

30「うわ・・・もうなの？」

怜「・・・ほんなら、この状態でのグレランやな。狩人さんと猫又さんは、吊られんようにお願いするわ。」

小「ええと、対象は私と・・・？」

竜「うちもやな。」

M「私もでスネ。」

初「私もなのですよ。」

春「・・・私も・・・」

絹「うちもやで？」

董「後は私と・・・」

霞「私ってことね。8人の中から選ぶってことでいいかしら？」

怜「ああ、すまんけどその中からで頼むわ。」

ふ：それでは時間でつす！

今日の投票を決めちゃってください！

### ○投票結果

照(0) ↓ 霞

董(2) ↓ 春

堯深(0) ↓ 初美

誠子(0) ↓ メグ

淡	(0)	↓	小蒔	巴	(0)	↓	メグ	初美	(4)	↓	春	霞	(2)	↓	竜華
小蒔	(2)	↓	董	春	(4)	↓	絹恵	健夜	(0)	↓	初美	はやり	(0)	↓	霞
咏	(0)	↓	初美	良子	(0)	↓	絹恵	靖子	(0)	↓	小蒔	怜	(0)	↓	メグ
竜華	(2)	↓	初美	洋榎	(0)	↓	春	絹恵	(2)	↓	春	智葉	(0)	↓	董
メグ	(3)	↓	竜華												

再投票になります。

もう一度、投票しなおして下さい。

照	(0)	↓	霞	董	(2)	↓	春	堯深	(0)	↓	初美	誠子	(0)	↓	メグ
淡	(0)	↓	小蒔	巴	(0)	↓	メグ	初美	(5)	↓	春	霞	(2)	↓	竜華
小蒔	(2)	↓	董	春	(4)	↓	初美	健夜	(0)	↓	初美	はやり	(0)	↓	霞
咏	(0)	↓	初美	良子	(0)	↓	絹恵	靖子	(0)	↓	小蒔	怜	(0)	↓	メグ
竜華	(2)	↓	初美	洋榎	(0)	↓	春	絹恵	(1)	↓	春	智葉	(0)	↓	董
メグ	(3)	↓	竜華												

投票の結果、薄墨初美さんは処刑されました。

初「わ、私が吊られるんですか?!?みんな後悔するですよ・・・!?!?」

亦野誠子さんの無残な死体が発見されました。

誠「……嘘でしょ……!?!」

○3日目（昼） 犠牲 恒子・誠子・洋榎

処刑 初美

生存 照・董・堯深・淡・巴・霞・小蒔・春・健夜・はやり

咏・良子・靖子・怜・竜華・絹恵・智葉・メグ

愛宕洋榎さんの無残な死体が発見されました。

ふ：みなさんおはようございま〜す！

昨日の犠牲者は、何と愛宕洋榎さんでした〜！

これは、狙われたのは誰だったのか〜!?!

そして、今日の時間を決める人は……

清水谷竜華さんです！

竜「う、うち!？」

怜「・・・竜華、頼むで？」

竜「う、うん！任しといてや！・・・とりや！」

ふ：・・・出ました！

本日の会話時間は、4分です！

それでは皆さん、4分間で話し合ってください！

スタート！

怜「・・・竜華にしては、まあまあええ結果やないんか？」

竜「怜い！うち頑張ったでく!？」

辻「・・・何をだ？」

M「ダイスをふるのをじゃないんでスカ？」

怜「・・・まあとにかく、おはようさんや。早速やけど、薄墨さんは猫又やったと思  
うんやけどどうや？」

董「間違いないだろうな。現状、それぐらいしか可能性が見当たらん。」

絹「今日お姉ちゃん犠牲になったんは、やっぱり辻垣内さんが狙われたからやろう  
か・・・？」

辻「おそらくな。欠けが無いと分かっている以上、確定の○は1つでも多く消したい  
はずだ。」

☆「・・・むしろ問題になるのは、誠子ちゃんだと思っぞ？」

戒「そうですね。彼女が人外なら良いのですが・・・」

春「・・・真なら最悪・・・私が戦犯・・・」

戒「・・・まあ落ち込まないでください。あの状態では仕方ありませんよ・・・？」

春「・・・ん・・・」

怜「とりあえず、霊能の結果や。まあ分かりきつとることやけども・・・？」

巴「初美さん、○ですよ。」

☆「当然、○だったぞ☆」



霞「そうなるわよね・・・」

小「初美ちゃん・・・!」

怜「・・・しゃあない。占いの結果を聞かせてや?・・・せくの・・・!」

堯「・・・滝見さん、○でした。」

靖「石戸さん、○だったな。」

照「・・・堯、○だった。」

30「神代さん、○だったよ。」

竜「・・・また全員○なん・・・?」

咏「・・・キツイねえ。あんまりグレランばつかするわけにもいかないしねえ・・・?」

堯「・・・占い理由は、昨日の投票です。ただ外してしまったので、申し訳ないとか・・・」

靖「私は石戸さんだ。昨日は寡黙気味だったが、それでいてあまり票を集めていなかったからな。ステルス注意という意味で、念のため占ってみた。」

照「・・・私も同じ。堯、あまり喋ってないのに疑われてなかったから・・・」

30「占いの理由は同じだね。真似してるわけじゃないけど、やっぱり寡黙気味な

子って怖いしね・・・?」

辻「・・・さて、どうするかだな。」

戒「昨日、初美さんが亦野さんを道連れにしまいましたから、吊り回数が1回減っていますしね・・・。」

春「・・・残り8回・・・」

絹「これで亦野さんが真やつたりしたら、蝙蝠含めて人外8匹やで・・・!?」

M「外せなくなってしまうしタネ・・・!?」

竜「怜・・・どないするん?」

怜「・・・」

怜「・・・しゃあない。占い、ロラしていこか。」

照「え・・・!?」

靖「・・・仕方ない、か。」

堯「・・・」

30「やつぱり、そうなっちゃうよね・・・?」

巴「仕方ないのは分かるんですが、さすがにちよつと・・・」

☆「むう……もう少し待ってもいい気がするんだぞ？」

怜「しゃあないやないですか？真偽確かめとる余裕が無くなってもうたんですから？」

☆「……残念だぞ☆」

董「ふむ。……ちなみに、誰から投票していけばいいんだ？」

絹「そうですね。この場合、誰から吊つていけばええんやろ……？」

怜「投票先は、とりあえずは占いなら誰でもええ。怪しい思う奴に投票してや。占いも、対抗占いを許可するで？」

咏「ん？それやると人狼に狙われるんじゃ……ああ、そういうことかい。」

辻「……最終的に、全て吊つてしまえば問題はないというわけか。」

照「……狐を呪殺したり、人狼を見つけても？」

怜「さすがに人狼を見つけたら考えるで？けど、ロラは絶対や。ロラ終わった後に考えさせてもらおうわ。」

戒「ふむ。……まさか3日目で、勝負をかけることになるとは……」

靖「……残念だが仕方ないさ。なら、せめて狐でも呪殺して、少しでも村有利にしておこう……」

30「む……真は私なんだよ？靖子ちゃんこそ、実は狐なんじゃないの？」

堯「・・・私からすれば、みなさん人外に見えるんですが・・・？」

巴「そうだよね。私からしても、瑞原プロは人外にしか見えないし・・・！」

☆「・・・それは私もだぞ★」

董「・・・なあ。今さらなんだが、COしてもいいか？」

竜「へ？COって何のや・・・？」

怜「・・・何のCOするんや？」

董「CO不審者だ。とりあえず、照は騙りだ。」

照「・・・董・・・!？」

淡「マジで!?不審者の正体って董だったの!？」

董「・・・その言い方だとどうにもあれなんだが・・・私に○をつけた、照は間違いなく騙りだ。本当はもう少し様子を見ようかと思っていたが、ロラが決まった現状、騙りが分かっているのに黙っているというのも悪い気がしてな。」

照「・・・違う。董は・・・きつと、背徳者か、蝙蝠・・・！」

怜「・・・それは無いやろうな。弘世さんが蝙蝠なら黙つとくやろうし、背徳者潜伏なら、COしてる内訳がおかしくなるで・・・？」

竜「そ、そうやな！7人COで2人が真やとしたら、5人が人外やから・・・」

小「・・・蝙蝠とサイコが騙っているとして、あとは狼・狼・狐、もしくは狼・狐・狐でしようか・・・？」

霞「もしかすると、人狼3匹かもしれないけど・・・さすがに、それは考えづらいわね・・・！」

戒「まして、蝙蝠が潜伏していたりしたら余計にですね・・・」

ふ：さあ、残り1分！

今日の結果をまとめちゃおう〜！

怜「・・・なら、とりあえず今日はチャンピオンや。ロラは明日からやっていくで？」

照「・・・董、嫌い・・・」

董「仕方ないだろ？分かってしまったからには、さすがに言っておかないと・・・」

淡「けど、これで董も大ピンチだね！人狼に狙われるんじゃない？」

董「・・・まあ、可能性は高いだろうな。」

☆「・・・何にせよ、占いもギリギリまでは頼むよ？最終的に村勝利になれば問題は  
ないんだぞ☆」

辻「そうだな。本当に狐でも呪殺してくればありがたいんだが・・・」

ふ：そこまでだ〜！

それでは、今日の投票を始めちゃおう〜！

○投票結果

照(17)	↓	董	董(1)	↓	照	堯深(0)	↓	照	淡(0)	↓	照
巴(0)	↓	照	霞(0)	↓	照	小蒔(0)	↓	照	春(0)	↓	照
健夜(0)	↓	照	はやり(0)	↓	照	咏(0)	↓	照	良子(0)	↓	照
靖子(0)	↓	照	怜(0)	↓	照	竜華(0)	↓	照	絹恵(0)	↓	照
智葉(0)	↓	照	メグ(0)	↓	照						

投票の結果、宮永照は処刑されました。

照「・・・また活躍できなかつた・・・董の馬鹿・・・」

4日目続く・・・

白糸台・永水・プロ組+β ②

○4日目(昼) 犠牲 恒子・誠子・洋榎

処刑 初美・照

生存 董・堯深・淡・巴・霞・小蒔・春・健夜・はやり・咏

良子・靖子・怜・竜華・絹恵・智葉・メグ

平和な朝を迎えました。

ふ：みなさん、おはようございます！

今日は何と平和な朝を迎えました！

これは狩人GJなのか、それとも狐囃みなのか？！

そして、今日の時間を決めるのはく・・・

瑞原はやりプロです！

☆「出番がやってきたぞ☆」

30「頼むから、少しでも長い時間をお願いね？」

☆「任せるんだぞ☆・・・とりや！」

ふ・・・出ました！

今日の会話時間は・・・3分です！

それではみなさん、3分間で話し合いを始めてください！

4日目、スタートだ〜！

☆「・・・中途半端だったぞ★」

怜「まあ悪くはないやろ。それよりもさっさといくで？今日の平和についても話し合いたいところやけど、まずはチャンピオンの結果や。せ〜の・・・！」

巴「宮永さん、○です。」

☆「照ちゃん、○だったぞ☆」



絹「2人とも〇つちゆうことは、確実に人狼ではないつちゆうことですね……」  
竜「そうやな。まだこん中に、確実に3匹も残ってるで……！」  
怜「次、占いや。せくの……！」

30「良子ちゃん、●だったよ。」

靖「三尋木プロ、●だ。」

戒「む……？」

咏「ほほう……？」

M「●でスカ！それも、初日に対抗が占っていた相手ですね！」

辻「……待て。おい渋谷？お前の占い結果はどうしたんだ？」

霞「そうね。あなたのも聞かせてほしいんだけど……？」

堯「……」

堯「……CO蝙蝠です。ロラされたくないのでCOします……。」

小「し、渋谷さんが．．．!？」

淡「うげっ!?! たかみくって蝙蝠だったの!?! それじゃく私の○が消えちゃうじゃん!?!」

怜「．．．なるほどな。確かに蝙蝠やつたら、ここでＣＯせんと吊られ損や。けど．．．」

董「蝙蝠の対抗はないのか? いないのなら、とりあえず渋谷はこのまま置いておくことになるが．．．?」

30 「．．．ＣＯ蝙蝠だよ。私の役職騙りは、さすがにやめてくれないかな．．．?」

堯「．．．!」

怜「．．．残念やけど、ロラは続行やな。蝙蝠も含めてロラするで?」

戒「．．．なるほど。小鍛冶プロも騙りですか。つまり、真は藤田プロということになりますね．．．?」

咏「馬鹿言ううんじゃねくよ。私目線、真は亦野の嬢ちゃんだ。弘世さんが嘘ついてなきやつて前提だがねえ?」

董「私は間違いなく不審者です．．．自分で言うのも情けない役職ですが。」

春「．．．あまり信用したくない役職．．．」

淡「なにせ不審者だしねっ!」

董「やかましい。」

堯「・・・蝙蝠は私です。私を吊っても意味ないですよ・・・？」

☆「残念だけど、対抗が出ちゃったから逃がさないぞ☆」

靖「大人しく私らと吊られるんだな。」

巴「そうです。一人だけ生き残ろうたって、そうはいきませんよ？」

30「・・・っていうか、素直にCOしたんだから私は除外してくれてもいいんじゃないかな・・・？」

☆「駄目に決まってるぞ★」

M「実際、小鍛治プロが蝙蝠かどうかも分かりませんシネ？」

辻「ああ。霊能がそろって結果でも出せば、まだ分かるんだがな。」

竜「んく・・・なら、今日は小鍛治プロか渋谷さんにせえへん？もしどつちかが人狼

で、そろって●出れば残りは蝙蝠確定やろ？」

怜「残念やけどそれは出来んで？亦野さんが蝙蝠やった可能性もあるんやで？」

小「そ、そういうええばそうですね・・・！」

戒「確かに、その可能性もありますね・・・」

咏「・・・私からすると、そりゃないように思えんだけどねく・・・？」

霞「なら、今日はこのままロラでいいのかしら？」

怜「そうや。このままロラ続行やな。誰でもええから投票してや。」  
絹「分かりましたわ。・・・そんで、今日の平和つてどうなつとる思います?」

ふ：つと、ここで残り1分だ〜!

話すべきことはまだ残っているのか〜!?

怜「・・・投票先はそのままや。そんで今日の平和やけど、私は狩人GJやと思う。」  
辻「私もそう思う。ロラが決まっているこの状況で、わざわざグレーを噛みに行くとは思えん。」

春「・・・つまり、園城寺さんか辻垣内さんが狙われた・・・?」

淡「もしくは、董が狙われたのかもしれないよっ!」

董「・・・そうかもしれんな。もしそうなら、狩人には礼を言わんとな。」

霞「今日までの犠牲者は、みんな何かしらの役職もち。つまりこの中に、まだ確実に狩人が残っているのよね・・・?」

竜「そうやな。もしグレーが噛まれたら、そりゃあ狩人狙つとるっちゅう合図やで!」  
戒「だとすれば、何とかロラ終了までは生き残つてほしいですね・・・」

咏「全くだねえ。これで共有と貴族まで消えちまったら、人外のやりたい放題になつ

ちまうよ・・・」

ふ：話し合いはそこまでだ〜！

それでは、今日の投票を始めてくださ〜い！

○投票結果

董(0)	↓	堯深	堯深(6)	↓	健夜	淡(0)	↓	健夜	巴(0)	↓	健夜
霞(0)	↓	堯深	小蒔(0)	↓	靖子	春(0)	↓	靖子	健夜(4)	↓	堯深
はやり(0)	↓	靖子	咏(0)	↓	靖子	良子(0)	↓	堯深	靖子(7)	↓	堯深
怜(0)	↓	堯深	竜華(0)	↓	靖子	絹恵(0)	↓	靖子	智葉(0)	↓	靖子
メグ(0)	↓	健夜									

投票の結果、藤田靖子さんは処刑されました。

靖「やれやれ。まさかここでリタイアとはな・・・。」

○5日目(昼) 犠牲 恒子・誠子・洋榎・竜華

処刑 初美・照・靖子

生存 董・堯深・淡・巴・霞・小蒔・春・健夜・はやり・咏

良子・怜・絹恵・智葉・メグ

清水谷竜華さんの無残な死体が発見されました。

ふ：みなさんおっはようございませう！

昨日の犠牲者は、清水谷竜華さんでした！

これには、一体どんな意味が含まれているのか！？

そして、今日の時間を決めるのはく……

メガン・ダヴァンさんです！

M 「イエス。私の出番でスネ！」

辻 「頼むぞ、メグ。」

M 「任せてください！トリアヤ！……あ。」

ふ……決まりました！

今日の会話時間は……30秒です！

それでは、みなさんスピーディに話し合ってくださいね！

5日目、スタートします！

M「……智葉？少し落ち着くべきでスヨ……？」

辻「……お前は……!？」

怜「……話したいことも多いけど、時間がないから一気にいくで。霊能の結果はどうや?。」

巴「藤田プロ、●です。ようやく1匹発見ですね。」

☆「違うんだぞ？靖子ちゃんは○、まだ分からないんだぞ?。」

霞「ふむ。初めて結果が分かれたみたいだけど……?。」

戒「……どうなんでしょうね。さすがに時間もありませんし……?。」

咏「大体、30秒って短すぎだったの！なに話し合えってくんだよ!？」

淡「全くだよっ!。」

怜「占いの結果は聞かんで？残る2人は確実に人外やかな。今日の投票もロラ続行や。占いのどっちかに投票してほしいわ。」

30「まあ、そうなるよね……。」

堯「……私、蝙蝠……。」

ふ：さあ、残り10秒だ〜!?

30「だから、蝙蝠は私……って、早すぎだよ……!?」

董「明日は、もう少しゆっくり考えたいものだな……。」

絹「全くやで……!」

小「えつと、えつと、投票するのは……!?」

春「……姫様、落ち着いて……?」

堯「……私、蝙蝠だよ……?」

ふ：時間です!

それでは今日の投票を始めちゃってください!



## ○投票結果

董 (0)	↓健夜	堯深 (7)	↓健夜	淡 (0)	↓健夜	巴 (0)	↓健夜
霞 (0)	↓堯深	小蒔 (0)	↓堯深	春 (0)	↓健夜	健夜 (8)	↓堯深
はやり (0)	↓健夜	咏 (0)	↓堯深	良子 (0)	↓健夜	怜 (0)	↓健夜
絹恵 (0)	↓堯深	智葉 (0)	↓堯深	メグ (0)	↓堯深		

投票の結果、小鍛治健夜さんが処刑されました。

30「うう・・・これなら、COなんてするんじゃないよなかつたよお・・・」

## ○6日目(昼) 犠牲 恒子・誠子・洋榎・竜華

処刑 初美・照・靖子・健夜

生存 董・堯深・淡・巴・霞・小蒔・春・はやり・咏

良子・怜・絹恵・智葉・メグ

平和な朝を迎えました。

ふ：おっはようございま〜す！

何と、またまたの平和な朝だ〜！

さあ、今日はゆっくり話せるのか〜!?

そして今日の時間を決めるのは〜・・・

大星淡さんでつす！

淡「任せといてよっ！」

董「・・・いや、本当に頼むぞ？」

淡「おっ任せ〜！とりや〜！」

ふ：・・・で、出ました！

今日の会話時間は・・・5分です！

ではみなさん、ゆっくりと話し合ってください！

それでは6日目、スタートするぞ〜!?

淡「これが、人狼100年生の実力だよっ！」

小「さ、さすがです！」

怜「いや、ほんまにようやってくれたわ。これで多少は落ち着けるってもんやで……」

辻「全くだ。どこぞの馬鹿とは大違いだな。」

M「酷いでスヨ〜？」

董「だが、実際5分は助かるな。出来れば昨日の分も含めて話し合いたいところだが……？」

怜「そんな通りや。で、霊能の結果はどうやったんや？一応、せ〜の。」

巴「小鍛治プロ、●です！これで2匹目、残り1匹です！」

☆「健夜ちゃん●。人狼だったぞ？」

小「……2人とも●ってことは、小鍛治プロは人狼で間違いないってことでしょうか……？」

春「……まず、間違いない……」

堯「……私、蝙蝠……！」

董「……どうするんだ？確かに小鍛治プロが蝙蝠ではないということは明らかになっ

たが、だからといって渋谷を信じてもいいのか・・・？」

怜「・・・吊りは残り6回やしな。猫又もおらんし、いきなり減るつちゆうことはないやろうけど・・・？」

辻「・・・サイコが残っている場合、狩人が消える可能性もある。狩人は、出来れば私か園城寺を護衛してほしいものだ。」

淡「むっ！自分だけ助かろうつてずるい！」

辻「そういう役職なんだ。」

戒「・・・どうしましょうか。安全のためにも渋谷さんを吊るか、もしくは怪しいところを吊っていくか・・・？」

咏「一応言うけど、私目線は亦野の嬢ちゃんが真だぜ？なら、そろそろ囲われてる場所からいったほうがいいんじゃないの？」

絹「確かに、それもええんですけど・・・？」

怜「・・・亦野さんが真の場合、渋谷さんはおそらく蝙蝠で正解やな。そうすると、チャンピオンと小鍛冶プロ、それに藤田プロが○つけたところが怪しいんやけど・・・？」

戒「待つてください。私目線、藤田プロが真の可能性だつてあるんです。なら●をつけられた三尋木プロは吊り対象のではありませんよ？」

M「確かに、その可能性も残ってますネ。」

董「真は一体どつちなのか、ということだな。それによって答えも変わるんだが……」

小「えっと……宮永さんが、実は真だったっていう可能性はないんでしょうか？」

巴「え？でも宮永さんは弘世さんに……」

霞「……ふむ。小蒔ちゃん、さすがにそれはないと思うわよ……？」

董「……私は本当に不審者だぞ？まあ、証明する手段をもっていないのだが……」

辻「……確かに、多少怪しいところではあるがな。○をつけられていながら、わざわざ●アピールをしてきたんだ。」

淡「その割りに、まだ囁まれていないしねっ!？」

☆「でも、不審者の対抗は出なかつたよ？」

霞「狩人のCOと同じで、出るに出来なかつたっていう可能性はあるかしら……？」

巴「もしかすると、本当に人狼か狐の可能性も……？」

堯「……もしかして、今日の平和って弘世先輩を囁んだんじゃ……？」

董「……私が狐で照が真占いなら、私は呪殺されている。それに私が人狼なら、どちらにしろ○をつけた照は破綻だ。何度も言うが、私は間違いなく不審者だよ。」

春「……サイコの可能性は……？」

M「……その場合、なぜ人外同士の宮永さんを騙りと認定したのかが分かりませぬヨ。庇うわけじゃないでスガ、弘世さんは本物の不審者なのデハ？」

怜「……うちもそう思うんやけどな。今日の平和やけど、おそらく本物の狐噛みやと思うんやけど……?」

戒「だとすれば、本物の人狼にはCOしてほしいですね。人狼だって、狐は残しておけないでしょうし?」

絹「おるん?人狼CO?」

辻「……まあ、出ないよな。」

巴「ですがこれは、残り1匹になっていくからだと思います。いくら狐の所在が分かっても、残りが1匹ではまだ言えないはずですよ?」

☆「違うぞ☆少なくとも、吊った人狼はまだ1匹のはずだぞ?それこそ亦野さんが人狼じゃない限り、間違いないぞ☆」

春「……なら、今日は誰を吊れば……?」

怜「……候補としては、蝙蝠の可能性のある渋谷さんか、唯一●をつけられとる三尋木プロ。それと……」

小「騙りの可能性がある、弘世さんですか……?」

堯「……私、間違いなく蝙蝠……!」

咏「私だって、間違いなく村人だぜ?」

董「私も同じくだ。」

絹「・・・これ、本当にどうすればええん・・・!?」

霞「困ったわね・・・いつそ、この3人とも吊っちゃうっていうのはどうかしら・・・？」

辻「それで、もしそのなかに人狼か狐がいなかったらどうする？そうすると、残り3回で全部吊らなくちゃいけないくなるぞ？」

怜「・・・まあ、まず無理やろうな。」

☆「・・・なら、咏ちゃんを吊つてみたらどうかな？もしこれで咏ちゃんが○なら、真は亦野さんつてことになるんだよね？」

堯「・・・その場合、私も蝙蝠確定・・・！」

咏「まあそりやそうなんだけどよおく・・・？」

辻「・・・ただ、一応は弘世の確認もしたいところだな。宮永が騙りの可能性はじゅうぶんにあるが、それでも弘世が人狼ではないという証拠がない。」

M「まあ、確かにそうなんでスガ・・・？」

董「ふう・・・まあ、余裕がある今のうちに確かめられたほうがいいのかもしれんな。」

咏「そうだね〜い。・・・仕方ね〜し、今日は私を吊つていいぜ？ただし、ちゃんと村勝ちにしてくれよな〜？」

怜「……ありがたいですわ。ほんなら、今日は三尋木プロに投票や。これで○やったら、真は赤野さんやったつちゆうことやな。」

戒「もつとも●だったら、藤田プロにも真目が出ますがね。」

董「なら、明日は私でも構わんぞ？これで本当に○が出れば、少なくとも私が人狼ではないという証拠にはなるだろ？」

淡「けど、董が狐の可能性もあるよね？」

怜「……弘世さんが狐なら、ここまであつさりと吊られてもいい言うとは思えんやけどな……？」

淡「む……まあ、確かにそうかも……」

ふ：さあ残り1分を切った〜！

今日はゆつくりと喋れたのか〜!?

春「……じゃあ、今日は三尋木プロで決定……？」

怜「決定や。ほな三尋木プロ、すんませんけど……」

咏「あいよ。それじゃ〜後は頑張ってくれよな〜？」

堯「……これで、私も助かる……」



絹「まあそんなんやろうけど・・・」

霞「・・・何と言うか、余裕があるなら吊ってしまいたいところね・・・?」

小「人狼さんに嘸んでもらうっていうのはどうでしょうか?」

堯「・・・やめて・・・!?」

怜「少なくとも、狩人がおらんちゅうのが分かるまでは難しいやろうな。人狼にとつても、蝙蝠は利用価値があるはずやし・・・」

☆「・・・憎たらしいぞ★」

巴「全くですね・・・!」

堯「・・・エへ・・・」

ふ：それではそこまで!

今日の投票、始めちやおう!

### ○投票結果

董(0) ↓ 咏

堯深(0) ↓ 咏

淡(0) ↓ 咏

巴(0) ↓ 咏

霞(0) ↓ 咏

小蒔(0) ↓ 咏

春(0) ↓ 咏

はやり(0) ↓ 咏

咏(13) ↓ 良子

良子(1) ↓ 咏

怜(0) ↓ 咏

絹恵(0) ↓ 咏

智葉（0）↓咏　メグ（0）↓咏

投票の結果、三尋木咏さんが処刑されました。

咏「・・・ま、さつきよりは楽しめたからマシかね〜い。」

7日目に続く・・・

白糸台・永水・プロ組+β ③

○7日目(昼) 犠牲 恒子・誠子・洋榎・竜華・メグ

処刑 初美・照・靖子・健夜・咏

生存 董・堯深・淡・巴・霞・小蒔・春・はやり・良子・怜

絹恵・智葉

メガン・ダヴァンさんの無残な死体が発見されました。

ふ：おつはようございませす！

昨日の犠牲者は、メガン・ダヴァンさんでした！

やはりこれは、狩人を探しているということなのでしょうか？！

そして、今日の時間を決めるのは・・・

石戸霞さんです！

霞「あら、私なのね？」

巴「なるべく長めにお願ひしますね？」

霞「そう言われても、さすがにこればかりは・・・それっ。」

ふ：・・・決まりました！

今日の会話時間は・・・3分です！

それでは3分間で、みなさん話し合ってください！

じゃあ7日目・・・スタートだ！

怜「おはようさん。さっそく始めるけど、三尋木プロの色は何色やったんや？」

巴「○ですね。これで、藤田プロは騙りということが判明しました。」

☆「真似するわけじゃないけど、咏ちゃんは○だったんだぞ☆真占いは、やっぱり亦野さんみたいだぞ☆」

小「ということとは、渋谷さんも蝙蝠確定ということでしょうか・・・？」

辻「おそらくそうだろうな。憎たらしい限りだが・・・」

堯「……パタパタ……」

戒「……藤田プロも騙りですか。ならここからは、やはり騙りの面子に○をつけられたところから?」

春「……藤田プロに○をもらっているのは、良子と霞さん……」

絹「ほんで、小鍛冶プロに○もらったのは三尋木プロと小蒔さんやつたな。せやけど三尋木プロはもうおらんから、実質小蒔ちゃん1人うちゆうことや。」

堯「……一応、堯深に占われた奴もここにいるが……?」

淡「た、たかみくは蝙蝠なんですよ!?なら私は囲いの対象じゃないよっ!?」

霞「そうね。春ちゃんも渋谷さんに○もらってるけど、この2人に関しては囲いという意味はなさそうね……。」

絹「せやけど、放置するのも危険な場所やと思いますよ?」

淡「むむっ!私を怪しむだなんて、さては眼鏡が人狼だよっ!」

絹「せやから眼鏡の何が悪いねん!」

淡「うひいっ!」

怜「絹ちゃん、ここは東京やから落ち着きいや……?」

辻「……私も眼鏡をかけているが、なにかあったのか……?」

怜「ちよい前にな……」

☆「……とにかく、もう占い師はいないわけだし、ある程度の指定は必要だと思うぞ?。」

巴「そうですね。といっても、人狼は残り1匹になっていますし、狐の可能性のある瑞原プロはそろそろ吊りたいところなんですけど……?。」

☆「……私は真だぞ★」

辻「どうする? メグがやられ、吊りは残り5回。そろそろ狐ぐらいは消しておきたいところだが……?。」

怜「つちゆうても、さすがに見当がつかんしなあ……?。」

霞「……占い師の中に、おそらく背徳者がいたはずよね? なら、狐も人狼同様囲われてるんじゃないかしら?。」

絹「その可能性はありそうですね。せやけど、ほんなら誰から吊ってきます?。」

堯「……対象は、戒能プロと、神代さんと、石戸さんだよ……?。」

春「……弘世さんは、どうする……?。」

辻「……弘世。お前、まさかLWとかじやないだろうな……?。」

董「違うぞ。吊つてもいいが、無駄吊りにしかならんぞ?。」

怜「……なら、その3人の誰かに投票やな。とりあえず色見て判断しよか。」

戒「……反対ですね。COLW。まだ狐は言いませんよ……?」

淡「うえ!」

辻「……ようやく出てきたか。さすがに吊られると分かって、表に出てきたな……?」

戒「もう今さらですが、私を吊ればそこで終了です。出来ればもう少し生き残りたいかったです……」

絹「……どないします?これ本当なら、吊るわけにはいきませんが……?」

春「……良子?狐、誰……?」

戒「あいにくだけど、まだ言う気はないよ?せめてもう少し粘りたいからね?」

董「厄介な……負けが決まったのなら、素直に投了したらいいものを……」

淡「むう……じゃあここは、とりあえずかいのくプロは置いておくの?」

小「……いえ、置いておく必要はありませんっ!」

怜「……小蒔ちゃん……?」

小「……CO!人狼です!良子さんは……狐です!!」

霞「え……?」

巴「ひ、姫様まで……!?」

戒「……」

辻「……待て。おい神代、お前今人狼だと言ったが、ラストとは言わなかったな……!?!」

小「……はい。私の仲間は、まだ残っています……!」

巴「……姫様が狐ですか。人狼は残り1匹ですし。」

☆「私目線、神代さんが人狼で、良子ちゃんが狐だぞ☆」

ふ：さあ、残り1分だ〜!

戒「……騙されないで下さいね。姫様は、人狼でも狐でもありません。」

春「……え……?」

辻「……確かに、戒能プロが人狼なら、神代を狐とは認めたくないだろうな。」

怜「せやけど、この2人が人外やつちゆうことは確かや。今日明日でこの2人を吊るで?」

霞「……まさか、小蒔ちゃんが人狼だったとはね……?」



絹「正直、一番疑つたらん場所やったで……!?」

巴「姫様は狐です。間違えないで下さいね……?」

☆「神代さんが、人狼で間違いないと思うぞ☆」

小「今日は、私を吊つても構いません!ですが、明日は必ず良子さんを吊つて下さい!」

ふ：そこまでだ〜!

では、今日の投票を初めよう〜!

### ○投票結果

董(0)	↓良子	堯深(0)	↓良子	淡(0)	↓小蒔	巴(0)	↓小蒔
霞(0)	↓良子	小蒔(5)	↓良子	春(0)	↓小蒔	はやり(0)	↓良子
良子(7)	↓小蒔	怜(0)	↓良子	絹恵(0)	↓小蒔	智葉(0)	↓良子

投票の結果、戒能良子さんは処刑されました。

戒「オウ……これは、やってしまいましたね……」

○8日目(昼) 犠牲 恒子・誠子・洋榎・竜華・メグ・智葉

処刑 初美・照・靖子・健夜・咏・良子

生存 董・堯深・淡・巴・霞・小蒔・春・はやり・怜・絹恵

辻垣内智葉さんの無残な死体が発見されました。

ふ：みなさんおはようございませう！

昨日の犠牲者は、なんと辻垣内智葉さんでしたら！?

これはもしや、あの役職が残っていないのではないのか！?

そして、今日の時間を決めるのは……

園城寺怜さんです！

怜「お、うちなんやな？」

小「頑張ってくださいね！」

怜「任せや。……って、小蒔ちゃんは人狼やろ？……まあええわ。ほれつ。」

ふ……出ました!

今日の会話時間は……3分です!

3分で話し合ってください!

それじゃあ8日目、スタートです!

怜「おはようさんや。めっちゃ普通のを出せたみたいやけど……」

絹「……辻垣内さん、やられてしまいましたで……!?!」

霞「……もしかしたら、狩人がもういないってことかもしれないわね……」

春「……悲嘆はしないほうがいい。もしかしたら、共有を守ってるのかもしれない……」

怜「……そうやな。とにかく、霊能の結果を聞かせてほしいわ。まあ何となく分かるんやけど……?」

☆「良子ちゃん○だったぞ☆、やつぱり、良子ちゃんが狐だね☆」

巴「……良子さん○です。ですが、私目線では良子さんが狐だとはどうしても思えません。おそらくですが、人狼を庇おうとした人外なのではないかと思えます。」

淡「むう……でもこれ、さすがに信じられないよね……?」

董「ちなみに、狩宿目線ではどういう内訳になっているんだ？正直、私も君が人外なのではと考えているんだが・・・？」

巴「・・・確定してるのは、人狼が小鍛冶プロと藤田プロです。あとは、赤野さんが真占いですね。それ以外の人ですが、姫様が狐で、宮永さんが蝙蝠、渋谷さんが背徳者、良子さんはサイコだったと思います。つまり、瑞原プロがLWか、もう一匹の狐です。」

堯「・・・私、蝙蝠なんだけど・・・？」

怜「・・・ちなみに、今日の吊りは小蒔ちゃんて決定や。それを聞いても、渋谷さんは何も言うことはないんか・・・？」

堯「・・・ないです。私、狐陣営じゃないので・・・」

巴「そ、そう言つて誤魔化そうとしてるだけです！」

霞「ふむ。・・・もし巴ちゃんの言うことが間違つていないというなら、小蒔ちゃんを吊つた時点で渋谷さんも後追いをする可能性があるってことよね？」

絹「それでも後追いせんかった時は、瑞原プロですか・・・？」

☆「私は真だけど・・・今日神代さんを吊るんなら、それで人狼はおそらく一匹になるし、明日なら吊られても構わないよ？ただ無駄吊りには違いなないけどね☆」

董「ふむ。・・・吊りは残り4回。怪しいのは神代と、霊能の2人。しかしこれで終わらなかつたときは、ラストで人狼を吊らなくちゃいけないんだよね・・・それを考

えると、もう私を吊つてもいいとは言えなくなるぞ？」

淡「あつ、董が本性を現したよっ！董が人狼だねっ!？」

董「何でだ。負けるのが分かつて吊られるのを承諾できるか。」

春「……弘世さんも怪しい。けど、もし本当に不審者なら……」

小「えつと、えつと……弘世さんは人狼じゃないです！だから吊つちや駄目です！」

霞「小蒔ちゃん……？」

☆「……人狼にそう言われると、吊つてみたくなるぞ★」

董「……そういうミスリードです。頼みますから騙されなくてください。」

怜「……今日は小蒔ちゃんやな。で、明日の候補は霊能のお2人やけど、どうする

べきかな……？」

淡「むう……それは明日考えればいいよっ！」

董「明日、30秒を出したらどうするつもりだ？」

淡「それは、出した人の責任つてことで♪」

絹「いやいや、さすがにそれはあかんやろ……」

ふ：残り1分を切りました〜！

まだ迷つてるみたいだけど、大丈夫なのか〜!?

怜「……今日は小蒔ちゃんで決定や。それで明日なんやけど、靈能のロラやな。」

董「……強気だな。さいごの一回で人狼を当てようというのか？」

堯「……私は、多いほうに投票しまゝす……」

巴「……本当に、この人に投票したいんですけど……!?」

☆「……本当に、嘯まれてほしいぞ★」

絹「このまま残しておく、下手したらPPに使われますしね……?」

春「……厄介……!」

小「あの、渋谷さんは嘯んじや駄目です!渋谷さんには人狼の味方をしてもらいますので!」

霞「……本当に、頭にくる役職ね……!」

淡「むう……たかみくずっこい!」

堯「……パタパタ……♪」

ふ：そこまでだ〜!

では今日の投票、スタートだ〜!

## ○投票結果

董(1) ↓小蒔 堯深(0) ↓小蒔 淡(0) ↓小蒔 巴(0) ↓小蒔  
 霞(0) ↓小蒔 小蒔(9) ↓董 春(0) ↓小蒔 はやり(0) ↓小蒔  
 怜(0) ↓小蒔 絹恵(0) ↓小蒔  
 投票の結果、神代小蒔さんは処刑されました。

小「勝つのは私たちです！どうか、頑張ってください！」

○9日目(昼) 犠牲 恒子・誠子・洋榎・竜華・メグ・智葉

処刑 初美・照・靖子・健夜・咏・良子・小蒔

生存 董・堯深・淡・巴・霞・春・はやり・怜・絹恵

平和な朝を迎えました。

ふ：みなさん、おはようございます！

何と、今回3回目の平和です！

これは狩人GJか、もしくははまだ狐が残っているのか？！  
そして、今日の時間を決めるのは・・・

滝見春さんです！

春「・・・ん・・・！」

霞「お願いね？春ちゃん？」

春「・・・とう・・・！」

ふ「・・・で、出ました〜！」

今日の時間は・・・1分です！惜しい！

それでは、今日の話し合いを始めてください！

9日目、スタート〜！

春「・・・ごめん・・・」

怜「構へん。30秒よりはマシや。そんで、霊能の結果は？」



巴「姫様、やはり〇です。あとは瑞原プロですな！」

☆「神代さん●だぞ？これで残り1匹だぞ☆」

霞「ふむ。・・・ここは、霊能をロラでいいのかしら？」

怜「そうやな。ありがたいことに吊りが1回増えたんや。この2人吊って、残り2回で人狼見つけるぞ？」

淡「なるほど！なら、董も安心して吊れるわけだねっ!？」

董「いや、確かに余裕が出来たから構わんのだが・・・」

巴「とにかく、今日は瑞原プロです！ここで瑞原プロを吊れば、もしかしたらそこで終了かもしれません！」

☆「その台詞、そっくりそのまま返すぞ★」

怜「ちなみに、LWCOはないんやな？もし狐がおるんなら、さすがにしてほしいとこなんやけど・・・？」

巴「ありません！」

☆「ないぞ☆」

春「・・・なら、このまま投票・・・！」

ふ：さあ、残り10秒だ〜！

董「……狐がないのなら、狩人がまだいると考えてもいいかもしれないな。」

堯「……そうですね。勝利のために、頑張つて欲しいです……!」

淡「……たかみく、白々しい!」

絹「ほんまに、吊ることができんのか……!?!」

堯「……パクタパクタ……♪」

ふ：さあ、そこまでだ〜!

では、今日の投票の結果はどうなったのか〜!?!」

### ○投票結果

董(0) ↓ 巴 堯深(0) ↓ はやり 淡(0) ↓ 巴 巴(5) ↓ はやり

霞(0) ↓ 巴 春(0) ↓ 巴 はやり(4) ↓ 巴 怜(0) ↓ はやり

絹恵(0) ↓ はやり

投票の結果、狩宿巴さんが処刑されました。

巴「うつ、私からですか……でも、明日はちゃんと瑞原プロを吊ってくださいね!」

10  
目  
に  
続  
く  
・  
・  
・

# 白糸台・永水・プロ組十β ④

○10日目（昼） 犠牲 恒子・誠子・洋榎・竜華・メグ・智葉・春

処刑 初美・照・靖子・健夜・咏・良子・小蒔・巴

生存 董・堯深・淡・霞・はやり・怜・絹恵

滝見春さんの無残な死体が発見されました。

ふ：ついに10日目の朝がやってきました！

みなさん、おはようございませう！

昨日の犠牲者は滝見春さんでしたが、これは何か意味があるのか？  
では、さっそく今日の時間を決めてもらいましょう！

今日の時間を決めるのは・・・

愛宕絹恵さんです！

絹「が、頑張りますわ！」

怜「そんな気いはらんでええで〜?」

絹「はいな! とりや〜!」

ふ: . . . 決まりました!

今日の時間は . . . 3分です!

みなさん、3分間で話し合ってください!

それでは10日目、スタートだ〜!

怜「おはようさん。3分ありや十分やで。」

絹「すんまへん、中途半端な結果で . . .」

霞「いいのよ、絹恵ちゃん? それで昨日は、春ちゃんがやられたみただけど: . . .?」

董「 . . . 狩人だろうな。昨日平和が出たから、また狩人探しの犠牲になったと思うのだが . . .」

淡「間違いないねっ!」

☆「ちなみに、昨日の狩宿さんの結果は○だぞ☆」

堯「○ . . . では、今日は瑞原プロですか . . .?」

怜「まあその予定なんやけどな。狩宿さんと瑞原プロ。どっちが真霊能でも人狼は残り1匹のはずやし、念には念を入れたいわ。」

☆「私は真だけど、仕方ないね。今日私を吊って、残り2回で勝負を決めてほしいぞ☆」

絹「この場合、その吊り対象になるのはうちと・・・」

霞「私もね。」

淡「それで私と董だねっ！」

董「何でだ。まあ吊るといふのなら、今日か明日にしてくれよ？最終日は反対させてもらうからな？」

堯「・・・一体、誰を吊れば・・・!?」

☆「・・・ちなみに、渋谷さんは吊れないのかだぞ★」

怜「個人的には吊ってみたいんですけどね。せめてもう1〜2回、吊りの余裕があるなら吊ってまうんですが・・・」

絹「ほんまに、腹立たしい役職やで・・・！」

堯「・・・えへ。」

淡「むう・・・ちなみにだけどき？春のやつって狩人だったのかな？」

霞「どうかしらね？確かに、それらしい発言はしていた気もするけど・・・？」

董「どうする？現時点でいるかどうか、確認してみるのも手だとは思うが・・・」  
 絹「けど、それしたら人狼に狙われますよ!？」

☆「やるとしたら、まだ明日のほうがいいんじゃないのかな？明日COしてもらえば、迷う必要はないと思うぞ？」

淡「へ？どうして？」

怜「明日狩人がCOして、2人出たなら両方吊れるしな。けど今日やつても、結果は同じやし・・・」

董「今日狩人COするのが1人なら、そのまま様子を見ればいい。逆に出了たら、その2人で決定だ。」

怜「出なかつたら春ちゃんやつたつちゆうことやな。・・・よっしゃ！ほな勝負いこか？狩人COしてええぞ？」

淡「いるの？狩人？」

霞「COね。狩人は私よ。」

絹「石戸さんが狩人やったんですか・・・!？」

霞「護衛は、3日目の夜を抜かして全部園城寺さんの護衛に入ってるわ。サイコが怖

かったしね？」

堯「……ちなみに、3日目の夜に護衛したのは……？」

霞「弘世さんね。」

董「……ありがたいな。まさか、本当に護ってくれていたとは……！」

☆「……けど、ほかの2人は違うの？一応、石戸さんが騙りつていう可能性もあるぞ☆」

淡「残念だけど、私は役職無しだよっ！」

絹「わ、私もですわ。」

堯「……なら、石戸さんは狩人確定……？」

怜「とりあえず、やな。石戸さんが噛まれたら確定。このまま残ってたらもう一度考えよか。」

ふ：残り1分を切ったぞく!?

☆「……じゃあ、今日は私吊りだね？」

堯「……お疲れ様です……」

董「ならば明日明後日で、愛宕の妹さんか淡だな。」



淡「ふう……董も実は人狼なんじゃないの〜？」

絹「確かに、その可能性もあるんですけど……？」

怜「……考えるのは明日や。もう今日は時間があらへんしな。」

霞「おそらく、私は今日狙われると思うわ。悪いんだけど、あとはよろしく頼むわね？」

ふ：終了です！

それでは、今日の投票を始めましょう！

### ○投票結果

董(0) ↓はやり 堯深(1) ↓はやり 淡(0) ↓はやり 霞(0) ↓はや

り

はやり(6) ↓堯深 怜(0) ↓はやり 絹恵(0) ↓はやり

投票の結果、瑞原はやりさんが処刑されました。

☆「それじゃあ、後は頑張つてほしいんだぞ☆」

○11日目（昼）犠牲 恒子・誠子・洋榎・竜華・メグ・智葉・春・淡

処刑 初美・照・靖子・健夜・咏・良子・小蒔・巴・はやり

生存 堯・堯深・霞・怜・絹恵

大星淡さんの無残な死体が発見されました。

ふ：みなさんおはようございます！

昨日の犠牲者は、大星淡さんでした！

やる気に満ち溢れていた彼女だったが、今頃何を想っているのか？！

そして、今日の時間を決めるのは・・・

弘世堯さんです！

堯「がんばって下さい・・・」

堯「ああ、任せておけ・・・ていつ。」

ふ：・・・決まりました！

今日の時間は・・・30秒です！

みなさん、30秒で話し合ってください！

それでは11日目、スタートです！

董「・・・・・・・・す、すまん。」

怜「・・・・・・・・今日の投票、この状態やと絹ちゃんがLWで決定なんやけど・・・」

絹「そんなわけじゃないですわ!? っていうか、狩人噛まれてないやないか! おかしいやろ!?」

霞「・・・・・・・・ミスリードを誘おうとしてるのね? 悪いけど、私は間違いなく狩人なの。」

怜「・・・・・・・・どうするべきやろ。順当にいったら絹ちゃんしかありえへんのやけど、石

戸さんもさすがに怪しすぎるで・・・!?」

董「・・・私を信じてくれるというのなら、残り2回でその2人を吊ったらどうだ?」

霞「賛成ね。それなら確実に村勝ちになるでしょうし・・・」

絹「うちかて賛成ですわ! 石戸さん吊れば村勝ちや!」

ふ：さあ、残り10秒を切ったぞ〜!」

堯「・・・本当に早いですね・・・」

絹「ほ、ほんまですわ！投票先が決まつとるからええようなものを・・・!?」

董「何にせよ、どちらかに投票だな。・・・本当に私はいんだな？」

怜「構わへん。もうあんたは不審者やつて信じることにするわ。」

霞「そうね。そこまで吊つてる余裕もないしね？」

ふ：終了でうす！

ではでは！投票を始めちゃってください！

### ○投票結果

董(0) ↓ 絹恵 堯深(0) ↓ 霞 霞(3) ↓ 絹恵 怜(0) ↓ 霞

絹恵(2) ↓ 霞

投票の結果、石戸霞さんは処刑されました。

霞「仕方ないわね。でも、ここまで来たら負けはないわよね・・・？」

○12日目(昼) 犠牲 恒子・誠子・洋榎・竜華・メグ・智葉・春・霞・堯深

処刑 初美・照・靖子・健夜・咏・良子・小蒔・巴・はやり・淡

生存 董・怜・絹恵

渋谷堯深さんの無残な死体が発見されました。

ふ：おつはようございます！

さあ、ついに運命の最終日だ！

それにしても、昨日の犠牲者はまさかの渋谷さんだった！

彼女は蝙蝠だと思われていたはずだが、ここで噛まれるとはいったいどういうこと  
なんだ？！

そして、今日の時間を決めるのは……

再び、園城寺怜さんですっ！

怜「……てい。」

ふ：出ました！

今日の会話時間は、1分間でゝす！

それでは人狼ゲーム3回戦、最終日！

スタートだ〜!!

怜「・・・おはようさん。正直、渋谷さんが噛まれたんが意外すぎるんやけど・・・？」  
董「・・・確かにな。私か園城寺を噛んで、渋谷を味方につければPPが出来たんじゃないのか・・・？」

絹「せやからちやいます！はつきり言わせてもらいますけど、私は人狼ちやいます！  
つまり人狼は、弘世さんやったっちゆうことや！」

董「む・・・ここで私を疑うというのか？」

絹「当たり前やろうが!?!そもそも、昨日の夜が来た時点でおかしい思ってたんや！園城寺さんが間違いなく共有って分かつとる現状やと、もうあんたしかおらへんわ！」

董「・・・昨日までならともかく、今日はさすがに吊られるわけにはいかんぞ？今日は君を吊って、村勝利で終了だ。」

怜「・・・正直、疑わしい思うのは絹ちゃんのほうなんやけど・・・？」

絹「ちや、ちやんとよう考えてください!? 私がほんまに人狼やったら、ここで渋谷さん噛めるわけないでしょうが!」

董「そう言つて、自分を村人に見せるつもりなんだろう?・・・園城寺。昨日言つてくれたままに、私を信じてほしい。彼女の言に耳を貸すな。」

絹「そ、それが狙いなんやな・・・!? 昨日園城寺さんが自分信じる言うてくれたから、有耶無耶な蝙蝠より共有を味方にしよう思うたんやろ!? それで渋谷さんを噛んだんやな!」

怜「・・・む・・・確かに、それもありえるんか・・・?」

董「ブレるな、園城寺。人狼の思う壺だぞ・・・!」

絹「大体、弘世さんが不審者やったとして、その役職自体怪しいやろうが!? それに、ほんまは自分からCOすることで、不審者としての真目を取りに來ただけやろう!」

董「・・・言いがかりも甚だしいな。何度も言うが、私は間違いなく不審者だ。第一、私の対抗はいなかっただろうが。今回の欠けは共有なのだから、必ず存在するはずなんだぞ?」

絹「おそらくは言えないまま、吊られたか噛まれてもうたんや! ほかの役職と違って、不審者の対抗COなんてさほど意味あらへん。対抗せんでも、狩人同様いつまでも残つてれば、いつかは疑われて吊られる役職なんやからな。そう思つて伏せとるうちに、や

られてもうたんや・・・!!」

怜「・・・ほ、ほんま参つたで。どっちが人狼なんや・・・?」

絹「せやから、弘世さんですわ!」

董「愛宕の妹さんしかないだろう・・・!」

ふ：さあ、残り10秒だ〜!

決着はつくのか〜!?

董「・・・園城寺、頼むぞ・・・!?!」

絹「お願いですから、最後まで騙されんといってください・・・!?!」

怜「・・・あ、あかん・・・!?!」

ふ：そこまで〜!

では、運命の投票を始めよう!!

### ○投票結果

董(2) ↓ 絹恵 怜(0) ↓ 董 絹恵(1) ↓ 董



投票の結果、弘世董さんは処刑されました。

董「なっ・・・!？」

絹「あ・・・!!」

怜「・・・っ!？」

この瞬間、人狼の数が村人と同じになりました。

おめでとうございます！

人狼の勝利です!!

董「・・・そんな・・・!？」

絹「やった~~~~!!」

怜「」

小「おめでとうございます！絹恵さんなら勝てるって、私信じてました！」

30「助かったよね。でも、最後はよく信じさせることができたね・・・！」

絹「ほんまドキドキもんですわ！もう信用勝負しか勝ち目が見えへんかったから、一か八かで渋谷さんを噛んだんが正解でしたわ！」

巴「本当に、おめでとうございます！」

神代小蒔・小鍛治健夜・愛宕絹恵（人狼） 狩宿巴（サイコ）

怜「……………も、申し訳ないとか言えへんわ……………」

霞「……………仕方ないわね。確かに、絹恵ちゃんの言ってることも間違いではなかったし……………」

董「……………しっかりとした信用を取れなかった私にも非はある。園城寺、そう落ち込  
むな……………」

誠「……………私も申し訳ないです。占い師なのに、まさか初日落ちするとは……………」

初「それはこつちの台詞なのですよ。まさか、よりによって真占いを道連れとか考  
えてなかったのですよ。」

☆「むう……………まさかの逆転負けだぞ★」

園城寺怜・初日犠牲者（共有） 亦野誠子（占い） 瑞原はやり（霊能）

石戸霞（狩人） 弘世董（不審者） 薄墨初美（猫又）

辻「・・・囁まれた時点で、私の敗北は決まっていたからな。正直、村負けでもあまり気にならん。」

洋「くうく・・・ここで村勝ちんなれば、うちの下克上が成功してたつちゅうのに・・・!?」

辻垣内智葉（貴族） 愛宕洋榎（奴隸）

靖「ふう・・・さすがに、そう易々とは勝たせてくれんか・・・」

戒「ソーリー・・・巴さんが騙りだと分かっていたから、人狼は残り2匹だと分かっていたんですが・・・吊られると分かかって、動揺してしまいました・・・」

照「・・・結局、何の役にも立てなかった・・・」

戒能良子・藤田靖子（狐） 宮永照（背徳）

淡「むうく！董の馬鹿く！もつと自己アピールしないとだめだよく!?」

竜「ほ、ほんまやで！怜を落ち込ませるなんて、一体何考えとんねん!?」

M「えつと・・・そういう理由なんデスカ・・・？」

咏「癪だね〜い。あとちよつとつてところまで来てたから、余計にね〜い・・・？」

春「残念・・・」

大星淡・滝見春・三尋木咏・清水谷竜華・メガン・ダヴァン（村人）

堯「・・・あそこで噛まれるなんて・・・絶対に、勝てると思ったのに・・・」

渋谷堯深（蝙蝠）

ふ「みんなお疲れ様です！これで第3回戦は終了、結果は人狼の単独勝利となりました〜！！」

30「お疲れ様。今回は、間違いなく絹恵さんのおかげだね。」

咏「全くだね〜い。さすがにあの流れで、人狼が勝つなんて思えなかつたぜ〜。」

戒「園城寺さんに迷いが出たというのが、村人側の敗因とも言えますが・・・大健闘といつても問題はないかと。」

☆「憎たらしい限りだぞ☆」

靖「ですが、よく園城寺の心を動かせましたね。さすがに無理かと思っていました

が・・・？」

30 「ありえない現状に、疑問を持つっちゃったんだろね。あとは、残った弘世さんの役職が、絶対の信用をおけない役職だったっていうのも一つだね。」

咏「むう・・・これで私は2連敗だぜ？そろそろ勝ちたいと思ったりするんだけどよ？？」

ふ「そう思いまして、最後のゲームは少し変化を加えたいと思います！次は、チーム戦です！」

30 「・・・チーム戦？」

戒「・・・人狼ゲームで、どうやってチーム戦を行うのですか？」

ふ「学校、プロそれぞれのチームにしてもいいかと思いましたが、せっかくこうして集まっているので、ランダムに振り分けまっす！」

30 「いや、チーム分けじゃなくて聞きたいのはチーム戦のこと・・・って、どうやって割り切るの？」

洋「せやな。うちら大阪出張組は4人やし・・・」

霞「私たちは5人ね。」

董「当然、私たちも5人だ。」

M「私たちは2人だけですわね・・・？」

☆「それで、私たちは5人だね。・・・足すと21人だから、3チームにでも分けるの？」

ふ「作るのは5チーム！1チーム4人です！つまり、すこやんは除外です!!」

30「え？・・・いや、別にいいんだけどね・・・？」

靖「・・・変わりましたか？」

30「ううん。いつものことだから、気にしないで・・・？」

戒「・・・毎度のことながら、予想できない行動をしてきますわね・・・」

ふ「そして、勝負を決めるゲーム内容は・・・!!」

続く・・・

白糸台・永水・プロ組+β (犠牲者たちの集い)

○3日目(昼) 初美・誠子・洋榎

誠「なんでよりによって私を道連れにするんですか?!」

初「し、仕方ないのですよ?!まさか占い候補を引っ張るなんて、私も思ってたのではありませんよ?!」

洋「ぐぬぬ：：人狼はいきなり辻垣内を噛んだつちゆうことか?それともうちを狙ったんか?!せやけど、これじゃうちの自力勝利は難しいやんけ：：!!」

誠「はつきり言いますけど、私は真なんですからね?!つまり、残っている占い4人はみんな人外ですよ!!」

初「そ、それが本当なら、村人大ピンチなのですよ：：!!」

洋「むう：：その言葉自体が偽りつちゆう可能性もあるんじゃないか?」

初「あ!そ、そうなのですよ?!」

誠「本当ですってば!？」

洋「まあこうなつた以上、うちとしては辻垣内は嘯まれてほしいわ。そんなもつて村勝ちんなれば、うちの勝利なんやけど・・・」

初「さ、さすがにそれは難しいのですよ。辻垣内さんまでやられちゃつたら、確定の○がさらに消えちゃうのですよ・・・」

洋「そうなんよなく・・・」

誠「・・・問題は、今日以降の流れですよ?できれば、残つた占いはロラしてほしいところなんですけど・・・」

洋「まあ、あんたからしたらそうなるな。せやけど、さすがにそれは難しいとちやうか?」

初「今日の占い結果も、みんな○出しなのですよ。これじゃあまたグレランですかね?」

洋「怜さんはどないするんやろか・・・って、ほんまにロラするんか!？」

誠「園城寺さん! ナイスです!」

初「ど、度胸あるのですよ。これで、村人側はノーヒントになる可能性もあるのですよ・・・?」

誠「ですが、占い候補が消えた現状では、決して悪手じゃありませんよ!」



洋「そりゃ、あんたからしたらそうなるやろうけど・・・!!」

初「・・・ロラは決定みたいなのですよ。なら、少しでも怪しい人から吊りたいところですけど・・・?」

誠「・・・って、弘世先輩が不審者ですか!」

洋「・・・それがほんまなら、チャンピオンは破綻やけど・・・」

初「・・・この場合、宮永さんよりも弘世さんの真偽のほうが問題なのですよ。」

洋「せやな。弘世がほんまに不審者なら、チャンピオンは当然破綻。せやけど人狼なら、チャンピオンも破綻やけど、弘世も吊らなあかんで・・・!」

誠「弘世先輩が狐だったとしても、やはりお2人とも吊らなくちゃいけませんしね・・・!」

初「・・・弘世さんが、サイコや背徳者、蝙蝠っていう可能性はないでしょうか・・・?」

洋「・・・まずないやろうな。蝙蝠がわざわざ人外の恨みを買う可能性のある行動をするとは思えんし、サイコなら弘世もそうやけど、占ったチャンピオンが生き残つとるわけがない。背徳者の可能性はありそうやけど、その場合騙りに人狼と狐で最低3匹の騙りが出とるつちゆうことになる。それに、狐を守る背徳が伏せるつちゆうのは、正直戦略としては首を捻るで・・・?」

誠「ちなみにその場合、占いが真・狼・狐・サ・蝙蝠で、霊能が真・狼でしょうか……？」

洋「可能性としてはそれが高いやろうな。まさか狐2匹で騙りに出るとは思えんし。つまり真以外にも、どつかのラインが人狼同士で繋がるつちゆうことやけど……？」

初「だとしたら、まだ宮永さんは吊れないんじゃないでしょうか？ 真の可能性が出てきましたよ？」

誠「だから、真は私ですってば!？」

洋「……まあ怜やんもうちと同じ考えにいたったようやな。占い、ロラするみたいやで？」

初「なるほど。なら、今日は宮永さんでしょうか？」

誠「そうなりますね。不審者の対抗も出ていませんし……!？」

洋「つちゆうても、不審者の対抗なんて出づらいにもほどがあるんやけどな……？」

○4日目(昼) 初美・誠子・洋榎・照

照「……董、嫌い……」

誠「ま、まあまあ……」

洋「今日は平和やな・・・こりやGJとみたほうがよさそうやな・・・？」

初「ですよ。向こうでも言ってますけど、ロラの現状でわざわざグレーを減らす必要はないのですよ。」

洋「せやけど、守られたんは誰なんや？ 怜やんならええけど、辻垣内なら狩人何やつとんねん・・・!？」

初「・・・それ、完全な逆恨みなのですよ・・・」

誠「可能性としては、弘世先輩が守られたっていう可能性もありますよね？」

照「・・・もしそうなら、狩人は空気が読めてない。董は早々に舞台を降りるべき・・・!」

初「・・・こつちも逆恨みなのですよ・・・」

洋「・・・にしても、霊能結果は両方○なんやな。まさかチャンピオンが真やったつちゆうオチやないやろうな・・・？」

照「・・・愛宕さん、正解・・・。」

誠「真は私です!？」

初「残った占いが●を出したのですよ？ だけど、渋谷さんが・・・？」

洋「・・・ほう。あいつが蝙蝠やったんやな・・・？」

誠「堯深が蝙蝠・・・!」

初「渋谷さんが蝙蝠なら、赤野さんが真の可能性も残るのですよ。」

照「・・・それはありえない。むしろ、誠子が蝙蝠の可能性もある・・・！」

誠「ありませんってば!？」

洋「・・・おう。小鍛冶プロが蝙蝠の対抗COしたで・・・!?」

初「だとすると・・・少なくとも、渋谷さんと小鍛冶プロは人外確定なのですよ。」

照「・・・誠子と藤田プロの役職が問題。2人が狐と人狼なら・・・！」

誠「ですからく!？」

洋「とりあえず、ロラは続行みたいやな。占いの真偽がつけられんし、こりや仕方な

いで・・・」

初「候補は3人ですね。今日は誰が吊られるんでしょうか?」

照「・・・藤田プロの可能性が高い。あとの2人は蝙蝠COしてるから、投票しづら

い・・・」

誠「そ、そうですね。でも、どちらかは確実に騙りですから・・・！」

洋「まあ吊らなあかんやろうな。占いは全員消して、完全に予想でいかなあかのや

から。」

初「うう・・・完全に人外のペースなのですよ・・・！」

照「・・・やつぱり、董のせい・・・！」

誠「……だから、真は私……！」

○5日目(昼) 初美・誠子・洋榎・照・靖子・竜華

竜「うちが噛まれたん!?!なして!?!」

洋「まあ狩人探しやろうな。清水谷は狩人やったんか?」

竜「ちやうで!うちは役無しの村人や!」

靖「……それが本当なら、まだ村にとつても希望は残っているわけだな。」

照「間違いない。狩人には、ぜひともGJを出してほしい……!」

初「全くですよ。あ、今日の時間が決まり……」

洋「……出よつたで。30秒……!」

誠「こんな序盤にそれ出しちゃ、何も話せないじゃないですか!?!」

竜「藤田プロの結果が分かれたみたいやけど……!?!」

初「推理している時間がないのですよ……」

靖「……渋谷か小鍛冶さんに投票するみたいだな。まあ妥当な判断だ。」

洋「そうやな。つちゆうかそれしかもう考えられんやろ……」

竜「と、怜〜!ナイス判断やで〜!頑張つてな〜!?!」

○6日目(昼) 初美・誠子・洋榎・照・靖子・竜華・健夜

初「さつそくGJが出たのですよ〜!」

誠「狩人さん、やるじゃないですか!」

洋「・・・これ、ほんまにGJやろうか・・・?」

照「・・・私も、それが疑問・・・!」

靖「・・・そうだな。もしかすると、狩人を探している最中に狐を噛んだんじゃないか・・・?」

竜「もしそれがほんまなら、人狼には狐の正体があったつちゆうことやな!」

30「そうだね。もしかすると、本当に狩人にGJされただけの可能性もあるけど・・・」

初「それもありますけど・・・小鍛冶プロ、そろって●出されてるのですよ〜。」

洋「なら人狼確定やな。昨日の結果と合わせると、狩宿が真なら人狼は残り1匹。瑞原プロが真なら残り2匹や。」

30「むう・・・欠けは共有って分かってるし・・・ってことは清水谷さん、実は霊能で伏せてたんじゃないの?」

竜「ちやいます!？」

靖「・・・小鍛冶プロは人狼で確定だろうな。だがこうなると、渋谷もそうだが、靈能の真偽が怪しくなってくるが・・・？」

誠「そうですね。瑞原プロがもう一つ●を出せば、最悪靈能もロラしていいかもしれませんが・・・？」

洋「その場合、人狼は確実に残り1匹やろうしな。せやけど・・・」

照「・・・吊りの余裕があれば、の話・・・」

30「そうだね。はつきり言っちゃうけど、ここは狐探しを優先したほうがいいと思うよ？私の仲間を吊ったら、下手したらそこで終了だよ？」

竜「そ、そうなると狐勝ちやないか!？怜く！間違えたらあかくん!？」

初「ですけど、残り2匹ならまだ問題はないのですよ？むしろその場合、念のために人狼も吊っておきたいのですよ。」

照「・・・確かに。下手をすると、最終的にPPされる危険がある・・・!？」

30「厄介な子が残ってるしね・・・!？」

洋「・・・渋谷はほぼ蝙蝠で確定やしな。吊り数考えると、わざわざ蝙蝠吊つとる余裕があらへんし・・・」

誠「じゃあ堯深は吊らないんですか!？ここまで来たら、完全にロラしちゃったほう

が・・・!?」

靖「・・・余裕がないからな。あと1〜2回、GJが出るなら吊つてもいいかもしれんが・・・」

初「そこまでの余裕がないのですよ・・・」

洋「あかんなあ。こりや、最終的にPPされる危険があるで・・・!?」

竜「うう・・・じ、人狼が噛んだらええんや!人狼にとつても裏切りもんのはずやで!」

誠「む、難しいのでは?人狼からすると、蝙蝠は狂人とさして変わらない扱いのはずですし・・・?」

照「・・・完全に村人についていると判断されない限り、噛みにはいかないと思う。」

靖「・・・だが、グレーを残すために、あえて消しにくくという選択肢もある。そうすれば、村人にとつても人狼にとつても、決して悪い結果ではないが・・・」

洋「・・・最後のPPの魅力を考えて、そう簡単にはいけんやろなあ。初めは村人ピンチやったけど、今はどちらかという村人ペースになつとるし・・・?」

初「人狼にとつても考えどころなのですよ。」

30「それで、今日の吊りなんだけど・・・咏ちゃんになるのかな・・・?」

靖「そうなりそうですね。騙りに占われたところを、囲いとして怪しむ流れになつて



ます……」

照「……むう……」

竜「確かに、藤田プロがほんまの占い師やったら、三尋木プロは●扱いやな!!」

靖「……確かに、私としては是非とも三尋木プロは吊ってほしいところだが……?」

誠「し、真は私です!それに三尋木プロ、吊っても構わないって言ってますよ!!」

洋「……あれ見ると、三尋木プロは村人なんやないかって思えるんやけど……?」

初「まだ絶対じゃないのですよ。もし亦野さんが騙りなら、やっぱり怪しむ場所なのですよ。」

誠「でくすくからくら!!」

照「誠子、うるさい。」

誠「あう……」

30「……なんにせよ、今日は咏ちゃんに決まりみたいだね。」

竜「んく……ちなみに、それを聞いてなんか反応せんのですか?」

30「ノーコメントだよ。」

○7日目(昼) 初美・誠子・洋榎・照・靖子・竜華・健夜・咏・メグ

M「・・・嘯まれまシタカ・・・」

30「残念だったね？」

竜「結構存在感消しとったしな。これでステの人狼やつたりしたら危ないところやつたで。」

咏「全くだね〜い。それにしても、人狼はどいつなんだ〜・・・？」

初「・・・霊能結果は、2人とも○なのですよ〜。」

誠「つまり、藤田プロは騙り確定です！」

靖「ふむ・・・清水谷、お前、実は伏せてた霊能なんじゃ・・・？」

竜「せやからちやいます!？」

洋「どつかで見た会話やな・・・ともかく、これで三尋木プロの潔白は証明されたわけや。そうすつと次の対象んなるの・・・」

照「・・・石戸さんと神代さん・・・」

M「それに、戒能プロでスネ。」

初「その中に、本当にいるのでしょうか・・・？」

誠「薄墨さんからすると、疑いたくない人たちばかりですな・・・」

初「強いて言うなら、怪しいのは霞ちゃんなのですよ〜。」

洋「・・・それ、チクツてええ？」

初「勘弁してほしいのですよ．．．!?」

30「．．．あつ．．．良子ちゃんが．．．」

竜「LWやて!?ほんならそこは残しとかんと．．．!」

靖「．．．」

照「．．．」

30「．．．まあ、そうは問屋がおろさないよね．．．!」

初「ひ、姫様が人狼COしたのですよ!?」

誠「それに、仲間が残ってるって．．．!?」

M「それが本当なら、瑞原プロが真確定デスネ〜!」

咏「なるほどね〜。ってことは戒能プロ、それにあいつを占ったお前さんは．．．!」  
靖「．．．ノーコメントです。」

○8日目(昼) 初美・誠子・洋榎・照・靖子・竜華・健夜・咏・メグ・良子・智葉

洋「よっしゃ〜!!こいつ噛まれよった〜!!」

辻「．．．ふんっ。」

M「お疲れ様デスネ、智葉。」

戒「……ソリー……凡ミスですね……」

靖「ドンマイだな。まあ仕方ないさ。」

照「……残念……」

初「ともかく、これで村人勝利にぐつと近づいたのですよ〜!」

竜「ほんまやで! 怜、あとちよつとやで〜!?!」

誠「霊能結果はそろつて〇ですし、狐と見ても問題はないでしょうか……?」

30 「おそらくだけだね。もしこれで背徳者やサイコだつたら分からないけど、そうすると占いの内役がさらにおかしくなるから……」

咏「まず確実だろうねい。それに、狐以外がLWCOするとも思えんしね〜い。」

辻「……まあ、まず間違いないだろうな。どうでもいいが。」

M 「智葉、ふてくされちゃ駄目デスヨ〜?」

辻「誰がだ!?!」

洋「せやけどこれで、村人勝利に一直線や! そうすりやうちも柵ボタ勝利やで〜!!」

辻「ぐつ……!?!」

照「……辻垣内さんは、もう勝利条件がない……?」

靖「ないな。脱落した時点で、貴族の勝利は消えた。」

戒「……こつちに来ますか?」

辻「ノーセンキューだ・・・！」

竜「ほな、今日は小蒔ちゃんやろか・・・？」

咏「だろうね〜い。安全に、吊っていくしかなないぜ〜？」

初「姫様、頑張っているのですよ〜。」

洋「せやな。吊られるの分かっててCOしたんや。あいつ今めっちゃ輝いとるで・・・

！

誠「人狼なんですけどね・・・？」

靖「・・・だが、こうなるとLWが誰なのかということが問題になるな。」

30「まあ、当然そうなるよね。」

初「候補としては、霊能のどちらかか・・・」

M「石戸サンか滝見サン・・・」

照「あと淡と、不審者だつて言い張ってる裏切り者の董・・・」

竜「あとは絹ちゃんやな！」

洋「むう・・・狩宿は、おそらく人外確定やろうけど・・・？」

戒「イコール人狼というわけではありませんからね。ですが、今後吊る対象ではあり

ますよ〜。」

竜「怜、どうするつもりなんやろ・・・？」

咏「こりや、明日以降に期待だね〜い．．．？」

○9日目（昼） 初美・誠子・洋榎・照・靖子・竜華・健夜・咏・メグ・良子・智葉・小蒔

小「私たちは、絶対に負けません！」

30「お疲れ様。いいCOだったよ？」

小「ほ、本当ですか!? 嬉しいです！」

洋「．．．何でか憎めん人狼やで。」

初「姫様だから仕方ないのですよ。それより時間がく．．．」

咏「．．．今度は1分かい。たまったもんじゃないね〜い。」

M「神代さんに●をつけたのは瑞原プロだけデスネ？」

辻「当然だな。狩宿からすれば、すでに人狼は残り1匹だ。ここで神代に●をつければ、自分から破綻することになる。」

誠「でも、これで確実に残り1匹です！」

戒「イエス。そして、園城寺さんの判断が．．．」

照「．．．霊能口ラ．．．！」

竜「怜〜！ナイス判断やで〜！」

洋「……せやけど、瑞原プロは残しといてもええんちゃうか？まず間違いなく真やで？」

30「そう思わせてっていう可能性もあるよ？第一、まだ狐が残っている可能性も否定しきれないよ。」

辻「……そうだな。無駄吊りになるかもしれないが、吊ったほうが安全だろう。」

M「いつそ、完全に信じきって行動する、というのも一つの手デスヨ？」

靖「確かに、それも一つの手だが……」

初「……園城寺さんは、どちらかに投票するみたいですよ。」

竜「そ、そうやな！仕方ないで！」

咏「……思考、放棄してないかい？」

洋「竜華やからなく。」

小「怜やんさんを信じましょう！」

誠「人狼にそれを言われると、凄く不安なんですけどね……」

○10日目(昼) 初美・誠子・洋榎・照・靖子・竜華・健夜・咏・メグ・良子・智葉・

小蒔

## 巴・春

春「・・・噛まれた・・・」

辻「昨日平和が出たからな。おそろく、狩人探しがまた始まったんだろう。」

戒「そうですね。春、昨日悲嘆しないほうがいいと言ってましたから。」

竜「そんなら、人狼にそれを見抜かれたつちゆうこと!? 春ちゃんって狩人やったん!？」

春「・・・違う・・・」

M「それが本当なら、まだチャンスはありそうデスガ・・・?」

小「巴ちゃんは○なんですな。もしかして、最後の狐さんだったり・・・?」

巴「いえ、その・・・」

初「もしかすると、サイコだったりするのですよ?」

巴「ぐぬっ・・・な、何のことだか・・・」

洋「ともかく、今日の吊りは瑞原プロやろう。それ考えると、そろそろ無駄吊り出来ん状態になってきとるで?」

30「向こうに残ってるのが7人。つてことは、G J 2回出さないと吊り回数が増えないから、あと3回だけとみて間違いないだろうね。」

咏「んく・・・瑞原プロ吊って、蝙蝠の嬢ちゃん吊って、それでラストの人狼吊るつ



てのがいいんじゃないかね？」

靖「それが安牌ですかね。瑞原プロも、明日狩人CO要請したらどうかと言ってます。確かにそれなら、おそらく大丈夫でしょうが……」

小「……あ、あれ？今日狩人をCOさせちゃうんですか……？」

照「ん……？」

誠「確かに、今のうちに存在確認したいのは分かりますが……？」

辻「……ミスったな。今日COさせると、狩人が狙われるぞ……？」

M「そうデスヨ!? そしたら明日、園城寺さんが狙われマスヨ!」

竜「と、怜〜!」

戒「……私と同じ凡ミスですね。やはり時間がまちまちになっているせいで、思考回路が狂い始めています……」

巴「……って、霞さんが狩人だったんですか……!」

初「おそらく正解なのですよ。でも、向こうからすると半々なのですよ。」

春「……私が、狩人だって思われてる……？」

30「可能性はじゅうぶんにあるよ。向こうは、まだ正解が分かってないんだから。」

洋「……ほんまに、狩人やないんやな……？」

春「……違う……」

小「えっと、この場合吊るのって……?」

辻「……瑞原プロのようだな。まあ仕方あるまい。」

咏「妥当な結果だけどなく。」

○11日目(昼) 初美・誠子・洋榎・照・靖子・竜華・健夜・咏・メグ・良子・智葉・

小蒔

巴・春・はやり・淡

淡「って私が噛まれたの!?なんで!」

☆「……正直、大星さんが狙われるなんて思ってたぞ……☆」

初「これだと、残った絹恵さんがLWなのですよ?」

洋「絹がなく……ってどうか、ここでまた30秒出すとは……」

照「……やっぱり、董が悪い……!」

誠「絹恵さん、滅茶苦茶石戸さんを疑ってますけど……?」

咏「……まあ、そりやそうだろうね〜い。狩人がやられなかったわけだしね〜い?」

靖「狩人を残すことで、逆に疑いの目を向けさせたか……」

竜「あ、あかん!? 怜〜! 気づくんや〜!」

辻「……駄目だな。2人のどちらかに投票だ。」

M「これで、蝙蝠のPPが始まりマスネ……!?!」

30「……渋谷さんは、どっちの味方をするんだろうね?」

小「き、きつと人狼の味方です!」

洋「村人の味方せい……!?!」

☆「……やつぱり、吊っておくべきだったぞ★」

淡「ぶく! たかみく、裏切ったらただじゃおかないんだからねく!?!」

○12日目(昼) 初美・誠子・洋榎・照・靖子・竜華・健夜・咏・メグ・良子・智葉・

小蒔

巴・春・はやり・淡・霞・堯深

堯「」

洋「……おや?」

M「……なんで蝙蝠が噛まれてるんデスカ……?」

初「わ、分からないのですよ……?」

戒「絹恵さんは、勝利を諦めたのでしょうか……?」

靖「……む……?」

30「……いや、もしかしたらこれって……」

咏「ん? すこやんは何か気づいたのか?」

辻「……もしかすると、愛宕の妹は……」

巴「……つて、弘世さんを疑ってますよ!」

竜「な、なして!? 弘世さんは不審者のはずやないの!?!」

霞「ふむふむ。……もしかすると、絹恵ちゃんにやられちゃうかしら……?」

照「……蝙蝠の堯深が噛まれたことで、園城寺さんが迷い始めてる。このままだと……!?!」

春「……駄目……!?!」

淡「こ、こらスミレく!? もっとちゃんと不審者らしくしなくちゃ駄目だよ!?!」

小「さ、さすがは絹恵さんです!」

☆「や、やばそうな雰囲気だぞ★」

竜「あ、あかん!?! 怜く!?!」

堯「……勝てると思ったのに……ちえ……」

ゲームは終了いたしました。

## 5 チーム対抗戦①

ふ「・・・つてことで、チーム対抗戦を始めます！まずルールですが・・・」

30 「その前に、チームの紹介を始めないと駄目だよ？」

ふ「つと、そうでした！ではくじ引きの結果、以下の5チームに決定しました！」

○Aチーム 弘世董・愛宕絹恵・瑞原はやり・藤田靖子

董「今度は一緒の陣営・・・ではなくチームか。よろしく頼む。」

絹「はい！頑張りますわ！」

☆「よろしくね☆」

靖「まあ、よろしく。」

○Bチーム 石戸霞・滝見春・清水谷竜華・メガン・ダヴァン

霞「それじゃあ皆さん、頑張りますようね？」

春「……よろしく……」

竜「みんな、頑張ろな！」

M「よろしく、デスヨ！」

○Cチーム 宮永照・亦野誠子・狩宿巴・園城寺怜

照「……今度こそ、大活躍……！」

誠「私も、頑張ります……！」

巴「え、えつと、よろしくお願ひしますね……？」

怜「よろしゅうな。ほなさつそくやけど、狩宿さんの膝枕の具合から確かめてみようか……？」

○Dチーム 渋谷堯深・神代小蒔・辻垣内智葉・戒能良子

堯「……今度も、よろしくお願ひします。」

小「わ、私、頑張りますっ！」

辻「よろしく頼む。……といつても、まだルールを聞いていないんだがな……？」  
戒「小鍛冶プロが側にいますから、そこまで酷いことにはならないと思いますが……」

○Eチーム 大星淡・薄墨初美・愛宕洋榎・三尋木咏

淡「みんなよろしくっ！私の足を引つ張らないでね！」

初「よろしくなのですよ。ちなみに、それはこつちの台詞なのですよ。」

洋「ほんまやで。そつちこそ、うちの足を引つ張るんやないで？」

咏「纏まりのないチームだね。まあ私が言えることじゃないけどね？」

ふ「以上の5チームです！」

30 「約1チームを抜かして、比較的纏つた振り分けではないでしょうか？どこのチームにも、まとめ役になれそうな人がいるのはいいですね。」

ふ「そしてルールの説明です！今回の勝負は『ワンナイト人狼ゲーム』！各チームから1人ずつ出てきて、村人と人狼の勝敗を競います！」

30 「勝つたほうの陣営に所属している人に1ポイントです。これを繰り返して、最終的に合計ポイントの多いチームの勝利となります。」

ふ「ちなみに今回のワンナイトの場合、以下の役職が採用されます！」

○村人（村人陣営）

普通の村人。



特殊能力等は一切ないので、推理で答えを導く。

勝利のために騙っても構わない。

○占い師（村人陣営）

初めの夜に、誰か1人の役職か、もしくは選ばれなかった2つの役職を知ることが出来る。

○怪盗（村人陣営）

初めの夜に、誰か1人の役職と自分の役職を入れ替えることが出来る。  
しなくても良い。

もし人狼と入れ替わった場合、陣営は人狼になるので注意。

○人狼（人狼陣営）

村に潜む人狼。

騙るもよし、伏せるもよし。

仲間の人狼がいる場合には、それが誰かの確認が出来る。

とにかく吊られないように気をつけよう。

小「えつと・・・いくつか分からないところがあるのですか・・・？」

竜「ほ、ほんまやで。怪盗？それに占い師も少しおかしな・・・？」

30 「それについても説明するね？」

ふ 「まず代表の5人は、7枚のカードから好きなものを選びます！そこに書かれているのが役職になります！」

30 「5人で7枚から好きなものを選ぶ。そうすると2枚残るよね？占いの説明に書かれている選ばれなかった2つの役職っていうのは、これのことを指すの。」

ふ 「その通りです！そして7枚のカードの内役は、以下の通りです！」

○ 村人 × 3枚

占い師 × 1枚

怪盗 × 1枚

人狼 × 2枚

M 「なるホド・・・これでゲームを進めるわけデスネ？」

絹 「・・・ん？せやけどこれ、もしかしたら人狼がおらん場合もあるんじや・・・？」

30 「よく気づいたね。絹恵さんの言ったとおり、場合によつては人狼がない場合もあるの。」

ふ 「その場合は、引き分け処理を行わないといけません！そしてこれに関連するのが、

次の勝利条件についてだろ！」

○勝利条件（村人）

- ・ 誰か1人でいいので、人狼を吊る。
- ・ 人狼がいない場合には、引き分け処理を行う。

※引き分け処理

全員がそれぞれ違う人に投票する。全員1票ずつの獲得の場合、引き分けとなる。

○勝利条件（人狼）

- ・ 人狼が、1人も吊られない。
- ・ 人狼がいる状態で、引き分け処理を行う。

洋「……つまり、人狼がいないと分かったら引き分け処理せんと、誰も勝てんっちゃうことやな？」

淡「なるほど。つまり、嘘つきがないことを見破るわけだねっ!？」

30「もつとも、その場合で敗北した場合、みんな点の加点は無しだからね。チーム戦としてはマイナスにはならないけど……」

ふ「だからって、それに安心してちや駄目だぞ〜！」

戒「・・・確かに、そうなると少し悔しいかもですね。」

☆「まして、実は人狼が混じってたってなったら最悪だぞ★」

30「そして次に、投票のシステムです。今までと違い、最多票が2人いても再投票にはならないので注意してください。」

ふ「あくまで投票のチャンスは1回のみ！もし2票の人が2人いれば、その2人とも吊られま〜す！」

30「そしてその場合、以下ようになります。」

○ABCDEの5人のうち、AとBが2票集めた場合、AとBが吊られる。

このとき、AとBが共に村人陣営であり、CDEの中に人狼がいた場合↓人狼陣営の勝利

このとき、BとCが人狼だった場合、Bの人狼が吊られたため↓村人陣営の勝利  
このとき、5人の中には人狼がいなかった↓吊ってしまったため、勝利者無し

30「このようになるので注意してください。」

ふ「少しややこしいかもしれないけど、つまり人狼は吊られるってことだ〜！」

30 「まあその通りだね。それで、一番の問題、怪盗についてです。」

董 「確かに、少しややこしそうな役職だな・・・？」

照 「・・・入れ替えるって、どういうこと？」

○怪盗の能力について

怪盗は初めの夜に、誰かと自分の役職を入れ替えることができる。その場合・・・

・相手が村人だった場合

自分は村人になり、相手が怪盗になる。相手は、自分が怪盗になったことは分からない。  
い。

・相手が占い師だった場合

自分が占い師になり、相手が怪盗になる。相手は、自分が怪盗になったことは分からない。  
ない。

なお、占いが出来るのは初めの占い師の人だけであり、自分が占いを行うことは出来ない。  
ない。

・相手が人狼だった場合

自分が人狼になり、相手は怪盗になる。相手は、自分が怪盗になったことは分からない。  
い。

なお、人狼にもし仲間がいた場合、自分はその相手を知ることが出来ず、相手も自分が人狼になったことは分からない。

自分の勝利条件は人狼陣営の勝利であり、入れ替えられた相手の勝利条件は村人陣営の勝利に変わっているので注意。

なお、能力を使用しないで怪盗のままにいることも可能である。

30 「つていうことだね。」

咏 「むう・・・わっかんねー・・・」

ふ 「とりあえず、実際見つつやりつつ覚えていってください！それでは説明はこれぐらいにして、そろそろ始めます！」

誠 「ちよつと不安だけど、習うより慣れろつていうし・・・！」

堯 「・・・頑張る・・・！」

30 「それではさっそく始めます。」

ふ 「ワンナイト人狼ゲーム、1回戦！」

30 「選手の順番は、あらかじめ決められているのでそれに従ってください。」

ふ 「ここに、スタートだー!!」

30「なお、時間は2分です。残り30秒でお知らせしますので、頑張ってください。」  
ふ「……すこやん、実は私のこと嫌い!？」

30「ノーコメントで。それでは、スタート。」

○ワンナイト1回戦 A・靖子 B・春 C・巴 D・小蒔 E・淡

靖「よろしく。さて、いきなり出番が来たわけだが……？」

淡「よろしくねっ！でも、いきなり永水の3人で争うなんてね！」

春「……仕方ない……」

小「人狼がない場合もあるんですよ？なら、気をつけなくちゃいけませんね！」

巴「とは言っても、確実にそれだけはないかと思えます。」

靖「ん？」

巴「占い師COです！私は選ばれなかった役職を調べました！」

春「……巴が占い師……！」

淡「ふくん？まあこれが、騙りじやなければって前提だけどねく？」

靖「ふむ。．．．ちなみに、残された役職は何だったんだ？」

巴「残されていたのは、村人と人狼が1枚ずつでした。つまりこの中に、確実に人狼が1人、そして怪盗もいるはずです！」

小「．．．と、巴ちゃんの言っていることは本当です！」

春「．．．姫様．．．？」

淡「え？なんでそんなに信じられるの？」

小「怪盗COです！私は巴ちゃんと役職を入れ替えました！」

巴「え？それじゃあ今って．．．」

春「．．．姫様が、占い師．．．？」

靖「そして、狩宿が怪盗になっているということか？」

小「そうです！私には占いの結果は分かりませんが、巴ちゃんが嘘をついていないということは分かります！」

淡「むう？確かにそれが本当なら、この2人は間違いないく村人だろうけど．．．？」

春「．．．2人が、実は人狼っていう可能性は．．．？」

靖「だとすれば、本当の占い師と怪盗がいるはずだ。もつとも、その2つが選ばれて



いないという可能性もあるが・・・」

巴「わ、私は嘘をついてませんよ!？」

小「本当です!」

春「・・・信じるべき?それとも・・・」

淡「怪しいよね・・・ちなみに、そっちの2人は本当に役無しなの?伏せてるだけじゃなくて?」

靖「あいにく、役無しの村人だな。」

春「・・・同じく・・・」

巴「私視点からすると、これでお3方の誰かに人狼がいるはずなのですが・・・」

淡「私もあいにく役無しの村人だよっ!絶対に人狼じゃないからねっ!」

靖「ふむ。・・・どうするべきか。その2人を信じて、私たち3人の中から2人を選ぶか・・・」

春「・・・それがいいかもしれないけど・・・?」

淡「正直、ちよつと怪しいんだよね?もしかして、本当にその2人が人狼だったりするんじゃないの?」

小「で、ですから私は・・・!？」

巴「・・・やけに私たちを怪しみますね?もしかしてですが、大星さんが・・・?」

淡「へ?・・・って、違うからね!?私は間違いない村人だよっ!」

靖「・・・確かに、大星の言動も気になるところだな。だが、実際その2人も怪しいところではある。・・・さて、どうするすべきか・・・?」

巴「ど、どうしても怪しいというなら、吊りの1人は私でも構いません!人狼は1人でも吊られたら敗北です。ですから、私が吊られるなら私たちの身の潔白にもなるはずです!」

小「巴ちゃん・・・!」

春「・・・これは、信じるべき・・・?」

靖「・・・個人的には信じたいが、これが演技だという可能性もあるしな。安全に、狩宿と誰かにするという手もあるが・・・?」

小「で、でも!その場合、本当の人狼が吊られるのは3分の1になっちゃいますよ!」

靖「・・・そうなんだよなく・・・!」

淡「むう・・・こうなったら、それぞれで怪しい人に投票しちゃう?それしかないんじゃない?」

春「・・・それは、さすがに・・・」

巴「もしそれで、私に3票集まったらどうするの!」

淡「あ、そっか。」

小「……なんだか怪しいです。さつきから、混乱させようとしている気がします……！」

靖「……確かに、な。」

淡「つて、本当に違うんだからね〜!?」

30：残り、30秒です。

ふ：そろそろ結果をまとめてくださ〜い!

巴「うあ……どうすれば……!?!」

春「……時間がない。この際、この2人は信じたほうが……?」

靖「……そうだな。狩宿と神代以外の3人に投票しよう。できれば、3票集まる結果だけはやめてほしいがな……」

淡「むう……なくんか気になるんだよね〜……?」

小「え、えつと、じゃあ投票するのは……!」

30：時間になりました。

ふ：各自、投票してください!!

○投票結果

靖子(2) ↓ 淡 春(1) ↓ 靖子 巴(0) ↓ 春 小蒔(0) ↓ 淡 淡(2) ↓ 靖子  
投票の結果、藤田靖子さんと大屋淡さんが処刑されました。

靖「さて、どうなるか・・・？」

小「・・・！」

巴「ばらけさせようと思って、春ちゃんに投票して正解でしょうか・・・？」

淡「むむむ!!」

春「・・・やった・・・！」

○結果

藤田靖子(村人) ↓ 吊り

滝見春(怪盗)

狩宿巴(占い師)

神代小蒔(人狼)

大星淡（村人） ↓ 吊り  
今回は、人狼の勝利です！

春「……………え？」

小「やりました〜！」

巴「え!?!嘘っ!?!」

淡「うわ〜ん! やっぱり小蒔すつこ〜い!?!」

靖「……………やられたか……………」

○初日の行動

藤田靖子（村人） ↓ 何もせず

滝見春（人狼） ↓ 仲間がいないことを確認する ↓ 怪盗に入れ替えられる

狩宿巴（占い師） ↓ 選ばれなかったカードを確認する（村人・人狼）

神代小蒔（怪盗） ↓ 滝見春と入れ替わる ↓ 人狼になる

大星淡（村人） ↓ 何もせず

ふ「第1回戦は、見事人狼の勝利です!」

30 「神代さんの頭脳プレーですね。入れ替わった先を騙ったことで、吊り対象から逃れました。」

ふ 「神代さん、だんだん狡賢くなってますね！」

30 「・・・村人は、もう少し怪しんだほうが良かったかもしれませぬね。」

ふ 「さてさて、次も人狼の勝利となるのか〜!？」

30 「さっそく2回戦です。まずは4回戦まで止まらないので、気をつけてください。」

ふ 「それでは第2回戦、スタートでつす！」

○ワンナイト2回戦 A・絹恵 B・霞 C・怜 D・堯深 E・初美

絹 「それじゃあよろしくお願いしますわ。」

霞 「ええ、よろしくね。それで早速で悪いんだけど・・・」

霞 「CO占い師よ。私は選ばれなかった役職が、村人と怪盗であることを調べたわ。」

怜「いきなりかい・・・最初ぐらいはゆっくりしたかったで・・・」

堯「えっと、つまりこの中に人狼が2匹いるってこと・・・?」

絹「石戸さんが嘘をついてなければですわ。ちなみに、ほんまに怪盗はおらんのです?」

堯「・・・本当なのかな?」

怜「怪盗、おらんのか・・・?」

霞「当然ね。私の占いには、怪盗が選ばれていないってのはつきり出てるんだもの。」

絹「けどもしかしたら、怪盗が人狼と入れ替わったから言えんのとちやいます・・・!」

初「むむむ・・・?」

怜「もしそうなら、COなんて出来へんしな・・・」

霞「・・・ふむふむ。つまり、私を疑うっていうことでいいのかしら?」

怜「可能性の話や。ゼロじゃあらへんやろ?」

堯「・・・では、どうしますか?まさか石戸さんを吊るんじや・・・?」

初「・・・それが正解でしょうね。CO怪盗ですよ。私は園城寺さんと入れ替わって、村人になっているのですよ・・・!」

絹「へ．．．!?」

怜「．．．ほう。おらんはずの怪盗がおったみたいやで．．．?」

堯「．．．ちなみに、園城寺さんは今のを聞いても、そのまま村人．．．?」

怜「間違いあらへん。うちは役無しの村人やから、騙りは石戸さんつて判断させてもらうで．．．!?」

霞「ええ。それで正解ね。ありがとう、初美ちゃん。」

絹「．．．へ?」

初「．．．はい?」

霞「私が占い師なのは間違いないわ。けどごめんなさいね?本当の占いの結果は、村人と人狼だったのよ。」

初「．．．つ、つまりどういうことですか!?!」

堯「えつと．．．つまり、この場合．．．!?!」

絹「え!?!つまりどういうことなん!?!」

怜「．．．それほんまやろうな?また嘘ついとるんやったら、うちの膝枕拳法でボコ



ボコにしたるで・・・!?!」

霞「それはちよつと興味心がわくけど・・・間違ひなく、村人と人狼で正解よ。そして私目線、初美ちゃんは人狼だと思ふわ。私が怪盗で、初美ちゃんと交換したとでも思つたんじやないかしら。」

絹「そ、そんならどうなるんです!?! 一体誰を吊ればいいんですか!?!」

怜「・・・薄墨さん? ちなみに今のを聞いても、怪盗で間違ひないって言うんか・・・?」

初「・・・やっぱり意地が悪いのですよ・・・CO人狼なのですよ。霞ちゃんの言うとおり、人狼は私しかないから、嘘ついた霞ちゃんが実は本物の怪盗で、私と入れ替わつたんだと思つたのですよ・・・!」

堯「なるほど・・・!」

怜「・・・ふむ。となると・・・?」

霞「ここからは消去法ね。私目線だと、渋谷さんか絹恵ちゃんのどちらかが真の怪盗だと思ふわ。怪盗がいなくて言つた私を、人狼の仲間だつたって勘違いしたんじやないかしら?」

絹「つてことは、うちらを吊るつちゆうことですか!？」

怜「・・・薄墨さんの言葉を信じるなら、人狼は1人で、怪盗もおるはずや。せやのに石戸さんの結果に反論が出なかつたつちゆうことは、本当に薄墨さんと交換して、石戸さんを人狼仲間やと勘違いしたつちゆう可能性が高いか・・・?」

30:さあ、残り30秒を切りました。

ふ:今回はどちらの陣営が勝利するのか?!

霞「私を信じてもらえるなら、渋谷さんと絹恵ちゃんを吊りたいわね。おそらくこのどちらかが怪盗で、初美ちゃんを入れ替わってるんだと思うわ。・・・もしこれで園城寺さんが怪盗だったとしたら、さすがにお手上げね。」

怜「うちは間違いなく村人や。・・・まあ時間もあらへんし、それしかないわな・・・ほんなら、渋谷と絹ちゃんは互いに投票しい?うちは適当なとこに投票するわ。」

初「な、なら、私が渋谷さんに投票するのですよ。霞ちゃんは絹恵ちゃんにするのですよ?」

霞「ええ、分かつたわ。」

堯「分かりました・・・」

絹「・・・りよ、了解ですわ・・・」

30：時間ですね。

ふ：それでは、投票スタートだく!!

○投票結果

絹恵(2) ↓ 堯深 霞(1) ↓ 絹恵 怜(0) ↓ 霞 堯深(2) ↓ 絹恵 初美(0) ↓

堯深

投票の結果、愛宕絹恵さんと渋谷堯深さんは処刑されました。

怜「さて、どうなるやろな・・・?」

初「わたしはどちらにしろ勝てそうなのですよく・・・!!」

霞「・・・これで間違えてたら、謝らなくちやね・・・」

堯「・・・私は、村人だから・・・」

絹「・・・あかん。あれやられてもうたら、どうせえっちゆうね・・・!!」

## ○結果

愛宕絹恵（人狼） ↓ 吊り

石戸霞（占い）

園城寺怜（村人）

渋谷堯深（村人） ↓ 吊り

薄墨初美（怪盗）

今回は、村人陣営の勝利です！

初「や、やりましたよ♪」

怜「・・・どうやら、石戸さんの推理が当たってたようやな・・・」

霞「良かったわ・・・」

堯「・・・勝ったけど、あまり出番がなかった・・・」

絹「うう・・・私も、石戸さんは人狼や思ってもうたから・・・！」

## ○初日の行動

愛宕絹恵（怪盗） ↓ 薄墨初美と入れ替わる ↓ 人狼になる

石戸霞（占い） ↓ 選ばれなかった役職が、村人と人狼であることを調べる

園城寺怜（村人） ↓ 何もせず

渋谷堯深（村人） ↓ 何もせず

薄墨初美（人狼） ↓ 仲間がいないことを確認する ↓ 怪盗と入れ替えられる

30 「さて、今回も村人の勝利でしたね。」

ふ 「凄いぞカスミン！なんだか玄人っぽかったぞ〜!?」

30 「何だか引っこ抜かれて貴方だけについていきそうなあだ名だね・・・とにかく、今回は石戸さんのナイスプレーとっていいでしょう。」

ふ 「歳がばれそうなネタをはさんでくるすこやんでした！ではでは、次は3回戦だ〜!!」

30 「・・・私はまだ27ですので、間違えないように。」

ふ 「すこやん合図は!？」

○ワンナイト3回戦 A・董 B・竜華 C・照 D・智葉 E・洋榎

董 「さて、ようやく出番が来たわけだが・・・」

竜「ずいぶん豪華なメンバーなんちゃう？うちもまあそうやけど、みんな部のエースか部長やないか。」

照「・・・確かに・・・」

洋「つまり、これが実質の決勝戦つちゆうわけやな!?こりや気合が入るつてもんやで!？」

辻「決勝かどうかはともかく・・・早速だが、COはないのか？いるなら言つてほしいが・・・？」

照「・・・じゃあCOする。私、占い師・・・!」

董「む・・・照が占い師だったのか・・・？」

竜「ほ、ほんまやろうか？もしかしたら、人狼の騙りかもしれないんで・・・!？」

洋「確かなな。他に占い師のCOはないんか？」

辻「あるんだつたら早くしてくれ。後で『本当は・・・』と言われても、信憑性は薄いぞ?。」

洋「・・・ないみたいやな？」

董「・・・ふむ。他に占い師の候補はいないんだな・・・？」

竜「き、きつとそうやで！チャンピオンがほんまの占い師や！」

辻「そう決め付けるには早合点過ぎる気がするが・・・では宮永。占いの結果を教えてください。」

董「・・・ならその前にCOだ。私は怪盗だ。対抗はいるのか？」

洋「・・・つてマジでかい!？」

竜「ほ、ほんまなん!？」

辻「ふむ?・・・ちなみに愛宕と清水谷は、怪盗のCOはないのか?あるのだったら今のうちだぞ?」

竜「な、ないで!?!うちは役無しの村人やった!」

洋「うちも同じや。残念やけど、役無しやで・・・!」

辻「・・・私も同じくだ。では、この2人の答え次第ということだな。2人とも、答えを教えてください。」

照「・・・うん。私は、辻垣内さんを占って、村人であることを確認した。」

董「私は愛宕と交換したな。村人だった。」

辻「・・・ふむ。」

洋「確かにうちは村人や。こん場合怪しいのは・・・！」

竜「・・・う、うち!?うち人狼ちゃうからな!？」

辻「・・・さて、宮永と弘世はどう見る?お前たちが騙りでない限り、人狼の可能性は清水谷だけのようだが・・・?」

照「・・・可能性はある。だけど、私目線で確実なのは辻垣内さんだけ。もしかしたら、スミレと愛宕さんでW人狼か、もしくはスミレだけが人狼の可能性もある・・・!」

董「それは私も同じだ。私目線、確実なのは愛宕だけだ。照と辻垣内のW人狼か、照だけが人狼という可能性もある。無論、清水谷とて同じだ。」

洋「むう・・・こりや、どつちを信じるかで決めたらええんやろか・・・?」

竜「せやけど、うちは人狼ちゃうで!?!ほんまに洋榎と辻垣内はんが村人やつちゆうんなら、人狼おらへんつちゆう可能性もあるんやない!?!」

辻「可能性は確かにある。だがそれで人狼がいた場合、平和処理をすると人狼の一人



勝ちだ。・・・勝負である以上、中途半端な答えは出したくないが・・・?」

照「・・・スミレ。本当に嘘ついてない?間違ひなく怪盗・・・?」

董「間違ひなくだ。むしろ、お前こそ本当に占い師なんだろうな・・・?」

洋「・・・どないすればええんや?怪しい奴に投票でええんか?」

竜「つて、それやうちがあかんとちやう!?!うち吊つたら人狼勝ちやで!?!」

辻「人狼がいればだな。・・・点数に差はつかないが、平和処理という手もある。その場合、右手にいる奴に投票だが・・・」

照「・・・正直、真偽が分からない。この村、もしかして人狼がいらないんじや・・・?」

董「・・・過信はできないが、少なくとも清水谷は嘘をついていなさそうだな。だとすると平和処理か、もしくは照を指名するが・・・?」

照「・・・私が吊られても同じ。敗北は確定・・・!」

洋「・・・だく!ほんまにどうすればええねん!?!」

辻「・・・仕方ないな。あまり気は乗らんが、平和処理で人狼がいなことを願うしかあるまい・・・」

竜「や、やっぱ、それしかないんやろか・・・?」

ふ：ここでのこり30秒を切った〜!

30：それでは、投票をまとめてください。

照「・・・時間も無い。残念だけど、平和処理に賛成・・・！」

董「確かに、この状況では仕方ないな。・・・照。お前、本当に占い師なんだよな・・・？」

照「間違いない・・・！」

洋「むう・・・なんか中途半端な結果やで・・・！」

竜「しゃ、しゃあないで・・・人狼おらのなら、これしかあらへん・・・」

洋「・・・なあ清水谷。お前ほんまに人狼ちやうやろな・・・？」

竜「ほ、ほんまやで!？」

辻「・・・今日は右の奴に投票だ。くれぐれも間違えるなよ？」

ふ：さあ、投票の時間がやってきたぞ!!

30：それでは、投票をスタートしてください。

### ○投票結果

董(1) ↓ 竜華 竜華(1) ↓ 照 照(2) ↓ 智葉 智葉(1) ↓ 照 洋榎(0) ↓

董

投票の結果、宮永照さんが処刑されました。

董「なっ……!？」

照「え……!？」

竜「……ど、どういうことなん!？」

洋「な、何でや!?!まさかお前が……!？」

辻「……まあ、弘世に投票しても良かったんだがな……」

○結果

弘世董（人狼）

清水谷竜華（村人）

宮永照（人狼）  
↓ 吊り

辻垣内智葉（占い師）

愛宕洋榎（村人）

人狼が吊られたため、村人の勝利です！

董「なっ……潜伏したまま、黙っていたということか……!!」

照「……ご、ごめん。スミレ……」

竜「……へ……?」

洋「……って、棚ボタ勝利やないか!？」

辻「……私目線、あの2人は人狼確定だったからな。平和処理ということで騙せるのなら、そのほうが確実だ……」

### ○初日の行動

弘世董（人狼） ↓ 宮永照が仲間であることを確認する

清水谷竜華（村人） ↓ 何もせず

宮永照（人狼） ↓ 弘世董が仲間であることを確認する

辻垣内智葉（占い師） ↓ 伏せの役職が『村人』と『怪盗』であることを知る

愛宕洋榎（村人） ↓ 何もせず

ふ「今回は村人の勝利でした〜!辻垣内さんの頭脳プレーが炸裂したか〜!？」

30「COしてきた2人が人狼だと分かったことで、逆に平和処理という、人狼には美味しい結果をぶら下げて、見事に吊ってみせました。」

ふ「この場合、やっぱり人狼は辻垣内さんを怪しんだほうが良かったのかな？」

30「そうですね。自分たちにとって有利な答えを出した、辻垣内さんの役職を怪しむことも確かに必要かと。ですが平和処理になったのですから、弘世さんが辻垣内さんに投票して、票操作で村人を吊ってしまうという手もありました。今回の場合は、それでは手詰まりでしたがね。．．．おそらくなんです、もし平和処理に賛同されなかったら、辻垣内さんもCOするつもりじゃなかったんでしようか．．．？」

ふ「だけど、明らかに後出しじゃ怪しまれない？」

30「宮永さんの対抗だし、その宮永さんの占い結果を否定することになるからね。おそらく自分と宮永さんを吊り候補にしたんじゃないか？」

ふ「なるほど．．．つまり！まだ奥が深いつつことだね！すこやん!!」

30「そうだね。．．．ともかく、これで3回戦が終了いたしました。」

ふ「ではついに4回戦だく!!前半戦ラストは、一体どうなるのかく!!」

30「頑張つて推理してください。それでは、スタートです。」

○ワンナイト4回戦 A・はやり B・メグ C・誠子 D・良子 E・咏

☆「やっと出番だぞ☆」

M「待ちくたびれマシタ！」

誠「ともかく、よろしくお願いします。それで、早速なんですがCOしていいでしょうか？」

戒「構いませんよ？」

咏「亦野の嬢ちゃんは、何のCOをするのかね〜い？」

誠「私は、占い師のCOをします。」

戒「・・・なるほど。ちなみに私も占い師のCOをしますので、これで1人見つかりました。」

☆「つまり、どっちかが偽者だね★」

M「・・・それで、占いの結果を教えてくださいませマスカ？」

誠「私の結果は、戒能プロが●です。」

戒「私は、選ばれなかった役職が村人と人狼であることを確認しました。・・・つまり、亦野さんを吊れば終了ですね。」

誠「私からすると、まさに戒能プロが人狼なんですけどね？」

M「・・・なら、この2人を吊ればいいんじゃないでショウカ？」

☆「それでいいと思うんだけど・・・？」

咏「うん？確かにその通りだとは思うんだけどね・・・？」

誠「ちなみに、怪盗の方はいますか？私目線では分かりませんが、いるのでしたらC

Oしてほしいのですが・・・？」

戒「いるはずですよ？ですが・・・」

☆「・・・あれ？」

咏「ん？・・・おいおい。こいつはまさか・・・？」

M「・・・もしかすると、人狼と交換してしまったのではないデスカ・・・!?」

戒「・・・困りましたね。これだと、私と亦野さんの両吊りはできませんよ？」

誠「確かに、危ないところですね・・・！」

☆「けど、どっちかが騙りなのは確実なんだよね？その2人は吊らないで、私たちの中から誰かを選ぶの？」

M 「仕方ありませんヨ？ですがもし亦野さんが真で、怪盗がいなかった場合、それは敗北でスガネ・・・」

咏 「・・・ふむ・・・」

咏 「・・・わっかんね〜。じゃあCOすつけど、私怪盗ね〜！メガンちゃんと交換して、村人にならわってらぜ〜い？」

誠 「・・・なるほど。」

☆ 「だとすると、私だけ完全グレーだぞ☆」

M 「・・・私と、デスカ・・・」

戒 「・・・」

戒 「・・・CO人狼です。私の仲間はメグさん。彼女と交換して村人と言ったということは、三尋木プロはおそらく私と交換してますね。」

咏 「・・・」

M 「・・・何言ってるんデスカ？私、役無しの村人ですよ？」



☆「……咏ちゃん★」

誠「……なら、もういいですかね。」

誠「人狼がCOしましたので、占いCOを撤回します。私は村人です。」

戒「む……」

誠「私目線、この村には占い師はいないと思います。そして嘘をついた三尋木プロと……あとは、白状した戒能プロを吊ればいいかと。」

M「……騙されないでください。私、間違いなく村人デスヨ？」

☆「咏ちゃん、嘘は駄目だぞ★」

戒「私からしても、おそらくはそれでいいかと。三尋木プロが破綻したのは事実ですし。」

咏「ああ、私もそれでいいぜ？なら私と亦野の嬢ちゃんが戒能プロに。メガンちゃんと戒能プロが私に。それで確実に村人な瑞原プロは、メガンちゃんに投票しちゃつてよ。」

ふ：さあ、残り30秒だく!!

30：今日の投票の結果をまとめてください。

戒「・・・諦めた、ということですね？」

M「・・・考え直してくダサイ。皆さん、何かおかしくはありませんか？」

咏「構わねくぜ？だって私が交換したの、本当は瑞原プロで村人だしねくい。人狼吊つちやえば勝利だぜくい。」

誠「・・・な、なんと・・・」

☆「・・・この村、嘘つきばかりだぞ★」

咏「投票はさつきの通りで頼むぜくい？変えてもいいけど、結果は変わらないけどねくい。」

M「・・・ハア・・・」

戒「」

ふ：ではお時間でつす！

30：投票を始めてください。

○投票結果

はやり(0) ↓メグ メグ(1) ↓咏 誠子(0) ↓良子 良子(2) ↓咏 咏(2)  
↓良子

投票の結果、戒能良子と三尋木咏が処刑されました。

咏「おそらく、大丈夫だと思っただけけどね〜い？」

☆「私、何もしてないぞ☆」

誠「少しでも人狼を炙り出したくて騙ってみたけど、大丈夫だったかな・・・？」  
M「・・・裏切ろうとするからデスヨ？」

戒「・・・ソ、ソーリー・・・！」

○結果

瑞原はやり(怪盗)

メガン・ダヴァン(人狼)

亦野誠子(村人)

戒能良子（人狼）

↓ 吊り

三尋木咏（村人）

↓ 吊り

人狼が処刑されたため、村人の勝利です！

誠「よ、良かった〜・〜！」

☆「む〜・〜何だか、ついでで勝つたみたいで嬉しくないぞ★」

咏「私目線、メガンちゃんだけが分からなかつたからね〜い。占い2人の投票で票操作されたら嫌だから、騙ってみて正解だぜ〜い。」

M「〜・〜残念デスネ〜・〜」

戒『反省中』

### ○初日の行動

瑞原はやり（村人）

↓ 何もせず ↓ 怪盗に入れ替えられる

メガン・ダヴァン（人狼）

↓ 仲間が戒能良子であることを確認する

亦野誠子（村人）

↓ 何もせず

戒能良子（人狼）

↓ 仲間がメガン・ダヴァンであることを確認する

三尋木咏（怪盗）

↓ 瑞原はやりと入れ替わる ↓ 村人になる

ふ「今回も、村人の勝利だく!!」

30「・・・咏ちゃんも考えたね。亦野さんが騙ることで、吊りを2人に絞った。そして咏ちゃんがメガンさんにカマをかけたことで、逆に良子ちゃんが誤解してCOしちゃう結果になった。」

ふ「そして自白した戒能プロと、怪盗の三尋木プロを吊る流れになりましたく!何だか面倒くさいぞく!」

30「そういうことは言っちゃ駄目だからね!・・・と、とにかく、これで4回戦までが終了しました。」

ふ「現在の結果は、このようになっております!!」

○チーム合計

Aチーム 1点

Bチーム 2点

Cチーム 2点

Dチーム 3点

Eチーム 3点

30 「現在のところ、DチームとEチームがやや優勢つてところだね。」

ふ 「逆に、Aチームはいきなり苦境に立たされたぞく!？」

30 「だけど、ここからの展開次第では十分に逆転が可能だよ。Aチームの皆はもちろん、どのチームも諦めないで頑張つてね？」

ふ 「ここで、ちよつとだけ休憩を入れます！」

30 「各チームごとに別れ、思い思いに過ごしてください。5回戦からは若干ルールも変わりますので、気をつけてくださいね？」

ふ 「それでは、休憩開始だくく!!」

30 「・・・別に、それを強く言わなくてもいいと思うよ・・・？」

続く・・・

## 5チーム対抗戦②

ふ「というわけで、今回はちょっと特別なルールだ〜！」

30「以下になりますので、じゅうぶんに注意してください。」

## ○カード枚数

村人 × 3枚

占い師 × 1枚

怪盗 × 1枚

人狼 × 2枚

テルテル × 1枚

ふ「……………宮永さん？」

30「違うからね。説明は以下の通りです。」

## ○テルテル

村の役職の一つ。

特集能力は一切無いが、もし投票で吊られた場合、テルテルの単独勝利となる。

この場合、加点は2点とする。

村の役職だが、村が勝利しても、自分が吊られていなければ加点は無い。

とにかく怪しまれて吊られに行くべし!!

ふ「まくた難しい役職が増えたぞ〜!?!」

30 「増やしたの恒子ちゃんだよね!?! . . .とにかく、もしテルテルの役職に当たった場合には、吊られに行かなくちやいけませんね。万が一占われたりしたら、ほぼ勝ち目は無いと思つていいでしょう。」

ふ「いったいどういう結果になるのか、今から楽しみだ〜!」

30 「ちなみに枚数が増えたことにより、占い師の行動が『選ばれていない役職2つを知る』から『選ばれていない役職3つを知る』に変更になっています。誰かの役職を知るといふ行動に変わりはないので、好きなほうを選んでください」

ふ「そして今回は、時間は3分でいくぞ〜!」



30 「残り30秒で声をかけますので、しっかりと話し合ってください。」

ふ 「それではワンナイト人狼ゲーム！第1回戦！スタートだくくく!!」

30 「いや、5回戦だからね!？」

○ワンナイト5回戦 A・はやり B・竜華 C・照 D・堯深 E・淡

☆ 「今度は負けないぞ☆」

竜 「それはうちもですわ！洋榎ちやうけど、柵ボタ勝利なんてごめんやで！」

照 「私も負けない・・・それで、誰かCOはあるの・・・？」

堯 「あるのでしたら、早いうちに聞いておきたいのですが・・・？」

淡 「さつきよりは少し長くなつたみたいだけど、正直あんまり変わらないしね！で、誰かいるの？」

☆ 「それじゃあ、占いCOだぞ☆」

竜「む……!？」

照「……対抗はいない？」

堯「……いなさそうです。なら、瑞原プロが真ということで大丈夫でしょうか……?」

淡「分つからないよお〜!もしかしたら、人狼の騙りかもしれないしねっ!」

☆「私が真かどうかは、みんなに判断してほしいんだぞ☆それで私は、選ばれなかった3つの役職を調べたぞ☆」

竜「ちなみに、それはなんやっただんですか……?」

☆「私が見たのは、村人と人狼、それにテルテルだったぞ☆だから私目線、この中に人狼1人と怪盗がいるはずだよ☆」

堯「……それが本当なら、テルテルはいないってことだよね……?」

淡「てるくはいるけどねっ!」

照「……私はいるけど、そんな役職ではない。それで、本当に対抗はいない？」

竜「いるんだつたら聞かせてほしいで!？」

☆「……なら、私を信じてほしいぞ☆」

照「……」

堯「……これは、本当に真と見てもいいんじゃない？」

竜「せやけど、騙りの可能性もあるで……？」

淡「むう……もしはやりんが真だとしたら、怪盗がいるはずなんだよね？怪盗って誰なの？」

照「……怪盗CO。私目線でも、まだ瑞原プロが真かどうか分からない……」

竜「宮永さんがそうやったんやな……」

照「……ちなみに、交換したのは堯深。堯深は村人だった。」

堯「合ってます……だとしたら、残るは淡ちやんと……？」

竜「うちもそうやな。せやけど、そう簡単な問題とはちやうと思うで……？」

淡「確かにねっ！はつきり聞くけど、てるって本当に怪盗なの？」

照「む……私は、間違いなく怪盗……！」

☆「ただ、私の占い結果を聞いて、渋谷さんが村人だって気づいただけかもしれない

よ?もしかしたら、人狼と交換しちやったんじやないの?」

竜「その可能性も大いにありますわ!せやけど問題はもう一つ、瑞原プロの真偽も残ってるで!」

堯「でも、今のところ破綻はしてないみたいだけど・・・?」

竜「無難な結果を言つて、それが当たってるだけかもしれないやん!?・・・うちの希望は、瑞原プロと宮永さんの両吊りや!」

照「・・・私は人狼じゃない。それに、瑞原プロも真だったらどうするの・・・?」

☆「私も同じだぞ☆宮永さんが本当に渋谷さんと交換したら、村の負けだよ?」

堯「・・・どうすればいいでしょうか?正直、私としては清水谷さんが少し怪しい気が・・・?」

淡「ふっふくん・・・何だか、真を消したがつてるように見えるよね?」

竜「うちはちゃんと考えて言つとるんやで!」

照「・・・清水谷さんが怪しい。もし瑞原プロが真なら、候補は清水谷さんか淡のどちらかだし・・・」

淡「どうすんの?竜華吊つちやつていいの?」

☆「うくん・・・宮永さんを信用するなら、その2人で構わないんだけど・・・」

堯「・・・本当に、私と交換しました・・・?」

照「……した……！」

竜「せ、せやからうちはちやうって!?!ちゃんと考えなあかん!?!」

ふ：さあ、残り30秒を切りました〜!

30：急いでください。時間がなくなりますよ?

☆「……せめて2人は吊りたいしね。なら大星さんと渋谷さんは、清水谷さんに投票して?それで私と宮永さんが交互に投票。そして清水谷さんは、私と宮永さんのどちらかに投票して?」

堯「……確かに、それなら2人は吊れますね……」

竜「むう……せやけど、うちやなくてそつちの2人を吊りたいんやけど……?」

☆「問答無用で投票するぞ★」

竜「……うう……」

照「……決まり。なら私は、瑞原プロ……!」

淡「私は竜華だねっ!きつと竜華が人狼だよっ!」

堯「それならいいんだけど・・・淡ちゃん、まさか人狼じゃないよね・・・？」  
 竜「な、なんか嫌な予感がするんやけど・・・？」

ふ：時間だあゝ!!

30：それでは、各自投票してください。

○投票結果

はやり(1) ↓ 竜華 竜華(4) ↓ はやり 照(0) ↓ 竜華 堯深(0) ↓ 竜華 淡  
 (0) ↓ 竜華

投票の結果、清水谷竜華さんは処刑されました。

竜「」

☆「・・・ん？」

淡「あ、あれれ・・・？」

堯「・・・え？」

照「・・・ようやく、いい所を見せられた・・・！」

○結果

瑞原はやり（怪盗）

清水谷竜華（村人） ↓ 吊り

宮永照（人狼）

渋谷堯深（村人）

大星淡（人狼）

人狼が処刑されていないため、人狼の勝利です。

竜 「せやから言うたやないか〜!？」

堯 「も、申し訳ないです・・・」

淡 「えっと、勝ったみたいだけど・・・？」

☆ 「・・・ちよつと待て、だぞ★」

照 「・・・勝者は、優雅に去るのみ・・・」

○初日の行動

瑞原はやり（人狼） ↓ 大星淡が仲間であることを確認する ↓ 怪盗になる

清水谷竜華（村人） ↓ 何もせず

宮永照（怪盗） ↓ 瑞原はやりと入れ替わる ↓ 人狼になる

渋谷堯深（村人） ↓ 何もせず

大星淡（人狼） ↓ 瑞原はやりが仲間であることを確認する

ふ「今回は人狼の勝利だ〜!!」

30 「はやりちゃんを残念でしたね。上手く真占いであるかのように振舞えたけど、宮永さん目線では騙りだとぼれていましたから・・・」

ふ「けど大星さんが仲間だってことまでは分からなかったみたいだねっ!!」

30 「おそらく、宮永さんにとつてもそこは賭けだったんだと思うよ？もし渋谷さんが人狼だったりしたら、それこそ人狼たちには察しがついちやうだろうしね。」

ふ「けど清水谷さんは惜しかった！人外をほぼ当てたといつてもいいんじゃないか〜!?!」

30 「やはり推察だけでは、どうしても信憑性が薄いしね。それでも信じてもらおうっていうのが大変なんだよ。」

ふ「ではでは、さっそく第6回戦です！」



30 「……ちなみに聞きたいんだけど、この順番ってどうやって決めてるの？ 清水谷さんと宮永さんは、4回戦でも当たってるよね？」

ふ 「適当です！ くじで決めてるので、場合によっては同じ人と当たり続ける可能性もありまっす！」

30 「……行き当たりばったりじゃなくて、もう少し考えて行動したほうがいいよ？ 本当に……？」

○ワンナイト6回戦 A・董 B・春 C・誠子 D・智葉 E・初美

董 「さて、今度こそいいところを見せたいものだが……？」

誠 「今度も、勝たせてもらいます！」

辻 「……それは、人狼としてか？」

誠 「ち、違いますよ!？」

初 「いきなり怪しいのですよ。とりあえず、誰かCOはありますか？」

春 「……COする。私、占い師。」

辻「ふむ。・・・で、対抗はいるのか？」

誠「いるんですか・・・？」

董「・・・対抗だ。占い師は私だ。」

春「む・・・！」

董「私目線、滝見が騙りは確実だな。それで、占い内容なんだが・・・」

董「私は選ばれていない役職を調べた。村人・人狼・怪盗だ。」

春「私も選ばれてない役職を調べた。村人・村人・人狼だった。」

初「・・・なら、この2人を吊ればいいんじゃないですか？」

辻「・・・そうはいかん。どちらが真にしろ、共通して分かっていることがある。」

誠「もしかして、このどっちかって・・・!？」

春「・・・弘世さんは、人狼かテルテル・・・！」

董「私目線も同じだ。君は人狼かテルテル、どっちかだ。」

誠「なら、両吊り出来ないじゃないですか・・・!?」

辻「・・・対抗はもういないんだったな。なら、怪盗はいるのか？」

初「・・・いないみたいですよ？」

董「怪盗はいないはずだ。それより今話し合うべきは、滝見を吊っているのかどうかだろ？」

春「違う。怪盗は必ずいる。でも出てこないってことは・・・!」

辻「・・・人狼と交換したか、もしくはテルテルと交換したかってことだろうな。」

誠「なら、どうしますか?この2人をのぞいた3人で投票を・・・?」

董「・・・素直に賛成はし辛いな。私はともかく、もし滝見が本当に人狼で、そつちにテルテルがいたらどうなる?」

初「村が負けちゃうのですよ・・・!?」

春「私としても、それは困る。ここはちゃんと考えるべき・・・!」

誠「とは言っても、こつちの中で怪しいのって・・・!?」

辻「・・・私は村人だ。役無しだな。」

初「わ、私も村人なのですよ〜!」

誠「私も村人ですけど・・・」

董「・・・確実に、騙りが1人いるな。問題は、その人物が人狼なのか、それともテルテルなのか・・・」

春「私目線、騙っているのは2人。・・・でも、弘世さんが怪盗の可能性も・・・」

辻「・・・なるほど。弘世が人狼かテルテルと入れ替わっている可能性か・・・!」

董「ないな。私は占い師だ。」

春「占い師は私・・・!」

誠「・・・なら、やはりここはテルテルを吊らないためにも、こっちの3人から・・・?」

初「ですから、もしどっちかが人狼なら負けちゃうのですよ〜!」

董「・・・やけにそちらを吊りたがっているな?」

春「・・・私も、そう思った・・・」

誠「・・・へ?」

辻「・・・亦野がテルテルなんじゃないか?投票先に自分を入れようとしているしな。」

誠「つて違いますって!」

董「・・・提案だが、亦野は避けたほうがいい。これで人狼ならアウトだが・・・?」

初「わ、私もそう思うのですよ〜！」

誠「いや、そりゃ吊られないにこしたことはないですけど・・・!?」

ふ：さあ、残り30秒を切ったぞ〜!

30：今回は話すべきことが多いみたいですが、ちゃんとまとまるのでしょうか・・・?

辻「・・・時間がないな。亦野はテルテルと仮定して、占いの怪しいほうに投票か・・・？」

董「私はそれでも構わんぞ。もし亦野がテルテルで当たりなら、滝見は人狼だからな。」

春「・・・迷う。亦野さんがテルテルでも、弘世さんが人狼かどうかは・・・!?」

初「けど、もう時間がないのですよ・・・!?」

誠「な、なら2人のどっちかに投票でいいんですね・・・!?」

董「滝見に投票することを進めるぞ？少なくとも私がテルテルなら、私の勝利はなからう?」

春「でも、弘世さんが人狼だったら・・・！」

辻「・・・迷ったな・・・」

初「け、結局どうすればいいんですか!?!」

ふ：そしてここで、タイムアップだ!

30：それでは、投票スタートです。

### ○投票結果

董(3) ↓ 誠子 春(1) ↓ 董 誠子(1) ↓ 董 智葉(0) ↓ 春 初美(0) ↓ 董  
投票の結果、弘世董さんが処刑されました。

董「・・・あぁしまった。投票先を間違えてしまったな。」

誠「へ・・・?」

春「・・・嘘・・・」

初「」

辻「くっ・・・嫌な予感的中したか・・・!?!」

### ○結果

弘世董（テルテル） ↓ 吊り

滝見春（占い師）

亦野誠子（怪盗）

辻垣内智葉（人狼）

薄墨初美（村人）

テルテルが吊られたため、テルテルの勝利です！

辻「まさかあいつに騙されるとは……!?」

誠「ふえ!? だってテルテルって……!?」

初「しょんぼりなのですよ……」

春「……またやられた……」

董「ふむ。……確かに、勝つと気分がいいものだな……!」

○初日の行動

弘世董（怪盗）

↓ 亦野誠子と入れ替わる ↓ テルテルになる

滝見春（占い師）

↓ 選ばれなかった役職が、『村人・村人・人狼』であること

を確認する。

亦野誠子（テルテル） ↓ 何もせず ↓ 怪盗に入れ替えられる

辻垣内智葉（人狼） ↓ 仲間がいないことを確認する

薄墨初美（村人） ↓ 何もせず

ふ「というわけで、見事テルテルが吊られてみせたぞ〜！」

30 「最後の弘世さんの投票は、あくまで念のためって感じだろうね。自分はずらして、うまくいけば2対2で両吊りされる可能性を残したってとこかな？」

ふ「そしてこれで、Aチームには2点追加でつす！」

30 「これでまずまず状況が読めなくなってきましたね。今後に期待しましょう。」

ふ「それでは次は、第7回戦で〜す！」

30 「折り返しだね。12回戦の予定なので、ここからはさらに目が離せません。」

ふ「それじゃあ早速、第7回戦スタートだ〜!!」

30 「諦めずに頑張ってくださいね？」

○第7回戦 A・絹恵 B・メグ C・怜 D・良子 E・洋榎



洋「よっしゃ出番や〜！ほんで、さっそくCOはおらんのか〜!!」

怜「洋ぼんとぼし過ぎやで？もうちよいゆつくりしようや？」

絹「そうやでお姉ちゃん？ちゃんと落ち着いて考えんと？」

M「ですが、確かに早く知りたいでデスシ・・・？」

戒「そうですね。ではさっそくですが・・・」

戒「怪盗のCOです。私は園城寺さんと交換しましたが、彼女は村人でしたね。」

怜「まあ確かにうちは村人やな。ほかの怪盗COがないんなら、うちは戒能プロを怪盗つちゆうことで見ろで？」

絹「他にはおらんのですか？つちゆうてもうちは役無しなんやけど・・・？」

M「私も役無しデスヨ。お姉さんのほうは占い師じゃないんデスカ？」

洋「あいにくうちも役無しやな。つちゆうことは・・・」

戒「・・・占い欠けですね。ですが村人4人はありえませんで、確実に1人は騙りがいます。だとすると、そっちのお3方の中から選ぶべきかと思えますが・・・？」

絹「まあそれでもええんやろうけど・・・？」

M「・・・戒能プロ。本当に怪盗デスカ？」

戒「オフコース。嘘はついてませんよ？」

洋「つちゆうても、素直に信じるのもあれやしなく。最悪、戒能プロと怜やんで2ウルフつちゆう可能性もあるで？」

怜「うちは人狼ちやうで？せやけど、確かに戒能プロが人狼の可能性も否定できんのかな……」

絹「ほな、念のため戒能プロと、他の誰かつちゆうことにします？」

M「ですが、もし戒能プロが……？」

洋「そりやあかんで？絹？戒能プロがテルテルやないって保証はどこにもあらへんや。」

絹「あ、そか……！」

戒「疑われるのは仕方ありませんが……現状、違うとしか言えませんね……」

怜「んく……他のCOが一切ないんやし、うちは戒能プロが真で見たいわ。戒能プロが真なら、うちも村人で確定やしな？」

M「それにその場合、戒能プロがテルテルなら勝利できませんシね？」

洋「これが騙りやと困るんやけど……ヒントが少なすぎるわ。ほなこの2人は村確として、こつちの3人で選ぼか？」

絹「なら怪しい人やな？ほんならお姉ちゃんであええ？」

洋 「って何でや!？」

怜 「洋ぼん、うちらのために犠牲になってほしいわ……!」

M 「グッバイデスネ〜♪」

戒 「まあ、仕方がないことかと。」

洋 「いやあかんやろ!?!うち村人なんやから、うちだけ吊つても負けやで!?!」

絹 「そう思ってたんの、実はお姉ちゃんだけなんちゃう?」

洋 「絹う〜!?!」

戒 「……まあ冗談はともかくとして、本当にどうしましようかね……?」

怜 「ん〜……最低2人吊つて、その中に人狼がいるつちゆうのが一番いいんやろう

けど……?」

M 「ですが、テルテルいるかもしれないまセンヨ〜?」

絹 「そうなんですわ……なあお姉ちゃん?ほんまに柱C O せえへん?」

洋 「するか!?!ワンナイトで柱C O って誰得やねん!?!」

戒 「困りましたね。テルテルさえいなければ、問題はないのですが……」

M 「吊つたら負けですカラネ……」

絹 「ん〜……せやけど、時間も残り少ないし……?」

怜 「あかんなあ……ヒント多くても困りもんやけど、ほぼノーヒントつちゆうのも

困りもんやで・・・」

ふ：つと、ここで残り30秒だろ!?

30：今回も迷いそうですね。残り少ない時間、しつかり話し合ってください。

M「と言われましテモネ・・・」

絹「何を話せばええんかつちゆうことですよね・・・?」

怜「・・・しやあない。3人の中から選んで投票しよか?」

戒「時間もありませんしね・・・」

洋「むう・・・もう一回言うとかけど、うちほんまにちやうからな?」

絹「・・・なんか、ほんまにお姉ちゃんか怪しく見えてきたんやけど・・・」

怜「・・・」

戒「・・・」

ふ：そこまでだろ!

30：では、みなさん投票を始めてください。

○投票結果

絹恵(2) ↓ 洋榎 メグ(1) ↓ 洋榎 怜(0) ↓ 絹恵 良子(0) ↓ 絹恵 洋榎(2)  
↓ メグ

投票の結果、愛宕絹恵と愛宕洋榎が処刑されました。

絹 「つてうちも!？」

M 「絹恵さん、怪しかったでシヨウカ・・・？」

洋 「・・・まさか、ほんまにあの2人で2ウルフちやうやるな・・・!？」

怜 「・・・なくんか絹ちやんが気になったんやけど・・・？」

戒 「まるで、お姉さんに票を集めようとしているかのようでしたが・・・？」

○結果

愛宕絹恵(人狼) ↓ 吊り

メガン・ダヴァン(村人)

園城寺怜(怪盗)

戒能良子(村人)

愛宕洋榎(村人)

↓ 吊り

人狼が処刑されたため、村人の勝利です！

絹「あかん、またやってもうた・・・!?」

洋「つてこら絹うゝ!?」

M「ナント・・・絹恵さんが人狼だったのですか・・・!?」

怜「・・・当たったみたいやな。やれやれやで・・・」

戒「危ないところでしたね・・・」

### ○初日の行動

愛宕絹恵（人狼） ↓ 仲間がいないことを確認する

メガン・ダヴァン（村人） ↓ 何もせず

園城寺怜（村人） ↓ 何もせず ↓ 怪盗に入れ替えられる

戒能良子（怪盗） ↓ 園城寺怜と入れ替わる ↓ 村人になる

愛宕洋榎（村人） ↓ 何もせず

ふ「な、なんと！あの状況で見事に人狼を吊つてみせたぞ〜!」

30 「絹恵さんは惜しかったね。見事に気配を隠して吊り逃れしそうだったんだけ

ど・・・」

ふ「でも、何で吊られちゃったのかな？」

30 「園城寺さんと良子ちゃん。勘がいい2人に、疑問を持たれたつてところが敗因かな？ 最期の最後までお姉ちゃんを疑ったところが、逆に誘導のように感じられちゃったつてことじゃないかな？」

ふ「確かに、あの状況だと妹さんは吊り対象にはならなさそうだったしね！」

30 「あとちよつとだったんだけどね。・・・ともかく、これでAチーム以外の4チームに1点ずつ入りました。」

ふ「次が中盤戦の最期！ 第8回戦だ〜!!」

30 「どうなるか楽しみだね。それじゃあ時間も押してるし、始めようか？」

ふ「ところですこやん！ 次からどういうルールにする!？」

30 「・・・時間が押してるつて言つたよね？・・・それでは、第8回戦、スタートです。」

○第8回戦 A・靖子 B・霞 C・巴 D・小蒔 E・咏

靖「さて、ようやく出番だ・・・」

巴「よろしくお願ひしますね？」

咏「にしても、また永水の3人だね〜い？」

小「そうですね！さつきは霞ちゃんじゃなくて春ちゃんでしたけど、でも頑張りますっ！」

霞「私も頑張るわ。それで早速なんだけど・・・」

霞「占い師COよ。藤田プロ、人狼ね。」

小「ち、違います！占い師CO！霞ちゃんが人狼です！」

靖「ほう・・・なら私目線、騙りは石戸だな・・・！」

霞「違うわね。人狼は間違ひなく藤田プロ。それで小蒔ちゃんが人狼か、もしくはテレルね。」

小「占い師は私です！藤田プロの役職は分かりませんが、人狼は霞ちゃんです！」

巴「えっと・・・この場合、どうしたらいいんでしょうか？霞さんと藤田プロか、霞さんと姫様か・・・？」



咏「……怪盗COだぜ〜い。私が交換したのは神代の姫さんだ。だから私は、神代の姫さんの意見に乗っかるぜ〜い……?」

霞「……」

靖「三尋木プロが怪盗ですか……」

巴「え?……なら、霞さんが騙りだつて証明されるんじゃない?」

霞「……さすがにこの展開じゃキツイかしらね。人狼COよ」

小「霞ちゃん、罪を認める気になつたんですね……!」

霞「罪を犯した記憶はないのだけど……ただこの状況だと、私が吊られて終わりそうだったしね……」

靖「ふむ……確かにこの場合、もし石戸が真なら、私とその2人で人狼3匹というありえない結果になってしまうからな。」

巴「もしかしたら、テルテルが騙りに乗っているとかは……?」

咏「人狼はともかく、テルテルのメリツトがないぜ〜い? ありや吊られなきや負けな役職だぜ〜い?」

霞「……この際言ってしまうけど、人狼は私だけです。そして今回の吊りだけど、私と三尋木プロでお願いしたいわ。」

小「え……？」

霞「確かに私は人狼だけど、もしかしたら三尋木プロが交換したのは小蒔ちゃんじゃなくて、実は私だった。そういう可能性も残ってるしね……？」

咏「そりゃあないね。でも、それでお前さんが納得するんだったら、私は構わないぜ？」

靖「……なるほど。ならその2人は交互に投票だな。なら人狼扱いされたし、私が石戸に投票でもいいか？」

小「な、なら私は三尋木プロに投票でいいでしょうか？」

咏「……いや、狩宿が私に投票で、神代の姫さんは適当に投票してくれねえか？ 目線、まだ狩宿はグレーのまま。石戸が実は嘘ついて、仲間を隠してるって可能性もあるかな……？」

巴「わ、私違いますよっ!？」

霞「人狼は、私1人だけですよ？」

靖「ふむ。・・・なら、私が適当に投票しましょうか？狩宿は三尋木プロで、神代が石戸だ。」

咏「それなら、まあ構わねーぜい？」

ふ：さあ残り30秒を切った！！

30：中盤戦ラストの結果は、一体どのような結果になるのでしょうか？

霞「・・・私もそれで構わないわ。私と交換してくれていることを願うとしましよ  
う・・・」

咏「だからそれはありえねーっての。」

靖「まあ、もう打つ手が無いわけだしな・・・」

巴「こ、これで今度こそ村人の勝利ですね!？」

小「はいっ！私、頑張りました!!」

ふ：ここで時間だー！

30：それでは、投票スタート。

## ○投票結果

靖子(0) ↓ 咏 霞(2) ↓ 咏 巴(0) ↓ 咏 小蒔(0) ↓ 霞 咏(3) ↓ 霞  
 投票の結果、三尋木咏さんは処刑されました。

咏「・・・へ？」

巴「え、嘘っ!？」

小「な、何でですか!？」

靖「・・・下手をすると、仲間を吊ってる可能性もあるんだよね・・・」

霞「：：藤田プロは、こうするしかないものね。むしろ、私は勝ちが約束されたわ：：」

## ○結果

藤田靖子(人狼)

石戸霞(人狼)

狩宿巴(村人)

神代小蒔(怪盗)

三尋木咏(占い) ↓ 吊り

人狼が残っているため、人狼の勝利です！

巴「藤田プロ、本当に人狼だったの!？」

小「そ、そこまで分かりませんでした・・・」

咏「うう・・・まさか仲間に●つけるだなんて、さすがに予想してないぜ・・・」  
靖「いきなり私の素性をばらしたことは驚いたが、まあ結果的には良かったというこ  
とか・・・」

霞「テルテルがいる村ですもの。上手くごまかせば、何とかなるんじゃないかと思っ  
て・・・」

### ○初日の行動

藤田靖子（人狼） ↓ 仲間が石戸霞であることを確認する

石戸霞（人狼） ↓ 仲間が藤田靖子であることを確認する

狩宿巴（村人） ↓ 何もせず

神代小蒔（占い） ↓ 石戸霞が人狼であることを確認する ↓ 怪盗に入れ替えら

れる

三尋木咏（怪盗） ↓ 神代小蒔と入れ替わる ↓ 占い師になる

ふ「最期は人狼の勝利だ〜!!」

30「あの展開だと、石戸さんはむしろラッキーだったね。藤田さんは仲間を吊れないから、怪盗COをした咏ちゃんに投票するしかないし・・・」

ふ「もし本当に入れ替わってたら、村人勝利で石戸さんも勝利！入れ替わってなかったらご覧の通りだ〜!!」

30「それにしても、よく仲間に●を付けられたね。これで対抗や怪等COとかが出なかったら、本当に靖子ちゃんを吊ることになってたかもしれないよ。」

ふ「その場合はあれじゃない？藤田プロが石戸さんは人狼かテルテルだって言って、票をばらけさせようとしたんじゃないのかな？」

30「多分ね。それで自分たち2人もどこかに投票して、それで吊り逃れするしかないしね。」

ふ「ともかくまあ、これで第8回戦が終了しました〜!!」

30「現在までの各チームの獲得点数は、このようになっております。」

○獲得点数

Aチーム 4点(+3点)

Bチーム 4点(+2点)  
Cチーム 4点(+2点)  
Dチーム 4点(+1点)  
Eチーム 5点(+2点)

ふ「・・・結構横ばいになってるね？」

30「そうだね。でもやっぱり、Aチームのテルテル・・・弘世さんの2点が大きいみたいだね。」

ふ「むうくん・・・何か考えなきや駄目かな？」

30「確かにこのままだと、横ばいのままになりそうだけど・・・」

ふ「・・・ちよつと考えます！ですので、一旦休憩です！」

30「本当、どうしようか・・・？」

続く・・・

## 5チーム対抗戦③

ふ「それでは発表です！最後の試合のルールは、以下ようになります！」

## ○役職

村人×2

占い師×1

怪盗×1

テルテル×1

人狼×2

狂人×1

30「新しく入る役職は、お馴染みの狂人ですね。役割としては従来とは変わりません。上手く騙りを行って、人狼陣営の勝利へと導いてください。」



ふ「そして！今回からは点数が入る方式もちよつとだけ変更です！」

○点数方式

狂人 ↓ 自分が吊られ、人狼の勝利 ↓ 1点

↓ 自分が吊られず、人狼の勝利 ↓ 2点

人狼 ↓ 人狼が1匹での勝利 ↓ 2点

↓ 人狼が2匹での勝利 ↓ 1点

テルテル ↓ 吊られたら3点

↓ それ以外は0点

村人陣営職 ↓ 通常勝利時 ↓ 1点

↓ 人狼2匹、狂人1匹がいる状態で勝利 ↓ 3点

30 「・・・点数差をつけるためとはいえ、面倒になっちゃったよね・・・」

ふ「つていうか、こうするなら最初からそうしろつて話だよね！」

30 「それ自分で言っちゃうの!?!・・と、とにかく、次からはこの内容でやっていきたいと思いますので、よろしくお願いします。」

ふ「会話時間は引き続き3分間です！3分間で、見事に人狼を見つけてください！」

30 「なお、ここからは人狼無しにはならないように設定してあります。勝敗をつけやすくするための措置ですわね。」

ふ 「とかなんとか言ってるけど、ここまで人狼無しのゲームは1回も無かったけどね！」

30 「だからそれはくじ引きの結果であって、ここからは・・・まあとにかく！そういうことでいくからね!？」

ふ 「短気なアラフォーが本格的に怒る前に、始めるぞ!!」

30 「〜!？」

ふ 「それでは第9回戦、スタートだ〜!!」

○ワンナイト9回戦 A・絹恵 B・メグ C・照 D・良子 E・咏

絹 「ほなよろしくですわ。今度こそ頑張ります!」

M 「よろしくデスヨ〜。」

照 「よろしく・・・」

戒「よろしくお願いします。それにしても、適当に決めているとは言っていましたか……」

咏「戒能プロとメガンの嬢ちゃん、これで3回連続じゃないかい？」

M「そうデスヨ。さすがに驚きですね。」

戒「まあ、2回はあるとは思っていましたが、まさか3回全部とは……ともかく、早速話し合っていきましょう。」

照「それじゃあ、さっそくCOある人……？」

M「CO、占い師デスネ。」

戒「……ふむ。他に対抗はいらっしゃいますか？」

咏「……いないようだね。それで、メガンの嬢ちゃんの占い結果はどうだったんだい？」

M「ハイ。私は選ばれてない役職調べ、村人・人狼・狂人でシタヨ。」

照「……つまりこの中に、テルテルと怪盗、それと人狼が1匹……！」

絹「むう……？」

M「チャンピオンの言うとおりでスヨ。ですから、怪盗の人はCOしてほしいんデスガ……？」

咏「……こりやどうなんだろうね〜い。CO怪盗さね。戒能プロと交換して、今は村人になってるぜ〜い。」

戒「……確かに、私は村人です。確かに怪盗COはあったようですが、メグさんを信じていいのかどうか……？」

照「……ちよつと待って。私も村人。村人は2人しかいないはず……！」

M「……この中に、村人は1人しかいないはずデスヨ？つまり、戒能プロと三尋木プロか、チャンピオンが嘘をついてマスネ〜。……待ってくだサイ。ということは、絹恵サンハ……？」

咏「ん〜？……確かにメガンの嬢ちゃんが真なら、チャンピオンと妹さんが人外確定だけど……？」

絹「……今さらやけどCOですわ。占い師はうちです。」

M「・・・やはりデスカ。さて、これは人狼かテルテルカ・・・？」

戒「イエス。確かにどちらが真かと言われれば、メグさんのほうでしょうね・・・！」

照「・・・怪しい。けど、メグさんたちも・・・！」

絹「はつきり言いますわ。うちが占つたんは戒能プロや。戒能プロは怪盗やつたはずやけど、なんで騙りの2人にのつとるんです・・・！」

咏「・・・怪盗は私だね。こりや考えるまでもなく騙りつてことだぜ。い？」

絹「ちやいます！うち目線、分かんのは宮永さんだけや。せやけどメグさんと三尋木プロが騙ってるのは確実。そこで黙つとるつちゆうことは、戒能プロはそのどつちかと交換しとる・・・！」

照「・・・なら、私は絹恵さんを信じる。絹恵さんの言い分のほうが、私も納得できる・・・！」

M「ちやんと考えたほうがいいデスヨク？どう考えても嘘ついてるだけデス。」

戒「ええ。あいにく、私は怪盗ではありませんので・・・ですが、はたして絹恵さんは人狼か、はたまたテルテルか・・・！」

咏「んく・・・テルテルのほうが可能ありそうじゃねくかい？妹さん、怪しまれてるの分かってて騙ってるわけだしねくい？」

絹「よう考えるのはそつちや！メグさんと三尋木プロ、どつちが人狼か知らんけど、ここでうち吊つたらどつちかは戒能プロに手柄横取りされるつちゆうことが分かつとるんですか!？」

M「・・・それは、あくまで私たちが騙りだという前提デスネく？」

咏「・・・そうだねくい。それに、私は怪盗だしねくい？」

戒「迷わなくて結構ですよ。投票は絹恵さんにしましょう。そうすれば村勝ちです。」

照「・・・駄目。私は、戒能プロに投票する・・・!？」

絹「戒能プロがどつちと交換したかつちゆうのも問題なんやけどな。人狼と交換しとれば吊つてまえばええんやけど、狂人やテルテルやつたら最悪や・・・!？」

M「・・・さて、どうしましよウカネ？」

咏「・・・」

ふ：さあ、残り30秒です！

30：荒れていますね。どのような結果になるのでしょうか・・・？

絹「・・・投票先はうちか戒能プロですわ。分かつとる思いはありますが、人狼の人はよ  
う考えたほうがいいですよ・・・？」

照「・・・絹恵さんを信じる・・・！」

咏「・・・やれやれ。参ったね〜い・・・」

M「・・・」

戒「・・・」

ふ：ここで、タイムアップ!!

30：それでは、投票を始めてください。

○投票開始

絹恵(2) ↓ 良子    メグ(0) ↓ 絹恵    照(0) ↓ 良子    良子(3) ↓ 絹恵    咏(0)

↓ 良子

投票の結果、戒能良子さんが処刑されました。

絹「・・・問題は、戒能プロの役職や・・・！」

照「お願い・・・！」

咏「……ま、私はこうするしかないしね〜い。」

M「やっぱりデスカ……」

戒「……」

○結果

愛宕絹恵（占い師）

メガン・ダヴァン（狂人）

宮永照（村人）

戒能良子（人狼）

↓ 吊り

三尋木咏（怪盗）

人狼を吊ったため、村人の勝利です！

絹「や、やったで〜!!」

照「やった……! やっぱり、妹は至高……!」

咏「棚ボタだね〜い。ま、負けるよりはいいさね……」

M「残念デ〜ス……」

戒「ハア……やはり、三尋木プロは気づきますよね……」



## ○初日の行動

愛宕絹恵（占い師） ↓ 戒能良子が怪盗であることを確認する

メガン・ダヴァアン（狂人） ↓ 何もせず

宮永照（村人） ↓ 何もせず

戒能良子（怪盗） ↓ 三尋木咏と入れ替わる ↓ 人狼になる

三尋木咏（人狼） ↓ 仲間がいらないことを確認する ↓ 怪盗に入れ替えられる

ふ「今回は、村人の勝利だ〜！」

30 「絹恵さんのCOのタイミングが良かったのではないかと思います。後出しですが、それによって宮永さんの信を得ましたね。」

ふ「でも三尋木プロ、自分が交換されてたつてことに気づいてたんだね!？」

30 「いや、それは違うと思うよ？ 絹恵さんを真として見ると、咏ちゃん目線、メガンさんは確実に狂人かテルテルだしね。だから咏ちゃんから見れば、良子ちゃんがテルテルじゃない限りは確実に勝つことが出来るんだよ。」

ふ「・・・そっか！ 戒能プロが狂人なら人狼の自分が勝利で、逆に人狼なら自分は怪盗なんだ!？」

30 「そういうこと。唯一のネックはテルテルだけど、そこは賭けだよね。それに交換してテルテルになってるなら、何かしらのアクションを起こしてもいいだろうし？」

ふ 「むむむ！つまり絹恵さんが言ってた『人狼はよく考えろ』って、そのことだったんだね!？」

30 「多分だけどね。・・・何にせよ、これでA・C・Eのチームに加点されます。」

ふ 「今回は1点ずつの加点です！今後はどうなるのか!？」

30 「それでは続きまして、10回戦を行います。」

ふ 「今度は一体どうなるのか楽しみだ〜！」

30 「まだまだ行方は分かりません。それでは第10回戦、スタートです。」

○ワンナイト10回戦 A・はやり B・霞 C・誠子 D・堯深 E・初美

☆ 「今度こそ負けないぞ☆」

霞 「よろしくお願いしますね？」

誠 「よろしくお願いします。」

堯 「よろしく・・・」

初 「よろしくなのですよ。それではさつそくですが……」

初 「占いCOなのですよ〜!」

霞 「あらあら。占い師は私よ? 初美ちゃん?」

☆ 「むむ! どつちかが嘘つきなんだぞ★」

誠 「永水同士の対決ですか……!」

堯 「どつちが……!?!」

初 「むう! 私の占い結果は、霞ちゃんが人狼なのですよ〜! まさに騙ってるのですよ〜!?!」

霞 「私の占い結果は、初美ちゃんがテルテルね♪」

初 「」

☆ 「……ん?」

誠 「……ってことは、少なくとも薄墨さんは吊つちや駄目ってことですよね……?」

堯 「……うん。間違いなく……」

霞「私を疑うなら、私を両吊りの片割れにしてもいいわ。でも、初美ちゃんは吊つちや駄目よ?」

初「・・・ち、ちち違うのですよ〜! そんなこと言って、実は霞ちゃんがテルテルなのですよ!!?」

☆「・・・さつき、人狼って言ったぞコラ★」

初「C、CO狂人なのですよ〜!?! さつきのは嘘なんですよ〜!?!」

誠「狂人ってことは、どちらにしる薄墨さんは除外ですね。では・・・」

誠「CO怪盗です。私は堯深と交換して、村人になっています。」

堯「・・・? 確かに、私は村人だけど・・・」

霞「あらあら。それじゃあ、瑞原プロに投票しましょうか?」

☆「・・・ちよつと待て、だぞ★」

誠「石戸さんの真偽次第なんですけど、どちらにしる自分目線でグレーなのは瑞原プロだけです。念のため、石戸さんも吊りたいところではありますが・・・?」

堯「・・・賛成です。私は、誠子ちゃんを信じます・・・」

☆「石戸さんは騙されちや駄目だぞ★おそらく、亦野さんと渋谷さんが人外だよ☆」

霞「ふむふむ。確かに、亦野さんが騙ってる可能性もあるのね・・・?」

誠「ち、違います!」

堯「誠子ちゃんか?・・・それは、無いと思うけど・・・?」

初「じゃあじゃあ、ここは私が吊られることで痛み分けてことで・・・!」

霞「なら私目線、瑞原プロが人狼か、もしくは亦野さんたちが人外組ってことね?ちなみに、亦野さんたちは吊られてもいいのはどちらかしら?」

初「わ、私が吊られてもいいのですよ?」

誠「なら、私が両吊りの片割れになります!それなら信じてもらえますか!」

堯「私でも構いませんよ・・・?」

霞「・・・ふむふむ。それで、もう片方は瑞原プロでいいかしら?」

☆「お断りだぞ☆石戸さんが嘘ついてるって可能性もあるんだからね☆」

初「そ、そうなのですよ!霞ちゃんは嘘つきなのですよ!」

霞「じゃあ、私は瑞原プロに投票しますね?」

☆「・・・分かったぞ☆つまり私と渋谷さんが村人で、亦野さんが怪盗。薄墨さんは多分テルテルで当たりだけど、石戸さんは人狼だぞ★」

誠「っ!・・・確かに、その可能性もあるんだ・・・!」

堯「でも、明らかに怪しいのは・・・」

☆「……あ？」

堯「」

霞「……そういうことすると、瑞原プロで確定にしますよ？」

☆「ごめんね、渋谷さん☆」

堯「……い、いえ……」

誠「……けど、本当にどうしましょうか？瑞原プロと石戸さんにしますか？」

初「仕方ないので、私と霞ちゃんが吊られてあげるのですよー！」

霞「私はそれでも構わないけど……？」

☆「むう……私としては、石戸さんとそっちのどっちかを吊りたいんだけど……？」

誠「私と……？」

堯「……なら、私にしますか？」

初「もしくは、わ・た・し♪なのですよ。」

霞「……本当に、どうしましょうかしらね……？」

誠「……」

ふ：残り30秒！ちゃんとまとまるのだろうか！？

30：難しいところですね。間違えると痛そうですね……？

誠「……堯深の様子を見たくて嘘をつきました。私が交換したのは瑞原プロで、間違はなく村人です。」

霞「……ふむ？」

堯「……誠子ちゃん……？」

☆「……★」

誠「正直、どっちが嘘をついてるのが分かりません。ですので、ここは石戸さんと堯深を吊ることを提案……」

☆「……お断りだぞ★」

霞「……残りわずかになって、そういうことを言うのね……？」

堯「……誠子ちゃん……」

誠「……え？いや、これは本当ですよ!？」

ふ：ここで時間だく!？」

30：では、投票スタートです。

初「……誰も相手してくれないなんて、さすがに酷いのですよ……」

## ○投票結果

はやり(0) ↓ 誠子 霞(2) ↓ 誠子 誠子(3) ↓ 霞 堯深(0) ↓ 誠子 初美(0)  
 ↓ 霞

投票の結果、亦野誠子さんが処刑されました。

誠「」

堯「・・・はあ・・・」

霞「あそこで訂正されても、さすがにね・・・？」

☆「悪の末路、だぞ☆」

初「・・・つまらないのですよ。」

## ○結果

瑞原はやり(怪盗)

石戸霞(占い師)

亦野誠子(村人) ↓ 吊り

渋谷堯深(人狼)



薄墨初美（テルテル）

人狼が吊られなかったため、人狼の勝利です！

堯「……てつきり、誠子ちゃんは狂人だと思つてたけど……結果オーライ……」

☆「……お前ちよつとこつち来い、だぞ★」

霞「あらあら。私もお手伝いしますね♪」

誠「い、いや、ごめんなさ……た、堯深、助け……!?!」

堯「……ありがとね？ 誠子ちゃん……バイバイ……?」

初「……ブ〜ブ〜……」

### ○初日の行動

瑞原はやり（村人） ↓ 何もせず ↓ 怪盗に入れ替えられる

石戸霞（占い師） ↓ 薄墨初美がテルテルであることを確認する

亦野誠子（怪盗） ↓ 瑞原はやりと入れ替わる ↓ 村人になる

渋谷堯深（人狼） ↓ 仲間がいないことを確認する

薄墨初美（テルテル） ↓ 何もせず

ふ「」

30「」

ふ「・・・や、やっちまったぜ亦野くっ!」

30「そ、そうだね。これはちよつとコメントし辛いかな・・・」

ふ「うくん・・・亦野さん、何で正直に言わなかつたんだろうね?」

30「おそらく騙ることで、石戸さんと渋谷さんの反応を見たかつたんだと思うよ? だけど渋谷さんからしたら、亦野さんが嘘をついてるのはすぐに分かるから、亦野さんのことを狂人だと思ったんだらうね。」

ふ「なるほどなるほどく。」

30「亦野さんも、訂正するのをもつと早くするべきだつたね。あんなにギリギリになつてから言つたんじゃ、疑われても仕方ないんじゃないかな・・・?」

ふ「確かに! それにしても、薄墨さんは可哀想だつたね!」

30「占われちゃつたからね・・・ああなると、あそこから吊られに行くのは難しいと思うよ。」

ふ「そうだよねく。まあ何にしても、見事人狼が勝利をおさめましたく!」

30「単独での勝利ですので、Dチームには2点与えられます。」

ふ「続いて、第11回戦だく!」

30 「そろそろチーム戦の行方も見え始める頃ですね。みなさん、頑張ってください。」

ふ 「それでは、スタート〜!!」

○ワンナイト11回戦 A・靖子 B・春 C・巴 D・智葉 E・洋榎

洋 「よっしゃや出番や〜!ここはピシッと決めたるで〜!!」

辻 「お前が村人ならそれでもいいんだがな。」

巴 「何にしても、よろしくお願いします。最後位は勝たせていただきますね!」

春 「私も負けない。よろしく・・・」

靖 「よろしく頼む。さて、早速COはいるか?」

春 「CO。占い師・・・」

辻 「COだ。占い師だな。」

巴「2人か・・・」

洋「真と騙り・・・いや、両方騙りっちゆう可能性もあるし・・・？」

靖「・・・まずは結果だな。占い結果を教えてくれ。」

春「うん。私が調べたのは選ばれてない役職。村人、狂人、怪盗だった・・・。」

辻「私が調べたのも、選ばれていない役職だな。村人、狂人、人狼だ。」

春「私目線、辻垣内さんは人狼かテルテル。よく話し合うべき・・・！」

辻「私目線も同じだ。滝見は人狼かテルテル。もしかすると、怪盗でそれらと交換しているという可能性もあるがな・・・？」

巴「ということとは、この2人を吊るという選択肢は取れないわけですね・・・？」

洋「そうやな。せやけどこっちから選ぶにしても、下手なところは吊れんで・・・！」

靖「実際、占いの対抗が人狼で、こちらにテルテルが混じっているという可能性も十分にある。滝見が真なら、怪盗はいないようだが・・・？」

辻「怪盗はいるはずだ。COできるのならCOしてほしいが・・・？」

洋「・・・COする奴はおらんみたいやな。」

辻「……つまり、また人外と交換しているということだ。面倒なパターンだな……！」

春「……違う。怪盗はいないはず……！」

靖「ふむ。……こうなると、誰を吊ればいいのか……」

巴「……」

巴「……COします。遅れましたが、占い師は私です。」

春「え……!?」

辻「……なるほど。人外がわざわざ名乗りをあげてくれたようだな……?」

靖「少し遅い気もするが……?」

洋「うくん?……確かに怪しいんやけどな。そこで、占いの結果はどうなんや?」

巴「私の占い結果は、藤田プロ●です。藤田プロの動きを見たくて黙っていましたけど、動きが無さそうだったのでCOしました。」

靖「……ふむ。確かに狩宿は人外確定だな。」

春「……悪いけど信じられない。巴は人狼かテルテル……!」

洋「……無いとは思うけど、狩宿と藤田プロが両方人狼つちゆう可能性もあるんじゃないか? ほれ、確か石戸の奴がそれやってたやろ?」

辻「仲間にも●をつけて、周りからの目をそらすやり方だな。だが私目線、人狼は1匹のみだ。まして占い師は私なんだから、狩宿は人外確定だ。」

巴「私目線、藤田プロ以外の内役が分かりません。実際さっきの怪盗COも無かったし、春ちゃんも辻垣内さんが人外だということぐらいしか……!」

靖「信じる必要はないな。ならどちらにしろ、この3人の中の誰かに投票すればいい。……私としては、確実に人外だと分かる狩宿に投票したいがな……?」

巴「駄目です! 投票するのは、●だつて分かつて藤田プロに決まっています!」

春「信じられない……けど、人狼同士という可能性も……?」

洋「んく……せやけどこの場合、滝見と辻垣内の役は何なんや? こん中に人狼おつたら、下手したら投票操作されてまうで?」

辻「何度も言うが、占い師は私だ。こうなつた以上は、テルテルを吊る危険性を無視してでも、私たちの中から投票するべきだな。」

巴「反対します!」

洋「んく……?」

春「……藤田プロが本当に人狼なら……仲間は誰？」

靖「知らん。私は人狼ではないからな。」

洋「せやけど、滝見が真なら人狼は2匹やろ？ ちゆうことは、辻垣内か狩宿のどつちかが人狼で、もう片方はテルテルちゆうことやないんか？」

巴「それは春ちゃんが真の場合です。真は私ですから、対抗の2人が確実に人狼かまでは分かりませんよ？」

辻「騙されるなよ愛宕。対抗の2人は確実に人外だ。というより藤田プロが本当に人狼で、狩宿が怪盗。そして藤田プロと交換しているという可能性が高いな……！」

春「……ごちやごちやしてきて内役が分からない。藤田プロは、本当に村人？ それとも人狼……？」

靖「悩む必要はないだろう。滝見が真かどうかは分からんが、狩宿は確実に人外だぞ。」

ふ：さあ、残り30秒でくす！

30：今回はどうなるのか、結果が楽しみですな。

洋「……あかんなあ。誰に投票すればええんや？」

辻「時間がないか・・・なら私たちの中から選ぶべきだな。確実に人外がいるぞ？」

巴「ですから、●の藤田プロに投票するべきですよ!？」

靖「対抗に投票してもいいが・・・いつそ、怪しい奴に投票でいいんじゃないか？正直どいつが人狼なのか分からんのだが・・・？」

春「・・・」

春「・・・CO狂人。私を吊つてもいいよ・・・？」

洋「ん・・・？」

巴「え、春ちゃん狂人なの・・・!？」

辻「・・・」

辻「・・・CO人狼だ。滝見、占い師の狩宿に投票するぞ。」

靖「ん・・・？」

春「え・・・？」

洋「ちよ、ちよい待ちい!？」



洋「人狼はうちと狩宿や！滝見、藤田プロに投票や！」

巴「そ、そうです！春ちゃん！藤田プロに……」

辻「駄目だ。藤田プロは人狼だ。滝見、お前が狂人なら狩宿に投票しろ。」

靖「……そうだな。滝見、狩宿に投票だ。」

春「えつと……」

巴「人狼は私たちです！」

洋「そうや！騙されるんやないで!？」

辻「言わずとも分かるだろう？占い内容が破綻していないのは狩宿だけだぞ？」

靖「ああ。ばつちり当てられてしまったからな。」

巴「混乱させるために、嘘ついてただけですよ!？」

洋「その通りや！滝見、よう考えい!？」

ふ：そこまでくく!!

30：それでは、投票を始めてください。

春「……え、えつと……」

## ○投票結果

靖子(3) ↓ 巴 春(0) ↓ 靖子 巴(2) ↓ 靖子 智葉(0) ↓ 巴 洋榎(0) ↓  
 靖子

投票の結果、藤田靖子は処刑されました。

巴「春ちゃん……！」

洋「よっしや！うちらを信じてくれたんやな!？」

靖「っ……！」

辻「……ちっ……！」

春「……先に相方の名前を言ったのは、愛宕さん。辻垣内さんが藤田プロを仲間だつて言ったのは、その後だったけど……？」

## ○結果

藤田靖子(村人) ↓ 吊り

滝見春(狂人)

狩宿巴(人狼)

辻垣内智葉(占い師)

愛宕洋榎（人狼）

人狼が吊られなかったため、人狼と狂人の勝利です！

巴「春ちゃんありがとう〜！」

洋「いやいや、よう信じてくれたで!？」

春「・・・あ、当たった。良かった・・・！」

靖「・・・確かにこの内役では、仕方ないかもしれないな・・・」

辻「こうなるのが分かっていたから、占い内容を騙ったんだがな・・・！」

○初日の行動

藤田靖子（村人） ↓ 何もせず

滝見春（狂人） ↓ 何もせず

狩宿巴（人狼） ↓ 愛宕洋榎が仲間であることを確認する

辻垣内智葉（占い師） ↓ 選ばれなかった役職が、村人・怪盗・テルテルであること

を確認する

愛宕洋榎（人狼） ↓ 狩宿巴が仲間であることを確認する

ふ「というわけで、今回は人狼陣営の勝利だ〜!」

30 「辻垣内さんは残念だったね。あと少して、村人勝利まで持つていけそうだったんだけど・・・」

ふ「辻垣内さんが占い内容を誤魔化したのって、やっぱり相手にばれないようにするためかな?」

30 「そうだね。あれを素直に言っちゃうと、人狼と狂人がすぐに気づいちやう可能性は大きいし、そうなるとPPで押されて負けになっちゃうから。」

ふ「逆に人狼の2人は、途中まで迷ってたみたいだけど・・・?」

30 「辻垣内さんの占いが、人狼は1匹つて時点で破綻してたでしょ? だから滝見さんが真として見てただけど、問題は彼女が真だとすると、辻垣内さんはテルテルつてことになるから・・・」

ふ「なるほど。それで狩宿さん、怪しまれるの覚悟で藤田さんに●を付けたの?」

30 「それはどうだろうね: 辻垣内さんはテルテルだつて思つてただろうから、どうせ吊られないなら●つけられた人に投票してほしいって考えたのかもしれないけど・・・?」

ふ「どちらにせよ、滝見さんが最後に狂人COしたことで、見事に明暗を分けることとなりました〜!」

30 「滝見さんからすると、本当に苦肉の策だったろうね。狂人だって言っちゃうと自分は吊られないから、本当は黙ってたかっただけだと思うよ？でも滝見さん目線でも辻垣内さんは騙りだったから、もしかしたら人狼が2匹いるのかもってところに賭けたんだらうね。・・・最後の投票も、あそこからよく靖子ちゃんに投票できたと思うよ？」

ふ 「見てる感じだと、辻垣内さんのほうが怪しい気がしたけどね？」

30 「愛宕さんが、先に仲間の名前を挙げたからだろうね。おそらくその1点に賭けて投票したんじゃないかな？」

ふ 「なるほどなるほど。何にせよ、これでB・C・Eのチームに加点されまっす！」  
30 「Bチームには2点ですね。村人チームは大きな加点チャンスでしたが、残念です。」

ふ 「それではついに、ついに！最終バトルでつす!!」

30 「泣いても笑っても、これが最後です。どうなるのか、本当に楽しみですね。」

ふ 「それではワンナイト人狼、最終戦！」

30 「スタートです。」

○ワンナイト最終戦 A・董 B・竜華 C・怜 D・小蒔 E・淡

董「・・・さて、これで最後の試合だな。」

小「そうですね。私、頑張ります！」

竜「一緒に頑張ろな！小蒔ちゃん！」

怜「ちゆうても、あくまで村人やつたらちゆう前提やけどな？」

淡「そうだよね。でもでも、もしかしたら小蒔と竜華で2人狼かもしれないよ！」

董「確かに、人外同士での励ましあいというのは考えられるな。それでは早速なんだが・・・」

董「占い師COだ。対抗はいるのか？」

竜「む！占い師はうちやで!？」

怜「・・・まさか竜華が騙るとは思わなかったで。占い師COや。」

小「え、3人も・・・？」

淡「3人も出るの!？」

董「・・・対抗が人外なのは確定だな。だが内役が問題か・・・」

竜「せやからそれはうちの台詞や！騙されたらあかん!？」

怜「いやいや、竜華も嘘ついとるやないか？まあうち目線も、対抗が人外やつちゅうことしか分かんらのやけどな・・・？」

小「えっと・・・占いの内容を聞かせてもらっていいでしょうか？」

淡「むむむ！それで真偽をはつきりさせるからね！」

董「私が調べたのは、選ばれていない役職だ。村人、人狼、怪盗だ。」

竜「うちも選ばれなかった役職を調べたで！村人、村人、人狼やった！」

怜「うちが調べたんは小蒔ちゃんやったで。小蒔ちゃんの役職を確認したわ。」

小「え、怜やんさんは私を調べたんですか・・・!？」

怜「そうやで。せやから、先に小蒔ちゃんの答えを聞きたいんや。」

淡「・・・ん？何で？」

董「・・・怪しいな。もしかしすると、園城寺が狂人で、神代が人狼じゃないのか？・・・ん？そうすると清水谷は・・・」

竜「せやからうちは占い師や！せやけどこの村、村人がおらんや。ここにいる全員、何かしらの役職を持つとるつちゅうことしか・・・!？」

小「・・・わ、分かりました。では言わせていただきます！」

小「CO、怪盗です！私は怜やんさんと交換したので、怜やんさんが真であることを確認しています！」

淡「……ん？それが本当なら、董と竜華を吊つて終わりなんじゃないの？」

竜「あかんで!? つちゆうか大星さんも何かしらの役職持つとるやろ!？」

董「……確定だな。園城寺と神代が人外だ。清水谷はテルテルだな。」

怜「……交換したのはうちやつたんか。うち目線、大星さんが分からのや。せやからそこと交換しとるのを期待しとったんやけど……」

小「あう……も、申し訳ありません……」

怜「いや、謝る必要はあらへん。とりあえず、確実な味方がおるだけでも心強いで……！」

小「怜やんさん……！」

竜「つて何でそこで結託しとるん!?!……人狼は1匹しかおらんし、つちゆうことは怜と小蒔ちゃんが狂人と人狼なんやな!?!」

怜「違うで?」

小「違います！」



淡「……ん？……？」

董「おい淡。あの2人のどちらかが人狼で確定だが、お前は当然村人だよな？それしか残っていないはずだが……？」

淡「私？……うん。役職無しだね！」

竜「そんなわけあらへん!？」

董「……お前、今迷わなかったか？無いと思うが、何かあるのなら今のうちに言えよ?！」

淡「本当に役職無しだよ。ただ、誠子みたいに嘘ついたほうが面白いかなって思っ  
て！」

董「……なるほど。やめておけ。」

淡「そうするっ!！」

怜「……人外同士で手を組もうとしとるんちゃうか？おそらくやけど、弘世さんと大星さんのどちらかが狂人か、もしくは人狼同士やで……!！」

小「わ、私もそう思います!……でも、そうすると竜華さんは……?！」

怜「……テルテルつちゆう可能性が高いな。もしかすると、元は怪盗で、人外と交換してもうたのかもしれないけど……?！」

小「なるほど……!！」

竜「せやからうちは占い師や!? 怜、嘘つくんもいい加減にしい!?!」

怜「悪いけど信じられんわ。」

董「・・・清水谷がテルテルだというのは、私目線からしても正解だろうな。だが、やはり園城寺と神代のどちらが人狼かというのが問題だ・・・!」

淡「・・・どつちかが人狼なんだよね? そつちを吊ればいいんでしょ?」

董「そうだ。清水谷がテルテルだというのは恐らく確定だ。だが園城寺と神代、このどちらが狂人かということが問題だ。間違つて狂人を吊つてしまえば、我々の負けだ・・・!」

淡「むむっ! つまり、どつちが本物の人狼か、見抜けばいいんだね!」

董「まあそういうことだな。」

竜「・・・うう・・・覚悟はしとつたけど、味方がおらへん・・・!?!」

ふ：さあ、残り30秒を切つたぞく!?

30：運命の分かれ目です。ここでの結果次第で、チーム戦の勝敗も分かれますね。

小「・・・な、なら! 私は弘世さんに投票しますね!?!」

怜「ほなそうしよか。少なくともテルテルとはちやうやろうしな。」

竜「うう・・・ほなうちは小蒔ちゃんに投票するで!? きつと人狼や!」

董「ふむ。どちらに投票すべきか・・・淡、お前はどちらがいい?」

淡「私が決めていいの?・・・うん! なら私たちは怜やんに投票だよ! 実は怜やんのほうが人狼なんだよ! だから竜華も怜やんに投票しよう!」

董「・・・では、園城寺に投票するでしょう。」

ふ：さあ、投票の時間だ~~~~!?

30: どうなるでしょうか? では、投票を始めてください。

### ○投票結果

董(2) ↓ 怜 竜華(0) ↓ 小蒔 怜(2) ↓ 董 小蒔(1) ↓ 董 淡(0) ↓ 怜

投票の結果、弘世董と園城寺怜が処刑されました。

竜「うう、小蒔ちゃん吊れへんかった・・・せやけど、どさくさで人狼吊れてないやろか・・・!」

董「・・・私が吊られるか。これで、試合には勝てるだろうが・・・」

淡「・・・うっ、董も吊られちゃった・・・!」

怜「・・・どうなるやろな・・・まあ、恐らくビックリするんちゃうか・・・？」  
 小「で、でも！これで私たちの勝ちなんじゃ・・・!?」

○結果

弘世董（狂人） ↓ 吊り

清水谷竜華（占い師）

園城寺怜（テルテル） ↓ 吊り

神代小蒔（怪盗）

大星淡（人狼）

テルテルが吊られてしまったため、テルテルの勝利です！

董「・・・はあ!？」

小「え？怜さんって狂人じゃ・・・って、私が怪盗・・・!?」

竜「・・・ま、負けてもうたけど・・・つまりどうということ・・・!?」

淡「え、嘘?!?董が狂人!?怜やんが狂人だと思ったのに!？」

怜「・・・な？ビックリしたやろ？」

## ○初日の行動

弘世董（狂人） ↓ 何もせず

清水谷竜華（占い師） ↓ 選ばれなかった役職が、村人・村人・人狼であることを確認する

園城寺怜（テルテル） ↓ 何もせず

神代小蒔（人狼） ↓ 仲間がいないことを確認する ↓ 怪盗に入れ替えられる

大星淡（怪盗） ↓ 神代小蒔と入れ替わる ↓ 人狼になる

ふ「な、なんと！またもテルテルの勝利だ〜!？」

30「無論運も含まれていましたが、それでも園城寺さんは騙りが上手いですね……。ふ「っていうか、これどうなったの!?!清水谷さんが真!?!」

30「えつと……。それじゃあまとめてみようか。おそらくだけど、こういう目線で見てたと思うよ?」

## ○董（狂人）

竜華（テルテル・人狼） 怜（占い師↓怪盗） 小蒔（怪盗↓占い師） 淡（村人・人

狼)

30 「董さんからすると、園城寺さんと神代さんが真で見えただろうね。もしかすると神代さんが交換したのは別の人かもしれないけど、どちらにしろ園城寺さんを吊るのがベストだね。」

ふ 「そっか。自分は狂人だから、負ける可能性がある清水谷さんと大星さんは吊れないんだ!」

○竜華 (占い師)

董 (人外) 怜 (狂人?) 小蒔 (人狼?) 淡 (人外?)

30 「可哀想なのは清水谷さんだったね。弘世さんと大星さん、それに園城寺さんと神代さん。それぞれが繋がっているように見えたけど、人狼は1人しかいないのは分かっている。つまりテルテルと怪盗も騙りをしているってことぐらいしか分からなかったと思うよ?」

ふ 「だから神代さんに投票したのかな?」

30 「人狼がかまをかけるより、狂人がかまをかけたっていうほうが納得できそうだ

しね。」

○小蒔（人狼↓怪盜）

董（真） 竜華（テルテル） 怜（狂人） 淡（村人）

30 「神代さんは、自分の騙りにのってくれた園城寺さんを狂人認定しちゃったのが失敗だったね。まして弘世さんと対立しちゃったから、弘世さんを真として見ちゃったんだと思うよ？」

ふ「うむむ・・・完全に怜やんに騙されちゃってるね！」

○淡（怪盜↓人狼）

董（人外・テルテル？） 竜華（真？） 怜（狂人） 小蒔（人狼↓怪盜）

30 「それで、淡ちゃんはおそらくこうだね。」

ふ「やっぱり、怜やんのことを狂人だと思ってたんだね・・・ん？なら神代さんに投票すれば確実だったんじゃないの!？」

30 「・・・多分なんだけど、チーム戦での点数調整だと思うよ。園城寺さんを吊ら

ないで勝利になると、CチームとEチームがトップタイになっちゃうから・・・」

ふ「・・・つまり、チームで単独勝利をするために、怜やんを吊っちゃったこと!?」

30「おそらく・・・だけどね。」

○怜（テルテル）

董（人外） 竜華（真?） 小蒔（人外） 淡（村人?）

30「それで、最後の園城寺さんがこうだろうね。」

ふ「結構あやふやだね?」

30「園城寺さんからすると、弘世さんと神代さんが人外だつてことしか分からないからね。神代さんにいきなり話を振ったのも、それはそれで自分が怪しまれる原因になるからだと思うよ?」

ふ「それじゃあ、怜やんが吊られたのつて偶然!?!」

30「可能性は高いね。さつきも触れたけど、大星さんたちが勝つだけなら、神代さんに投票したほうが確実だしね。」



ふ「なるほどく……つまり！チームでの勝利を考えた故に、間違えた選択をしちやつたってことだね!？」

30「仕方ないよね。一応はチーム戦、まして最終戦なんだから、どうしても点数は考えちゃうよ。」

ふ「それではここで、運命の結果発表です!!」

30「結果はこのようになりました。」

○チーム戦獲得点数

Aチーム 5点(+1点)

Bチーム 6点(+2点)

Cチーム 9点(+5点)

Dチーム 6点(+2点)

Eチーム 7点(+2点)

ふ「というわけで今回の勝者は……!」

30「Cチームの皆さんですね。おめでとうございます。」

照「・・・勝った・・・！」

怜「ふく・・・もう疲れたわ。テルテルってメンドイなく・・・」

巴「か、勝てたんですね！」

誠「うう、最後に情けないところを・・・」

ふ「それではこれをもって、今回の人狼ゲームは終了となります！」

30 「みなさん、お疲れ様でした。ご協力に感謝します。」

咏「ちえく・・・結局、最後までいいところ無しだったじゃなくかよく・・・」

戒「イエス。見事に引き立て役になってしまいましたね・・・」

☆「むく・・・出番が少ないぞ★」

靖「・・・まあ、私は脇役で構わないんですがね・・・」

竜「うう、また怜が嘘つきよつたく・・・！」

怜「せやからしやあないやないか？勝負の世界は非情なんやで？」

洋「くう・・・何や怜やんにええとこ持ってかれた気がするわ・・・!?」

絹「全くやな。最後の勝負は勝てたけど、結果的には負けてもうたし・・・」

怜「大星さんが欲張ってくれたおかげで助かったわ。まさかあの流れで、うちに投票するとは思わんかったからな・・・」

竜「せやけど、ああいう時はどうすればええん？味方が誰もおらんかったわ・・・」

洋「そりやあれやな。辻垣内みたいに、占い内容騙るんがええわ。」

絹「確かにそんなら人外も騙されるやろうな。せやけど、ミスると最悪やで？」

洋「そんな時はそんなら人外も騙されるやろうな。せやけど、味方がおらんちゅうのが分かった時点で、自分も人外みたいに振舞うしかないわ。」

怜「ま、そんな時々やろうけどな・・・それより竜華？疲れたから膝枕してほしいんやけど・・・？」

竜「あ、ええで！バッチコイや！」

怜「・・・ん。やっぱ竜華の膝枕が、うちには一番やな・・・」

竜「♪」

小「おめでとうございます、巴ちゃん！」

霞「おめでとう、巴ちゃん。」

春「おめでとう……でも悔しい……」

初「全くなのですよ。もう少して私たちの勝ちだったんですよ?」

巴「私は、ほとんど何もしてないんですけどね。皆さんに感謝です。」

霞「でも、園城寺さんに見事にやられちゃったわね……?」

初「全くですよ。次は負けないですからね?」

春「次があれば、だけど……」

小「私も、次は負けません!」

巴「もちろん、私だって頑張りますからね!」

霞「あらあら。みんなやる気ね?…それじゃあ私も、次は頑張っちゃおうかしら……

?」

初「とか何とか言つて、初日に吊られるがいいですよ。」

霞「……ちよつとこつちにいらつしやい♪」

初「……ユ、ユルシテホシイノデスヨ……」

照 「これが私の実力……！」

堯 「おめでとうございます……」

董 「はあ……まさか、最下位になるとはな……」

淡 「むう〜！次は私も負けないんだかんね〜！」

誠 「うう、張り切りすぎて迷惑かけちゃいました……！」

堯 「……そんな誠子ちゃんの様子が、テレビで放送されるんだよね……？」

誠 「」

淡 「あ、そっか。これって放送するって言ってたっけ？」

董 「確かに。だとすると、少々恥ずかしい内容になってしまったな……！」

照 「……私は、別に恥ずかしくない……！」

董 「……まあ、最終的に見せ場があったわけだしな。」

辻 「……話中すまんが、私たちはそろそろ帰るぞ？」

M 「ねえ智葉？もう少しゆっくりしていきましょウヨ？」

辻 「駄目だ。帰ってやることがあるんでな。」

M 「そうなんデスカ？」

辻 「ああ……私を騙してここに連れてきた奴に、折檻せねばならんからな。」

M 「」

照「・・・帰るの？」

辻「帰る。・・・が、中々に楽しめた。礼を言う。」

董「ふむ。・・・まあまた近いうちに会おう。次は負けんぞ？」

辻「ふっ・・・それは人狼でか？それとも麻雀か・・・？」

董「無論、どちらでもだ。」

白糸台で行われたゲームも、ついに幕を閉じた。

その場に残る者。

帰路につく者。

皆がそれぞれの思いに従って行動する中――

ふ「そんじゃみんな！放送されたらちゃんと見てね〜!!」

30「放送の結果次第では、次があるかもしれないからね。その時には、よろしくお願ひね？」

ふ「そんじゃバイバイ！」

30「……って、ちゃんと後片付けしなくちゃ駄目だよ!？」

最後の幕を開くため、彼女たちはこの地を去った。

果たして最後の遊戯は行われるのか。

それとも否か。

それが明かされるまで、あとわずか――。

続く……

## 控え室にて

「……にしても、まさかこんなお祭り騒ぎになるなんてね……」

「……ある意味、発端はお前さんなんじゃがな……」

場所は東京、その一角。

テレビ局が用意した施設の一部屋に、数人の少女たちの姿があった。

「ですが、最初は阿智賀のみんなと遊ぶだけのつもりでやっていた遊戯が、ここまでの大  
事になるとは……正直、意外ですね。」

「和ちゃんは考えすぎだじえ。こういうときは、何も気にせずパ〜ツと遊べばいいんだ  
じえ！」

「お前さんは考えなさすぎじゃつちゆうんじゃ。」

清澄高校麻雀部。

竹井久、染谷まこ、片岡優希、原村和、そして宮永咲。

備え付けのソファーにくつろぎつつ、少女たちはどこかおかしそうに笑いあっている。



た。

「だけど、それがまさか全国規模になるなんて……私も、考えてもいませんでした。」  
「そうですね。咲さんのおっしやる通りかと。」

「電話をもらったときには、何の冗談かと思ったんだけどね。」

事の起こりは一本の電話。

学校を通じて連絡をよこしてきたのは、まさかのテレビ局。

『先日放送した人狼ゲームを、全国規模で行いたい。参加者は全国麻雀部に所属する女子高校生と、局が選んだゲストたち。夏の思い出に、ぜひ参加していただきたい。』

それを聞いて、黙っていられないのが竹井久だった。

元々こういう遊びが大好きな彼女。

お祭り騒ぎに参加しない訳がない。

聞けば、参加してもらえるならば往復の交通費位はテレビ局で出せるとのこと。  
参加費等もかからないというし、それならば、という按配である。

「……和っつ!!」

「……あ、穩乃……どうかしたんですか?」

突如開いた部屋の扉。

そこから飛び込んできたのは、阿智賀女子麻雀部1年、高鴨穩乃であった。

その後ろには、他の阿智賀女子の面々の姿も見える。

「参加者名簿見たら、和たちの名前もあつたからさ！ 挨拶しておこうと思つて！」  
和の前で、嬉しそうにはしゃぐ穩乃。

その姿に和はもちろん、清澄、そして阿智賀女子の面々も微笑をこぼす。

「他にも、千里山や姫松の人たちの名前も書かれてたしね。さつき新道寺の面々にも会つたし、こりや本当にお祭り騒ぎだわ。」

やれやれといった感じで首を振る憧。

だがその顔を見れば、彼女もまた楽しみにしている一人だということがよくわかる。

「私も、さつきお姉ちゃんたちに会つてきました。お姉ちゃん、すごく張り切つてて……」  
少し前のことを思い出し、苦笑する咲。

先日の放送は見てくれたか？

お姉ちゃんは頑張りました。

完璧そうに見えて、どこか抜けてる姉が胸を張るその姿を思い出し、彼女は面白そうに微笑んでいた。

『……ただいまより、ゲームの説明会を行います。参加者の皆様は、中央のホールまでお集まりください。繰り返し連絡します。ただいまより……』

「・・・ようやく時間ね。」

館内に流れる放送に、彼女たちは静かに腰を上げた。

そして、ついにゲームの最後の幕が開く。

そこで味わうのは勝利の美酒か、はたまた屈辱の涙か。

各々が思いを胸に秘めたまま、決戦の舞台は幕を開ける——！

「・・・ってまあ、そうは言ってもゲームはゲームだしね。気楽にいきましょう♪」  
「つちゆうても、やるからには勝ちたいもんじゃがのう・・・」

続く・・・

## ちよつとしたルールの説明をば

ふ「それではみなさん！遠路遙々お集まりいただき、ありがとうございます！」

健「簡単な説明はすでに受けていると思いますので、ここでは参加校の紹介をしたいと思います。」

ふ「・・・ねえすこやん。表記間違えてない？」

健「これでいいの！・・・それでは、参加校をご紹介します。」

ふ「インターハイ出場校、もしくははこちらが選んで連絡し、参加してくれる皆さんです！」

### ○参加校

有珠山（南北海道） 宮守女子（岩手） 臨海女子（東東京）

白糸台（西東京） 清澄（長野） 龍門渚（長野）

鶴賀（長野） 風越女子（長野） 阿智賀女子（奈良）

千里山女子（北大阪） 姫松（南大阪） 新道寺女子（福岡）

永水女子（鹿児島）

ふ「以上の13校です！っていか長野多いね!？」

健「県予選決勝戦の4校だね。それぞれが他の参加校との縁も深いから、今回は特別にご招待しました。」

ふ「それ、職権乱用って言うんじゃないの?」

健「つて、招待したの恒子ちゃんでしょ!？」

ふ「そして各校から5名参加、つまり合計で65人！その65人を、くじで4ゲームに分けます！」

健「うぐっ・・・ち、ちなみに、なるべく1ゲームに同校の人たちが集まらないようにはしてあります。そして、各ゲームごとに人数は違います。若干ルールも変わってきますので、気をつけてくださいね?」

ふ「そして行われるのは、合計で6回!!」

健「4回は高校生たちによるゲームですね。そして1回は、今回のゲストが参加するゲーム。そして・・・」

ふ「最後の1回は、各校の代表1名と、ゲストたちが参加するという内容です!!」  
健「それでは今回参加していただく、ゲストの方たちを紹介します。」

## ○麻雀プロ

小鍛冶健夜（37）・三尋木咏・瑞原はやり・戒能良子・藤田靖子・野依理沙

## ○監督・コーチ

愛宕雅枝・赤坂郁乃・赤土晴絵・久保貴子・熊倉トシ・アレクサンドラ・ヴィントハイム

## ○スーパーアナウンサー

福与恒子

ふ「以上の13名でっす！」

健「・・・本当に隙あらばぶちこんで来るよね。あれ、後で訂正しといてよね？」

ふ「す、すこやんは私がスーパーアナウンサーだって言うのに反対なの!？」

健「いやそっちじゃなくて!?!私の歳・・・ま、まあそっちも訂正しといたほうがいいとは思うけど・・・」

ふ「そして以上の13名で行われるのが第3ゲーム!プラス高校生代表で行われるのが、第6ゲームなのでっす！」

健「うう・・・つまり、第1第2、それと第4第5ゲームが高校生の参加ですね。ち

なみに各ゲームの人数、役職等の説明は、各ゲームのスタート時に発表します。」

ふ「簡単な内容から、難しい内容まで!?!いろいろな用意しちゃいました〜!」

健「今回、高校ごとに勝敗を競うということはしません。・ ・ ・ごちゃごちゃになりそうでしたので。」

ふ「ごちゃごちゃって?」

健「・ ・ ・例えばですけど、村人勝利時は村人全員に点数を与えるのか?それとも生存日数に応じて点数を変えるのか?ってことだね。人外の役職にも言えることだけど、不満が出そうだったから。」

ふ「つまり、ゲームに勝つためとはいえ、チーム戦を考えると吊られたくない!ってことだね!」

健「そうだね。点数を変えると結局そうなっちゃうだろうし、変えないなら変えないで、最後まで残って勝利に導く推理をした子と、初日柱COをした子、もしくはグレラで吊られちゃった子を同じにしているのか?っていう話になっちゃうから。」

ふ「まあつまり、純粋にゲームを楽しもうってことだ〜!」

健「・ ・ ・余計なことは考えずに、素直に楽しんでいただければ幸いですね。」

ふ「それじゃあ早速、第1ゲームをスタートするぞ〜!」

健 「参加者はこのまま、それ以外の方は控え室に戻ってください。モニターでの観戦  
でお願いしますね。」

ふ 「何か無駄にお金をかけてるよね!？」

健 「・・・・・・・・・・・・・・・・もう何も突っ込まないからね。」

続く・・・



## 人狼バトル第1回戦

ふ「それでは、第1ゲームをスタートします!」  
健「役職、及び参加者は以下ようになります。」

### ○役職

人狼(2)・狂人(1)・占い(1)・霊能(1)・狩人(1)・村人(4)

### ○参加者

松森誓子(有珠山)・エイスリン・ウィツシユアート(宮守女子)・亦野誠子(白糸台)  
ネリー・ヴィルサラーゼ(臨海女子)・染谷まこ(清澄)・沢村智紀(龍門渕)  
文堂星夏(風越女子)・津山睦月(鶴賀)・安河内美子(新道寺女子)・薄墨初美(永水女子)

ふ「以上のようになっております!」

健「そして、初日役欠け無し、占い有りとなっています。時間は初日が5分、以降は

1分ずつ減っていきます。」

ふ「残り30秒で声をかけますので、気をつけてくださいね〜!」

健「それでは、早速始めましょう。」

ふ「勝つのはどちらか、人狼バトル〜!?!」

健「スタートです。」

○2日目（昼） 犠牲者 初日犠牲者

処刑

生存 桧森・エイスリン・亦野・ネリー・染谷・沢村・文堂・津山・安

河内・薄墨

初日犠牲者の無残な死体が発見されました。

桧「えっと、それじゃあよろしくね?」

沢「よろしく・・・」

染「よろしく頼むわ。で、どうするんじや?早速COか?」

文「あ、それがいいのではないかと・・・」

津「うむ。幸い欠けもないようだし、まずは初日のうちに聞いておいたほうがいいと思います。」

ネ「じゃあCOね！ネリー占いだよ！」

エ「オウ、イキナリデタ・・・」

亦「あ、合わせなくて良かったんですか・・・？」

ネ「？合わせるって？」

薄「・・・えっと、初心者なのですよ〜？」

ネ「うん！ネリー、これやるの今日が初めてだよ！」

染「なるほどのう・・・まあそれなら仕方あるまい。それで対抗はおるのか？おらんければヴィルさんで決定じゃぞ？」

安「そ、それは困ると。占いは私ばい・・・。」

沢「・・・対抗は1人・・・」

亦「これは、真と凶、もしくは人狼・・・？」

文「少なくとも欠けは無いんですよね？でしたら、占い内容をお聞きしたいんですが……？」

ネ「いいよ！私が占ったのは、ニュージールランドの子！○だね！」

安「私が占ったんは、染谷さんばい。○じゃね……」

エ「……ワタシダ！」

染「それとわしのようじゃな。初日じゃし、占いも適當か？」

ネ「うん！訳分かんないから、同じ留学生の子を見てみたよ！」

安「動画で染谷さんたちのプレイは見とったばい。経験者つちゆうことで、警戒ばしたと。」

薄「うくん……さすがに、この時点だと真偽はつけられないのですよ？」

松「そうだね。だとすると、グレランっていうのになるのかな？」

文「グレラン……確か、COもしておらず、占い結果も出ていない人たちの中から、ですよね？」

エ「デモ、ヘタスルトカマレル！」

染「そうじゃな。人狼目線で真占いの判別がつかいとれば、今日の夜は危ないの……」

津「……その場合は、占いのどちらかが人狼か、もしくは占われた人が人狼、ってことですね。」

ネ「グレランにするの？あいつ偽者なんだから、あいつでいいじゃん？」

安「真は私ばい。……そんなこと言うなら、いつそ占いの決め打ちでも良かよ？」

亦「さすがに、2日目から決め打ちは……？」

沢「……でも、悪くは無い……」

染「ん？」

絵「え、結構悪手じゃない？」

沢「……悪いほうに転がれば、悪手。でも良いほうに転がれば、むしろチャンスになる……」

薄「確かに、それはそうなんですけど……？」

染「……確かに、良いほうに転がればチャンスじゃな。じゃが悪いほうに転がれば、良くて引き分けじゃぞ？」

文「その、さすがに2日目から仕掛けるにしては、さすがに博打すぎないかと思うんですが……？」

津「うむ。明日の流れを見てからでも遅くは無いかと。というより……」

亦「その……こういうこと言うのはなんですが、沢村さん少し怪しくはないですか？」

なんだか占いを消したがってるような……?」

沢「……それは誤解。むしろ警戒すべきは、明日の犠牲者に占いのどちらかがなるという可能性……」

安「……確かに、ウイルスラーゼさんかウィツシユアートさんが人狼なら、私は危なかね……」

ネ「別に、ネリーって呼んでいいよ?みんなもね?……でも私だって、そつちと同じこと言えるよ?」

エ「ワタシモエイスリンデイイ!デモ、マコタチジンロウナラ、ネリーアブナイ!」  
染「わしは人狼じゃないが……さて、どうするべきかのう……?」

桧「……妥協策だけど、やっぱりグレランがいいんじゃないかな?もし占いが真・凶なら、まだ人狼からしても判別できてないかもしれないし?」

文「私もそれに賛成です。やっぱり、初日から決め打ちっていうのは……」  
薄「私もグレランに賛成なのですよ。」

亦「そうですね。やはり決め打ちはまだ危険かと思えます。」  
津「うむ。……全体的に、グレランの流れかと。」

染「じゃな。なら今日はグレランにするか?沢村さんもそれでええかのう?」  
沢「……構わない。というより、方法の一つを提示しただけだから、気にしなくて

いい……」

エ「ナラ、キョウハグレラン！」

薄「グレランに決定なら、COするのですよ。私が霊能なのですよ！」

桧「薄墨さんが霊能か……。」

津「うむ。なら、薄墨さんも除外して投票しましょう。」

文「だとすると、候補は私と……」

沢「……私……」

桧「私もだね。」

津「うむ。私もです。」

亦「あとは私で、5人の中からですね。」

染「こん中から選ぶつちゆうことになるわけじゃが……」

文「……その、候補の私が言うのと怪しまれるかもしれないませんが、沢村さん危なくないですか？危ないと言っても、吊られるかもっていうほうの意味なんです……」

沢「……私自身、そう思う……」

エ「ワタシ、トウヒョウシヨウツテオモツテタ！」

染「投票が始まるまでは、あまりそういうことは正直に言わんほうがええぞ？ 下手すると疑われるわい。」

エ「オウ・・・スマヌ・・・」

安「・・・切欠は、私なんやろうけど・・・？」

桧「確かに、少し怪しい気が・・・」

沢「・・・なんだったら、吊られても構わない。私、役無しだから・・・」

文「え・・・？」

津「うむ？・・・それは、柱COということですか？」

沢「・・・うん。間違つて狩人を吊るよりは、よほどいい・・・」

染「・・・正直に言わせてもらおうと反対じゃな。むしろそう言えるつちゆうことは、沢村さんが本当に村人じゃつちゆうつことじゃろ？」

亦「確かに私もそう思いますが、ですが、そう思わせてつていう可能性もありますよ？」

ネ「なら、私占つてみようか？ えつと、智紀が人狼かどうか！」

安「なんでそつちが占うん？ 私が占わんと意味なかと？」

桧「えつと、どうしよつか・・・？」

染「・・・占うのは微妙じゃな。むしろ、吊るか、信用するのかつちゆうほうがええ



気がするわい。」

文「・・・その、それで信用されるっていうのを見越してのCOだとしたら・・・？」

薄「してやられますよ？」

津「うむ。・・・さすがに、危ない気が・・・？」

染「じゃが、GJが出なければ吊りは4回じゃ。人外3匹つちゆうのを考えると、あまり無駄吊りはしたくないがのう・・・」

エ「キヨウハズスト、ムダニツレナクナル・・・!？」

染「そういうことじゃ。」

亦「確かに、それも分かりますが・・・」

津「・・・どうするすべきか・・・？」

薄「・・・なら、いつそ各自の目線で投票しちやえばいいんじゃないですか？」

安「・・・そいは、役職や結果も関係なくつちゆうこと？」

文「そ、それはさすがに・・・!？」

桧「えつと、さすがに・・・ね？」

沢「・・・そうするぐらいなら、まだ私が吊られたほうがいい・・・」

ネ「・・・初美怪しいよ！私、初美占うね！」

安「やけん・・・ん？」

染「・・・いや、それだけは駄目じゃぞ？」

薄「わ、私霊能ですよ〜!?」

ネ「あ、そっか。」

ふ：さあ、残り30秒です！

健：まだ決まらないようですね。今日は誰が吊られるのでしょうか？

亦「つて、時間がないですよ・・・!?」

津「う、うむう・・・!?」

文「ど、どうしますか？グレランでいいんですか？」

桧「・・・しかないよね。染谷さんも、それでいい？」

染「まあ仕方なからう。よく考えてはほしいんじやが・・・？」

沢「・・・ありがとう、染谷さん・・・」

染「・・・これで人狼じゃつたら、ただじやおかんからな・・・？」

安「・・・なら、グレランで決まりと。」

ネ「5人の中からだね！」

エ「アヤシイヤツ・・・！」

薄「誰に投票しましょうかね〜？」

ふ：つと、ここで時間で〜す！

健：それでは、各自投票を始めてください。

○投票結果

桧森(2) ↓ 沢村 エイ(0) ↓ 赤野 赤野(2) ↓ 沢村 ネリー(0) ↓ 桧森

染谷(0) ↓ 文堂 沢村(4) ↓ 津山 文堂(1) ↓ 沢村 津山(1) ↓ 沢村

安河内(0) ↓ 桧森 薄墨(0) ↓ 赤野

投票の結果、沢村智紀さんが処刑されました。

沢「・・・残念。でもステルスで吊られたわけじゃないから、ちよつと満足・・・」

○3日目(昼) 犠牲 初日犠牲者・ネリー

処刑 沢村

生存 桧森・エイスリン・赤野・染谷・文堂・津山・安河内・薄墨

ネリー・ヴィルサラーゼさんの無残な死体が発見されました。

ふ：みなさんおはようございませう！昨日の犠牲者は、なんとネリーさんでした！

健：これは一体何を示しているのか？ちゃんと考えなくてはいけませんね。

ふ：2日目の会話時間は4分です！

健：時間は少しづつ減っていきます。無駄話はせず、真実を見つけてください。

ふ：それでは第1回戦、3日目！

健：スタートです。

薄「おはようなのですよ。沢村さんの結果は○、村人だったのですよ。」

松「うわ、本当に村人だったんだ・・・」

染「そりやそうじゃろ。人狼2匹で柱COなんか出来んわい。」

文「・・・ですが、ネリーさんが噛まれましたね・・・！」

津「うむ。こうなると、安河内さんはちよつと・・・！」

安「・・・疑われても仕方なかね。じゃけんど、違うとしか言えんばい。」

エ「ムム・・・マコ、ジンロウ？」

染「違うわい。．．可能性は3つじや。安河内さんが人狼か、もしくはエイスリンが人狼で、真占いの信用を消しにきたか。もしくはは．．．」

亦「．．．真偽関係なく嘸んで、村人を混乱させようとしている、ということでしょうね。」

薄「でも、これだと対抗を信用は出来ないのですよ〜?」

津「うむ。本当に安河内さんか、もしくは染谷さんが人狼の可能性もありますからね．．．!」

安「．．．違うとしか言えんね。私目線やと、ネリーちゃんは狂人ばい。人狼ら、私と染谷さんの信用を消しにかかつとると。」

染「そうじゃな。．．とりあえず、占いの結果を聞いてもええかの?」

桧「そ、そうだよね。もしかしたら、何か分かるかもしれないし．．!?」

安「．．．すまなかとしか言えんね。私ん結果は文堂さん○。人狼を見つけれんかつたばい．．．」

文「．．．わ、私を占ってくれたんですか?」

津「．．．正直微妙じゃありませんか?安河内さん、昨日は桧森さんに投票してまし

たよね?」

亦「確かに・・・なんで松森さんを占わなかったんですか?」

安「・・・私が昨日松森さんに投票したんは、染谷さん以外で中心に来そうな気配があつたからよ。やけん投票したんよ。文堂さん占つたんは、危ない言いながらも沢村さんに投票しとつたからやね。てつきり他ん子に投票する思うてたから、少し気になつたとね。」

エ「ン〜・・・ナットクハデキル・・・」

文「・・・その、すいません。結局分からなくて、沢村さんに投票してしまい・・・」  
染「ふむ。・・・これはどう見るべきじゃ? 安河内さんが真か、それとも念のため吊つてしまうか・・・?」

亦「確かに、占い理由とかは分かる気もしますが、対抗が囁まれてしまいましたしね・・・?」

松「う〜ん・・・安全策をとつたほうがいいのかな?」

エ「ツルカ?」

安「・・・本音は反対なんやけど、仕方なかとね・・・」

文「で、でも安河内さんが真なら、村人チャンスでは・・・?」

薄「文堂さんは、自分が占われたからそう言えるのですよ。」

亦「それに、安河内さんが真だという保障もありませんし。むしろこれで安河内さんが人外だったら、染谷さんと文堂さんも怪しくなります・・・！」

津「うむ。特に安河内さんが人狼だったなら、囲いの危険性もある・・・！」

染「違うんじゃないの・・・それにじゃ。おそらくじゃが囲いは無いんじゃないかのう？」

エ「ナンデダ？」

染「囲いつちゆうのは、人狼同士じゃないと出来んじゃない？じゃが安河内さんが人狼じゃとしたら、当然ネリーは真じゃな。そんなら狂人はどこにおるんじゃないか話じゃわい。」

文「なるほど・・・確かに欠けが無いこのゲームでは、必ず狂人もいるはずですしね：」  
松「つまり、染谷さんは人狼じゃなくて、狂人が占い騙りをしてるって考えてるのね？」

染「勝手な思い込みじゃがな。これで安河内さん吊って●が出たら、それこそ狂人の考えが読めんわい。」

安「・・・私目線は、それしかないばい。今日は私を吊っても構わんけど、残り2回で人狼を吊りきってほしいと。」

薄「そうなのですよ。これで安河内さんも○だと、吊りの余裕が無くなるのですよ

く……」

亦「考えどころですな……!？」

津「うむ。安河内さんを吊つて勝負をかけるか、それとも真と信じて他を吊るか、ですな……!？」

エ「ウゥン……ツル? シンジル?」

染「……本音を言えば信じたいんじやが、こればかりはのう。人外じゃつたら最悪じゃし……」

薄「どうしましょうか……?」

文「……ですが、信じた場合はグレラン、ですよね……?」

桧「昨日の面子から、文堂さんと沢村を抜くと、私を含めて3人だよな……?」

津「そうですね。私もそうです。」

エ「コノナカニ、ジンロウイル?」

染「いると思うんじやが……ちなみに言っておくが、ネリーが狂人なら、お前さんとして怪しいからな?」

エ「……オウ、ソウダッタ……!」

薄「むむむ……?」



ふ：ここで、残り30秒だろ!?

健：時間がありませんね。急いでください。

津「うむう……!」

亦「……いつそ、信じてみますか?もちろん外れたら最悪ですけど……!」

松「そうだね……なら、私たち3人の中から投票でいい?」

染「……じゃな。悪いほうに転がらんことを祈るかのう……」

薄「了解なのですよ。ではでは、誰に投票しましょうかね?」

エ「アヤシイヤツ、サガス!」

文「えつと、誰に投票すれば……!?!」

安「……私は残してくれると?そんなら、頑張つて人狼ば見つけるばい……!」

ふ：ここで、タイムアップ!

健：時間です。投票を始めてください。

## ○投票結果

松森 (2) ↓ 亦野 エイ (0) ↓ 津山 亦野 (3) ↓ 津山 染谷 (0) ↓ 松森  
 文堂 (0) ↓ 亦野 津山 (3) ↓ 亦野 安河内 (0) ↓ 松森 薄墨 (0) ↓ 津山  
 再投票です。投票しなおして下さい。

松森 (2) ↓ 津山 エイ (0) ↓ 津山 亦野 (2) ↓ 津山 染谷 (0) ↓ 松森  
 文堂 (0) ↓ 亦野 津山 (5) ↓ 亦野 安河内 (0) ↓ 津山 薄墨 (0) ↓ 津山  
 投票の結果、津山睦月さんが処刑されました。

津「うむう、残念・・・みなさん、頑張ってくださいね・・・！」

○4日目(昼) 犠牲 初日犠牲者・ネリー・薄墨

処刑 沢村・津山

生存 松森・エイスリン・亦野・染谷・文堂・安河内

薄墨初美さんの無残な死体が発見されました。

ふ：みなさん、おつはようございま〜す！

健：昨日の犠牲者は、薄墨初美さんでした。

ふ：おそらくは真霊能であった、薄墨さんがやられてしまった?! これからどうなるのか?!

健：事の真偽ははっきりさせないといけませんね。間違えれば、人狼たちの思う壺でしょう。

ふ：そして、今日の会話時間は3分でつす!

健：時間はどんどん無くなっています。みなさん、頑張つて推理してください。

ふ：それでは第1回戦、4日目!!

健：スタートです。

安「・・・みんな、おはようさん! ようやく人狼ば見つけたと!」

染「おはようさん。それはありがたいんじやが・・・」

文「・・・その、犠牲になったのは薄墨さんなんですか・・・?」

エ「・・・ウラナイ、アヤシイ!」

松「そうだね。てっきり安河内さんがやられるか、もしくは平和が出るかって思ってたから・・・」

亦「この状況で、占いが真なら残すはずがないと思うんですが・・・!」

安「うう・・・や、やっぱり疑われてると？ばってん、それが人狼の罠ばい！自分たちを真を消させようとしとると!?」

染「・・・とりあえずは聞かせてほしいわい。占いの結果はどうだったんじや?」

安「そ、そうだったばい！結果は、**●** 松森さん **●** ばい！」

松「・・・うん。こりや人外確定だね。」

安「人狼は松森さんばい!・・・昨日の再投票で、私以外に変更してるから気になつたばい!こんなら、やっぱ昨日のうちに占つておけば良かったと・・・!」

松「違うからね?そもそも残されてる時点で怪しいし、まして私に **●** つけてるんだから、もう私は信じないからね?」

染「・・・昨日とは意見を変えるが、わしも正直信じられんようになったわ。真を残すつちゆう意味が見当たらんわい。」

亦「ですね。確かに、私たちにも博打すぎます・・・!」

文「その前に、占われてしまったらアウトですからね・・・」

エ「ナラ、キョウハヤスコウチ、ツル！」

安「み、味方はおらんと!? 私、ちゃんと人狼ば見つけたばい!」

松「だから、私は人狼じゃないんだってば……!」

亦「……松森さんの真偽はともかく、安河内さんを信じるのは無理ですね。おそれ薄墨さんがやられたのも、安河内さんに護衛が行くと見越してのことでしょうね。」

染「そうじやろうな。安河内さんが真なら、ここは無理してでも嘯みに行かなあかん場面じゃ。」

安「み、みんな騙されてると……狩人がおる可能性があるんに、私は狙いに行けて……!?」

文「……え、えつと、本当に真じゃないんですよね……?」

エ「マヨツチャダメ!」

亦「そうですね。安河内さんには申し訳ないですが、ここは吊られてもらいます……!」

安「で、でも津山さんが人狼じゃなかったら、人狼ば2匹とも残ることになると! そうすつと、村人の負けばい!」

染「確かにそのとおりじゃ。じゃが、安河内さんが人狼じゃという可能性も、多少はあるのでう……?」

松「多少じゃなくて、むしろ人狼本人なんじゃないの? 狂人が分からないけど、まだ

伏せてるか、もしくは津山さんだったっていう可能性もあるしね？」

安「じ、人狼は黙ってるばい!？」

桧「だから違うって言うてるでしょ!？」

安「ひい!？」

染「・・・あゝ、リアルな喧嘩は無しじゃぞ？」

亦「確かに、それはご法度ですね・・・。」

文「その、そんな雰囲気じゃないのは分かるんですが、もう少し仲良く・・・?」

桧&安「無理に決まって（んでしょ）（ると）!？」

文「ご、ごめんなさ〜い!？」

ふ「・・・えつと、残り30秒だ〜!？」

健「喧嘩は駄目だよ?みんな仲良くね?

染「・・・みんな仲良く疑い合えつちゆうのもの、なかなか破綻しとるんじやがのう・・・」

亦「まあ、そういうゲームなわけですし・・・？」

エ「ギシンアンキ！」

桧「あ、難しい言葉知ってるね？」

エ「ガンバツテオボエタ！」

文「そ、それじゃあ今日の投票は・・・？」

染「安河内さんじゃな。まあ仕方なかるう。」

安「うう・・・ばってん、桧森さんは必ず吊ってほしいと！お願いばい!!」

ふ：しゅりょろろろ!!

健：それでは、投票を始めてください。

### ○投票結果

桧森（1）↓安河内      エイ（0）↓安河内      亦野（0）↓安河内      染谷（0）↓安

河内

文堂（0）↓安河内      安河内（5）↓桧森

投票の結果、安河内美子さんは処刑されました。

安「みんな、騙されたらいかんばい……！」

○5日目（昼） 犠牲 初日犠牲者・ネリー・薄墨・染谷

処刑 沢村・津山・安河内

生存 桧森・エイスリン・亦野・文堂

染谷まこさんの無残な死体が発見されました。

ふ：みんなおっはよく！ついに5日目の朝がやってきたぞく!?

健：昨日の犠牲者は染谷さんでした。話の中心になってくれた彼女でしたが、どうやら村人で間違いないようですね。

ふ：そして、今日の会話時間は2分だけ!?

健：今日で決着となるでしょうか？みなさん、頑張ってくださいね？

ふ：ではでは！第1回戦、5日目く！

健：スタートです。

亦「おはようございます。……5日目に来たっていうことは、少なくとも人狼1匹



は吊れてるわけですね。」

松 「そうだね。2匹とも残ってたら、この時点で決着がついちやうしね。」

エ 「ツマリコノナカニ、ヒトリウソツキイル！」

文 「え、えっと、だとしたら誰を吊ればいいんでしょうか・・・!?」

亦 「・・・私目線、怪しいのはエイスリンさんか松森さんです。お2方は、それぞれ誰が怪しいと思ってますか？」

松 「・・・その言い方が、何だか誘導っぽくて怪しいよね。まあそれを抜きにしても、怪しいと思うのは亦野さんだね。私目線だと安河内さんは人外確定だから、少なくともエイスリンさんは○確定だしね。」

エ 「ワタシ、ブンドー！オドオドシスギ！」

文 「ええ!?だ、だってここまで残るなんて思ってますませんでしたし・・・!?」

亦 「・・・まあ、それには同意権だね。私も、下手したら初日で吊られるかもって覚悟してたし・・・」

松 「ちよっと！そうやって村人に同調するのはやめること！」

亦 「って、私は村人ですよ!？」

松 「さつきも言ったけど、私目線だと亦野さんなの！エイスリンさんは○だし、文堂さんは人狼にしてはオドオドしすぎだし！」

エ「ブンドー、ジンロウカ!？」

文「ちちち、違いますよ!？」

亦「な、なら私は松森さんに投票します!もし本当に安河内さんが真占いだっというなら、それで決まりですしね!」

松「絶対に違うからね!私は、亦野さんに投票するから!」

エ「ナラ、ワタシハブンドーニトウヒヨウスル!」

文「ち、違うんですってば!?!それで、私は誰に投票すればいいんですか!?!」

3人「怪しい奴に決まってるでしょ(アヤシイヤツニキマツテル)!?!」

文「は、はい!?!」

ふ「……の、残り30秒だ!?!」

健「どうなるのでしょうか?果たして結果は……?」

松「文堂さん!亦野さんに投票しよう!?!」

文「は、はい!?!分かりまし……」

亦「駄目ですよ！松森さんに投票です！」

文「ひ、松森さんに!? え、どっちですか!？」

エ「・・・ダカラジブンデキメル!!」

文「そ、そんなく・・・!?」

ふ：ここでタイムアップだく!?

健：それでは投票ですね。結果はどうなるのでしょうか・・・?

○投票結果

松森(2) ↓ 亦野 エイ(0) ↓ 文堂 亦野(1) ↓ 松森 文堂(1) ↓ 松森  
投票の結果、松森誓子さんは処刑されました。

松「嘘っ！私が処刑されるんですか・・・!?」

○6日目(昼) 犠牲 初日犠牲者・ネリー・薄墨・染谷

処刑 沢村・津山・安河内・松森

生存 エイスリン・亦野・文堂  
平和な朝を迎えました。

ふ：みんなおつはよろ！まさかまさかの6日目だ〜!?

健：驚きましたね。まさか、6日目を迎えるとは思っていませんでした・・・!

ふ：昨日の犠牲者はいません！つまり、あの役職がまだ残っているということか〜!  
健：間違いなく、今日で決着がつきますね。そして会話時間は1分。果たして、勝負

の行方は・・・!

ふ：それでは人狼バトル第1回戦、最終日〜!!

健：スタートです・・・!

亦「おはようございます！CO狩人、人狼は文堂さんです!!」

文「ええ!?!ち、違います！狩人は私ですよ〜!」

エ「・・・ヤ、ヤッパリブンドージンロウカ!?!」

亦「そうですね！桧森さんを吊つても終了しなかつたので、安河内さんは人外確定！だから○確定のエイスリンさんを、昨日は護衛して成功しました!」

文「で、ですから守つたのは私なんですってば〜!」

エ「ムツ・・・ブンドー、イママデダレマモツテタ？」

文「え、えっと確か、2日目の夜が薄墨さんで、3日目の夜が安河内さんで、4日目の夜が赤野さんで、昨日がエイスリンさんです！」

亦「嘘つかないでください！狩人は私ですよ!!」

エ「ムウ・・・マタノ、ダレマモツテタ？」

亦「2日目が薄墨さん。3日目が安河内さん。それで4日目と昨日は、エイスリンさんです！」

文「信じてください!!」

亦「騙されないで下さい!!」

ふ：残り10秒だろ!!

健：さあ、どっちが本物なんでしょうか・・・!!

エ「エ、エツト・・・!!」

亦「エイスリンさん！」

文「エイスリンさん!!」

エ「・・・コンナナヤムノ、ワタシノヤクジャナイ!!」

ふ：しゅくりよ〜！！

健：それでは最後の投票です。みなさん、投票を始めてください。

○投票結果

エイ（0）↓亦野 亦野（2）↓文堂 文堂（1）↓亦野

投票の結果、亦野誠子さんが処刑されました。

亦「そ、そんな・・・!?」

文「エイスリンさん・・・！」

エ「・・・ブンドー、オドオドシスギ！キットホンモノ!!」

この瞬間、村人と人狼の数が同じになりました。

おめでとうございます！

人狼の勝利です!!

エ「・・・Oh, no・・・」

亦「うう、私が狩人なんですよ・・・」

文「よ、良かったですよ・・・!?!」

津「おめでとう、文堂さん！」

安「おめでとばい。」

文「うう、津山さんが吊られちゃって、私どうすればいいか迷っちゃって・・・!?!」

津「でも、結果的には文堂さんのおかげで勝利だよ・・・!?!」

安「ほんに助かったばい・・・!?!」

津山睦月・文堂星夏（人狼） 安河内美子（狂人）

ネ「むうう！なんで美子をすぐに吊らないのかなく!?!」

薄「仕方ないですよ。まさか、本当に関係無しに噛んできたとは思わなかったのですよ・・・」

亦「はあ、せっかくGJ出たのに、吊られて負けるだなんて……」  
ネリー・ヴィルサラーズ（占い） 薄墨初美（霊能） 亦野誠子（狩人）

エ「……スマヌ……」

染「そう落ち込んでええわい。ありやわしだつて迷うわ。」

沢「……うん。文堂さんの態度が、逆に真つぽく見せてた……」

桧「うわ、亦野さんが狩人だったの!?! あ、後で謝らなくちゃ……」

エイスリン・ウィツシユアート・染谷まこ・沢村智紀・桧森誓子（村人）

ふ「……というわけで！ 第1回戦は人狼の勝利だく!!」

健「文堂さん、初心者なんだつてね。それが人狼になつちやつて、まして1人残されちやつたから、あんなに落ち着きが無くなつちやつたんだね。」

ふ「でも、結果的にはそれがいい方に転んだみたいだね!?!」

健「そうだね。結果論とはいえ、彼女もよく頑張つてたと思うよ。」

ふ「以上、上から目線のありがた〜いお言葉でした〜!」

健「えっ!?! いや、別にそういうつもりで言ったんじゃないよ!?!」



ふ「それでは続きまして、第2回戦を行います！」

健「ちよ・・・え、えっと、参加者は集合してください。」

ふ「集まり次第、2回戦を始めるぞ〜!？」

健「そ、それではまた・・・」

続く・・・

# 人狼バトル第2回戦 ①

ふ「準備も終わりましたので、それでは第2回戦に突入だ〜!」  
健「今回の参加者、および役職は以下ようになります。」

## ○参加者

真屋ゆきこ（有珠山） 小瀬川白望（宮守女子） 弘世董（白糸台）  
雀明華（臨海女子） 片岡優希（清澄） 井上純（龍門渕） 吉留未春（風越女子）  
蒲原智美（鶴賀） 鷺森灼（阿智賀女子） 愛宕絹恵（姫松） 船久保浩子（千里山女子）  
花田煌（新道寺女子） 神代小蒔（永水女子）

## ○役職

人狼（2） 狂人（1） 狐（1） 共有（2） 占い（1） 霊能（1） 狩人（1） 村人（5）

ふ「今回の参加者は13人！そして狐が加わりまゝす！」

健「そして注意してほしいのがルールですね。今回は、初日役欠け有り、占い無しとなつています。」

ふ「つまり、2日目のスタート時点では、まだ占いが出来ていないということですよ！」

健「初日は5分です。3日目からは、30秒ずつ減っていきます。残り30秒の時点で声をかけますので、ご注意ください。」

ふ「それでは人狼バトル、第2回戦！始めるぞ〜!？」

健「みなさん頑張ってくださいね？それでは、スタートです。」

○2日目（昼） 犠牲 初日犠牲者

処刑

生存 真屋・小瀬川・弘世・雀・片岡・井上・吉留・蒲原・鷺森・愛

宍絹

船久保・花田・神代

初日犠牲者の無残な死体が発見されました。

神「それではみなさん、よろしくお願いします！」

絹「よろしく頼むで！」

弘「よろしく。それで、早速だがどうするんだ？今日の時点では、占いの結果が出ていないんだよな？」

花「ルールを聞く限り、どうやらそのようですね。全くもってスバラくない・・・。」

片「なら、とりあえずはCOだじえ！私が共有だじえ！」

吉「あ、片岡さんが共有だったんだ？」

蒲「ワハハ、頑張ってくれよ？」

片「任せろだじえ！ちなみに、対抗はいるのかだじえ？」

小「：：いないでしょ。人狼は2匹、狐は1匹。騙った時点でロラして終了だよ：：」  
船「まあその通りですな。ほな、片岡さんが真で確定ですわ。ちなみに相方は欠け  
すか？それとも・・・」

片「相方は伏せてるじえ！だから、共有は欠けてないってことだけは覚えておいてほ

しいじえー！」

井「りよ〜かい。にしても、村の中心がよりにもよってタコスとはな・・・？」

雀「タコス・・・メキシコ料理ですか？」

真「美味しいですよね。私も好きですよ？」

片「おお！つまり、おっぱい2号ちゃんは味方なんだじえー!!」

井「いや、何でだつての・・・」

真「・・・え？おっぱ・・・つて、私のことですか？」

鷺「・・・話が脱線しすぎ。時間は短いし、話を進めたほうがい・・・」

花「そうですね。それじゃあ優希、進行役はお任せしますよ？」

片「おう！それでなんだけど、占いのCOはどうするじえ？結果が出てないなら、このまま伏せとくつていう手もあるんだけど・・・？」

蒲「ワハハ。確かに、出ると狙われるかもしれないけどな。」

弘「だが、吊られてしまったら元も子も無くなる。COだけでもさせて、候補は絞っておくべきだと思うが？」

小「・・・そうだね。もし占いが狙われたら、最悪口ラするつていう手もあるし・・・」

絹「ほな、占いのCOやりますか？」

神「そうですね。今日の時点で、もしかしたら何か分かるかもしれませんし！」

井「なら占いのCOさせてみつか？タコス、合図よろしくな。」

片「了解だじえ！それじゃあ、占いは自分だつて言う人は手を挙げてほしいじえ！」

船「ほなCOですわ。占いはうちですな。」

鷺「・・・CO。占い・・・」

吉「はい。CO、占いです。」

真「・・・3人ということは、確実に2人が人外ですよね・・・？」

花「そうですね。ですが、その内役はどうなっているんでしょうか・・・？」

井「単純に考えるんなら、真・凶・狼じゃねくか？狐1匹で占い騙りつてよりは有り  
そうだけ？」

小「・・・確かに。3人のうちの誰かが、人狼である可能性は高い・・・」

雀「だとすれば、真はどなたなんでしょうか？今日の時点だと、まだ判別できません  
よね・・・？」

船「まあ真は私やし、対抗のお2方は人外確定ですわ。いつそ対抗を吊つてまうつ  
ちゆう手もありませ？」

鷺「・・・人外はそつち。真は私・・・！」

吉「違います！真占いは私なんだから！」

片「むう……さすがに分からないじえ……」

絹「そりや、この時点で真偽つけられたら大したもんやで……」

弘「……なら、この3人はとりあえず投票から除外だな。明日からの占い結果に期待しよう。」

花「そうですね。ですが、騙りに騙されるわけにもいきません。真偽はつきりさせないといけませんね！」

井「だな。まああからさまに怪しいと思つたら、俺は投票するけどな？」

蒲「ワハハ。確かに、おかしなところ占つたら信用がた落ちだぞ？」

神「では、占いの方たちと片岡さんを除外して、残りでグレランでしょうか？」

井「いや、どうせなら霊能もCOさせていいんじゃないか？狩人が欠けてなけりや、今日はそこ守らせりやいいだろ？」

雀「ですが、そうすると片岡さんが噛まれるかもしれないよ……？」

小「……うん。霊能は明日でいいと思う。今日は占いの真偽がつかないし、狩人には片岡さんを守ってもらったほうがいい……」

弘「ふむ。確かに共有の安全面を考えるならそれでもいいが、それで万が一にも吊られたら最悪じゃないか？」

絹「そうやな。下手すると、人外に乗っ取られる可能性もあるで!!」

真「確かに、候補が1人だったとすると、明日以降のCOは信用が落ちそうですが……?」

船「最悪、霊能が欠けとるつちゆう可能性もありますわ。ほんなら、今日のうちに確認だけはしてもええんちやいます?狩人には狩人の判断で動いてもらいましょ?」

吉「確かに、人狼を見つけて吊ったとしても、それで○なんか出されたらたまりませんしね……!」

片「……うん。なら今日のうちに霊能のCOを頼むじえ!霊能つて誰だじえ?」

真「……ではCOさせていただきます。霊能は私になりました。」

花「……ふむ。どうやら候補は1人だけのようですね?」

神「では、真屋さんが真で確定ということではないでしょうか……?」

井「……だといいだけだな。むしろ2人出てくれたほうが、まだ信憑性が有りそうなんだが……?」

鷺「……とりあえずは、真確定でもいいと思う。おかしければ、改めて議論すればいい……」



船「・・・ほう？真屋さんを真認定するのがやけに早いんですね？・・・もしかしてやけど、鷺森さんと真屋はんで2人狼ちやうやろな・・・？」

鷺「む・・・それは違・・・！」

雀「・・・困りました。欠けがあるせいで、素直に信用することが出来ないのですが・・・？」

真「私は、自分が真だとしか言えません。ですので、私目線で村に貢献させていただきます・・・！」

花「その心意気・・・スバラです・・・！」

井「まあ、あくまで真ならって話だな。とりあえず、残った中からグレランか？」

絹「そうすると、候補はうちを含めて8人やな？」

弘「そうだな。まずは私か。」

小「・・・私もそうだね・・・」

蒲「ワハハ。私もだなく。」

井「当然、俺もだな。」

神「わ、私もですね！」

雀「私も対象です。」

花「で、最後は私ですね。この8人の中から、怪しい人を探すのでしょうか？」

弘「ふむ……ステルスという意味では、蒲原さんや雀さんが怪しい気はするかな？」

蒲「ワハハ。違うぞ〜？」

雀「その、こういう遊びは初めてなものでして……」

絹「……確かにその2人も怪しいんやけど、むしろそうやって票を誘導しようとする、弘世さんも怪しくないですか？」

吉「確かに、私から見ても今のは少し怪しかったです……！」

船「そうやな。ちよいと無理矢理すぎやしませんかね……？」

弘「ん？……怪しまれるのを恐れて、村に何も貢献しようとしないうほうか、私にとつては問題だということだ。思ったことは素直に言わせてもらおうつもりだ。」

小「……ステルスに、必ずしも人外がいるとは限らないよ？むしろ、発言数が多い人の中に、信用を取ろうとしている人外がいるかもしれないし……」

鷺「……私も、そう思……！」

片「ん……だとしても、今日は誰を吊ればいいんだじえ……？」

ふ「……ここで残り30秒だ〜!？」

健「それでは、今日の結果をまとめてください。」

片「……って時間が来てしまったじえ。それじゃあ、今日はそれぞれ怪しいと思う人に投票してほしいじえ！」

絹「了解や！人外を吊ってみせるで!？」

神「むむむ……！」

船「……対抗に投票出来んっちゆうのが癪やな。うち目線、人外確定なんやけど……？」

吉「船久保さんだつて、人外でしょ!？」

鷺「……2人とも、人外……」

弘「まあ、今日はあくまでグレランだ。その日の決定には従ってくれ。」

花「そうですね。こういう決まりは、しっかりと守らなくてはいけませんよ！」

井「となると、怪しいのは誰かってことだよな……？」

真「私からして、怪しい人……？」

雀「……困りました。まだ判別が出来ていないのですが……？」

蒲「ワハハ。私にもさっぱりだぞ？」

小「……まあ、各自の目線で追うしかないよね……」

ふ：終了でつす！

健：それでは、投票を始めてください。

○投票結果

真屋 (0) ↓蒲原      小瀬川 (1) ↓弘世      弘世 (3) ↓蒲原      雀 (1) ↓井上  
 片岡 (0) ↓小瀬川      井上 (3) ↓雀      吉留 (0) ↓神代      蒲原 (3) ↓井上  
 鷺森 (0) ↓弘世      愛宕絹 (1) ↓弘世      船久保 (0) ↓井上      花田 (0) ↓愛宕絹

絹

神代 (1) ↓蒲原  
 再投票です。投票しなおして下さい。

真屋 (0) ↓蒲原      小瀬川 (0) ↓弘世      弘世 (3) ↓蒲原      雀 (1) ↓井上  
 片岡 (0) ↓蒲原      井上 (3) ↓雀      吉留 (0) ↓神代      蒲原 (4) ↓井上  
 鷺森 (0) ↓弘世      愛宕絹 (1) ↓弘世      船久保 (0) ↓井上      花田 (0) ↓愛宕絹  
 神代 (1) ↓蒲原

投票の結果、蒲原智美さんが処刑されました。

蒲「ワハハ。この位では泣かないぞ・・・！」

○3日目(昼) 犠牲 初日犠牲者

処刑 蒲原

生存 真屋・小瀬川・弘世・雀・片岡・井上・吉留・鷺森・愛宕絹・船

久保

花田・神代

平和な朝を迎えました。

ふ：みなさん、おっはようございま〜す!!

健：平和な朝を迎えました。どうやら、昨日の犠牲者はいなかったようですね。

ふ：いつもこうならいいんだけどね! つか人狼いないんじゃない!?

健：それだと、人狼がないのに処刑をするっていうおかしい村になるよね? …まあとにかく、今日の会話時間は4分半ですね。

ふ：昨日より少し短くなりました! それじゃあみんな、頑張つてね〜!

健：それでは早速始めます。

ふ：第2回戦、3日目〜!

健：スタートです。

片「おはようだじえ！いきなりGJだじえ！」

花「すばらです！狩人さん、まさにGJですよ〜！」

神「はい！狩人さん凄いです！」

井「・・・いや、確かにGJならいいんだけどよ・・・？」

絹「その・・・もしかするとやけど、狐を噛んだんちやいます？」

雀「狐を・・・ですか？」

小「・・・可能性はあるね。もちろん、狩人GJの可能性も否定は出来ないけど・・・？」

船「GJやとしたら、共有か霊能を狙ったつちゆうことやろうな。まあ2分の1で成功やし、その可能性もじゆうぶん有るんやけど・・・？」

真「・・・ちなみにですが、蒲原さんの結果は○でした。確実に人狼ではありませんが、狐かどうかまでは分かりません。」

鷺「・・・狐なら助か・・・」

弘「・・・とはいっても、あまり樂觀視はしないほうがいいだろうな。それで、占いの結果はどうだったんだ？昨日は占えたんだろ？」

片「そ、そうだったじゃえ！早速聞かせてほしいんだじゃえ！」

船「ほな結果を言いますわ。井上純さん●。人狼ですわ。」

吉「弘世さん、○でした！」

鷲「小瀬川さん、●だった・・・！」

井「・・・へえ。俺に●つけるとはな・・・？」

小「・・・そう。鷲森さんがね・・・？」

船「占った理由としては、昨日の発言のいくつかやな。霊能CO要請しときながら、出てきた霊能を怪しむ言動見せたり、狩人の護衛先を霊能に固定しようとしたりと、うちからしたら怪しき十分やったで。そんで占ってみた結果、見事人狼やったつちゆうことやな。」

井「俺からすると、あんたが人外確定なんだがな？」

吉「私が占ったのは弘世さんです。昨日は蒲原さんが吊られちゃいましたし、私からすると票を誘導したようにしか見えませんでした。それで占ってみたんですが・・・ごめんなさい。弘世さん、村人です。」

弘「ふむ・・・」

鷺「……小瀬川さん、人狼だった。昨日の弘世さんのステルスへの誘導を否定したり、投票も同じだったりで、私と意見が近かったこともあって、味方かどうかを確認するつもりで占ったんだけど……残念だけど、人狼だった……！」

小「……違う、と言わせてもらうよ……」

神「そんな……なら、どちらかが人狼なんでしょうか……!?」

絹「可能性は高いで。もちろん真は吉留さんで、井上さんも小瀬川さんも村人つちゆう可能性も高いんやけどな……！」

船「そんなら井上さんを吊ってみたらええんや。これで○出ようもんなら、霊能の真屋さんも人外。つまり人外全露出やで？」

雀「確かに、船久保さんが真ならその通りですけど……?」

片「●が出るわけないじえ。のっぽは私の相方だじえ……！」

井「まあそういうこった。COで共有だ。今日の吊り先は決まりだな？」

船「」

小「……なら決まりだね。真占いは吉留さんだよ……」

鷺「……違う。真は私……！」



花「な、なんと・・・井上さんが共有だったのですね・・・!?!」

絹「めつちや怪しかったんやけど・・・もしかして、昨日はわざとやったりするん?」

井「多少の意識はしたけどな。まさかいきなり引つかかるとは思わなかったわ。」

片「むしろ吊られちゃうんじゃないかって冷や冷やしてたじえ。私に感謝してほしいじえ。」

井「はいはい。投票るときはどうも。」

真「なるほど・・・だから片岡さん、再投票で蒲原さんに入れなおしたんですね?」

神「共有の仲間を吊らないため、ですね!」

船「・・・つまりあれやな。今回の欠けは共有で、1人は蒲原さんやったつちゆうこ

とや。つまりや。片岡さんも人狼やったつちゆうこやで?」

吉「いやいや・・・」

鷺「・・・さすがに、それは無理があ・・・」

船「蒲原さんも勘弁してほしいわ。相方が欠けるとんやったら素直に出てきてほしいで・・・」

弘「・・・まさか、それで切り抜けられるとは思っていないよな?」

絹「浩子・・・あんまりやり過ぎると、お姉ちゃんみたいになるで?」

船「・・・そ、それは勘弁やな・・・!」

片「ともかく、今日は船久保さんを吊るじえ！これは決定だじえ！」

井「で、明日は小瀬川さんを吊るかどうかな。まあこの場合、吊るほうが確実なんだろうが……？」

小「……仕方ないね。真屋さん、騙りじゃないよね……？」

真「はい。私は、間違いなく真霊能です！」

小「……なら、明日吊られるよ。それで鷺森さんが人外だつてはつきりするし……」

吉「わ、私が明日●を見つけられれば、そつちを優先するべきですよ？」

花「……ん？確かに、その場合はどうするんでしょう？」

神「どつちかに投票する流れになりますよね……!?」

絹「まあそうなつたらそうなたやな。今日は浩子吊つて、また明日の結果に期待やで。」

雀「それがいいでしょうね。」

弘「賛成だ。無論、怪しい者がいないか気は配るがな……？」

ふ「さあさあ残り30秒だ〜!？」

健「今日はすんなり決まりそうですね。いつもこうならいいのですが……」

片「とりあえず、今日は船久保さんに投票だじえ！」

井「そういうこった。投票間違えて、無駄に怪しまれるようなことしないでくれよ？」

鷺「・・・船久保さんの、役職は何・・・狂人・・・？」

船「いや実は霊能やつたんや。せやからうち吊るのやめまへん？」

絹「浩子・・・」

真「霊能は私です。」

雀「・・・えつと、こうなると・・・？」

小「・・・明日は私・・・吉留さん。●見つけてくれると助かる・・・」

吉「わ、分かりました。頑張っで見つけてみます！」

弘「・・・と言っても、まだ吉留さんが真だとは限らないがな・・・？」

花「ですが、あまり人を疑いたくないんですがね・・・」

神「そうですね。でも、村のためにも頑張りますよ・・・！」

ふ：ここでタイムアップ！

健：では、投票を始めてください。

## ○投票結果

真屋(0) ↓ 船久保      小瀬川(0) ↓ 船久保      弘世(0) ↓ 船久保      雀(0) ↓  
船久保

片岡(0) ↓ 船久保      井上(1) ↓ 船久保      吉留(0) ↓ 船久保      鷺森(0) ↓  
船久保

愛宕絹(0) ↓ 船久保      船久保(11) ↓ 井上      花田(0) ↓ 船久保      神代(0) ↓  
船久保

投票の結果、船久保浩子さんは処刑されました。

船「まさか、井上さんが共有やったとは……こりや失敗してもうたで……」

○4日目(昼) 犠牲 初日犠牲者・鷺森

処刑 蒲原・船久保

生存 真屋・小瀬川・弘世・雀・片岡・井上・吉留・愛宕絹・花田・神

代

鷺森灼さんの無残な死体が発見されました。

ふ：みなさん、おはようございま〜す！

健：昨日の犠牲者は鷺森灼さんでした。彼女は占い候補の1人でしたが、これはどう  
いうことでしょうか……？

ふ：真実は常に一つ！君たちに、この謎が解けるか〜!?

健：そういう発言はやめようね？いろいろな問題あるから。

ふ：そう？

健：そうなの。……会話時間は4分ですな。

ふ：それでは4分間で、きつちり話し合ってください〜い！

健：それでは始めます。

ふ：人狼バトル2回戦、4日目！

健：スタートです。

片「おはようだじえ！だけど、鷺森さんがやられてしまったじえ……!？」

神「こ、これってもしかして……!？」

小「……」

真「みなさん。船久保さんの霊能結果は○でした。ですので、まだ人狼は2匹とも

残っています！」

井「……狂人なのか、それとも狐なのか。狐なら助かるが……？」

吉「お、おはようございます！私の占い結果は○、鷺森さんです！」

花「……すばっ!？」

絹「な、なんでそこ占つとるん!？」

雀「えっと、対抗を占ったということですか……？」

吉「その、鷺森さんが人外だということは分かっていたんですけど、これで小瀬川さんと鷺森さんが人狼で逆囲いされたら、私が信用勝負で負けちゃうと思ひまして……！」

井「……それが本当なら、つまり鷺森が狐だったってことだよな？けど、さすがに怪しくね……？」

弘「……素直には領けんな……」

片「……吉留さんが真なら、人狼も鷺森さんを噛んだか、もしくはGJが同時に起こったってことになるじえ……？」

真「素直に、信じていいものでしょうか……？」

小「……信じる必要がないね。噛んだよ、鷺森さん。真は残しておけないしね……」

花「……すばらっ?!?!」

神「え、小瀬川さん……!?!」

小「……CO人狼。真が鷺森さんだって分かったし、まして騙りに相手はいないよ。つまり……」

弘「……狐かつ!?!」

片「ど、どういうことだじえ!?!」

井「いや何で分かんねくんだよ!?!」

絹「つまり、占いの内役は真・凶・狐やったちゅうことやな……!?!」

雀「では、吉留さんが……!?!」

吉「ち、違います! 確かに小瀬川さんは人狼だったみたいだけど、人狼たちは勘違いしてるんです! 真は私で、狐が鷺森さんですよ!?!」

小「……証明じゃないけど、一昨日……つまり2日目の夜に、私たちは吉留さんを噛んで失敗してる。狩人、彼女を守ってたって言うなら早めに言ったほうがいい

よ．．．?」

吉「で、出ちや駄目です! 出たら今日嘯んで、明日に私を狙うつもりですよ!」

神「こ、これはどちらが正しいんでしようか．．．!」

弘「．．．恐らくだが、小瀬川の言つてることが正しいだろうな。2匹しかいない人狼が、わざわざCOしてきたんだ。狐を吊るために、犠牲になりに来たということだろう．．．!」

井「俺もそう思うぜ。どっちを信じるって言つたら小瀬川さんのほうだ．．．!」

花「な、なんと．．．村の勝利のため、あえて犠牲になろうというのですね!」その心意気、何ともすばらです．．．!!」

神「小瀬川さん．．．!」

小「．．．いや．．．諦めたわけじゃないよ．．．?」

片「．．．なら、私もそっちを信じるじえ! 今日吉留さん吊りだじえ!」

吉「だ、駄目ですって! 考え直してください!」

雀「．．．だけど、もし吉留さんが真なら、○は弘世さんだけですよね．．．?」

絹「そうやな。せやけど問題は、鷺森さんが真の場合、全員グレーやちゆうことや．．．!」

弘「．．．共有の2人と、霊能の真屋。この3人を抜いた7人の中に、人狼がいると



いうことか……!」

井「ただし、真屋が確実に真とは限らんけどな。そこが人狼ならアウトだ……!」  
真「……その、人狼が1匹……つまり、小瀬川さんの結果を伝えた後に、私を吊つてはいかがでしようか?人狼が1匹いなくなった時点で、私の仕事は終了のようですし……?」

花「すばらあ……そんな自己犠牲精神は、認めたくありませんよお……!」

神「ま、真屋さん……!」

片「……今日は吉留さん。明日は小瀬川さん。それで●が出たら、確かに真屋ちゃんを吊つたほうが安全だしえ……!」

花「そんな、優希……!」

片「分かってほしいじえ、花田先輩……!」

小「……疑ってないだろうけど、私が人狼だつていうのは本当だからね。なんなら私を先に吊つてもいいよ……?」

吉「きよ、今日は小瀬川さんを吊りましょう!?!それでもう1匹を見つけられたら、私たちの勝利なんですよ!?!」

井「『私たち』の、じゃなくて『私』の、だろ?」

弘「そうだな。あいにくだが、今日は吉留さんに決定でいいだろう。それに本当に吉

留さんが真だったとしても、どちらにせよ狐は消え、人狼も一匹は消える。」

絹「そうやな！ ヒントが無くなるのは残念やけど、まずは確実にいくべきやで！」

ふ：「ここで残り30秒を切った〜！」

健：「それでは、今日の結果をまとめてください。」

井「なら今日は吉留だ。タコスもそれでいいよな？」

片「当然だじえ！ 今日には吉留さんに投票するじえ！」

吉「か、考え直してくださいよ〜・・・!?」

真「・・・真なら、そこまで吊られるのを嫌がるでしょうか・・・?」

神「もしかしたら、の可能性を考えているのでは・・・?」

雀「つまり、最終日までもつれ込んで、信頼投票ですか・・・?」

弘「確かに、この場合の危険性はそれだな。何とか最終日までに人狼を見つけられ  
ばいいのだが・・・」

絹「こつからは、完全に勘と推理でいくしかないで・・・!?」

花「とは言いましても、そんな怪しい人、見当たらないんですけど・・・!?」

小「・・・明日までは残れそうだね。なら、今日の噛み先は・・・?」

ふ：そこまでく！

健：それでは、投票を始めてください。

○投票結果

真屋(0) ↓吉留 小瀬川(1) ↓吉留 弘世(0) ↓吉留 雀(0) ↓吉留

片岡(0) ↓吉留 井上(0) ↓吉留 吉留(9) ↓小瀬川 愛宕絹(0) ↓吉留

花田(0) ↓吉留 神代(0) ↓吉留

投票の結果、吉留未春さんが処刑されました。

吉「うう・・・まさかここで吊られちゃうだなんて・・・」

5日目に続く・・・

## 人狼バトル第2回戦②

○5日目（昼） 犠牲 初日犠牲者・鷺森・井上

処刑 蒲原・船久保・吉留

生存 真屋・小瀬川・弘世・雀・片岡・愛宕絹・花田・神代

井上純さんの無残な死体が発見されました。

ふ：みんな、おっはよー!!

健：5日目の朝がやってきました。昨日の犠牲者は、共有の井上純さんだったようですね。

ふ：少しずつ・・・少しずつ村人が減っていく！一体、一体人狼は誰なんだ？!

健：今日の会話時間は3分半です。スピーディに進行してください。

ふ：それではみんな、始めるぞー!!

健：2回戦5日目、スタートです。

片「おはようだじえ！のっぽを嘯むとは、やってくれるじえ・・・!!」

小「・・・狩人が護衛につくとしたら、片岡さんか、もしかしたら真屋さんってところだろうからね・・・」

真「みなさん。吉留さんの結果は○。小瀬川さんが嘘をついていなければ、おそらくは狐です。」

片「あらかじめ言うておくじえ！今日は小瀬川さん吊りは変わらないじえ！」

弘「そうだな。今日は彼女を吊って、残る中から人狼を見つけるとしよう。」

絹「せやけど、人狼の相方は誰なんや？昨日から見とるけど、誰もそれらしい人がおらんて・・・？」

花「あ、あの、1ついいですかね・・・？」

神「花田さん・・・？」

花「その、今日小瀬川さんを吊って、結果が●なら真屋さんを吊る流れになってますが・・・その、そうすると残りは1回ですよね？」

雀「・・・私も気になっていました。GJ無しでいくと、最終日に片岡さんが残っていると仮定しても、3分の1になってしまいます。」

絹「……まあそれについてはうちも気にはなつてたんや。まして方が一に片岡さんが囁かれてもうたら、完全グレーの4分の1やしな。」

弘「だが、残すわけにもいくまい？これで本当に彼女が人狼だったら、村の負けなんだぞ？」

真「……自分のことですので、信じてほしいとしか言えません。ただ、身の潔白を証明するには、やはり私は吊られるべきかと思えます。」

花「こ、こんなこと言える人が、人狼だとは思えませんよ!？」

小「……どうだろうね？確か昨日の夜、真屋さんと話した記憶が……？」

花「小瀬川さん！貴女ちよつとお口チャックマンでお願いします!？」

小「（……マンではないんだけど……ダル……）」

弘「……だが、やはり見逃せんな。私もそうだが、君も、真屋さんにも可能性はあるんだ。」

神「私は……その、花田さんの意見に賛成です。真さんが人狼だとは、どうしても思えません……」

雀「私もです……」

絹「……せやけど、危ないことも確かやで？それに霊能は、役目終わったら吊られるつちゆうんも役割の一つやし……」

片「むむう……ゆきちやんを吊るのが反対なのが、3人だけ……?」

花「そうです! 私は真屋さんを信じますよ!」

神「私もです……!」

雀「私も、彼女は真霊能と見ていいかと……」

弘「……反対だな。怪しまれるかもしれないが、やはり放つてはおけん。」

絹「そうやな。やつぱ無理やで……!」

真「……ありがとうございます。ですが、現実性を得るためには、やはり私は吊るべきです。」

小「……その通りだよ。無闇に信じると、痛い目を見るかもよ……?」

花「小瀬川さんはお口チャックマンです!」

小「……(お口にチャック)……」

片「むう……花田先輩たちには悪いけど、ここは多数決で決めさせてもらうじえ……!」

花「そんな、優希……!」

神「うう……で、でも! 彼女を吊ってしまうと、確率的に悪くなるんですよ!」

雀「そうです。ギャンブルかもしれませんが、彼女は○確定で進行するべきかと……!」

弘「……いい加減にしてほしいな。ゲームだからとはいえ、情に流されて勝利を譲る気か……!」

絹「確かに最後の投票までいってもうたら、確率的に分が悪くなるかもしれへん。せやけど、それとこれとは話が別やで!」

小「……みんな、ここは真屋さんを信じよう。村人同士、仲間割れはよくない……」  
花「小瀬川さん!!」

小「……(お口にチャック)……」

真「……花田さん。小瀬川さんの言う通り、村人同士で争うのはいけません。私は構いませんので、納得してください。」

花「そんな、真屋さん……!」

弘「……完全に、こちらが悪者になってないか……?」

絹「……う、うちもそんな気がしますわ……!」

ふ：涙無しでは見られません!ですが、無常にも時は過ぎてゆく!?!ついに、ついに残り時間が……!?

健：30秒を切りました。

ふ：つて、すこやくん!?



片「……とにかく、今日は小瀬川さんだじえ！これには従ってほしいじえ……！」  
 小「……花田さんに雀さんに神代さん。何だか、妙に弘世さんが怪しくない……？」  
 弘「……おい。そこで妙な誘導をするな……！」

絹「そうやで！ちゃんと小瀬川さんに投票しないと駄目や！」

雀「それは、分かっているんですが……」

神「でも、確かに弘世さんたちも怪しいです……！」

真「……私は素直に吊られます。ですので、身内争いはしないでください……」

花「スバラくない……全くもって、スバラくないですよ……！」

ふ：今度は私が言うからね!?ここで、タイムアップだく!!

健：恒子ちゃんが長引かせようとするからでしょ?……それでは、投票を始めてください。

### ○投票結果

真屋(0) ↓ 小瀬川 小瀬川(7) ↓ 弘世 弘世(1) ↓ 小瀬川 雀(0) ↓ 小

瀬川

片岡(0) ↓ 小瀬川 愛宕絹(0) ↓ 小瀬川 花田(0) ↓ 小瀬川 神代(0) ↓ 小瀬川

投票の結果、小瀬川白望さんが処刑されました。

小「・・・あとは相方に任せるよ。案外、上手くいくんじゃない・・・？」

○6日目(昼) 犠牲 初日犠牲者・鷺森・井上・弘世

処刑 蒲原・船久保・吉留・小瀬川

生存 真屋・雀・片岡・愛宕絹・花田・神代

弘世董さんの無残な死体が発見されました。

ふ：みなさん、おっはようございま〜す！

健：6日目になりました。昨日の犠牲者は、弘世董さんだったようです。

ふ：と言うことは、これで片岡さんしか確実な○がいなくなってしまったということだ〜!?

健：占いの誰が真でも、その結果になってしまえますからね。そして、今日の会話時

間は3分です。

ふ：時間は決して長くない！3分で、答えを見つけるんだく!?

健：果たして、今日で結果が出るのでしょうか？それでは第2回戦、6日目・・・

ふ：スタートだく!!

健：・・・それは、私の台詞だよ？

片「・・・おはようだじえ。正直、気が重い1日になりそうだじえ。」

花「始めに言わせていただきますよ！真屋さんを吊るの、反対く！」

神「わ、私も反対く！」

雀「同じく、反対です。」

絹「って何でなん!?いくら何でもおかしいやろ!?!・・・まあ人狼があんたらの中におるなら、ここで弘世さんを噛むのも納得つちゆう話やけどな!?!」

真「・・・小瀬川さん、●です。今日は、私を吊ってください・・・!」

花「反対！」

神「私もです！」

雀「同じくです。」

片「む、むきやく！指示には従ってほしいじえく!？」

絹「ほんまですわ!・・・花田さん！共有の指示無視するんが、あんたのやり方なんか!？」

花「す、すばく!?・・・い、いえ、そういう訳じゃないんですけど・・・!？」

神「・・・お、おかしいと思えば、共有の指示でも従えませんが・・・!？」

片「ふえ・・・!？」

神「あ：：ち、違うんです!?その、片岡さんを否定しているという訳ではなくて：：」  
雀「・・・私は否定させていただきます。私は、愛宕さんに投票します。疑われたとしても、やはり納得できません・・・!？」

絹「はあ!？な、なんでうちなん!？」

片「だ、駄目だじえく!?今日はゆきちゃんだじえく!？」

花「・・・わ、私は！真屋さんを信じます!ですから、今日のところは雀さんにのらせていただきます!？」

真「：：い、意見がバラバラになってます!お願いですから、片岡さんの指示に従ってください!？」

神「うう・・・じ、人狼は絹恵ちゃんです!お願いだから、それをお願いします!？」

絹「つて無理や!?うちは人狼やない!？」

片「そ、その可能性は否定できないけど、今日はゆきちゃんを吊るべきだじえ!」

絹「いやもういつそ否定してほしいわ!?! 明らかにおかしいやろ!?!」

花「・・・優希。これだけの自己犠牲精神を持った方を、私は疑えません・・・!」

片「こ、これゲームなんだじえ!?!」

花「ゲームなら、貴女は人を疑うんですか!?!」

絹「いやそういうゲームやろが!?!」

神「わ、私も花田さんに賛成です! 無闇に人を疑うのは、良くありません! みんな、信じあうべきです!!」

片「それでどうやって人狼を見つけるんだじえ!?!」

雀「・・・私の推察です。この状況、あとは人狼1匹を吊ればいいだけ、という状況です。なら人狼からしても、怪しいから念のためという理由で真屋さんを吊れるのなら、必ずそれを肯定すると思います。つまり・・・!」

花「・・・す、すばらくっ!?!」

絹「・・・って全然スバラくないわ!?!」

真「で、でも! 明日になったら私は吊れません! 村人勝利のため、今日のうちに私を・・・!?!」

神「真屋さんも、今日は絹恵さんに投票をお願いします! 一緒に、勝利を目指しましよ

う……!？」

真「で、ですが……!？」

花「……真屋さん。村勝利のための、その自己犠牲精神は美しいが、その美しさを理解できる者が、ここにはいるんだということを……どうか、信じてください……!」

真「……!？」

絹「……な、何でなん？何でうちがここまで追い詰められなあかんの……!？」

雀「……正直に言わせていただくと、分からないんです。特に怪しい人、というのが見当たりません……!」

神「……雀さん……!」

雀「……ごめんなさい。消去法なんです……!」

ふ「……う、ぐすつ……の、残り30秒になっちゃったぞ……!？」

健「……いまだかつて、ここまで後味の悪い結果になったことがあるんでしょうか……!？」

花「……申し訳ありません。愛宕さんに、投票させていただきます……!」

雀「・・・申し訳ないです・・・！」

絹「うう・・・せやけど、うち人狼ちやうんやで・・・!?」

神「そ、その・・・ごめんなさい・・・!!」

片「ぐすつ・・・共有なのに、ちつともまとめられないじえく・・・」

真「・・・分かりました。明日は絶対に吊られないように、頑張ります・・・！」

ふ「・・・タ、タイムアップ・・・！」

健：と、投票してください。・・・ほら恒子ちゃん。ハンカチ貸したげるから・・・？

### ○投票結果

真屋(2) ↓愛宕絹 雀(0) ↓愛宕絹 片岡(0) ↓真屋 愛宕絹(4) ↓真屋

花田(0) ↓愛宕絹 神代(0) ↓愛宕絹

投票の結果、愛宕絹恵さんが処刑されました。

絹「うう・・・ぜ、絶対おかしいわ！これ、人狼の罠やで・・・!?」

○7日目(夜) 犠牲 初日犠牲者・鷺森・井上・弘世・神代

処刑 蒲原・船久保・吉留・小瀬川・愛宕絹

生存 真屋・雀・片岡・花田

神代小蒔さんの無残な死体が発見されました。

ふ：みんなく、おっはよう！

健：7日目の朝です。昨日の夜に犠牲になったのは、どうやら神代小蒔さんだったようです。

ふ：果たして、今日で決着がつくのか？！

健：残り4人。今日の夜にGJが起らない限り、ここで決着がつかますね。

ふ：そして、今日の会話時間は2分半だけ！

健：決して長いとは言えませんね。みなさん、キチンと話し合ってください。

ふ：それでは始めるぞ！人狼バトル、第2回戦！7日目！！

健：スタートです。

片「お、おはようだじえ・・・」



真「おはようございます。愛宕さんの結果ですが、当然○です。」

花「・・・どうやらそのようですね。あれだけ疑っておいて、この結果とは・・・」

雀「つまり、人狼は私か花田さんということですね・・・？」

片「・・・一応言つとくと、ゆきちゃんが人狼の可能性も残ってるんだじえ・・・？」

真「・・・申し訳ありませんが、否定させていただきます。昨日みなさんに信じていただいた以上、私は吊られるわけにはいきません・・・！」

花「・・・では、私と雀さんへの投票で決まりですね。ただ、優希と真屋さんは2人で合わせて投票してくださいね？」

雀「確かに、ここまで来て引き分けは嫌ですね。それで、今さらなんですが・・・」

雀「CO狩人です。今までGJを出すことが出来なかつたので、信じるか信じないかは、お2人の判断にお任せします。」

真「雀さんが、狩人・・・？」

片「・・・ん？なら、人狼って・・・!？」

花「・・・私は何も言えませんね。あいにく、何の役職も持ってないですし。」

雀「私目線ですと、この中で役を持っていないのは花田さんだけです。・・・当然で

すが、私は花田さんに投票しますね……！」

花「……あまり疑いたくはないのですが、狩人だと騙りを行っている可能性に賭けましょう。私は雀さんに投票しますよ……！」

真「どちらに投票するべきでしょうか……今日のスタート時にG Jが出ていけば、雀さんの言葉を素直に信じられるんですが……？」

片「む、むむう……でも、やっぱりゆきちゃんって可能性も……？」

花「優希。真屋さんは真霊能として信じましょう……？」

雀「そうですね。……そしてそれを考えると、やはり残るのは花田さんしかいませんね……！」

花「……雀さんの目線ではそうなるのでしょうか。ですが、それでも私は、自分が村人だと言わせていただきますよ……！」

真「……どうしますか？ 私たちが別々に投票してしまつては、引き分けの可能性がありませんし……？」

片「むきゆく……でもそうになると、個人的には花田先輩は疑いたくないじえ……」  
雀「……片岡さん。個人的な感情は抜きでお願いしますね？」

花「そうですね、優希？ 私が怪しいと思えば、素直に私に投票しなさい……？」

雀「……なるほど。そうやって、自分が村人だと信用されようとしているのですね……」

？」

真「……」

ふ：さあ、残り30秒だろ!?

健：果たして、決着はつくのでしょうか……？

真「……決めました。私は雀さんに投票します。片岡さんも、出来ればそれに合わせてほしいです……!」

片「ふえ!?でも、ゆきちちゃんも……!?」

花「いけません優希!私であれ雀さんであれ、合わせて投票しないと引き分けになるかもしれないですよ!」

雀「それに、考え直していただきたいです。私は本当に狩人で、人狼ではありませんん……!」

真「……最初、私を吊るのに反対してくれたのは花田さんです。ですので、私は花田さんを信じたいと思います!」

花「真屋さん……!」

片「むきゆううう・・・な、なら花田先輩を信じるじえ！これで嘘ついてたら、針千本だじえ〜!？」

雀「そんな・・・片岡さんも、考え直してください・・・!？」

ふ：そこまでだ〜!？

健：では、投票を始めてください。

○投票結果

真屋（0）↓雀 雀（3）↓花田 片岡（0）↓雀 花田（1）↓雀

投票の結果、雀明華さんが処刑されました。

雀「負け、ですか・・・」

この瞬間、全ての人狼が処刑されました。

おめでとうございます！

村人の勝利です!!

片「・・・や、やったじえ〜!?」

花「す、すばら〜っ!!」

真「やりました・・・!」

雀「：：ごめんなさい。これなら、狩人COはしないほうが良かったでしょうか・・・」  
小「：：いや、神代さんじゃなくて花田さんを噛むべきだったね。結果論だけど・・・」  
船「まあ仕方ないですわ。確かに信用勝負じゃ、あの人相手は分が悪そうですわ・・・」  
小瀬川白望・雀明華（人狼） 船久保浩子（狂人）

片「見たかノッポ!見事村人の勝利だじえ!!」

井「・・・いや、結果的には良かったんですけどよ・・・?」

真「・・・この勝利は、花田さんのおかげです・・・!」

鷺「・・・すぐに噛まれたけど、もしかして、それが良かった・・・?」

片岡優希・井上純（共有） 鷺森灼（占い） 真屋ゆきこ（霊能） 初日犠牲者（狩人）

花「すばら！すばら！すばら！すばら！すばら！！」

神「花田さん、おめでとうございます!!」

弘「・・・今回は、試合に勝って勝負に負けた。そんな気がするな・・・」

絹「ほんまですわ。花田さんには完敗やで・・・」

蒲「ワハハ・・・そう言えるだけ、まだマシだと思っぞく?」

弘世董・蒲原智美・愛宕絹恵・花田煌・神代小蒔（村人）

吉「うう・・・黙ってたら負けちゃうと思つたから勇氣出したのに、まさか人狼が2人とも潜伏しちゃうなんて・・・」

吉留未春（狐）

ふ「つてなわけで、第2回戦は見事村人の勝利だく!!」

健「何だか、ちよつと不思議な流れだったね。始めは、完全に人狼ペースかと思つたんだけど・・・?」

ふ「だよね！狐の吉留さんが占い騙りをした時点で、人狼の子達、容赦なく占いを噛みに行つたみたいだしね!」

健「まああの時点で、人狼の2人には占いの内役が分かったはずだしね。真占いと狐を消せるチャンスなら、狂人の犠牲も仕方ないんじゃないかな？」

ふ「なるほど。そして最終的には、信用勝負で村人が勝ってみせましたよ！」

健「真屋さんを吊らないことを必死に訴えたおかげで、真屋さんの目線では花田さんのほうが村人に見えたのかもね。なににせよ、危ないところだったよ。」

ふ「……それではついに！待ちに待った人狼バトル、第3回戦!!ここで、ここでついに！皆が待ってたあの人が登場します……！」

健「……一応聞いとくけど、それってまさか、自分を指して言ってるんじゃないよね……？」

ふ「……遠回しにすこやんを指せて言われたところで、休憩です!!」

健「って言っていないからね!？」

続く……

## 人狼バトル第3回戦 ①

針「・・・というわけで、第3回戦を始めたいと思います。司会のお2人がゲームに参加するため、代わって進行させていただく針生えりと・・・」

村「村吉みさきです。よろしくお願ひします。」

針「村吉さんはどうですか？今までのゲームを観戦していた感想としては？」

村「そうですね・・・私自身はやったことがないので何とも言えませんが、みなさん楽しそうで何よりかと。ただ、今回のゲームに関しては、若干の不安もあるのですが・・・」

針「・・・それは、もしかして野依プロのことでしょうか？」

村「・・・ちゃんと話せるんでしょうか？何だかやけに自信满满だったんですが・・・？」

針「・・・」



村「……」

針「……で、では、ルールの説明を行います。」

村「今回の参加者は13名です。」

○参加者

小鍛治健夜・三尋木咏・瑞原はやり・戒能良子・藤田靖子・野依理沙・福与恒子

愛宕雅枝・赤坂郁乃・赤土晴絵・久保貴子・熊倉トシ・アレクサンドラ・ヴィントハ

イム

針「麻雀プロの方々と、今回参加していただいている各学校のコーチ、監督の方々に  
すね。」

村「そして、なぜかついでに福与アナウンサーも混ざっています。」

針「本当に何でなんでしょうね……？」

村「謎です。そして、今回の役職、およびルールについてです。」

○役職

人狼(3)・狂人(1)・狐(1)・共有(2)・占い(1)・霊能(1)・狩人(1)・猫

又(1)・村人(3)

針「そして初日役欠け有り、占い有り、ですね。」

村「人狼陣営が4人。狐が1人。そして村人陣営が9人ですね。そして役欠け有りのため、いずれかの役職が存在しない可能性がありますね。」

針「果たして役職は欠けているのか、それとも欠けてはいないのか？そのあたりの判断も重要になってきますね。」

村「狂人が欠けていればいいですが、そうでなければ村人大ピンチです。」

針「そして初日の会話時間は5分。時間は1日経過ごとに、1分ずつ減っていきま

す。」  
村「4〜5日目あたりから、無駄口無しでいかないといけません。」

針「それでは、準備ができましたので始めたいと思います。」

村「人狼バトル第3回戦、2日目。」

針「勝つのは一体どの陣営か？」

村「ゲーム、スタートです。」

○2日目(昼) 犠牲 初日犠牲者

処刑

坂・赤土  
生存 小鍛治・三尋木・瑞原・戒能・藤田・野依・福与・愛宕雅・赤

久保・熊倉・アレクサンドラ

初日犠牲者の無残な死体が発見されました。

福「それじゃあ皆さん！よろしくお願いしまゝす！」

小「よろしく願います。」

戒「よろしくですね。」

郁「みんな、よろしくな〜♪」

雅「ま、よろしゅう頼むわ。」

熊「みんな、よろしく頼むよ。．．．それで、早速占いかい？」

藤「それでいいかと。共有、欠けてます？」

久「欠けてんだったら、今のうちにCOよろしく。」

晴「・・・大丈夫みたいだね。」

ア「なら、占いのCOする？そんな時間ないんでしょ？」

三「だね〜い。何たって5分しか無いしね〜？」

瑞「なら、結果を教えてほしいな☆占い、よろしくだぞ☆」

雅「ほな占いCOや。赤坂郁乃、●やな。」

晴「占いCO！野依プロ、○！」

ア「占い、赤坂さんが●だったわ。」

ア「・・・真似した？」

雅「何でやん。真似したんはそっちやろうが？」

郁「・・・うち目線としては、その2人が人外確定やで〜♪」

小「・・・と言つても、今日の吊りは決定だけだね。」

熊「そうだね。さすがに2人に●出されてたら、吊らないわけにはいかないよ。」

郁「ええ〜・・・」

久「・・・となると、このどっちかが真つてことか？」

藤「……可能性は高いと思うがな。」

晴「……違うね。おそらく、これは人狼の逆囲いと、狂人の誤爆が重なった結果だよ。……もしかしたら、赤坂さんは本当に村人で、単に運が無かったってだけかもしれないけど。」

雅「まああんたはそう言うしかないわな。つちゆうても、うちからしてもアレクサンドラ監督が人狼で逆囲いしてるのか、もしくは狂人で誤爆してるようにしか見えんけど。」

ア「それ、私目線でも同じだから。……ところで貴女達、対抗に狐が占いを騙ってる可能性は考えてないわけ？それを言わないってことは、貴女たちのどつちかが狐なんじゃないの？」

雅「うちは占いや。狐については……正直、あまり考えとらんな。あんたらの内訳も、狂狼で考えとるわ。」

晴「それに関しては同意だね。今回のルールだと、人外、特に狐が有利になる。このルール下で、狐がわざわざ博打を打つとは正直考えづらい。よって、私目線でも貴女方は狂狼だね。」

ア「……そう言つて、上手いこと私と摩り替わろうとしてんじゃないの？狐なら狐ってはつきり言つたら？」

雅「無いわ。あるとしたら赤土さんだけやな。」

晴「だから違いますよ。・・・というより、そうやっていきなり狐の話題を出して疑ってきた、アレクサンドラ監督が実は狐だったってオチじゃないでしょうね？」

ア「違うに決まってるでしょうが。」

雅「・・・ふん。ま、口では何とでも言えるわ。」

福「・・・おおう・・・！なんかいきなりバチバチやってる〜！」

戒「・・・どうなんでしょうね。今日の吊りはともかくとして、お3方のうち誰が真なのでしょうか・・・？」

小「・・・現時点では、愛宕監督かアレクサンドラ監督の可能性が高い、かな？まあ明日の霊能結果次第なんだろうけど。」

瑞「ん〜・・・ちなみに、占い理由は？初日だから適当だったりする？」

ア「適当じゃないわよ。単に個人の興味でもあったけど、名門校の監督さんってことで占ったわ。・・・こうなるって分かっていたら、千里山のほうを占ったんだけどね。」

雅「うちは適当っちゃ適当や。一番信用出来へんやつを占ったわ。」

郁「それ酷くない♪」

晴「一応、ステルス注意のつもりで占ったね。おそらくゲーム中、ほとんど無口になるんじゃないかと思ってたし。・・・実際に、まだ一言もしやべってないでしょ？」

野「!?・・・お、おはよう!!」

郁「・・・って、今さらか〜い♪」

三「のより〜ん・・・」

藤「・・・もし野依プロも●だったら、こっちに投票してたかな・・・」

久「・・・同じく。」

野「!?その・・・」

野「CO!共有!!」

小「・・・同じく、CO共有だね。相方は理沙ちゃんの間違いないよ。」

熊「おやおや・・・2人とも出てきたのかい?」

戒「片方は伏せていたほうが良かったのでは・・・?」

小「その・・・理沙ちゃんメインで進行はちよつと心配だったし、逆に私が出ても、ステルスで意味も無く疑われそうだったしね・・・」

雅「・・・それでも良かったんやないか?役職騙り共が●つけよる可能性もあったや

ろ？」

小「それもそうなんだけど、真占いの占い回数を減らすよりかはいいと思つて……」

晴「……いや、すでに占っちゃったんだけどね。」

ア「貴女は騙りなんだから、別にいいでしょうが？」

小「あ、赤土さんが真だったら、その、ごめんねだけど……とにかく、私たちは共有だからね。トラップは仕掛けないけど、その分占いで人外を当てやすいとは思うから、よろしくね？」

三「……ま、いいんじゃないの？ 実際、今回は吊り数が少ないわけだしね！」

瑞「……6吊りで、人外は5匹☆平和が出て、一回じゃ吊り数は増えないぞ☆」

熊「吊り数の余裕は1回。狐を呪殺しても吊り数が減っちゃうんだから、要注意だよ。」

福「ん～……それですこやん？ 今日には赤坂さんに投票でいいの？」

小「そうだね。今日はみんな、赤坂さんに投票でよろしくね？」

郁「ん～……うちCOはないけど、ほんま考え直したほうがええで？ いきなり吊り無駄にするん～？」

戒「……確かに、これで彼女が村人だったら、ほぼゲームオーバーなわけですが……」  
熊「そんな時は人狼だって考えるだろうさ。放つときや狐の勝利。それが分かっているの



に、いつまでも自分たち優勢ではゲームをすすめないだろうしね。」

久「・・・狐吊らない限り、さすがに危なっかしいか。」

藤「ま、当然だな。」

小「さすがに、そればかりは仕方ないよ。・・・それじゃあどうする？ちよつと早いけど、投票にいつちやう？」

野「賛成！」

三「んゝ、別にいいんじゃない？」

瑞「明日の占いに期待だぞ☆」

小「それじゃあスキップするね。霊能の人は、明日結果を教えてね？」

『スキップ』

針：初日からスキップが来ましたね。それでは、みなさん投票を始めてください。

村：・・・確かに疑われない役職だったようですが、もう少し発言してください。

針：・・・まあ、明日からに期待ということ・・・

野「・・・が、頑張る!!」

○投票結果

小鍛治(0) ↓赤坂 三尋木(0) ↓赤坂 瑞原(0) ↓赤坂 戒能(0) ↓赤坂  
 藤田(0) ↓赤坂 野依(0) ↓赤坂 福与(0) ↓赤坂 愛宕雅(1) ↓赤坂  
 赤坂(12) ↓愛宕雅 赤土(0) ↓赤坂 久保(0) ↓赤坂 熊倉(0) ↓赤坂  
 アレク(0) ↓赤坂

投票の結果、赤坂郁乃さんは処刑されました。

郁「うち、もう終わり〜？残念やな〜・・・♪」

○3日目(昼) 犠牲 初日犠牲者・熊倉

処刑 赤坂

土・久保

生存 小鍛治・三尋木・瑞原・戒能・藤田・野依・福与・愛宕雅・赤

アレクサンドラ

熊倉トシさんが無残な姿で発見されました。

針：みなさん、おはようございます。2日目の夜が明けました。

村：昨日の犠牲者は、どうやら熊倉トシさんだったようです。

針：果たして、この死にはどのような意味があるのか？

村：今日の会話時間は4分です。黙ってないで、ちゃんとしゃべってくださいね。

針：・・・そ、それでは始めます。人狼ゲーム3日目。

村：スタートです。

野「・・・お、おはよう!!」

三「おつはようさくん。昨日やられたの、熊倉さんだったんだね・・・?」

小「みたいだね。おそらく、潜伏役職を狙いに行ったんだと思うけど・・・?」

瑞「もしくは、狐探しだぞ☆」

藤「どちらにしろ、猫又ではなかったようだな。どうせならそれを噛んでほしかったんだが……」

福「そしてここで、霊能COだ〜!!赤坂さん、本当に●でした〜!!」

久「ん……あんたが霊能だったのか。」

ア「……ま、結果としては当然よね。それより、対抗はないの？今出れば吊ってあげるわよ？」

戒「オウ……なかなか過激ですね。」

福「真霊能はこの私、福与恒子です！すこやん、私頑張るからね!？」

小「……えつと、本当に対抗はないんだね？」

福「すこやん!？」

雅「……いないみたいやな。ま、嘘ついとるわけやないみたいやし、一応は信じてもええんちゃうか？」

瑞「……これで実は騙りだったら、許さないぞ★」

晴「……結果としては、人狼が1匹減ったっていう認識で間違いないだろうね。対抗の●つていうのがあれなんだけど……」

小「・・・そうだね。それじゃあ、しばらくは恒子ちゃん真でいくよ？それで、占い  
なんだけど・・・理沙ちゃん？」

野「うん！・・・占い、結果!!言う!!」

雅「言うて・・・ああ、藤田プロが●やったな。」

ア「福与さん、○ね。」

晴「熊倉さん、○だったよ。」

藤「・・・ほう・・・？」

雅「悪いんやけど、占った理由は正直適当や。口数少ない思うたやつを占ったで。」

ア「私が占ったのは霊能だった訳ね。まだグレーだったにも関わらず、共有の小鍛治  
プロに擦り寄る動きを見せてたから。人外だと困ると思って占ったわ。」

小「・・・まあ、恒子ちゃんだしね・・・」

福「当然だね！」

晴「で、私は熊倉さんを占ったよ。昨日の発言、『放つときや狐の勝利。それが分かっ  
てるのに、いつまでも自分たち優勢ではゲームをすすめないだろうしね』。これが地味  
に気になってたんだ。結構自信有りて占ったんだけど・・・死体が熊倉さんだけってと

ころを見ると、狐だとは思うには弱いね。」

三「ふくん……まあ、本当に嘸み先がぶつかつちまつたつていう可能性もあるんじゃないかい？」

瑞「運がよければ、狐がいなくなつたつてことだぞ☆」

久「あくまで運がよければ、だな。正直期待は出来なさそうだけど……」

戒「イエス。重なつたのなら狐死亡でラッキーですが、単純に赤土さんが嘘をついている可能性もじゆうぶんにあります。」

雅「……まあともかく、これで今日の吊りは決まりやろ。明日になればさすがにうちが真やつちゆう証拠も上がるやろうしな。」

藤「……福与アナが本当に真なら、上がるのは貴女が騙りだつていう証拠ですがね。」

雅「んな訳あるかい。ほんまに真霊能なら、うちを騙り扱いするわけないやろうが。」

ア「福与さんは間違いない○よ。狂人とは考えづらいし、藤田さんが村人なら明日には愛宕監督の破綻ね。」

晴「……藤田さんは、おそらく村人でしようね。さすがに2連続で人狼が仲間を逆囲いするとは思えない。それを考えれば、愛宕監督は狂人なんじゃないかと思うんだけど……？」

雅「阿呆か。そりゃあんたらの役職やろうが。」

晴「違います。」

ア「違うわよ。」

三「・・・どうすんだいすこやん？今日は藤田プロに投票でいいのかい？」

戒「・・・私としては微妙ですね。これで○が出ると、後がなくなりますよ。」

久「とは言っても、吊らないってことは残る2人を信じるってこつたる？本当に愛宕

監督が真だったらどうすんだ？」

野「ピンチ!!」

小「そうだよね・・・」

小「：：うん。じゃあ今日の投票は藤田さんで。幸い一回は吊りに余裕があるし、ただ何とかなるんじゃないかな？」

藤「・・・無駄吊りですよ？間違はなく。」

三「ま、そんな気もするんだけどね〜い？」

瑞「本当に人狼だったらたまらないぞ★」

福「それじゃあ私、今日は噛まれないように気をつけるね!!」

小「いや、それを頑張るのは恒子ちゃんじゃないからね・・・？」

雅「……ま、うちが嘯まれても、人狼2匹吊つときや何とかなるやろ。」

ア「貴女は平気よ。むしろ、私のほうが危ないんだから。」

晴「……せめて、狐ぐらいは見つけておきたいんだけどね……」

戒「ですが、怪しい人がいませんね。本当にこの中にいるんですか……?」

久「……マジで、誰が狐だつてんだよ……?」

針「残り時間、1分です。」

村「……頑張ってください。」

野「……が、頑張ってる!」

小「まあ、理沙ちゃんなりに頑張ってるとは思うけど……?」

ア「……それより、対抗つて占つちや駄目なの? 狐、占いの中にいそうなんだけど?」

雅「……死にがけの駄賃に、あんたを占うつちゆうのも一つの手やな。」

晴「騙り同士で話を合わせないで。……まさか、2人とも人狼じゃないよね……?」

三「だとすつと、アグレッシブすぎだぜ……?」

戒「まあ、戦略としては有りでしょうが……」



瑞「面倒くさいのは勘弁だぞ★」

久「……どちらにせよ、明日で動きが出るでしょうしね。」

藤「……ま、後は頑張ってくれ。」

福「……と、とりあえず、私囁んじや駄目だからね……!?」

針：そこまです。

村：会話を終了し、投票を始めてください。

### ○投票結果

小鍛治(0) ↓ 藤田      三尋木(0) ↓ 藤田      瑞原(0) ↓ 藤田      戒能(0) ↓

藤田

藤田(10) ↓ 愛宕雅      野依(0) ↓ 藤田      福与(0) ↓ 藤田      愛宕雅(1) ↓

藤田

赤土(0) ↓ 藤田      久保(0) ↓ 藤田      アレク(0) ↓ 藤田

投票の結果、藤田靖子さんは処刑されました。

藤「やれやれ．．．このルール、さすがにキツイな．．．」

4 日目 続く．．．

## 人狼バトル第3回戦 ②

○4日目(昼) 犠牲 初日犠牲者・熊倉・小鍛治

処刑 赤坂・藤田

生存 三尋木・瑞原・戒能・野依・福与・愛宕雅・赤土・久保・アレ

クサンドラ

小鍛治健夜さんが無残な姿で発見されました。

針：3日目の夜が明けました。みなさん、おはようございます。

村：昨日の犠牲者は、どうやら小鍛治健夜さんだったようです。

針：ついに共有が狙われましたね。この噛みには、何か意味があるのででしょうか？

村：今日の会話時間は3分。そろそろ急がないといけません。

針：それでは始めます。人狼バトル、4日目！

村：スタートです。

野「・・・お、おはよう!!」

久「おはよう。・・・小鍛治プロが狙われちまったか・・・!」

三「・・・ふうん。占いは全員残ってるみたいだね・・・?」

瑞「これってもしかして・・・★」

雅「・・・」

福「霊能CO!藤田さん、O!!愛宕監督が破綻!!すこやんの仇です!!」

雅「・・・どうりでうちが嘯まれんわけや。霊能乗っ取りや。ついでに、これで人外全露出やで。」

戒「・・・それを素直に信じるのもどうかと思いますが・・・?」

雅「ちなみに、占い結果は瑞原プロがO。当然の結果やったな。」

晴「私の結果は、三尋木プロがOだね。」

ア「で、私の結果は戒能プロが○だったわ。」

ア「・・・ま、破綻したんだから今日の吊りは愛宕監督でいいでしょ。ね、共有？」

雅「いいわけあるかい。あんたらの中の誰が狐なんか、見つけとかなあかんやろうが。」

野「・・・り、理由！」

久「だな。とりあえずそれを聞かしてくんねるか？」

ア「いいいわよ。戒能プロを占つたのは、誰が狐か分からない的な発言をしていたからよ。案外そういう本人が狐なんじゃないかと思っただけで、外れだったみたいね。」

戒「イエス。私は狐ではありませんね。」

晴「私は三尋木プロだね。残る面子の中で、三尋木プロが若干私寄りの位置にいると思っただから擦り寄りを警戒したけど、村人だったみたいだね。」

三「だね。今さらだけど、私の中で赤土さんの株が上がってるぜかい？」

雅「で、うちが瑞原プロやな。当たり障りのないことばっか言うとつたから、警戒しちゃいう意味で占つたわ。ただこれで、うち目線人外全露出やで？」

瑞「はやはり人狼じゃないぞ★それで、愛宕さん目線だと人外って・・・？」

雅「確実なんは赤坂さんと藤田プロや。んで、赤土さん、アレクサンドラ監督、そん

で福与アナ。この3人の内訳が、狂狼狐やな。」

福「違うからね！私、間違いなく真霊能だから!!」

雅「騙りがよう言うわ。」

ア「・・・ちなみに、私目線では福与さんは真として見るわ。そう考えると、まだグレーなのは三尋木プロと瑞原プロ、それに久保さんね。確定人狼が赤坂さんだけってことを考えると、対抗の2人+この3人の中に人外が2人いるわ。狂欠けの場合は1人だけどね。」

晴「・・・残り吊り数を考えると、もう福与アナを疑っている余裕がないんだよね。私のグレーは瑞原プロ、戒能プロ、久保コーチの3人。対抗2人+赤坂さんを考えて、こちらにも2人人外がいるはずだよ。」

久「・・・どうすんです？とりあえず今日は愛宕監督でいいんですか？」

戒「私としてはそうしたいですね。野依プロ、どうしますか？」

野「・・・愛宕監督、吊る!!」

雅「・・・考え直しや。狐残しで吊られんのはキツイわ。」

三「とは言っても、破綻しちまつてるわけだしね〜い？」

戒「イエス。これは見逃せませんね。」

瑞「容赦はしないぞ☆」

久「・・・万が一、愛宕監督が真で、福与アナが人外だった場合はどうします?」

晴「真は私です。ですが、もし福与アナが人外だった場合は・・・」

ア「・・・一応聞いてくけど、あんた狂人じゃないでしょうね?」

福「私、間違いなく真霊能ですから!?!」

針：残り、1分を切りました。

村：それでは今日の結果をまとめてください。

野「投票!愛宕監督!!」

雅「・・・つたく、後悔すんで?お前ら・・・」

久「・・・大丈夫、だよな?」

瑞「今さら迷うな★」

三「そうだけ?今日は愛宕監督に決定だね?い。」

ア「で、明日はあんたを吊るから。」

晴「お断りだね。吊るならあなたのほうだ。」

戒「・・・愛宕監督が騙りだとすると、真は・・・？」  
 福「絶対勝ってみせるからね、すこやん・・・!!」

針：終了です。会話をやめてください。

村：それでは、投票開始です。

○投票結果

三尋木(0) ↓愛宕雅      瑞原(0) ↓愛宕雅      戒能(0) ↓愛宕雅      野依(0) ↓

愛宕雅

福与(1) ↓愛宕雅      愛宕雅(8) ↓福与      赤土(0) ↓愛宕雅      久保(0) ↓

愛宕雅

アレク(0) ↓愛宕雅

投票の結果、愛宕雅枝さんは処刑されました。

雅「あかんな・・・残つとる連中、大丈夫やろか・・・？」



○5日目(昼) 犠牲 初日犠牲者・熊倉・小鍛治

処刑 赤坂・藤田・愛宕雅

生存 三尋木・瑞原・戒能・野依・福与・赤土・久保・アレクサンド

ラ

平和な夜が明けました。

針：夜が明けました。みなさん、おはようございます。

村：そして昨日の犠牲者はおりません。どうやら平和な夜だったようですね。

針：これは、狩人によるGJなのか？はたまた狐勝ちか？

村：今日の会話時間は2分です。そろそろ厳しくなってきたのではないでしょうか？

針：では早速始めましょう。人狼バトル5日目！

村：スタート。

野「平和!!」

戒「イエス。これ、どう見ます・・・？」

久「……どうだろうな。狩人がいるんなら、GJだと思いたいんだけど……?」

福「おつはようございます!愛宕監督の結果は○、人狼じゃなかった?!」

三「げっ、マジかい!」

瑞「つてことは、この中にまだ2匹も残ってやがるぞ★」

晴「……外した。アレクサンドラ監督、●。すいません……」

ア「……」

戒「……ここで対抗を占うんですか。残りの面子に、色をつけたくないということですか……?」

野「むむっ!!」

晴「……昨日の私目線、グレーは瑞原プロ、戒能プロ、それに久保さん。この中に、猫又か狩人がいる可能性は高い。それなら愛宕監督が狂人や人狼である可能性を考慮して、狐狙いにいったほうがいいと思った。それで、初日やけに狐を気にしていたアレ

クサンドラ監督を占おうと思ったんだけど……」

久「……どう判断します？ 少なくとも赤土さんを信じるんなら、今日はアレクサンドラ監督吊りしかないと思うんだが……？」

福「赤土さんが嘘をついてるかもよ!？」

三「それより、そっちの結果はどうだったんだい？ 早いとこ教えてくんね〜かねい？」

ア「……赤土さん●。悪いけど、本当にミスったのは私よ……」

晴「……そう来るか……!」

福「う、嘘〜!？」

三「おいおい……これどうすんだい……!？」

ア「私視線は変わらずよ。残り3吊りだし、とりあえず占いの信用勝負でいいと思うわ。」

戒「……確かに、どちらが真かを決め打たないと……!」

野「ど、どうする……!？」

久「……2人の視線でいくと、共通してるグレーは私と瑞原プロか。……ちなみ

に聞いておくけど、何か言うことあります?」

瑞「・・・あ、そういうことか☆それじゃあ猫狩COだぞ☆」

久「奇遇だな。私も猫狩COだ。」

三「うえ!!」

戒「・・・!?」

久「・・・瑞原プロが嘘ついてね〜ってんなら、これでグレーは三尋木プロか戒能プロだな。嘘だとすると、もう少し考えなくちゃいけね〜んだが・・・?」

瑞「私も同じだよ☆久保さん、嘘つきかな??」

晴「・・・お2人を信じるなら、これで確定だね。残ってるのは、戒能プロだ・・・!!」

戒「・・・ノー。その目線になるということは、つまりあなたが騙りですね・・・!!」

ア「対抗を信じる必要はないわ。つまり、三尋木プロがLWよ!」

三「・・・OK分かった。私は赤土さんについてくぜ〜い・・・!?」

福「もう素直に諦めてよ!?偽者ってどっちなのさ!?!」

戒「決まってます。赤土さんですね・・・!」

三「間違いないアレクサンドラ監督だぜ〜い・・・!!」

晴「戒能プロは人狼でだね。そう考えると、残る狐候補は福与さん。もしくは、猫狩

のお2人のどちらか、か・・・!!」

ア「人狼は三尋木プロ、それで猫狩のどちらかが狐ね。・・・あんた、本当に間違いなく霊能でしょうね?」

福「私、間違いなく真霊能だから!」

瑞「それで、結局今日はどうするの? 占いを決め打ちやっていいのかな★」

針：残り、30秒です!!

村：今日の投票はまとまるのでしょうか・・・?

晴「ともかく、今日は対抗吊り! 残りの吊り数を考えても、もう置いておく必要はないね!」

ア「ふざけないで! ここは、間違いなく貴女を吊らなくちやいけない場面よ!!」

野「・・・ど、どっちか・・・吊る!!」

三「・・・つまり、怪しいと思うほうに投票すればいいわけだ・・・?」

瑞「・・・ある意味当然の指定だぞ☆」

久「ああ。まあ、吊り数考えれば当然か。」

戒「了解です。では、私は赤土さんに投票しますので。」

福「ほら、もう時間だから！どっち偽者なの!？」

ア「あいつね。」

晴「この人です。」

針：時間となりました！

村：・・・まあ頑張ってますね。いいことだと思えます。

針：・・・と、投票開始です！

### ○投票結果

三尋木（0）↓アレク 瑞原（0）↓アレク 戒能（0）↓赤土 野依（0）↓アレク

福与（0）↓アレク 赤土（3）↓アレク 久保（0）↓赤土 アレク（5）↓赤土

投票の結果、アレクサンドラ・ヴィントハイムさんは処刑されました。

ア「・・・最悪。こりや負けだわ・・・」

○6日目（昼） 犠牲 初日犠牲者・熊倉・小鍛治・久保

処刑 赤坂・藤田・愛宕雅・アレクサンドラ

生存 三尋木・瑞原・戒能・野依・福与・赤土

久保貴子さんが無残な姿で発見されました。

針：みなさん、おはようございます！5日目の夜が明けました！

村：昨日の犠牲者は、久保貴子さんだったようです。ゲームも佳境に入りましたね。

針：そして今日の会話時間ですが、2分間用意しました。

村：特別に、だそうです。・・・なにか特別かは知りませんが。

針：1分だとなにも話せませんしね・・・とにかく、6日目をはじめます！！

村：人狼バトル、スタートです。

野「お、おはよう！！」

戒「グッモーニンですね。まずは霊能結果を聞いてください。みなさん、私は・・・」

福「みんなおめでとく!!アレクサンドラ監督、●!!つまり占いは赤土さんで、人狼は戒能プロです!!」

戒「・・・OK。霊能も騙りですね。」

瑞「・・・もう分かっているだろうから言うけど、猫又COだぞ★」

三「だろうね〜い。戒能プロも、とんでもね〜とこ噛んでくる・・・」

晴「完全に騙されてた・・・!!占ったのは福与さん・・・●だ!!」

福「・・・・・・・・・・って嘘お!?!赤土さんも偽者だったく〜く!?!」

野「!?!」

三「ふえ!?!」

瑞「・・・・・・・・・・結局嘘つきか★」

戒「・・・・・・・・!!」

晴「私目線、戒能プロが人外なのは当然!よって、関係ない○出たら土下座の覚悟で、



狐の可能性がある福与アナを占ったよ！結果はとんでもないけどね!」

福「あ、赤土さん破綻くくく!!指定赤土さくくくん!!」

晴「人狼の指定なんて、誰が従うか!!」

三「ちよ、ちよつと待とうぜくい?じゃあ狐って誰なんだい!」

瑞「・・・良子ちゃんかな☆久保さん噛まれちゃったから、良子ちゃんしかいないぞ  
★」

晴「私目線も、あるとしたらそれしかないね。楽観視するなら、吊られた藤田さんか、本当に熊倉さんで呪殺していたっていう可能性がある。けどここは、狐の危険性を考慮して戒能プロ、福与アナの順番で吊りたいと思います。」

戒「・・・」

晴「もし本当に村人だったんなら申し訳ないけど、これで村の勝利は確実だよ。今日私が噛まれても、もう間違いないようが・・・」

戒「・・・福与アナが本当に霊能だというなら、むしろ赤土さんが破綻です。・・・あなた、やはり偽者ですね。」

晴「!!・・・一応確認するけど、それって狐COで合ってる?」

戒「ノー。私は村人です。．．．福与アナは私の味方ですね？」

福「少なくとも、赤土さんの味方じゃないね!!」

三「．．．おいおい。つまり、赤土さんを信じるか信じないかってことかい．．．!?!」

瑞「嘘つきはどっちだぞ★」

野「」

戒「．．．希望は赤土さん吊りです。おそらく彼女が狐でしょう。そして、明日に三尋木プロか福与さんと決めるしかありませんね。」

三「．．．その場合だと、明日は恒子ちゃんだねい。私違うし。」

福「私だって違うから!?!っていうか赤土さんが人狼で、三尋木プロか戒能プロのどっちかが狐だったら、その順番じゃアウトだよ!?!」

晴「私は意見を変えないよ。狐は戒能プロ。人狼は福与アナ。なら吊る順番は戒能プロが先だ!」

瑞「．．．はややく★これ、どうすればいいんだ★」

野「」

三「どうすんだい、のよりん．．．って固まつてる場合じゃねえだろ!?!」

福「順番どうすんの!?!」

瑞「理沙ちゃん、起きろ★」

野「・・・はっ!？」

針「残り、30秒です!!」

村「・・・固まってないで、指定したらどうですか？」

野「え、えつと・・・!？」

晴「吊りは2回しかないんだから、まず戒能プロです!」

戒「ノー!赤土さんですよ!」

福「えとえとく!?!じゃあ三尋木プロ!!」

三「はあ!?!・・・やっぱ福与アナが人狼だねい!」

瑞「・・・はくややくくく・・・★」

野「・・・し、指定!!」

一同「・・・!?!」

野「……狐っ!!」

針「……そ、そこまでです。

村「……はあ……」

○投票結果

三尋木(1) ↓戒能 瑞原(0) ↓戒能 戒能(3) ↓赤土 野依(0) ↓福与

福与(1) ↓三尋木 赤土(1) ↓戒能

投票の結果、戒能良子さんが処刑されました。

戒「……失敗しました……」

この瞬間、全ての人狼が処刑されました。

ですが、村にはまだ狐が生き残っていたようです。

おめでとうございます!!

狐の勝利です!!

晴「は、はは・・・いや、まさか本当に勝てるとは・・・」

赤土晴絵（狐）

郁「せっかく郁のんが犠牲になったのに、負けてもうた・・・」

戒「ソーリー・・・噛みに失敗したから、おそらくそうだろうとは思っていたのですが・・・」

ア「猫狩で2人出ちやったから、本当にGJの可能性考えちやったものね・・・」

雅「すまん。まさかほんま誤爆するとは思わなかったわ。」

戒能良子・赤坂郁乃・アレクサンドラ・ヴィントハイム（人狼） 愛宕雅枝（狂人）

野「・・・ご、ごめん!!」

小「理沙ちゃん・・・あれはさすがに酷いよ・・・」

福「すこやんごめくん!!負けちやったくく!!?」

瑞「……結局騙された★」

久「（……4日目の夜、護衛したのはアレク監督だったってこと、こうなるんだっただけ言つときや良かったか？……護衛ミスったかな……）」

小鍛治健夜・野依理沙（共有） 欠け（占い） 福与恒子（霊能） 久保貴子（狩人）  
瑞原はやり（猫又）

三「……赤土さんの阿呆う!!」

熊「……よりによって占い欠けかい。こりやまた適わないねえ……?」

藤「元から厳しいルールが、さらに狐有利になつてたわけだ……よく騙ろうと思えたな……」

三尋木咏・熊倉トシ・藤田靖子（村人）

針「……というわけで、今回は狐の勝利です!」

村「赤土監督も、よく騙りに出ようと思えましたね。」

針「先ほど聞いてみたところ、『ノリに任せてやってみた』というコメントをいただきました。……占いや狂人が欠けてなかつたら、下手したらロラされて終了でしたね。」

村「運が良かった、というのもあるんでしようね。・・・とある麻雀プロは想像以下の活躍をしましたし、なんにせよこれで3回戦は終了となります。」

針「・・・休憩をはさんで4回戦となります。参加選手は準備をお願いします。」

村「それではご機嫌よう、さようなら。」

サイゴノアノシテイハナンデスカ。マツタク、アナタハ・・・  
シヨボーン・・・

続く・・・

# 人狼バトル第4回戦 ①

福「福与恒子！アナウンス席に華麗にふっかつつ!!」

小「何言ってるかな・・・それより、もう始まるんだから紹介しなくちや駄目だよ。」  
 福「はいな!というわけで、今回の参加者のご紹介でつす!!」

## ○参加者

本内成香（有珠山） 姉帯豊音（宮守女子） 渋谷堯深（白糸台）

メガン・ダヴァン（臨海女子） 原村和（清澄） 龍門洩透華（龍門洩） 深堀純代（風

## 越女子）

妹尾佳織（鶴賀） 松実宥・松実玄（阿智賀女子） 真瀬由子・上重漫（姫松）

江口セーラ・二条泉（千里山） 江崎仁美（新道寺） 狩宿巴・滝見春（永水女子）



福「以上、17名の選手が参加しまゝす!!」

小「それではルールの説明です。今回のルールは役欠け有り、占い有り。そして、以下の役職にて行われます。」

○役職

人狼(4) 狐(2) 背徳者(1) 共有(2) 占い(1) 霊能(1) 狩人(1)  
 村人(6)

小「以上となっております。」

福「狂人がいないんだね? その代わり人外が7つていうのは多いよね!」

小「狂人がいないという点を、どう捉えるかがポイントになりそうだね。でも8吊りの人外が7だから、うかうかしてられないけどね。」

福「そして最初の会話時間は10分! 1日おきに1分ずつ減っていきますが、2分以下にはならないので要注意です!」

小「ルール変えたんだよね。どうして?」

福「…時間が無いから直感で決めるっていうのは、推理ゲームとしてはちよつとつていう声がりアルであつたの。あとは尺の都合上だね!」

小「リ、リアル？それに尺って………聞かなかったことにするね。」

福「とか何とか言ってる間に、もう開始の時間でつす!!」

小「あ、それじゃ始めましょう。人狼バトル、第4回戦、2日目。」

福「スタート~~~~!!」

○2日目（昼） 犠牲 初日犠牲者

処刑

生存 本内・姉帯・渋谷・メグ・原村・龍門渕・深堀・妹尾・松実宥・

松実玄

真瀬・上重・江口・二条・江崎・狩宿・滝見

初日犠牲者が無残な姿で発見されました。

二「みなさん、よろしくお願ひします!!」

宥「よろしくねく……。」

セ「みんな、よろしく頼むわ!」

妹「その、よろしくお願いします。」

メ「よろしくデスネ。それではさっそくですが・・・」

メ「みなさん！私のことはメグって呼んでくださーい！」

原「・・・てつきりCOでもするのかと思いました。」

姉「本当だよ。でも、よろしくね。メグさーん♪」

深「・・・よろしく・・・」

玄「よろしくなのです！」

本「よろしくお願いします。えっと、それでは占いからでしょうか・・・？」

滝「・・・合図する・・・？」

龍「その必要はありませんわ！この村の占いはこの私、龍門瀏透華ですわ!!」

仁「ほうほう・・・龍門瀏高校さんの・・・」

洸「・・・副将の人・・・」

真「ちなみに、結果はどうだったのよ〜?」

龍「占ったのは、姫松高校の上重漫さん!先ほど廊下で会ったとき、私のことを知らないなどとほざきやがりますから、いの一に占ってさしあげましたわ!!」

真「・・・天江衣さんの学校なのよ〜?」

上「うう・・・すみません。天江さんは知つとつたんですが、龍門渚さんのことは忘れとりました・・・!」

狩「・・・えつと、話の途中で悪いんだけど・・・」

狩「占いは龍門渚さんじゃなくて私ですから。騙されないようにしてくださいね?」

玄「違うよ!占いは私なのです!」

宥「・・・く、玄ちゃん・・・!?」

セ「・・・ほんま狂人が好きなやつちな・・・!?」

二「ちよ、ちよい待ってください!今回は狂人はおらんはずですよ!」

原「二条さんの言うとおりです。つまり、玄さんは人狼か背徳者、もしくは狐です

ね・・・。」

玄「な、なんで皆疑うの!? お姉ちゃんまで!？」

宥「だ、だって・・・!？」

セ「玄ちゃんやしなく・・・」

二「ほんまですわ。」

龍「・・・つて! 私よりも目立つんじやありませんの!! そもそも占いは私なのですから、貴女が騙りであるのは明白ですわ!!」

狩「とか言ってますけど、龍門瀏さんも騙りですから。」

龍「むきくく!？」

メ「H A H A H A! 大変おもしろいのですが、そろそろ結果を聞かせてください?」  
姉「そうだよ! そっちばかり楽しそうなのはずるいんだよ!」

上「はは・・・と、とりあえず聞かせてほしいですわ・・・?」

龍「よろしいですわ! 上重さんの結果は○! 先ほどの無礼な態度は、この白色に免じて許してさしあげますわ!!」

狩「私はハルルを占ったわ。結果は○よ。」

玄「私は二条さんを占ったよ! ○だったのです!」

二「……私の名前が出たから、てつきり●をつけてくるかと思ったんやけど……？」  
玄「だから少しは信じてよ!？」

宥「……これから次第、かな……？」

セ「ま、さすがにいきなりは信じられんわ。で、それぞれ占った理由とかはあるんか？」

龍「私はさつき言ったとおりですわ！」

上「す、すんません……ちゃんと覚えときます……」

真「そのほうがいいのよ？」

狩「深い理由はありませんよ。単に初日だったから、同校の人を占おうって思っただけだもの。」

玄「私は、怪しい人を占ってみたよ!それで、とりあえず二条さんを占ってみたの!」

二「……って、どういう理由や!？」

深「……まあ初日ゆえ、ある意味当然の理由……」

妹「そ、そうですね。やっぱいいきなりは分からないだろうし……？」

滝「……うん。でも、どうする？グレラン……？」

仁「……んじや共有COやね。相方は伏せとるよ。」

姉「あ、新道寺の人が共有なんだ？」

仁「ん。ちゆうても、推理ば正直苦手よ。簡単な指示しか出せんと。」

セ「ま、それでもええやろ。対抗おらんのやろ？ほな中心は任せるで！」

仁「ま、できる限りはすつと。」

本「えつと、ではこの中から、1人に投票するんですよ……？」

狩「そうだね。とは言つても、占いや共有、あと○がついてる人以外だからね？」

渋「……もしかして、初心者……？」

本「は、はい。一応、チカちゃんに教えてはもらったんですけど……」

渋「……固くならなくて大丈夫。気楽に行こう……？」

妹「そうですよ。みんなで楽しくやりましょう？」

狩「そうそう。楽しくやりましょう？」

滝「……楽しんでもん勝ち……」

真「全くなのよ。仲良く遊ぶのよ。」

姉「そうだね。みんな仲良しだよ♪」

深「……ん……」

宥「……みんな、あつたかい……♪」

玄「全くなのです！」

原「……何でしょうか。向こうとこちらで、やけに温度差を感じるのですが……？」  
龍「むう……何と言うか、気が抜けそうな空気ですわね。」

セ「……こういうの、俺より竜華のほうが合ってるんやけどな。」

二「駄目ですって。これで清水谷先輩までおつたら、さらに悪化しますよ？」

上「……その、うちの先輩が申し訳ないです……！」

メ「オウ……下手にあちらを疑うと、悪者扱いされそうデスネ……」

仁「……ま、なんもかんも政治が悪いっちゅうことよ……」

原「……とりあえず、気分を入れ替えましょう。今日はグレランで間違いないでしょう。ですの……」



原「CO霊能です。吊られると困りますので、名乗っておきますね？」

二「原村が霊能やったんやな・・・？」

玄「つて和ちゃんか霊能だったの!?!私、お姉ちゃんと和ちゃんも占うか迷ってたよ・・・!?!」

本「え、えつと、頑張ってください！」

滝「・・・ファイト・・・」

深「・・・オー・・・」

狩「・・・つて、だから占いは私だからね?みんな、騙されないでよ?」

玄「違うのです!」

龍「私ですわ!!」

上「・・・占いの真偽もそうやけど、今日は誰に投票したらええんですかね?さすがに分かりませんわ・・・」

宥「・・・えつと、話を通じてる所を怪しむっていう方法があるよ・・・?」

姉「どういふこと?」

宥「・・・人狼にしる狐にしる、仲間で相談してるはずだよね?だから、会話の中で

『あ、この人たち通じてるな』つて思う人を探すの。」

二「松実さんの言うとおりですわ。ヒントがほぼ無しやし、どっかで通じとらんか探すしかありません。」

仁「ほうほう・・・そういう方法があつたと。」

上「ちなみに、松実さん目線で怪しいところつてあるんですか？」

宥「・・・まだ微妙だね。ただ、何となくあそこが怪しいな〜つていう人はいるよ・・・？」

原「・・・ちなみに、それは聞いてもいいのでしょいか・・・？」

宥「・・・」

宥「・・・本内さんと渋谷さん、あとは狩宿さん、かな。誤解ならごめんね・・・？」

本「ふえ、私ですか・・・!?」

渋谷「・・・私たちが、話してたから・・・？」

宥「えつと、その・・・」

セ「・・・なるほど。確かに怪しいで。」

メ「・・・エエ。私も少し気になりますね・・・」

狩「な、なんでですか!?! 初心者の人に優しく接して、何がおかしいんですか!?!」  
渋「・・・同感。それで疑われるのは、さすがに心外・・・」

セ「ちやうちやう。俺が怪しい思うたんは宥ちゃんのほうや。」

メ「イエス。今の、向こうに誘導したように感じマスネ・・・!」

宥「え・・・!?!」

上「・・・え、えつと、その・・・」

原「・・・松実さんを弁護します。問いかけたのは私です。確かに松実さんが村人かは分かりませんが、この件で疑われるのは容認できません。」

宥「は、原村さん・・・!」

メ「ホウホウ・・・庇ってるんデスカ?」

原「・・・私は霊能です。それ以上怪しんでくるなら、私は貴女に投票させていただきますよ?」

メ「それは勘弁デス。バッド、霊能が欠けてる可能性も有りマスネ?」

原「・・・!!」

二「・・・つて落ち着きい!」

玄「そ、そうだよ和ちゃん！えつと、冷静に考えるのです！」

仁「……ん。ムキになつたらあかんと。」

原「……そ、そうですね。失礼しました。」

メ「……ソーリー。それで、他には誰かいませんか？このままですと、私が吊られそうデース。」

深「……確かに、今のを見ると、メグさんは危険……」

真「けど、他にどこを疑えばいいのよ……？」

宥「……今回は8吊りなのに、人外が7もいる。ここで間違えると、いきなり追い込まれちゃうよ……」

本「え、えつと、えつと……チカちゃんは、こういう場合は黙つてる人を怪しめばいいつて言つてました！」

姉「ステルスだね。でも、そんな人いるかな……？」

洩「……本内さんは、私を疑つてる……？」

深「……むう……」

本「はうつ!?そ、そんなつもりじゃないんです……!?」

妹「ど、どうしますか？村人もそうですね、共有や狩人を吊つちやつたら大ピンチです……！」

上「・・・共有に関しては、いつそFOするつちゆう手もありますわ。せやけど、それでも村人が吊られる危険性は残るわけやし・・・?」

セ「困るわあ・・・なあ新道寺の?いつそ指定してくれへん?」

龍「・・・私の手で決められないのは残念ですが、確かにそれも一つの手ですわね。」

玄「・・・だ、誰に投票すればいいの?お姉ちやくん・・・?」

宥「・・・玄ちゃんのお仲間投票すればいいんじゃないかな?」

玄「だから本当に占いなんだよ!!」

仁「・・・グ、グレランよ。私にも分からんわ。」

二「・・・ですよね。」

真「・・・困ったのよ・・・」

福「さあ、残り1分だくく!!」

小「今日の結果をまとめてください。」

仁「・・・グレラン。怪しいと思う奴ば投票すつと。」

宥「・・・うん。分かったよ・・・」

深「・・・怪しい、人・・・?」

滝「・・・誰・・・？」

狩「さ、さあ・・・？」

渋「・・・案外、会話の中心にいるんじゃない・・・？」

二「中心・・・つまり、ステルスとは逆の位置におる人つちゆうことですか？」

上「な、なるほど・・・！」

真「参考にさせてもらうのよ。」

姉「えつとく、つまり・・・？」

本「で、でも、チカちゃんとは違うことを・・・？」

原「・・・最終的には、各々の判断ですね。」

セ「せやな。まあこいつやろって奴に投票すればええわ。」

玄「・・・むむむ！きつとこの人なのです!!」

妹「えつと、じゃあこの人かな・・・？」

メ「・・・何だか、嫌な予感がしますネ？」

福「しゅ~~~~りよ~~~~!!

小「それでは、みなさん投票を始めてください。

## ○投票結果

本内 (2)	↓真瀬	姉帯 (1)	↓メグ	渋谷 (0)	↓メグ	メグ (5)	↓松実宥
原村 (0)	↓深堀	龍門渕 (0)	↓江口	深堀 (1)	↓本内	妹尾 (0)	↓メグ
松実宥 (4)	↓江口	松実玄 (0)	↓メグ	真瀬 (1)	↓江口	上重 (0)	↓松実宥
江口 (3)	↓松実宥	二条 (0)	↓姉帯	江崎 (0)	↓メグ	狩宿 (0)	↓松実宥
滝見 (0)	↓本内						

投票の結果、メガン・ダヴァンさんは処刑されました。

メ「惜しかったデース。あとちよつとで残れそうだったんデスガ・・・」

○3日目(昼) 犠牲 初日犠牲者・渋谷

処刑 メグ

生存 本内・姉帯・原村・龍門渕・深堀・妹尾・松実宥・松実玄・真

瀬

上重・江口・二条・江崎・狩宿・滝見

渋谷堯深さんが無残な姿で発見されました。

福「みなさん、おはようございま〜す!」

小「昨日の犠牲者は、どうやら白糸台の渋谷堯深さんだったようですね。」

福「そして今日の会話時間は9分! たっぷり話せます!!」

小「はたして人狼は誰なのか? そして狐は? みなさん、存分に話し合ってください。」

福「それではみんな、始めるぞ〜! 人狼バトル、3日目!!」

小「スタートです。」

原「おはようございます。メグさんの結果は〇、人狼ではありませんでしたね。」

仁「おはようさん。いきなり追い込まれたと・・・?」

本「そ、その、狐の可能性はないんでしょうか? 狐なら、まだ余裕があるんですよね?」

原「もちろんです。ですが、狐かどうかの確証がありません。楽観視は禁物です。」

二「けど、昨日の投票結果も分かりやすかったですわ。話題に上がつとる人らが見事に票獲得しとるんですから。」



滝「……うん。正直、あの流れ自体が人狼の罠に思える……」

セ「可能性はあるで？俺の怪しんどる奴がまだ残つとるわけやしな？」

宥「……私を人狼に仕立て上げようとしてる？江口さん、本当に人狼なんじゃ……」

龍「松実宥さんの言うとおりですわ!!占いの結果は、江口さんが●ですわ!!」

セ「……なるほどなあ。俺目線、龍門測と宥ちゃんやな。あいつら間違はなく人狼やで……!!」

姉「えっと、どっちが本当なのかな……!？」

深「……むう……!？」

狩「……正直、その●も信じづらいですね。私の占いは、渋谷さん○です。狐ならいいけど……ま、さすがに違うわよね？」

玄「私の結果は、妹尾さんが○なのです!!」

上「お2人は、別のところを占つとるんですね……?」

真「占った理由は何なのよ?」

狩「昨日の投票結果で、0票だったのは渋谷さんと妹尾さんだったでしょ？それで念のためプラス、彼女最後に誘導っばいこと言ってたじゃない？もし人狼だったら危ないな」と思つて。」

玄「むむむ……0票獲得の人を占つたのは同じなのです。ただ、そこまでは考えなかつたのです……」

龍「そして私の理由は、ずばり昨日の会話の流れからですわ！」

本「会話の流れ、ですか……？」

原「……それは、昨日のあれでしょうか？」

龍「まさにあれですわ!!確かに、最初に原村和に尋ねられ、自分の考えを口に出したのは松実宥さんですわ。ですが、そのこと自体を誘導と言っている江口さんとメグさんは、あからさまに怪しすぎますわ！」

二「……確かに、あれはおかしい気もしましたわ。いくらなんでも無理やりすぎな気がしましたし……」

上「うう、うちのせられてもうた……!？」

妹「で、でも、メグさんは人狼じゃなかつたみたいですけど……?！」

龍「……私としましても、それには驚きましたわ。間違はなくこの2人ともが人狼だと思っておりましたもの。」

セ「聞く必要あらへん。なあ新道寺？今日は龍門測指定でええんちゃうか？」

姉「え、ええ〜!?」

深「……それは、さすがに……!?」

宥「……駄目だよ？今日は江口さん吊り。龍門測さんの真偽を確認するためっていう意味もちろんあるけど、見える●を序盤に放っておく必要はないよ……!」

真「ま、松実さんが怖いのです……!?」

玄「あ、あつたかくないのです……!?」

仁「……指定、江口。なんかCOはあつか？」

セ「……メグの奴は○やったんやろ？これで俺まで吊ったら、2連続○やで？COはあらへんけど、さすがに考え直せや……!」

滝「……どうすればいいの……?」

狩「……本音を言うなら反対です。騙りがつきました●ですし、きつと江口さんは村人です。今日もグレランにすべきかと……!」

玄「うう・・・でも、お姉ちゃんを怪しんでる人だし・・・!?!」

姉「でもでも、これで松実宥さんも人狼だつたりしたら・・・!?!」

二「・・・いや、それはさすがにないんちやいます?もしそうやつたら、いきなり人狼同士で殴り合つとるつちゆうことですよ?」

上「それほんまなら、とんでもない作戦ですわ・・・!?!」

本「人狼、怖いです・・・!?!」

龍「ともかく、今日は江口さん吊りですわ!!私は、この意見を絶対に変えませんことよ!?!」

セ「反対や。こんなんで吊られるぐらいなら、いつそ占いの決め打ちでもしたらええんや。」

深「・・・それは・・・!?!」

妹「さすがに危なすぎますよ・・・!?!」

仁「・・・まあそれも一つの手よ。ばってん、そいをするのはまだ早か。」

セ「せやけど、それでもせんと俺が吊られるんやろ!?!なら最後まで反対すんで!あいつの占いで吊られるくらいなら、いつそ玄ちゃんでも妄信したほうがマシや!!」

本「ふえ・・・!?!」

滝「・・・それは、危険・・・!」

宥「・・・龍門渚さんの真偽以前に、尻尾を出してきたんじゃないかな？ 玄ちゃんを真占いなんて、普通は考えられないよ・・・！」

玄「お、お姉ちゃくくくん!？」

宥「・・・え、えつと・・・その、ゲームだから、怪しい人は信じちやいけないんだよ。玄ちゃん・・・！」

原「・・・話が進みませんね。確かに江口さんが村人だった場合、龍門渚さんの破綻は明らかです。その場合、間違いなく明日の吊りは龍門渚さんになりますね。・・・本当に村人だとしても、勝利のために犠牲になつてはいただけませんか？」

セ「・・・せやけど、余裕がすでにないんやで？ 下手すると、良くて引き分けみたいなことになりかねんで？」

原「・・・占いと狩人に期待しましょう。うまく呪殺やGJが起これば、吊り回数を増やすことができるかも知れません。」

セ「それ、あまり期待出来んと思うで？・・・ま、しゃあないわ。ほな今日は素直に吊られたるから、明日は絶対に龍門渚を吊つたつてや？」

原「・・・分かりました。江口さんの無実が証明され次第、ですが・・・！」

仁「……説得しとつてくれて感謝よ。そいじやあ今日は江口吊りで決定やけど、他に何か話し合いたいことつてあつと？」

本「と、特には……？」

姉「無いと思うんだけど……？」

二「……あるとしたら、江口先輩がほんまに人狼だった場合、その仲間は誰なのか？それと……」

狩「その逆、だよな……！」

宥「……逆に関しては、私が疑われるよね。でも、違うとは言つておくよ……？」  
上「うう……これ、ほんまに信じてもええんでしようか!？」

真「分からないのよ。もしかしたら、本当に嘘ついてるかもしれないのよ……!？」

玄「うう……お姉ちゃんは人狼じゃないのです……！」

滝「……まだ占つてない。結果は分からない……」

妹「そ、そうだよな。お姉さんを信じたいっていう気持ちは分かるんだけど……」  
龍「なら、私が占つてさしあげましょうか？松実宥さんを。」

原「……いえ、それはできれば後にしてください。私目線では、龍門渕さんと松実宥さんの間には繋がりがあるように感じられます。疑うわけではないのですが、○が出て終わり、という結果になりそうです……。」

セ「……ま、当然そうなるやろな。」

仁「……他に何か話したいことってあつと？無かならスキップすつぞ……？」

仁「……なさそうやね。そいじゃあ……」

『スキップ。』

福：おっと！ここでスキップだろー！！

小：それじゃあ、さっそく投票を始めてください。

○投票結果

本内 (0)	↓江口	姉帯 (0)	↓江口	原村 (0)	↓江口	龍門渕 (1)	↓江口
深堀 (0)	↓江口	妹尾 (0)	↓江口	松実宥 (0)	↓江口	松実玄 (0)	↓江口
真瀬 (0)	↓江口	上重 (0)	↓江口	江口 (14)	↓龍門渕	二条 (0)	↓江口

江崎(0) ↓ 江口 狩宿(0) ↓ 江口 滝実(0) ↓ 江口  
投票の結果、江口セーラさんは処刑されました。

セ「どうなるやろな・・・ま、後は残った奴らに任せるで!!」

4 日目に続く・・・



# 人狼バトル第4回戦 ②

○4日目(昼) 犠牲 初日犠牲者・渋谷・江崎

処刑 メグ・江口

生存 本内・姉帯・原村・龍門渕・深堀・妹尾・松実宥・松実玄・真

瀬

上重・二条・狩宿・滝見

江崎仁美さんが無残な姿で発見されました。

福「みんな、おっはよ～～う!!さあ、大変なことになった～～!!」

小「：：抜かれてしまったみたいですね。犠牲者は、新道寺女子の江崎仁美さん。共有ですね。」

福「これは、完全に人狼にしてやられたか～～!!」

小「話が一気に動きそうですね。今日からの展開に注目です。」

福「そして、今日の会話時間は8分でくくくす!!」

小「みなさん、混乱せずに、しっかりと話し合ってください．．．!」

福「じゃあ始めるぞお!!?人狼バトル、4日目くくく!!」

小「スタートです．．．!!」

本「ふええ．．．!?!」

姉「江崎さん、やられちやったよ．．．!?!」

二「．．．あかんですわ。これ、完全に人狼にのせられとるんちやいます．．．!?!」

真「ま、全くなのよ!?!これで江口さんまで村人だったら、もう最悪なのよ．．．!?!」

原「．．．いえ、江口さんの霊能結果は●．．．人狼です．．．!!」

滝「つ!?!．．．それ、本当．．．!?!」

狩「嘘つ!?!本当に人狼．．．!?!」

宥「．．．そつか。予想が当たってたんだね．．．!」

妹「そ、それでその……CO共有です！お願いですから、対抗しないでください……!?!」

上「!?ふ、ふざけんといってください！江崎さんの相方は私や!!」

深「むう……!?!」

本「え……共有が、えつと……3人……?」

狩「違うわ。つまり、騙り交じり……!」

姉「……共有、乗っ取られちゃうよ……!?!」

妹「うう……きよ、共有は私です！私が江崎さんの相方です！」

上「ちやいます！共有は、間違いなく私や！今日は妹尾さん吊りや!!」

龍「……妹尾さんを吊りますわよ。上重さんなら、私が占っておりまますもの……!」

真「そ、そうだったのよ……!……つて、妹尾さんも確か……!?!」

玄「……私は上重さんに投票するよ……!」

二「確かに、妹尾さんは妹さんの○でしたし……つて、なんでそんなに元気ないんです……?」

玄「うう……!」

原「……昨日の江口さんのあの動きは、完全に村を混乱させるための演技だったと

いうことです。おそらく、江崎さんを嘔むためのブラフだったのだと思います……！」

滝「……ん。狩人も、昨日は原村さん護衛の可能性が高い……！」

原「ええ。おそらく、その隙についてきたのだと思います。そして……」

原「確定ではありませんが、龍門渕さんと玄さんでは龍門渕さんが真寄りと判断します。よって、私は妹尾さん吊りを提案します……！」

妹「え……!？」

玄「……だ、駄目なのです!!和ちゃん、完全に人狼に操られちゃってるのです!？」

原「……まだ、玄さんを否定したわけではありません。これで妹尾さんが○だったら、つまり龍門渕さんが破綻です。」

二「せやけど、残りの吊りは6回やで!?!狐も残ってるんやし、もう無駄吊りは出来へん!!！」

原「……少なくとも、人狼1匹は消えました。後は人狼3匹と、狐が2匹。この際、背徳者もう考えないほうがいいです。狐は呪殺し、そしてGJさえ出れば、可能性はあります……!！」

姉「でもでも〜!呪殺出来なかつたら、PPになっちゃうかもしれないんだよ……」

!？」

原「・・・ならどうしろっていうんですか!? 占いの決め打ちでもしますか!?」

本「ひう!？」

宥「え、えつと・・・落ち着いて・・・?」

狩「そ、そうだよ? 気持ちは私にも分かるけど、まずは冷静になろう・・・?」

原「・・・そ、そうですね。失礼しました。ですが、私としては先ほどの案をそのまま提案します。そして、妹尾さんの真偽次第で上重さん、もしくは占いのどちらかを吊りたいと・・・」

龍「・・・妹尾さん吊りには賛成ですわ。ですが、その真偽の確認は必要ありません。明日の吊りは貴女ですわよ、原村和・・・!!」

原「・・・え・・・!？」

二「へ? それってどういう・・・?」

龍「占いの結果ですわ。原村和・・・●!! 霊能乗っ取りですわ!!」



たの．．．ですが、出た答えは人狼。それを考えると、むしろ昨日の江口さんとのやりとりは、つまり原村和を真に見せるための動きであったということに気づきましたわ．．．!!」

原「．．．言いがかりも甚だしいですね．．．!指定変更です!今日の吊りは、上重さんです!!」

上「．．．つて、納得できんわ!もし龍門渕さんの言うことがほんまなら、うちが出されて終わるやないか!」

妹「さ、賛成です!えっと、少なくとも上重さんは偽者です!!」

上「ちやう!!偽者はあんたのほうや!!」

宥「．．．この場合、上重さんと妹尾さんのグレランだよ。どうしよう．．．私は正直、原村さんが信じづらいたく．．．?」

真「わ、私にだって分からないのよ．．．!」

姉「私もだよ．．．!」

玄「．．．吊るのは上重さんだよ。そして．．．．．．明日は、お姉ちゃんを吊るのです!!」

宥「え・・・!?」

二「そ、それって・・・!?」

玄「占いCO、お姉ちゃん、●なのです!!お姉ちゃんは・・・人狼だよ!!」

宥「・・・そっか。玄ちゃん、本当に偽者だったんだね・・・!?」

玄「違うよ!!私は占い・・・そして、お姉ちゃんは人狼だよ!!」

真「・・・の、のよ・・・!?」

二「こ、この2人が争うんですか・・・!?」

本「えと、えつと・・・つまり今、どうなってるんですか・・・!?」

深「・・・ちなみに、貴女は・・・?」

狩「あ・・・えつと、ごめん。本内さんO。完全に外してるわ・・・」

狩「その、比較的ステルス目の場所をつて考えてただけど・・・」

二「・・・まとめましよ。現時点で、共有として出てきたのが・・・」



妹「わ、私です！」

上「みなさん、騙されんといってください！うちですわ!？」

姉「そ、それで……龍門渚さんの視点は……?」

龍「分かっている人狼は、江口さんと原村ですわ。そして人外が松実玄さん、狩宿さん、そして妹尾さんですわ。……ただ松実宥さんに●をつけたところを見ると、人狼はおそらく妹尾さんのほうですわね。」

深「なるほど……!」

龍「ちなみにですが、おそらく妹尾さんは人狼ですわ。狐が共有に特攻するのは危険すぎますし、背徳者はおそらく狩宿さんですわね。」

狩「ち、違うわよ!!私は占いです!!」

真「ん……それで、玄ちゃんの視点はどうなってるのよ?」

玄「……龍門渚さんに疑われてるところを見ると、和ちゃんは霊能で間違いないと

思うのです。だから人狼は、江口さんとお姉ちゃん。それに、きつと上重さんもなので。妹尾さんは共有なのです……！」

本「そ、そうなんですか……」

姉「それじゃあ、今日は誰を吊ればいいのかなく……？」

深「……共有、ロラ……！」

妹「ふえ……！」

上「な、私は共有ですか……！」

滝「……仕方ない。原村さんの真偽も曖昧になってるから、色に期待できない……」

真「のよ……こればかりは仕方ないのよ……？」

龍「……そして、明日は原村和吊りですわ。妹尾さんの次に吊れば、あとはLWの

みですわ……!!」

原「いえ、今日は上重さん。明日は龍門渕さんです……!!」

福「さあ、残り1分を切った……!!」

小「……時間がありませんね。急いで結果をまとめてください。

二「……まとめましよ。とりあえず、共有はロラのほうがええと思えますわ。反対の人はおりますか？」

上「うう……本音は反対なんやけど……!？」

妹「も、もし私が吊られても、必ずロラしきってくださいね……!？」

龍「決まりですわ。なら、妹尾さんに投票ですわ！」

宥「……そのほうが良さそうだね。私、嘘つきちゃんに●つけられちゃったし……!？」

玄「お姉ちゃん……!？」

原「……上重さんに投票しましょう。みなさん、それにのってください……!？」

滝「……ロラは完遂する……!？」

深「むう……それしかない……!？」

姉「うう、ならどっちから投票すれば……!？」

真「分からないのよ……!？」

本「うう、チカちゃん……!？」

福「……そこまで……!!」

小「みなさん、投票を始めてください。」

## ○投票結果

本内(0) ↓上重 姉帯(0) ↓妹尾 原村(0) ↓上重 龍門渕(0) ↓妹尾  
 深堀(0) ↓妹尾 妹尾(7) ↓上重 松実宥(0) ↓妹尾 松実玄(0) ↓上重  
 真瀬(0) ↓妹尾 上重(6) ↓妹尾 二条(0) ↓上重 狩宿(0) ↓上重  
 滝見(0) ↓妹尾

投票の結果、妹尾佳織さんは処刑されました。

妹「そんなく・・・うう、みなさん、絶対に負けないでください・・・！」

○5日目(昼) 犠牲 初日犠牲者・渋谷・江崎・滝見

処刑 メグ・江口・妹尾

生存 本内・姉帯・原村・龍門渕・松実宥・松実玄・真瀬・上重・二

条・狩宿

滝見春さんが無残な姿で発見されました。

福「みんなおはよう！5日目の朝だ〜！！」

小「昨晚の犠牲者は、永水女子の滝見春さんでしたね。」

福「昨日は大いに盛り上がりましたが、果たして今日はどうなるのか〜！！」

小「そして今日の会話時間は7分ですね。みなさん、真実を見つけ出してください。」

福「それでは始めるぞ〜！！」

小「5日目、スタートです。」

原「おはようございます！妹尾さんの結果は○！今日は上重さんを吊ります！」

上「じよ、冗談やない！なんでうちが吊られなあかんのや!!」

龍「原村和の言葉を聞く必要はありませんわ！ここからは、上重さんの進行に任せる

べきですわ!!」

真「そ、それもちよつと怖いのよ〜・・・？」

姉「もし、上重さんが人狼だったらく〜・・・!!」

玄「今日は絶対に上重さんを吊るよ！」

二「まあ、共有の口ラは必須でしょうなあ〜・・・」

深「・・・信が置けない場所は、残せない・・・！」

本「うう、では、今日は上重さんに投票ですか・・・？」

宥「・・・私目線では、それには反対したいんだけどね。ただ、ここはロラが正しい選択だと思うよ？」

玄「お姉ちゃん！そうやって、いかにも村人みたいに振舞うのはやめるのです!!」

狩「・・・完全に松実姉妹で激突してるわね。それはいいけど、占いの真は私だってちゃんと分かってる？」

龍「ありえませんわ！貴女は背徳者ですわ!!」

玄「私からしても、きつとそうだと思うのです！」

狩「なんでそこだけ合わせてくるかなあ・・・もしかして、あなた達2人とも人狼じゃないでしょうね・・・!?!」

上「う、うちは吊られたくありません！・・・せやけど、どうしても信じてもらえないっちゆうんなら、それも仕方ないんやろな・・・!?!」

姉「ど、どうしようく・・・!?!」

深「・・・とりあえず、今日の占いを・・・」

龍「そうでしたわね。私の結果は、滝見さん○。おそらく、狐だと思われますわ。」

玄「騙されちゃいけないのです！滝見さんを占ったのは私、結果は○だよ!!」

狩「……私の○を噛みに来たわけね。私の結果は●。二条さんよ!!」

二「……なんで私っていつも●出しされるんやろ……?」

真「……きつとそういう宿命なのよ。」

深「……ドンマイ……」

龍「……おそらく、人狼側も気づいてますわ。背徳者が囲った○の中に、狐がいるということ。今日の死体が滝見さんだけなのも、人狼の噛みと私の占いが合わさっているのだと思いますわ。」

玄「それはこっちの台詞だよ！真は私で、人狼はきつと龍門渕さん！そうなると、宿さんが占った場所に狐がいるってことに、お姉ちゃんたちは気づいたのです!!」

狩「ありえないわ。私目線、ハルルはグレー残しのために犠牲になったのよ。ついでに言つとくと、私目線だとこれでもまだ1匹目。江口さんが本当に人狼だったとするなら、対抗の片方と共有の片方で、人狼が全露出よ。あとは狐だけね……!」

龍「昨日言い忘れておりましたが、私目線でも人狼はほぼ全露出ですわ。江口セーラと原村和。そして妹尾佳織に、おそらく松実玄ですわ。滝実さんが狐で合っていれば、あともう1人を占い次第お仕事完了ですわね。」

玄「占うのは私なの！人狼はお姉ちゃんと上重さん。それにきつと龍門渚さんだよ。和ちゃんが真なら、あとは江口さんもだね！」

原「・・・私目線を説明しておきます。吊られた人狼は、まだ江口さんのみ。そして私に●を出した龍門渚のことを考えれば、龍門渚さんと上重さんの2人は人狼かと。あとは、玄さんと狩宿さんのどちらが真かということですね。」

二「・・・少なくとも、龍門渚さんと原村のラインは切れとるわけですな。そこで私に●出した狩宿さんが騙りと考えると、真は松実さんの妹さんと原村やろか・・・？」

真「でも、狩宿さんが真の可能性もあるのよ？そうすると、泉ちゃんは人狼なのよ。」

姉「えつとく。でもそれって、原村さんが真だったらっていう前提なんだよね？もしかしたら、本当に龍門渚さんが真の可能性もあるんじゃないの？」

本「・・・その、もし狩宿さんが真で、原村さんも人外だったらどうなるんでしょうか？そうになると、結果が滅茶苦茶になりそうなんですけど・・・！」

深「・・・その場合、狩宿さん視点、原村さんが人狼なら全露出の可能性が高い・・・」

狩「その通りね。悪いんだけど、明日は私も原村さんを占うわ。真であるとは思いたいんだけどね・・・？」



宥「……それで、今日は上重さんに投票でいいの？狩宿さんの話聞いてると、正直自信が無くなってきたんだけど……？」

龍「……貴女は私を真として見ているんではありませんの？なぜ今更あちらに……!？」

宥「……断っておくけど、私は龍門渕さんが真だなんて、一言も言つてないよ？玄ちゃんも龍門渕さんなら、間違いなく龍門渕さんだけど……」

上「あ……そつか。松実宥さんの視点やと、まだ龍門渕さんと狩宿さんの真偽がつかいとらんのか……!？」

姉「松実宥さんに●を出したのは、玄ちゃんだけだもんね。」

宥「うん。だから、龍門渕さんを限りなく真目で見てるのは確かだけど、まだ狩宿さんが真の可能性は切っちゃ駄目だと思うの……」

原「……確かに、これで真が狩宿さんだった場合には、まだ宥さんが人外とは決まらないんですね……」

二「せやな。せやけど、私目線では狩宿さんの真は絶対に無い！それ考えれば、松実さんのお姉さんと原村が同じ陣営つちゆう可能性は限りなくゼロやろうな。」

上「間違いないと思いますわ。妹尾さんが狐や背徳者やつたつちゆうんなら話はまた変わりますけど、そうやなければ私から見ても原村は騙りや。」

本「狐……これで上重さんも○だったら、妹尾さんは狐だったということでしょうか？」

龍「……昨日も言いましたが、まずありえませんか。共有を騙って生き残ろうとするなら、それこそ最初に飛び出ていかなくはなりませんわ。それでも、結局は全吊りには間違いないでしょうし。」

二「片方ずつ吊つても両方○なら、狐交じりか狂信者交じりですわ。ほんなら結局は全吊りです。」

深「……まして、今回のケースで狐が出るメリツトがない。吊られるのが分かってる……」

宥「そうだね。それを考えると、共有を消すために人狼が出てきたっていうのが正解だと思おうよ。」

姉「人狼はいっぱいいるけど、狐は少ないからね〜！」

本「そ、そうなんですか……」

原「……何にせよ、今日は上重さん吊りです。これは譲れませんよ？」

玄「私も同じだよ！みんなに疑われても、これだけは譲れないんだから！」

狩「……原村さんの真偽次第だろうけど、確かに今日はそうなるわね。これならいつそ原村さんを占えば良かったかしら……？」

深「……結局は、ロラに変わりはないと思う……」

真「そうなのよ。さすがに置いておくのは厳しいのよ。」

上「うう……私、共有やのに……!？」

龍「……人狼にしてやられた結果ですわね。次は、こんなことはさせませんわよ……!!」

原「……私に言っているんですか？ やっているのはそちらでしょう。」

二「……ともかく、今日は上重さん吊りですわ。これはさすがに決定でええでしょう?」

宥「……そうだね。あんまり反対すると、明日から厳しそうだしね……?」

玄「お姉ちゃん、絶対に吊るからね……!!」

龍「……反対しときますわ。まあ無駄でしょうけど。」

姉「いいと思うよ?」

深「……賛成……」

本「わ、分かりました……!」

真「心得たなのよ。」

狩「……まあ、しょうがないわよね……?」

原「それでは決定ですね。……どうしますか? これ以上は堂々巡りな気もするんで

すが・・・？」

宥「・・・スキップでいいんじゃないかな？みんなは・・・？」

真「反対意見は・・・なさそうなのよ。」

姉「それじゃあ・・・」

『スキップだよ♪』

福：はい！スキップされました〜！！

小：それでは、投票開始です。

○投票開始

本内（0）↓上重

姉帯（0）↓上重

原村（2）↓上重

龍門洩（0）↓原村

深堀（0）↓上重

松実宥（0）↓上重

松実玄（0）↓上重

真瀬（0）↓上重

上重（9）↓原村

二条（0）↓上重

狩宿（0）↓上重

投票の結果、上重漫さんは処刑されました。

上「しゃあないとはいえ……これで負けたら最悪ですわ……!!」

6日目に続く……

# 人狼バトル第4回戦 ③

○6日目(昼)

犠牲

初日犠牲者・渋谷・江崎・滝見・本内・深堀・狩宿

処刑 メグ・江口・妹尾・上重

生存 姉帯・原村・龍門渕・松実宥・松実玄・真瀬・二条

本内成香さんが無残な姿で発見されました。

深堀純代さんが無残な姿で発見されました。

狩宿巴さんは悲しみのあまり投身自殺しました。

福「みんな、ついにこの時がやってきたぞ〜!?」

小「おはようございます。昨日の犠牲者は、有珠山の本内成香さん。風越女子の深堀純代さん。そして、永水女子の狩宿巴さんでした。」

福「そして、あの選手の死因が、まさかのあれだ〜!?」

小「まさかのあれって・・・まああまり詳しくは言えないんだけどね・・・？」

福「でも、あれってどう見てもきつ・・・」

小「司会者が言っちゃ駄目だよ!?!とにかく!今日の会話時間は6分です!!」

福「アラサーが本気で怒っちゃう前に、勝負を決められるか・・・!!」

小「だからアラサーじゃなくって・・・って、合ってるよ!もう!!」

原「・・・開始の合図までおかしなことになってきましたね。・・・あ、おはようございませう。上重さんの結果は●。当然ですね。」

二「よっしゃ!!これで狐はいなくなりましたわ!!」

姉「本当だよ!バンザイ♪」

真「狩宿さん、間違いなく背徳者なのよ。」

宥「そうみたいだね。でも、これで全員吊ることができなくなっちゃったね・・・」

龍「・・・吊りは残り3回ですわ。GJが出て、1回では数は変わりませんし・・・」

原「2回出れば・・・というのは、さすがに期待薄ですね。」

玄「むむむ・・・なら、絶対にお姉ちゃんたちを吊らなくちゃね!!」

龍「ちなみに、狐は本内さんでしたわ。彼女の結果は○。案の定囲われていましたわ

ね。」

玄「本内さんを占ったのは私だからね！結果は○だよ!!」

宥「・・・玄ちゃんたちもずるいよね。ここで噛みをずらしてくるなんて・・・!!」

原「それはこちらの台詞です!!確認のために、本内さんを噛めばよかったです!!」

龍「私の思考が読まれた、というわけですわね。・・・さすがは原村和、言うべきかしら・・・!!」

玄「違うよ！お姉ちゃんに、考えを読まれちゃったのです!!」

二「・・・確かに、ここで深堀さん噛まれてなかつたら、G J 1回で吊り増えましたわ・・・!!」

真「占いが、狐を呪殺するって読みきってるのよ・・・!!」

姉「うう、どっちが人狼なのかな・・・!!」

龍「確認しておきますが、狐はすでに消えましたわ。これで残るは人狼のみ。人狼は江口セーラ、原村和、妹尾佳織、そして対抗の松実玄で間違ありませんわ。」

玄「違うよ！人狼はお姉ちゃんと龍門渕さん、それに上重さんだよ！あとは江口さんだと思っただけ・・・」



原「? 玄さん、その認識であつてますよ……?」

真「なにか間違つてるのよ……?」

玄「……私の希望を言うのです。今日はお姉ちゃんか龍門洩さんを吊りたいけど、それが駄目なら和ちゃんをお願いしたいのです……!」

原「……く、玄さんまで私を疑つてるんですか!」

宥「……ここで身内切りをするの? 玄ちゃん、そんなことしても誰も信じないよ……?」

姉「な、なんで?!」

玄「もちろん、和ちゃんのことを信じたいよ! でも私の目線では、まだ江口さんが本当に人狼なのかどうか、分からないのです……!!」

二「……納得や。つまり妹さんが懸念するのは、人狼の内役が龍門洩さん、お姉さん、上重さん、それに江口先輩ではなく、代わりに原村が入る可能性なんやな?」

玄「うん……！和ちゃんを信じたいけど、昨日は狐を呪殺しに行ったから、まだ確認が取れてないの……！」

真「……納得なのよ。確かに玄ちゃんの視点だと、その危険性が残ってるのよ。」

原「……そういうことですか。どうやら私を疑っているわけではなく、あくまで村勝利のために万全を尽くしたいということですね……！」

龍「……原村和を吊るのには賛成ですわ。ですが、明日か明後日には松実玄さんを吊りますわよ。」

二「……今日呪殺が出ることから、どちらかが真占いなんは確定ですわ。そうすると、占い2人が人狼つちゆう可能性はありません。となると、確かにここで妹さんを吊るのは悪手ですわ……！」

宥「……村視点からすると、確かにそうなるね。今日吊るのは玄ちゃん以外の3人の中の誰かだよ。」

姉「ならなら、今日は誰に投票すればいいかな？」

二「……ここは合わせたほうが良さそうですわ。グレランにすると、万が一の可能性があります……！」

玄「その通りなのです！グレランにして、万が一和ちゃんが本当に人狼だった場合、私に3票集まる危険性があるのです!!」

真「・・・そしたら村負けなのよ・・・」

姉「そ、それだけは駄目だよ!?!」

真「・・・そういえば、松実のお姉さんは狩人とは違うのよ?もしそうなら、COしてもいいのよ」

宥「ないよ?私は村人だよ。」

姉「・・・どういうことなのよ・・・?」

真「・・・松実さんが狩人つて言つても、あんまり松実さんの信用度は変わらないのよ。むしろここで松実さんの対抗が出たら、龍門渕さんが破綻すると思つたのよ。」

宥「・・・私が入狼でも、さすがにそれには気づくよ?もし私が本当に狩人で対抗が出なかつたら、GJさえ出せば無実の証明になつただろうけど・・・」

真「変に疑つて申し訳なかつたのよ。」

姉「そうだったんだく・・・えつとく、それじゃあ今日は誰を吊ればいいかな?」

龍「・・・仕方ありませんわね。柱というわけではありませんが、明日明後日で必ず原村和と松実玄を吊つてくださるのでしたら、私が今日吊られてもよろしいですわよ?」

宥「……龍門瀏さん……?」

龍「……私目線、人狼はその2人だけで決まりですわ。狐を呪殺した今、あと出来ることは松実玄を占って、●であることを伝えるのみ。でもそれ、正直意味がありませんもの。つまり私のお仕事は、狐を呪殺した時点で実質終了ですわ。」

二「……確かに、私ら3人は村確定ですわ。そうなると、ここで龍門瀏さんを吊つても問題はありまへん。」

原「決定です。では、今日は龍門瀏さんに投票ということで。」

龍「……私が吊られると言った途端、やけに生き生きとし始めましたわね、原村和……!!」

原「当然です。……貴女の結果を伝えれば、私は明日で仕事終了ですの。」

真「……●が3つ出れば、確かに霊能のお仕事も終了なのよ……」

姉「じゃあ、明日は原村さんなのかな……!!」

龍「当然ですわ!今日私を吊っておきながら、明日に松実宥さんを吊るなどという愚行だけは行わないでくださいましね!」

原「……私個人としては、最後までそれをおすすめします。」

龍「何ですって原村和!!そんなこと言うなら、今日は貴女が吊られなさいな!」

原「お断りです。私が吊られて、明日に玄さんまで吊られたらたまったものではあり

ませんので。」

宥「・・・堂々巡りだね。今日は龍門渚さんでもいいけど、明日には必ず原村さんを吊るよ。それを約束してもらえないなら、私たちは原村さん吊りを押すよ・・・！」

二「・・・私は約束してもええと思えます。今日は龍門渚さん。明日は原村か妹さん。この順番で吊っていけば、とりあえず最終日まで残れますわ。」

姉「そ、そうだね。なら、約束するよ。♪」

真「約束するのよ。」

福「・・・つと、ここで残り1分です！」

小「それでは、今日の結果をまとめてください。

原「・・・それでは、今日は龍門渚さんに投票してください。」

二「了解や。で、明日は原村やで。」

玄「一応、今日は和ちゃんを占うよ。その吊りの順番なら、なにも変わらないんだけどね。」

姉「それじゃあ、龍門渚さんに投票するね。」

真「心得たのよ。」

龍「……それでは、あとはお任せしますわ。」  
宥「……うん。龍門渚さんの代わりに、私がみんなを説得してみせるね……！」

福：しゅくしゅりよしゅしゅ!!

小：それでは、投票を始めてください。

### ○投票結果

姉帯（0）↓龍門渚 原村（1）↓龍門渚 龍門渚（6）↓原村 松実宥（0）↓

龍門渚

松実玄（0）↓龍門渚 真瀬（0）↓龍門渚 二条（0）↓龍門渚

投票の結果、龍門渚透華さんは処刑されました。

龍「……つてやってしまいましたわ!? 私ではなく、松実宥さんが今日吊られても、全く同じではありませんの!? せっかくの目立てるチャンスが……!!」

○7日目（昼） 犠牲 初日犠牲者・渋谷・江崎・滝見・本内・深堀・狩宿・真瀬

処刑 メグ・江口・妹尾・上重・龍門渕

生存 姉帯・原村・松実宥・松実玄・二条

真瀬由子さんが無残な姿で発見されました。

福「みなさん、おっはようございま〜す!!」

小「7日目を迎えました。昨日の犠牲者は、姫松の真瀬由子さんでしたね。」

福「今日は一体どうなるのか!? 会話時間は、5分で〜す!!」

小「今日で決着をつけるのでしょうか? それとも、安全策をとるのか?」

福「難しいところだね! それじゃあさっそく始めるよ〜!!? 人狼バトル、4回戦〜〜

!!

小「7日目、スタートです。」

原「龍門渕さんの結果は●です。当然ですね。」

玄「和ちゃんを占ったけど、結果は○だよ! 疑ってごめんね?」

原「いえ、分かっていたただけたんならいいんです。それでは・・・」

原「今日宥さんを吊って、それで終了ですね。」  
宥「・・・約束、破る気なんだね・・・？」

二「・・・いや、さすがに約束は守りますよ？」

姉「そうだよ？今日は原村さんに投票するからね？」

宥「・・・良かったよ。これで私吊りになったら、龍門渕さんに怒られるところだったよ・・・」

原「むう・・・別に、ここで決めてしまってもいいと思うんですが・・・？」

玄「・・・私としても、お姉ちゃんを吊りたいよ。お姉ちゃんが嘘ついてるところ、もう見たくないのです！」

宥「・・・ねえ玄ちゃん？それ、お姉ちゃんの台詞だよ・・・？」

二「・・・どちらにせよ、今日は原村に投票で決まりですわ。姉帯さんもそれでいいですよね？」

姉「いいよ。でも、明日はどうすればいいのかな？」

玄「当然お姉ちゃんに投票なのです！」

宥「玄ちゃんによろしくね？」



原「・・・宥さんに投票することをおすすめします。」

二「まああなたはそう言うやろ・・・」

姉「んゝ・・・二条さんは、どっちが怪しいと思うゝ?」

二「私ですか?・・・いや、微妙ですわ。確かに原村が霊能つちゆうほうが当然の気もするんやけど、江口先輩と松実のお姉さんが共に人狼つちゆうのがどうにも・・・?」

宥「・・・言い訳じゃないけど、私の証明としてもそれを考えてほしいな。江口さん、初日からいきなり私に票を集めて吊ろうとしてきたんだよ?占いで逆囲いしたっていうんならともかく、話し合いの中でそうやって誘導してくるっていうのは、いくらなんでもありえないよ・・・」

原「・・・ありえないと思うからこそ、そうやって誘導したんだと思います。今思いついても、あの誘導は少々無理があるものでした。実際にあれで宥さんが吊れていたら、おそらく龍門瀏さんは江口さんに○を出すつもりだったんです。そして結果的にメグさんが吊れてしまったことで、人狼同士が対立するわけないという考えを植えつけることにしたんです。」

玄「その通りだよ!それに、そもそも霊能のCOは和ちゃんだけだったのです!私も

疑っちゃったけど、いきなり人狼が霊能を乗っ取ろうとするなんて、さすがにありえないよー！」

宥「霊能の乗っ取りは、別に初日から来てもおかしくないよ？自分含めての霊口ラも出来るし、なにより真を噛むチャンスが増えるんだもん。むしろ、早々にCOしてきた初日を思い出すと、真霊能を確認するために出てきたように見えるはずだよ。」

原「初日は全員Oでした。ならグレランになるのは目に見えています。吊られないように先に名乗っておくのは、決して悪手ではないかと。」

玄「和ちゃんの言うとおりだよ！いつものお姉ちゃんなら、別におかしくないって言うってくれるはずなのです！」

宥「おかしいとおもってるから言ってるんだよ？・・・それに思い出してほしいんだけど、江崎さんは別に霊能のCOを確認しようとはしてなかったし、するかどうかも口にしてなかったはずだよ。それなのに原村さんがCOしてきたっていうことがどういうことなのか、2人には考えてほしいな・・・？」

二「・・・き、聞けば聞くほど迷いますわ。どつちの言い分もありえそうや・・・!!」  
姉「んゝ・・・私としては、ちよつとだけ松実宥さんの言ってることのほうが、筋が通ってるように聞こえるよ。人狼同士で、相手に票を集めようとはしないんじゃないな

いかな〜?」

宥「・・・二条さんも、私たちを信じてくれないかな?二条さんがその調子だと、今日姉帯さんがやられちゃうだろうし・・・」

原「ブラフです!そう言つて、逆目線で自分を信用させようとしているんです!」

玄「そうだよ!二条さんは、どっちが正しいか分かるはずだよ!」

二「・・・な、なんやこれ。下手すると私が決め手になるんですか・・・!」

姉「もし私が生き残つたら、玄ちゃんに投票するね〜♪」

玄「だ、駄目なのです!?!姉帯さんも、お姉ちゃんに投票してほしいのです!」

原「・・・本気で心配になつてきました。姉帯さん。自分が残されたら、なぜ残されたのかということをよく考えてくださいね・・・?」

宥「・・・それこそブラフだね。姉帯さんを残して、あえて私を疑わせようとしてるんだね・・・?」

原「違います!つていうより、そもそも今日宥さんを吊つてしまえば村勝ちになるんです!本当にそうするべきです!!」

二「いや、せやからそれは・・・?」

姉「ん〜・・・私の中で、原村さんの印象がマイナス1ポイントだよ〜。」

玄「和ちゃん!」

和「……………し、失言でした。」

宥「……………いいんだよ？もつと失言しても…………？」

和「嫌です!!」

姉「それじゃあどうする？私はもう決まったけど、二条さんはもうちよつと考えた  
い？」

二「……………いや、今日はもうええですわ。一人になって考えさせてもらいます…………！」

宥「……………二条さんも、よく考えてね？お願いだよ…………？」

玄「二条さん、よろしくね!」

原「……………あとは、よろしくお願いしますね。」

『スキップ』

福：あ、もう会話が終了したね。

小：全ては明日に決まるっていうことだね。それじゃあ投票を始めてね。

○投票結果

姉帯(0) ↓原村 原村(4) ↓松実宥 松実宥(1) ↓原村 松実玄(0) ↓原村

二条(0) ↓原村

投票の結果、原村和さんは処刑されました。

原「大丈夫でしょうか：：本当に、今日で勝負を決めてしまいましたかっただんですが：：」

帯

○8日目(昼) 犠牲 初日犠牲者・渋谷・江崎・滝見・本内・深堀・狩宿・真瀬・姉

処刑 メグ・江口・妹尾・上重・龍門渕・原村

生存 松実宥・松実玄・二条

姉帯豊音さんが無残な姿で発見されました。

福「みんなおはよ〜〜！ついに、ついに最終日がやってきたぞ〜〜!？」

小「昨日の犠牲者は、宮守女子の姉帯豊音さんだね。彼女が犠牲になるってことは、いったいどういうことなのかな・・・？」

福「とにもかくにも、今日でラストだくくく!!」

小「今日の会話時間は4分だね。はたして、どういう結果が出るんだろうね・・・？」

福「それでは人狼バトル、第4回戦の最終日!!」

小「スタートです！」

二「・・・私が残されるんですか・・・」

宥「・・・私はもう投票ボタンは押してあるよ。二条さんも、玄ちゃんのボタンを押してね・・・？」

玄「な、なら私も押しちゃうのです!二条さん、お姉ちゃんに投票しよう!」

宥「・・・今日、姉帯さんがやられた。この意味、二条さんなら分かるよね?玄ちゃん、姉帯さんは怖くて残せなかったんだよ・・・!」

玄「違うよ!? 噛んだのはお姉ちゃんだよ!確かに姉帯さんが残ってた怖かったけど、だから逆に姉帯さんを噛んで、自分を村人に見せようとしてるんだよ!!」

宥「私が人狼なら、絶対に姉帯さんは残すよ!あれだけはつきり私寄りの言葉を口にしてくれた人、この最終日に噛めるわけないよ!」

玄「そうやって信じてもらおうとしてるんだよ!?それを言うために、あえて姉帯さんを囓んだのです!!」

二「……正直、まだ迷つとるつちゆうのが本音です。ただ、あれから考えて少し気になることがあったんですわ……」

宥「……何?何でも答えるよ!?!」

玄「私が答えるの!」

二「……初日の犠牲者、渋谷さんでしたわ。なんであの人囓まれたんですかね……?」

宥「……私が思うのは、素直なグレー囓みなんじゃないかな?おそらく狩人探し……もしかしたら、霊能が潜伏している可能性も考えてたのかもしれないけど……?」

玄「むむむ……私も、多分そうだと思うんだけど……?」

二「あとは、4日目に江崎さんがやられたことや。あれについてはどう思います……」

「？」

宥「・・・おそらく、原村さんが口にしていた通りだと思うよ？ ああやって江口さんを村人に見せることで、狩人に江口さんの色を確認させようって思ったんだよ。」

玄「そこで、江崎さんに挑戦したんじゃないかな？ GJされる覚悟でいったと思うのです！」

二「・・・私もそう思いますわ。あれは、狩人に霊能を護衛させようとしとる。それが正解なんやと思います。」

宥「じゃあ、何が疑問なの・・・？」

玄「・・・??」

二「・・・やとしたら、人狼にも博打うつ奴がおるっちゆうことですよ。少なくとも私が狩人やつたら、あの場面はあえて江崎さんでGJを狙います。霊能抜かれて戦犯になる可能性もありますが、それでも共有護衛にいったと思いますわ。つまり今回の狩人は欠けか、もしくは堅実なお人やつたっちゆうことやな。」

宥「・・・確かに、二条さんの言うとおりだろうね。私が狩人でも、あそこで原村さ



んの護衛は外したくないよ。人狼には、それを見抜かれちゃったんだね・・・」

玄「むむ・・・私だつたら・・・確かに、和ちゃんの護衛にいつちやうと思うのです・・・」

二「それで渋谷さんですけど、あの人死ぬ前に誘導みたいなこと口にしてましたわ。『案外、会話の中心にいるんじゃない?』。確かにこう言ってみましたわ。・・・せやけどもし私が人狼なら、逆に渋谷さんは残します。投票では自分は0票なのに、そんなことを口にして回りの票操作をした人、グレーのままでも人狼の疑いをかけられますしな。」

宥「・・・そうだね。じゃあ、渋谷さんを噛んだのには、何かしらの意味があるって

こと・・・?」

玄「・・・」

??????????

二「それでも渋谷さんを噛んだんは、つまり残したくなかったつちゆうことです。あの人を人狼に祭り上げられるメリットより、残すデメリットを考えたつちゆうことですわ。そしてあの人の言葉は、『会話の中心にいるんじゃない?』やった。」

宥「・・・」

玄「……つ、つまり……?」

二「あん時会話の中心におつたのは、間違いなく江口先輩と松実宥さん。それで吊られたメグさんやった。もし残したら、そこから疑われるかもしれない。堅実に考える人狼やったら、確かに襲うでしょうな。」

宥「……二条さん。もしかして……?」

玄「……二条さん……!!」

二「そこで考えるのが、江崎さんを狙ったつちゆうことや。堅実な人狼やったら、当然GJされる可能性を考えます。それでもあえて狙いにくいような人が、今回の人狼候補の中におつたのか?……おりますわ。1人だけ……!」

宥「ねえ、きつと違うよ?その考え……!」

玄「二条さん、その調子なのです!」

二「原村、妹尾さん、松実の妹さん。この3人には渋谷さんを狙いにくい理由があり

ませんし、原村ならそれこそグレーでも、考察で渋谷さんを狙いにいくと思いますわ。それに、博打打つような面子にも思えません。共通しとる江口先輩は博打打ちそうやけど、逆に堅実なプレイっちゅうのが予想できません。むしろあの言葉に対して、喧嘩上等とばかりに食ってかかりそうや。」

宥「二条さん、考え直して……!?!」

玄「うんうん!!」

二「逆に龍門瀏さん、上重さん、松実のお姉さんはどうや? 狙う理由は大有りやな。せっかく対立の構図を作ったんに、それに気づく可能性のある渋谷さんは危険すぎるわ! 3人とも堅実なお人らやし、逆に狙わんはずがない! そして上重さんは、GJの可能性を考えて博打なんか打つような人やない。龍門瀏さんは目立ちたがり屋みたいやけど、あんな序盤から賭けに出るとは思えんわ。あの人も何だかんだ原村タイプやしな。せやけど松実宥さん、あんたは違うはずや!」

宥「違うよ!?! 二条さん!!」

二「あんたは堅実なお人やけど、勝利のためなら博打を躊躇うようなお人やない！つ  
まり私が考えたんは・・・!!」

宥「二条さん!?!」

玄「ありがとう!!」

二「松実宥さん！あんたが人狼や!!」

福「・・・ここで、投票ボタンが押された~~~~!!」

小「・・・それでは投票の結果ですね。はたして、真相は・・・!?!」

二「（・・・これで外れてたら、赤っ恥もええところですよ・・・!?!）」

○投票結果

松実宥（2）↓松実玄 松実玄（1）↓松実宥 二条（0）↓松実宥

投票の結果、松実宥さんが処刑されました。

宥「……負けちゃった……」

二「……」

玄「……」

宥「……二条さん。なんで信じてくれなかったの？これで……」

この瞬間、全ての人狼が処刑されました。

おめでとうございます!!

村人の勝利です!!

宥「……私たち人狼の、負けだよ……」

仁「ほうほう・・・千里山の一年、なかなかやりよると・・・!!」

妹「二条さん、格好良かったよ。」

玄「和ちゃん! 私たちの勝利なのです!!」

和「ええ。二条さんには、感謝しなくてははいけませんね・・・!」

深「むう・・・護衛先、ばれてた・・・!!」

江崎仁美・妹尾佳織（共有） 松実玄（占い） 原村和（霊能） 深堀純代（狩人）

宥「・・・みんな、ごめんね? 負けちゃった・・・」

龍「・・・仕方ありませんわ。ああまで見事に当てられては、私でも勝利は難しいですもの。」

上「うえ・・・これは勝てるって思ったんやけどなく・・・!?」

セ「・・・泉のやつ、俺らの動きを読みきったわけや。なかなかやるやないか・・・!!」

龍門瀏透華・松実宥・上重漫・江口セーラ（人狼）

二「つつついよつしやああああ!! やったったでくくく!!」

メ「泉、パーフェクトでスヨ!!」

真「頼りになるのよ♪」

姉「ほ、本当だよ！さすがだね〜!」

姉「(わ、私が残らなくて良かったよ〜・・・!?)」↑玄ちゃん吊りしか考えてなかった子。

渋「・・・何も出来なかったけど、勝利には貢献できた・・・?」

姉帯豊音・渋谷堯深・メガン・ダヴァン・真瀬由子・二条泉(村人) 欠け(村人)

本「ご、ごめんなさい。私、何もできなくて・・・!?!」

滝「・・・本内さんは悪くない。何もかも、巴が悪い・・・!」

狩「そ、その、ごめんね? あっさり囲っちゃって。4日目の流れで、頭が混乱しちゃって・・・」

本内成香・滝見春(狐) 狩宿巴(背徳者)

福「つてなわけで、見事に村人の勝利だ〜!!」

小「二条泉さん、見事な推理でした。」

福「人狼役の松実宥さんに聞いてみたら、『完敗です』つて言ってたよ!」

小「それで二条さんに聞いてみたら、その・・・『これが高1最強の実力ですわ!!』だ

そうです。言ったすぐ後に、江口さんに調子に乗るなって怒られてたけどね。」

福「何にせよ、村人のみんな、おめでと〜〜!!」

小「引き続き、第5回戦だね。参加選手は、準備のほうをよろしくお願いします。」

福「それでは、いったんCMでつす!!」

小「CMって何!?!」

スコヤン、CMヲシラナイノ!?

イヤ、ソウジヤナクテ・・!?

第5回戦に続く・・・